籌海圖編序

今比年海內憂世之士游談聚議必曰南倭北虜然言倭事者略矣略矣何者我國家之有天下寔逐狄君而宅之狄君逋遁而遺孽支屬尚多有之是雖大將屢出成祖三犁然地廣種繁滋殖甚易故永樂來馬哈木阿魯台本雅失里之徒跳梁蹄蠋至爵之三王而后少戢以定矧又割大寧而棄之其後寖然寖熾即紅羅白雲開平木葉東勝拂雲之險皆不能守正統末幾至覆沒弘治中繼以火篩浸淫削折幷

朔方河南故地遂失矣自是國門戎索之憂肘腋腹心之患日切孔邇憂及

廊廟即

廊廟不遑暇食文經武略歲積月增乃諸邊鎮既有撫臣又設總督而總督之設初亦止於延寧耳固四鎮而止其後宣大遼薊則皆並設至於兵備憲使參遊副將之屬不可勝紀法蓋日詳密矣故西北邊事雖苦官冗費鉅然以張皇戒詰即常禍文墨之士類能言之而其輿地形勢與書疏論著世多有而傳焉事往往在人耳目倭之負海即自玄

莞樂浪迄於徐聞東莞要無慮萬餘里所在可犯然自
聖祖拒絕信國經略之後伏不敢動者頗歷年所永樂中雖嘗蠢動賴劉江望海窩之捷寧謐蓋百餘歲要不獨帝禍文墨之士不能詳其本末即縉紳摳衣者流亦與相忘久矣加比歲海防闊踈舶利羨溢濱海三窟之豪造舟貸直淵藪邪翼橫行洋中翩翩如鴈春來秋去各有主名當事者即知其然而憂連懼及托於暗且曠矣故人老而耄以荒畧陳而敝以圮法久而蠹且壞蓋自其理也重以

風俗崩頹紀綱瀾潰君子小人交驚於利以陰召陰小稚廢而齋夷梁矣前此十數禩
廟堂蓋憂患之嘗遣重臣巡視莞以罹禍自是益靡所忌因緣忿怒轉為叛逆東勝從衡狡焉思啓蓋自壬子至戊午黃巖至淮泗沙塘場渚至村落邑鎮而兩浙三吳長淮之禍孌慘矣所賴
聖主憂民天心悔禍英豪像方兗渠授首雖其遺燼餘烈時或灼然而巨謀大勢澹其遏矣顧當時變出倉卒事承蠱壞徵兵調賦署吏建官一切從便頗覺煩費多事焉爰有崑山鄭子伯魯故太常卿

魏莊渠先生高第弟子也有志匡時而阨於命親在圜城竊觀當世舉措有慨於中念欲記載論著貽之方來即凡兵興以來公私牘牒旁搜遠索手自鈔寫家本劇郡而居又窓切理所夙以德學見禮有位故得究詳焉他日以其間繕造沿海圖本十有二幅附以考論郡守太原王君爲之板行因獻督府梅林胡公公見而驚曰常布中乃有斯人耶此世所稀睹余比欲爲之而未皇暇及常布中乃有斯人耶於是檄來武林使益成書伯魯感激知遇追跡冠始詳稽典制參質風謠即賊所入冠

歲月道路克捷儻北與今普主客兵馬饋餉之數舟楫器械戰守屯戍之法備書具載凡爲卷者十有三蓋後經世者有據依矣雖然前茲所載譬之局方醫案已事云爾若夫審運氣之流行察藏府之虛實辨脉衛之理亂增損劑量弗泥弗執則係乎神聖工巧之人矣昔仲尼荅顓孫氏知來之問而反復乎損益之際孟子與告畢戰井地之法亦曰此其大畧也若夫潤澤之則在君與子矣嗟夫損益潤澤道豈虛行變通神明是維賢者至於制治未亂保邦未危防乎其防則余蓋深望當世之

君子焉

嘉靖辛酉秋八月既望

欽差巡撫江西等處地方兼理軍務都察院右副都
御史滁上胡松序

常州府陳淡刊

王者度員天下能畢所辭物雖陬荒背黠之夫壤斷意睽必欲致恩以念同與故凡綜操之政懲圍經奠之勤思與協其勢宜而通其方情生不達齊之以事業不明定之以典衷慝之不率脩之以威三者備則底務舉所以員辭物俾各得其所也王者之繩民由自繩而得繩道是以民懌就繩率歸於理懟赫以示警矯誣以張幻則末猷之左爾樞嘗陪議轅門於倥傯私評之曰殺心平而後倭可滅衆大異其說而樞咨嗟久之謂忿勝襲功可以

速得志乎哉治天下者不能保患變之不生而恃吾有待變之素不能信不軌之不興而求吾有馭過之方今日之事義我而詰纓裕而峙餼明而諳徑術剽而易洋嶼儇而奮而慧而能材官而技擊而衝先破銳而飛偵賣間而遠候縱雲火若是者以爲能易致乎則未也於是而爲之圖能平忿則能反咎能反咎則能虔治能虔治則思圖義者明者剽者裕者儇者奮者慧者人與語與技集其不能則思圖考其山川之關隘溟島之針泊彼已之虛實襲倡之年伺主客之居調及堅柔大小參伍

耗凡兩之權節夫然後得其典刑以中率由衷
衆思以詳觀會宛其萌釀以正原榮象其堪物以
酌策力劑其殺斂以繕驅役合其參榮以測殘貢
庶務舉而三者備昌天下之度行君之令而致之
民矣

聖天子簡命大司馬胡公開府東南展列克虔海壖
告靖嗟茲有懷而崑山鄭子切四方之志富於掌
故而蓄之公禮訪以付諸梓乃以詔有役溥不淮
蓋急先務也夫東南之有邊猶乎西北一也

高皇帝定鼎金陵視東南三輔首

命湯信國恢程武畫以捍敵則建置備以警備則烽
堠備以供需則輸將備以援譙則哨護備以懲勵
則體律備以稱比則械器備以按憑則繪牒備框
昔躡雲中歷陝外竊閱整搠審容實之細諏其攻
蹈緩逐其成模悉有遺蘧而東南壬子肇事殊罔
罔一無措者何也承平玩而法墮於安也故茲編
也乃慎而述其故有繼之年則緒而輯其嗣若其
所益或事改而通其變世越而適其宜書曰求多
聞時惟建事神而明之惟其用之而已鄭子大學
生名若曾游魏莊渠門博學厲行巖居而遲官世

甲寅秋樞被聘督府鄭子旅館予已屬稿示
宸謨方報諸名家所著采尚倍蓰茲固節其要
賜進士出身前刑部陝西司主事卓興唐樞撰

國家諸夷徼東起遼薊涉雲中上谷西接隴蜀蒼梧象郡百越之地並湮山塹谷以爲界秦世列亭障繕戍守一切阨塞形勝虛實嚮背世圖牒以詮次其事往者有睹來者可鏡也故士夫起枹鼓稍稍陳得失形利害以從事而海則閩廣浙直登萊之間綰波而州者南北萬餘里諸島既不得附冠帶之國以自通或貢或絕或內犯率數十年一見百餘年一見而中國所以斥候而守者亦微淺矣及入我

始遣信國經畧其間然

聖以來數十州郡宴然不覩兵革頃者二三狂孽倡儀內亂往往遠近不支

天子始下詔徵材官騎士及選宿將以合戰驟然中外矣而大者覆師小者陷陣逡巡狼狽所嚮無尺寸之功何者將不審敵兵不服習故也

少保胡公來小大數十百戰稍得芟刈羣兇遂東南予間視公所當蓋世之氣固若天授之者方其羽檄所告日數十至公擘牋談笑徃徃當成敗百不一失蓋縣公知變入仕勤習戎

糗糧行伍之問非共士大夫講且肄之不可以明法而有功。於是終之以經畧。予伏讀之閔然嘆曰。君之誼亦博且勤也已。自王公大人以至處士布衣之俠。自

朝廷建畫以至將帥部署之史。苟其一言之係乎當世。無不句而比之。字而櫛之。君抑自知猶多繁複龐襍。而中所稱述論列。亦共為異同。似未可席之施行者。顧君方銳於聚矢石以捍國家。其旁搜幽討。固宜如此。衰既完。君因自名之曰籌海圖編。且嘗手之。咲謂予曰。予之為是編也。即醫家所纂古

方書是也。神農之嘗百草。與方外之牛溲馬渤。吾並籍之。以待越人倉公者之出而自擇焉。而又何暇乎其他哉。君少多節氣。欲以功名自喜。及不遇。適國家多外難。卒吐胸中所奇掘如是。然其體裁多出自邵君芳。邵舟陽人。深沉倜儻。有大畧。君能下之。遂相與討畫而成其書。嗟乎。若君者。其史遷所謂虞卿。非窮愁不能以著書自見於世者乎。

嘉靖壬戌春三月既望

賜進士中憲大夫河南按察司副使歸安茅坤撰

刻籌海圖編引

於戲天地剖判厥有華夷華內而夷外華馴而夷
冠裳而夷鱗介斯陰陽之大分也山海之險天固畀
之防乎是故先王因其防而防之因之時義大矣哉
因之則我可以守彼不可以來不善因之則所謂險者
彼反乘之敵我矣吁可畏也夫夷之域於海有主名而
可知者無慮數種而倭奴尤黠勝國而上無論也我
太祖高皇帝驅虜奠極四夷咸賓獨於倭奴則絕弗與通
爲防益切
神謨淵識蓋至今日而始驗云壬子以來倭之變極矣又
乃得今
少保胡公祇承

威殫慮紓策元兇授戡餘黨底平當變之始作也海東
者欲按往迹便地利偵鼯技以圖萬全之功而紀載蔑
如無所從得僅有日本考略而掛織漏鉅無關成敗咸
以爲恨荊川唐公順之謂曾宜有所述毋復令後人之
恨今也稿未半荊川不逮　郡伯王公固命成之無何
少保公以主記來召發蒙啓櫝且獲從幕下諸文武士
閭所未聞數越月而書竣事夫天下猶一身也善攝生
者凜凜未病之防不幸而疾則必酌方投餌不忍一日
安於其心有仁天下之心者何以異此曾非其人也
葺觀國手之治疾而得其說矣願竊有擬焉是故
身百骸九竅經絡相應非顯揭而指示之則懵無
節宣之度何自而施故首之以輿地諸圖人而異

處飲食克護克忠勿盭其常則榮衛調適膚革
闕不足患故次之以王官出使入貢事略其變
贅其中六淫感其外則疾疾具作而醫工奏能故
以倭寇始末又次之以大捷諸紀知如此而病即知
如此弗病某症以某方起某方以某症易某藥備錄
存之俾後事者不必近徧跗而疲癃可瘥故復以經略
事宜終焉廼若謂諭諸夷以禁倭亂許互市以順夷情
是困而委靡怨家御女而求百一之助恃其所必不可
恃胥吾之精以速其死爾曾無取也是編也肇意於荊
川王成於　郡守而
少保公實主之其襄而輔之者則栢泉胡公松晴江杜
公拯中方范公惟一婁江唐公愛洋山凌公雲翼二先

譚公綸印東王公春澤一菴唐公樞允齋嚴公中鹿即
茅公坤翔海戴公冲霄松坡黎公秀南塘戚公繼光水
南蔡君汝蘭九河俞君獻可考閱史志以備採擇則吾
兒應龍一鸞傾發宛委商訂義例則丹陽邵君芳之力
居多邵君有經濟之負隱而未試
少保公所器重而賓禮者因面命而得其相切磋云
嘉靖辛酉冬十有二月朏日崑山鄭若習謹識

籌海圖編目錄

明少保新安胡宗憲輯議　孫擧人胡公重校　崑山鄭若曾纘次

卷之一
輿地全圖
沿海山沙圖
卷之二
王官使倭事畧入倭針經附
倭國入貢事畧
倭國事畧倭國圖入冠圖附
卷之三
廣東沿海郡縣圖
廣東倭變紀
廣東兵防官考兵制附
廣東事宜
卷之四
福建沿海郡縣圖
福建倭變紀
福建兵防官考兵制附
福建事宜
卷之五
浙江沿海郡縣圖
浙江倭變紀
浙江兵防官考兵制附
浙江事宜

仁和縣一考求張維賢寫

卷之六
直隸沿海郡縣圖
直隸倭變紀
直隸兵防官考 兵制附
直隸事宜
卷之七
登萊遼海圖
登萊遼海倭變紀
登萊遼海兵防官考 兵制附
登萊遼海事宜
卷之八
倭患總編年表
籌海圖編目錄凡例 二
寇踪分合圖譜
卷之九
大捷考
卷之十
遇難殉節考
卷之十一
經畧一
卷之十二
經畧二
卷之十三
經畧三
何禮刻

九例

一是編爲籌海而作必冠以輿地全圖者示一統之盛也

一不按圖籍不可以知阨塞不審形勢不可以施經畧邊海自粤抵遼延袤八千五百餘里皆倭奴諸島出沒之處地形或凸入海中或海凹入內地故備倭之制有當三面設險者有當一面設險者必因地定策非出懸斷世之圖此者類齊直畫一徒取觀美不知圖與地別策緣圖誤何益哉今畧倣元儒朱思本及近日念菴羅公洪先廣輿圖計里畫方之法凡沿海州縣衛所營堡關隘與夫凸出凹入之形纖微不爽庶遠近險易展卷在目而心畫出焉其邊防填註地名則一如其舊云

一總圖載府州衛所者舉大以該小也若山沙圖則又詳外而畧內各有所重亦互見也

一附倭國圖者先內而後外也附入冠圖者知所由入則知所由禦矣

一王官使倭附入倭針經者使使事也

一輿地有圖沿海山沙有圖入冠有圖復圖各藩者何詳之也八千五百餘里之地載之方尺之紙僅其大都爾非分圖何以備考觀者得其槩復盡其委不必馳金城而方畧具矣

一倭奴入冠據巢內地多在各藩之岐分聚靡常或一日而歷二府二省或經月而屯一州一縣若因時日

之同而類書之則地名龐雜支緒繁瑣反眩考核故各藩自爲紀載庶分合有稽而端委見矣

一倭變存其大者如攻城破邑及殺傷將領之類其小小劫掠倏往倏來者不及縷載

一叙事用編年體大書而分註之便紀載耳若曰竊義春秋寓褒貶於一字之間則豈敢哉

一各處倭變顛末悉據所在公移及諸公奏稿摭實書之他有傳聞恐涉疑誤者不錄

一各省事宜或採奏疏或摭誌籍或訪輿論不敢少參億見大都論及海防者載之其有關係雖大而與此書不相涉者弗敢及也

一文武將士屢立戰功已畧見倭變紀其有神謀秘計

運量於耳目之外而生致元兇傳首闕下者諸捷之中有奮出死力斬首虜至數千餘級者尤可以示後世而威遠夷固不嫌特書作大捷考

一風俗陵夷廉耻道喪動事諸臣衝冒鋒刃喪元弗恤與編民剚婦或爲父殉或爲夫亡因亂完節綱常攸賴使其泯沒無傳執筆者責也作遇難殉節考

一經畧必首寇原者何法家先案而後斷名醫因症而酌方況事必有端變不窮至識其端而預防其漸尤經畧之上策也

一當道海防長策已經裁定施行顯有成績者備錄經畧中其偶因一事一時厥有建白或稿成而未上或已上而未行或私議而可

採與夫兵船兵器客兵有圖有說皆經畧之不可無者故併收入

一當事諸署惟督撫重臣書公餘悉名之統於尊也

一武林開府在焉又曾吳大人也事咸躬歷禍實膚受故載錄頗詳閩越齊遼閱報紀聞訛漏多有尚賴同志者是正而增收焉可也

參過圖籍

皇明地理十六圖　南京都察院本

大明輿地指掌圖　大學士杜夢

歷代地理指掌圖　宋學士蘇軾都御史唐順之狀元羅洪先

廣輿圖　侍郎錢邦彥

沿海七邊圖　都御史喻時

古今形勝圖　閩廖世昭

天下圖誌　星源汸濟川

分野輿圖　御史姚應

嶺海輿圖

八閩五十一圖

福建五灣圖　兵部郎郭仁

兩浙海邊圖　都御史周倫

浙東海邊圖　太守秦汴

浙海圖　總兵俞大猷

浙海圖　總兵盧鐙

浙海圖　都司黎秀

蘇松海邊圖　把總指揮陳習
三吳水利圖　長洲文嘉
淮揚圖　都御史唐順之
右圖
御製五倫書
大明會典
大明一統志
大明一統賦
皇明資治通鑑
謨烈輯遺
名臣言行錄
功臣錄
籌海圖編　目錄凡例　六
柱氏通典
武經總要
水東日記
會題平倭事例　公卿科道會議
三巡奏疏　總督尚書胡宗憲
督撫奏疏　總督尚書胡宗憲
世寶錄　總督尚書胡宗憲
續世寶錄　總督尚書胡宗憲
海防錄　撫按操司會議
督撫江南奏議　都御史爺大立
甕餘雜集　都御史朱紈
南北奉使錄　都御史唐順之

軍門節制　都御史李遂
軍政條約　海道副使譚綸
平倭事畧　都御史李遂
平南紀畧　工部侍郎趙文華
平倭四疏　都御史章渙
海防議　福建都御史劉燾
海防議草　兵部副使王崇古
奏疏稿　御史徐栻
浙洋哨守朋　總兵盧鏜
平倭疏　總兵俞大猷
戰守二議　松江府同知羅拱辰
海防事宜　副使茅坤

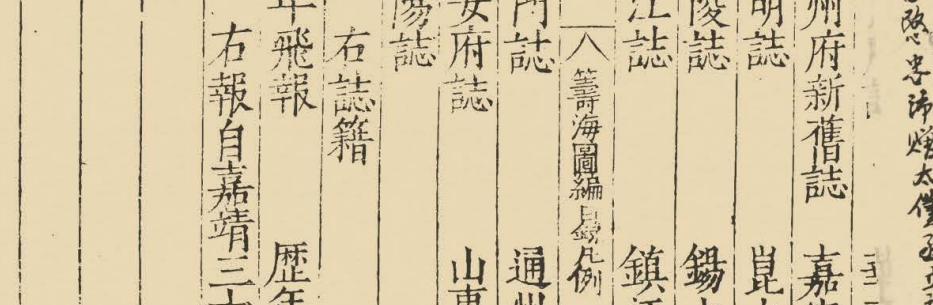
紀效新書　參將戚繼光
三台經畧　參將戚繼光
籌倭末議　通政司參議張寀
海議　主事唐樞
一菴雜訂　主事唐樞
江南實錄　禮部郎沈應魁
平倭奏草　禮部郎沈應魁
備倭議　姑蘇皇甫汸
枕戈雜言　姑蘇皇甫汸
朝鮮紀事　侍講倪謙
掘機經傳　太倉王應電
守禦議　太倉王應電

海盜事宜　太倉毛希秉
策樞　嘉興王文祿
平倭管見　五官掌壺正胡國材
籲測海警　兵部主事黃元恭
海寇議　太倉俞允升
海防漫抄　崑山淞友
備倭考　寧波李賢
日本考畧　定海薛俊
日本考畧　姑蘇吳岫
隆正高麗圖經
東夷諸史直紀
使琉球錄　給事中陳侃
副使張一厚
海道經
海運編　平度崔旦
南船記　主事沈榮
兩浙戰船則例　備倭都指揮李釜
星槎勝覽　太倉費信
瀛涯勝覽　使西洋官馬歡
渡海方程
海道針經
廣東開濠規格
福建市舶司志
廣東通誌　蒼梧軍門誌　瓊州府誌
瓊管圖說　廉州府誌　欽州誌

雷州府誌　高州府誌　廣州府誌

香山誌　惠州府誌　惠來誌

潮州府誌　八閩通誌　漳州府志



上海誌

蘇州府新舊誌　嘉定誌　太倉誌

崇明誌　崑山誌　常熟誌

昆陵誌　錫山誌　江陰誌

靖江誌　鎮江府誌　淮揚新舊誌

海門誌　通州誌　如皐誌

淮安府誌　山東通誌　萊州府誌

遼陽誌

右誌籍

歷年飛報　歷年通報

右報自嘉靖三十二年起至三十九年

雲州府誌　高州府誌　廣州府誌
香山誌　惠州府誌　惠來誌
潮州府誌　八閩通誌　漳州府誌
泉州府誌　興化府誌　福寧州誌
温州府誌　赤城新舊誌　寧波府誌
昌國誌　紹興新舊誌　餘姚誌
杭州府誌　嘉興府誌　南畿通誌
松江府誌　華亭誌　上海誌
蘇州府新舊誌　嘉定誌　太倉誌
崇明誌　崑山誌　常熟誌
昆陵誌　錫山誌　江陰誌
靖江誌　鎮江府誌　淮揚新舊誌
海門誌　通州誌　如皐誌
淮安府誌　山東通誌　萊州府誌
遼陽誌

右誌籍

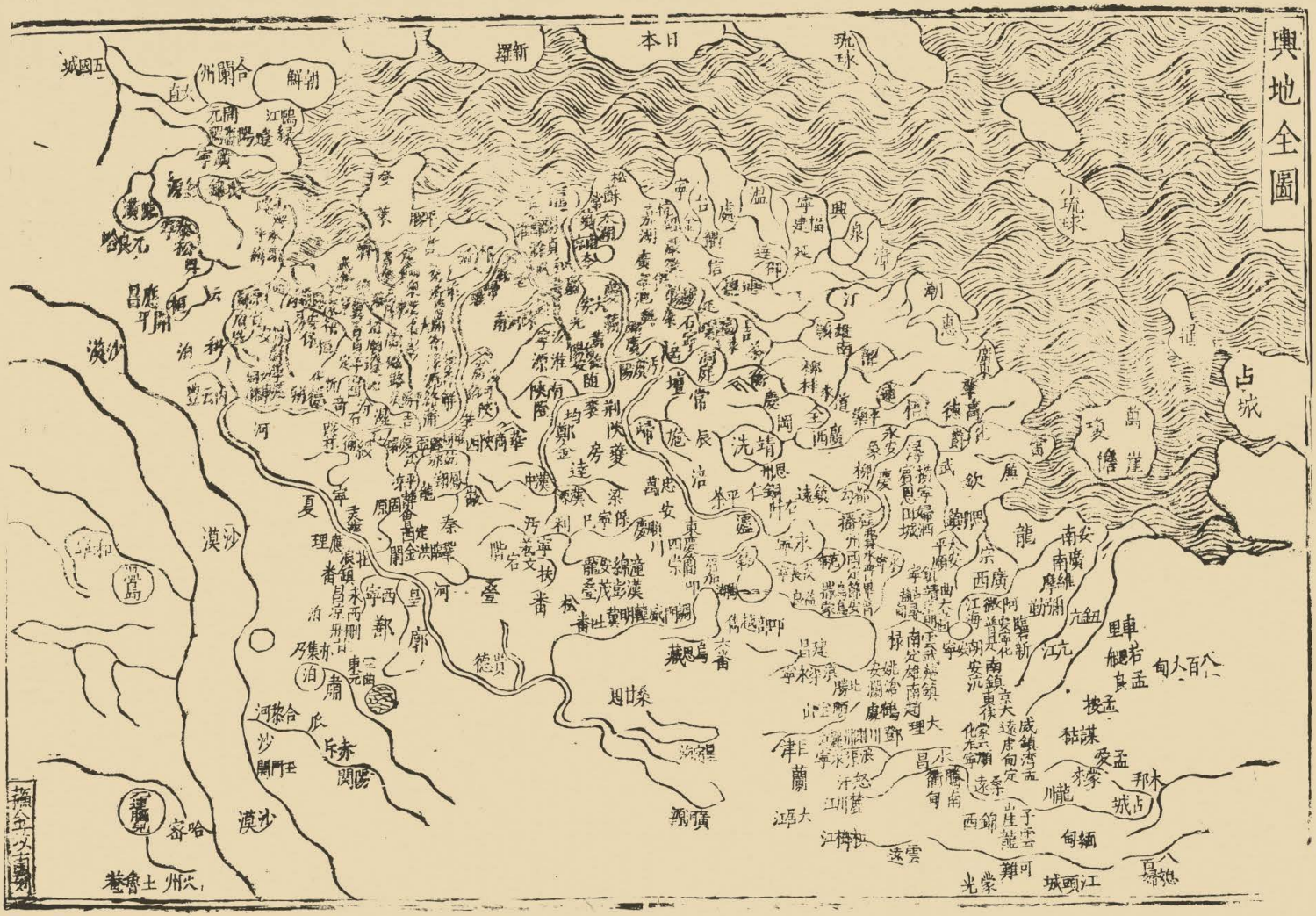
歷年飛報　歷年通報

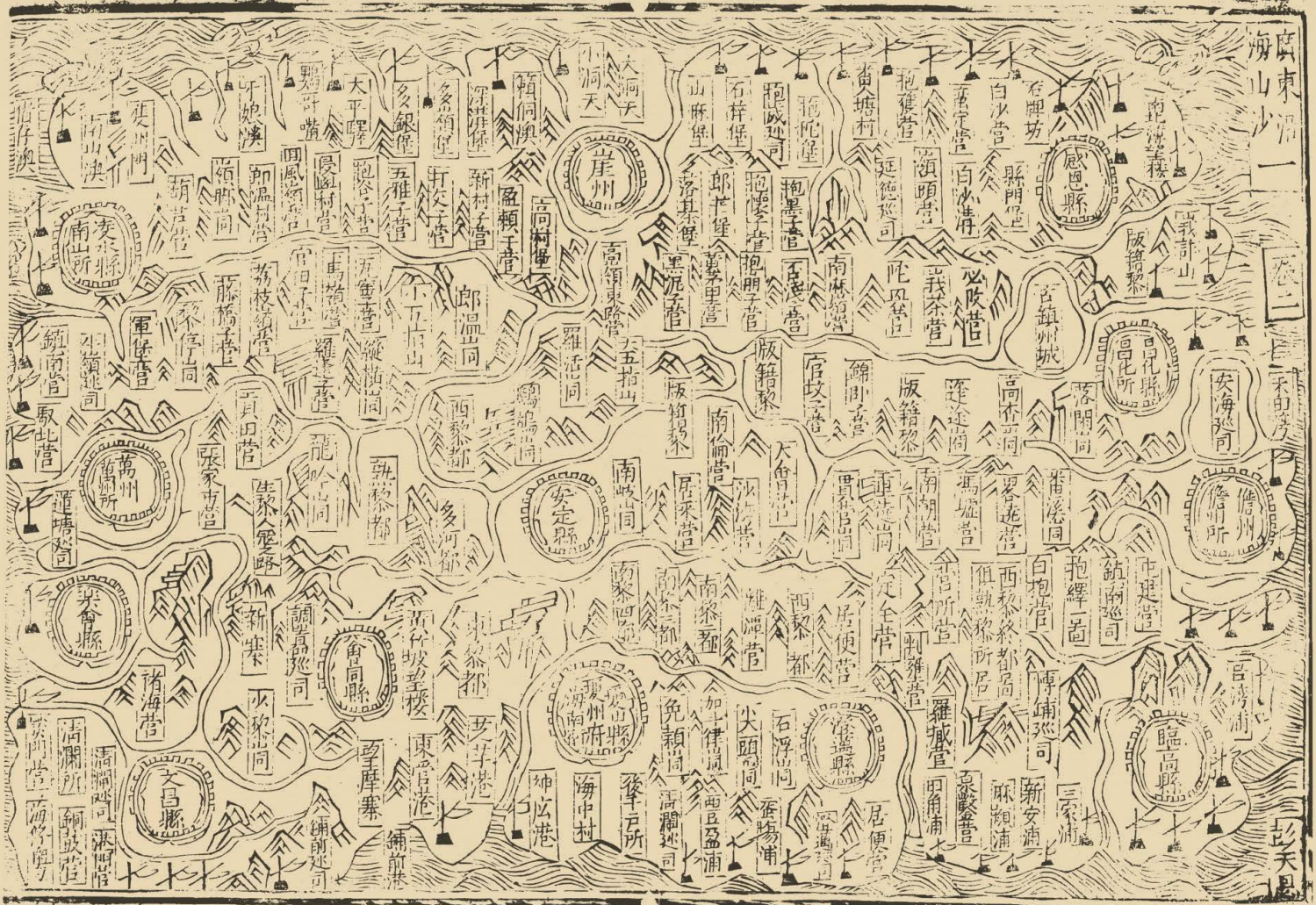
右報自嘉靖三十二年起至三十九年

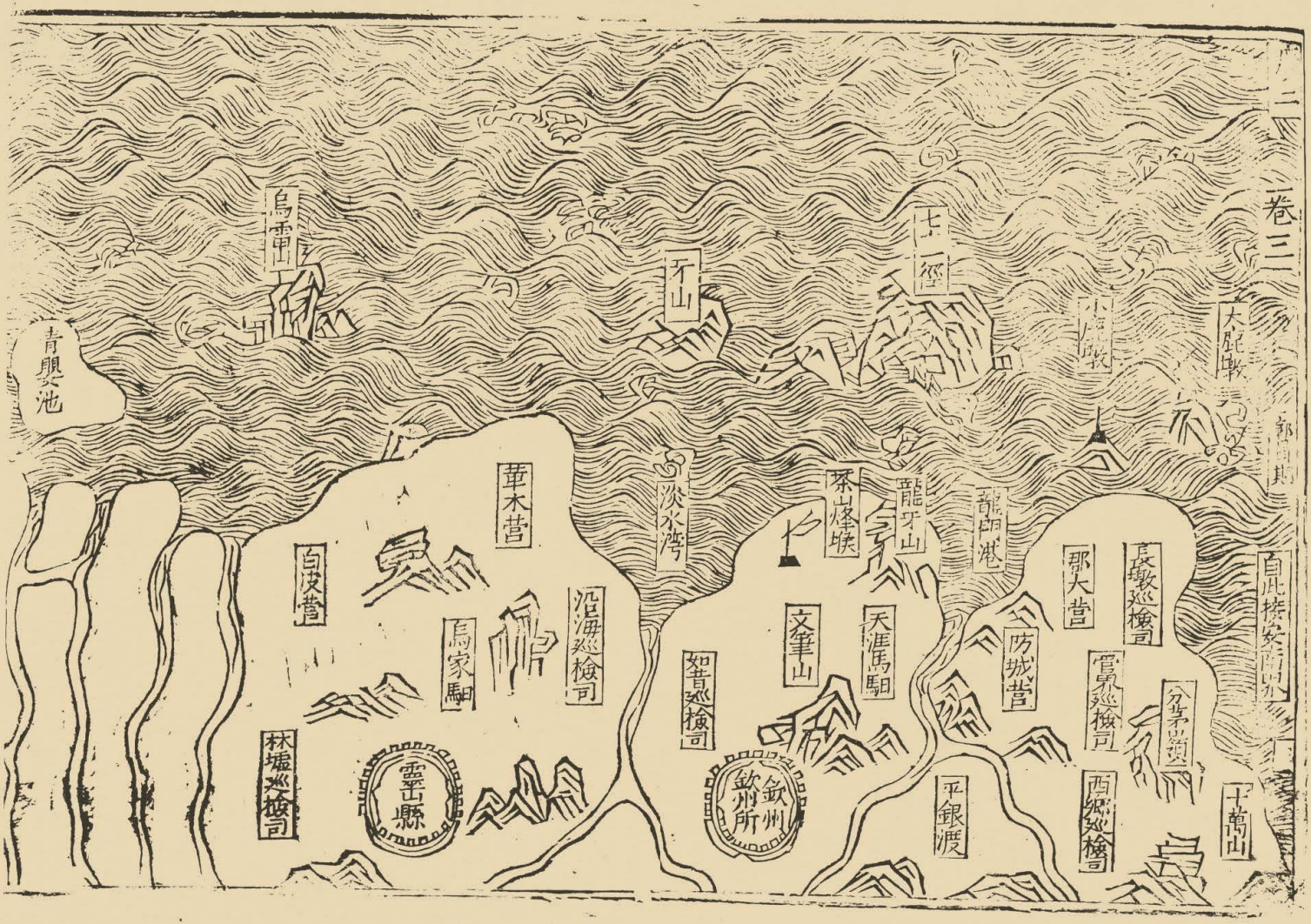
籌海圖編卷之一

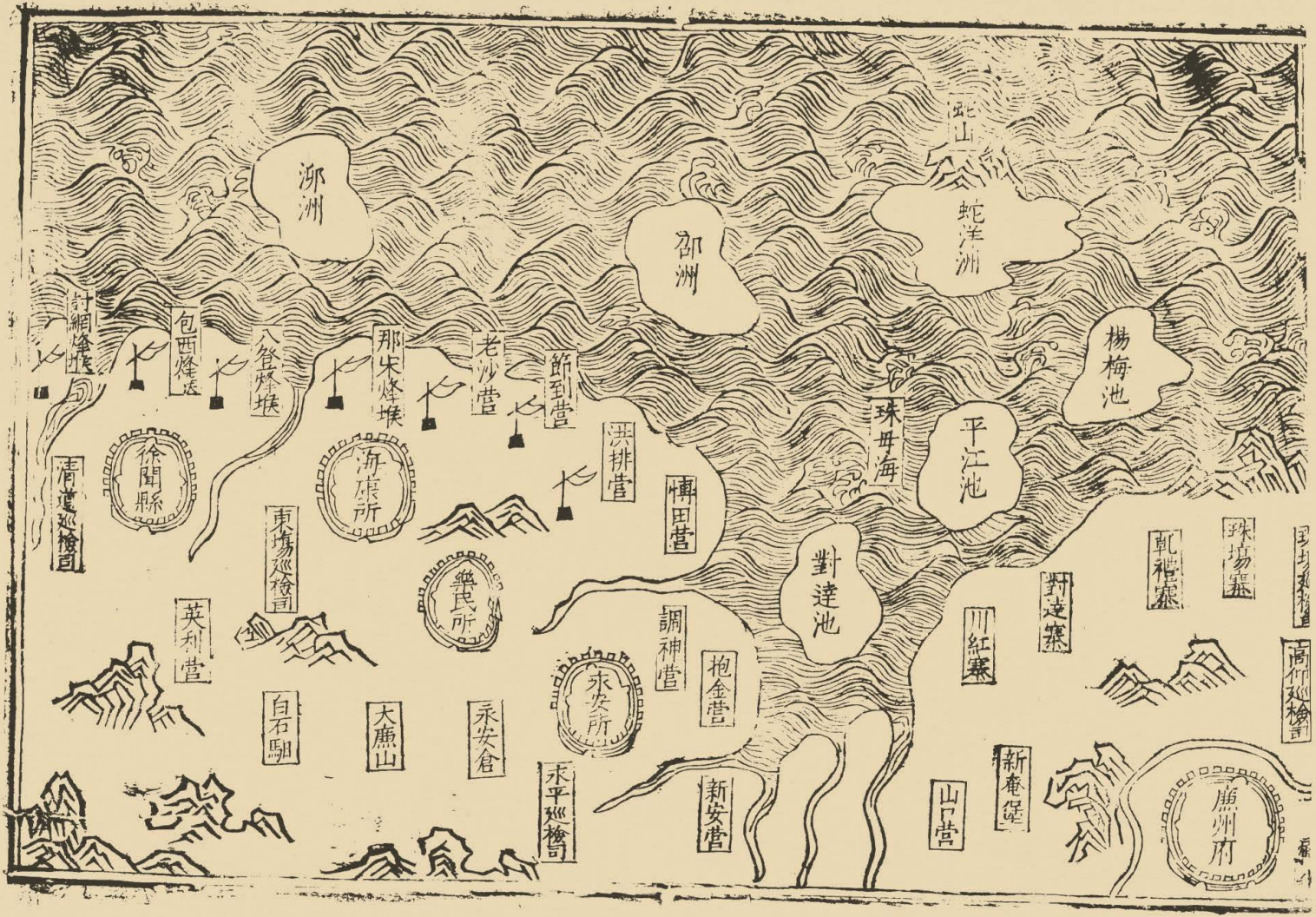
明兵保新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燧重校　嵎山鄭若曾編次

輿地全圖
廣東沿海山沙圖
福建沿海山沙圖
浙江沿海山沙圖
直隸沿海山沙圖
山東沿海山沙圖
遼陽沿海山沙圖


輿地全圖
日本
琉球
新羅
小琉球
占城
五國城
合蘭州
鮮卑
女直
高麗
遼東
渤海
黑水
靺鞨
松花江
混同江
鴨綠江
開元
遼陽
瀋陽
興京
東京
寧古塔
烏蘇里江
黑龍江
呼倫貝爾
額爾古納河
興安嶺
大興安嶺
小興安嶺
外興安嶺
貝加爾湖
庫倫
恰克圖
烏梁海
唐努烏梁海
科布多
烏里雅蘇台
阿爾泰山
準噶爾
伊犁
烏魯木齊
哈密
吐魯番
庫車
阿克蘇
葉爾羌
和闐
喀什噶爾
巴達克山
布魯特
浩罕
安集延
塔什干
撒馬兒罕
布哈爾
希瓦
裏海
咸海
鹹海
阿拉伯
波斯
天方
麥加
默德那
亞丁
紅海
蘇伊士
地中海
君士坦丁堡
土耳其
俄羅斯
莫斯科
聖彼得堡
瑞典
挪威
丹麥
德意志
荷蘭
英吉利
倫敦
法蘭西
巴黎
西班牙
葡萄牙
意大利
羅馬
奧地利
維也納
普魯士
柏林
波蘭
華沙
匈牙利
布達
瑞士
比利時
布魯塞爾
北海
大西洋
亞墨利加
華盛頓
紐約
費城
波士頓
墨西哥
古巴
哈瓦那
巴拿馬
秘魯
智利
巴西
阿根廷
好望角
南非洲
開普
馬達加斯加
澳大利亞
新西蘭
悉尼
墨爾本
巴達維亞
爪哇
蘇門答臘
婆羅洲
新加坡
暹羅
緬甸
阿瓦
仰光
八百大甸
車里
孟艮
孟拔
孟養
木邦
孟密
蠻莫
猛卯
騰越
永昌
大理
麗江
鶴慶
劍川
鄧川
蒗蕖
維西
中甸
阿墩子
巴塘
里塘
打箭爐
瀘定
天全
雅州
成都
重慶
夔州
荊州
襄陽
南陽
開封
洛陽
西安
鳳翔
鞏昌
蘭州
涼州
甘州
肅州
嘉峪關
哈密
吐魯番
烏魯木齊
伊犁
塔爾巴哈台
科布多
庫倫
張家口
北京
天津
保定
正定
真定
順德
廣平
大名
東昌
濟南
青州
登州
萊州
兗州
徐州
淮安
揚州
鎮江
南京
蘇州
松江
常州
杭州
紹興
寧波
台州
溫州
福州
興泉
漳州
汀州
延平
建寧
潮州
惠州
廣州
肇慶
德慶
梧州
南寧
太平
思恩
慶遠
柳州
桂林
平樂
潯州
鬱林
鎮安
泗城
廣西
貴州
安順
貴陽
都勻
思南
石阡
鎮遠
銅仁
黎平
普安
興義
雲南
廣南
開化
臨安
元江
普洱
順寧
永昌
騰越


廣東沿海山沙
卷二
感恩縣
高州城
高化所
高化縣
安海巡司
儋州
儋州城
儋州所
臨高縣
臨高巡司
新安浦
三家浦
麻瀾浦
昌化所
昌化縣
昌化巡司
感恩縣
陽江縣
陽江巡司
陽江所
海陵山
海陵巡司
海陵所
海中村
神泓港
東安港
東安巡司
東安所
東安縣
文昌縣
文昌巡司
清瀾所
清瀾巡司
清瀾營
清瀾港
清瀾港巡司
清瀾港營
清海營
清海所
清海巡司
清海港
清海港巡司
清海港營
清海港所
清海港縣
清海港縣巡司
清海港縣所
清海港縣營
清海港縣港
清海港縣港巡司
清海港縣港所
清海港縣港營
清海港縣港縣
清海港縣港縣巡司
清海港縣港縣所
清海港縣港縣營
清海港縣港縣港
清海港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港所
清海港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣營
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港巡司
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港所
清海港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港縣港營
清海港縣
清海港縣巡司
清海港縣所
清海港縣營
清海港縣港
清海港縣港巡司
清海港縣港所
清海港縣港營
清海港縣
清海港縣巡司
清海港縣所
清海港縣營
清海港縣港
清海港縣港巡司
清海港縣港所
清海港縣港營
清海港縣
清海港縣巡司
清海港縣所
清海港縣營
清海港縣港
清海港縣港巡司
清海港縣港所
清海港縣港營
清海港縣
清海港縣巡司
清海港縣所
清海港縣營
清海港縣港
清海港縣巡司
清海港縣所
清海港縣營
清海港縣

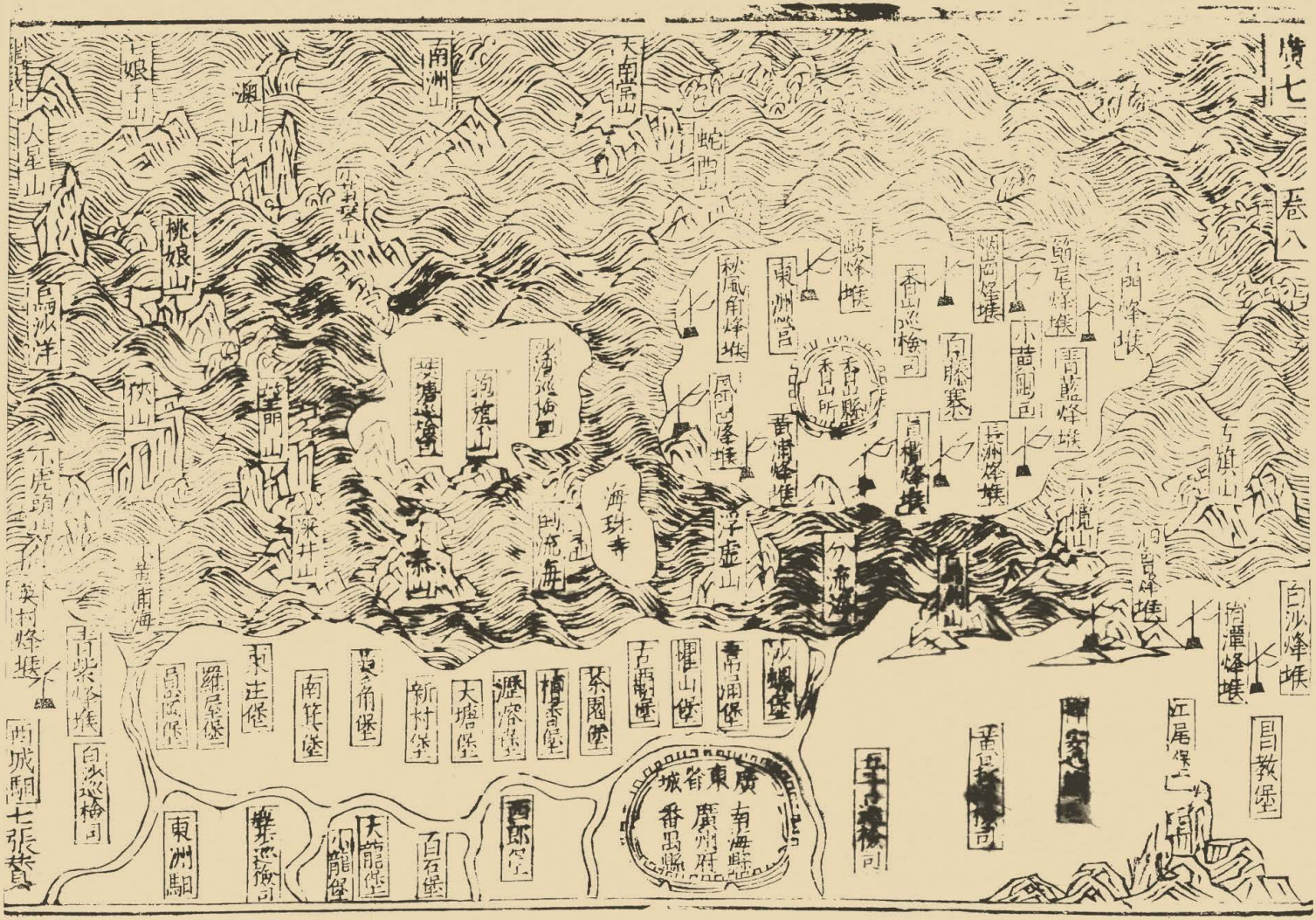

烏雷
牙山
七星
大龍敢
小龍敢
青嶼大池
淡水湾
茶山烽峡
龍牙山
龍門港
華木营
白皮营
沿海巡檢司
烏家馬駐
林墟巡檢司
靈山縣
文筆山
天湧馬駐
知音巡檢司
欽州欽州所
防城营
那大营
廣敬巡檢司
分茅嶺
廣鼎巡檢司
西鄉巡檢司
平銀渡
十萬山


蛇山
蛇洋洲
邵洲
淅洲
楊梅池
平江池
對達池
珠毋海
計網漁船
包西烽
八登烽堰
那宋烽堰
老沙營
節到營
洪排營
慱田營
徐聞縣
海康所
樂民所
清道巡檢司
東場巡檢司
英利營
白石驅
大廉山
永安倉
永安所
調神營
抱金營
永平巡檢司
新安營
對達寨
川紅寨
山口營
新奄堤
珠場寨
乾禮寨
高州巡檢司
廉州府

大黃程
小黃程
瀧洲
建寧村
建康村
調州
欽雞山
馬溪山
獨猶山
調雞門洲
程山
瀧洲
清安烽堠
劉橫烽堠
瀧洲巡檢司
錦囊所
調黎烽堠
寧海烽堠
寧海巡檢司
雷州府衛
海康縣
陳家烽堠
南間烽堠
通明烽堠
遂溪縣
湛川巡檢司
調陳烽堠
凌綠巡檢司
息安驛
石城縣千戶所
淡水烽堠
南浦津烽堠
西安烽堠
橫山堡
北月烽堠
北品烽堠
望五里渡
金牌寨
石城烽堠
麻章烽堠
北黎烽堠
烽堠
烽堠
寧村巡檢司
吳川縣
吳川所
赤水巡檢司

中渡山
海陵山
青嶼山
孤貢烽堠
南洋烽堠
安民烽堠
陽江所
海陵巡檢
北津烽堠
涼浦烽堠
水烽堠
覃村烽堠
那浮烽堠
海朗所
護漁所
蓢村烽堠
那浮烽堠
海陵烽堠
白嶼烽堠
軸腳北烽堠
五都巡司
大唵寨
獅子山
神電衛
電白縣
老香山
立將巡檢司
連灣駐
恩平縣

大鼇山
退田烽堠
豎頭烽堠
峯前烽堠
石閘烽堠
銀場烽堠
放南烽堠
奇邦烽堠
雙陌烽堠
陳村烽堠
白石角烽堠
北寨烽堠
企鵝烽堠
望鼈巡檢司
那銀堡
廣海衛
天崖烽堠
馬鞍烽堠
沙塗
新會縣
新寧縣所
新寧縣
海口巡檢司
牛江巡檢司
沙村巡檢司
大鼇巡檢司
潮連巡檢司
三水巡檢司
何木堡
沙頭巡檢司
都寧巡檢司
馬岡巡檢司
鶴山縣
恩平巡檢司
純汝巡檢司
沙塘巡檢司
赤坎巡檢司
烏石烽堠
亭子角烽堠
赤南烽堠
上川山
下川山
崖山
頭山
獅子山
獨洲山

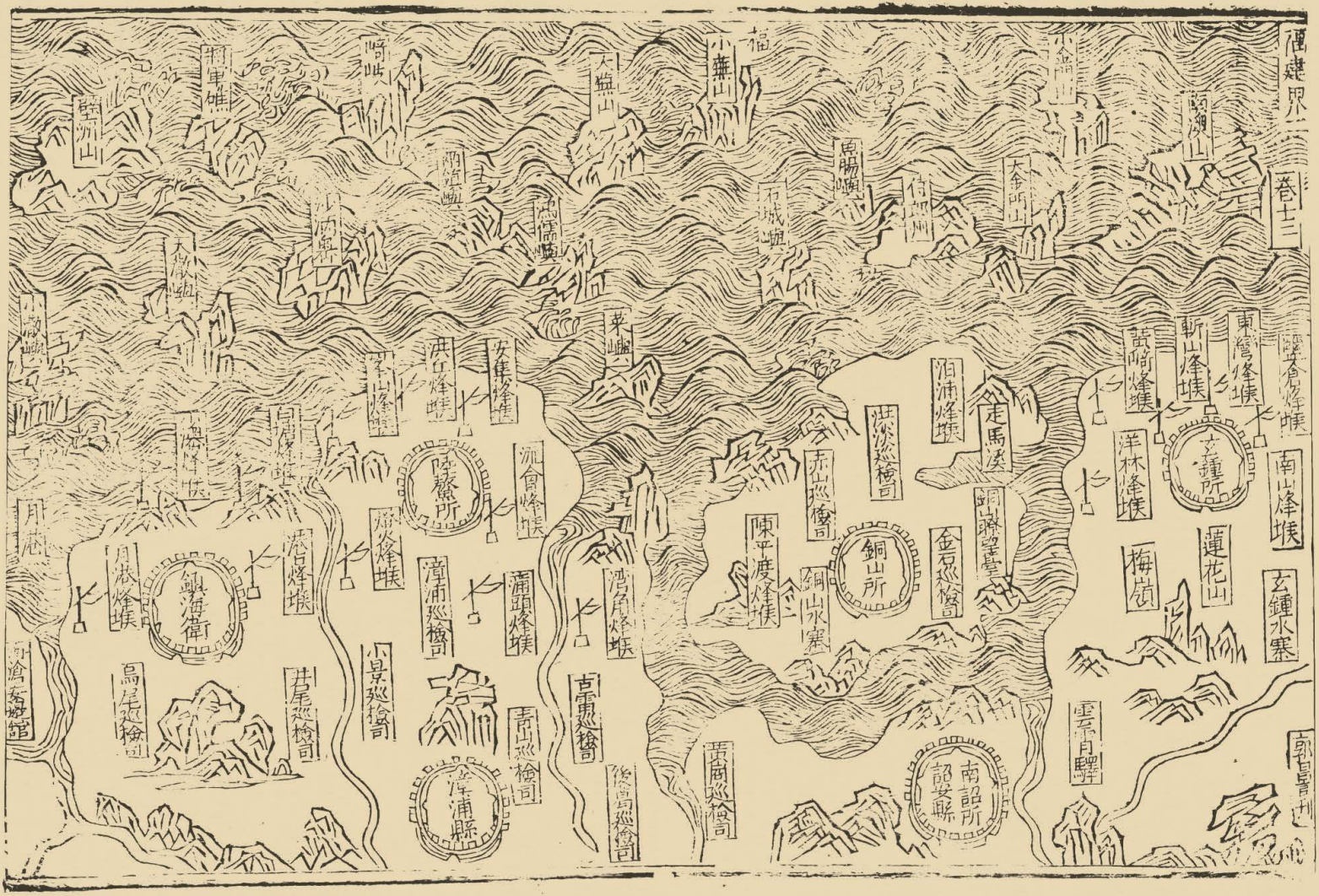

七娘子山
大星山
桃娘山
南洲山
大南山
蛇山
小蓉山
白泥洋
秋風角烽堠
東洲烽堠
香山縣
香山所
黃浦烽堠
白藤寨
白橋烽堠
長洲烽堠
小橫山
白鵝烽堠
白鵝寨
白藤烽堠
白沙烽堠
鴨潭烽堠
昌教堡
江尾堡
黃埔巡檢司
平安巡檢司
廣東省城
廣州府
番禺縣
東莞縣
新安縣
海珠寺
浮虛山
赤山
赤山浦
虎頭山
東莞海
白沙巡檢司
東洲駐
西郎堡
百石堡
天龍堡
小龍堡
茶園堡
古螺堡
新村堡
大塘堡
南笵堡
羅屋堡
白泥烽堠
白紫烽堠
西城驛七張蓁

上下橫嶺洲
大王洲
合蘭洲
龍穴洲
馬鞍洲
珊瑚洲
東莞所
南海衛
東莞縣
惠州衛
惠州府
歸善縣

廣九
大星光山
梁州山
休娘山
忻州
龍峯堠
龍江堠
新延峯堠
平安堠
新興峯堠
半江山
捕勝所
龍江
長沙巡檢司
石山峯堠
古逕峯堠
大坡嶂
清海山
東保障山
海豐縣
千戶所
西隘
河田峯堠
大麻峯堠
東坑峯堠
銀平峯堠
白沙湖峯堠
芳苓峯堠
虎白峯堠
碧甸巡檢司
平海所
平政驛
廣德巡檢司
蓬萊驛

大浮山
小浮山
南澳山
陶娘灣
海門
錢南烽堠
石城烽堠
南山烽堠
鈎簾烽堠
文昌烽堠
安充烽堠
鉛鈒烽堠
徐聞烽堠
象州烽堠
甲子門所
碣石衛
甲子門巡檢司
郭昌門戍
靖海所
武寧驛
蔡嶺山
神泉巡檢司
門闕巡檢司
吉安巡檢司
北山驛

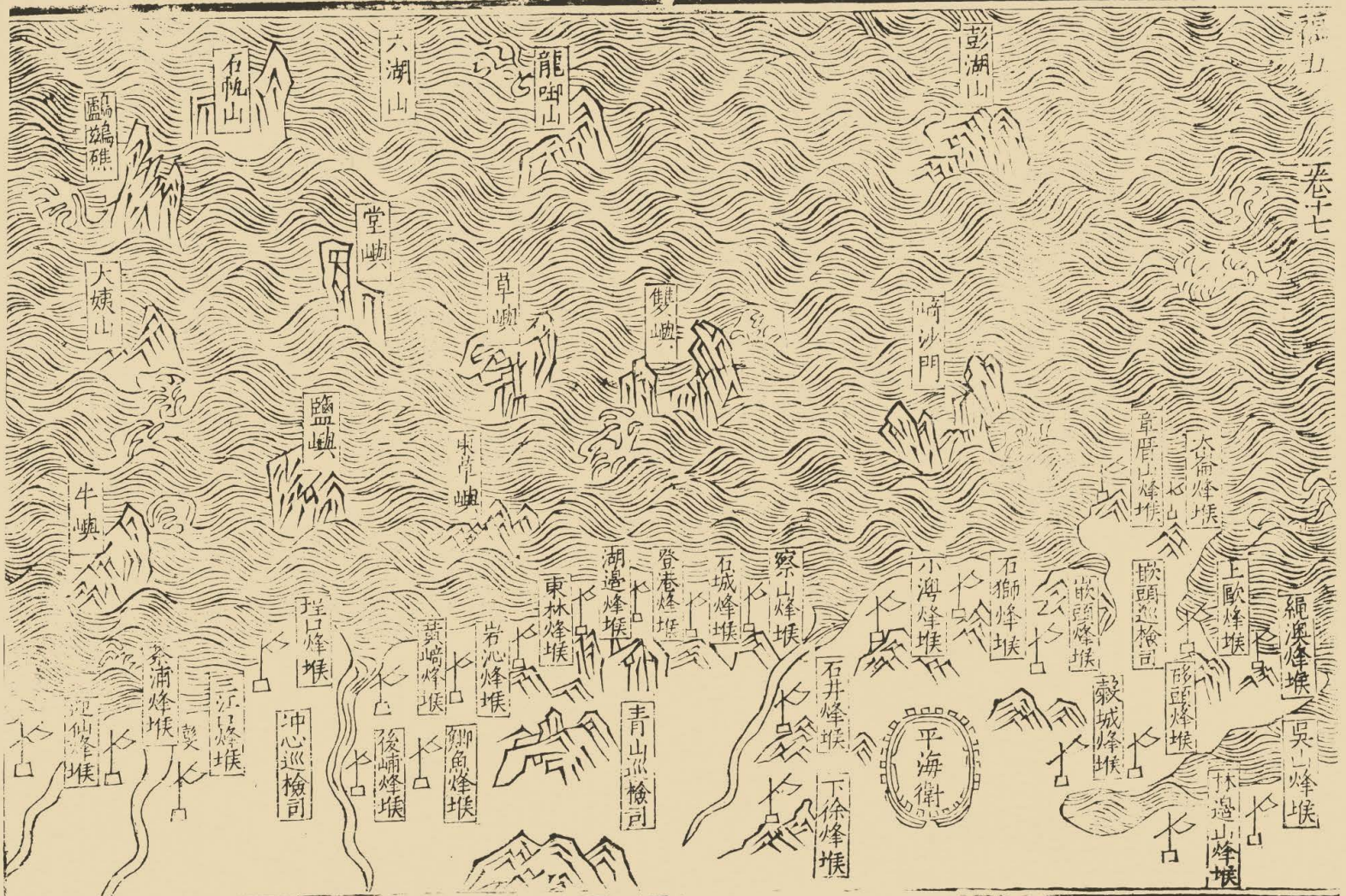
陸州
狗脚山
石頭村
小村山
大村山
馬鞍山
小京山
大京山
沙板村
井州村
石牌門
大村澳
九侯山
井州烽堠
黃岡口
雜髻烽堠
鴻山烽堠
新村烽堠
橫山
大城所
百沙墩
浮漚烽堠
環山烽堠
小江水寨
錢塘烽堠
石牌烽堠
外洋烽堠
蓬州所
鮀浦巡檢
楓洋巡檢
鹽課司
大墩烽堠
良嶼烽堠
王嶼山
海門所
招軍巡檢司
桑田巡檢司
潮陽縣
海門烽堠
井州烽堠
黃岡巡檢司
雜髻烽堠
鵝埠巡檢司
饒平縣


福建界二
卷十三
小蕪山
大蕪山
馬腸嶼
石城嶼
大金門山
小金門山
南澳山
東澳烽堠
斬山烽堠
青屿烽堠
南山烽堠
玄鍾所
玄鍾水寨
蓮花山
梅嶺
洋林烽堠
走馬溪
泊浦烽堠
銅山所
銅山水寨
金石巡檢司
陳平渡烽堠
赤山巡檢司
銅山望嘗
南詔所
詔安縣
雲霄驛
東廂巡檢司
後營巡檢司
古雷檢司
浦頭烽堠
漳浦巡檢司
漳浦縣
景巡檢司
君尾巡檢司
烏尾巡檢司
銅海衛
月港烽堠
月港
浯嶼烽堠
浯嶼
浯嶼寨
浯嶼烽堠
安集烽堠
洪仔烽堠
陸鰲所
流會烽堠
滑角烽堠
古雷檢司
青山巡檢司
後營巡檢司
南詔所
詔安縣
雲霄驛
東廂巡檢司
郭景昌刊

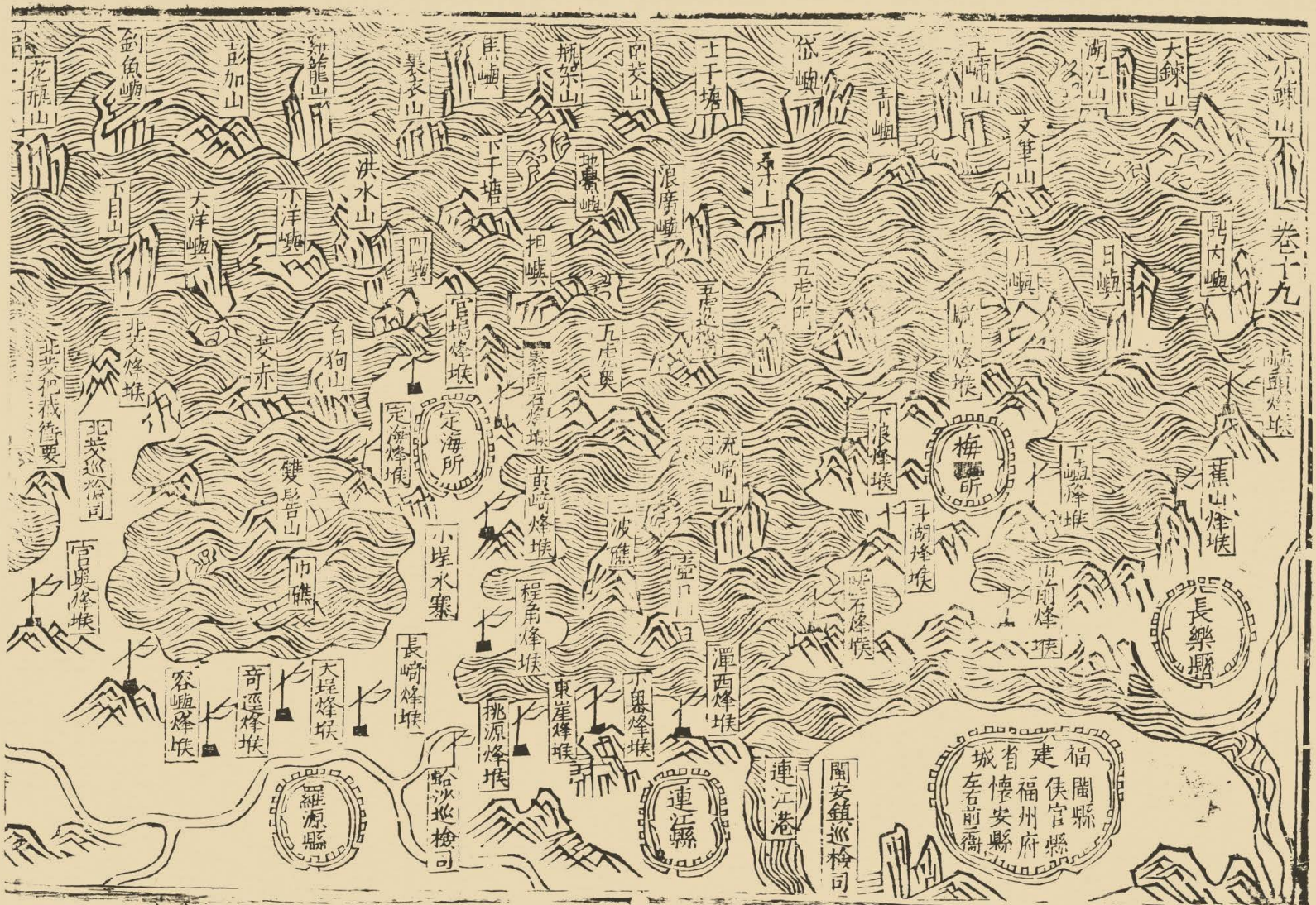
福
卷十四
中左所
高浦所
高浦巡檢司
大担山
南澳山
東碇山
虎頭門
青澳烽堠
青浦烽堠
卓岐烽堠
馬家烽堠
石井把截
青烽堠
百沙烽堠
鰲頭烽堠
厦門烽堠
厦門巡檢司

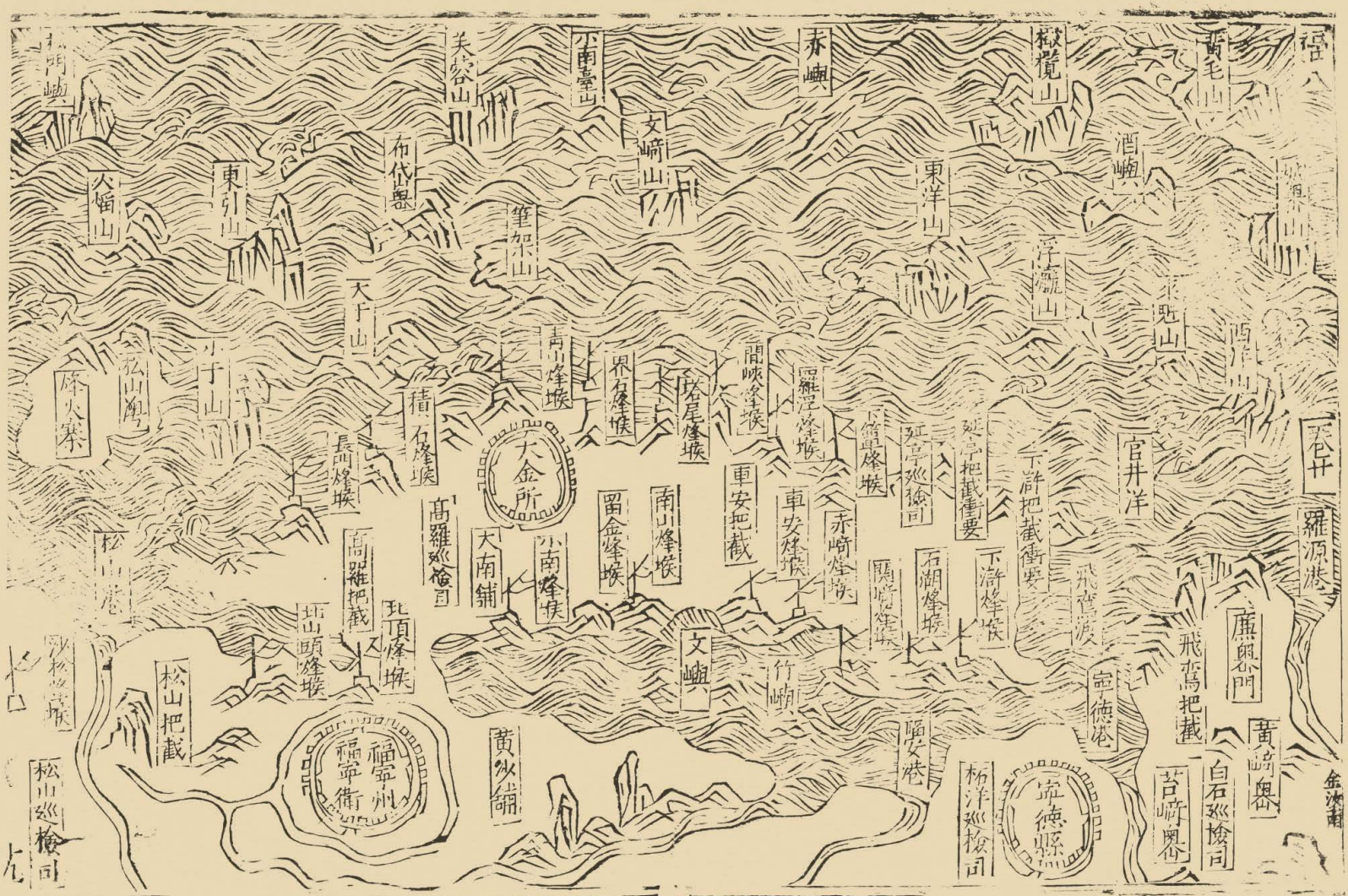
大捕山
小捕山
小登山
大登山
東關烽堠
廣山烽堠
圍頭巡檢司
安平烽堠
陳坑烽堠
坑園山烽堠
深滬巡檢司
福全所
烏潯巡檢司
坑尾寨
中寨
沙堤寨
永寧衛
古雲烽堠
古雲寨
東浦寨
龍坡寨
祥芝巡檢司
白崎烽堠
白沙烽堠
古雷烽堠
青山烽堠
赤山烽堠
崇武所
獺窟巡檢司
大山烽堠
泉州府

卷十六
四
小烏坵山
戎墜山
大烏坵山
峭嶺
白嶺
天妃宮
洲山
南日永寨
大頭山烽堠
文甲烽堠
蒲禧所
西山烽堠
東山烽堠
烽山烽堠
濠山烽堠
磨前烽堠
後浦烽堠
培山烽堠
理頭山烽堠
吉了烽堠
渡遠山烽堠
吉了巡檢司
小嶼巡檢司
柘林烽堠
天妃烽堠
東林烽堠
崎頭烽堠
翠屋烽堠
翠屋巡檢司
後黃烽堠
尖山烽堠
高山烽堠
下頭烽堠
海頭山烽堠
馬頭烽堠
小矸烽堠
蕭山烽堠
小矸巡檢司
大矸寨
黃崎巡檢司
惠安縣
沙塘湾
十五

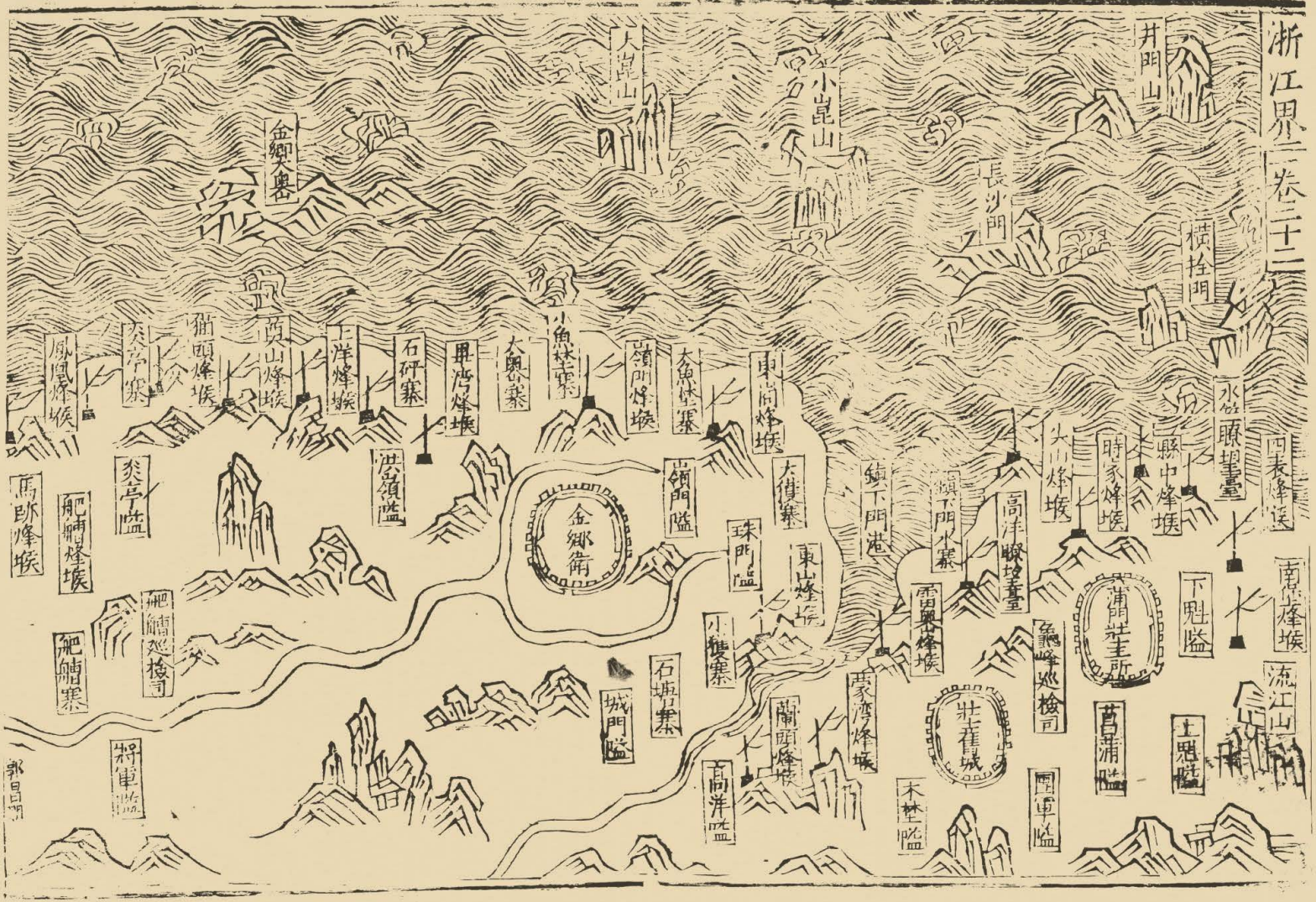

彭湖山
龍嘲山
六湖山
石帆山
鹽塢礁
堂嶼
大姨山
草嶼
雙嶼
臨嶼
東嶼
牛嶼
奇沙門
章厝山烽堠
衣領烽堠
嵌頭巡檢司
上歐烽堠
綿澳烽堠
吳山烽堠
嵌頭烽堠
石獅烽堠
小澳烽堠
察山烽堠
石城烽堠
登港烽堠
湖邊烽堠
東林烽堠
石井烽堠
下徐烽堠
平海衛
鼓城烽堠
林邊山烽堠
青山巡檢司
岩沁烽堠
蠔嶺烽堠
卿魚烽堠
後浦烽堠
中心巡檢司
埕口烽堠
三江烽堠
參浦烽堠
白沙烽堠

長嶼
三礁
鍾門山
可門山
六湖山
東沙山
海壇山
網山
松下巡檢司
松下烽堠
碧泉屋山島
潮汐烽堠
石間烽堠
山崎烽堠
峯前烽堠
陳塲烽堠
大壤烽堠
後堂烽堠
龍下烽堠
松下寨
王家島
澤郎烽堠
桃嶼烽堠
大坵烽堠
馬頭烽堠
澤郎巡檢司
大寨
鎮東衛
逐峰塔
福清縣
萬安所
茶林瞭墓
石鶴烽堠
仙巖烽堠
車盤烽堠
前滄烽堠
馬頭烽堠
坪烽堠
浮坑烽堠
前村烽堠
牛頭烽堠
雞嶼烽堠
迎仙巡檢司
芭蕉頭驛

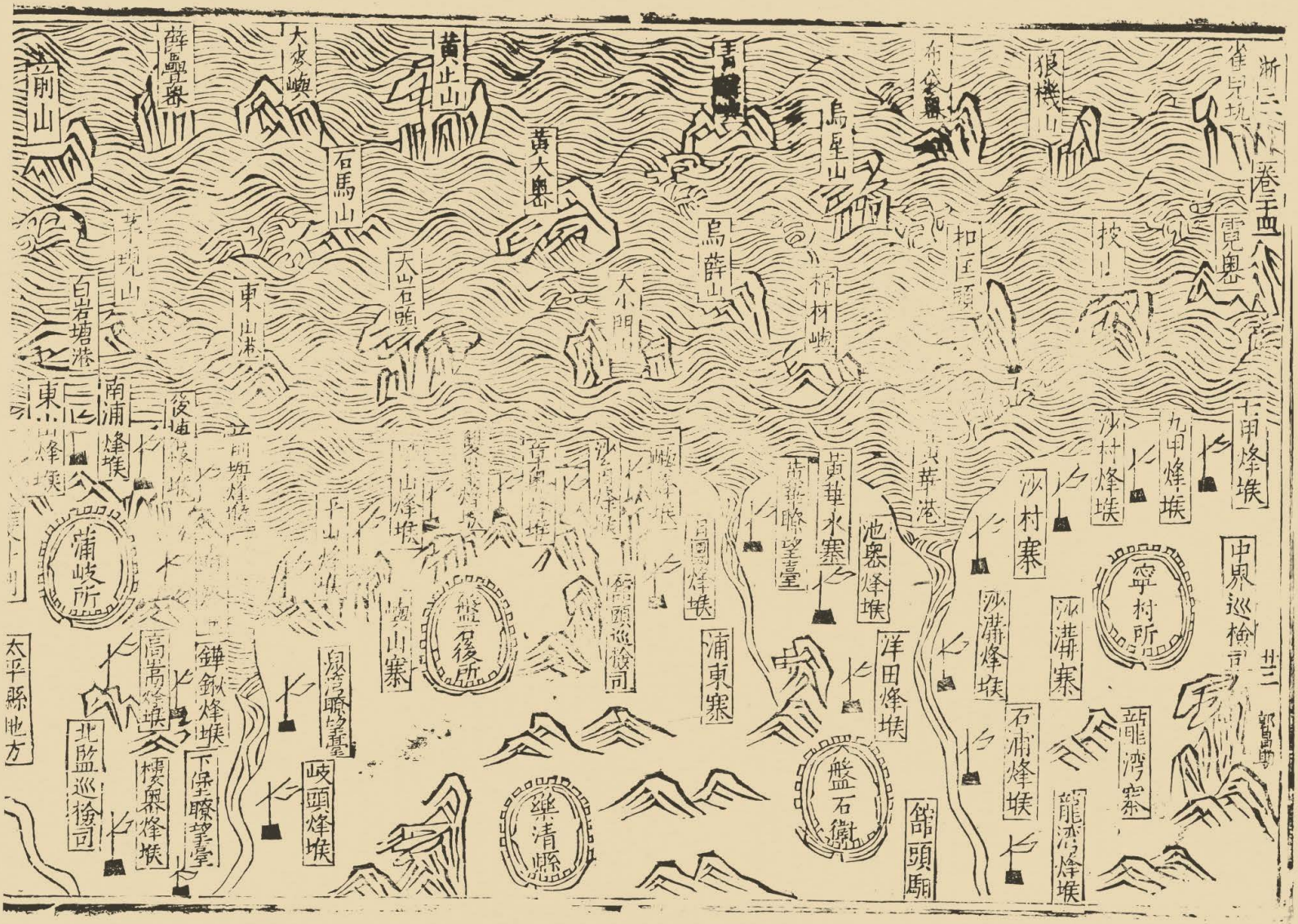

卷十九
大鍊山
湖江山
上浦山
文筆山
鼎內嶼
日嶼
月嶼
蕉山烽堠
長樂縣
下嶼烽堠
下浪烽堠
梅所
斗潮烽堠
面前烽堠
呀石烽堠
福閩縣
侯官縣
福州府
省懷安縣
城左右前衙
閩安鎮巡檢司
連江港
潭西烽堠
連江縣
小練山
孤嶼
青嶼
桑上
五虎所
浪廣嶼
土干塘
下干塘
地藏嶼
担嶼
城尖山
南茭山
馬嶼
裝衣山
彭加山
花瓶山
釣魚嶼
龍山
洪水山
大洋嶼
小洋嶼
下目山
北茭烽堠
北茭巡檢司
北茭汛戒備要
茭永
白狗山
官嶼烽堠
定海所
定海烽堠
雙髻山
官興烽堠
小埕水寨
黃崎烽堠
程角烽堠
長崎烽堠
大埕烽堠
奇遷烽堠
容嶼烽堠
蛤沙巡檢司
挑源烽堠
東崖烽堠
小鬼烽堠
三波礁
流嶼山
蓮源縣


卷廿
羅源港
黃崎澳
白石巡檢司
苔崎澳
飛鴉把截
寧德港
寧德縣
楊洋巡檢司
福寧衛
福寧州
黃沙鋪
松山巡檢司
松山把截
松山港
北頂烽堠
高羅把截
高羅巡檢司
大南鋪
小南烽堠
大金所
南山烽堠
留金烽堠
車安烽堠
車安把截
赤嶼
文嶼
竹嶼
下澳烽堠
石湖烽堠
下澳把截衝要
延亭把截衝要
延亭巡檢司
羅浮烽堠
閒峽烽堠
界石烽堠
青山烽堠
筆架山
東引山
大嶼山
布袋澳
天干山
小干山
積石烽堠
長山烽堠
松山澳
烽火寨
東洋山
浮鷹山
酒嶼
東嶼山
女崎山
南臺山
赤嶼
戴帽山
黃毛山
羅源港
廉澳門
飛鴉把截
寧德港
竹嶼
金沙澳

北茶山
三星山
七星山
大前山
小前山
竹山
北茶嶼
東茶嶼
西茶嶼
屏風山
黑嵛山
烽火山
烽火門
後嶼烽堠
小青屿烽堠
大青屿烽堠
清湾巡司
東碧烽堠
大嶼烽堠
烽火嶼烽堠
黃灣烽堠
沙江港
三山烽堠
極北烽堠
古賊烽堠
金家烽堠
南金烽堠
天竺嶺烽堠
天竺嶺把截衝要
天竺嶺巡司
龍山烽堠
貢船烽堠
水澳烽堠
水澳巡司
沙嶼
南鎮把截衝要
百石烽堠
蘆洞巡司
南鎮烽堠
百嶼烽堠
沙埕烽堠
福建沉江
金交洋

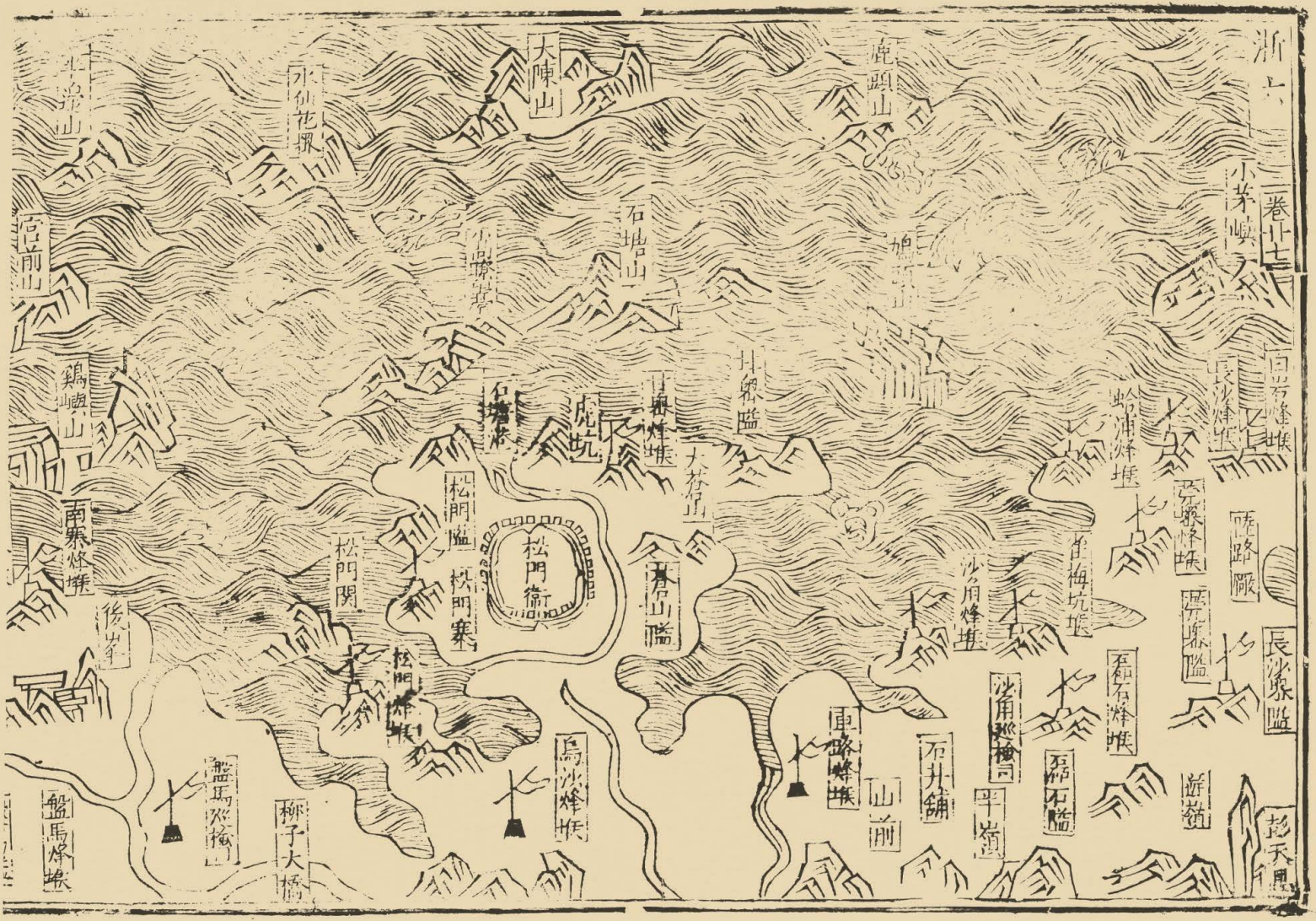

浙江界二卷二十二
大崑山
小崑山
井門山
長沙門
橫拴門
金鄉衛
水站
瞭望臺
四表烽堠
縣中烽堠
時家烽堠
大山烽堠
鎮下門港
鎮下門水寨
高洋瞭望臺
南岸烽堠
下魁隘
流江山
蒲壯所
土魁隘
菖蒲隘
雷公嘴烽堠
龜峰巡檢司
壯鶴城
蒙灣烽堠
蘭頭烽堠
高洋隘
木柴隘
將軍隘
城門隘
石塘寨
小樓寨
肥艚巡檢司
肥艚寨
肥艚烽堠
馬跡烽堠
烏嶺隘
珠門隘
東山烽堠
大樟墩
東崗烽堠
領門烽堠
大魚堡寨
小魚堡寨
領門隘
畢灣烽堠
石砰寨
上洋烽堠
頁山烽堠
猫頭烽堠
烏岑寨
鳳凰烽堠
金鄉衛

浙江
卷三
南部山
大洋嶼
鳳凰山
五嶼
江口渡港
大山烽堠
平塘烽堠
江口巡檢司
瑞安縣
平陽縣
沙南所
海安所
梅頭巡檢司
東山寨
上鳴寨
上門寨
攻略寨
東門寨
廟嶼寨
田寨
店下烽堠
楊頭烽堠
長沙烽堠
海安港
飛雲港
仙呂寨
仙呂巡檢司
仙呂烽堠
眉石南寨
眉石北寨
烽火寨
烽火烽堠
平陽守禦所
好溪寨
福泉烽堠
江口烽堠
東洛山
竹嶼門
銅盆山
石盲嵎寨
東山寨
長腳山
小棚山
六礵山
長沙寨


浙江
卷五
前山
薛嶼
大麥嶼
黃止山
石馬山
黃大嶼
烏星山
烏薛山
大小門
天山石頭
東山港
百岩塘港
東山烽堠
南浦烽堠
蒲岐所
後塘
立山烽堠
山烽堠
盤後所
嶼山寨
浦東寨
黃華水寨
黃華瞭望臺
池嶼烽堠
洋田烽堠
盤石衛
錦鈸烽堠
下堡瞭望臺
北監巡檢司
高嵩烽堠
樓嶼烽堠
岐頭烽堠
樂清縣
太平縣地方
沙村寨
沙村烽堠
九甲烽堠
十甲烽堠
中界巡檢司
沙溝寨
沙溝烽堠
石浦烽堠
龍湫寨
龍湫烽堠
館頭駟
館頭巡檢司
寧村所
黃華港
狼機山
雀兒坑
鬼嶼
按山
杓江頭
杓村嶼

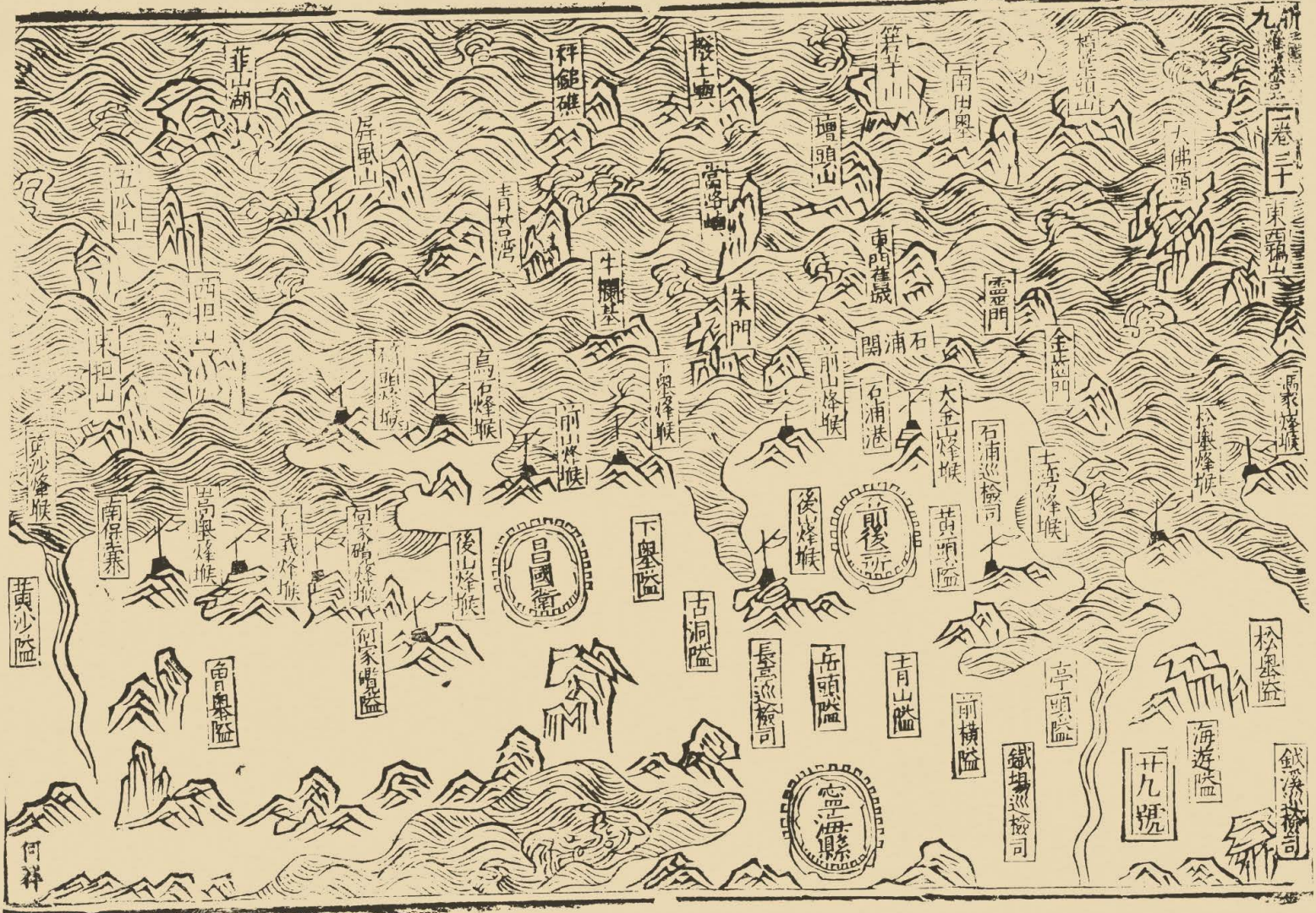
大山
小鹿山
分水山頭
小青山烽堠
皆山烽堠
東門烽堠
西門烽堠
截嶺
鹽盤
白壁
界坑
梅溪橋
塘
謝家橋
大烏鋪
石橋烽堠
九水塘
十門關
楚門烽堠
楚門渡
楚門海
楚門
塔山烽堠
清港渡
清港烽堠
清港鋪
竹嵐
三山巡檢司
武溪鋪
小珠鋪
大溪山
十嶺
烏泥門
浦政巡檢司
鹽山嶺
徽州全境

浙五
卷廿六
太平縣
大平縣
臨領所
大閘塗
小閘
小那田
炉珠鎮
炉珠舖
長門嗌
江綿嗌
靈門山
靈門嗌
南山
後湾烽堠
馬頭烽堠
江綿烽堠
曾逢烽堠
小鹿巡檢司
楓林嶺
張家井舖
水桶張嗌
泥湖嗌
泥湖烽堠
客溪
西泉嗌
田泉
青泉
金田舖
楊坑烽堠
楊坑嗌
漁井烽堠
漁井嗌
鷄冠山
西寺山
平嶼山
馬鞍山烽堠


浙江
卷十七
大陳山
鹿頭山
小茅嶼
水仙花塘
石塘山
前山
鷄嶼山
南寨烽堠
後岑
松門衛
松門關
松門寨
松門烽堠
大岙山
青山臨
虎坑
烽堠
石塘寨
小岙寨
大岙烽堠
蛇浦烽堠
長沙烽堠
長沙寨臨
曉路隘
曉路寨臨
青梅坑堠
沙角烽堠
磊石烽堠
磊石臨
沙角巡檢司
半嶺
遊嶺
石井舖
山前
重路烽堠
烏沙烽堠
盤馬烽堠
盤馬巡檢
柳子大橋
起天門

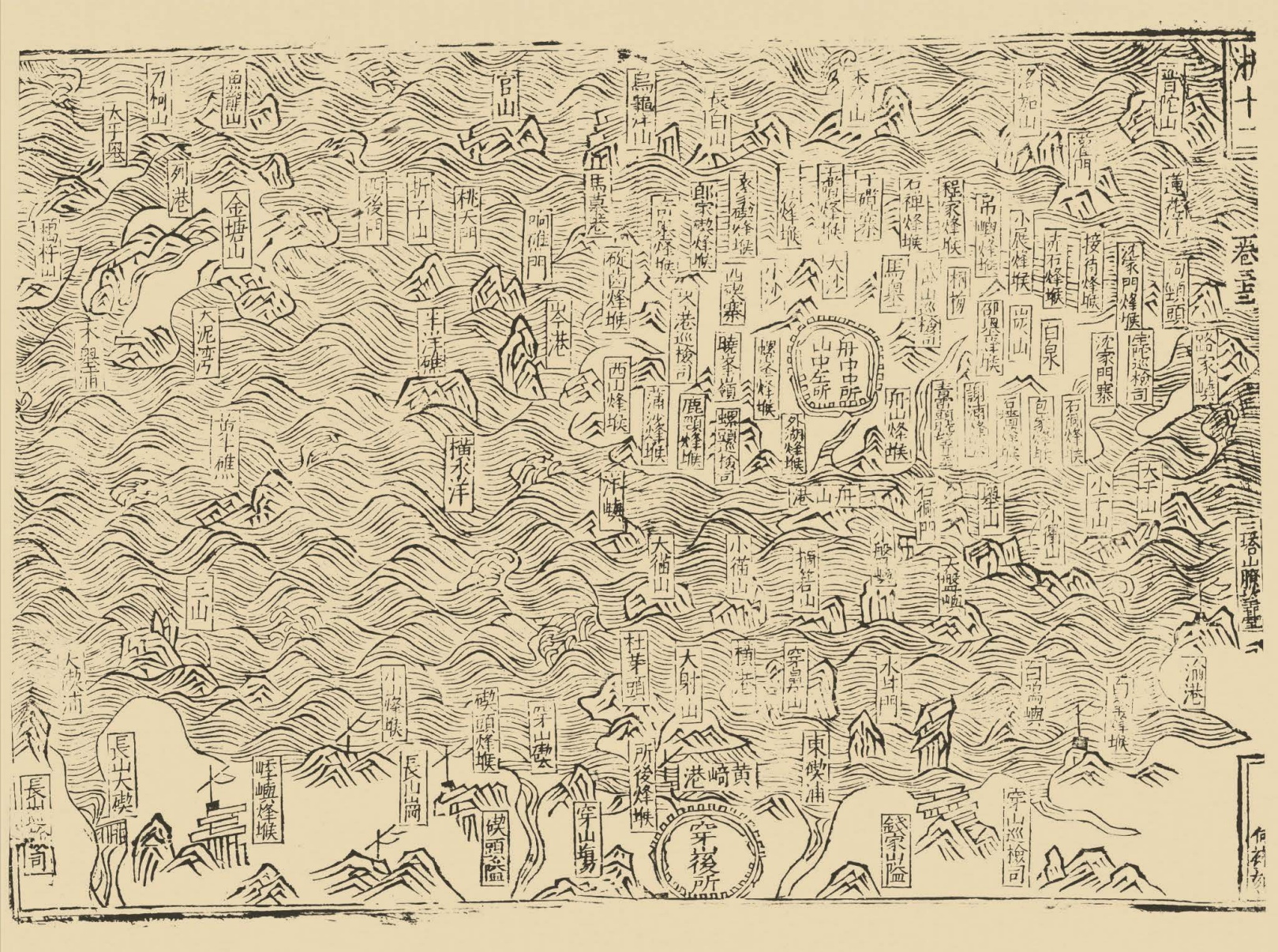
黃珠山
三門山
清門山
茶盤山
高嶼鮑坐臺
茅頭嶺
洋嶼
桃渚門
臨海門口
下於江
垃圾港
桃渚城
東山臨
洞井烽堠
石柱烽堠
桃渚所
長沙烽堠
長沙臨
海門港
海門所
大塘臨
老鼠臨
武曲臨
北沙臨
小魚西臨
蔓墨臨
練蛇臨
暗姑臨
台州府

鑓礁
大淡山
穆谷山
磺開山
楊梅壢
西崎山
早崎山
竿崎山
註山
鉤鉤山
三段山
塘下浦
新坡烽堠
蔡洋
金清閘朱文公造
陸路廠
西嶼閘朱文公造
沙埔烽堠
長浦塩
金沙灘
東中瞭望臺
外水烽堠
中鎮瞭望臺
海門衛
架砲廠
岳頭塩
長浦巡檢司
新河所
淨應烽堠
金絲橋
鐵場舖
長嶼
堂嶼
南鑑公館
黃石塲
光橋
永豐閘朱文公造
過洋閘朱文公造
黃岩縣
彭天恩

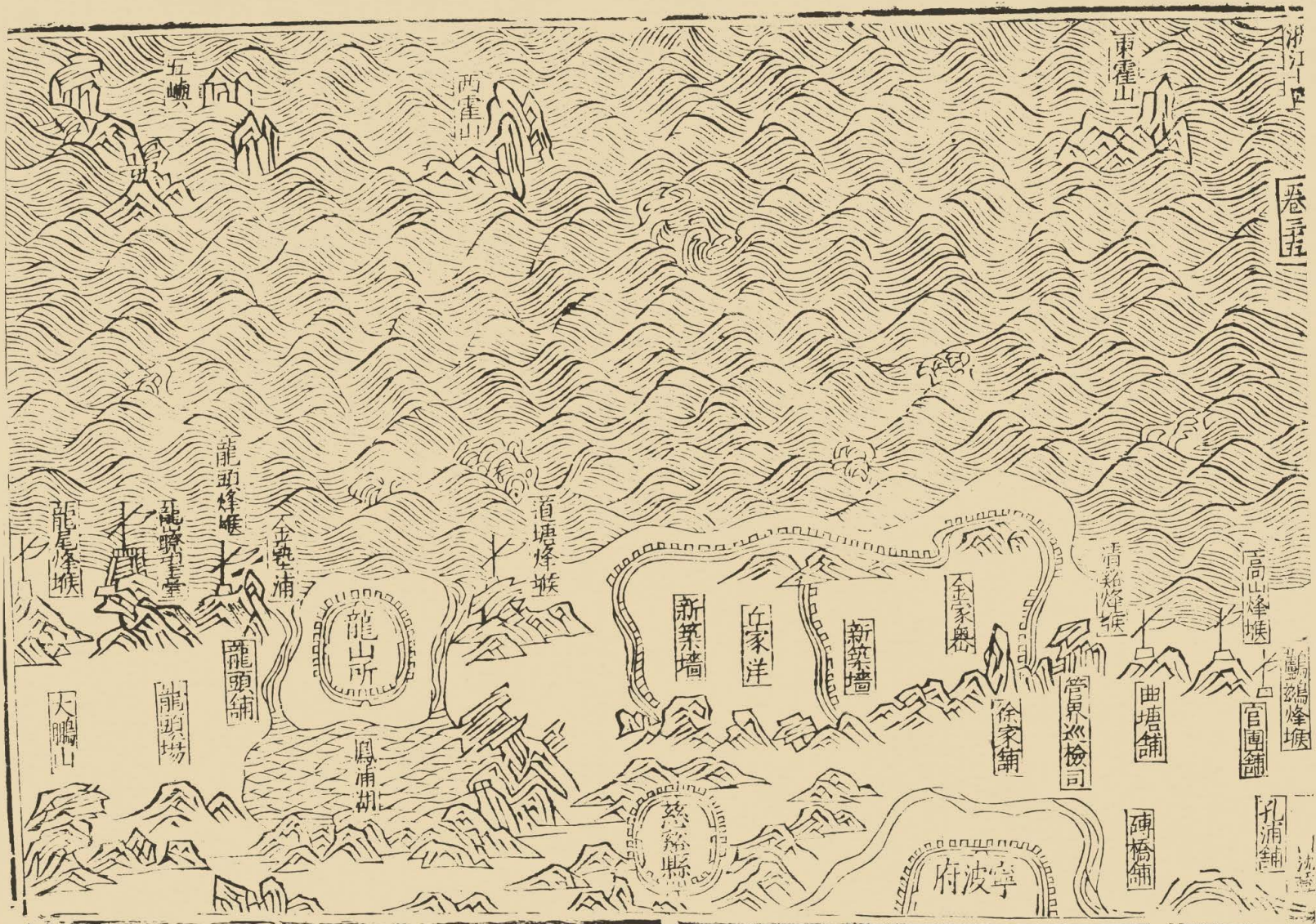

卷三十
東西鎮山
大佛頭
南田墩
筆架山
橫坑山
壇頭山
東門樓嶼
石浦閘
靈門
金門
大金山烽堠
石浦港
石浦巡檢司
前山烽堠
後山烽堠
前後所
黃頭隘
松墩烽堠
松墩烽堠
菲山湖
五瓜山
屏風山
西坦山
朱把山
吉貝灣
牛欄基
朱門
當路嶼
拜鍵礁
機土嶼
烏石烽堠
南保寨
高墩烽堠
前家嘴烽堠
後山烽堠
昌國衛
下墩隘
古洞隘
長亭巡檢司
岳頭隘
青山隘
前橫隘
鐵場巡檢司
亭頭隘
松墩隘
海遊隘
十九澳
鉞港巡檢司
黃沙隘
南墩隘
前家嘴隘
寧海縣
何祥

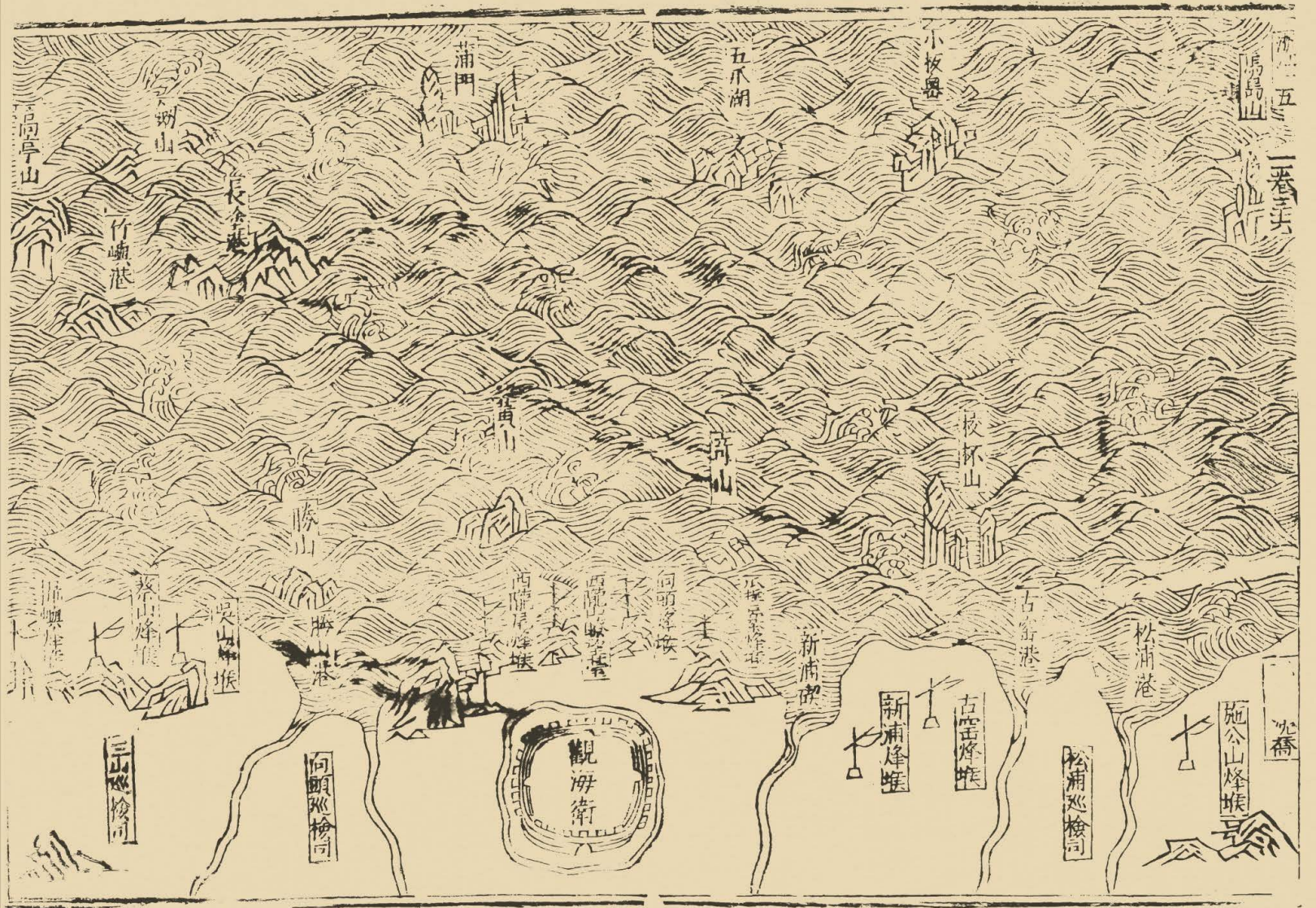
浙十
卷三
當姑門
西厝山
東厝山
大日山
小月山
道人港
前烽堠
中堡瞭望樓
亂洋礁
東門嶼烽堠
蒲門嶼
住與寺隘
錢倉所
新婦隘
公嶼烽堠
公嶼隘
出嶺烽堠
沙頭烽堠
青雷烽堠
蒲門隘
苗湖渡
趙巢烽堠
趙巢巡檢司
司前渡
陳巡檢司
王泉塲
海澄墟
外嶺烽堠
赤坎烽堠
游仙寨
黃沙寨
鮎鰡巡檢
象山縣

卷三十二
大洋山
小洋山
泥山
石板港
白馬礁
菜興山
浪崙頭
紙關門
青龍山
梅山烽堠
大洋山
大洋洋
黃牛礁
大烽堠
大烽港
烽堠
蝦蟆烽堠
三山隘
大尖山
大嵩所
大嵩場
海塘
塔山巡檢司

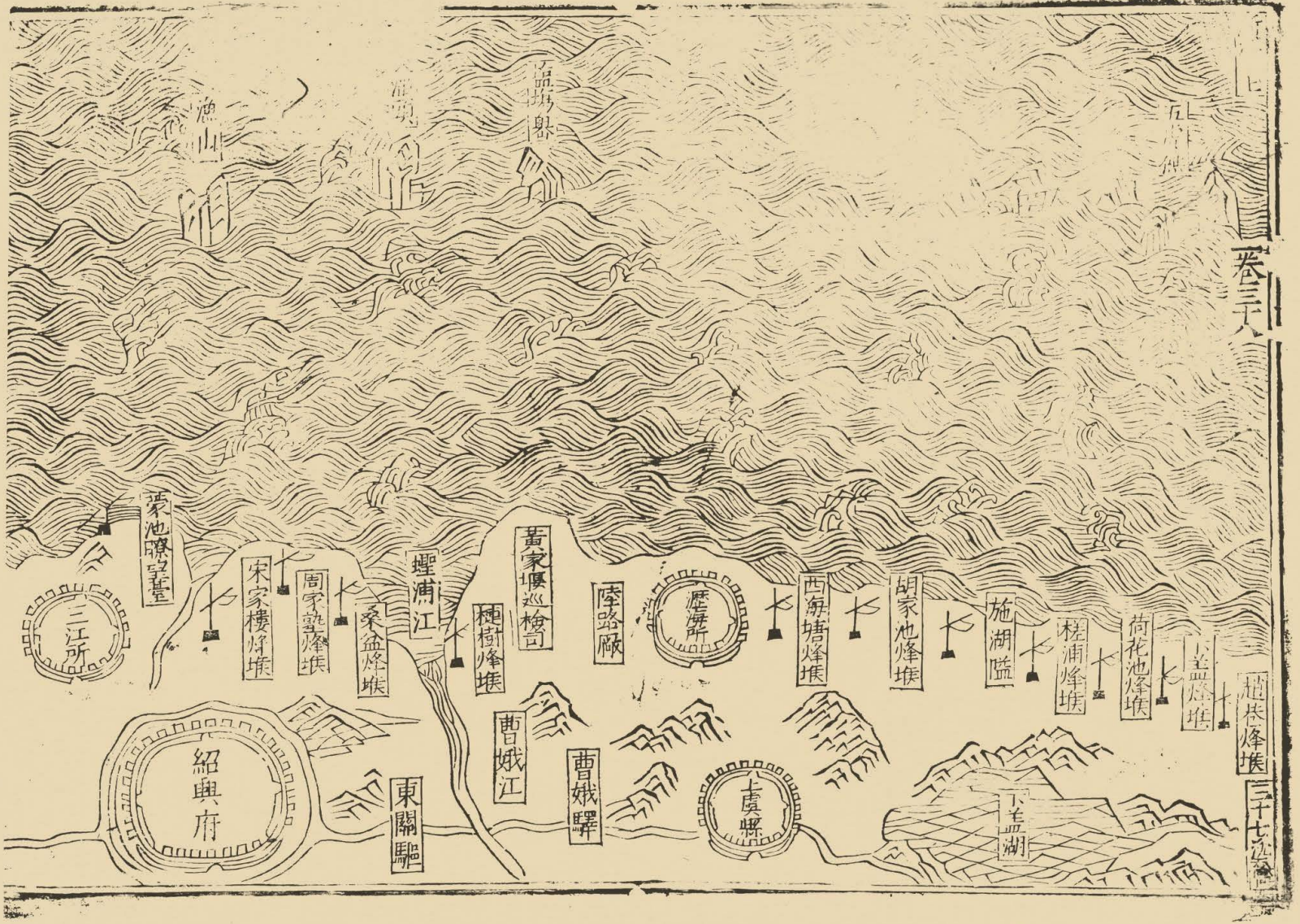

卷三
三塔山
官山
烏龜汴山
長白山
馬鼻港
金塘山
大泥湾
木墨浦
横水洋
桃夭門
啊雌門
折子山
列港
大千盤
小千盤
大小
馬墨
舟中所
山中所
舟山烽堠
小沙
大沙
小展烽堠
大展烽堠
接待烽堠
石牌烽堠
程家烽堠
吊嶼烽堠
白泉
石塘烽堠
大千山
小千山
小霄山
舟山
小舟山
大盤嶼
小盤嶼
小猫山
大猫山
杜茅頭
大射山
横港
穿山嶴
穿山後所
所後烽堠
黄崎港
東樂浦
水門
白嶼嶼
錢家山隘
穿山巡檢司
穿山烽堠
穿山
礁頭烽堠
礁頭隘
小烽堠
長山岡
長山大礁
峰巉烽堠
長山
司
大礁洋
横水洋
大千
小山
金塘
港
洋
港

小衢山
七里嶼
虎蹲
威遠城
招宝烽堠
東嶽廟
天妃宮
中子山
靖海营
定海縣
定海衛
定海関
金鶏山
定海港
小港嘴
南塘巡司
蛟門山
梁山
小梟港
烽堠
張恩澳烽堠
大尖岡烽堠
打鼓烽堠
大鳥湾烽堠
長山塢
青嶼隘
汪家路烽堠
清水碶
永寧碶


浙江一
卷壹
五嶼
西霍山
東霍山
龍頭烽堠
龍尾烽堠
龍尾嶝書堂
金塗浦
龍山所
龍頭舖
龍頭場
天鵬山
鳴浦湖
道塘烽堠
慈谿縣
新築墻
王家洋
新築墻
王家嘴
徐家舖
管界巡檢司
清籍烽堠
高山烽堠
曲塘舖
官廵舖
鸕鷀烽堠
孔浦舖
陳橋舖
寧波府


五斗湖
小板嶼
蒲門
高亭山
大姆山
長舍港
竹嶼港
黃山
斗山
校杯山
陳山
陳山港
蔡山烽堠
吳山烽堠
吳山巡檢司
陳山巡檢司
西關烽堠
西關巡檢司
何頭烽堠
何頭巡檢司
觀海衛
新浦砲
古窑港
古窑烽堠
新浦烽堠
松浦港
松浦巡檢司
施公山烽堠
沙喬

浙江十六
廟子湖
仙山
卷三十七
稠港
兩頭洞
二十六沈喬
破浦隘
三山所
海口隘
眉山檢司
眉山烽堠
涎山烽堠
涎山烽堠
徐家路烽堠
周家路烽堠
道塘烽堠
方路烽堠
化地湖隘
泗門烽堠
雜家山烽堠
白山烽堠
臨山衛
白山巡檢司
烏盆隘
烏盆烽堠
臨山港
餘姚縣

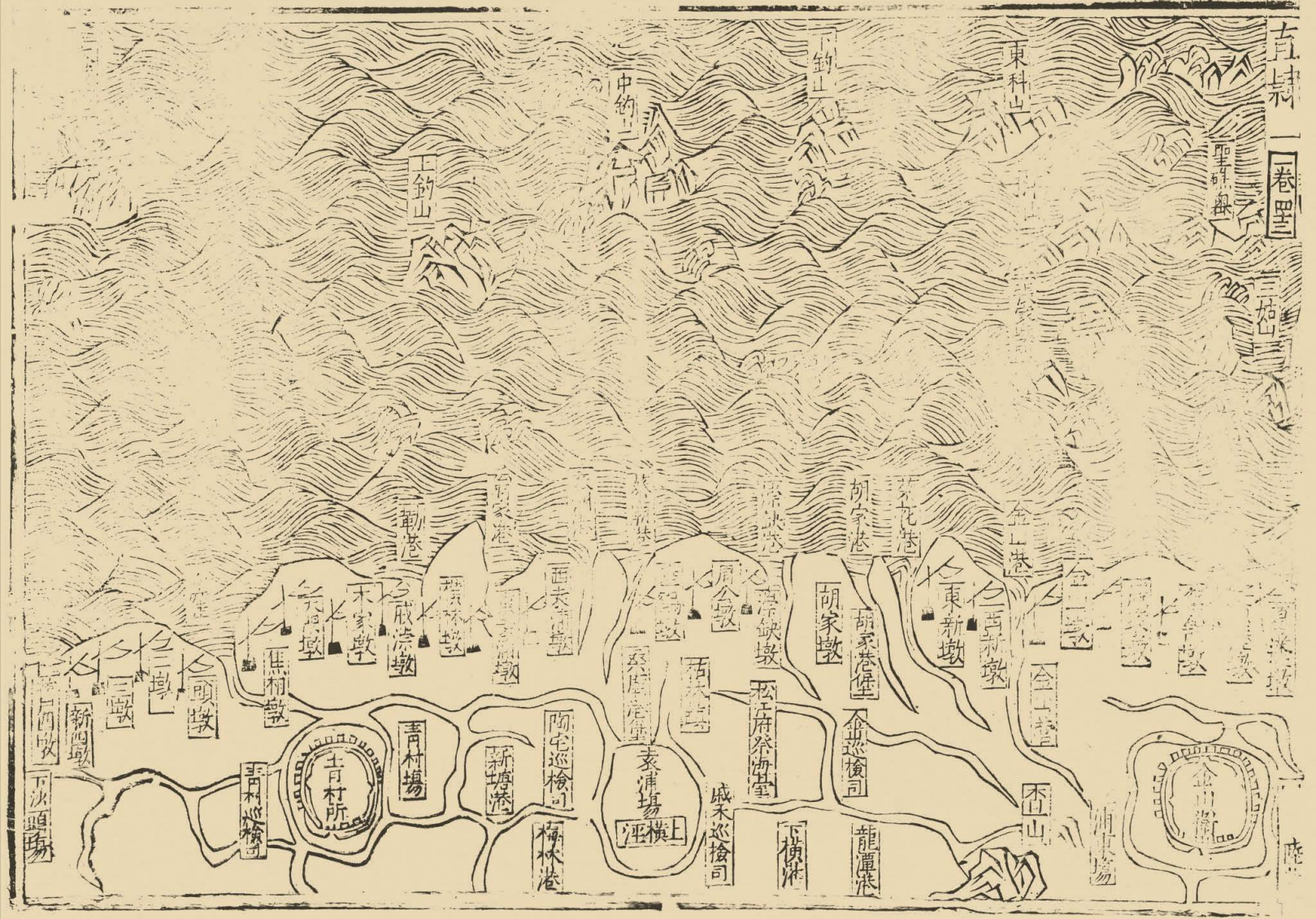

漁山
蒙池瞭望墓
三江所
宋家樓烽堠
周家塾烽堠
桑益烽堠
紹興府
東關驛
壁浦江
黃家堰巡檢司
梗樹烽堠
曹娥江
曹娥驛
陸路廠
歷港廠
西海塘烽堠
胡家池烽堠
施湖嗌
桂浦烽堠
荷花池烽堠
盆湖烽堠
梅墓烽堠
三十七都
下盆湖
上虞縣

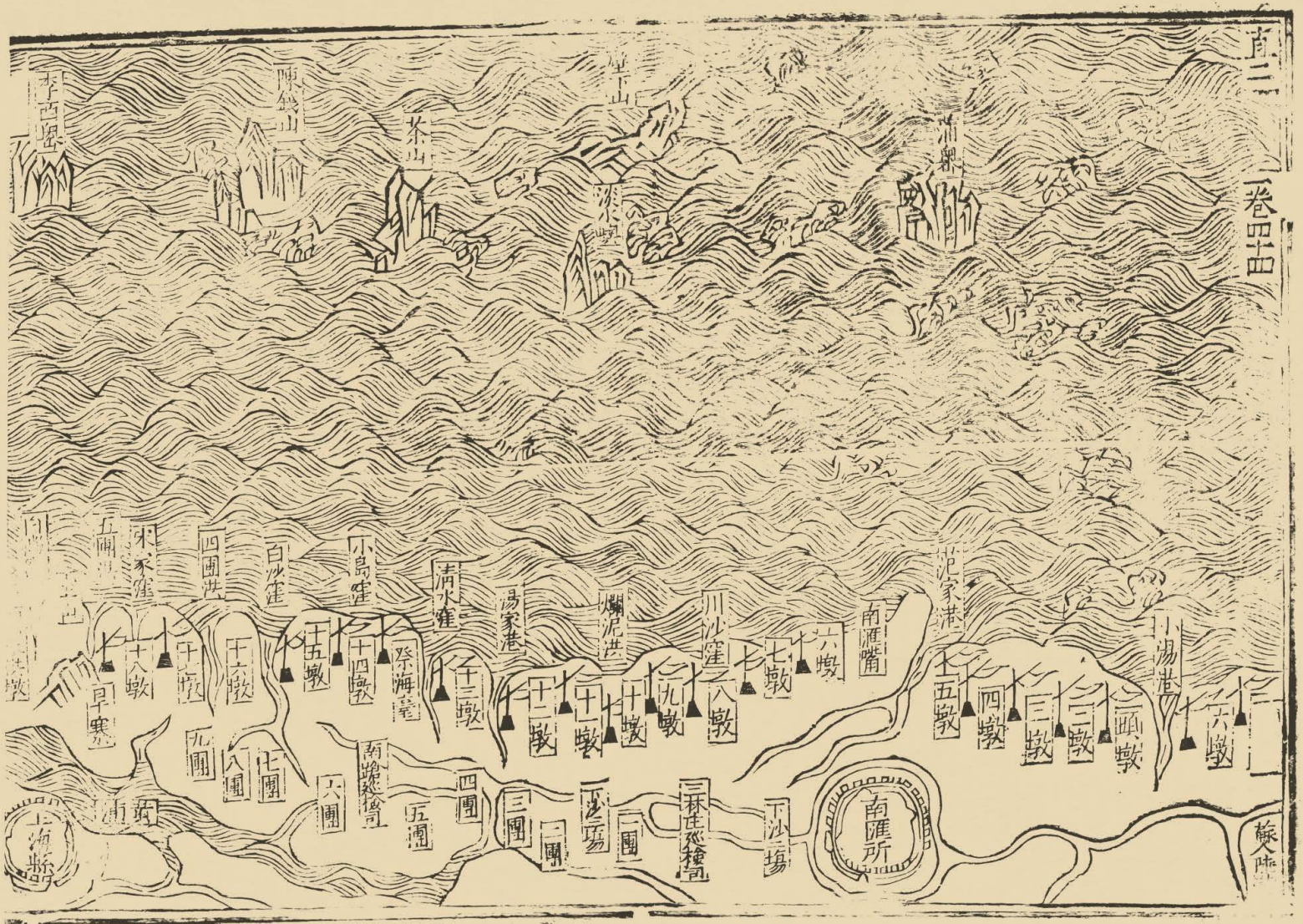
浙十八
茶浦門
梅門
下湖
和尚山
隘子門
稽山總寨
稽山脅
稽山烽堠
杭塢山烽堠
烏峯山烽堠
馬鞍山烽堠
江港
石龍嶺
三江巡司
三江所
發風條嶺
錢塘江
浙前右二衛
城
省杭州府 仁和縣
錢塘縣
西湖
石門山烽堠
橫路烽堠
褚家園
松林塘
內前烽堠
下館烽堠
海寧所
蕭山縣
峯梨驛
二九

卷里
小衢山
大衢山
開浪盜
熊潭盜
南門總寨
胡老灣寨
高岸山
澉宇湖
黃灣寨
鳳凰山烽堠
鴉衙門山
百墅山總捕司
澉浦所

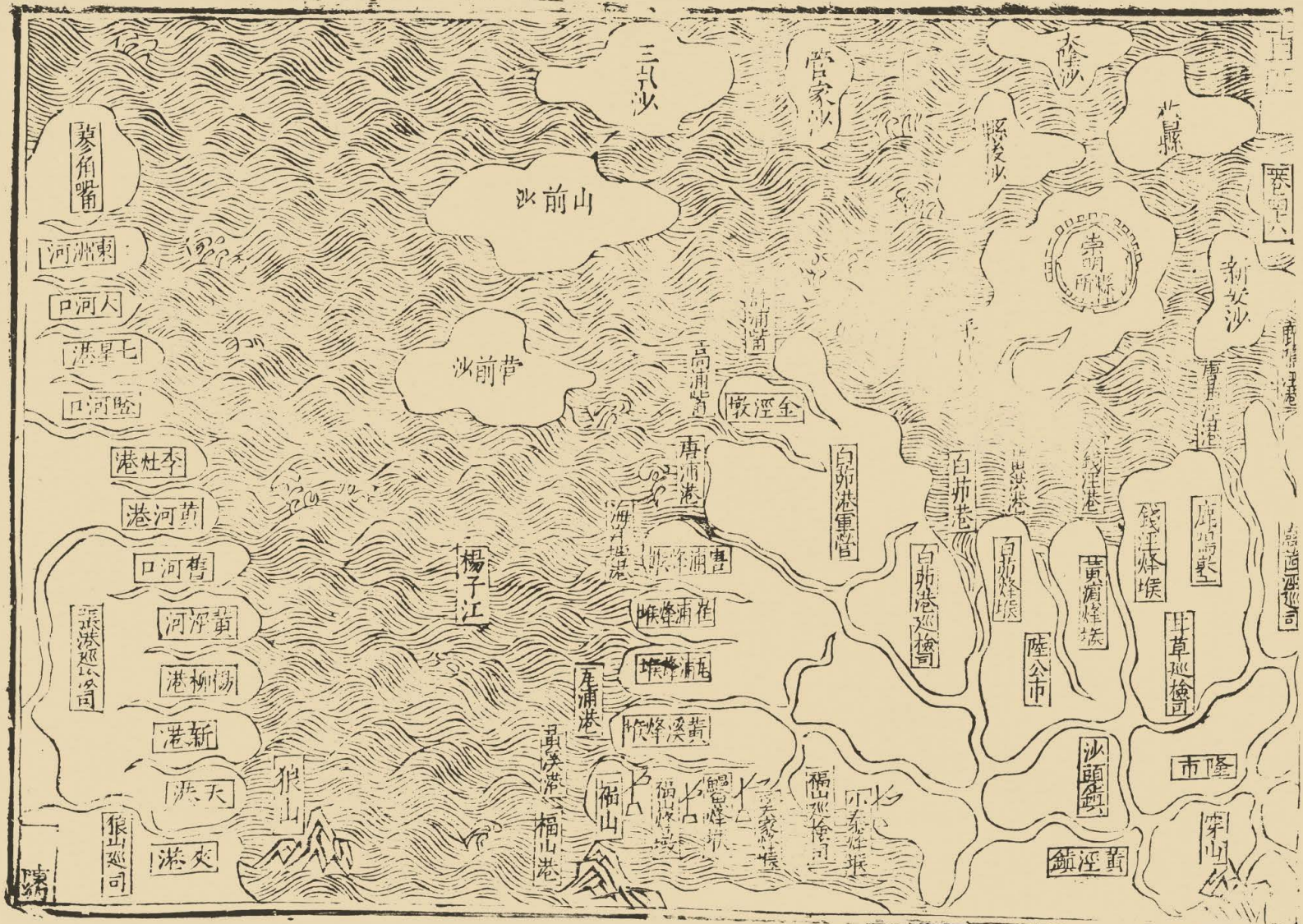
浙十
卷里
黃盤山
蘭山
許公
海寧衛
海鹽縣
新建衙歷
醫雲院
東塩團寨
三間寨
秦山嶺
秦山烽堠
湖池山
大步門山
海口烽堠
南瞭望臺
北瞭望臺
北舖寨
九里烽堠
海口巡司
鄭家倉廠
朱家倉廠

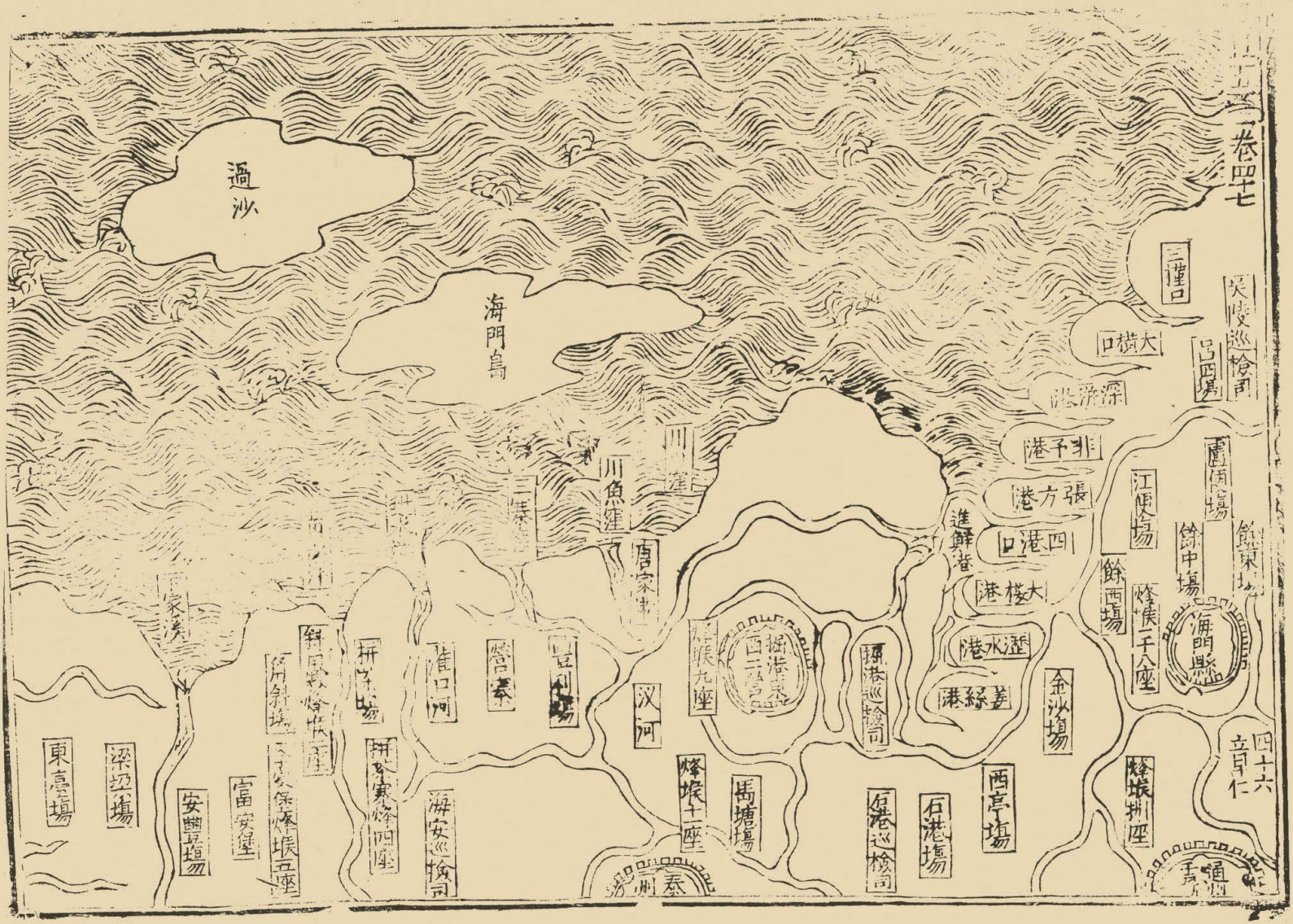
八一卷望
北門
前山
淡水門
馬蹟山
五人山門
西洋界
浦山外寨
浦山西寨
高公峰堠
東山瞭望臺
陳山峰堠
天妃宮
西海口
觀山峰堠
西山嘴寨
專家灣寨
金家灣新寨
金家灣寨
聖妃宮寨
長沙灣寨
長沙灣望臺
梁屯營寨
梁屯公寨
下浦汛司
橫浦塲
蘆歷塲
白沙灣汛司
後所
京於

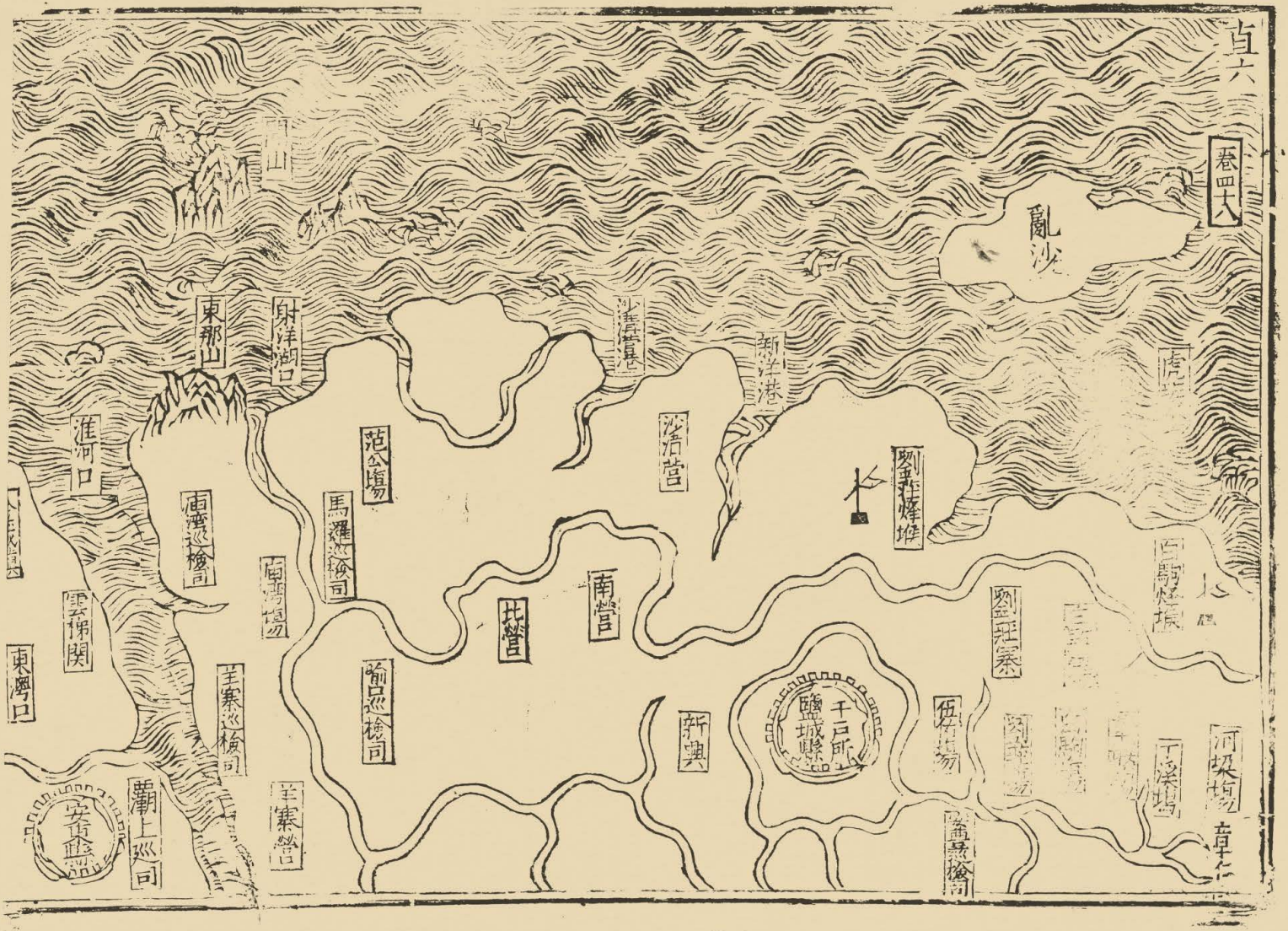

下釣山
中釣山
上釣山
東科山
三姑山
金山
金山墩
金山巡檢司
金山衛
金山營
東新墩
胡家港
胡家墩
胡家港堡
胡家花港
西新墩
西新港
西新港堡
勘港
勘港墩
勘港堡
馬村墩
宋家墩
戚浩墩
碧林墩
頭墩
二墩
三墩
新河墩
下沈頭場
青村所
青村巡檢司
青村場
新塘港
陶宅巡檢司
梅林港
袁浦場
橫浦
橫浦場
戚宋巡檢司
松江府參將署
下橫浦
龍潭港
西山
浦東場

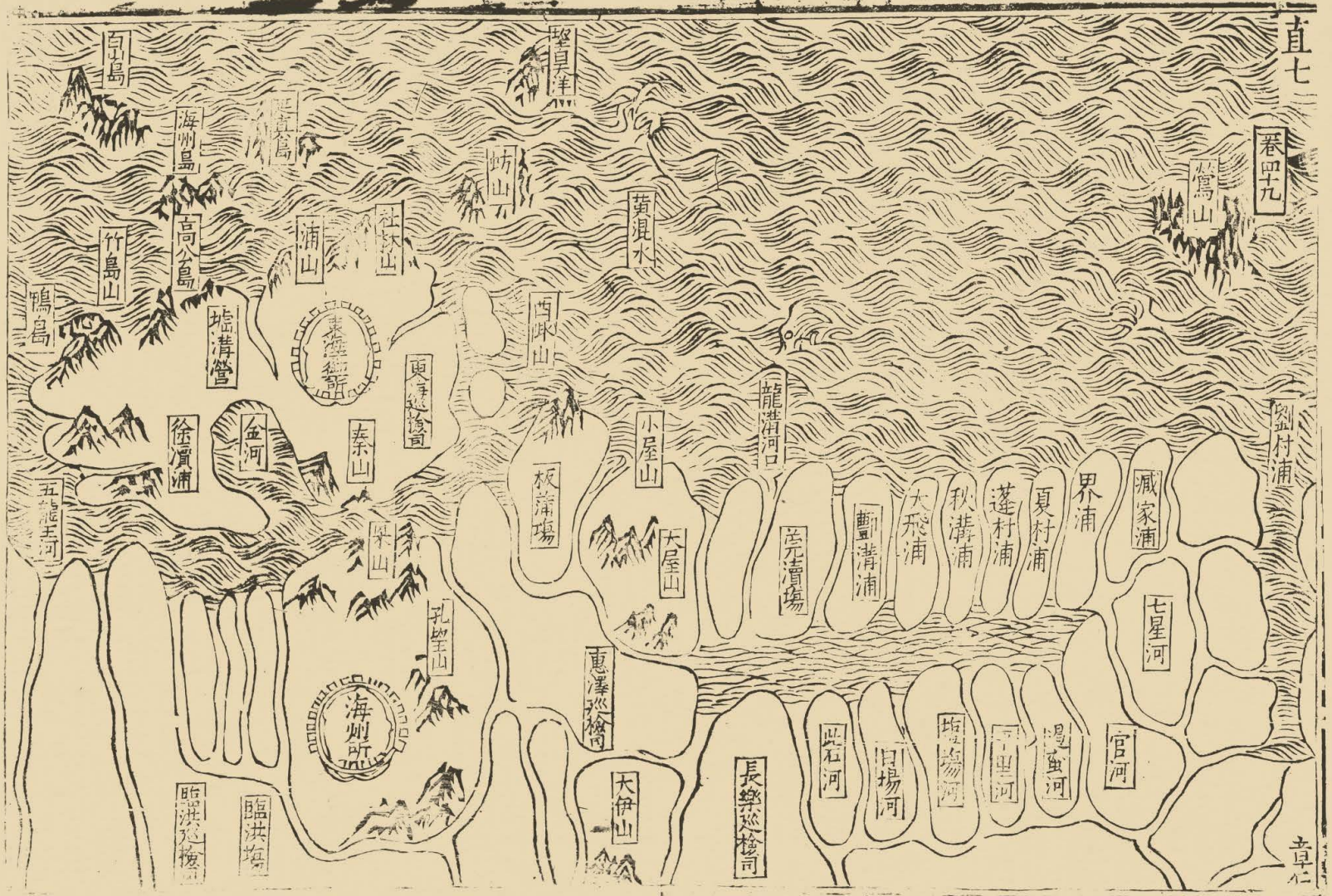

李西堰
陳錢山
茶山
下山
淡水堰
浦東
小湯港
六墩
二墩
三墩
三墩
四墩
五墩
泥家港
南滙嘴
七墩
六墩
川沙窪
八墩
九墩
爛泥洪
十墩
十墩
十一墩
湯家港
十二墩
清水窪
十三墩
祭海亭
十四墩
十五墩
小島窪
百沙窪
四圍洪
十六墩
十七墩
十八墩
朱家窪
五圍
早寨
上海縣
九圍
八圍
七圍
六圍
南跳越塘
五圍
四圍
三圍
二圍
一圍
三林老塘
下沙場
南滙所
蘇州府

直三
第四十
東行
崇明山
水十山
分水碑
佘山
佘山嘴
長沙
無名沙
小團沙
孫家沙
爛沙
崇港
七丫港
七丫軍營
七丫墩
東新市
諸涇鎮
下沙墩
劉家河營
劉家河
西巡檢司
劉家港巡檢司
太倉州
宋家港
北洋子港
淺浪浜
天妃宮
南北千港
石家港
夏塘浜
黃渡港
張浦墩
黃涇墩
黃涇港
月浦墩
淮墩
顧涇墩
顧涇港
顧涇巡檢司
太倉衛
絲涓墩
絲涓港
吳淞舊城
吳淞所
吳淞江口
江灣鎮
江灣巡檢司
桃樹浦
封家浜
馬沙墩
徐有墩
北新嘴
笠頂沙
軍營
南沙
敢草沙

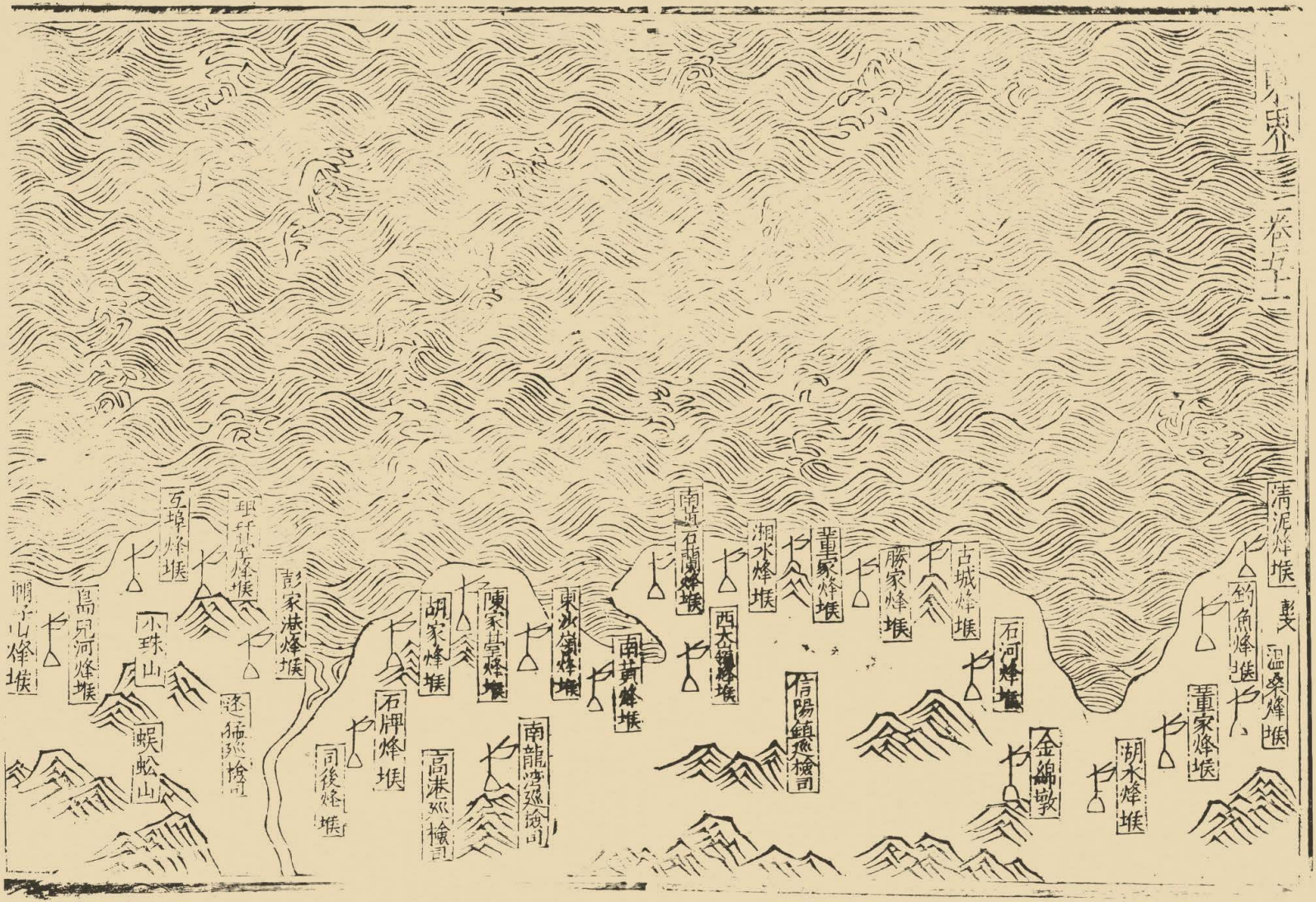

三丫沙
管家沙
前山沙
營前沙
蓼角嘴
東漩河
口河大
港星七
口河監
港灶李
港河黃
口河舊
河漩黃
港柳湯
港新
港天
港灸
狼山
楊子江
高浦嘴
浦嘴
金涇墩
白茆港軍營
唐浦港
海塘
曹浦港
浦尾烽墩
黃溪烽墩
福山港
福山
福山烽墩
福山巡檢司
白茆烽墩
白茆港巡檢司
錢涇烽墩
黃瀆烽墩
陸公市
鹿苑墩
草巡檢司
沙頭鎮
黃涇鎮
市隆
山菊
崇明縣
崇明所
新安沙
陳沙

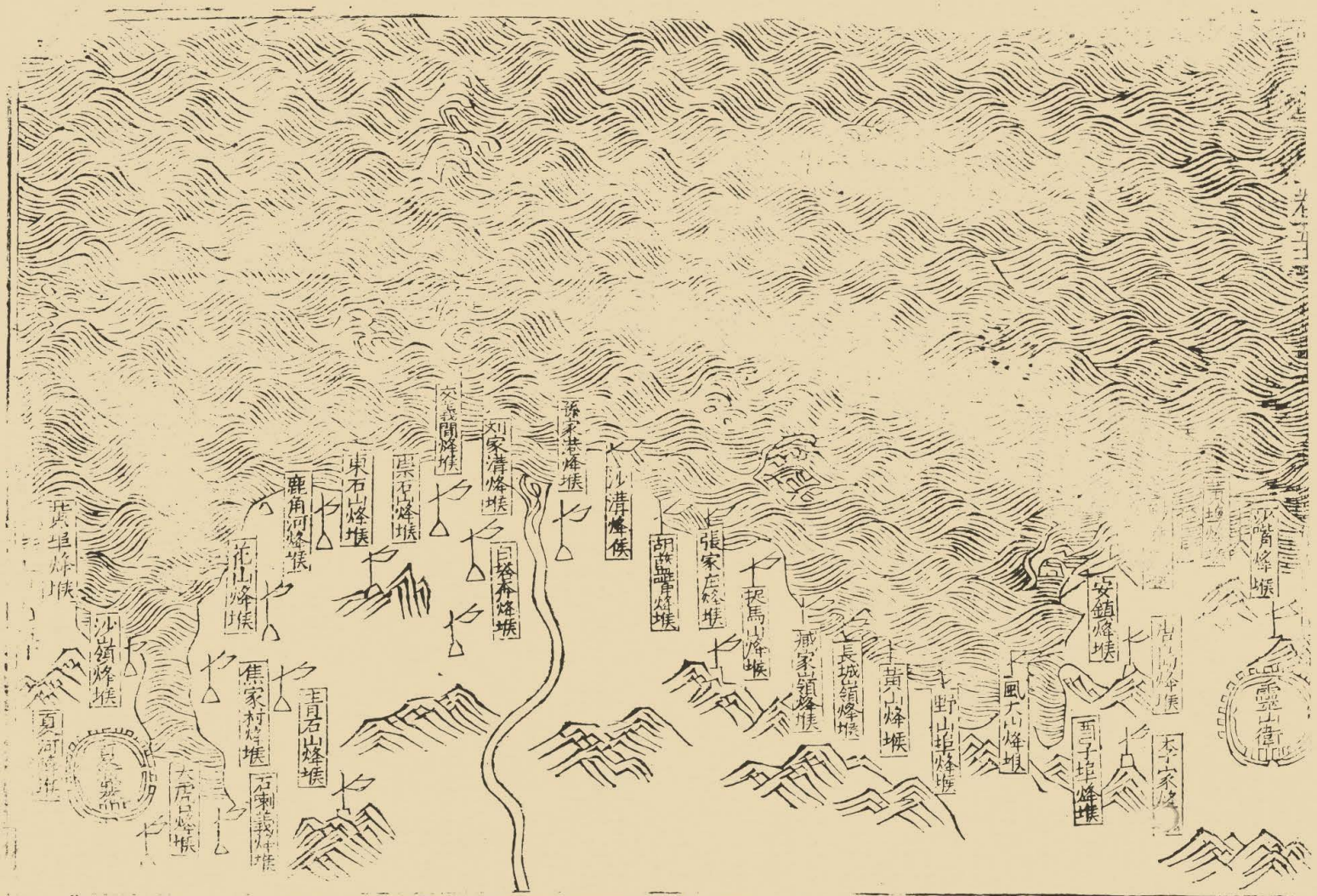

過沙
海門島
三撞口
吳陵巡檢司
大橫口
呂四場
深溝港
非子港
張方港
四港口
大棱港
進鮮港
通州
鹽課
廳倒場
江便場
錄中場
海門縣
錄西場
烽堠一千八座
港水港
蓼綠港
金沙場
四十六
竇仁
烽堠九座
烽堠十座
烽堠捌座
西亭場
石港場
石港巡檢司
馬塘場
通州
泰州
川淮
川魚涇
唐家港
家溪
斜風烽堠座
拼茶場
拼茶烽西座
拼茶烽堠五座
富安堡
富安堡烽堠五座
富安堡烽堠五座
梁垛場
東亭場
安豐場
營泰
豆利場
汊口河
汊河
海安巡檢司

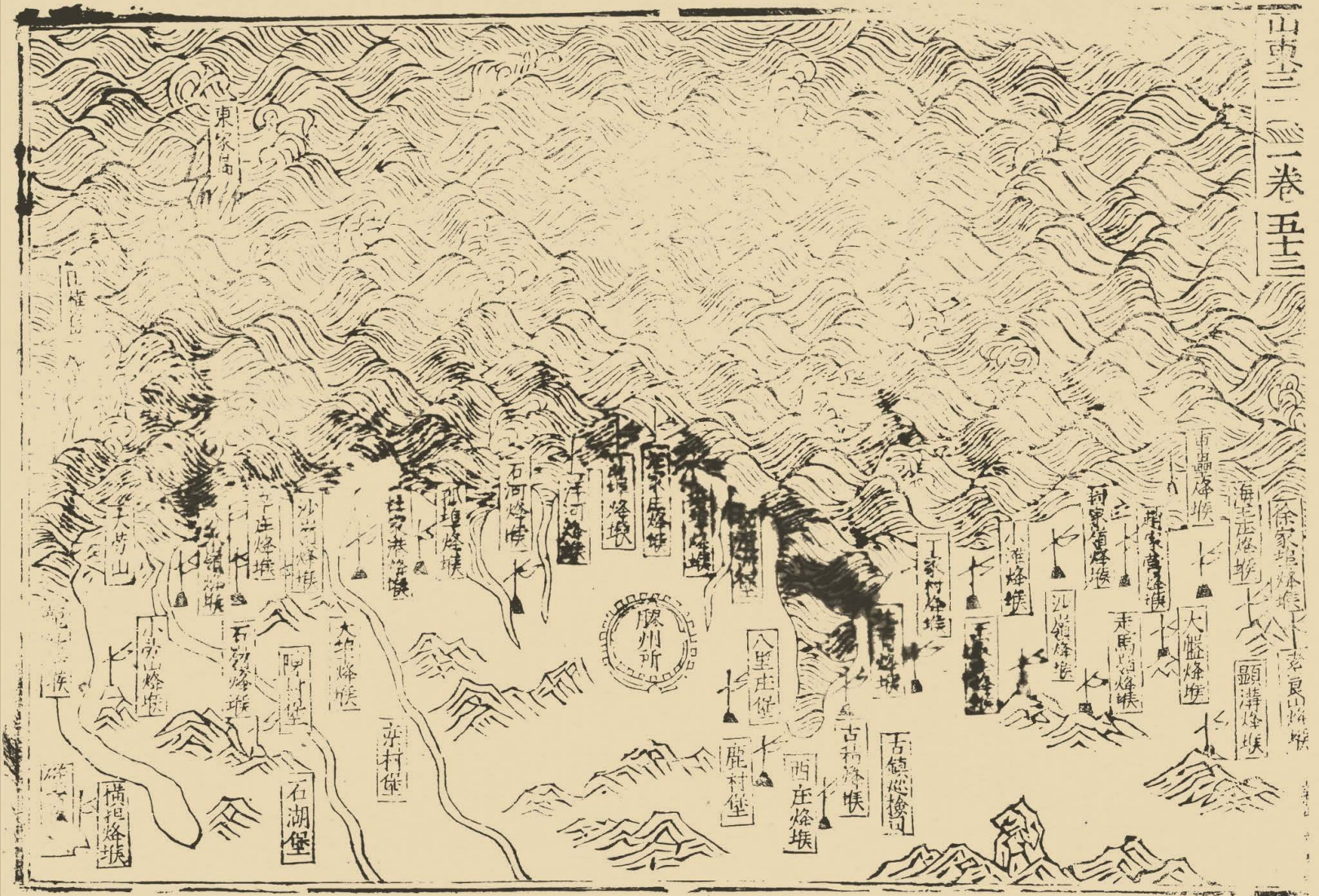

卷四大
亂沙
東那山
財洋湖口
淮河口
雲悌關
東灣口
安南營
范公塲
馬邏巡檢司
南灣塲
南灣巡檢司
前所巡檢司
左寨巡檢司
左寨營
靜上巡司
新洋港
沙港營
淤浩營
北營
南營
新澳
千戶所
鹽城縣
刻耳烽墩
白駒烽墩
刻耳墓
伍佑塲
通景檢司
刻耳塲
千溪塲
河梁塲
章仁


直七
卷四九
鴛山
望夏洋
黃混水
坊山
社坎山
浦山
高公島
竹島山
鴨島
海州島
白島
塩清營
東海總部
東海巡檢
西郎山
龍溝河口
劉村浦
滅家浦
界浦
夏村浦
蓬村浦
秋溝浦
大飛浦
鄭溝浦
小屋山
大屋山
板蒲場
金河
秦山
梁山
徐濱浦
五龍王河
孔望山
海州所
惠澤巡檢司
大伊山
長樂巡檢司
七星河
官河
鼠尾河
里河
塩場河
日場河
北石河
臨洪巡檢
臨洪塩
章仁

九峯島
千里島
黒山
里仕島
過沙
浮山島
欄頭
大河口
大河口烽堠
泊峯烽堠
味蹄溝烽堠
鴉高山烽堠
黒漆子烽堠
張洛烽堠
安東衛
蘭興山烽堠
二又口烽堠
相家烽堠
故家烽堠
孤者山烽堠
北石曰烽堠
石曰寨烽堠
南石曰烽堠
巡檢司
石曰所
照縣山
日照縣
已上河
雲洛烽堠
木彭口河
山橋烽堠
小兒卓烽堠
李家河
青口河
烽火山烽堠
青洛烽堠
虎山烽堠
平山錦山
味蹄溝烽堠
関山烽堠
頓榆縣


清泥烽堰
釣魚烽堰
董家烽堰
湖水烽堰
金綿墩
石河烽堰
古城烽堰
滕家烽堰
董家烽堰
湘水烽堰
西太鎮烽堰
南黃烽堰
信陽鎮巡檢司
南龍灣巡檢司
高港巡檢司
東沙嶺烽堰
陳家墓烽堰
胡家烽堰
石牌烽堰
司後烽堰
彭家港烽堰
逐捕巡檢司
蜈蚣山
小珠山
高兒河烽堰
五墩烽堰
鴨子山烽堰


沙嘴烽堠
安鎮烽堠
黑山衛
李家烽
瑪子垛烽堠
風大山烽堠
野山垛烽堠
黃山烽堠
長城嶺烽堠
臧家山鎮烽堠
張家庄烽堠
胡故堡烽堠
沙溝烽堠
孫家堡烽堠
劉家溝烽堠
交長閻烽堠
白塔布烽堠
東石山烽堠
黑石山烽堠
鹿角河烽堠
花山烽堠
沙嶺烽堠
黃垛烽堠
焦家村烽堠
王貝石山烽堠
石刺芽烽堠
大店口烽堠


東家臺
日權
大山
小山烽堠
橫山烽堠
石湖堡
大山烽堠
卑小堡
石勃烽堠
沙山烽堠
子庄烽堠
孤堆烽堠
杜家林烽堠
石河烽堠
洋河烽堠
許村堡
滕州所
八里庄堡
龍村堡
古鎮巡檢司
古鎮烽堠
西庄烽堠
小淮烽堠
汪家村烽堠
趙家莊烽堠
馬家莊烽堠
汎地烽堠
東馬路烽堠
大艦烽堠
顯濟烽堠
老良山烽堠
徐家堤烽堠
海子庄烽堠
東關烽堠

孤堂山
石老人烽堠
烤桃烽堠
蕭峪烽堠
南菊烽堠
捉馬峴烽堠
高山烽堠
狼家烽堠
半山烽堠
走馬嶺烽堠
羊山烽堠
黃望烽堠
石幻烽堠
皮箔烽堠
石張口堡
大村
明哨烽堠
豆關烽堠
孫疃烽堠
馬山堡
邪城堡
麥島烽堠
鍾皮箔烽堠
鍾家山烽堠
塔山烽堠
塔烽堠
中村堡
中村烽堠
城陽烽堠
孤山烽堠
女疸烽堠
張家烽堠
中城烽堠
鏡顏山
轉頭山堡
浮山所
即墨縣
鰲山衛
楊家山烽堠

山東五
一卷五十五
竹島
赤島
句島
碧島
福山
棘葛島
王家窩堡
王家窩烽堠
板村烽堠
羊山烽堠
金錢山烽堠
雄崖所
青山堡
老尾山
羊山寨
米粟山烽堠
行村寨
王龍山
七子山
大山所
大山烽堠
虎狼峪烽堠
双山堡
白馬島烽堠
陌牛山烽堠
北潮烽堠
高山烽堠
田村烽堠
大山堡
楊家埠烽堠
黃陽烽堠
小山堡
夾島烽堠
妙家頭烽堠
辛安烽堠
青山堡
福山
王石烽堠
大嵩衛
居山
橋兒烽堠
黃山堡
宮村堡
界河堡

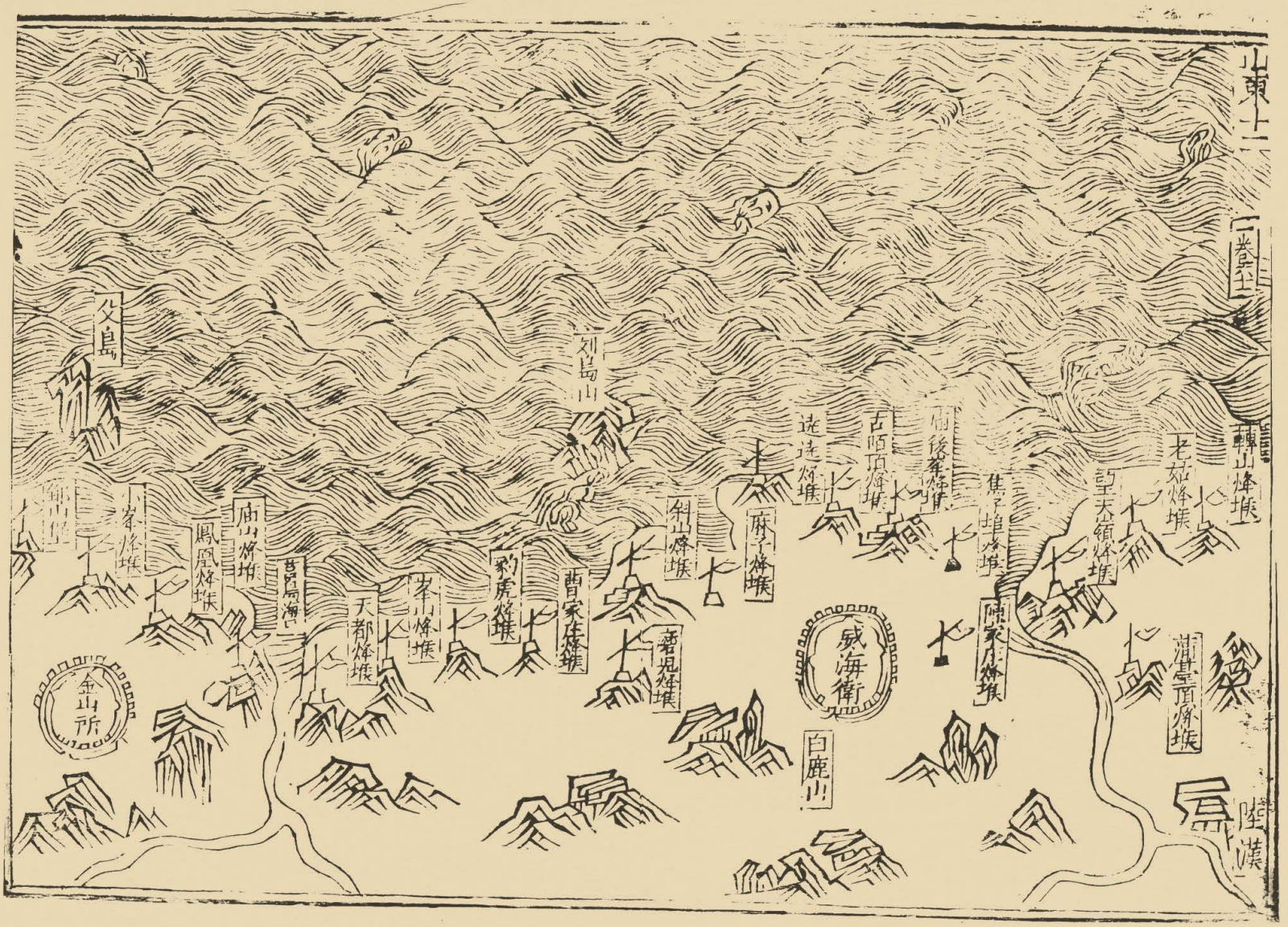
松島
漫島
苔山
海島
帽子山烽堠
驢耳山烽堠
乳山烽堠
李山堡
高家疙瘩堡
渭港堡
仇山堡
海陽所
乳山寨營
明光烽堠
青島嘴烽堠
姚山頭烽堠
李山嵩烽堠
五星島
五星島所
路家馬頭烽堠
浪浪烽堠
大灣口烽堠
城子港烽堠
小龍港烽堠
李家山烽堠
白沙山烽堠
撒雪山烽堠
老母港烽堠
孔家庄堡
湯山堡
黃利河堡
孤山堡
桃村堡
長興堡
海衛
林寺中
白澗山

小島
古山堡上
葫芦山烽堠
狗脚山烽堠
赤山烽堠
田家嶺烽堠
梁烽堠
孤山山堡
孤山烽堠
南浪頂烽堠
小山烽堠
部家烽堠
青坪烽堠
柴家山烽堠
南山烟烽堠
十山堡
斤山
石家山烽堠
柘島烽堠
火洞山
赤山巡檢司
鉄楼山

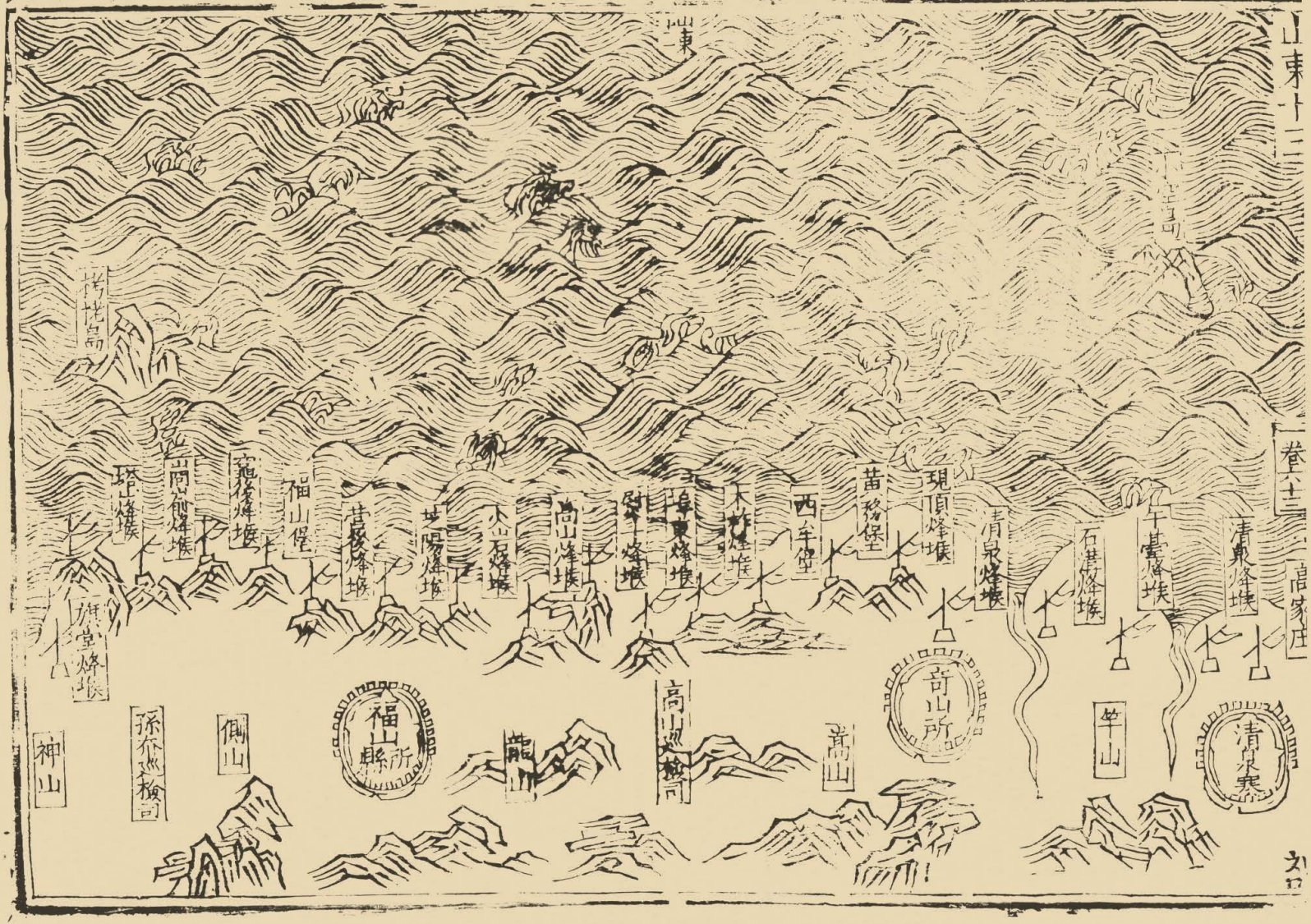
五岛
平島
小劳山烽堠
尋山所
山通嘴烽堠
亏老石烽堠
張家南烽堠
王家島烽堠
向山烽堠
烽堠
烽堠
龍虎山烽堠
大頂山堡
上塊石烽堠
王家浦烽堠
高樓山烽堠
掩浦烽堠
寧津所

山東九
卷五十九
溫泉鎮巡司
陸運
俞旗烽堠
西嘴烽堠
東方烽堠
大水泊烽堠
勝伽烽堠
蒸餅烽堠
青崖堠
成山
西南烽堠
前家埠烽堠
紀子埠烽堠
老走烽堠
可山烽堠
破家嶺堠
王月烽堠

海牛島
仲山烽堠
北留村堡
石碣堡
汤口堡
神前堡
馬山烽堠
成山衛
不夜城
松里烽堠
太一頂烽堠
高碣烽堠
辛汪烽堠
辛汪寨巡檢司
百尺崖烽堠
陸洋


山東十二
卷三
父島
劉島山
轆山烽堠
老姑烽堠
望天頷烽堠
焦子埠烽堠
陳家庄烽堠
古陌頂烽堠
麻子烽堠
斜山烽堠
曹家庄烽堠
豹虎烽堠
蜜堤烽堠
天都烽堠
鳳凰烽堠
金山所
威海衛
白鹿山
湖墨頂烽堠
陸漢

山東十二
卷十二
金山烽堠
宋家烽堠
駝馬烽堠
曲水烽堠
管山烽堠
板橋烽堠
百子現烽堠
格楞觀堡
小崑崙
天崑崙
駱駝馬山
湯西堡
俱孛山
俱孛山烽
杏林烽堠
修福堡
茅山烽堠
辛安堡
蕪荑堡
草埠烽堠
小峯烽堠
馬山烽堠
戚山烽堠
駝子窩烽堠
東昌堠
孔山烽堠
北海衛


山東
卷十三
福山縣
所
高山巡檢司
奇山所
清泉寨
神山
孫家疃巡檢司
側山
龍山
高山
芋山
福山堡
清泉烽堠
芋窩烽堠
石基烽堠
青泉烽堠
現頂烽堠
苗格堡
西羊堡
木格烽堠
東烽堠
高山烽堠
小山石烽堠
芝陽烽堠
營後烽堠
福山堡
龜後烽堠
山岡烽堠
塔山烽堠
旗堂烽堠

山東十四
卷六十四
山東四
沙門島
雙島
劉家寨島
劉家寨
郭家庄烽堠
角烽堠
城陰烽堠
白石烽堠
鴈翅烽堠
鴈窩烽堠
虛里烽堠
解宋烽堠
城後烽堠
楊家店巡檢
鮮宋寨
虛洼寨
劉家洼寨
白林嘴烽堠
酒子店烽堠
綴家庄烽堠
登州府衛
西山
九目山
劉叶

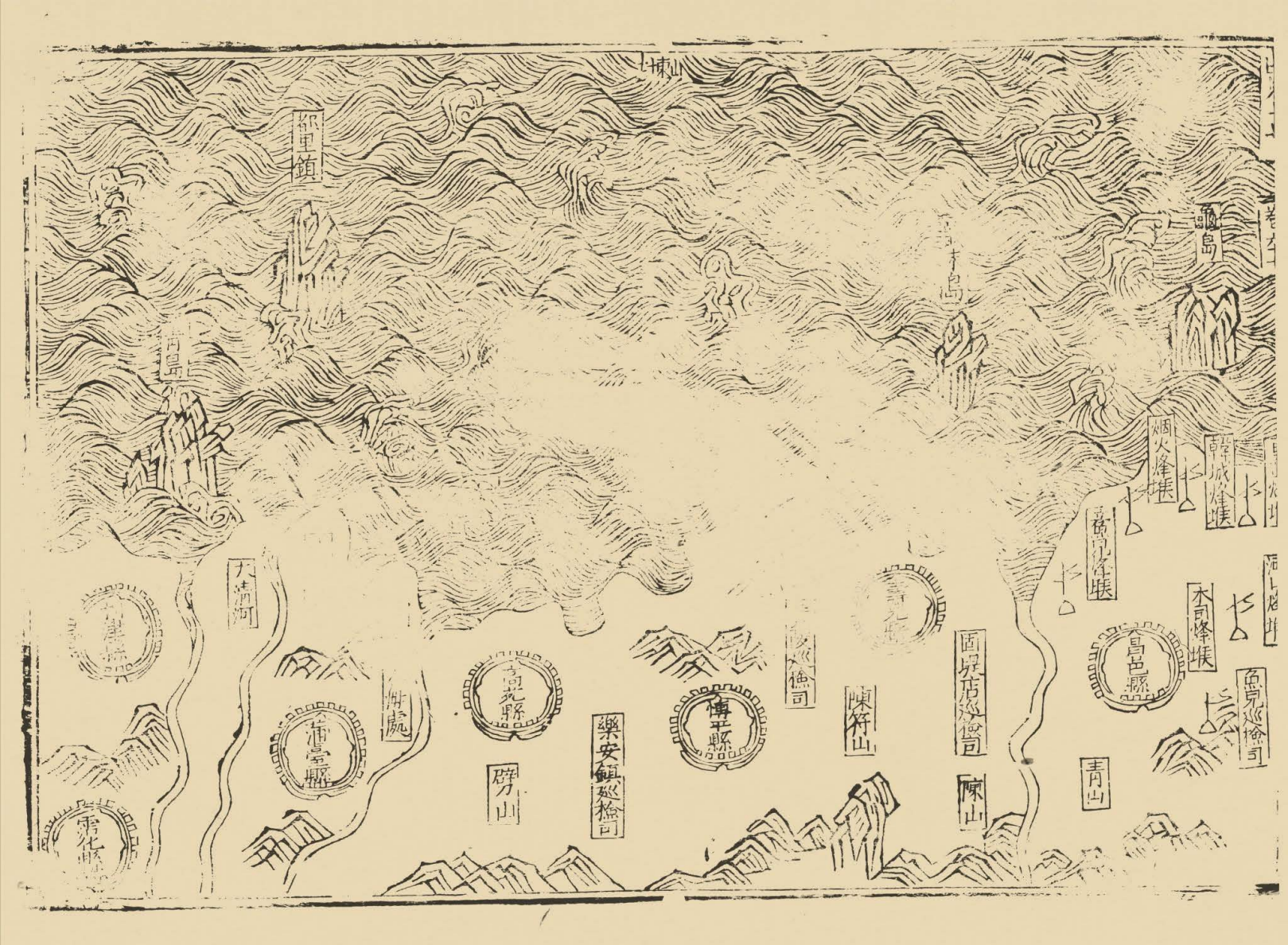
山東十五
卷六十五
大舟山
二島
馬島
桑島
單山
蓬萊縣
黃河寨
蔚陽山
劉叶
牛山
蹲犬山
東北海忽檢司
馬停鎮忽檢司
界河烽堆
東口烽堆
虎口烽堆
磁口烽堆
十字烽堆
高家口烽堆
呂口烽堆
白沙烽堆
楊家庄烽堆
王面庄烽堆
小河口烽堆
城兒頭烽堆
孫家口烽堆
陸家烽堆
酉高烽堆
平家烽堆
子里烽堆
壓頭烽堆
塩場烽堆
高家望烽堆
鈴鐺旺烽堆
界河烽堆
河口烽堆

山東十六
卷之五
東北二
東島
姆指山
萊州洋山
黃河烽堠
鼍山烽堠
三山烽堠
東萊烽堠
孫埠烽堠
馬埠烽堠
海廟烽堠
武家庄烽堠
王官烽堠
小皂烽堠
平葫烽堠
太原烽堠
高烽堠
海鄭烽堠
盤平烽堠
後壯烽堠
福島
三山島
馬埠寨
黃河寨
萊州府衛
柴胡巡檢司
海倉巡檢司
東關烽堠
王山烽堠
優游山
天柱山
馬鞍山
基山

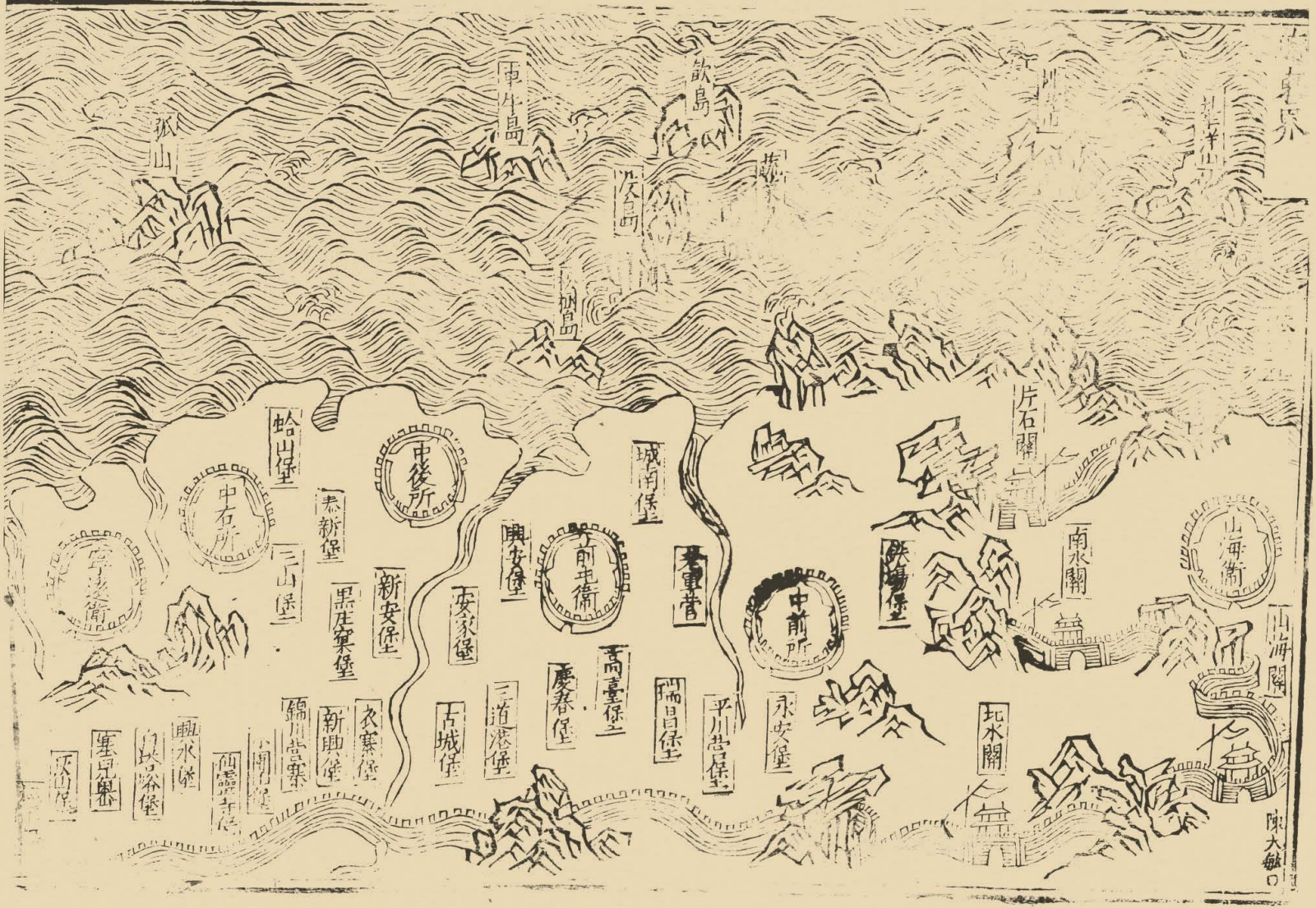
遊宦吾浙也久一切彼已之阨塞形勝虛實了然於公襟帶間故得以擘畫至是耳公一崑山鄭君伯魯從諸生後好言兵事且憤諸邨不得彼已之審而輒以身嘗敵也頗爲手次諸所入寇與其將士所嘗勝負處即劃然曰兵興二十餘年於茲並不得片言隻字以系往事吾屬且散去戰陣之跡當亦尋且零落而他日之舉爇而駛者不循今日已乎於是幣聘君過莫府裒次其事君遂首括諸道之綰海而州與其諸島之錯海而峙者爲圖諸島之或貢或絕或內犯中國所

布政司吏孫子白三百五十餘冊

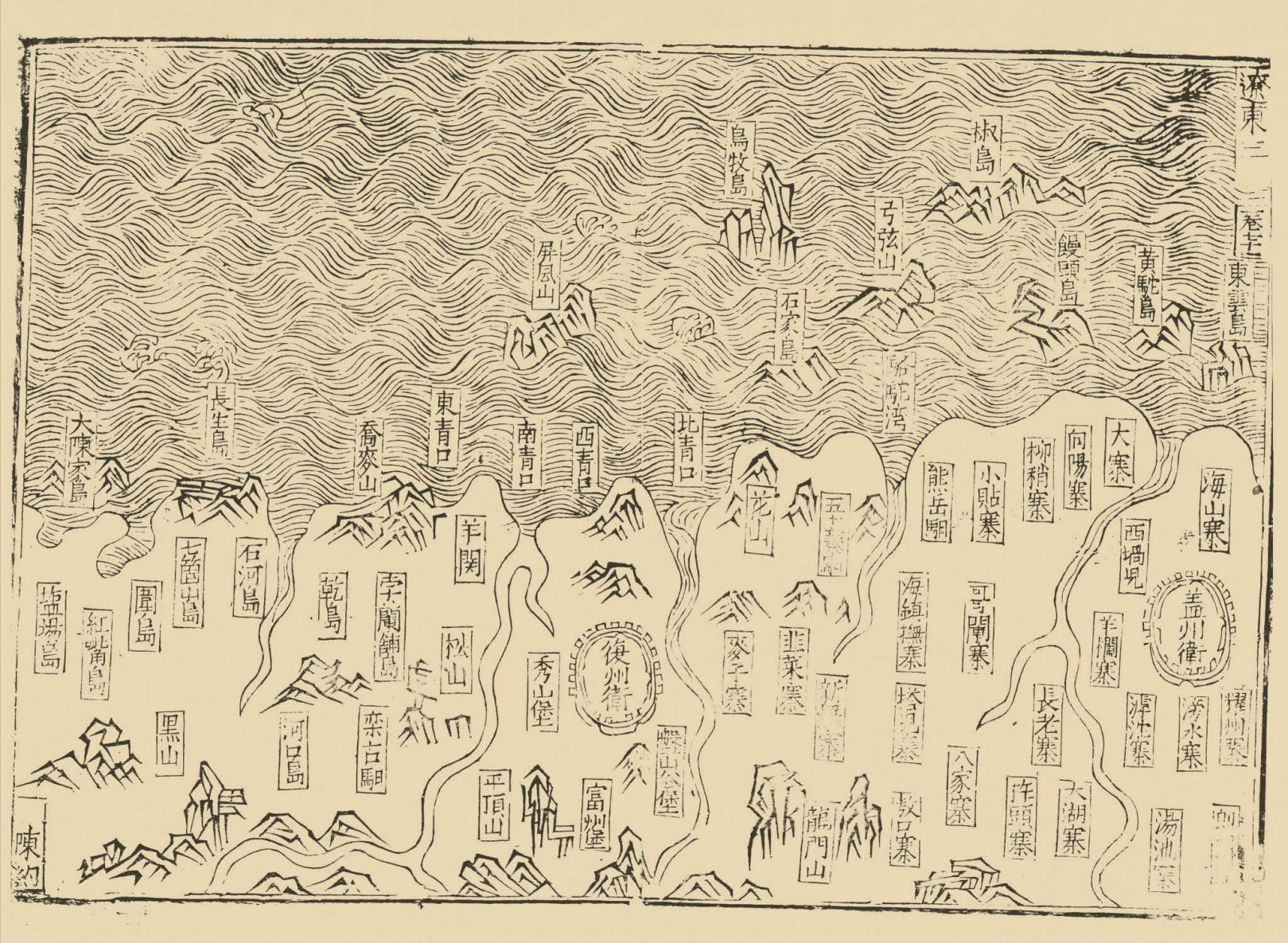
使與彼之部署文字器什戰鬬之習不可以不俱見也於是次之爲事畧然諸道之山川夷險異形其所勒習戰陣異宜也於是分列廣東福建浙江直隸登萊又各自爲圖而系之以兵防事宜分則散散則不可按月日而次且諸夷所入寇與其或離或合吾必沿其情而後可乘諜遣間也於是之爲年表爲寇踪分合譜其所當斬馘數十百以上古人所謂封之京觀以威敵也於是次之大捷考烈士之戰沒與其婦人女子之殉主所謂兵厲也於是次之爲海防禦倭考兵將

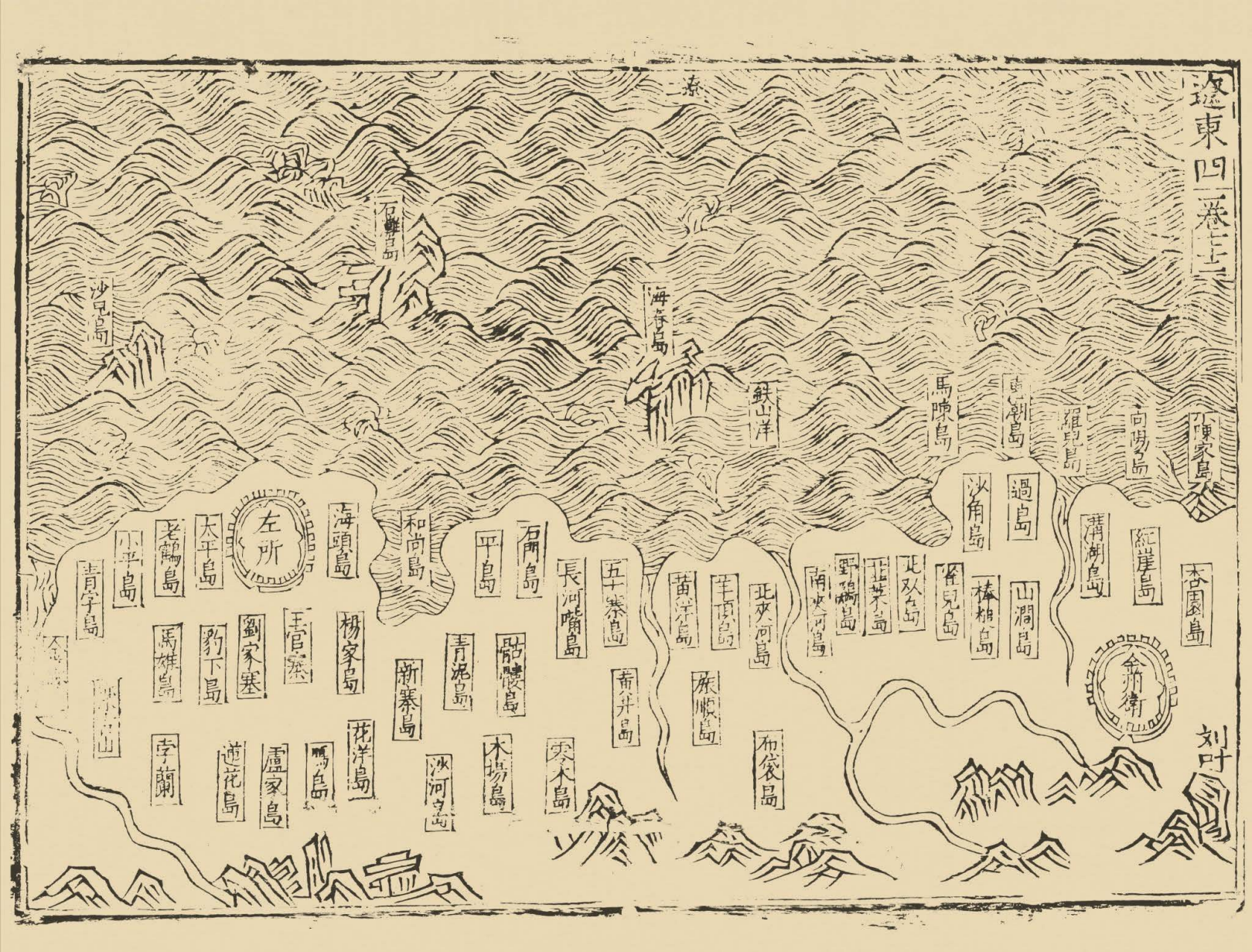

卷十
鄉里鎮
龜島
烟火烽堠
固安店巡檢司
昌邑縣
魚兒巡檢司
木司烽堠
大清河
博平縣
陳符山
陳山
青山
樂安鎮巡檢司
碑山

東北
南北洋界
塔山
大沽口
天津府
樂亭縣
灤河入海處
馬城鎮
新橋海口營
盧龍縣
昌黎縣
牛頭崖營
寶坻縣
武清縣
信陽縣
海口縣
貴州
直隸


東牛島
孤山
欽島
城南堡
中後所
中左所
前屯衛
中前所
南水關
片石關
山海衛
山海關
北水關
陳大敏口

麻胡島
古寺島
得勝島
梁房口
保安堡
遼河渡
廣寧衛
遼河營
三岔關
羅羅寨
背陰寨
鷹房寨
鎮河堡
清河堡
永寧堡
廣積堡
海州衛
江七月堡
東海堡
豐安堡
海潮堡
沙嶺堡
塔山
塔山堡
姑林河堡
粘樹堡
女直堡
常豐堡
右屯衛
黑林堡
女兒河
瑤場百戶
紫荊山
畫眉樓堡
西平堡
秀水堡
中屯衛
駝駝嶺
段林堡
鳳凰山
麻胡島


遼東三
卷七
東寧島
椒島
烏牧島
弓弦山
饅頭島
黃駝島
屏風山
石家島
駝洛
長生島
大陳家島
喬家山
東青口
南青口
西青口
北青口
乾山
大寨
向陽寨
柳稍寨
小貼寨
熊岳關
海山寨
西堝兒
蓋州衛
羊關寨
哥閘寨
海鎮撫寨
長老寨
八家寨
大湖寨
汪頭寨
湯池寨
渾水寨
攏州寨
羊關
石河島
古箇出島
圍島
紅嘴角島
鹽湯島
乾島
雲蘭鋪島
栾古駙
河口島
黑山
松山
秀山堡
復州衛
平頂山
富州堡
龍門山
陳約


遼東四卷之二
石鼻口
沙兒島
海洋島
鐵山洋
馬嘴島
東潮島
向陽島
羅兒島
陳家島
過島
沙角島
清湖島
紅崖島
香園島
山洞島
棒槌島
眷兒島
北砣子島
北菜島
野鴨磯島
南夾河島
北夾河島
苗洋島
羊頭島
麻峪島
五十寨島
長河嘴島
奇井島
石角島
平島
和尚島
海頭島
楊家島
王官寨
劉家寨
豹下島
馬雄島
花洋島
鴨島
盧家島
逍花島
李蘭
新寨島
青泥島
骷髏島
木場島
沙河口島
零木島
布袋島
金州衛
左所
老鶴島
太平島
小平島
青字島
劉叶

自此入朝鮮界
鴨綠江
義州
臨江
鳳凰城
新堡
湯站堡
鎮東堡
花馬寺
千山
望海堡
黃骨島寨
連山
耀州驛
甜水堡
小河山
開河山
紅嶺堡
大沙河島
小沙河島
青山島
廣寧島
入軍河
永寧堡
東沙堡
雲陽堡
撥不剌堡
婆婆
小河堡
鳳凰山
鎮成堡
義州山
毛獐山
建州山
酒馬古堡
斛傷堡

籌海圖編卷之二

明安保新安胡宗憲輯議　孫鑛胡燈重校　崑山鄭若曾訂

王官使倭事畧
魏三條
宋一條
隋一條
唐一條
元一條
國朝七條

使倭針涇圖說

倭奴朝貢事畧
漢三條
魏三條
隋三條
晉七條
唐十六條
後梁一條
宋一條
元三條
國朝二十二條

倭國事畧

揚州府學陳善寫

明徐新安胡宗憲輯議　孫鑛參胡燈重校　鄞山鄭若曾編次

王官使倭事畧

魏正始元年遣使如倭

太守龔遵遣使建中校尉梯儁等奉詔印綬詣倭國拜假倭難升米爵位并齎詔賜金帛錦罽刀鏡等物

六年賜倭臣綬

詔賜難升米黃幢付帶方郡假綬

八年遣使詔諭倭王

太守王頎到官倭女王卑彌呼與狗奴國王卑彌弓呼交兵遣其臣載斯烏越等詣郡說相攻擊狀郡遣塞曹掾史張政等因齎詔書黃幢拜假難升米爲檄告諭之卑彌呼已死宗女臺與嗣政等以檄告之

隋煬帝大業三年遣使倭國

帝遣文林郎裴清渡百濟行至竹島南望聒羅國經都司麻國迴在大海中又東至一支國又至竹斯國

仁和縣考吏葉維賢寫
何應科

又東至秦王國其人同於華夏以爲夷洲疑不能明也又經十餘國達于海岸自竹斯國以來皆附庸于倭倭王遣小德阿輩臺從數百人設儀仗鳴鼓角來迎後十日又遣大禮歌多毗從二百餘騎郊勞既至彼都其王與清相見大悅曰我聞海西有大隋禮義之國故遣朝貢我僻在海隅不聞禮義是以稽留境內不即相見故清來道飾館以待天使與聞大國維新之化清答曰皇帝德並二儀澤流四海以王慕化故遣行人來此宣諭既而清就館其後清遣人謂王曰朝命既達清即戒塗於是厚設享以遣後令使者隨清來貢方物先時其王冠服仍其國俗至是如賜與衣冠乃以綵錦爲冠飾裳皆施襈綴以金王云

唐太宗貞觀五年遣使持節撫倭

倭使入朝帝矜其遠詔有司無拘歲許貢遣斯州刺史高仁表持節撫之浮海數月方至仁表無綏撫之才與其王爭禮不宣朝命而還

元世祖至元三年遣使往諭日本不達而還

以高麗人趙良弼等言日本國可通乃命兵部侍郎黑的給虎符充國信使禮部侍郎殷弘給金符充國信副使持國書使日本書曰大蒙古國皇帝奉書日本王朕惟自古小國之君境土相接尚務講信修睦況

我祖宗受天明命奄有區夏遐方異域畏威懷德莫不悉數朕即位之初以高麗無辜之民久瘁鋒鏑即命罷兵還其疆域及其旋俾高麗君臣感戴來朝義雖君臣歡若父子計王之君臣亦已知之高麗睦之東藩也日本密邇高麗開國以來亦時通中國於朕躬而無一乘之使以通和好尚恐王國知之未審故特遣使持書布告朕志其自今以往通問結好以相親睦且聖人以四海為家不相通好豈一家之理哉以至用兵夫孰所好王其圖之黑的等道由高麗高麗国王王楨以帝命遣樞密院副使宋君斐偕禮部侍郎金賚等導送黑的等往日本仍令護還

至元四年遣使如日本

六月帝謂王楨以麟為鮮令去使徒還復遣黑的等至高麗諭王楨以日本事以必得其要領為期楨以為海道險阻不可辱天使。九月遣起居舍人潘阜等持書往日本留六月亦不得其要領而歸

五年遣使日本

九月命黑的復持書往至對馬島日本人拒而不納執其塔二即還而還

至元六年遣使如日本

六月命高麗金有成送還所執二人俾中書省牒其國亦不報有成留其太幸府守護所者久之○七月命秘書監趙良弼往使書曰蓋聞王者無外高麗與朕既為一家王國實為隣境故常馳信使脩好為疆場之吏抑而弗通所獲二人令有司慰撫俾齎以還遂復寂無所聞繼欲通問屬高麗權臣林衍揣亂坐是弗果豈王亦因此輟不遣使或已遣而中路梗塞皆不可知不然日本素號知禮之國王之君臣寧肯漫為弗思之事乎近已滅林衍復舊王位安集其民特命少中大夫秘書監趙良弼充國信使持書以往如即發使與之偕來親仁善隣國之美事如或猶豫以至用兵夫誰所樂為也王其審圖之良弼將往之定與其王相見之儀廷議與其國上下之分未定無禮數可言帝從之○十二月詔與高麗王楨遣良弼通日本期于必達仍以忽林失王國昌洪茶丘將兵送抵海上候國信使還姑令金州等處屯駐

至元十年遣使如日本

六月趙良弼復使日本至太宰府而還

至元十一年命將征日本

三月命征東行使忻都高麗軍民總管洪茶丘以千料舟扠都魯輕疾舟汲水千舟各三百共九百艘載士

卒一萬五千期以七月征日本冬十月入其國
敗之而官軍不整又矢盡惟擄掠四境而還

至元十二年遣使日本

二月遣禮部侍郎杜世忠兵部侍郎何文著計議官撒都魯丁往使亦不報

至元十七年日本殺使臣杜世忠

二月日本殺使杜世忠等征東元帥忻都洪茶丘請自率兵往討廷議姑少緩之○五月召范文虎議征日本入月詔募征日本十萬

至元十八年再征日本

正月命日本行省右丞相阿剌罕右丞范文虎及忻都洪茶丘等率十萬人征日本二月諸將陛辭帝勅曰始因彼使來故朝廷亦遣使往彼遂留我使不還故使卿等爲此行聞漢人言取人國家欲得百姓土地若盡殺百姓徒得地何用又有一事朕實憂之恐卿輩不知耳假若彼國人至與卿等有所議當同心協謀如出一口答之五月日本行省參議裴國伊等言本省右丞相阿剌罕范右丞李左丞先與忻都洪茶丘入朝時同院官議定領舟師至高麗金州與忻都茶丘軍會然後征日本又爲風水不便再議定

會於伊岐島今其水工盡地圖因見近太宰府西有平戶島者周圍皆水可屯軍船此島非其所防若經徃據此島使人乘船徃伊岐呼忻都茶丘來會進討爲利帝曰此間不悉彼中事宜阿剌罕輩必知今其自處之六月阿剌罕以病不能行命阿塔海代總軍事八月諸將未見敵喪全師以還乃言至日本欲攻太宰府暴風破舟猶欲議戰萬戶厲德彪招討王國佐水手總管陸文正等不聽節制輒逃去本省載余軍至合浦皆遣還鄉里未幾敗卒千閻脫歸官軍六月入海七月至平戶島移五龍山八月一日風破舟五日文虎等諸將各自擇堅好船乘之棄士卒十餘萬於山下衆議推張百戶爲主帥號之曰張總管聽其約束方伐木作舟欲還七日日本人來戰盡死餘二三萬爲虜去九月至公角島盡殺蒙古高麗漢人謂新附軍爲唐人不殺而奴之閻革是也蓋行省官議事不相下故皆棄軍歸久之莫青與吳萬五五亦逃還十萬之衆得還者三人耳

至元二十年遣使征日本不果

命阿塔海爲日本省丞相與徹里帖木兒右丞劉二抜都兒左丞蔓兵造船欲復征日本淮西宣慰使吳吉兒上言民勞乞停兵

大德三年遣僧往說日本

遣僧寧一山者加妙慈弘濟大師附商舶往使日本而日本人竟不臣

國朝

太祖高皇帝洪武二年遣使招夷

遣使臣楊載往日本招來倭夷泛海至梹木崖入其境隘者罪勿納秩以書達其王良懷乃延秩論以中國威德而詔旨有責讓其不臣之語王曰吾國雖夷僻在扶桑未嘗不慕中國之化而通貢奉惟蒙古以戎狄蒞華而以小國視我使趙姓者詐我以好語初不知其規國也既而發水犀數十艘一時雷霆風波漂覆幾無遺類自是不與通者數十年今新天子帝華使亦趙姓得非蒙古使之雲仍乎亦將詐我好語而襲我也命左右將刃之秩不爲動徐曰今聖天子聖神文武明燭入表生華帝華非蒙古比我非蒙古使後爾若悖逆不我信即先殺我則爾之禍不旋踵矣我朝之兵天兵也無不一當百我朝戰艦雖蒙古戈船百不當一況天命所在人孰能違豈以我

朝之孔懷爾者與蒙古之襲爾國者比耶于是王氣沮下延秩禮遇有加

秩使行人楊載齎璽書諭日本國王

倭寇惠潮濱海

上命載往使齎書諭其國王書曰上帝好生惡不仁者向者我中國自趙宋失馭北夷入而據之播胡俗以腥膻中土華風不競凡百有心孰不興憤自辛卯以來中原擾擾被倭來寇山東不遇來胡元之衰耳朕本中國之舊家耶前王之厚興師震旅掃蕩胡沙宵衣旰食垂一十年自去歲以來殄絕北夷以全中國惟四夷未報聞者山東來奏倭兵數寇海邊生靈人妻子損傷物命故修書特報正統之事無論倭兵越海之由詔書到日如臣則奉表來廷不臣則修兵自固永安境土以應天休如必爲寇朕當命舟師揚帆諸島捕絕其徒直抵其國縛其王豈不代天伐不仁者哉惟王圖之

洪武五年遣僧往諭日本

先是天寧寺僧祖闡以高行召至會

朝廷將遣使　詔與瓦剌寺僧無逸俱往祖闡授然請行上壯之賜以緇器禪衣之屬令大官饌享于武樓下且諭其國敕浮屠善導設化時天界寺僧宗泐當賦

詩餞之其詩上獻凡十八韻首言王化無遐邇一視同仁次言宣誘以善道廢絕西來祖意次言經法海波雖甚艱險君臣大義勿忘次言平等法行之無有彼此之異末言使旋方盡終始之義

太祖俯賜和之常開古帝王同仁無遐邇蠻貊盡來賓我今使臣委仲猷通共玄倭夷嘗往至于善導中土人不負而來意爾海道遠方毋得多生事入爲佛弟子出爲我朝使琳重肅泉經勿失君臣義此行非瀚海一去萬里地既辭釋迦門日宿海涘艤舶拂飛飄天風駕萬里平心勿憂驚自然天之使休問海茫茫直是尋根際請彼佛放光倭民大欣喜行止必端方毋失經之理入國有齋時齋畢還施禮是法皆平等語言休彼此盡化頑心了畢還方巳歸來爲拂塵兒終必見始祖開受命而行自翁州啓棹五日至其國境又踰月始入王都館于洛陽西山精舍一遵

聖教敷演正法無非約之以善聽者聳愕以爲中華之澤伯亟白于王請主天龍寺及梵窓國師道場宴名刹也祖開以無

上命力辭之且申布威德罔間內外所以遣使者來之意王悅命僧奉方物稱臣來貢旣歸

上書怡愉賜白金一百兩文綺二縑

遣三寶太監王進奉使日本收買奇貨至寧波選此軍顏通號大漢將軍同往彼夷務御以禮後起別議

輒下漈江龍千港口得支港潛出彼夷婦密引而還

永樂十五年遣使如日本

倭寇沙園所邊將執其酋首送京師詔待以不死遣刑部員外郎李淵等使日本禮書貢以敬

天事大之義次年淵還其國王亦遣刺史奉表稱謝

宣宗章皇帝宣德八年遣使弔喪

倭王源道義卒

上命太監雷春少卿潘錫等出使弔以盡懷柔之意

今上皇帝嘉靖三十四年七月遣使移諭日本

先是海商王直挾倭以要互市不得遂糾島夷入寇而身爲之謂度浙直廣福沿海悉被殘破僉往倭來說無寧歲御史胡宗憲按浙廉知其情與督察侍郎趙文華奏乞遣使宣諭日本國王令其禁戢島夷以

明邊患實欲行間諜以勾致王直而絕禍源也踈入

上命廷臣議之咸稱曰便乃令布政司爲檄致之宣布

朝廷德意募能使者寧波生員蔣洲陳可願請行於是假以市舶提舉服色劄正副使以往檄曰王國自我

天朝待王恩亦不薄上下安和恪承天道各保生民今爾倭劫掠居民念惟一國法令嚴明部民盜一雞一犬者必殺無赦豈有縱民侵劫之理必是欺蔽國王私出爲非故特差正使蔣洲副使陳可願移檄報知王若能守

祖宗之大法思

聖朝之厚恩慎部民之橫行分投遣人嚴加約束不許私出沒海洋侵擾中國使邊境寧靜憲隊不生共享和平之福如此本司即爲王奏聞

天子必有大旌勞之典史冊書美光傳百世豈不快哉否則奸商島民肩構不已黨類益繁盤據海島窺伺竊發恐非王國之利如昔年安南國王陳氏之禍可鑒矣今日移文報知亦非爲中國也王其深體而速行之洲等拜撤以行十一月望日至其國五島地方偶遇宣養子毛海峯在焉洲等以移諭事告之遂引見直洲等諭以

朝廷遣使之意及軍門招徠之心直爲感德然不欲國王之知之也謂洲等曰夷意惟在求互市而已既

朝廷有賜蕩之恩吾當爲若等謀之然天文國君鼻弱不能號令於其國其能禁戢諸部耶須歷島諭之亂可弭也遣毛海峯輩送可願回而留洲在島者數月海峯以報効爲名實伺內地虛實與當道待直之意何

如以爲進止時宗憲已總督軍務洞燭其奸乃故示以寬厚之意准令立功報効而爲之奏請賞賚優渥海峯還報直始姪身而來謂市舶可通而榮賜可致也然猶慮中變仍挾倭數千而來遷延海上者又兩閱月遣方大忠反覆說之又攜貳其黨與始入元寧門於寧波而生致之斬之市曹傳首

京師自此海上少戢矣後御史趙孔昭以洲專命往使不遵其王謂爲直黨惡奏繫詔獄論死巡視軍情即中唐順之謂不赦洲將來者必以使絕域爲諱而阻宣力報効之心復奏釋之

太倉使往日本針路見渡海方程及海道針經

太倉港口開船用单乙針一更船平更者每一晝夜分爲十更以焚香枝數爲度以木片投海中人從船面行驗風迅緩定更多寡可知船至某山洋界

吳淞江用单乙針及乙卯針一更平

寶山到南匯嘴用乙辰針出港口打水六七丈

沙泥地是正路三更見茶山茶山水深十八托至三更與此合

自此用坤申及丁未針行三更船直至大小
山灘山在東北邊
灘山下水深七八托用單丁針及丁午針三更
船至霍山
霍山用單午針至西後門
西後門用巽巳針三更船至茅山
茅山用辰巳針取廟州門船從門下行過取升
羅嶼廟州門水深急流
升羅嶼用丁未針經嵜頭山出雙嶼港升羅嶼俱可
泊船嵜頭水深九托
雙嶼港用丙午針三更船至孝順洋及亂礁洋
雙嶼港口水流急孝順洋水深十二托泥地

亂礁洋水深八九托取九山以行九山西邊有礁打水行船宜仔細一云亂礁洋水深六托泥地
九山用單卯針二十七更過洋至日本港口打水七八托泥地南邊泊船
又有從烏沙門開洋七日即到日本
若陳錢山至日本用艮針
福建使往日本針路
梅花東外山開船用單辰針乙辰針或用辰巽針十更船取小琉球
小琉球套北過船見鷄籠嶼及梅花甌彭嘉山彭嘉山北邊過船遇正南風用乙卯針或用單卯針或用單乙針西南風用單卯針東南風用

乙卯針十更船取釣魚嶼

釣魚嶼北邊過十更船南風用單卯針東南風用單卯針或用乙卯針四更船至黃麻嶼

黃麻嶼北邊過船便是赤嶼五更船南風用甲卯針東南風用單卯針西南風用單甲針或用單乙針十更船至赤坎嶼

赤坎嶼北邊過船南風用單卯及甲寅針西南風用艮寅針東南風用甲卯針十五更船至古米山

古米山北邊過船有礁宜知畏避南風用單卯針及甲寅針五更船至馬岛山

馬岛山南風用甲卯或甲寅針五更船至大琉球

大琉球那覇港泊船土官把守港口船至此用單卯及甲寅針行二更進那覇內港以入琉球國中

那覇港外開船用單子針四更船取離倚嶼外過船南風用單癸針三更船取熱壁山以行

熱壁山南風用單癸針四更船取硫黃山

硫黃山南風用丑癸針五更船取田嘉山又南風用丑癸三更半船取麥加剌山南風用單癸針及丑癸針三更船取大羅山

大羅山用單癸針二更半船取萬者通七島山西邊過船

萬者通七島山用單寅針五更船取野礪七山

島內各叫兵之妙是麻山嶼野礁山用巽寅針二更半船但尔山用艮寅針四更船取亞甫山一云野礁山對面行六十里有小礁四五箇最宜艮避在北邊過船用艮寅方行一百五十里至旦午山用艮寅方行二百四十里至亞甫山

亞甫山平港口其水望東流甚急離此山用艮寅針十更船取亞慈理美妙若不見此山用單艮針二更船又艮寅針五更船取沿灣奴一云沿渡奴烏雀眉山沿渡奴烏雀眉山用單癸針三更船若船開時用單子針一更船至而是麻山而是麻山南邊有流礁名套礁一云名佐泥長礁東比邊過船用單丑針一更船是正路却用單子針四更船取大門山中

一名武陵維賢寫
浙安黃鉞刊

大門山傍西邊門過船用單丑針三更船取兵粮山港

兵粮港循本港直入自本國都

曾按已上針路乃歷代以來及本朝國初中國使臣入番之故道也頻年倭寇之入往往取間道以至便利特甚于已稍從入寇圖中指書然不欲條書之者恐傳者或貽奸孽以倖釁也有志于經世者須以意會之而得予之所以不詳書焉斯善矣

倭奴朝貢事畧

漢武帝建武中入貢

帝賜朝鮮使驛始通使者自稱大夫

光武中光六年入貢

奉珍朝賀賜以印綬

安帝永初元年入貢

來獻生口百六十人願相見

魏景初二年朝獻

公孫淵誅後卑彌呼遣其大夫難升米牛利等帶方郡求詣天子朝獻太守劉夏遣使吏將送至京師叩帝詔賜卑彌呼爲親魏王假金印紫綬以難升米爲率善中郎將牛利爲率善校尉假銀印青綬

正始四年入貢

卑彌呼遣大夫伊聲掖邪狗等八人獻方物詔拜掖邪狗等率善中郎將各假印綬

八年入貢

卑彌呼死宗女臺與立率善中郎將掖邪狗來獻生口白珠雜錦物

晉泰始初年入貢

臺與遣使朝獻臺與死其國復立男王

安帝時通表

倭王贊通表江左

文帝元嘉二年入貢

讚遣司馬曹達奉表獻方物讚死子珍立遣使入貢自稱使持節都督倭百濟新羅任那秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭國王表求除正詔除安東將軍倭國王珍又求除正倭隋等十三人平西征虜冠軍輔國將軍等號詔並聽之

二十年入貢

倭王濟遣使奉獻復以爲安東將軍倭國王

二十八年加封王復入貢

加使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東將軍如故并除所上二十三人職濟死子興遣使貢

順帝昇明二年入貢

倭國王武遣使上表言自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧處東征毛人五十五國西服衆夷六十六國陵平海北九十五國王道融泰廓土遐畿累葉朝宗不愆于歲道經百濟裝飾船舫而句麗無道圖欲見吞臣亡考濟亡兄興並欲大舉問罪不幸奄喪父兄使垂成之功不獲一簣今欲練兵甲父兄之志窮自假開府儀同三司其餘咸各假綏以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓慕韓六國諸軍事安東大將軍倭王

文帝開皇二年入貢

倭王多利思比孤遣使詣闕上令所使訪其風俗使者言倭王以天爲兄以日爲弟天明時出聽政跏趺坐日出便停理務云委我弟文帝曰此大無義理訓令改之

煬帝大業二年遣使入貢

多利思比孤復遣使朝貢使者云聞海西菩薩天子重興佛法故遣朝拜兼有沙門數十人來學乾道國書曰日出處天子致書日沒處天子無恙云云煬帝覽之不悅謂鴻臚卿曰蠻夷書有無禮者勿復以聞

大業三年入貢

報使也

唐太祖貞觀五年入貢

倭使入闕帝矜其遠詔有司無拘歲許貢仍遣高文表往撫之使者不宣朝命而回○詳見出使事畧

永徽初年貢寶物

遣使獻琥珀大如斗瑪瑙若五升器時斯羅爲高麗百濟所暴高宗賜璽書令出兵援斯羅

永徽二年夷使偕蝦蛦入貢

倭使偕蝦蛦人偕朝蝦蛦亦居海島中其髮漬長四尺許垂前于首令人讎虮立數十步射無不中

咸亨元年入貢

遣使賀平高麗後稍習夏音惡倭名更號日本使者自言國近日所出以爲名○或云日本乃小國爲倭所併故冒其號使者不以情故疑焉又妄誇其國都方數千里南西盡海東北限大山其外卽毛人云

長安元年入貢

時遣眞人粟田貢方物○彼國眞人猶唐尚書冠進德冠頂有華蟠四披紫袍帛帶粟田好學屬文進止有方且求書籍武后宴之麟德殿授同膳卿

開元初年入貢

仍遣粟田復朝請從諸儒授經詔四門助教趙玄默卽鴻臚寺爲師獻大幅布爲贄悉賞物貨書以歸其副朝臣仲滿慕華不肯去易姓名曰朝衡歷佐補闕儀友文多所該載久乃還

開元四年入貢

彼國寶龜二年遣僧正玄昉入朝貢物

開元二十四年入貢

遣二僧靈仙行賀入唐禮五臺山學佛法

元和元年入貢

夷遣騰元邕野與空海大師及延歷寺僧澄入唐詣天台山傳教

會昌元年入貢

遣僧貢物入唐禮五臺佛法

光啓元年入貢

遣僧宗睿貢物入唐傳教

大曆十二年入貢

遣使表貢方物

天寶十二年朝貢

時朝衡復入朝貢物上元中擢左散騎常侍安南都護求內外經教及傳戒新羅梗海道更由明越州朝貢

建中元年入貢

夷遣使貢人與能獻方物貢人蓋因官而氏者
與能善書其紙似蠻而滑之莫曉何物所造

貞元末年遣使入朝

其王栢武遣使入朝其學子橘免勢屠空海願留肆
業歷二十年使者高階貞人來請免勢等俱還詔可

貞元四年入貢

遣文明
使貢物

後梁龍德中入貢

遣僧寬建
入貢方物

宋雍熙元年入貢

夷遣僧使大周然與其徒五六人浮海而至獻銅器
十餘事本國職員及年代紀各一卷大周然衣緑
自云姓藤源父爲貞連。貞連官名其國五品職也
。大周然善隸書不通華言問其風俗但書以對云
國中有五經書及佛法白居易集十七卷並得自中
國交易用銅錢文曰乾文大寶銀以貢賦國王自古
傳襲王今六十四世文武僚吏皆世官其皇系詳見
年代紀上聞之嘆息謂宰相曰此島夷耳乃祚遐久

其臣亦繼襲不絕此蓋古道也中國自唐季之亂郡
縣分裂梁周五代享歷尤促大臣世胄鮮能嗣續朕
雖得繼往聖嘗夙夜寅畏講求治本不敢暇逸建無
窮之業垂可久之範亦以爲子孫之計使大臣之後
世襲祿位此朕之心焉又云其國多中國典籍大周
然來復得孝經一卷即鄭氏註越王孝經新義第十
五一卷即唐太宗子越王貞新義者記室參軍仜希
古等譔也皆金縷紅羅標水晶爲軸復求詣五臺許
之令所過給食又求印
本大藏經詔亦許之

端拱元年夷僧奉表交趾貢方物。

大周然遣弟子喜奉表來謝曰日本國東大寺大朝
法濟大師賜紫沙門大周然誓願隣入梦不忘漢主
之恩枯骨令歸祖元冠氏之誠雖云羊僧之拙寧忘
鴻濡之恩司然誠惶誠恐頓首頓首死罪大周然附
商舡之雁岸期冠冕生涯望落日而西行十萬里
之波濤風雲不變信風三度到數千里之山岳易過夷
以下根之耳遵詔旨罪之盛於是宣吉頓降恣許莅
外之民歸心克協歷觀宇內之瑣奇況乎金闕曉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

郊爰特明春初到舊邑緇素忻待侯伯慕迎伏惟莊
下惠溢四濱恩高五嶽世超黃軒之古人直金輪之
新大周然空辭鳳凰之窟更還蝼蟻之封在彼在斯
只想皇德之盛越山越海敢忘帝念之深縱分百年
之身何報一日之會染筆拭淚伸紙摧魂不勝慕恩
之至謹差上足弟子傳燈大法師位嘉因并大朝剏
頭受戒僧祚乾等拜表以聞稱其本國永延二年歲
次戊子二月八日又別啓供佛經納青木函琥珀青
紅白水晶紅黑木槵子念珠各一連並納螺鈿花形
平函毛籠一納螺坏二口葛籠一納法螺二口染皮
二十枚金銀蒔繪苔一合納髮髮二頭又一合納三
議正四位上藤佐理手書二卷及進奉物數一卷表
狀一卷又金銀蒔繪硯一苔一合納金硯一鹿毛筆
松煙墨金薤水滴鐵刀又金銀蒔繪扇苔一合納檜
扇二十枚蝙蝠扇二枚螺鈿柾函一對其一納赤木
柾二百七十其一納龍骨一撮螺鈿書案一螺鈿書
几一金銀蒔繪平苔一納白細布五疋鹿皮籠一納
貂裘一領螺鈿鞍轡一副錦蟇鐙紅緉鍬泥璋倭畫
弁風一雙石硫黃七百觔

咸平五年來貢

建州海商周世昌遭風飄至日本凡七年得還與其
國人滕木吉至上皆召見之世昌以其國人唱和詩
百八十首獻

來上詞甚鄙刻膚淺無所取詢其風俗云婦人皆被
髮一衣用二三縑又陳所記州名年號上合滕木吉
以所持木弓矢挽射矢不能遠詰其故
國人不習戰鬬賜木吉時裝錢遣還

景德元年入貢

遣僧寂照等入朝寂照不曉華言而識文字繕
寫甚妙凡問答並以筆札詔號員通大師賜紫方袍

天聖四年入貢却之

十二月明州言日本國太宰遣人貢方物而不持本
國表詔却之其後亦未通朝貢南賈時有傳其物貨至中
國者

熙寧五年夷僧獻方物

僧誠尋至台州止天台國清寺願留州以聞詔使赴
闕誠尋獻銀香爐木槵子白琉璃五香水晶紫檀琥
珀所飾念珠及青色織物綾神宗以其遠人而有戒
業處之開寶寺盡賜同來僧紫方袍是後連貢方物
而來者
皆僧也

元豐元年入貢

使通事僧仲回來賜號慕化懷德大師明州又言得其國太宰府牒因使人孫忠還遣仲回等貢絹二百疋水銀五千兩以孫忠及海商而貢禮與諸國異請自移牒報而答其物直付仲回東歸從之

乾道九年入貢

始附明州綱首以方物入貢倭舡火兒滕太明歐鄒作死詔械太明付其綱首歸治以其國之法

淳熙二年入貢

元至元八年遣使入朝

九月高麗王植遣其通事別將徐稱導送趙良弼使日本始遣彌四郎入朝帝宴勞遣之

至元九年遣使來朝却之

二月樞密院臣言奉使日本趙良弼遣書狀官張鐸來言去歲九月與日本國彌四郎等至太宰府西守護所守者云曩爲高麗所詒曩吉上國來伐豈期皇帝好生惡殺先遣行人下示璽書然王京去此尚遠願先遣人從使回報良弼遣鐸回其使二十六人至京師求見帝疑其國主使之來云守護所者許也詔翰林承旨和禮霍孫以問姚樞許衡等皆對曰誠如聖筭彼恐我加兵故發此輩伺吾强弱耳宜示之寬

仁且不宜聽其入見從之是月高麗王植致書日本五月又以書往令必通好大朝皆不報

至元十四年遣使易錢

日本遣商人持方物來易錢許之

大明洪武二年入貢

太祖高皇帝混一寰宇薄海之外莫不臣僕惟日本未至乃遣使臣趙秋往諭之。詳見使倭事畧。其王良懷乃遣僧祖來進表箋貢馬及方物并僧九人來朝詔賜祖來等文綺及僧衣比辭遣僧祖闍克勤等八人護送還國時良懷大統曆及文綺紗羅

洪武十二年入貢

夷舡一隻稱貢緣無表文却之

來人分發雲南川陝三邊安插

洪武十三年入貢

遣僧貢馬及茶布刀扇之類亦無表文

以其私貢不納來人仍發三邊安插

洪武十四年入貢

十月國王良懷遣僧如瑤貢馬十匹及方物通有前來人舡花名乃命行取赴京宴賞歸國○會典記十二年貢者作七年十四年貢者作發三邊安插與南京禮部案不同必誌者之誤耳○通志作却其貢

洪武十五年入貢

使歸廷用入貢方物厚賞回還明州備倭指揮林賢在京隨駕時交通胡惟庸潜遣宣使陳得中密與設計令得歸廷用誣爲倭寇分用賞賜中書省奏其罪流賢日本

洪武十六年詔絕日本之貢

賢流三年逆臣胡惟庸暗遣人充宣使私往日本取回就借精練兵四百與倫如瑤來獻巨燭中藏火藥兵具意在圖亂

上大怒礙賢于市乃降詔責其君臣絕其貢祖訓云以日本隔海僻在一隅得其地不足以供給得其民不足以使今故不興兵致伐著爲訓章絕其往來

永樂二年入貢

上命太監鄭和統督樓舡水軍十萬招諭海外諸番日本首先納款擒獻犯邊倭賊二十餘人卽命治以彼國之法盡蒸殺之今銅鈸猶存爐竈遺趾在蓋頭堰降勅褒奬給賜合百道定以十年一貢舡止二隻人止

二百違例則以寇論制限進貢方物　馬　鎧　硫黄　鉛　銅　蘇木　塗金裝綵屏風　劍　牛皮　錦匹　金扇　貼金扇　漆金木銚角盥刀　漉金文臺　漉金屈手箱　描金粉匣　描金筆匣　水晶數珠　抹金提銚　瑪瑙

宣德元年入貢

入貢人舡踰數刀劍過多特諭來使今後貢舡不過三隻使人毋過三百刀劍毋過三千不許違禁

宣德七年入貢

來使不知禮法甚擾于民禁之

宣德十年入貢

幷奉表謝恩以八年遣使帰喪也

正統七年入貢

時貢舡九隻使人千餘分發境清天寧各寺安歇

朝廷難責其越例以遠人慕化亦寛容之八年六月使回迷失使頭普福二人在樂清沙嶼縣坊長孔希名獲解把總遣回普福在途悲感有詩云來遊上國看

中原細雨青苔冷泉慈母在堂年八十孤兒爲客路三千心懷北闕浮雲外身在西山返照邊處處失門花落巷不知何日是歸年

天順二年入貢

至

京師賞賚豐渥倍載而歸

成化二年僞貢

時鄭旨揮張翥洞燭其僞貢之奸而去

成化十一年入貢

諸使詣京沿途騷擾朝廷爲禁約之

成化二十年入貢

六月使臣周璋入貢

勑諭彼王知會自後宜恪遵宣德中事例也

弘治八年入貢

五月差使臣蔣賞入貢方物赴京沿途生事至濟寧强買貨物彼此殺傷罪及解官府照磨童釗指揮魏政

提舉王昭俱降調通事林春克軍次年使歸

司府失於檢點致鄭人朱縞填欠貨物而去

正德四年入貢

五月正使宋素卿副使源永春貢方物請祀孔子儀註朝議孔子中國聖人不當爲夷狄褻瀆不許素卿者即鄭人朱縞其家竊下夷商湯四五郎越境亡去至是克使入貢重賂逆瑾嗾復其事蓋縞在倭國僞稱宗室苗裔傾險取寵輒廢奪嫡爭功要到而夷夏之釁逐釀于茲

正德八年入貢

五月夷舡三隻使僧挌

梧貢方物越歲而去

嘉靖二年入貢

四月夷舡三隻譯傳西海道大內誼興國遣使宗設謙道入貢越數日夷舡二隻使人百餘復稱南海道細川高國遣使瑞佐宋素卿入貢導至寧波江下時市舶太監賴恩私素卿重賄之宗設之上貢舡後至先與盛怒途致兩夷讐殺毒流鄞市宗設之黨追逐素卿直抵紹興城下不及而還至寧波脅寧波衛指揮宋進奪府印越關而遁時備倭都指揮劉錦追戰沒于海定海衛掌印指揮李震與知縣鄭餘慶

同心濟變一日數警而城以無患賊有漂入朝鮮者
國王李懌擒獲中林望古多羅械羅京發浙江按察
司與素卿監禁候
肯法司勘處者凡數十次而夷囚竟死于獄倭奴自此懼
罪遁誅不敢款
關者十餘歲

嘉靖十七年入貢

五月夷舡三隻使僧古鼎副使僧周良持方物表貢
且求還前遣物法司以事已經亂貨應入官且無從
索之良等乃不敢言
朝廷復申十年一貢之例責令送還正德以前勘合更給
新者遵
照入貢

嘉靖二十三年入貢

是年六月夷舡一隻使僧仆壽光等一百
五十八人俯貢驗無表箋且以非期却之

嘉靖二十六年入貢

四月使臣周良人舡踰例且非貢期
朝議欲却之以其遠來効順且貢期止隔一年乃發外海
泉山停泊至明
年而後納之

日本卽古倭奴國也去中土甚遠隔大海依山島爲國邑隋書記在百濟新羅東南其地形類琵琶地勢東高西下東西數千里南北數百里九州居西爲首肥前肥後豐前豐後筑前筑後日向大隅薩摩陸奥居東爲尾至山城旱程七十五日舊云陸奥爲頭薩摩大隅爲尾者非山城居中乃彼國之都也其國君以王爲姓以尊爲號後改稱皇初居日向筑紫宮後徙山城國文武僚吏皆世其官有德仁義禮智信大小十二等及軍尼伊尼翼諸名山城以東地方廣邈雖倭奴遠服貢者不能閱歷而知況華人乎故其島之數可考按舊圖山城以東中爲近江伊賀尾張三河美濃飛弾信濃上野陸奥北邊海爲但馬丹後若佐加賀越前越中越後出羽甲斐常陸南邊海爲攝摩攝津太和河内遠江駿河伊豆相摩武藏下野東北懸海則爲佐渡在南懸海則爲志摩七島上

總下總安房

而其間廣狹至到有不能考者今姑攄魯之所聞者而述之山城之南爲和泉其南海畿泊舟者爲阿賣介撒儿爲歪打阿波爲于撒儿爲天王者爲沙界水灾其地方小沙界之東南爲紀伊東爲三河出海之口爲濱大海其島爲康大爲科什麽爲奴智紀伊之西爲伊勢北爲三河其畿爲山城之西爲丹渡左爲攝津其畿爲腰大爲阿乃奴子

記其北爲隱岐懸備後之西爲安藝其界爲翁家搭三海三百五十里知爲崔撒子爲谷也爲他加歪喇其南爲宮島懸海三十里出雲之西爲石見出銀其界爲南高番馬爲番馬搭爲哥爲撮奴市爲有奴子北至海三十里安藝石見之西爲山口國卽古之周防州也橫直二百四十里其南邊海之界爲翁家搭三島海面三山口之西爲長門橫直皆二百五十里爲東大爲陀奴迷爲哈迷奴失記爲奴羅市米其北邊海之界爲斯段爲賣撻哈扣爲夜市爲高奴爲賴北至三島海面三山口之西爲長門橫直皆二百五十里其南邊海之界爲翁家搭三島懸海三百五十里闊渡在焉失記抽分司設於此渡此而西爲豐前橫五百里直四百里其界爲可苦喇馬賴介薇次爲大義地爲野慢茄爲阿世夜爲暮治爲一其南爲豐後橫直皆六百里其界爲福乃爲倭几賣奴法賣爲鎖孤舟爲由奴烏喇爲撒一基爲烏四基又其南爲日向橫直皆三百六十里其界爲多拔奴浦治豐前之西北爲筑前橫六百五十里直四百里其界爲右勢爲加蓍里爲加打也馬爲多賣里爲一萬字爲奴打爲世加爲經字里爲多罷爲密那多爲法哈噠西南卽博多之別名也其北離伊岐島海面五百里

爲筑後橫直皆二百五十里筑後之南爲大隅其南濱海之界爲人訛傳爲懸海懸海乃大漁州也大隅之西爲薩摩隅與日向薩摩等連壤名爲九州橫直皆三百六十里其界爲暗孛喇爲起麻子記爲羊理南爲康國什麼爲罷里爲拖馬里爲強剌馬里爲鸚哥里爲年市米爲仙臺爲審孛署豐後東南懸海爲土佐爲伊豫爲阿波阿波相近懸海爲炎路土佐豐後之間爲佐加關土佐至佐加關海面一百八十里筑後之南爲大隅其界爲什麼烏思迷今之隅與日向薩摩等連壤名爲九州大隅之西爲薩摩橫直皆三百六十里其界爲暗孛喇爲起麻子記爲羊理南爲康國什麼爲罷里爲拖馬里爲強剌馬里爲鸚哥里爲年市米爲仙臺爲審孛署豐後東南懸海爲土佐爲伊豫爲阿波阿波相近懸海爲炎路土佐豐後之間爲佐加關土佐至佐加關海面一百八十里薩摩之北爲肥後橫直皆佐加關至豐後海面七十里薩摩之北爲肥後橫直皆五百里其界爲牙子世六爲阿麻國撒爲昏爲一國撒介島喇爲開懷世利爲哇加什爲什哇加又其北爲肥前橫直皆五百里其界爲織來爲言奴氣子爲法司奴一計爲客舍其內沿河泊船交易之處爲倭磨喇爲知十歪爲法一溪爲夜間迷爲坐迷子爲迷坐骨知爲一掃拂爲愛奴乎喇爲世子爲迷古里爲失撒爲確哥呼爲雄婆哥爲松本一名馬于喇爲法麻撒兒肥前肥前西懸海爲平戶東西海面十里西北至傳多平戶之西爲五島五山相錯懸海而海面四百五十里生其中有界可泊乃日本西境之盡處也過此西行越五六日四望無山直抵陳錢壁下此島與薩摩相去一千五百里與肥前

相去四百二十四里東平戶相去二千五十里五島至山口必由平戶經過其島爲乃路爲倭齊家爲衣屋奴家爲通記爲達奴島爲嘆北爲多藝爲伊岐至對馬島海面五百爲對馬島[illegible]其南舉爲哥爲卄大哈東南里[illegible]爲加[illegible]西北爲堆沙兒爲山谷爲[illegible]思乃爲倭奴[illegible]西北至高麗也必由對馬島開洋各島之人[illegible]沙兒撒思乃山谷三舉開洋至高麗之[illegible]多順風一日約五百里南至琉球也必由薩摩[illegible]洋順風七日其貢使之來必由博多開洋歷五[illegible]入中國因造舟水手俱在博多故也貢舶回則經薩摩長門因抽分司官在焉故也若其入寇則隨風所之東北風猛則由薩摩或由五島至大小琉球而視風之變遷北多則犯廣東東多則犯福建彭湖島[illegible]鯨或之泉州等處或之梅花所長[illegible]縣等處若正東風猛則必由五島歷天堂官渡水而視風之變遷東北多則至烏沙門分艘或

過韭山海門而犯溫州或由舟山之南而犯定海經大猫洋入金塘犯象山牽化由東西屬入石浦關犯台州入桃渚海門松門諸港正東風多則至李西墓壁下陳錢分艘或由洋山之北而犯青南過馬蹟潭而西北或過南沙而入大江過茶山入瞭角嘴涉谷塘浪福山而犯瓜儀常鎮若在大洋而風緩東南也則犯淮揚犯登萊過步州洋亂沙入鹽城口揚州海邊而北則犯登萊若在五島開洋而南風方猛則趨遼陽趨天津大抵倭船之來恒在清明之後前乎此風候不常屆期方有東北風多日而不變也過五月風自南來後不利於行矣重陽後風亦有東北者過十月風自西北

來亦非倭所利矣故防春者以三四五月爲大汛九十月爲小汛其停撓之處焚刼之權若倭得而主之而其帆檣所向一視乎風實有天意存乎其間倭不得而主之也向之入寇者薩摩肥後長門三州之人居多其次則大隅筑前筑後博多日向攝摩津州紀伊種島而豐前豐後和泉之人亦間有之乃因商于薩摩而附行者也日本之民有貧有富如攝摩伊勢若佐博多其人以商爲業其地方街巷風景宛如中華富者各數千家有積貲至百萬者又有淑有慝如如和泉一州富者八萬戶皆居積貨殖薩摩之鬻奴里方數千里其邑長安慶能納民于軌物無一人爲盜又如宮島人不嗜殺人有不平事但請神廟罰錢又如紀伊之頭陀僧三千八百房專習武藝殺人而不犯中國富而淑者或登貢船而來或登商船而來凡在冠舶皆貧與爲惡者也山城君號令不行徒寄空名於上非若我中國禮樂征伐自

天子出大一統之治也山口豐後出雲開三軍門如中國總督府之義各以大權相吞噬今惟豐後尚存亦不過兼幷肥前等六島而已肥前肥後筑前筑後豐前豐後山口出雲以貪滅亡山口原幷國十二日石見長門安藝備前備後備中出雲伯岐丹後因幡但馬後出雲奪歸其地山口長子死焉其君亦爲陶賊所殺豐後君以其弟攝山口事吞安藝安藝殺之嘉靖三十六年山口無君豐後獨稱雄焉山城君金印勘合久爲山口所有所來入貢俱山口自主山城惟出名而已陶賊之亂宮賊勘合俱焚金印亦損一角不知所歸貢自此絕矣欲望彼國之約束諸夷斷斷乎不能也

畿內部

州五

山城

太河

河內

和泉
攝津

右共統五十三郡

畿外郡

道七

東海道 十四州 伊賀 志摩 伊勢 尾張
三河 遠江 駿河 伊豆
甲斐 相摸 武藏 安房
上總 常陸

右共統一百一十六郡

西海道 九州 筑前 筑後 豐前 豐後
肥前 肥後 日向 大隅
薩摩

右共統九十三郡

南海道 六州 紀伊 炎路 阿波
伊豫 土佐

右共統四十八郡

北陸道 七州 若狹 越前 越中
加賀 能登 佐渡 越後

右共統三十郡

東山道 八州 近江 美濃 飛騨 信濃
上野 下野 陸奥 出羽

右共統一百一十二郡

山陽道 八州 攝摩 美作 備前 備中
備後 安藝 周防 長門

右共統六十九郡

山陰道 八州 丹波 丹後 但馬 因幡
伯耆 出雲 石見 隱岐

右共統五十二郡

海曲部

島三

伊岐

對馬
多藝
右各統二郡
驛
九四百一十四
戶
可七萬餘
課
約八十八萬三千三百二十九
寄語島名
山城羊馬失羅　筑前職骨前　太和野馬多
筑後噛骨骨　河內茄懷知　豐前孛前

和泉因字米　豐後蓬哥　攝津子琴因你
肥前非前　伊賀衣加　肥後非谷
伊勢衣舍　日向兄加　志摩
大隅阿思米　尾張倭阿里　薩摩撒子馬
三河迷茄懷　遠江　紀伊乞奴苦藝
灸路山奴計　駿河　阿波挨懷齊
伊豆因慈　譖者　甲斐靴怡苦藝
伊豫伊右　相摩　土佐拖撒
武藏木撒暑　山口即周防羊禹窟諸　安房阿究
美作迷馬撒家　備前避然　上總茄迷倭撒
下總什麽倭撒　備中避書　常陸
備後避卧　若佐壞加柵　安藝阿計

越前 日智前　攝摩 法里馬　越中 日晝
長門 奴茄多　越後 日清谷　丹渡 舟白
加賀 坑茄　丹後 舟哥　能登 奴衆
但馬 噠什麽　佐渡 沙渡　因幡 奚奴白
近江 多島米　伯耆 花計　美濃 米奴
出雲 因字木　飛彈 非大智　石見
信濃 申阿農　隱岐 和計　上野 康子計
伊岐 尤計　女島　下野 什麽子計
陸奥 話妝　多藝　出羽 迷外
宮島 迷挨什麽　五島 我島一　男島 賀什麽
小島 科什麽　對馬島 則什麽　連島 卒賴甚麽
種島 他尼什麽　博多 花哈嗒　竹島 他計什麽

平戶　佐加關　三島 密什麽

寄語雜類

天文類

天 天帝　日 虛露　月 禿計
星 什泥　風 有朱加前　雲
雨 挨迷　霧 吉利　雪 計伏六攸計
霜 名末群滿　落雨 挨迷什魯

時令類

早 來遲梭梭發耀　夜 揺落　午 非路
晚 揺撒田午　明 挨介水　暗 骨辣水
冷 三字水　煖 挨掇水　今日 詐以呼鷄聲 介喬
明日 挨迷亞失日　後日 亞撒里　昨日 傑奴

前日阿多堆　日暮非波路路令日來个阿耶伽
明日來挨戊打俚　後日來挨殺核阿耶俚

地理類

地大樣禿智　山羊賣耶賣　水明東
海烏彌　沙何吉大水　石依水在木古
火非　鄉羊埋俚　江打各計

方向類

東熏加　南迷南來　西義西
北尤兀俚　前日皆門利婆　後吾失利

珍寶類

金空措泥　銀失祿措泥　珠他賣
錢前後　黃銅中若佐　紅銅鶯更措尼

水銀明東措尼　好銅錢姚禮喜泥

人物類

皇帝大利天王家官大米烏野鷄百姓別姑常里
公翁知　大官大大烏野婆鷄蒲翁妃
父阿爺　母發發　兄挨尼
嫂阿尼尤尼　弟阿多多　妹亞尼多一淡多
姊亞尼　孀完多　子莫宿哥
姪何義　女莫宿哥　孫阿奚胡來
丈人子多　丈母子多謬　叔何治王官老前
丈夫壽山　婦人倭家倒　老禿古要个
男子何奈公姑　後生倭家達　孩歪鼻
親眷新雷　姐夫不哥迷　朋友

女婿 米哥　僕三三字郎　小廝 歪皆水
和尚 才老烏索　老實人 埋骨多　艱難人 胡奈故人門厥人
强盜 六宿鼻隨　瞎子 眉骨頼　獨眼人 密皎閉鴻
你撫哥了梭里　誰人 搭梭　我何埋俚阿奴利
徒弟 加食難　財主妻 斗島賣　生得好 眉眉月失
外甥 萌哥　長子 難解水　媳婦 嫌妙報　眉眉姚永
長吊　年少 華蓋　主人 床杲朵
生得醜 魯歪失　聰明力哥　貴他介水
賤 那孟羊臊　富烏多哥　貧腮東回
乞丐 寬需計　好淫 梭羅　年紀 一故都
麻子 莫入骨水　村 孫　拐科水并計
賊 陸宿人

要 坡水水　不要 依也　立 達子
等待 埋祖　眠 羊達路烏將卒　拿來 末低吉反俚末得哥已
拿去 末底於古　相擾 括計括盆　亂說 思量骨多莫語介反俚
看 覓見迷路　不送 何埋解邵賣　嬉 挨核蒲
坐 移路阿將梭　病 羊埋依子　揖
罵 寬彼計乃俚話鶯褪皮　鼾 因彼計　詈 烏論羊埋水烏蠻爺計
瞞 密路　去 漫陀羅猶俚回多　在 何故伊虜何耶路
不在 論速持寒　來 何耶俚吉人　便來 羊俚地何爺俚慢陀的如
回來 慢慢的耶俚　便去 密路　快來 發下何耶俚法古
送與我面皮　愛惜 揺落扛滿　怕 倭跡路路
出去 一一計　前行 殺鷄倭　行 挨龍門

喜步 一啜水吮羅打 說話未納恕打 怠慢難利骨多罵
飲那慕 獨樂哥賣 羞愧番助山水水
契何賣利 安排蘇路 不來未旦盧賈矢
走法古 快去法古計 打人生亜達達个
借脢路各夾 買賣烏禮加 不喫了禁哥
唱嘔天 莫怪哥面乃禮多喫酒何賢鼻日
教何水尤路 喫酒麻黒殺鷄那里去陀姑移姑
添所有路路 行路的益磨滅曉得个个俚打夫
賣烏路無六 叫人多奴 老實說話買多盜
痛一輒水 起身倭達的援多多喫了前行哥
遊西孫步 還了諸也數 不曉得描賴路不
殺其奴暗咀郎 請人家那擺多慢慢的買得買得

害夭 不賣烏魯賣加 恁麼賣難烏禮在
肚饑勲大路水 哭乃古 多少一故賴介
打胡子 有情亜姊吉乃 無情亜姊吉乃乃
醉邀帶 換告賀 無工夫一孫擺水
惟發賴旦多堅固 死身大 腫剌大
嗅加右 笑歪罷 活吉打
買加利 輸理計打利 傷寒鷄骨
寫字加計
身體類
耳骨骨 口骨上 鼻發柔
眉賣 手鉄 足挨身
心个个路 頭客成賴 鬚薰計

髮 胛夾迷　肚發賴　指尤皮

乐辛賭　齒法

器用類

小刀曆過乃空客　中刀歪計柴需　大刀濶中撻打泰打乃

刀柄脫介俚　甲大買路　弓油米

盒子剛白哥　紙揩袂加迷　硯孫助俚拿力子

砂石揩路依水　筆粉地　墨辣煤

薄紙沃蠻子　扇黃旗　鑽哥利素

厚紙沃速水　舡浮泥　針快利法利

鑰匙垃其　鏤難皮　磨刀石依水

泥銅扇法古黃旗　蓆花鷄　泥金扇空揩泥黃

等子發介俚　小箱法哥　硯箱孫助利法哥

酒盞曬加藤計　鋸拿剛繫利　碟曬賴沙賴

銀硃失祿挨揩水　鏡垃皆彌　枕麻骨賴埋骨賴

麝香射哥　滌鳥論水　蓆不奴

木香木哥　傘隔落隔曬　盤何水鷄

沉香沉哥　筋法水　碗倭吉貼灣

酒罌哭笋昆皮　梯課水飛計　香宣哥

衣服類

衣服乞麻俚　靴骨都　鞋水托里失其里

箬帽搖婆俚　錦歪帶　氈衫迷奴

手巾達昂个　綿布木綿　夏布奴奴綿

被伏思麻

飲食類

茶解素　酒曬篼　白酒明東曬篼

燒酒腦辣曬篼　老酒福祿晒　飯密黍

飲酒晒加乃　鹽失河收河　喫飯密黍阿羅

醬爛沙　米科眉科眉　油挨蒲賴

大麥烏蒙崎　小麥柯蒙崎　穀暮米倭米

羨水路　豈磨米　肉恕恕

笋乾大吉糯古　醬瓜可羅米糯

花木類

杉松計　檜去邪鷄　松埋止

梅子面婆水　芥慈辣水　菜素

瓜烏埋　麻莫入骨水　茄子乃沈皮

鳥獸類

牛胡水　狗意奴　猪豕豕

鷄抓泥掇地泥踩　鵝解加　馬烏烏馬

魚遊河　蟹揩泥　蝨失辣水

羊羊其

鼠哦助米

數目類

一丢多子丢微咀　一箇个利　二扶達子丢咀多多

三密子倭咀多　四學子揑揑倣五意子子雜雜多

六後子　七乃乃子　八茲子

九个个乃子　十多　十一多多丢達二十

五十大　百法古　千借一貫

萬慢亦

通用類

有指路迷路　無乃　好高高的船

極好明哥多　不好山無乃　大加小思姑奈何計

小蔡蘭　少素古乃水　多快都河河水

遠多俟　近的个　廋乎十大

短迷加　細相快大　抔骨蘇路

厚按幸水　薄溫幸水　歪貨不高歪賴水

破羊鈸里里　不是松田乃係要緊馬多合子

緩慢大慢大　無用該計　多有何何水

未慢大　香干牌水　臭骨蘇水

倭船

日本造船與中國異必用大木取方相思合縫不使鐵釘惟聚鐵汁不使麻筋桐油惟以草塞鏝滿而已名爲水草

費功甚多費材甚大非大力量未易造也凡寇中國者皆其島貧人向來所傳倭國造舡千百隻皆虛誑耳其大者容三百人中者一二百人小者四五十人或七八十人其形卑隘遇巨艦難於仰攻苦於犂沉故廣福舡皆其所畏而廣舡旁陡如垣尤其所畏者也其底平不能破浪其布帆懸於桅之正中不似中國之偏桅樣常活不似中國之定惟使順風若遇無風逆風皆倒桅盪櫓不能轉戧故倭舡過洋非月餘不可今若易然者乃福建沿海奸民貿舟於外海點造重底渡之而來其舡底尖能破浪不畏橫風逆風行使便易數日即至也

凡倭舡之來每人帶水四百斤約八百碗每日用水六碗極其愛惜常防匱乏也水味不同海水鹹不可食

有接路迷路　無乃　好高高的姚鎖處
極好明哥多　不好由無乃　大加小思姑奈何
小發蘭　少素右乃水　計
遠多俟　多快都河洞水
短迷加　近的个　度乎十大
厚挨幸水　細相快大　拷骨蘭路
破羊鈸里里　薄溫幸水　歪貨不高歪賴木
緩慢大慢大　不是松田乃係　要緊馬多合子
未慢大　無用該計　多有何何木
香干脾水　臭骨蘭水

倭船

日本造船與中國異必用大木取方相思合縫不使鐵釘惟聯鐵釘不使麻筋桐油惟以草塞鏝滿而已名爲水草

費功甚多費材甚大非大力量未易造也凡寇中國者皆其島貧人向來所傳倭國造舡千百隻皆虛誑耳其大者容三百人中者一二百人小者四五十人或七八十人其形卑隘遇巨艦難於仰攻苦於犖沉故廣福舡皆其所畏而廣舡旁陡如垣尤其所畏者也其底平不能破浪其布帆懸於桅之正中不似中國之偏桅機常活不似中國之定惟使順風若遇無風逆風皆倒桅盪櫓不能轉戧故倭舡過洋非月餘不可今若易然者乃福建沿海奸民買舟於外海貼造重底渡之而來其舡底尖能破浪不畏橫風闖風行使便易數日即至也

凡倭舡之來每人帶水四百斤約八百碗每日用水六碗極其愛惜常防匱乏也水味不同海水鹹不可食食

即令人泄於彼國洋中必與五島取水將近中國過下八口陳錢之類必停船換水所以欲換者冬寒稍可耐久若五六月蓄之桶中二三日即壞雖甚清洌不能過數日也海洋浩渺風濤叵測程不可計遇山石汲亦其勢耳即近岸洋浴海水山水皆可用或云浴海水令人膚裂更訪之不然但黑肌膚而已倭奴有一秘法煮泉一二沸置之缸缶能令宿而不壞然亦不過半月久則不能也其至普陀必登者非換水亦非直欲焚香乃覘兵防虛實耳

倭好　昔賈誼上三表五餌之策知倭國之所好餌在足而悟所以制之之術矣故志之

絲　所以爲織紝紵之用也蓋彼國自有成式花樣朝會宴享必自織而後用之中國紝紵但充裏衣而已若蕃舶不通則無絲可織每百斤直銀五六十兩取去者其價十倍

綵綿　髡首裸裎不能耐寒冬月非此不煖

布　即爲常服無綿花故也

綿紬　染彼國花樣作紬正衣服之用

錦繡　優人劇戲用之衣服不用

紅線　編之以緻盛甲以束腰腹以爲刀帶書帶書帶之用常因匱乏每百斤價銀七十兩

水銀　鍍銅器之用其價十倍中國常因匱乏每百斤賣銀三百兩

針　女工之用若不通蕃舶而止

針通　貢道每一針價銀七分

鉄鍊　懸茶盞之用倭俗客至飲酒之後設茶啜已即以茶盞懸之不許着物蓋以茶爲重故也

鐵鍋　彼國雖自有而不大大者至爲難得每一鍋價銀一兩

磁器　擇花樣而用之香爐以小竹節爲尚碗碟以菊花稜爲尚碗亦以奏花稜爲尚制若非鮮雖官窯亦不寿也

古文錢　倭不自鑄但用中國古錢而已每一千文價銀四兩若福建私新錢每千價銀一兩二錢雖官窯亦不

用末藥開
元二種

古名畫最喜小者蓋其書房情絮懸此
以爲清雅然非落款圖書不用

古名字書房粘壁之用
廳堂不用也

古書五經則重書禮而忽易詩春秋四書則重論語學
庸而惡孟子重佛經無道經若古醫書每見必買
重醫
故也

藥材諸味俱有惟無川芎常價一百斤價銀六十七兩
此其至難至貴者也其次則甘草每百斤二十金
以爲
常

氈毯

馬背氈王家用青
官府用紅

粉女人搽
面之用

小食籃用竹絲所造而漆飾者然惟古之取若
新造則雖精巧不喜也小盒子也亦然

漆器文具古盒硯箱三者其最尚也
盒子惟用菊花棱圓者不用

醋

曾按日本所貢倭扇描金盒子類皆異物也其所悅
於中國者皆用物也是彼有資於我而我無資於彼
忠順則禮之悖逆則拒之不易之道也若徇其求而
愆期許貢無端互市斷斷乎不可

廷術倭奴之勝我兵專以術也即以其術還治
其人不必用古兵法蔑不勝矣故志之

倭夷慣爲蝴蝶陣臨陣以揮扇爲號一人揮扇衆皆舞
刀而起向空揮霍我兵蒼皇仰首則從下砍來

又爲長蛇陣前糧百脚旗以次魚貫而行最強爲鋒最
強爲殿中者勇快相參

賊每日鷄鳴起蜷地會食食畢夷酋據高坐衆皆聽令
挾冊展視今日扒某處某爲長某爲隊隊不過三十人

舞隊相去一二里吹海螺爲號相聞即合救援亦有二三人一隊者舞刀橫行人望之股慄遠避延頸授首薄暮即返各獻其所刼財物毋敢匿夷酋較其多寡而黜縮之每擄婦女夜必酒色酣嬉刼掠將終縱之以焚煙焰燭天人方畏其酷烈而賊則抽去矣愚詒我民勿使邀擊自爲全脫專用此術

賊至民間遇酒饌先令我民嘗之然後飲食恐設毒也行衢陌間不入委巷恐設伏也又不敢沿城而行恐城上拋磚石也

其行必單列而長緩步而整故占數十里莫能近馳數十日不爲勞

布陣必四分五裂故能圍

對營必先遣一二人跳躍而蹲伏故能空竭吾之矢石火砲

衝陣必伺人先動動而後突入故乘勝長驅戰酣必四面伏起突透陣後故令我軍驚潰

每用怪術若結羊驅婦之類當先以駭觀故吾目眩而彼械乘惯雙刀上誰而下及掠故難格

鈀鎗不露竿突忽而擲故不測

弓長矢巨近人則發之故射命中

欲跡者其進取也張揚者其逃遁也故常橫破舟以示遁而突出金山之圍造竹梯以示攻而旋有勝山之去

將野逸則逼城

欲陸走則取艑

或偽窜以詐坑
或結稻稈以絆奔
或種竹簽以刺逸
常以玉帛金銀婦女爲餌故能誘引吾軍之進陷而擒
罷吾軍之邀追
俘虜必開塘而結舌莫辨其非倭故歸路絶
恩施附巢之居民故虛實洞知
賞豐降擄之工匠故器械易具
細作用吾人故盤詰難
向導用吾人故進退熟
預藉富室姓名而次第取之故多獲
宿食必破壁而處乘高而瞭故襲取無機

間常一被重圍矣餌以僞醜而逸之或披簑頂笠沮溺於田畝或雲巾紵履蕩遊於都市故使我軍士或愚而投賊或疑而發良
江海之戰本非其所長亦能聯虛舟張弱篠以空發吾之先鋒捐婦女遺金帛以弭退吾之後逐
凡舟之裙墻左右悉裹布帛被褥而濕之以拒焚擊交鬬間或附蓬而飛越即雷震而風靡矣
寇擄我民引路取水早暮出入按籍呼名每處爲簿一扇登寫姓名分班點閱真倭甚少不過數十人爲前鋒寇還島皆云做客回矣凡被我兵擒殺者隱而不宣其鄰不知僉然稱賀
倭刀 刀有高下枝有工拙倭之富者不惜重價而制之頭延高師而學之其貧者所操不過下等刀矣進

者在前倭將所帶刀也中國人不知望之輒震而避焉擒獲夷刀亦莫肯高下混給兵士故志之

大小長短不同立名亦異每人有一長刀謂之佩刀其刀上又插一小刀以便雜用又一刺刀長尺者謂之解手刀長尺餘者謂之急援亦刺刀之類此三者乃隨身必用者也

其大而長柄者乃擺導所用可以殺人謂之先導其以皮條綴刀鞘佩之於肩或執之於手乃隨後所用謂之大刺

又有小裁紙設機刀出長門號兼常者最嘉

又有作贄禮賀禮不拘大小名雖爲刀其實無用

上等

上庫刀 出城國盛時盡取日本各島名匠封鎖庫中不限歲月竭其工巧謂之上庫刀其間號寧久者

更加世代相傳以此爲上

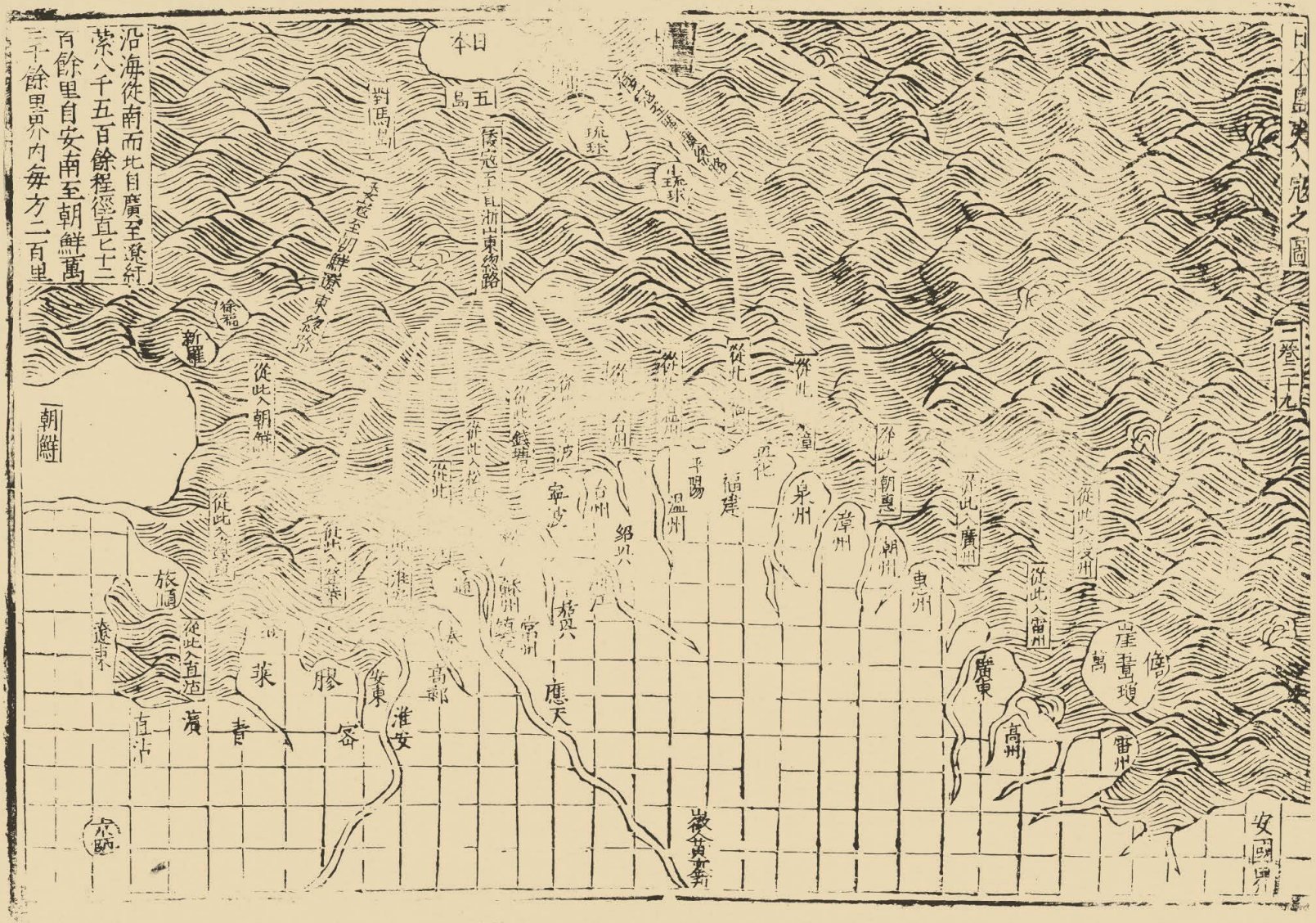
次等

備前刀 以有血漕爲巧刀上或鏨龍或鏨劍或鏨金入柄大薩藩春日大明神大照皇大神宮皆其形著在外爲美觀者

如匠人製造之精不論刀大小必於柄上一面鑄名一面刻記字號以爲古今賢否之辨鎗劍亦然

日本國
東北至毛人國界
東
陸奥州
領九郡
此處出金
出羽州
領六郡
常陸州
領十郡
武蔵州
領四郡
相摩州
領八郡
安房州
領四郡
伊豆州
領三郡
上總州
領十郡
下總州
領十郡
駿河州
領七郡
遠江州
領五郡
三河州
領五郡
志摩州
領二郡
紀伊州
領十郡
和泉州
領四郡
河内州
領十五郡
此名三江
伊勢州
領十三郡
太和州
領十五郡
攝津州
領三郡
攝摩州
領十六郡
伊賀州
領四郡
近江州
領十四郡
山城州
日本國君所居
壽安鎮
丹後州領五郡
丹波州領七郡
美作州
領七郡
備中州
領九郡
山柴家
備前州
領八郡
舍多大加賀加賀加賀什摩
備後州
領四郡
安藝州
領八郡
石見州
領六郡
出雲州
領十四郡
伯岐州
領七郡
因幡州
領七郡
但馬州
領八郡
此處出銀
丹後州領五郡
若佐州領六郡
能登州
領四郡
加賀州
領四郡
越前州
領三郡
信濃州
領十郡
飛彈州領三郡
尾張州領三郡
上野州
領九郡
甲斐州
領四郡
越中州
領四郡
佐渡州
領一郡
越後州
領七郡
陸奥州
領九郡
此處出金
出羽州
領六郡
常陸州
領十郡
武蔵州領四郡
安房州領四郡
上總州領十郡
下總州
領十郡
駿河州領七郡
遠江州
領五郡
三河州
領五郡
志摩州
領二郡
紀伊州領十郡
和泉州
領四郡
河内州
領十五郡

西北至朝鮮國
東
山東
淮揚
浙江
領一郡
伊岐州
領一郡
多褁州
五山相鎮而
一總名五島
有馬島
女島
種島
名大酒
此港泊船
遠矣烏喇
過記
領四郡
肥後州
領十二郡
薩摩州
領八郡
豐後州
領五郡
日向州
七烏
硫黃山
領一郡
豐前州
領八郡
白沙塗
領五郡
筑前州
領四郡
筑後州
大隅州什麼島迷
西南至福建界
界

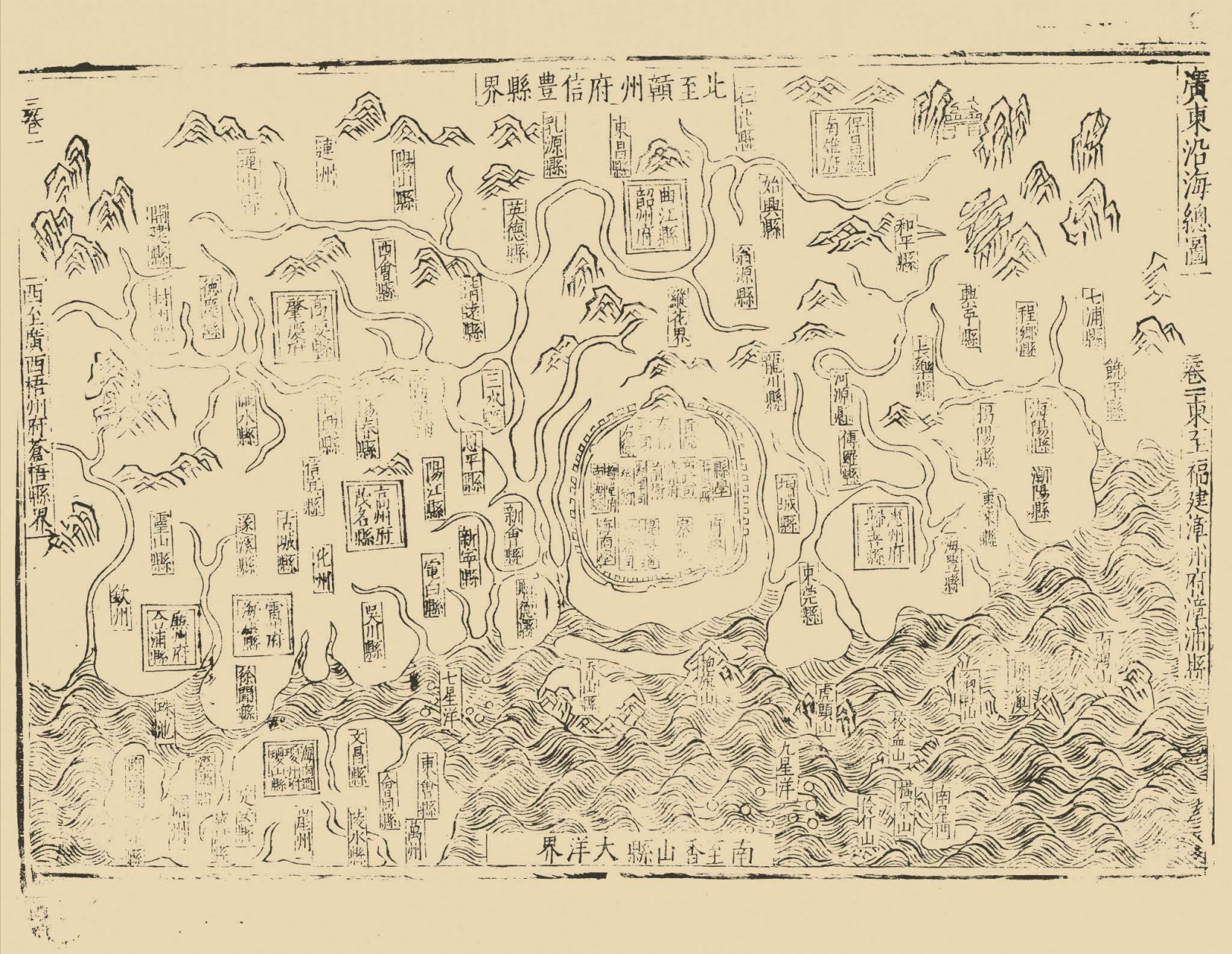

日本國夷人貢之圖
二卷十九
沿海從南而北自廣至遼紆
萊八千五百餘程徑直七十二
百餘里自安南至朝鮮萬
二千餘里其外內每方二百里
日本
五島
琉球
小琉球
對馬
天德至朝鮮源東絕路
徐福
新羅
朝鮮
從此入朝鮮
從此入錢塘
從此入淮
從此入登萊
從此入直沽
從此入廣
從此入朝惠
從此入廣州
從此入雷州
從北
從北
從北

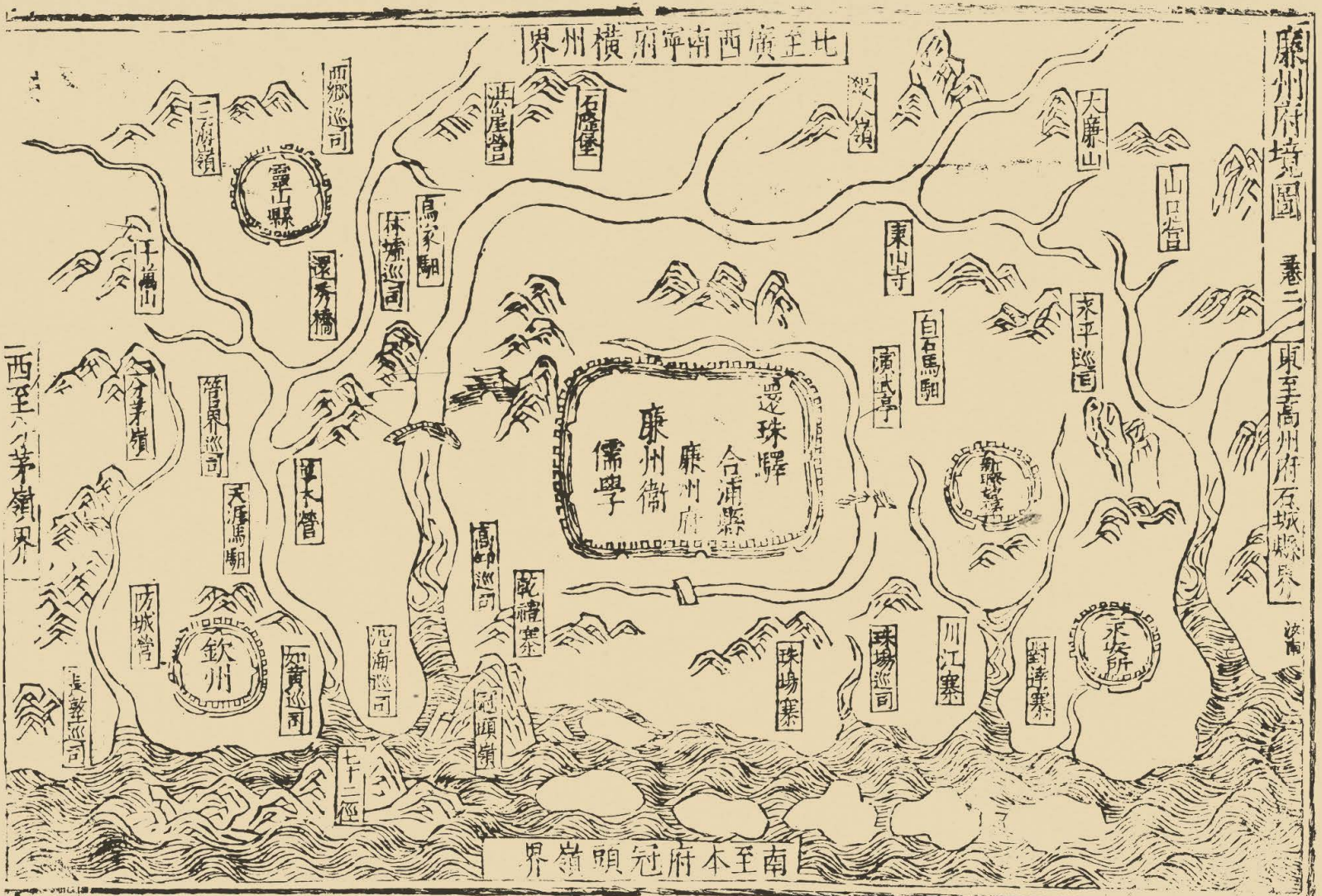
籌海圖編卷之三

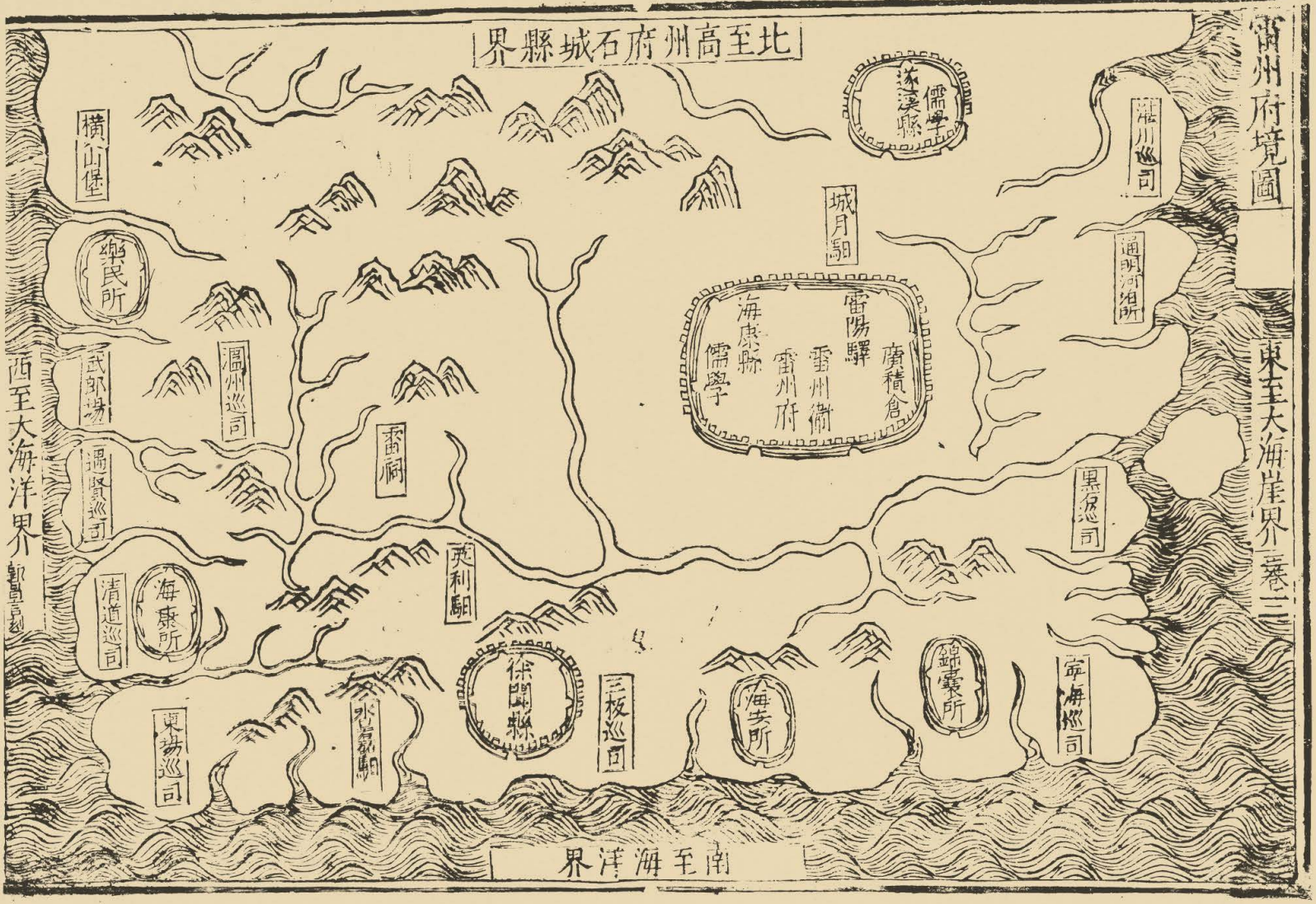
兵侍新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

廣東沿海總圖
廉州府圖
雷州府圖
高州府圖
廣州府圖
惠州府圖
潮州府圖
廣東兵防官考
廣東倭變紀
廣東事宜

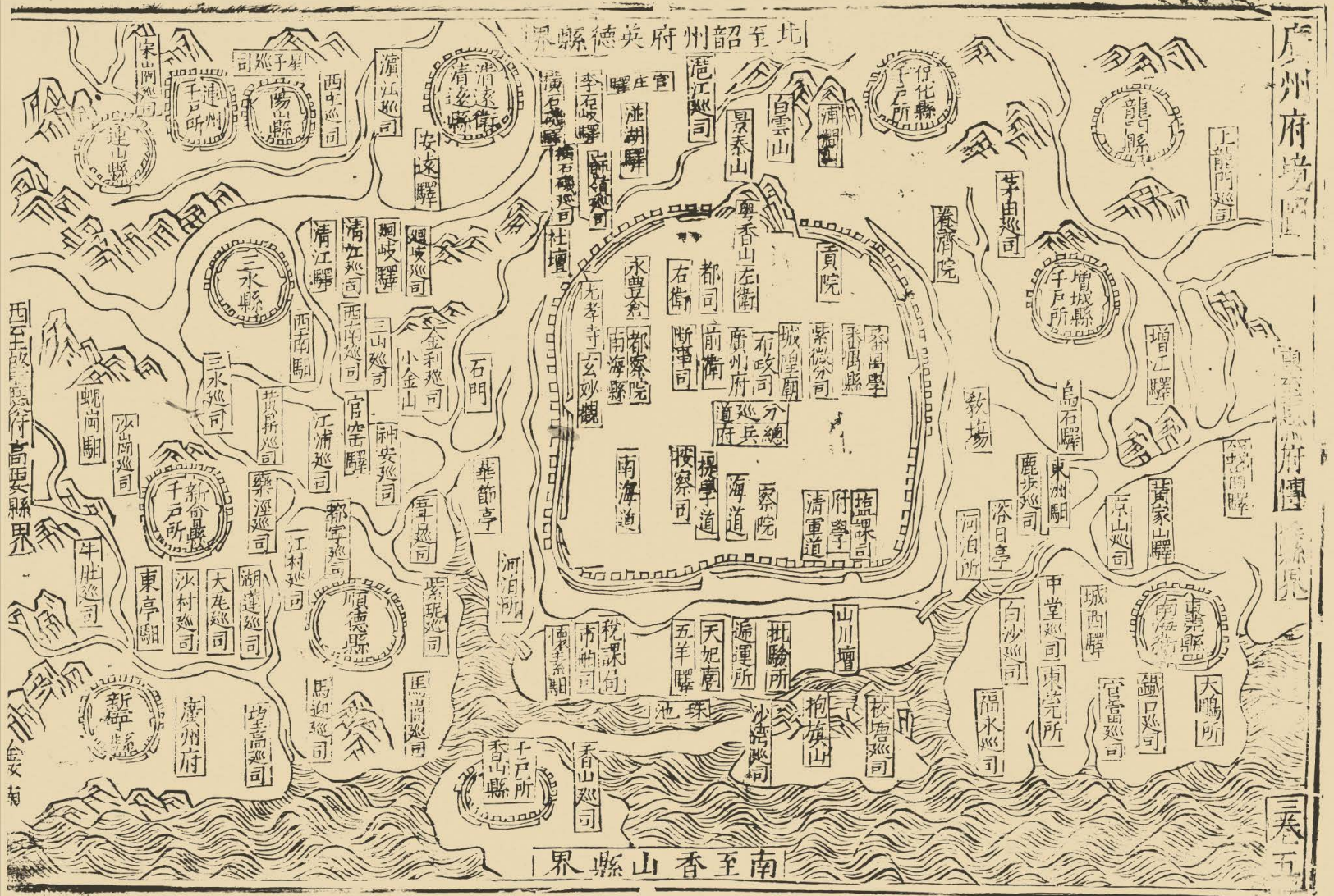
杭州府史陳言校
新安黃鑴刊


廣東沿海總圖一
卷二東至福建漳州府漳浦縣
西至廣西梧州府蒼梧縣界
北至贛州府信豐縣界
南至香山縣大洋界
曲江縣
韶州府
始興縣
翁源縣
英德縣
乳源縣
東昌縣
連州
陽山縣
連山縣
西寧縣
清遠縣
三水縣
肇慶府
德慶州
封川縣
開建縣
高要縣
四會縣
新興縣
陽江縣
恩平縣
新會縣
香山縣
東莞縣
寶安縣
龍川縣
河源縣
博羅縣
惠州府
歸善縣
長寧縣
和平縣
龍南縣
程鄉縣
鎮平縣
七浦縣
饒平縣
海陽縣
潮陽縣
揭陽縣
東莞縣
海豐縣
普寧縣
惠來縣
潮州府
程鄉縣
鎮平縣
長樂縣
龍川縣
河源縣
博羅縣
增城縣
東莞縣
新寧縣
開平縣
恩平縣
陽江縣
新會縣
香山縣
電白縣
吳川縣
高州府
茂名縣
化州
石城縣
遂溪縣
雷州府
海康縣
徐聞縣
廉州府
合浦縣
欽州
靈山縣
七星洋
九星洋
虎頭山
橫山
南澳
文昌縣
會同縣
陵水縣
萬州
崖州
定安縣
瓊州府
瓊山縣
東路縣
珠池
三卷一


廉州府境圖 卷二
北至廣西南寧府橫州界
東至高州府石城縣界
西至欽州界
南至本府冠頭嶺界
遷珠驛
合浦縣
廉州府
廉州衛
儒學
欽州
大廉山
山口營
東山寺
永平巡司
白石馬驛
演武亭
珠場巡司
珠場寨
川江寨
對漳寨
永安所
乾禮寨
烏雷巡司
烏雷驛
烏雷營
烏雷嶺
烏雷巡司
烏雷驛
烏雷營
烏雷嶺
烏雷巡司
烏雷驛
烏雷營
烏雷嶺


雷州府境圖
北至高州府石城縣界
遂溪縣
儒學
橫山堡
樂民所
城月驛
雷陽驛
雷州衛
雷州府
廣積倉
海康縣
儒學
海康巡司
通明河泊所
西至大海洋界
武郎湾
通賢巡司
清道巡司
海康所
東湾巡司
徐聞縣
三板巡司
海安所
錦囊所
安海巡司
黑沙巡司
東至大海崖界
南至海洋界

北至廣西梧州府峯溪縣界
良花寨
中道巡司
往還山
千戶所
信宜縣
石城分界
石床山
石夾山
那朗寨
金陵綠巡司
合駟
化州
陳水縣
紅河驛
石龍墟
寧村巡司
五星渡
石林寨
羅奎北
對溪巡司
那良驛
儒學
千戶所
高州府
茂名縣
古潭驛
那良驛
導茂巡司
連閘寨
那窄寨
七甲寨
平山林巡司
立石巡司
電白縣
神電衛
立石驛
茂水巡司
高州衛
千戶山縣
馬溪山
茂洲
小分湖
小黃墟
大黃墟
南至大海洋界
西至雷州府海康縣界
三四


廣州府境圖
北至韶州府英德縣界
南至香山縣界
西至肇慶府高要縣界
三卷五
廣州府
南海縣
番禺縣
順德縣
香山縣
新會縣
三水縣
增城縣
龍門縣
清遠縣
花縣
從化縣
東莞縣
新寧縣
連山縣
陽山縣
連州千戶所
增城千戶所
從化千戶所
新會千戶所
香山千戶所
廣州府儒學
貢院
都司
右衛
前衛
廣州府
分巡兵備道
提學道
按察司
察院
海道
南海道
布政司
分巡道
都察院
南海縣
提學司
清軍道
城隍廟
番禺學
番禺縣
三水縣
三山巡司
小金山
金利巡司
石門
節亭
河泊所
河泊所
官窯驛
江浦巡司
神安巡司
蜆岡驛
沙岡巡司
三水巡司
西南驛
清江驛
清江巡司
西南巡司
三水驛
永豐倉
孝弟坊
玄妙觀
橫石磯巡司
橫石磯驛
社壇
安遠驛
清遠縣
濱江巡司
西中巡司
宋岡巡司
連山縣
陽山縣
子巡司
星子巡司
官庄驛
淮湖驛
新寧巡司
浦園
白雲山
景泰山
粵秀山
香山左衛
永豐倉
都司
右衛
前衛
廣州府
分巡兵備道
提學道
按察司
察院
海道
南海道
布政司
分巡道
都察院
南海縣
提學司
清軍道
城隍廟
番禺學
番禺縣
茅由巡司
養濟院
龍門縣
子龍門巡司
增江驛
烏石驛
教場
東洲驛
鹿步巡司
浴日亭
河泊所
黃家山驛
京山巡司
東莞縣
南海衛
城西驛
中堂巡司
東莞所
白沙巡司
福永巡司
官富巡司
鰂口巡司
大鵬所
山川壇
批驗所
遍運所
天妃廟
五羊驛
珠池
抱旗山
沙灣巡司
稅課局
市舶司
西村巡司
校塘巡司
香山巡司
千戶所
香山縣
順德縣
馬岡巡司
望高巡司
新寧縣
廣州府
東亭驛
牛肚巡司
大龍巡司
汶村巡司
湖蓮巡司
蔡涇巡司
官窯巡司
江村巡司
新會縣
千戶所
蜆岡驛
沙岡巡司
三水巡司
西南驛
清江驛
清江巡司
西南巡司
三水驛
三山巡司
小金山
金利巡司
石門
節亭
河泊所
河泊所
官窯驛
江浦巡司
神安巡司
蔡涇巡司
官窯巡司
江村巡司
新會縣
千戶所
蜆岡驛
沙岡巡司
三水巡司
牛肚巡司
大龍巡司
汶村巡司
湖蓮巡司
東亭驛
順德縣
馬岡巡司
望高巡司
新寧縣
廣州府
香山縣
千戶所
香山巡司
校塘巡司
抱旗山
沙灣巡司
山川壇
批驗所
遍運所
天妃廟
五羊驛
珠池
稅課局
市舶司
西村巡司
大鵬所
鰂口巡司
官富巡司
福永巡司
白沙巡司
中堂巡司
東莞所
東莞縣
南海衛
城西驛
浴日亭
河泊所
黃家山驛
京山巡司
東洲驛
鹿步巡司
教場
烏石驛
增江驛
龍門縣
子龍門巡司
茅由巡司
養濟院
增城縣
千戶所
從化縣
千戶所
龍門縣
清遠縣
花縣

惠州府境圖
東至潮州府惠來縣界
北至江西贛州府界
西至海岸
南至海岸
卷六
三
長寧巡司
忠信巡司
和平縣
十都巡司
永昌巡司
興寧縣
大坡驛
十都驛
羅浮山
江口驛
千戶所
河源縣
義合驛
藍口驛
藍口巡司
龍川縣
青溪驛
通衢驛
通衢巡司
千戶所
長樂縣
苦竹派巡司
龍仁巡司
永安巡司
莫村驛
水口驛
十二都巡司
興寧驛
事政巡司
博羅縣
石灣巡司
歸善縣
惠州府
附郭縣
惠州衛
儒學
河泊所
平山驛
平政驛
平安驛
海東濟驛
千戶所
海豐縣
甲子倉
碣石衛
同知
碣石巡司
碣石甲巡司
為政巡司
平海縣
捷勝所
長寧驛
歸善驛
欽樂驛

北至福建汀州府界
程江驛
三河驛
龜溪驛
潮州衛
潮州府
海陽縣
揭陽縣
普寧縣
惠來縣
蓮花山
鳳凰山
招安場
南至海岸界

明少保新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

廣東兵防官考

提督兩廣軍務兼巡撫都御史駐劄梧州

舊嘗設總督兩廣都御史事平即歸并常設故不載

鎮守兩廣總兵官駐劄梧州

巡按廣東監察御史

巡視海道副使領設專爲備倭并防捕海盜

整飭瓊州兼備副使

整飭清遠兵備副使

整飭高肇兵備僉事

整飭惠潮兵備僉事

整飭雷廉兵備僉事

市舶提舉司提舉駐劄廣州

分守瓊崖參將

分守高肇韶廣參將

分守惠潮參將

總督廣東備倭以都指揮體統行事

守備惠潮以都指揮體統行事

沿海衛所

廣州衛旗軍九百五十二名

鎮州所旗軍二百十七名

靈山所旗軍二百五十四名

永安所 旗軍三百九十名

雷州衛 旗軍一千三百八十名

樂民所 旗軍三百四十五名

海康所 旗軍三百二十三名

海安所 旗軍一百八十一名

錦囊所 旗軍二百三十五名

石城後所 旗軍二百三十四名

神電衛 旗軍一千五十八名

寧州所 旗軍四百五十七名

雙魚所 旗軍一百七十七名

陽春所 旗軍二百十名

廣海衛 旗軍一千一百六十五名

旨五六 雷州黃鏡

海郎所 旗軍

新會所 旗軍六百六十四名

香山所 旗軍四百二十八名

肇慶衛 旗軍

陽江所 旗軍

新興所 旗軍二百五十二名

南海衛 旗軍一千一百十四名

東莞所 旗軍三百二十八名

大鵬所 旗軍二百二十三名

碣石衛 旗軍一千二百八十四名

平海所 旗軍四百四十七名

海豐所 旗軍四百二名

捷勝所旗軍五百八十二名
甲子門所旗軍二百八十七名
潮州衛旗軍一千三百二十八名
靖海所旗軍二百八十二名
海門所旗軍二百二十五名
蓬州所旗軍三百八十八名
大城所旗軍三百八十三名
海南衛
清閒所旗軍五百八十七名
萬州所旗軍四百六十九名
南山所旗軍二百十五名
沿海巡檢司弓兵數附

廉州府
管界弓兵二十名　長墩弓兵二十名
西鄉弓兵二十名　如昔弓兵二十名
沿海弓兵二十名　林墟弓兵二十名
高仰弓兵二十名　珠場弓兵二十名
永平弓兵二十名
雷州府
東場弓兵三十名　清道弓兵三十五名
灑州弓兵三十名　海寧弓兵三十名
湛州弓兵三十名　黑石弓兵三十名
高州府
凌綠弓兵三十名　寧村弓兵三十名

赤水弓兵二十五名

肇慶府

立將弓兵五十名　海陵弓兵六十名

恩平弓兵五十名

廣州府

城崗弓兵五十名　牛肚弓兵五十名

沙岡弓兵五十名　藥逕弓兵五十名

望高弓兵五十名　沙村弓兵五十名

大尾弓兵五十名　潮道弓兵五十名

三水弓兵五十名　江浦弓兵五十名

江村弓兵五十名　都寧弓兵五十名

馬岡弓兵五十名　馬寧弓兵五十名、

紫泥弓兵五十名　神安弓兵五十名

黃鼎弓兵五十名　香山弓兵五十名

茭塘弓兵五十名　五斗口弓兵五十名

沙灣弓兵五十名　鹿步弓兵五十名

白沙弓兵五十名　小黃浦弓兵五十名

福水弓兵五十名　缺口弓兵五十名

官富弓兵五十名　京山弓兵五十名

惠州府

內外管弓兵五十名　碧甲弓兵五十名

長沙弓兵五十名　甲子門弓兵五十名

潮州府

神泉弓兵五十名　吉安弓兵五十名

門闢弓兵五十名　桑田弓兵五十名
招寧弓兵五十名　鮀浦弓兵五十名
楓洋弓兵五十名　闢望弓兵五十名
黃崗弓兵五十名

瓊州府

清瀾弓兵三十名　鋪前弓兵六十名
澄邁弓兵三十名　青藍弓兵六十名
調嚳弓兵六十名　藤橋弓兵六十名
牛嶺弓兵六十名　抱歲弓兵六十名
巡德弓兵六十名　鎮南弓兵六十名
安海弓兵六十名　田牌弓兵六十名

沿海烽堠

雷州府

那宋　八燈　包西　計網
對樓　踏磊　清安　調黎
寧海　陳家　南門　通明
調陳　草綠　淡水　南浦
北畚　北月　石歲　麻障
北鵝

高州府

調高　尖峒　輔弼北　輔弼南
山南　連頭　白山　門浮

廣州府

南海　那浮　譚村　黃村
赤水　蛤浦　北津　丹章
南洋　那貢　安民　處儒
寔田　豐頭　峯前　石門
白蒙　寨南　鎮口　放火南
奇黎　雙硐　陳村　白石角
企觀　北寨　大人嶺　馬鞍
黃歧　水南　亭子角　白汝
稍潭　四會　石門　青藍
節尾　煙峒　長洲　員欖

白坡　東莞　白沙村　東莞
鵝十　南山　鰲海　合水
福德　赤岡　曙角　豐福
藍田　秋風角　風門口

惠州府

舊大嶼　水頭　沙灣　沙江
野牛角　西背　長沙　虎門
芳草　白沙湖　東坑　大廟
河口　古逕　石山　新塗
平安　新涌　麗江　麗山
古頭　桑州　前標　後標
競山　鉛錫　安充　州
千

潮州府

文昌　鉤簾　南山　石城
前岡　火尾　浮山　下嶺　大場
石牌　錢塘　環山
新村　烏山　鴉髻　舁洲
白峰　黃岡　沙

沿海衛所戰船

舊制：每歲春末夏初風汛之期，通行南衛所調撥哨備倭官軍出海防禦，倭夷番舶動支布政司軍餉，[illegible]分撥二十名，每艚船四艘一官統之，三路共編五艚，[illegible]副字號使船水手教以接潮迎風之法，長短火兵習時常演習使之出入往來如神如無字號者長副鳴鑼追逐，俱行秋盡無事而掣

中路東莞縣屯頭屯門等澳大戰船八　烏艚船十二

廣海衛望峒澳戰船四

東路潮州府梅澳戰船二　哨船二　烏船十五

碣石靖海甲子門等澳戰

西路高州府石城吳川海[illegible]各哨船二

廉州府海面戰船二

瓊雷二府海港東莞[illegible]新會各六　江船內

洪武二年倭寇惠潮諸州

時天下初定海內又安倭夷獨發濱海一帶皆被騷擾乃命行人楊載使日本以璽書諭其國王○書詳見使倭事畧中

四年倭寇海晏下川指揮楊景討平之

時海寇鍾福全李大人等自稱總兵挾倭船二百艘寇海晏下川等地廣州左衛指揮僉事楊景追捕至陽江平之

永樂七年冬十月倭陷廉州教授王翰死之

詳見遇難徇節考

九年三月倭陷昌化所千戶王偉死之

時副總兵李珪等擁兵不救城遂陷王偉力戰而死軍士死者甚衆城中人口糧食軍器皆被劫掠

十九年正月辛巳李珪敗倭於潮州靖海海濱

珪先以昌化之陷戴罪殺賊大敗賊于靖海生擒十五人斬首五級悉送京師

嘉靖三十三年海寇何亞八等引倭入寇提督侍郎鮑公象賢總兵定西侯蔣公傳討平之

先是亞八與鄭宗興等潛從佛大坭國引番舶千艘沿海刼殺逸往福建收叛亡數千人與陳老沈老王明王直徐銓方武等流刼浙福復回廣東鮑公遣副使汪柏指揮王沛黑孟陽督兵捕之及於廣海三州環生擒亞八等賊一百一十九名斬首二十六級餘黨脫逸徐銓方武等又自福建流突潮州爲黑王陽所破徐銓授首分巡兵備等官兵於潮州柘林等海洋擒斬一千二百有奇亞八宗興武與陳時傑等俱斬于市海島遂平

三十七年正月壬午倭犯揭陽入蓬州所官兵擊敗之

先是壬子歲倭寇劫犯漳泉僅二百人其間頁倭甚寡皆閩浙通番之徒髡顱以從至是船十三艘賊八百人自漳泉犯揭陽縣適蓬州千戶所城前賊遂擁入殺百戶李日芳等提督都御史王公鈁遣副使林懋舉僉事經彥宗參將鍾坤參知府李春芳等官兵擊敗之斬首一百七十名顆是戰也鄉夫之功居多

十月甲子倭賊自漳州如饒平攻黃崗民鎮據其城官兵敗之

經彥寀等大敗賊衆
俘斬一百四十六名

三十八年二月寇圍揭陽官兵大破之

時軍門駐潮州肇慶同知呂天恩與僉事經彥寀率鄉兵合擊之斬獲甚多寇復邊揭陽圍城彥寀帥師救之鄉大斬金甲賊酋一人賊大敗走俘馘無算會彥寀報罷僉事殷從儉代之乘勝逐北賊望風而靡黃崗鎮賊亦遁去

十一月庚午賊攻海門所官兵敗之走犯潮陽復破之

先是賊在福建之平和與饒平黃崗鎮隔界而壘至是賊首許老等三百餘賊引倭千餘自磊門登陸攻海門所官兵擊之賊死甚多壬申南丹土目莫善等追賊與指揮係敏擊敗之賊遁逐平和丙子許老等犯潮陽縣丞范南卿等兵擊走之賊由分水關犯黃崗鎮城通判有夢鯉指揮李榮知縣熊見林叢槐率

兵捕之巳卯賊至南洋灣指揮張良佐統目兵莫真莫善分爲二哨于戶黃昇等統募兵打手爲一哨南洋三灣諸鄉兵又協助之大破其衆賊奔聚關望港口甲午賊出揭陽蓬洲都水沙村焚掠皆爲我兵所敗十二月巳亥賊竄隴外莆都辛丑賊自平和營於赤寨村揭陽掃寨丁未新賊自福建雲霄突入黃崗戊申關望賊出掠彩塘甲寅新賊與關望賊合踪出掠甲子掃湖賊突往蘆清官兵連戰皆破之俘斬凡一百八十有奇

三十九年正月官兵會擊關望之賊大破之

時賊爲官兵追急移屯潮陽貴山都老指揮武尚文及鄉兵連戰皆捷賊敗營古埕乙酉賊遁往南洋灣與駐秦金與官兵合擊大敗之斬首三百七十賊潰渡河官兵數之復大捷戊子賊泝江而來誓復南洋灣之仇尚文等官兵又大敗之庚午古埕營賊出掠官兵又敗之二月戊戌賊復回平和沙嶺巳酉賊至大澄橋官兵又勝之戊午賊復來擁守備兵擊之賊大潰俘馘入百有奇四月僉事齊遇與海道參將會師追之擒斬三百六十幾賊悉遁

東路

廣東列郡若十分爲三路東路爲惠潮二郡與福建連壤漳舶通番之所必經議者謂潮爲嶺東之巨鎮柘林南灣俱係要區枕吭撫背之防不可一日緩而靖海海門蓬洲大城諸所又皆跬步海濤所賴以近倚三陽遠衛東嶺者也惠州海豐東南濱海其捷勝平海甲子門皆堪息生變惠潮守備劄於衛治誠有以蔽其防矣然未知柘林爲尤要也柘林乃南粵海道門戶據三路之上游番舶自福趨廣悉由此入舊例風汛之期各灣皆設戰艦秋盡而掣回泊水寨此在他灣猶可柘林去水寨一日之遠警報未易達倘

賊視我無備批抗搗虛不亦危乎無柘林是無水寨也無水寨是無惠潮也爲今之計東路官軍每秋掣班必以柘林爲堡慎固要津附近大城所戍卒互爲聲援不得規避空所縱賊馳驟若遇颶霧塵霾尤宜加之意焉其外碣石靖海甲子門海澳雖視柘林稍次而舟師防禦各有信地之責者又可少懈乎

中路

嶺南濱海諸郡左爲惠潮右爲高雷廉而廣州中處故於此置省其責亦重矣環郡大洋風濤千里皆盜賊淵藪帆檣上下烏合突來樓船也哨可容緩平嘗考之三四月東南風汛日本諸島入寇多自閩趨廣柘林爲東路第一關鎖使先會兵守此則可以遏其

衝而不得泊矣其勢必越於中路之屯門鷄栖佛堂門冷水角老萬山虎頭門等灣而南頭爲尤甚或泊以寄潮或據爲巢穴乃其所必由者附海有東莞大鵬戍守之兵使添置往來預爲巡哨遇警輒敵則必不敢以泊此矣其勢必歷峽門望門大小橫琴山零丁洋仙女灣九竈山九星洋等處而西西而浪白灣爲尤甚乃番舶等候接濟之所也附海有香山所戍守之兵使添置往來預爲巡哨遇警輒敵則亦不敢以泊此矣其勢必歷虎門寨門海萬斛山銅洲等處而西而望峒灣爲尤甚乃番舶停留避風之門戶也附海有廣海衛新寧海朗所戍守之兵使添置往來預爲巡哨遇警輒敵則又不敢以泊此矣夫其來不得

停泊去不得接濟則雖濱海居民且安枕而卧矣況會城平按今設禦之法浪白望峒二所各置戰艦慎固封守而南頭宜特設海道駐劄居中調度似有以扼嶺南之咽喉矣應援聽哨其中路今日之急務乎

西路

議者曰廣東三路雖並稱險阨今日倭奴衝突莫甚於東路亦莫便於東路而中路次之西路高雷廉又次之西路防守之責可緩也是對日本倭島則然耳三郡逼近占城暹羅滿剌諸番島嶼森列狡心注盼防守少懈則變生腋蔓難圖矣可弗講乎故高州東連肇廣南憑滇勢神電所轄一帶海濱若連頭港汾州山兩家灘廣州灣爲本府之南翰兵符重寄不

當托之睚人以貽保障之意也雷州突出海中三面受敵其遂溪湛川海州樂民等四十餘隘圓爲合衛三道門戶而海安海康黑石清道幷徐聞錦囊諸隘所以合防海灣以操縱反側俾不敢梗化焉者尤可躍觀玩惕已哉若廉州則尤爲全廣重輕海北抏塞兩有攸寄故兵符特劄於靈山達堡增屯於欽北海寇峒獠外夷之憂視三鎮獨勞焉西南雄郡如瓊爲廉之外戶五指腹心盡爲黎據郡邑封疆無不濱海備倭之制若白沙石瓊館頭文昌海安海康對峙崇島飄風突來防禦甚艱近雖駐參將於厓州責有攸寄而守禦營戍舊額咸久寢弛凡此皆西路今日所當汲汲經畫焉者深念預防俾幕南稽額重譯來庭

非長民者兵者之責乎

一廣東兵餉舊制于潮州府民壯數內抽追工食選募打手駕船後生分守三路後因山賊竊發念城池爲重寄留民壯守護而前項兵食每年於鹽利內處補後議以兵貴精而不貴多食宜預而不宜置於東路兵夫止選三百名防守遇有警報則增雇三百以足六百原數其中西路一千五百名內量減七百名止募八百名通計見該一千一百名約計東路三百名西路二百名中路六百名各路將三之一哨巡三之二營守每兵夫五十名艚船一隻兵夫一名每月工食六錢口粮三斗船一隻脚價一兩五錢或一兩二錢兵船每四隻則以一官統之日逐守巡或閱月半月更番相代又於朝望量加魚鹽之犒永爲定額

所費俱於軍餉內取辦遇有警報又許徑自動支添募應選不必直俟文移動經旬月以致墜膊無及凡所應辦逐一登記每月造報迨掣兵之時截日住支於以釐革浚漁之弊此嶺南海防之大畧也

一廣東濱海諸邑當禁船隻若增城東莞則茶窖十字灣番禺則三漕波羅海南海則仰船岡茅灣順德則黃涌頭香山新會則白水分水紅等處皆盜賊淵藪也每駕峻頭小艇藏集兇徒肆行刼掠勾引倭奴殘戮甚慘爲今之計莫若通行各縣令沿海居民各於其鄉編立船甲長副不拘人數惟視船之多寡依十家牌法循序應當如船二十隻總統於船甲長內以十隻分統於甲副仍於船尾外大書某縣船某甲下

某人十字翻刻墨填爲記其甲長副各置簿一扇備載鄉中船數幷某樣船隻某項生理一一直書每歲具呈於縣以憑查考如遇刼掠則被害者能識其船速投首於甲長副鳴鑼追究俾遠近皆知無容字號者即係爲非許人人俱得拏送舊時沿海居民明知賊盜懼其反攻而不救今後坐視者罪以通同則船有統紀而行刼之徒忌畏況操舟之時可以按簿呼召給價差用而不致資放之弊乎議者謂欲令每縣取無碍官銀千餘兩造船百艘令給軍民生理令河泊等官歲課入息五年當抵造船之銀如朽爛更以歲課銀更造此法周善終不若無事處事如前法之爲善也

一南灣當閩廣交界之處周圍皆山中有田百頃乃
國初起遣居民遺棄之地也四面敵風大潭居中可以聚舟
其大視金塘二倍五六年來因漸直攻捕之嚴倭泊
無所容但于此互市福建捕急則奔廣東廣東捕急
則奔福建定期於四月終至五月終去不論貨之盡
與不盡也其交易乃搭棚於地鋪板而陳所置之貨
甚爲清雅刀鎗之類悉在舟中若能容令人於海濱
沉滅其舟則在岸上之倭生擒也何有

籌海圖編卷之四

明少保新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

福建沿海總圖

漳州府圖

泉州府圖

興化府圖

福州府圖

福寧州圖

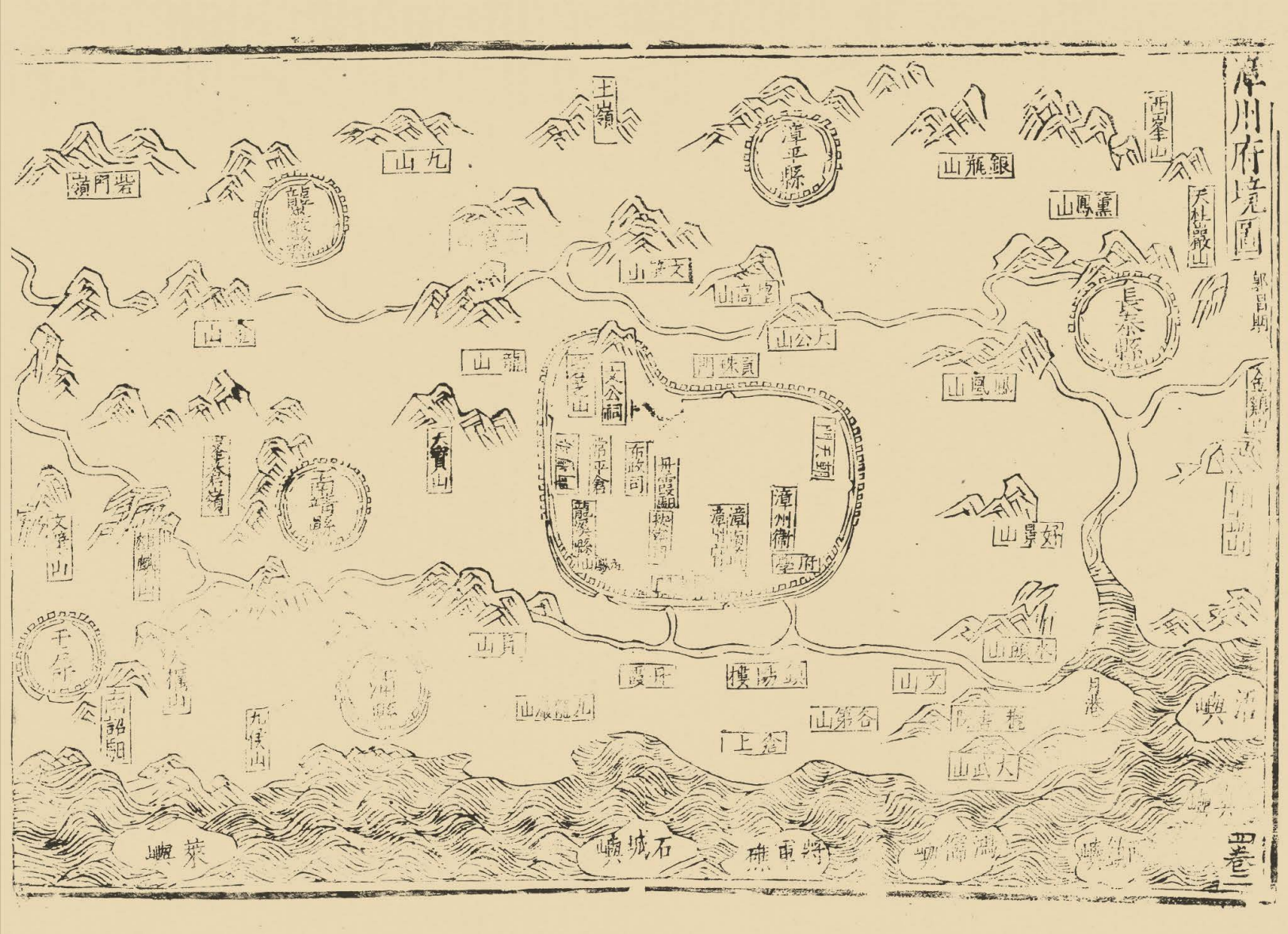
福建兵防官考

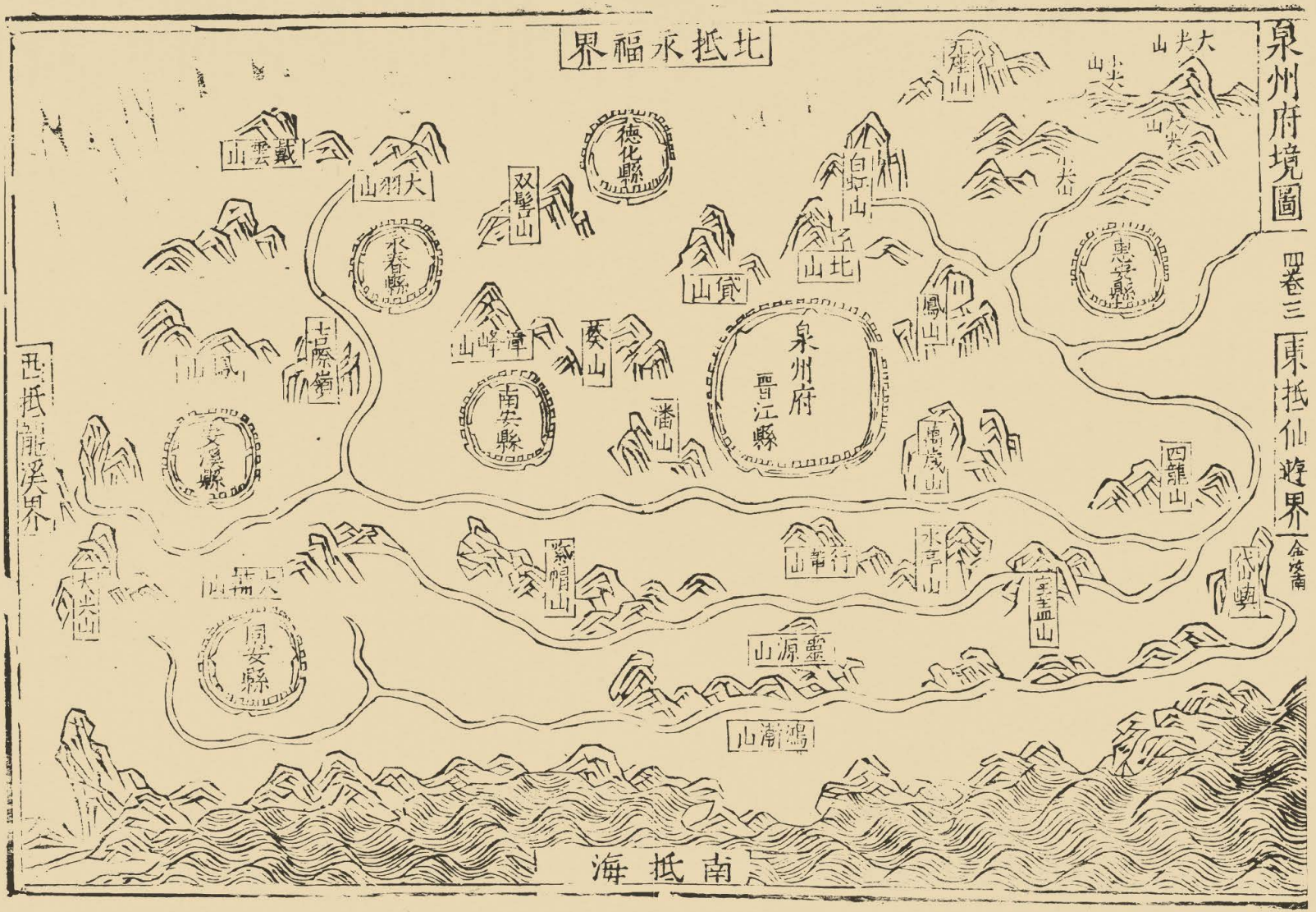
福建倭變紀

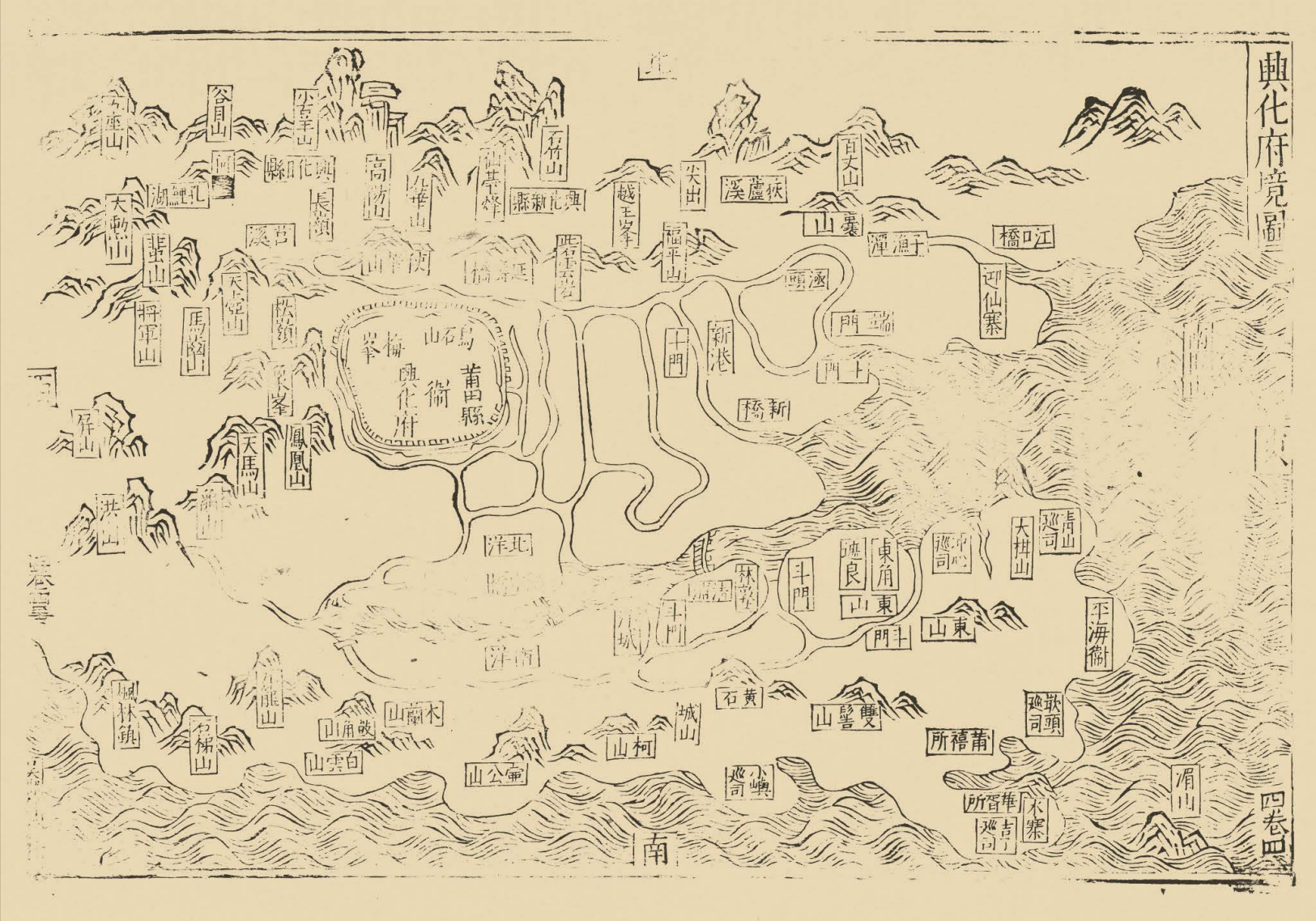
福建事宜

杭州府

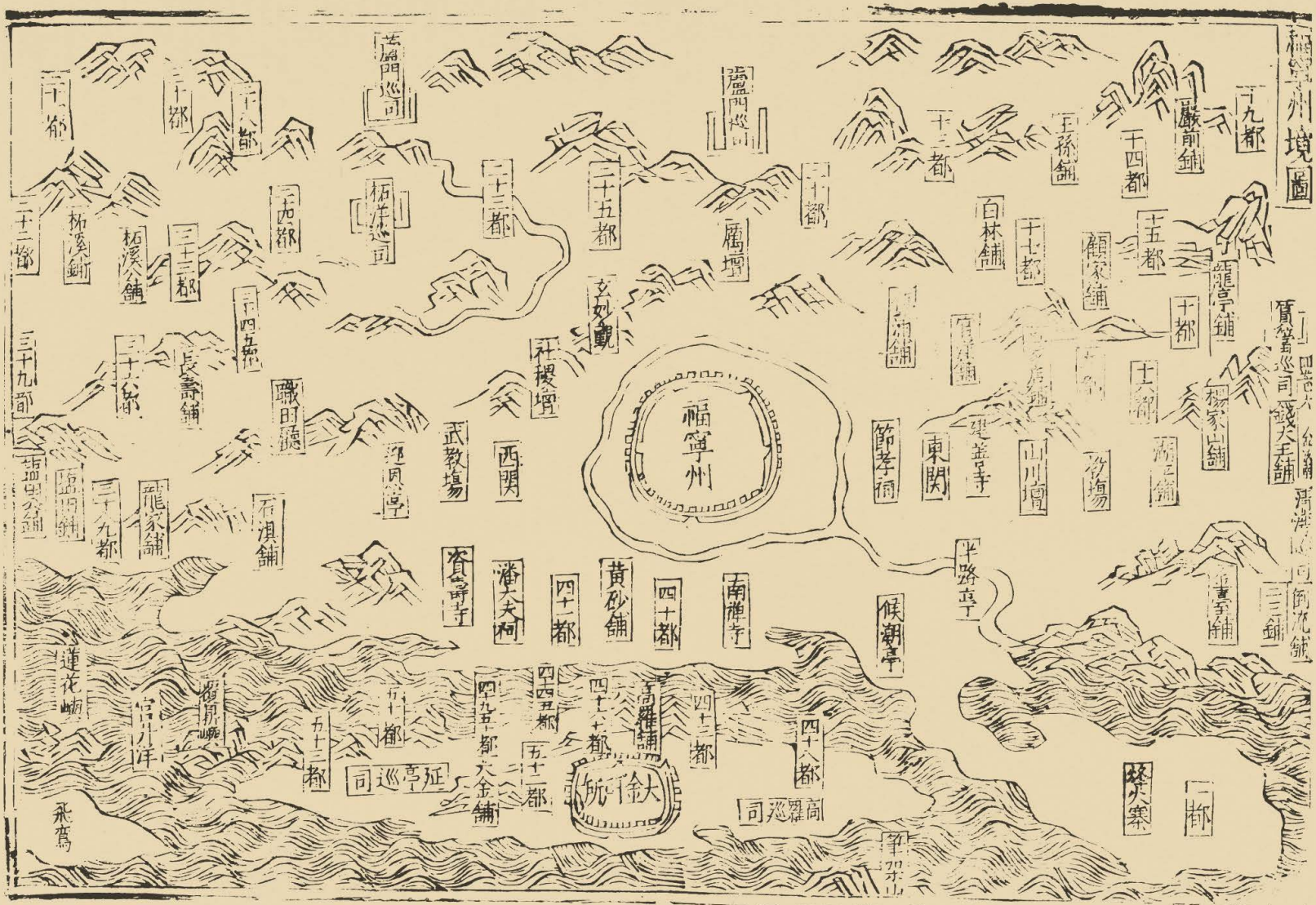
福州府
泉州府
漳州府
興化府
延平府
建寧府
邵武府
汀州府
福寧州
福安縣
羅源縣
連江縣
閩清縣
永福縣
古田縣
南平縣
尤溪縣
沙縣
將樂縣
順昌縣
建陽縣
崇安縣
浦城縣
松溪縣
政和縣
壽寧縣
福鼎縣
寧德縣
霞浦縣
長樂縣
福清縣
永泰縣
閩清縣
古田縣
屏南縣
寧化縣
清流縣
連城縣
上杭縣
武平縣
永定縣
南安縣
惠安縣
晉江縣
同安縣
長泰縣
龍溪縣
漳浦縣
詔安縣
平和縣
南靖縣
海澄縣
龍巖州
大金所
小金所
白石巡司
蛋艇巡司
梅花所
小埕水寨
東衝巡司
小埕巡司
萬安所
崇武所
高浦
深青驛
東驛
甘棠驛
漳浦驛
雲霄鎮
陳平渡
銅山水寨
銅山所
銅山巡司
南澳
月港
浮宮港
永寧城
陸鰲所
海門巡司
青山巡司
海門嶼
鎮海衛
南鎮嶼
青嶼
高尾巡司
高尾渡
安海港
高浦巡司
安海巡司
官澳巡司
由浦巡司
金門所
烈嶼
大担嶼
小担嶼
東碇嶼
湄洲嶼
許嶼山
海坛山
彭湖嶼
白犬嶼
牛嶼
東山
南山
北山
卷一 福建沿海總圖


漳州府境圖
漳平縣
長泰縣
漳州衛
府
大寶山
文公祠
山鳳
山象
山文
山武大
山第谷
山上
山獅
山九
山銀瓶
山鳳鳳
山高望
山公大
山龍
山虎
山旗
山筆架
山文筆
山月
山觀
山旗
山獅
山
山
山


泉州府境圖
四卷三
東抵仙遊界
金坡南
北抵永福界
西抵龍溪界
南抵海
泉州府
晉江縣
南安縣
同安縣
永春縣
德化縣
大羽山
戴雲山
双髻山
大尖山
小尖山
大坂山
五峰山
白坂山
鳳山
清源山
靈山
九日山
紫帽山
靈源山
鴻漸山
金鼓山
永宁山
行山
四龍山
大兴山
小兴山


興化府境圖
四卷四
莆田縣
興化府
衛
石山
馬
橋
峯
北洋
南洋
南
新港
新橋
江口橋
迎仙寨
涵頭
十門
上門
下門
東角山
東門
山東
平海衛
所禧莆
所鎮海
水寨
巡司
中所巡司
清山巡司
大拱山
歌頭巡司
小嶼巡司
黃石
雙髻山
城山
柯山
龍山
木蘭山
白雲山
敬甫山
鳳凰山
天馬山
將軍山
馬跑山
天馬山
大軌山
孔鯉湖
百丈山
狹溪盧
越王峯
尖出
福平山
高陽山
長嶺
呂溪
欣嶺
九華山
百丈山
澳頭
石牛山
石牛溪
石牛山
洪山
林鎮
佛山
龍山
公輔山

福州府境圖
郭曾炘
東至連江
四至五十
北至羅源縣
南至延平府龍溪縣界
閩縣
都司
左營
中營
右營
福州左衛
福州右衛
福州前衛
福州後衛
福州中衛
福州左所
福州右所
福州前所
福州後所
福州中所
福州中左所
福州中右所
福州中前所
福州中後所
福州左中所
福州右中所
福州左前所
福州右前所
福州左後所
福州右後所
福州前中所
福州後中所
福州前左所
福州前右所
福州後左所
福州後右所
福州中左前所
福州中左後所
福州中右前所
福州中右後所
福州左中前所
福州左中後所
福州右中前所
福州右中後所
福州左前中所
福州右前中所
福州左後中所
福州右後中所
福州前中左所
福州前中右所
福州後中左所
福州後中右所
福州前左中所
福州前右中所
福州後左中所
福州後右中所
福州中左前中所
福州中左後中所
福州中右前中所
福州中右後中所
福州左中前中所
福州左中後中所
福州右中前中所
福州右中後中所
福州左前中中所
福州右前中中所
福州左後中中所
福州右後中中所
福州前中左中所
福州前中右中所
福州後中左中所
福州後中右中所
福州前左中中所
福州前右中中所
福州後左中中所
福州後右中中所
福州中左前中中所
福州中左後中中所
福州中右前中中所
福州中右後中中所
福州左中前中中所
福州左中後中中所
福州右中前中中所
福州右中後中中所
福州左前中中中所
福州右前中中中所
福州左後中中中所
福州右後中中中所
福州前中左中中所
福州前中右中中所
福州後中左中中所
福州後中右中中所
福州前左中中中所
福州前右中中中所
福州後左中中中所
福州後右中中中所
福州中左前中中中所
福州中左後中中中所
福州中右前中中中所
福州中右後中中中所
福州左中前中中中所
福州左中後中中中所
福州右中前中中中所
福州右中後中中中所
福州左前中中中中所
福州右前中中中中所
福州左後中中中中所
福州右後中中中中所
福州前中左中中中所
福州前中右中中中所
福州後中左中中中所
福州後右中中中中所
福州前左中中中中所
福州前右中中中中所
福州後左中中中中所
福州後右中中中中所
福州中左前中中中中所
福州中左後中中中中所
福州中右前中中中中所
福州中右後中中中中所
福州左中前中中中中所
福州左中後中中中中所
福州右中前中中中中所
福州右中後中中中中所
福州左前中中中中中所
福州右前中中中中中所
福州左後中中中中中所
福州右後中中中中中所
福州前中左中中中中所
福州前中右中中中中所
福州後中左中中中中所
福州後右中中中中中所
福州前左中中中中中所
福州前右中中中中中所
福州後左中中中中中所
福州後右中中中中中所
福州中左前中中中中中所
福州中左後中中中中中所
福州中右前中中中中中所
福州中右後中中中中中所
福州左中前中中中中中所
福州左中後中中中中中所
福州右中前中中中中中所
福州右中後中中中中中所
福州左前中中中中中中所
福州右前中中中中中中所
福州左後中中中中中中所
福州右後中中中中中中所
福州前中左中中中中中所
福州前中右中中中中中所
福州後中左中中中中中所
福州後右中中中中中中所
福州前左中中中中中中所
福州前右中中中中中中所
福州後左中中中中中中所
福州後右中中中中中中所
福州中左前中中中中中中所
福州中左後中中中中中中所
福州中右前中中中中中中所
福州中右後中中中中中中所
福州左中前中中中中中中所
福州左中後中中中中中中所
福州右中前中中中中中中所
福州右中後中中中中中中所
福州左前中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中所
福州前中右中中中中中中所
福州後中左中中中中中中所
福州後右中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前中右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後中左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州前右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後左中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州後右中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中左後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州中右後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州左中後中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中前中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中中所
福州右中後中


福寧州境圖
福寧州
十九都
十三都
十四都
十五都
十七都
十都
二十五都
二十三都
二十二都
二十九都
三十都
三十一都
三十二都
三十三都
三十四都
三十五都
三十六都
三十七都
三十八都
三十九都
四十都
四十一都
四十二都
四十三都
四十四都
四十五都
四十六都
四十七都
四十八都
四十九都
五十都
五十一都
五十二都
五十三都
五十四都
五十五都
五十六都
五十七都
五十八都
五十九都
六十都
六十一都
六十二都
六十三都
六十四都
六十五都
六十六都
六十七都
六十八都
六十九都
七十都
七十一都
七十二都
七十三都
七十四都
七十五都
七十六都
七十七都
七十八都
七十九都
八十都
八十一都
八十二都
八十三都
八十四都
八十五都
八十六都
八十七都
八十八都
八十九都
九十都
九十一都
九十二都
九十三都
九十四都
九十五都
九十六都
九十七都
九十八都
九十九都
一百都
一百一都
一百二都
一百三都
一百四都
一百五都
一百六都
一百七都
一百八都
一百九都
一百十都
一百十一都
一百十二都
一百十三都
一百十四都
一百十五都
一百十六都
一百十七都
一百十八都
一百十九都
一百二十都
一百二十一都
一百二十二都
一百二十三都
一百二十四都
一百二十五都
一百二十六都
一百二十七都
一百二十八都
一百二十九都
一百三十都
一百三十一都
一百三十二都
一百三十三都
一百三十四都
一百三十五都
一百三十六都
一百三十七都
一百三十八都
一百三十九都
一百四十都
一百四十一都
一百四十二都
一百四十三都
一百四十四都
一百四十五都
一百四十六都
一百四十七都
一百四十八都
一百四十九都
一百五十都
一百五十一都
一百五十二都
一百五十三都
一百五十四都
一百五十五都
一百五十六都
一百五十七都
一百五十八都
一百五十九都
一百六十都
一百六十一都
一百六十二都
一百六十三都
一百六十四都
一百六十五都
一百六十六都
一百六十七都
一百六十八都
一百六十九都
一百七十都
一百七十一都
一百七十二都
一百七十三都
一百七十四都
一百七十五都
一百七十六都
一百七十七都
一百七十八都
一百七十九都
一百八十都
一百八十一都
一百八十二都
一百八十三都
一百八十四都
一百八十五都
一百八十六都
一百八十七都
一百八十八都
一百八十九都
一百九十都
一百九十一都
一百九十二都
一百九十三都
一百九十四都
一百九十五都
一百九十六都
一百九十七都
一百九十八都
一百九十九都
二百都
二百一都
二百二都
二百三都
二百四都
二百五都
二百六都
二百七都
二百八都
二百九都
二百十都
二百十一都
二百十二都
二百十三都
二百十四都
二百十五都
二百十六都
二百十七都
二百十八都
二百十九都
二百二十都
二百二十一都
二百二十二都
二百二十三都
二百二十四都
二百二十五都
二百二十六都
二百二十七都
二百二十八都
二百二十九都
二百三十都
二百三十一都
二百三十二都
二百三十三都
二百三十四都
二百三十五都
二百三十六都
二百三十七都
二百三十八都
二百三十九都
二百四十都
二百四十一都
二百四十二都
二百四十三都
二百四十四都
二百四十五都
二百四十六都
二百四十七都
二百四十八都
二百四十九都
二百五十都
二百五十一都
二百五十二都
二百五十三都
二百五十四都
二百五十五都
二百五十六都
二百五十七都
二百五十八都
二百五十九都
二百六十都
二百六十一都
二百六十二都
二百六十三都
二百六十四都
二百六十五都
二百六十六都
二百六十七都
二百六十八都
二百六十九都
二百七十都
二百七十一都
二百七十二都
二百七十三都
二百七十四都
二百七十五都
二百七十六都
二百七十七都
二百七十八都
二百七十九都
二百八十都
二百八十一都
二百八十二都
二百八十三都
二百八十四都
二百八十五都
二百八十六都
二百八十七都
二百八十八都
二百八十九都
二百九十都
二百九十一都
二百九十二都
二百九十三都
二百九十四都
二百九十五都
二百九十六都
二百九十七都
二百九十八都
二百九十九都
三百都
三百一都
三百二都
三百三都
三百四都
三百五都
三百六都
三百七都
三百八都
三百九都
三百十都
三百十一都
三百十二都
三百十三都
三百十四都
三百十五都
三百十六都
三百十七都
三百十八都
三百十九都
三百二十都
三百二十一都
三百二十二都
三百二十三都
三百二十四都
三百二十五都
三百二十六都
三百二十七都
三百二十八都
三百二十九都
三百三十都
三百三十一都
三百三十二都
三百三十三都
三百三十四都
三百三十五都
三百三十六都
三百三十七都
三百三十八都
三百三十九都
三百四十都
三百四十一都
三百四十二都
三百四十三都
三百四十四都
三百四十五都
三百四十六都
三百四十七都
三百四十八都
三百四十九都
三百五十都
三百五十一都
三百五十二都
三百五十三都
三百五十四都
三百五十五都
三百五十六都
三百五十七都
三百五十八都
三百五十九都
三百六十都
三百六十一都
三百六十二都
三百六十三都
三百六十四都
三百六十五都
三百六十六都
三百六十七都
三百六十八都
三百六十九都
三百七十都
三百七十一都
三百七十二都
三百七十三都
三百七十四都
三百七十五都
三百七十六都
三百七十七都
三百七十八都
三百七十九都
三百八十都
三百八十一都
三百八十二都
三百八十三都
三百八十四都
三百八十五都
三百八十六都
三百八十七都
三百八十八都
三百八十九都
三百九十都
三百九十一都
三百九十二都
三百九十三都
三百九十四都
三百九十五都
三百九十六都
三百九十七都
三百九十八都
三百九十九都
四百都
四百一都
四百二都
四百三都
四百四都
四百五都
四百六都
四百七都
四百八都
四百九都
四百十都
四百十一都
四百十二都
四百十三都
四百十四都
四百十五都
四百十六都
四百十七都
四百十八都
四百十九都
四百二十都
四百二十一都
四百二十二都
四百二十三都
四百二十四都
四百二十五都
四百二十六都
四百二十七都
四百二十八都
四百二十九都
四百三十都
四百三十一都
四百三十二都
四百三十三都
四百三十四都
四百三十五都
四百三十六都
四百三十七都
四百三十八都
四百三十九都
四百四十都
四百四十一都
四百四十二都
四百四十三都
四百四十四都
四百四十五都
四百四十六都
四百四十七都
四百四十八都
四百四十九都
四百五十都
四百五十一都
四百五十二都
四百五十三都
四百五十四都
四百五十五都
四百五十六都
四百五十七都
四百五十八都
四百五十九都
四百六十都
四百六十一都
四百六十二都
四百六十三都
四百六十四都
四百六十五都
四百六十六都
四百六十七都
四百六十八都
四百六十九都
四百七十都
四百七十一都
四百七十二都
四百七十三都
四百七十四都
四百七十五都
四百七十六都
四百七十七都
四百七十八都
四百七十九都
四百八十都
四百八十一都
四百八十二都
四百八十三都
四百八十四都
四百八十五都
四百八十六都
四百八十七都
四百八十八都
四百八十九都
四百九十都
四百九十一都
四百九十二都
四百九十三都
四百九十四都
四百九十五都
四百九十六都
四百九十七都
四百九十八都
四百九十九都
五百都
五百一都
五百二都
五百三都
五百四都
五百五都
五百六都
五百七都
五百八都
五百九都
五百十都
五百十一都
五百十二都
五百十三都
五百十四都
五百十五都
五百十六都
五百十七都
五百十八都
五百十九都
五百二十都
五百二十一都
五百二十二都
五百二十三都
五百二十四都
五百二十五都
五百二十六都
五百二十七都
五百二十八都
五百二十九都
五百三十都
五百三十一都
五百三十二都
五百三十三都
五百三十四都
五百三十五都
五百三十六都
五百三十七都
五百三十八都
五百三十九都
五百四十都
五百四十一都
五百四十二都
五百四十三都
五百四十四都
五百四十五都
五百四十六都
五百四十七都
五百四十八都
五百四十九都
五百五十都
五百五十一都
五百五十二都
五百五十三都
五百五十四都
五百五十五都
五百五十六都
五百五十七都
五百五十八都
五百五十九都
五百六十都
五百六十一都
五百六十二都
五百六十三都
五百六十四都
五百六十五都
五百六十六都
五百六十七都
五百六十八都
五百六十九都
五百七十都
五百七十一都
五百七十二都
五百七十三都
五百七十四都
五百七十五都
五百七十六都
五百七十七都
五百七十八都
五百七十九都
五百八十都
五百八十一都
五百八十二都
五百八十三都
五百八十四都
五百八十五都
五百八十六都
五百八十七都
五百八十八都
五百八十九都
五百九十都
五百九十一都
五百九十二都
五百九十三都
五百九十四都
五百九十五都
五百九十六都
五百九十七都
五百九十八都
五百九十九都
六百都
六百一都
六百二都
六百三都
六百四都
六百五都
六百六都
六百七都
六百八都
六百九都
六百十都
六百十一都
六百十二都
六百十三都
六百十四都
六百十五都
六百十六都
六百十七都
六百十八都
六百十九都
六百二十都
六百二十一都
六百二十二都
六百二十三都
六百二十四都
六百二十五都
六百二十六都
六百二十七都
六百二十八都
六百二十九都
六百三十都
六百三十一都
六百三十二都
六百三十三都
六百三十四都
六百三十五都
六百三十六都
六百三十七都
六百三十八都
六百三十九都
六百四十都
六百四十一都
六百四十二都
六百四十三都
六百四十四都
六百四十五都
六百四十六都
六百四十七都
六百四十八都
六百四十九都
六百五十都
六百五十一都
六百五十二都
六百五十三都
六百五十四都
六百五十五都
六百五十六都
六百五十七都
六百五十八都
六百五十九都
六百六十都
六百六十一都
六百六十二都
六百六十三都
六百六十四都
六百六十五都
六百六十六都
六百六十七都
六百六十八都
六百六十九都
六百七十都
六百七十一都
六百七十二都
六百七十三都
六百七十四都
六百七十五都
六百七十六都
六百七十七都
六百七十八都
六百七十九都
六百八十都
六百八十一都
六百八十二都
六百八十三都
六百八十四都
六百八十五都
六百八十六都
六百八十七都
六百八十八都
六百八十九都
六百九十都
六百九十一都
六百九十二都
六百九十三都
六百九十四都
六百九十五都
六百九十六都
六百九十七都
六百九十八都
六百九十九都
七百都
七百一都
七百二都
七百三都
七百四都
七百五都
七百六都
七百七都
七百八都
七百九都
七百十都
七百十一都
七百十二都
七百十三都
七百十四都
七百十五都
七百十六都
七百十七都
七百十八都
七百十九都
七百二十都
七百二十一都
七百二十二都
七百二十三都
七百二十四都
七百二十五都
七百二十六都
七百二十七都
七百二十八都
七百二十九都
七百三十都
七百三十一都
七百三十二都
七百三十三都
七百三十四都
七百三十五都
七百三十六都
七百三十七都
七百三十八都
七百三十九都
七百四十都
七百四十一都
七百四十二都
七百四十三都
七百四十四都
七百四十五都
七百四十六都
七百四十七都
七百四十八都
七百四十九都
七百五十都
七百五十一都
七百五十二都
七百五十三都
七百五十四都
七百五十五都
七百五十六都
七百五十七都
七百五十八都
七百五十九都
七百六十都
七百六十一都
七百六十二都
七百六十三都
七百六十四都
七百六十五都
七百六十六都
七百六十七都
七百六十八都
七百六十九都
七百七十都
七百七十一都
七百七十二都
七百七十三都
七百七十四都
七百七十五都
七百七十六都
七百七十七都
七百七十八都
七百七十九都
七百八十都
七百八十一都
七百八十二都
七百八十三都
七百八十四都
七百八十五都
七百八十六都
七百八十七都
七百八十八都
七百八十九都
七百九十都
七百九十一都
七百九十二都
七百九十三都
七百九十四都
七百九十五都
七百九十六都
七百九十七都
七百九十八都
七百九十九都
八百都
八百一都
八百二都
八百三都
八百四都
八百五都
八百六都
八百七都
八百八都
八百九都
八百十都
八百十一都
八百十二都
八百十三都
八百十四都
八百十五都
八百十六都
八百十七都
八百十八都
八百十九都
八百二十都
八百二十一都
八百二十二都
八百二十三都
八百二十四都
八百二十五都
八百二十六都
八百二十七都
八百二十八都
八百二十九都
八百三十都
八百三十一都
八百三十二都
八百三十三都
八百三十四都
八百三十五都
八百三十六都
八百三十七都
八百三十八都
八百三十九都
八百四十都
八百四十一都
八百四十二都
八百四十三都
八百四十四都
八百四十五都
八百四十六都
八百四十七都
八百四十八都
八百四十九都
八百五十都
八百五十一都
八百五十二都
八百五十三都
八百五十四都
八百五十五都
八百五十六都
八百五十七都
八百五十八都
八百五十九都
八百六十都
八百六十一都
八百六十二都
八百六十三都
八百六十四都
八百六十五都
八百六十六都
八百六十七都
八百六十八都
八百六十九都
八百七十都
八百七十一都
八百七十二都
八百七十三都
八百七十四都
八百七十五都
八百七十六都
八百七十七都
八百七十八都
八百七十九都
八百八十都
八百八十一都
八百八十二都
八百八十三都
八百八十四都
八百八十五都
八百八十六都
八百八十七都
八百八十八都
八百八十九都
八百九十都
八百九十一都
八百九十二都
八百九十三都
八百九十四都
八百九十五都
八百九十六都
八百九十七都
八百九十八都
八百九十九都
九百都
九百一都
九百二都
九百三都
九百四都
九百五都
九百六都
九百七都
九百八都
九百九都
九百十都
九百十一都
九百十二都
九百十三都
九百十四都
九百十五都
九百十六都
九百十七都
九百十八都
九百十九都
九百二十都
九百二十一都
九百二十二都
九百二十三都
九百二十四都
九百二十五都
九百二十六都
九百二十七都
九百二十八都
九百二十九都
九百三十都
九百三十一都
九百三十二都
九百三十三都
九百三十四都
九百三十五都
九百三十六都
九百三十七都
九百三十八都
九百三十九都
九百四十都
九百四十一都
九百四十二都
九百四十三都
九百四十四都
九百四十五都
九百四十六都
九百四十七都
九百四十八都
九百四十九都
九百五十都
九百五十一都
九百五十二都
九百五十三都
九百五十四都
九百五十五都
九百五十六都
九百五十七都
九百五十八都
九百五十九都
九百六十都
九百六十一都
九百六十二都
九百六十三都
九百六十四都
九百六十五都
九百六十六都
九百六十七都
九百六十八都
九百六十九都
九百七十都
九百七十一都
九百七十二都
九百七十三都
九百七十四都
九百七十五都
九百七十六都
九百七十七都
九百七十八都
九百七十九都
九百八十都
九百八十一都
九百八十二都
九百八十三都
九百八十四都
九百八十五都
九百八十六都
九百八十七都
九百八十八都
九百八十九都
九百九十都
九百九十一都
九百九十二都
九百九十三都
九百九十四都
九百九十五都
九百九十六都
九百九十七都
九百九十八都
九百九十九都
一千都
一千一都
一千二都
一千三都
一千四都
一千五都
一千六都
一千七都
一千八都
一千九都
一千十都
一千十一都
一千十二都
一千十三都
一千十四都
一千十五都
一千十六都
一千十七都
一千十八都
一千十九都
一千二十都
一千二十一都
一千二十二都
一千二十三都
一千二十四都
一千二十五都
一千二十六都
一千二十七都
一千二十八都
一千二十九都
一千三十都
一千三十一都
一千三十二都
一千三十三都
一千三十四都
一千三十五都
一千三十六都
一千三十七都
一千三十八都
一千三十九都
一千四十都
一千四十一都
一千四十二都
一千四十三都
一千四十四都
一千四十五都
一千四十六都
一千四十七都
一千四十八都
一千四十九都
一千五十都
一千五十一都
一千五十二都
一千五十三都
一千五十四都
一千五十五都
一千五十六都
一千五十七都
一千五十八都
一千五十九都
一千六十都
一千六十一都
一千六十二都
一千六十三都
一千六十四都
一千六十五都
一千六十六都
一千六十七都
一千六十八都
一千六十九都
一千七十都
一千七十一都
一千七十二都
一千七十三都
一千七十四都
一千七十五都
一千七十六都
一千七十七都
一千七十八都
一千七十九都
一千八十都
一千八十一都
一千八十二都
一千八十三都
一千八十四都
一千八十五都
一千八十六都
一千八十七都
一千八十八都
一千八十九都
一千九十都
一千九十一都
一千九十二都
一千九十三都
一千九十四都
一千九十五都
一千九十六都
一千九十七都
一千九十八都
一千九十九都
一千一百都
一千一百一都
一千一百二都
一千一百三都
一千一百四都
一千一百五都
一千一百六都
一千一百七都
一千一百八都
一千一百九都
一千一百十都
一千一百十一都
一千一百十二都
一千一百十三都
一千一百十四都
一千一百十五都
一千一百十六都
一千一百十七都
一千一百十八都
一千一百十九都
一千一百二十都
一千一百二十一都
一千一百二十二都
一千一百二十三都
一千一百二十四都
一千一百二十五都
一千一百二十六都
一千一百二十七都
一千一百二十八都
一千一百二十九都
一千一百三十都
一千一百三十一都
一千一百三十二都
一千一百三十三都
一千一百三十四都
一千一百三十五都
一千一百三十六都
一千一百三十七都
一千一百三十八都
一千一百三十九都
一千一百四十都
一千一百四十一都
一千一百四十二都
一千一百四十三都
一千一百四十四都
一千一百四十五都
一千一百四十六都
一千一百四十七都
一千一百四十八都
一千一百四十九都
一千一百五十都
一千一百五十一都
一千一百五十二都
一千一百五十三都
一千一百五十四都
一千一百五十五都
一千一百五十六都
一千一百五十七都
一千一百五十八都
一千一百五十九都
一千一百六十都
一千一百六十一都
一千一百六十二都
一千一百六十三都
一千一百六十四都
一千一百六十五都
一千一百六十六都
一千一百六十七都
一千一百六十八都
一千一百六十九都
一千一百七十都
一千一百七十一都
一千一百七十二都
一千一百七十三都
一千一百七十四都
一千一百七十五都
一千一百七十六都
一千一百七十七都
一千一百七十八都
一千一百七十九都
一千一百八十都
一千一百八十一都
一千一百八十二都
一千一百八十三都
一千一百八十四都
一千一百八十五都
一千一百八十六都
一千一百八十七都
一千一百八十八都
一千一百八十九都
一千一百九十都
一千一百九十一都
一千一百九十二都
一千一百九十三都
一千一百九十四都
一千一百九十五都
一千一百九十六都
一千一百九十七都
一千一百九十八都
一千一百九十九都
一千二百都
一千二百一都
一千二百二都
一千二百三都
一千二百四都
一千二百五都
一千二百六都
一千二百七都
一千二百八都
一千二百九都
一千二百十都
一千二百十一都
一千二百十二都
一千二百十三都
一千二百十四都
一千二百十五都
一千二百十六都
一千二百十七都
一千二百十八都
一千二百十九都
一千二百二十都
一千二百二十一都
一千二百二十二都
一千二百二十三都
一千二百二十四都
一千二百二十五都
一千二百二十六都
一千二百二十七都
一千二百二十八都
一千二百二十九都
一千二百三十都
一千二百三十一都
一千二百三十二都
一千二百三十三都
一千二百三十四都
一千二百三十五都
一千二百三十六都
一千二百三十七都
一千二百三十八都
一千二百三十九都
一千二百四十都
一千二百四十一都
一千二百四十二都
一千二百四十三都
一千二百四十四都
一千二百四十五都
一千二百四十六都
一千二百四十七都
一千二百四十八都
一千二百四十九都
一千二百五十都
一千二百五十一都
一千二百五十二都
一千二百五十三都
一千二百五十四都
一千二百五十五都
一千二百五十六都
一千二百五十七都
一千二百五十八都
一千二百五十九都
一千二百六十都
一千二百六十一都
一千二百六十二都
一千二百六十三都
一千二百六十四都
一千二百六十五都
一千二百六十六都
一千二百六十七都
一千二百六十八都
一千二百六十九都
一千二百七十都
一千二百七十一都
一千二百七十二都
一千二百七十三都
一千二百七十四都
一千二百七十五都
一千二百七十六都
一千二百七十七都
一千二百七十八都
一千二百七十九都
一千二百八十都
一千二百八十一都
一千二百八十二都
一千二百八十三都
一千二百八十四都
一千二百八十五都
一千二百八十六都
一千二百八十七都
一千二百八十八都
一千二百八十九都
一千二百九十都
一千二百九十一都
一千二百九十二都
一千二百九十三都
一千二百九十四都
一千二百九十五都
一千二百九十六都
一千二百九十七都
一千二百九十八都
一千二百九十九都
一千三百都
一千三百一都
一千三百二都
一千三百三都
一千三百四都
一千三百五都
一千三百六都
一千三百七都
一千三百八都
一千三百九都
一千三百十都
一千三百十一都
一千三百十二都
一千三百十三都
一千三百十四都
一千三百十五都
一千三百十六都
一千三百十七都
一千三百十八都
一千三百十九都
一千三百二十都
一千三百二十一都
一千三百二十二都
一千三百二十三都
一千三百二十四都
一千三百二十五都
一千三百二十六都
一千三百二十七都
一千三百二十八都
一千三百二十九都
一千三百三十都
一千三百三十一都
一千三百三十二都
一千三百三十三都
一千三百三十四都
一千三百三十五都
一千三百三十六都
一千三百三十七都
一千三百三十八都
一千三百三十九都
一千三百四十都
一千三百四十一都
一千三百四十二都
一千三百四十三都
一千三百四十四都
一千三百四十五都
一千三百四十六都
一千三百四十七都
一千三百四十八都
一千三百四十九都
一千三百五十都
一千三百五十一都
一千三百五十二都
一千三百五十三都
一千三百五十四都
一千三百五十五都
一千三百五十六都
一千三百五十七都
一千三百五十八都
一千三百五十九都
一千三百六十都
一千三百六十一都
一千三百六十二都
一千三百六十三都
一千三百六十四都
一千三百六十五都
一千三百六十六都
一千三百六十七都
一千三百六十八都
一千三百六十九都
一千三百七十都
一千三百七十一都
一千三百七十二都
一千三百七十三都
一千三百七十四都
一千三百七十五都
一千三百七十六都
一千三百七十七都
一千三百七十八都
一千三百七十九都
一千三百八十都
一千三百八十一都
一千三百八十二都
一千三百八十三都
一千三百八十四都
一千三百八十五都
一千三百八十六都
一千三百八十七都
一千三百八十八都
一千三百八十九都
一千三百九十都
一千三百九十一都
一千三百九十二都
一千三百九十三都
一千三百九十四都
一千三百九十五都
一千三百九十六都
一千三百九十七都
一千三百九十八都
一千三百九十九都
一千四百都
一千四百一都
一千四百二都
一千四百三都
一千四百四都
一千四百五都
一千四百六都
一千四百七都
一千四百八都
一千四百九都
一千四百十都
一千四百十一都
一千四百十二都
一千四百十三都
一千四百十四都
一千四百十五都
一千四百十六都
一千四百十七都
一千四百十八都
一千四百十九都
一千四百二十都
一千四百二十一都
一千四百二十二都
一千四百二十三都
一千四百二十四都
一千四百二十五都
一千四百二十六都
一千四百二十七都
一千四百二十八都
一千四百二十九都
一千四百三十都
一千四百三十一都
一千四百三十二都
一千四百三十三都
一千四百三十四都
一千四百三十五都
一千四百三十六都
一千四百三十七都
一千四百三十八都
一千四百三十九都
一千四百四十都
一千四百四十一都
一千四百四十二都
一千四百四十三都
一千四百四十四都
一千四百四十五都
一千四百四十六都
一千四百四十七都
一千四百四十八都
一千四百四十九都
一千四百五十都
一千四百五十一都
一千四百五十二都
一千四百五十三都
一千四百五十四都
一千四百五十五都
一千四百五十六都
一千四百五十七都
一千四百五十八都
一千四百五十九都
一千四百六十都
一千四百六十一都
一千四百六十二都
一千四百六十三都
一千四百六十四都
一千四百六十五都
一千四百六十六都
一千四百六十七都
一千四百六十八都
一千四百六十九都
一千四百七十都
一千四百七十一都
一千四百七十二都
一千四百七十三都
一千四百七十四都
一千四百七十五都
一千四百七十六都
一千四百七十七都
一千四百七十八都
一千四百七十九都
一千四百八十都
一千四百八十一都
一千四百八十二都
一千四百八十三都
一千四百八十四都
一千四百八十五都
一千四百八十六都
一千四百八十七都
一千四百八十八都
一千四百八十九都
一千四百九十都
一千四百九十一都
一千四百九十二都
一千四百九十三都
一千四百九十四都
一千四百九十五都
一千四百九十六都
一千四百九十七都
一千四百九十八都
一千四百九十九都
一千五百都
一千五百一都
一千五百二都
一千五百三都
一千五百四都
一千五百五都
一千五百六都
一千五百七都
一千五百八都
一千五百九都
一千五百十都
一千五百十一都
一千五百十二都
一千五百十三都
一千五百十四都
一千五百十五都
一千五百十六都
一千五百十七都
一千五百十八都
一千五百十九都
一千五百二十都
一千五百二十一都
一千五百二十二都
一千五百二十三都
一千五百二十四都
一千五百二十五都
一千五百二十六都
一千五百二十七都
一千五百二十八都
一千五百二十九都
一千五百三十都
一千五百三十一都
一千五百三十二都
一千五百三十三都
一千五百三十四都
一千五百三十五都
一千五百三十六都
一千五百三十七都
一千五百三十八都
一千五百三十九都
一千五百四十都
一千五百四十一都
一千五百四十二都
一千五百四十三都
一千五百四十四都
一千五百四十五都
一千五百四十六都
一千五百四十七都
一千五百四十八都
一千五百四十九都
一千五百五十都
一千五百五十一都
一千五百五十二都
一千五百五十三都
一千五百五十四都
一千五百五十五都
一千五百五十六都
一千五百五十七都
一千五百五十八都
一千五百五十九都
一千五百六十都
一千五百六十一都
一千五百六十二都
一千五百六十三都
一千五百六十四都
一千五百六十五都
一千五百六十六都
一千五百六十七都
一千五百六十八都
一千五百六十九都
一千五百七十都
一千五百七十一都
一千五百七十二都
一千五百七十三都
一千五百七十四都
一千五百七十五都
一千五百七十六都
一千五百七十七都
一千五百七十八都
一千五百七十九都
一千五百八十都
一千五百八十一都
一千五百八十二都
一千五百八十三都
一千五百八十四都
一千五百八十五都
一千五百八十六都
一千五百八十七都
一千五百八十八都
一千五百八十九都
一千五百九十都
一千五百九十一都
一千五百九十二都
一千五百九十三都
一千五百九十四都
一千五百九十五都
一千五百九十六都
一千五百九十七都
一千五百九十八都
一千五百九十九都
一千六百都
一千六百一都
一千六百二都
一千六百三都
一千六百四都
一千六百五都
一千六百六都
一千六百七都
一千六百八都
一千六百九都
一千六百十都
一千六百十一都
一千六百十二都
一千六百十三都
一千六百十四都
一千六百十五都
一千六百十六都
一千六百十七都
一千六百十八都
一千六百十九都
一千六百二十都
一千六百二十一都
一千六百二十二都
一千六百二十三都
一千六百二十四都
一千六百二十五都
一千六百二十六都
一千六百二十七都
一千六百二十八都
一千六百二十九都
一千六百三十都
一千六百三十一都
一千六百三十二都
一千六百三十三都
一千六百三十四都
一千六百三十五都
一千六百三十六都
一千六百三十七都
一千六百三十八都
一千六百三十九都
一千六百四十都
一千六百四十一都
一千六百四十二都
一千六百四十三都
一千六百四十四都
一千六百四十五都
一千六百四十六都
一千六百四十七都
一千六百四十八都
一千六百四十九都
一千六百五十都
一千六百五十一都
一千六百五十二都
一千六百五十三都
一千六百五十四都
一千六百五十五都
一千六百五十六都
一千六百五十七都
一千六百五十八都
一千六百五十九都
一千六百六十都
一千六百六十一都
一千六百六十二都
一千六百六十三都
一千六百六十四都
一千六百六十五都
一千六百六十六都
一千六百六十七都
一千六百六十八都
一千六百六十九都
一千六百七十都
一千六百七十一都
一千六百七十二都
一千六百七十三都
一千六百七十四都
一千六百七十五都
一千六百七十六都
一千六百七十七都
一千六百七十八都
一千六百七十九都
一千六百八十都
一千六百八十一都
一千六百八十二都
一千六百八十三都
一千六百八十四都
一千六百八十五都
一千六百八十六都
一千六百八十七都
一千六百八十八都
一千六百八十九都
一千六百九十都
一千六百九十一都
一千六百九十二都
一千六百九十三都
一千六百九十四都
一千六百九十五都
一千六百九十六都
一千六百九十七都
一千六百九十八都
一千六百九十九都
一千七百都
一千七百一都
一千七百二都
一千七百三都
一千七百四都
一千七百五都
一千七百六都
一千七百七都
一千七百八都
一千七百九都
一千七百十都
一千七百十一都
一千七百十二都
一千七百十三都
一千七百十四都
一千七百十五都
一千七百十六都
一千七百十七都
一千七百十八都
一千七百十九都
一千七百二十都
一千七百二十一都
一千七百二十二都
一千七百二十三都
一千七百二十四都
一千七百二十五都
一千七百二十六都
一千七百二十七都
一千七百二十八都
一千七百二十九都
一千七百三十都
一千七百三十一都
一千七百三十二都
一千七百三十三都
一千七百三十四都
一千七百三十五都
一千七百三十六都
一千七百三十七都
一千七百三十八都
一千七百三十九都
一千七百四十都
一千七百四十一都
一千七百四十二都
一千七百四十三都
一千七百四十四都
一千七百四十五都
一千七百四十六都
一千七百四十七都
一千七百四十八都
一千七百四十九都
一千七百五十都
一千七百五十一都
一千七百五十二都
一千七百五十三都
一千七百五十四都
一千七百五十五都
一千七百五十六都
一千七百五十七都
一千七百五十八都
一千七百五十九都
一千七百六十都
一千七百六十一都
一千七百六十二都
一千七百六十三都
一千七百六十四都
一千七百六十五都
一千七百六十六都
一千七百六十七都
一千七百六十八都
一千七百六十九都
一千七百七十都
一千七百七十一都
一千七百七十二都
一千七百七十三都
一千七百七十四都
一千七百七十五都
一千七百七十六都
一千七百七十七都
一千七百七十八都
一千七百七十九都
一千七百八十都
一千七百八十一都
一千七百八十二都
一千七百八十三都
一千七百八十四都
一千七百八十五都
一千七百八十六都
一千七百八十七都
一千七百八十八都
一千七百八十九都
一千七百九十都
一千七百九十一都
一千七百九十二都
一千七百九十三都
一千七百九十四都
一千七百九十五都
一千七百九十六都
一千七百九十七都
一千七百九十八都
一千七百九十九都
一千八百都
一千八百一都
一千八百二都
一千八百三都
一千八百四都
一千八百五都
一千八百六都
一千八百七都
一千八百八都
一千八百九都
一千八百十都
一千八百十一都
一千八百十二都
一千八百十三都
一千八百十四都
一千八百十五都
一千八百十六都
一千八百十七都
一千八百十八都
一千八百十九都
一千八百二十都
一千八百二十一都
一千八百二十二都
一千八百二十三都
一千八百二十四都
一千八百二十五都
一千八百二十六都
一千八百二十七都
一千八百二十八都
一千八百二十九都
一千八百三十都
一千八百三十一都
一千八百三十二都
一千八百三十三都
一千八百三十四都
一千八百三十五都
一千八百三十六都
一千八百三十七都
一千八百三十八都
一千八百三十九都
一千八百四十都
一千八百四十一都
一千八百四十二都
一千八百四十三都
一千八百四十四都
一千八百四十五都
一千八百四十六都
一千八百四十七都
一千八百四十八都
一千八百四十九都
一千八百五十都
一千八百五十一都
一千八百五十二都
一千八百五十三都
一千八百五十四都
一千八百五十五都
一千八百五十六都
一千八百五十七都
一千八百五十八都
一千八百五十九都
一千八百六十都
一千八百六十一都
一千八百六十二都
一千八百六十三都
一千八百六十四都
一千八百六十五都
一千八百六十六都
一千八百六十七都
一千八百六十八都
一千八百六十九都
一千八百七十都
一千八百七十一都
一千八百七十二都
一千八百七十三都
一千八百七十四都
一千八百七十五都
一千八百七十六都
一千八百七十七都
一千八百七十八都
一千八百七十九都
一千八百八十都
一千八百八十一都
一千八百八十二都
一千八百八十三都
一千八百八十四都
一千八百八十五都
一千八百八十六都
一千八百八十七都
一千八百八十八都
一千八百八十九都
一千八百九十都
一千八百九十一都
一千八百九十二都
一千八百九十三都
一千八百九十四都
一千八百九十五都
一千八百九十六都
一千八百九十七都
一千八百九十八都
一千八百九十九都
一千九百都
一千九百一都
一千九百二都
一千九百三都
一千九百四都
一千九百五都
一千九百六都
一千九百七都
一千九百八都
一千九百九都
一千九百十都
一千九百十一都
一千九百十二都
一千九百十三都
一千九百十四都
一千九百十五都
一千九百十六都
一千九百十七都
一千九百十八都
一千九百十九都
一千九百二十都
一千九百二十一都
一千九百二十二都
一千九百二十三都
一千九百二十四都
一千九百二十五都
一千九百二十六都
一千九百二十七都
一千九百二十八都
一千九百二十九都
一千九百三十都
一千九百三十一都
一千九百三十二都
一千九百三十三都
一千九百三十四都
一千九百三十五都
一千九百三十六都
一千九百三十七都
一千九百三十八都
一千九百三十九都
一千九百四十都
一千九百四十一都
一千九百四十二都
一千九百四十三都
一千九百四十四都
一千九百四十五都
一千九百四十六都
一千九百四十七都
一千九百四十八都
一千九百四十九都
一千九百五十都
一千九百五十一都
一千九百五十二都
一千九百五十三都
一千九百五十四都
一千九百五十五都
一千九百五十六都
一千九百五十七都
一千九百五十八都
一千九百五十九都
一千九百六十都
一千九百六十一都
一千九百六十二都
一千九百六十三都
一千九百六十四都
一千九百六十五都
一千九百六十六都
一千九百六十七都
一千九百六十八都
一千九百六十九都
一千九百七十都
一千九百七十一都
一千九百七十二都
一千九百七十三都
一千九百七十四都
一千九百七十五都
一千九百七十六都
一千九百七十七都
一千九百七十八都
一千九百七十九都
一千九百八十都
一千九百八十一都
一千九百八十二都
一千九百八十三都
一千九百八十四都
一千九百八十五都
一千九百八十六都
一千九百八十七都
一千九百八十八都
一千九百八十九都
一千九百九十都
一千九百九十一都
一千九百九十二都
一千九百九十三都
一千九百九十四都
一千九百九十五都
一千九百九十六都
一千九百九十七都
一千九百九十八都
一千九百九十九都
二千都
二千一都
二千二都
二千三都
二千四都
二千五都
二千六都
二千七都
二千八都
二千九都
二千十都
二千十一都
二千十二都
二千十三都
二千十四都
二千十五都
二千十六都
二千十七都
二千十八都
二千十九都
二千二十都
二千二十一都
二千二十二都
二千二十三都
二千二十四都
二千二十五都
二千二十六都
二千二十七都
二千二十八都
二千二十九都
二千三十都
二千三十一都
二千三十二都
二千三十三都
二千三十四都
二千三十五都
二千三十六都
二千三十七都
二千三十八都
二千三十九都
二千四十都
二千四十一都
二千四十二都
二千四十三都
二千四十四都
二千四十五都
二千四十六都
二千四十七都
二千四十八都
二千四十九都
二千五十都
二千五十一都
二千五十二都
二千五十三都
二千五十四都
二千五十五都
二千五十六都
二千五十七都
二千五十八都
二千五十九都
二千六十都
二千六十一都
二千六十二都
二千六十三都
二千六十四都
二千六十五都
二千六十六都
二千六十七都
二千六十八都
二千六十九都
二千七十都
二千七十一都
二千七十二都
二千七十三都
二千七十四都
二千七十五都
二千七十六都
二千七十七都
二千七十八都
二千七十九都
二千八十都
二千八十一都
二千八十二都
二千八十三都
二千八十四都
二千八十五都
二千八十六都
二千八十七都
二千八十八都
二千八十九都
二千九十都
二千九十一都
二千九十二都
二千九十三都
二千九十四都
二千九十五都
二千九十六都
二千九十七都
二千九十八都
二千九十九都
二千一百都
二千一百一都
二千一百二都
二千一百三都
二千一百四都
二千一百五都
二千一百六都
二千一百七都
二千一百八都
二千一百九都
二千一百十都
二千一百十一都
二千一百十二都
二千一百十三都
二千一百十四都
二千一百十五都
二千一百十六都
二千一百十七都
二千一百十八都
二千一百十九都
二千一百二十都
二千一百二十一都
二千一百二十二都
二千一百二十三都
二千一百二十四都
二千一百二十五都
二千一百二十六都
二千一百二十七都
二千一百二十八都
二千一百二十九都
二千一百三十都
二千一百三十一都
二千一百三十二都
二千一百三十三都
二千一百三十四都
二千一百三十五都
二千一百三十六都
二千一百三十七都
二千一百三十八都
二千一百三十九都
二千一百四十都
二千一百四十一都
二千一百四十二都
二千一百四十三都
二千一百四十四都
二千一百四十五都
二千一百四十六都
二千一百四十七都
二千一百四十八都
二千一百四十九都
二千一百五十都
二千一百五十一都
二千一百五十二都
二千一百五十三都
二千一百五十四都
二千一百五十五都
二千一百五十六都
二千一百五十七都
二千一百五十八都
二千一百五十九都
二千一百六十都
二千一百六十一都
二千一百六十二都
二千一百六十三都
二千一百六十四

明少保新安胡宗憲輯議　孫鑿入胡燈重校　崑山鄭若曾編次

福建兵防官考

總督軍門　駐浙江

提督軍務兼巡撫都御史　福建原無巡撫因倭亂而設駐劄福州

巡按福建監察御史　勅兼紀功

巡視海道副使

福州兵備副使

興泉兵備副使

汀漳兵備副使

北路參將　自福寧州起直至寧德縣蠻灣地方止皆其信地

中路參將　自蠻灣起直至泉州府祥芝地方止皆其信地

南路參將　自祥芝起直至廣東交界止皆其信地

遊擊將軍

汀漳守備

行都指揮司

銅山水寨把總

浯嶼水寨把總

南日水寨把總

小埕水寨把總

烽火門水寨把總

沿海衛所

鎮海衛　旗軍一千五百八屯軍

六鰲所　旗軍一千人屯軍四十二人

徽人黃密

福州左衛旗軍屯軍一千六百九十七人

中左所旗軍屯軍

永寧衛內所五共旗軍五千人屯軍七百八十四人

金門所旗軍一千人屯軍一百三十八

福全所旗軍一千人屯軍二百二十四人

崇武所旗軍一千人屯軍二百二十四人

平海衛

靑禧所旗軍屯軍

鎮東衛旗軍屯軍一千四百三十二人

萬安所旗軍屯軍

梅花所旗軍屯軍

福寧衛旗軍屯軍七百一十七人

定海所旗軍屯軍

大金所旗軍屯軍

沿海巡檢司

漳州府

洪淡　後葛

金石　古雷

盤陀　九龍

靑山　漳浦

小景　井尾

島尾　海門

柳營　濠門

泉州府

苧溪　高浦
塔頭　烈嶼
官澳　峰上
田浦　陳坑
圖頭　烏潭
深滬　祥芝
獺窟　黃崎

興化府
小岬　吉了
嶼頭　青山
中心　迎仙

福州府
壁頭　牛頭
澤朗　松下
小社　石梁
閩安鎮　官毋嶼
北茭

福寧州
延迂　松山
青灣　大筼筜
水澳　蘆門

沿海關寨臺烽堠
漳州府

水寨二

銅山西門澳 每歲分鎮海衛玄鍾陸鰲二所官軍一千八百六十員名更番備倭領於把總以都指揮行事

玄鍾 每歲分鎮海衛并銅山陸鰲二所官軍一千一百員名更番備倭領於衛總受銅山把總節制

瞭望臺二

陸鰲 玄鍾

烽堠十二

南山 東灣 新山
黃崎 洋林 塩倉
流會 安集 洪丘 峯山
白塘 小澳

泉州府

水寨二

浯嶼 原在海外今移入夏門澳每歲分永寧漳州二衛官軍二千八百九十八員名更番備倭領於把總指揮以控泉洲郡之南境

烽堠四十四

高浦 劉山 經山
井上 東渡 龍淵
流礁 溪東 下吳
白石頭 石井 蕭下
夏門街內 潘徑 石牌
溢圍 葉了 洋下
石頭 安平 埕塘
陳坑 古雲 白沙 赤山
青山 白崎 古樓
柯山 後任 大山
大旂 下頭 尖山 高山
峯尾 後黃
海頭 東門外

興化府

水寨一

南日山 原在泉州府海外呂泰中奏移於蕭田之吉了澳宮府文移仍以南日山水寨稱管寨事有把總分管寨事有衛總每歲分與化平海泉州三衛官軍一千五百十人更番備倭

烽堠四十五

崎頭 大洪
吉了 渡邊 塔林
塔山

文甲山　西山　前林邊　礵山上歐
吳山　砂山　東山柄　石獅下徐湖邊
大嶼小灣　毅成山　石城
登港東林　埋頭山後浦山　岐頭蠔山　後埔茶浦
鯽魚近仙　東蔡山岩沁山　支頭基山　峯嶺尖頭山
山西山口　三江

福州府

水寨一

小埕　每歲分附近衛所軍士更番備倭方岳重臣會推指揮之有才署者總督之

瞭望臺一　茶林

烽堠西十四

洪坑　墜頭　前村
蟹嶼　車盤　搭山
前溪　仙岩　白鶴　馬頭
後營　楓嶼　龍下　大垃
大壞　陳塲　峯前　山崎
石門　潮井　松下　嶼頭

福寧州

水寨一

烽火門　今移入豐山地方

烽堠三十八

蕉山　山前　下嶼　駙山
斗湖　陸石　潭西　程角
桃源　黃崎　畢頭　官塢
官海　黃崎　長崎　大埕
北茭

下簞　下浒　石湖
關崎　車安　羅浮
閭峽　搭尾　界石　南山
劉金　小南　青山　積石
長沙　沙松　後崎　離智
東壁　臺灣　賴離　烽火
三山　北山頂　梅花　大峯
古縣　大青畫　金家　南金
黃崎　小青畫　白岩　水灣
白露　南嶺　沙埕

嘉靖二十七年正月海寇許二引倭入寇七月官兵討平之

先是賊首許二糾奄船聚浙江之雙嶼港大爲福興諸府沿海患

上命都御史朱公綸勒之三月朱公以都司盧鏜帥福清兵船泊溫州之海門把總俞亨統燕山兵船協助之以備福寧之北境海道副使柯喬統福清兵船泊寧州專備海戰以遏南逸入廣之路副使翁學淵駐福寧州僉事余嬪駐泉州備倭黎秀駐金門所把總孫敖駐流江各分信地水陸截捕仍嚴保甲之令搜羅按濟奸人○四月鏜分兵與賊戰於九山大洋百戶張樺衝其前指揮張漢等繞之大敗賊衆俘斬稽天新四郎等五十五名顆溺死者無算○六月賊攻沙頭罾及衝大担外嶼者再柯喬禦之嚴賊乃遁去賊首許二流劫北茭羅浮同知張魯把總王麟指揮閔溶張文昊千戶王顯王鑾禦之○七月許二與倭合謀以拒官兵麟等率兵鏖戰自寅至午擒斬八十有奇賊錯愕投水死者千數餘乘潮遁去

三十四年十一月賊攻鎮東衛城官兵禦之千戶戴洪

高懷德張鑾等死之

賊自莆田白湖江登犯過涵頭至海口十三日攻衛城洪與懷德各率軍出戰張鑾遇賊於路皆殺於行陣平海衛千戶楊一茂白仁丘球追賊及於東岳山大敗倭衆一茂等亦戰死

三十五年三月備倭劉介千戶王月與賊戰於石壁嶺死之賊亦敗遁

福清海口之賊過至西鄉官兵追之斬其衣紅賊首一人賊敗走於與月率兵欲伏石壁嶺邀擊之未及設伏遇賊突至山路屈曲遂至敗殺賊流遁福寧州之竹嶼孫山官兵追之或火攻或伏弩賊輒敗走參將尹鳳預置藥酒於胡坪賊中毒者數十人四月及於倒山又破之賊遂入浙江

三十六年三月賊犯省城

賊於舊曠自連江洪登陸就據爲巢至是復自流江至小埕水寨逐犯省城沿城焚掠據城戰鬬二十有奇又焚燬四十餘畝

十月賊攻連江縣官兵擊退之賊乃宵遁

先是北港原屯倭寇進無所掠乃遁出洋遇颶至
賊船遂會舶進攻連江官兵以失石隨其精銳者四
人明日分門四進又擊敗
之乃夜遁如拱嶼洋出洋

三十七年四月賊入安海城官兵追擊大敗之

賊入城居民拒之不得掠僉事盛唐參將熊鵬舉等
分兵逐之賊遁至唐店官兵連戰皆捷至水涵賊遁
出海水兵又擊
敗之沉其二舟

陷福清縣

賊犯閩安鎮爲參將尹鳳所敗進攻福清攄門外
山頭用砲乘高擊壞雉堞城遂陷居二日而出

攻興化府

賊自福清進攻府城城越翼日不退廣兵及鳥銃手殪
其乘馬衣紅賊首一人從賊四十餘各兵出城追之
賊遂
敗走

攻惠安縣

賊自興化爲官兵敵退遂至惠安攻城有自水涵潛
入者官兵覺而殺之於是連攻五晝夜皆被官兵敵

敗賊死者百餘人乃遁官兵截之於
洛陽橋又大勝之斬首五十有奇

五月賊攻泉州府

賊復自惠安進犯府城巡按御
史樊公獻科自督兵敵退之

入南安縣

縣故無城知縣余尤裕統民兵禦之遂被突入時居
民已遷避賊所掠官兵追擊之乃遁從晉江海遁
據船出
海而去

攻崇武所

賊別舸之新到者攻
所城九五日而後解

天犯惠安知縣林咸與戰死之

賊自崇武分突惠安永寧等地方咸率兵
與戰陣亡官兵繼至擊敗賊衆賊乃退遁

攻鎮夷衛城提督都御史王公詢遣兵追擊大敗之

賊三千餘人自松下突入海口灣登陸攻衛城者二
日監父所屯城千餘全軍突入攻城幾不守時副中南

先是北港原屯倭寇進無所掠乃遁出洋遇颶至
賊船遂會艘進攻連江官兵以失石隨其精銳者四
人明日分門四進又擊敗
之乃夜遁如拱嶼洋出洋

三十七年四月賊入安海城官兵追擊大敗之

賊入城居民拒之不得掠僉事盛唐參將熊鵬舉等
分兵逐之賊遁至陳店官兵連戰皆捷至水涵賊遁
出海水兵又擊
敗之沉其二舟

陷福清縣

賊犯閩安鎮爲參將尹鳳所敗進攻福清攄門外
山頭用砲乘高擊壞雉堞城遂陷居二日而出

攻興化府

賊自福清進攻府城城越翼日不退廣兵及鳥銃手殪
其乘馬衣紅賊首一人從賊四十餘各兵出城追之
賊遂
敗走

攻惠安縣

賊自興化爲官兵敵退遂至惠安攻城有自水涵潛
入者官兵覺而殺之於是連攻五晝夜皆被官兵敵

敗賊死者百餘人乃遁官兵截之於
洛陽橋又大勝之斬首五十有奇

五月賊攻泉州府

賊復自惠安進犯府城巡按御
史樊公獻科自督兵敵退之

入南安縣

縣故無城知縣徐光裕統民兵禦之遂被突入時居
民已遷避賊所掠官兵追擊之乃遁從晉江海遁
據船出
海而去

攻崇武所

賊別艘之新到者攻
所城九五日而後解

突犯惠安知縣林咸與戰死之

賊自崇武分突惠安永寧等地方咸率兵
與戰陣亡官兵繼至擊敗賊衆賊乃退遁

攻鎮夷衛城提督都御史王公詢遣兵追擊大敗之

賊三千餘人自松下突入海口灣登陸攻衛城者二
日監父所屯城千餘全軍突攻城幾不守時閩中南

山老連年引倭入寇分踪四掠麟等兵船按伏海上賊由洋芝石湖南尋出海者麟追敗之于大嶝島近自峯頭灣出海者都指揮唐修澄追敗之于野馬洋自閩安洪塘出者參將尹鳳備倭張僑追敗之於梅花外洋山老就擒賊舟沉者七十八艘死者數千人而洪澤珍之徒亦自燬其巢遁去

十二月官兵會擊上逕之賊大敗之

先是賊徒四千餘人自海壇山登犯副使張情參將曾淸督兵勦逐屢摧其鋒賊乃移屯上逕蔓延日久提督都御史王公詢巡按御史樊公獻科令會事萬民英參將王麟把總朱先等期期旦擒鬼至期官兵夾擊之賊遂大敗死者八百餘人燬其巢死者復千餘人

三十九年三月賊攻平和縣

賊首詹雪峯張璉等引倭千餘自大[illegible]及[illegible]鎮來攻縣城官兵出城夾擊之賊遂[illegible]

攻大金所

五月月港之賊敗遁出海官兵追擊大敗之

先是賊[illegible]日港官兵於泉州海倉白石鑄海野馬井尾等[illegible]是遁出海洋參將王麟追及於

北海洋[illegible]賊[illegible]是遁出海洋參將王麟等追及於[illegible]盡滅[illegible]合攻仍密令水兵布於海外賊勢窮促乃遁出洋水兵乘勝逐之沉二十餘艘斬首四百餘級

賊首王澄分引倭入寇

[illegible]引倭泊舊浯嶼盤據爲巢

三十八年三月賊攻福寧州不克遂陷福安縣

賊攻州城者九五晝夜分守參議顧珅督兵固守賊計無所施乃退往福安適淋雨城崩知縣李尚德恐棄堅守督兵出城迎擊賊屯城北山上窺見守梁兵少遂分踪擁入

四月參將黎鵬舉大敗倭賊於屏風嶼海洋

鵬舉與指揮盧振臣攻賊於屏風嶼鏃下門及三沙海洋沉其四舟擒斬一百五十有奇燒溺者無算時賊乘汛未至未得登劫我兵邀擊外洋擒斬頗多賊皆望風遁去

五月賊首嚴山老等遁出海洋參將王麟等追擊大敗之

士浪京砟鎮海山把總鄧一桂追及於剌嶼尾五戰皆勝之沉其舟數十斬獲數百賊首徐老許西池王老汝日本頭目尚乾皆就擒所部三千餘徒悉弱水無遺

七月賊自廣東來寇官兵擊敗之賊復入廣

廣東謝賊等突入走馬溪勢極猖獗把總徐瀛沉其數艘賊大敗遁去官兵乘勝追至廣東南澳外洋而回

八月賊入安溪縣

四十年正月安溪倭賊流犯長泰同安等縣官兵追擊大敗之

賊自安溪爲官兵所敗遁至長泰與史葉露百戶金璟敗之乃往同安復爲鄉兵所襲奔竄石崗海濱

五月賊攻寧化縣

賊來攻城知縣陳添祥擊敗之

攻詔安縣

先是賊首陳思達等潛入城內主奸民林勳家爲內應外合之計知縣龔有成防詰頗嚴賊計不得施乃自內殺出思達就擒而勳等爲內應者九數十家至是皆敗

閏五月賊復攻寧化縣

時賊久在縣近郊時來攻城官兵擊敗之遂僞爲通計知縣陳添祥謹防其弗至賊果分布四門一時突擊又爲雲車一乘覆以牛革屢以大砲佛朗機碻賊而賊之在雲車者來愈力乃出打手二百人下擊之賊乃敗走

按倭寇之患自福建始乃內地奸民勾引之也其時爲嘉靖二十五年禍尚隱而未彰微而未大都御史朱公紈用海道副使柯喬議欲以海滄月港等灣奢民充捕盜撲之備倭都指揮黎秀獨謂不然上議於巡按御史金公豪曰日本倭夷先年內

犯

朝廷屢下備倭之
詔及委重臣以督海防是以海洋又安今承平日久軍民
趨利忘害而各處輕生之徒攘臂向前私通貿易
向嘗緝絕今復啓釁若不預行究治恐禍患日深
卒難禁制也既而復上議日近署安邊館事諗知
違禁通番大船之詳其船皆造於外島而泊於內
灣或開駕以通番或轉售於賊黨而嵩嶼漸尾長
嶼海滄石馬許林白石等灣乃海賊之淵藪也本
職欲行禁治恐灣甲勢要抗拒不服及速其禍乞
行府縣巡捕官親詣各灣密行擒治船隻應燒燬
者燒燬應留用者留用庶頑民知警而通番之風
少息矣議上秀遂大爲漳泉耆民捕盜怨謗致劾

免官後十餘年倭患大熾沿海數千里生靈靡不
荼毒人始服黎遠覽而惜其寃抑向使早用其言
胡以有是豈非民命之當阨也耶今之士論但知
紀録戰功而曲突徙薪謾不之及愚不能無感故
志之

浯嶼水寨

福建五寨俱江夏侯所設浯嶼水寨原設於海邊舊浯嶼山外有以控大小岐嶼之險内可以絶海門月港之奸誠要區也不知何年建議遷入夏門地方舊浯嶼棄而不守遂使番舶南來據爲巢穴是自失一險也今欲復舊制則孤懸海中既鮮村落又無生理一時倭寇攻劫内地哨援不及兵船之設何益哉故與其議復舊規孰若愼密夏門之守於以控泉郡之南境自岱嶝以南接於漳州哨援聯絡豈非計之得者哉

南日水寨

原設於海中南日山下北可以遏南茭湖井之衝南可以阻湄洲岱嶝之阨亦要區也景泰以來乃奏移莆田縣占了地方仍以南日爲名舊南日棄而不守遂使番舶北向泊以寄潮是又失一險也今之事體與浯嶼相倣有兵寄者其思爲哨守應援之規以撲寇賊於未熾哉

烽火門水寨

原設於福寧州三沙海中永樂間倭寇犯境議撥福寧衛大金所官軍防守秦嶼羅浮官井洋皆轄焉正統九年侍郎焦宏以其地風濤洶湧不便棲舶徙今松山寨地方其後官井洋雖添設水寨而沙埕羅江古鎮羅浮九澳等險孤懸無援勢不能復舊矣須官

井蘿浮沙堤南北中三哨蘿江古鎮南哨聯絡策應
庶可保為福州之藩戶也

銅山水寨

漳州府所轄地方漳浦一縣最近海嶼設水寨者二
一曰西門澳為把總水寨而玄鍾則受其節制者也
一今止以五寨為名初水寨在井尾灣景泰間移今
西門地歲撥鎮海漳州永寧衛及玄鍾銅山所軍分
番巡哨而北自金石以接浯嶼南自梅嶺以達廣東
險阨所係匪淺淺也須以銅山玄鍾巡哨之兵分守
南澳雲盖寺走馬溪金石等處俾倭舶之自浙趨閩
及商徒之勾引接濟者嚴遏其衝則有以控八閩上
游之勢矣

小埕水寨

小埕北連界於烽火南接壤於南日連江為福郡之
門戶而小埕為連江之藩翰也海壇連盤雄踞聳峙
若南屏然為賊船之所必泊其所轄閩安鎮北茭焦
山諸巡司為南北中三哨無事往來探視有警協力
出戰則此寨之設為不虛矣

三四月東南風汛番船多自粵趨閩而入於海南粵雲
盖寺走馬溪乃番船始發之處商徒交接之所也附
海有銅山玄鍾等哨守之兵若先分兵守此則有以
遏其衝而不得泊矣其勢必拋於外浯嶼外浯嶼乃
五海地方番人之巢窟也附海有浯嶼安遠等哨守
之兵若先會兵守此仍撥小哨守把緊要港門則必

不敢以泊此矣其勢必趨於料羅烏沙料羅烏沙乃
番船等候接濟之所也附近有官灣金門等哨守之
兵若先會兵守此則又不敢以泊此矣其勢必趨於
圍頭峻上圍頭峻上乃番船停留避風之門戶也附
海有深扈福金哨守之兵若先會兵守此則又不敢
以泊此矣其勢必趨於福興若越於福興計其所經
之地兩日則有岱隆湄洲等處在小埕則有海壇連
盤等處在峯火門則有官井流江九澳等處此賊船
之所必泊者也若先會兵守此則又不敢泊矣來不
得停泊去不得接濟船中水米有限人力易疲將有
不攻而自遁者況乘其疲而夾力攻之豈有不勝者
哉

倭寇據舟來動以千萬計非能自至也由福建內地
奸人接濟之也濟以米水然後敢久延濟以貨物然
後敢深入海洋之有接濟猶
後敢[illegible]濟以嚮導然後敢深入海洋之有接濟猶
北虜之有奸細也奸細除而後北虜可馴接濟嚴而
後倭夷可靖所以稽察之者其在沿海緊司之官乎
稽察之說有二其一曰稽其船式蓋
國朝明禁寸板不許下海法固嚴矣然濱海之民以海爲
生採捕魚蝦有不得禁者則又以混焉要之雙桅尖
底始可通番各官司於採捕之船定以平底單桅別
以計號違者燬之照例問擬則船有定式而接濟無
所施矣其二曰稽其裝載蓋有船雖小亦分載出海
合之以通番者各官司嚴加盤詰如果是採捕之船

則計其合帶米水之外有無違禁器物乎其回也魚蝦之外有無販載番貨乎有之即照例問擬則載有定限而接濟無所容矣此浙海道官嚴行該法如某寨責成某官某地責成某哨某處定以某號某澳某以某甲如此而謂通番之不可禁吾未之信也

一倭人至福建乃福人買舟至海外貼造重底往而載之舟師皆犯重罪之人也若至沙板雙嶼等處訪之則某家船將至未至及至某澳自有人說而知之一處貨到各處無不知者

一漳潮乃濱海之地廣福人以四方客貨預藏於民家倭至售之倭人但有銀置買不似西洋人載貨而來換貨而去也故中國欲知倭寇消息但令人往南澳

餘爲商人與之交易即薰得其來與不來與來數之多寡而一年之內事情無不知矣

一區處福建之法若用福船擯之萬萬不可泊用福船而不用福人架使若用蒼山人架使候倭於福建外海而截殺之倭船必非齊來乃一艘二艘以漸而至也至即擒之則後至者將聞風而回矣

一八閩多山少田又無水港民本艱食自非肩挑步擔踰山度嶺則雖斗石之儲亦不可得福興漳泉四郡皆濱於海海船運米可以仰給在南則資於廣而惠潮之米爲多在北則資於浙而溫州之米爲多玄錘所專造運船販米至福行糶利常三倍每至輒幾十艘或百艘或二三百艘福民便之廣浙之人亦大利

焉兵興山嶺戒嚴擔負既難而募[illegible]之又衆大戶[illegible]
積莫肯輕離海運又厲禁焉民食兵餉如之何而不
匱也故經畧福建之策莫先於處糗糧糗糧若缺則
五澳之兵雖設譬之衣冠之人外貌可觀而五內腐
裂四肢痿痺未有不喪亡者蓋不待倭攻之而後地
方爲難保也今日足食之計有二其一須申明
祖宗之意止禁雙桅船隻私通番貨以啓邊釁所謂寸板
不許下海者乃下大洋入倭境也非絕民採捕於內
海販雜于鄰省也嚴其保甲令民沿海運糧則廣浙
有無相通而福民不患于無食矣其二官府提編銀
兩輸解督府春夏給爲兵糧時價方貴有銀無米兵
甚苦之不如令有司以銀秋糴賤米則米數多春而

隨兵所至就以爲餉官與兵不兩利乎兵餉既備民
食亦充軍門以別省善戰之師三五千人調至於福
大振威克豈惟倭夷不能爲福建患將使福民之勾
引接濟與倭爲黨者永永其不敢矣

工部侍郎趙文華云禦賊之道日守日攻日撫治直以
守治浙以攻皆因地度勢而爲之也詳見直浙事宜若治福
之法貴于撫而已矣福地素通番舶其賊多諳水道
操舟善鬬皆漳泉福寧人漳之詔安有梅嶺龍溪海
滄月港泉之晉江有安梅福寧有桐山各海灣僻遠
賊之窩巢船主喇哈火頭舵公皆出焉若調福蒼船
捕倭內多賊黨又其界潮州南澳皆船貨萃聚難盡
誅惟官府處置得宜嚴爲譏察所調用海船實貨編

號以次挨放助裝充餉惟無號者禁捕之賊必消其
勾逆轉爲我用矣

都御史唐順之云賊之根本實在閩中海上經畧此第
一義況一海相通喘息閩賊亦浙直賊也

都司戴冲霄云福建邊海貧民倚海爲生捕魚販鹽乃
其業也然其利甚微愚弱之人方恃乎此其間智巧
强梁自上番舶以取外國之利利重十倍故也今既
不許通番復弁魚鹽之生理而欲絕之此輩肯坐而
待斃乎故愈禁愈亂不設法而利導之使海濱貧民
得所亂源何能塞也

又云福建五澳水寨乃江夏侯所設俱在海外今漳二
寨于海邊日浯嶼烽火門南日是已其舊寨一一可

考孤懸海中既鮮村落又無生理一時倭寇攻劫內
地不知哨援不及兵舡之設無益也故後人建議移
入內地移之誠是也信國公不設險于下八山等處
而設于舟山之沈家門可見江夏侯之識見不迨信
國遠矣欲復

祖宗之制須知時酌乃善

閩縣知縣孙俊卿云閩之一省北接浙江之界爲烽火
門水寨原設官軍把守爲因勢孤援寡軍門朱公添
設流江寨爲特角之勢此誠隨時立法之權但官軍
之數不及各寨之半難以助本鄉防護議者欲將流
江併入烽火門不若增添流江官軍形勝並據聲援
相及此最近是仍令福寧州相近巡司官兵同心

捕不許後占貿閩等弊又沿嶼水寨[illegible]
之衝可以據險寇不敢近今乃移近數十里在于中
左所地方與高浦所止隔一潮致月港松嶼無復門
關之限往其交通其舊沿嶼基乃爲寇之窠穴漳州
海滄之人悍譎尤甚[illegible]號難馴嘉靖年間始置安邊
館輸委通判一員治之半年一更上下皆無固心無
益于地方海防之助況在前之議猶有紛紜者似爲
可革又走馬溪舊船直船近年官軍柯海道等截獲
寇盜皆在此處議者欲令詔安漳浦近縣巡捕官十
員[illegible]番住守且與銅山寨玄鍾灣軍民官兵協力相
機以便剿捕至于泉之安海向雖通番猶有避忌爾
年番船連翩徑至近地裝卸貨物皆有所倚也議者

欲令府佐貳一員時巡常住或可潛消
又云沿海地方人趨重利接濟之人在處皆有但漳泉
爲甚餘多小民勾誘番徒窩匿貨其事易露而法
亦可加漳泉多倚著姓官族主之方其番舶之泊近
郊也張掛旗號人亦不可誰何其異貨之行于他境
也甚至有藉其關文明貼封條後官夫以送出境至
京者及其海舶回番石刻掠于遠近地方則又佯爲
之辭曰此非此夥也乃彼一艘也訛言以惑人聽比
及上司比責水寨巡司人等間有一二官軍捕獲寇
盜人舡解送到官彼爲巨盜大駈屯住外洋者反從
智用倖致使者姓宦族之人又出官明認之曰是某
月日[illegible]家人某往某處糴稻也或買杉也或[illegible]

實定帛也家人有銀若干在身捕者利之今雖送官報贓尚有不盡法合追給或者有司懼禍而誤行追懲但據贓證與所言之相對不料所言與原情實不同其官軍之斃于獄而破其家者不知其幾也彼巧于讒而計行此屈于威而難辨柰之何哉以致出海官軍不敢捕獲不若得貨縱賊無後患也槩以下海之律彼獨無可罪乎調停之法亦必有道或欲訪廣東市舶司及各邊開市之利使番徒報貨抽稅歲可得銀數萬兩以充軍國之用亦且通商惠民上下咸利但恐海邊之人貪利無厭强暴弱智吞愚不免群聚爲奴勢所必至似招之爲寇也何以禁其後哉況城狐社鼠之相倚有難以盡詰者則稅之所入將不在公家而咸歸巨室矣又暹羅朝鮮日本爪哇等國通事照

會典各有定數其不通夷語及誤事者法禁甚明今漳泉之人冒濫名色假爲通事實多通謀而誤事之孽有不可追者亦當察而更革之可也

都司戴冲霄云閩中事體與浙直不同惟在撫之得宜而已蓋十板不許下海之禁若行於浙直則海濱之民有魚鹽之利可以聊生而海寇平時為之肅清若福建漳泉等處多山少田平日仰給全賴廣東惠潮之米海禁嚴急惠潮商船不通米價即貴矣民何以存活乎愚聞漳泉人運貨至省城海行者每百斤腳價銀不過三分陸行者價增二十倍覓利甚難其地所

產魚鹽比浙又賤蓋肩挑度嶺無從發賣故也流
泉强梁狡猾之徒貸貲通番俞遠俞熾不可勝防不
可勝殺爲倭嚮導者官府繫其家屬不敢生還數歲
入寇是外寇之來皆由內寇糾引之也福建之亂何
時已乎福亂不已浙直之患何時而靖乎唐荆川云
倭患始於福建福建者亂之根也諒哉言乎如愚見
莫若因其勢而利導之督撫海道衙門令漳泉巨室
有船隻者官爲編號富者與之保結許其出洋南則
哨至廣東北則哨至浙江裝載貨物納稅自賣督之
以將官限之以信牌交牌報驗其回也南則許販東
潮之米北則許販寧溫台之米但不許至外國及
載番貨今也海禁太嚴見舡在海有兵器火器者不

問是否番貨即捕治之米穀魚塩之類一切厲禁擾
其迹雖似犯法論其情海船往來非帶兵器火器無
以防海寇之劫奪不有可原者乎明乎此則民情得
伸而亂源可塞矣雖然亦未也將欲撫之必先威之
練兵足食使在我之威足以制賊則民有所憚而聽
吾撫治撫治而不從者然後兵以勦之是故能攻而
後能撫知撫而不知攻者吾未見其能撫也
予按福建經略之術有百年之長策有一時之權宜
何謂長策修復海防舊規處置沿海貧民得所使不
爲賊內應是也何謂權宜今日福建之患有二曰山
寇曰海寇海寇乃本地之民糾之而來者無兵以珍
滅之且然欲練兵須先料理養兵之費費從出必

加賦於民夫福民不受官府約束其來漸矣常賦之額且不可徵況額外加增乎吾知兵未練而變先激矣若非早爲之所萬一福建失守則廣東將隔絕而不通而浙江與福連壤其禍亦烈矣與其至此時而動各省之兵馬錢粮孰若早聞於
朝請銀十萬兩募兵一萬人到彼操練不假福建之兵不費福建之財先將沿海通番之人與賊盡行勦滅兵威大振則破竹之勢山寇不攻自平矣由是而選練鄉兵由是而加賦亮飭由是而脩渡海防舊規以爲百年經久之計豈有不可行者乎

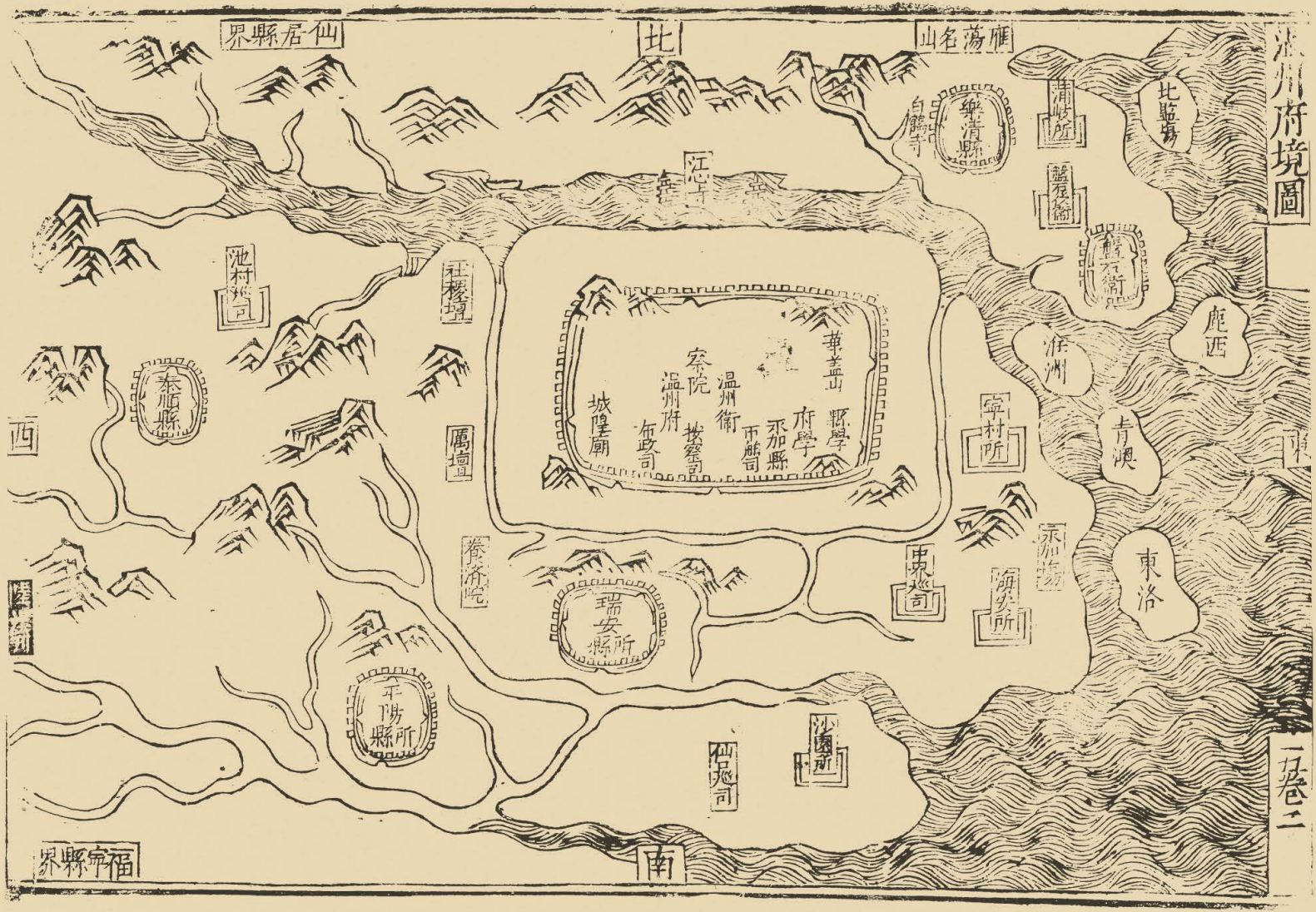
籌海圖編卷之五

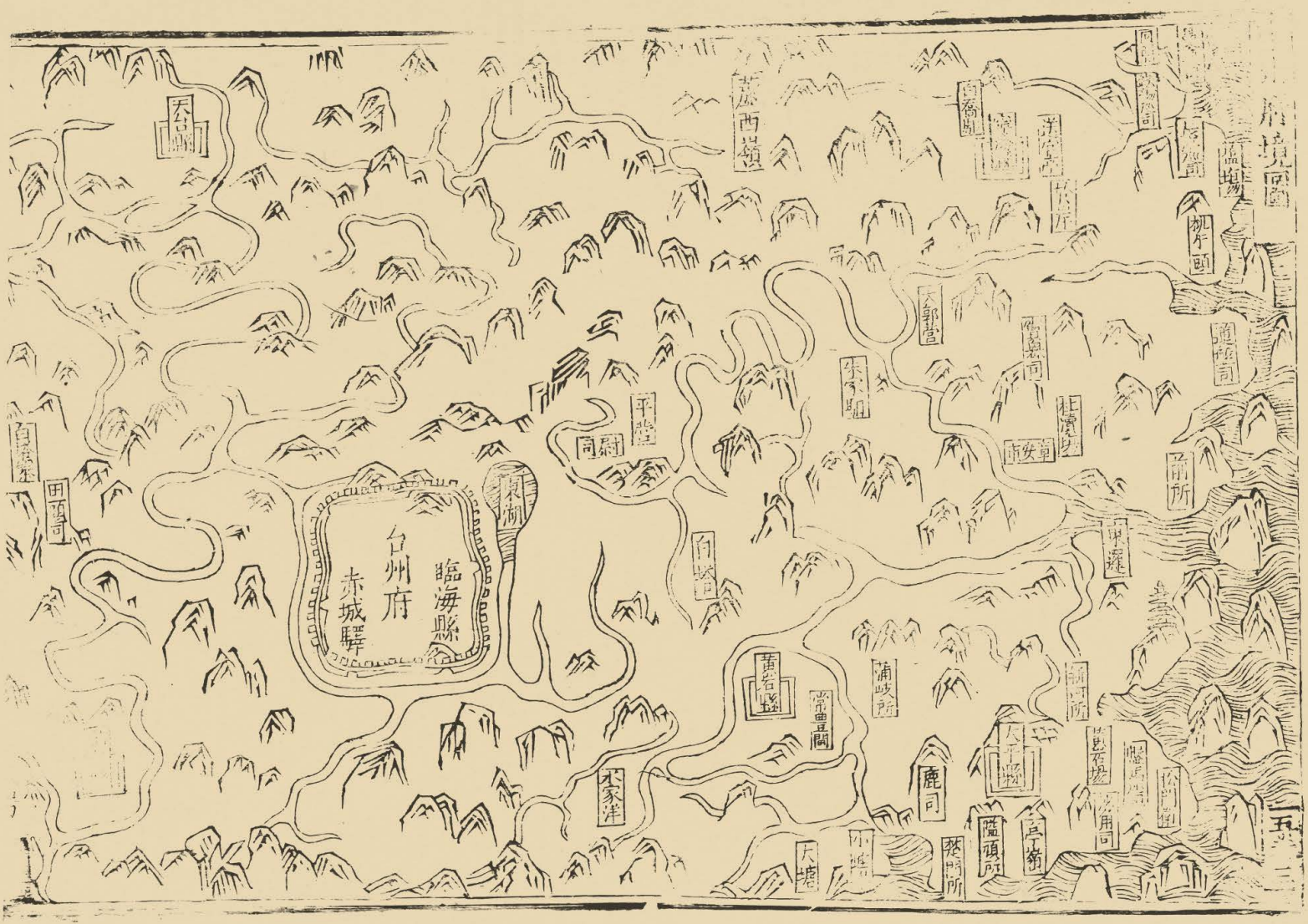
明少保新安胡宗憲輯議　孫鑛入胡燈重校　崑山鄭若曾編次

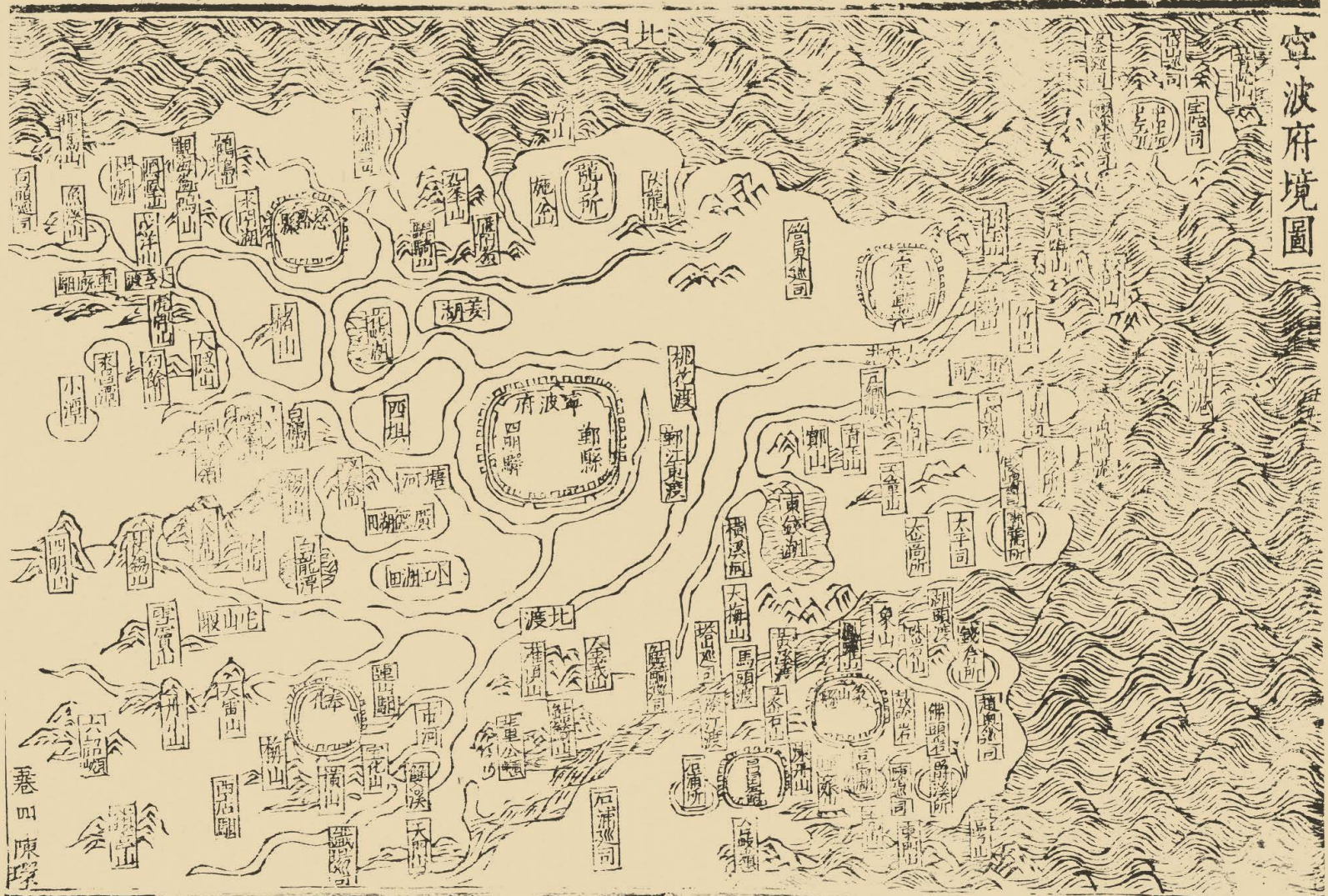
全浙沿海總圖
溫州府圖
台州府圖
寧波府圖
紹興府圖
杭州府圖
嘉興府圖
浙江兵防官考兵制附
浙江倭變紀
浙江事宜

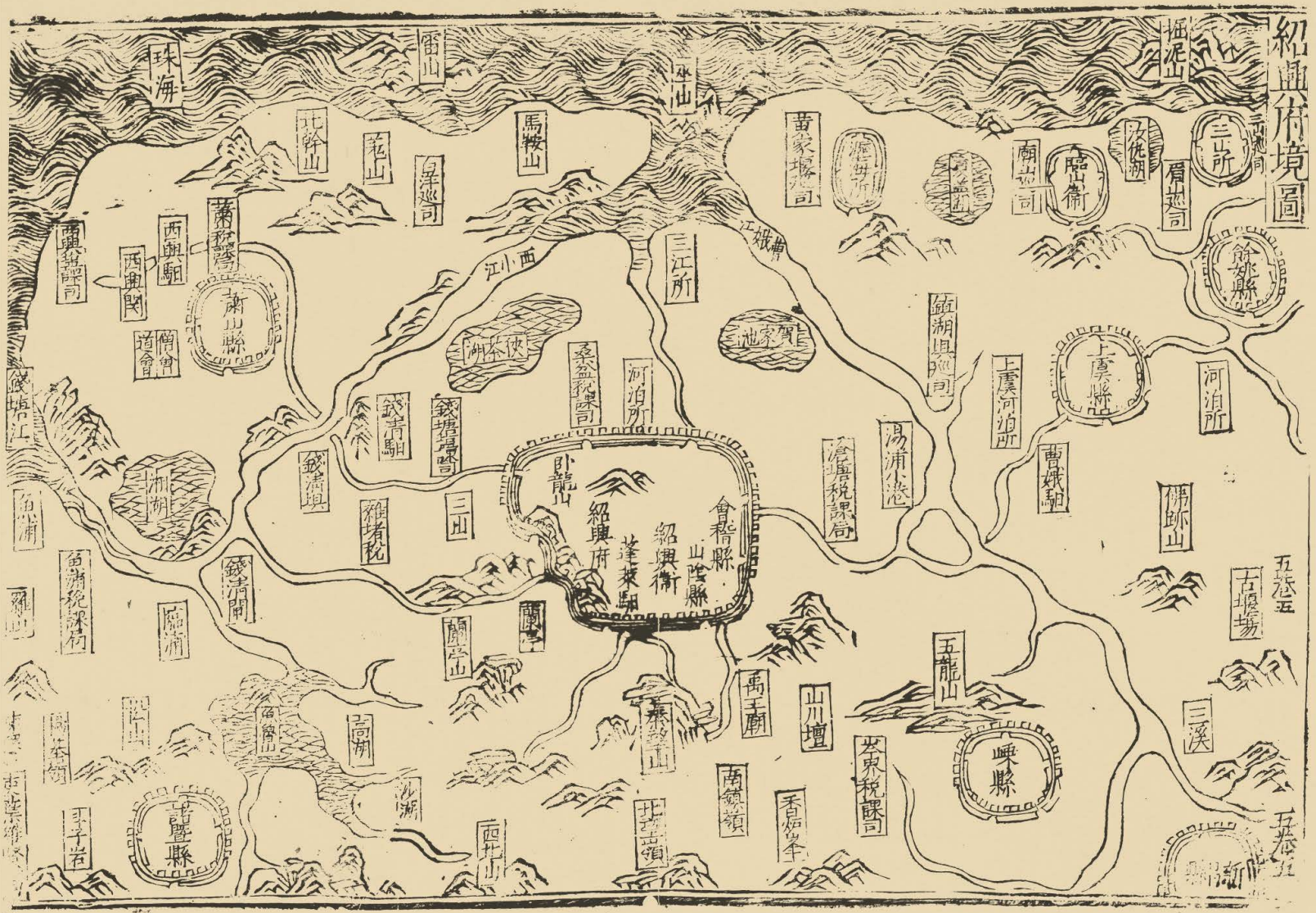
杭州府圖陳言寫　全圖約

太湖
長興縣
安吉州
孝豐縣
武康縣
昌化縣
於潛縣
分水縣
德清縣
臨安縣
新城縣
餘杭縣
西湖
錢塘江
仁和縣
杭州府
錢塘縣
富陽縣
遂安縣
壽安縣
桐廬縣
蕭山縣
諸暨縣
東陽縣
義烏縣
金華縣
金華府
浦江縣
蘭溪縣
永康縣
武義縣
開化縣
龍游縣
湯溪縣
常山縣
衢州府
西安縣
龍遊縣
江山縣
慶元縣
松陽縣
雲和縣
景寧縣
處州府
麗水縣
青田縣
縉雲縣
桐鄉縣
烏程縣
歸安縣
德清縣
海寧縣
嘉興府
秀水縣
嘉興縣
海鹽縣
平湖縣
加興縣
紹興府
會稽縣
山陰縣
蕭山縣
餘姚縣
上虞縣
嵊縣
寧波府
鄞縣
定海縣
舟山所
象山縣
奉化縣
天台縣
寧海縣
臨海縣
仙居縣
台州府
黃巖縣
太平縣
樂清縣
永嘉縣
瑞安縣
平陽縣
温州府
温州衛


温州府境圖
卷二
仙居縣界
北
雁蕩名山
樂清縣
白鶴寺
清岐所
北監場
鹽倉廒
鎮江衛
鹿西
瀝洲
青澳
寧村所
東洛
永加場
海安所
東鄉
沙園所
西鄉
南
福寧縣界
西
泰順縣
池村鄉
汪樓墩
屬墩
養濟院
瑞安縣
所
平陽縣
所
華蓋山
縣學
府學
永加縣
巡司
温州衛
察院
按察司
温州府
布政司
城隍廟


臨海縣
台州府
赤城驛
東湖
平壹
尉司
西嶽
天台
桃渚
所前
松門
海門所
大田
鹿司
蒲岐所
常豊鹽
仙居
天台
寧海
臨海
黄岩
太平
温嶺
松門
海門
大田
鹿司
蒲岐所
常豊鹽
仙居


寧波府境圖
北
寧波府
鄞縣
慈溪
奉化
象山
定海
鎮海
昌國
東錢湖
西湖
月湖
南湖
鄞山
太白山
天童山
金鼇山
馬頭渡
橫溪河
大榭山
小榭山
石浦巡司
定海所
鎮海所
昌國衛
大嵩所
爵溪
慈湖
姚江
奉化江
鄞江
甬江
陳璨


紹興府境圖
五卷五
五卷五
五卷五
珠海
雷山
北幹山
龍山
馬鞍山
蕭山
西小江
三江所
錢塘江
錢清閘
錢清驛
錢清堰
錢清驛司
錢清稅課局
錢清稅
河泊所
鹽官縣
海寧縣
海寧衛
海寧所
海寧縣
海寧衛
海寧所
海寧縣
海寧衛
海寧所

杭州府境圖
天陽鋪
落花山
百丈山
盛龍山
徑中寺
東林山
羅沖鋪
東橋鋪
上橋鋪
餘杭縣
南山
下管倪
鶴山
九坨山
臨安縣
新城縣
泉鋪
新城鋪
西石山
胡里山
赤松鋪
富陽縣
松元鋪
鳳山
新沙鋪
富橋鋪
會江驛
北新河
德勝壩
德勝橋
南高峯
北高峯
天竺寺
上天竺
中天竺
下天竺
西湖
鳳凰山
山川壇
浙江驛
城南廂
浙江亭
洋汛鋪
橋浦閘
龍王堂
萬家浦
苗灣山
蜀山
秀山
石塔頭
錢塘江
總督浙江福建等處地方軍務兼理糧餉提督軍務都察院右副都御史
浙江等處承宣布政使司
杭嘉湖道
仁和縣城隍廟
錢塘縣
仁和縣
杭州府

嘉興府境圖
北
西
東
南
七
五卷七
分湖
澉湖
當湖
嘉興縣
秀水縣
嘉興府
平望湖
烏程縣
烏程縣
烏程縣

明少保新安胡宗憲輯議　孫鑛入胡邊重校　崑山鄭若曾編次

浙江兵防官考

總督浙直福軍務兼巡撫浙江都御史 嘉靖丁未因海寇作亂始設提督軍務兼巡視浙江福與泉漳地方兼都御史以朱紈爲之紈去王忬代忬去李天寵代天寵去胡宗憲代時乙卯七月也先是宗憲以巡按御史督兵王江涇大獲克捷詔許論功之日不次擢用故有是命其總督之名則因廷臣建議福浙直事權不一設自張經始周珫楊宜相繼後命宗憲庚申以勦賊首徐海王直等功累陞太子太保兵部尚書仍節鎮云

巡按浙江監察御史兼紀功

督察直浙軍務侍郎 嘉靖三十四年因倭亂特勅遣文華任事寧即歸非常設也

視軍情官 嘉靖三十七年因倭冠不靖兵部奏設勅命職方司署郎中事主事唐順之任歷陞太僕少卿右通政仍在地方行事未幾陞鳳陽巡撫去

杭州府吏沈應元寫　四百十　何應芳刻

總督備倭 舊以公侯伯領之洪武三十年改領於都指揮今革

巡視海道副使 舊制以侍郎都御史領之洪武三十年後始領於按察副使統理浙海住劄寧波近因地方多事各郡俱設兵備以分巡兼之其沿海兵粮則海道督理如故不分也

整飭杭嘉湖兵備副使

整飭溫處兵備副使

整飭寧紹兵備副使

添設台金嚴兵備僉事

鎮守浙直地方總兵官

分守杭嘉湖參將

分守溫處參將

分守寧紹參將

分守台金嚴參將

定海備倭把總以都指揮體統行事

昌國備倭把總以都指揮體統行事

金鄉備倭把總以都指揮體統行事

臨觀備倭把總以都指揮體統行事

海寧備倭把總以都指揮體統行事

松門備倭把總以都指揮體統行事

統領遊兵把總

沿海衛所洪武十七年信國公湯和經畧沿海備倭九衛所城池巡司關隘寨堡屯堠皆其所定

金鄉衛屯軍六百八十四名

蒲門所

壯士所

沙園所

温州衛屯軍二千七百一十七名

海安所

瑞安所

平陽所

盤石衛

寧村所

蒲岐所

盤石後所

松門衛旗軍屯軍一百九十七名

楚門所

磐頭所

海門衛屯軍六百八十三名

新河所

海門前所

健跳所

桃渚所

昌國衛

爵谿所

錢倉所

石浦前後二所

定海衛

大嵩所

霏霏衛所

穿山後所

舟山中中左二所

觀海衛

龍山所

臨山衛

三山所

瀝海所

紹興衛

三江所

直隸都司

海寧所

海寧衛屯軍一千二百四十名

澉浦所
乍浦所
沿海巡檢司
温州府
龜峰 千兵一百名　舵艚 千兵一百名
江口 千兵一百名　仙口 千兵一百名
梅頭 千兵一百名　中界 千兵一百名
館頭 千兵一百名　蒲岐 千兵八十名
三山 千兵八十名　小鹿 千兵八十名
沙角 千兵八十名
台州府
盤馬 千兵八十名　長浦 千兵一百名

吳洗塵元禧子明
蛟湖 千兵一百名　蔓墓 千兵一百名
寶墓 千兵一百名　越溪 千兵一百名
鐵場 千兵一百名　石浦 千兵三十名
長亭 千兵一百名　陳山 千兵三十五名
趙墓 千兵一百名　塔山 千兵一百名
鮚鱘 千兵一百名
寧波府
大平 千兵一百名　霞蜆 千兵一百名
穿山 千兵一百名　長山 千兵一百名
甬東 千兵一百名　管界 千兵一百名
螺蛳 千兵七百名　岑江 千兵一百名
岱山 千兵一百名　寶陀 千兵一百名

松浦 弓兵二百名

紹興府

向頭 弓兵一百名　三山 弓兵二百名

眉山 弓兵一百名　廟山 弓兵一百名

黃家堰 弓兵一百名　三江 弓兵一百名

白洋 弓兵一百名

杭州府

赭山 弓兵七十名　石墩 弓兵七十名

嘉興府

澉浦 弓兵七十名　海口鎮 弓兵七十名

乍浦 弓兵七十名　白沙灣 弓兵七十名

沿海關臺寨烽堠

金鄉衛

寨十一

小幾　廟前　雙門　紀膽

小魚墜　大魚墜　半塘　馬跡　上洋　東山　奠山　大墓　石碎　火山　鳳凰　東岡　蘭頭　白峙　貓頭　瀝門　把糖門　炎亭　大菱

烽堠十五

石塘

蒲門壯士二所

臺二 高陽　水竹

烽堠六　雷轟　四菱　火山　南墜　時家　懸中

沙園所

寨四　陡門　仙口　眉頭　眉石北　眉石南

臺一

烽堠四　今水　宋埠
仙口　烽火

溫州衛

海安所

寨二　上塢　東山

平陽所

寨三　風火　江萊
沃路口
山頂
蔡家山　半嶺
福泉
峯瑞

烽堠三

盤石衛

臺二　黃華
白沙灣
蚊頭　平山　嘴山
章嶼　沙角　三嶼
洋田
日圖

烽堠十　池嶼
雙峯

寧村所

寨三　沙溝　沙寧
長沙

烽堠六　黃石浦　沙溝　沙村
七甲　長沙　九甲

蒲岐所

臺二　高嵩
下侄

烽堠八　東山　南浦
鏵鍬　麥嶼　海塘
下山頭

前塘
雙陡門

松門衛

臺一　小高

烽堠十　甘嶼　蒼峯　烏沙
車路　沙脚　磊石
荒嶼　蛤浦
盤馬　松門寨

隘頑所

臺二 白巖

烽堠九 長沙 坡門 龜頭
後灣 江錦
長山 曾逢 聖門
雀海坑

煙門所

臺二 楚門

烽堠十五 漁井 洋坑 梅磐
泥湖 楚門 丫髻
石橋 清港 東門 西門
苔山 小青山 大青山 塔山
馬鞍山

海門衛

臺三 眉山 東中 中鎮

烽堠五 磊石 輕盈 長沙
外水 中山

新河所

烽堠五 洋畚 泥畚 淨應
盤馬 新塲

桃渚所

臺一 桃渚

烽堠十二 石柱 停艘 長跳
涸井 蒼埠 大洲山
蟛蜞頭 肥字頭
鄉子山 下舊城 望火樓 中舊城

健跳所

臺一 高鸞

烽堠五 茅頭 拆頭 後沙
小漁西 大漁西

昌國衛

烽堠九 仁義 赤坎 黃沙
前山 後山 山頭
松嶼 烏石 何家嶼

爵谿所

烽堠二　宏輿　沙嶺

錢倉所

烽堠五

石浦前後所

烽堠六

定海衛

寨二　江北　長山

關一　南門

烽堠十一　高山　鸕鷀　竺山　小山　滾淘山　打鼓山　張師鋪　大戾岡　大漁灣　長山岡　季輿

大嵩所

烽堠八　大干　岐亭　黃巖　尖嘴　港口　橫山

慈谿　蛤蜊

舟山所

寨二　千礮　西碶　沈家門

臺一　青雷頭

烽堠二十一　外湖　石墻　包家　石嶺　鹿頸　蒲沙　碶礮　赤石　接待　西山　小長　吊輿　程家　奇懇　石彈　舟山　沈家門　郎宋碶　謝浦　袁宋碶　螺峯

穿山後所

臺一　神堂

烽堠九　輿山　黃崎　西山　鍋蓋　捺蛾岸　戴頭　白峯　所後　嵩子山

霏衛所

臺一　三塔山

烽堠五　盛墓　高山　梅山
觀山　蝦康

觀海衛

關三　丈亭　長濱
杜湖

烽堠六　何頭　瓜誓
新浦　古窪　西隴山
西隴尾

龍山所

臺一　龍山

烽堠五　龍頭　石塘
青溪　頭尾
施公山

臨山衛

臺一　羅家山

烽堠九　趙巷　烏盆
荷花池　方路　潮山
周家路　四門　道塘
下蓋山

瀝海所

臺一　西海塘

烽堠三　堤頭　胡家池
堤頭

三山所

烽堠七　歷山　徐家路
撮山　眉山
許山　茅山　吳山

紹興衛

三江所

臺一　蒙池山

烽堠六　杭塢山　馬鞍山　烏峯山
宋家樓　周家墩　桑盆

直隸都司

海寧所

寨一 黃灣

臺六 下館 松林 丁家村
格咯 潘家浦 猪家圖

烽堠五 尖山 廂前 巖門山
豬山 石墜山

海寧衛

寨二 北舖
藍田

臺六 南臺
北臺

烽堠一

澉浦所

寨四

臺二

烽堠五 青山 西山 泰駙山
塔山 南山

乍浦所

寨七 獨樹林 梁庄大 梁庄舊 長沙灣
蒲山外 金家灣 唐家灣

臺七 獨樹林 盖山 西山嘴 蒲西山
聖妃宮 惹山 東山嘴

烽堠三 高公山

洪武二年倭犯温州

中界山永嘉王環諸處皆被剽掠

六年犯海濱

七年靖海侯吳禎敗倭於琉球洋

倭擾海遣禎遣舟師追逐之及於琉球洋中斬獲甚衆悉送京師

十六年寇金鄉小濩亭官兵敵却之

二十六年寇小尖亭

二十七年寇小尖亭

三十四年九月寇穿山百戶馬興與戰死之

日本國王源道義知之出師獲其渠魁來獻黨類悉就擒

朝庭嘉其勤誠降勅褒諭○餘詳見出使事畧卷中

二十年寇浙東朱亮祖徐忠擊敗之

亮祖破之於温州忠破之於桃渚斬獲獻俘由是賊始知戢斂云

二十二年寇象山縣縣丞宋真教諭蔡海死之

真持竿擊賊海焉賊不留皆被害

正統四年陷大嵩所昌國衛

賊舟四十餘夜入大嵩港襲破所城轉寇昌國衛城亦陷備倭等官以失機被刑者三十六人惟爵溪所以獲賊首畢善褒得免

八年六月寇海寧袁瀆諸處十月寇壯士所

景泰六年寇健跳所

成化二年寇陷大嵩所

賊僞稱入貢官軍不爲嚴備遂襲破大嵩官兵夜圍其舟檣燈達曙不發兵已矣袁瀆遺云燈皆懸於舟檣

尚卓沙上蓋設詐以款追兵
也臺臣大臣以失機獲罪

嘉靖十九年賊首李光頭許棟引倭聚雙嶼港爲巢

光頭者福人李七許棟歙人許二也皆以罪繫福建獄逸入海勾引倭奴結巢於鄢懋之雙嶼港其黨有王直徐惟學葉宗滿謝和方廷助等出沒諸番分跡剽掠而海上始多事矣

二十七年四月都御史朱公紈遣都指揮盧鏜副使魏一恭等搗雙嶼港賊巢平之賊首李光頭就擒

時海壖多警軍無紀律浙福二省互相抵牾賊得肆志議者請設巡視都御史以節制之

十一命朱公紈行公至即行二省守巡諸官各分信地或戰或守皆有專責而以福建都指揮盧鏜諳海上事即以委之鏜乃與海道副使魏一恭備倭指揮劉恩至張四維張漢等部署兵船集港口挑之賊初堅壁不動迨夜風雨昏黑海霧迷目賊乃逸巢而出官兵奮勇夾攻大勝之俘斬溺死者數百人賊酋許六姚大總與大窩主顧良玉祝良貴劉奇十四等皆就擒鏜入港燬賊所建天妃宮及營房戰艦賊巢自此蕩平餘黨遁往福建之浯嶼鏜等復大敗之翼日賊船有泊南麂山女兒礁洞門者知巢窟已破無所歸

五月官兵築雙嶼港

朱公初欲於雙嶼立營戍守爲一勞永逸之計而平時以海爲生之徒邪議鑫起搖惑人心沮喪士氣福兵亦稍不便朱公嘆曰濟大事以人心爲本論地利以人和爲先不得已從衆議聚木石築寨港口由是賊舟不得復入而二十年盜賊淵藪之區至是始空矣時二十五日也

六月賊首許棟就擒

二十日金鄉衛指揮吳川追攻於近山海洋賊船爲我所迫又遇暗礁舟覆所遺纔二人棟與其弟社武也官兵擒之積年巨寇一旦生俘之蓋天意假手云王直徐惟學毛烈收其餘黨復肆猖獗廣東賊首陳思盼自爲一艘與在港諸直用討擒殺之由是海上之寇非受直節制者不得自存而直之名始振聾海舶矣直以殺思盼求市不得乃引倭夷突入定海關官兵却之遂移泊金塘之烈港士人之獲日益附之由

是邊海郡邑
無處無賊矣

四月攻遊仙寨百戶秦虎戰死

詳見遇難
殉節考

五月攻瑞安縣百戶李潮高良戰死

初十日賊自江口登犯嶺門岐頭等處入坡南湄至縣高山下潮等與戰死之遂乘勝攻縣城把總夏光知縣劉纖率官兵擊却之賊乃退泊東山港

陷黃巖縣

二十八日福清賊首鄧文俊等率倭夷二千直入縣中焚燬縣治居七日而出時縣無城而賊乘潮猝至故陷

六月賊攻霩霿所指揮樊懋力戰死之

二十日賊以破黃岩得利復攻所城二十日夜半乘雷雨先以草人用竹揭試遂入城懋急調兵力戰死之時守禦指揮魏英督兵夜戰至天明賊從北門而出

十一月叅將湯克寬追擊賊於馬下洋大敗之擒賊首鄧文俊等

十二日克寬統兵追黃華之賊與戰於下馬海洋越三日復戰遂擒文俊以歸

三十二年閏三月官兵追擣烈港賊巢王直敗走

烈港地形曲折賊負固盤據卒難進勦都御史王公行部至溫州閱圖審形謂兵船雖多難以直騁乃令叅將俞大猷湯克寬分爲二哨部署既定大猷由列表門進以當其前克寬由西後門進以防其逸謂賊一出則一哨可以追勦不動亦可以全制也至是大猷募熟諳山脉徑路之人侯得等潛入賊營則以十一日舉火爲號而自移營本營拒賊巢止隔一山分遣把總張四維屯龍山黎秀屯霩霿遥爲聲援夜四鼓侯得等縱火賊營烟燄蔽天官兵乘之賊驚奔爭舟死者無算乃大敗走直率精銳潰圍而去泊馬蹟潭軍門以大猷并兵獨進雖破賊巢而遵我節制使賊得逆深責之

四月賊攻海鹽縣

初四日賊自太倉上海而來文豫城三日始解去初外兵皆乘高長梯矣

尋至海寧衛把總馬呈圖等與戰死之

初六日賊至海寧衛馬呈圖督官兵禦之弗勝遂與指揮采煒百戶王相姜楫呂鳳姚岑皆殁于行陣既而把總王應麟率兵追逐之與戰于海口巡司大勝之賊以伏兵衝我師我師遂潰千戶汪繼喬百戶楊亦死焉

參將湯克寬破賊於鰲子門

初九日從平湖官兵追之連戰皆敗蔡指揮等死焉王公命克寬從勦之及於鰲子門大破之俘斬二百六十有奇

賊薄省城指揮吳懋宣禦之於赭山死之

懋宣率僧兵禦之力戰而死

賊攻松門衛把總劉恩至追擊於舟山岑港大敗之

賊初至勢甚猖獗攻衛城弗克而去蓋依王直爲窩者也

嵊昌國衛百戶陳表死之

詳見遇難

賊犯定海官兵擊敗之

賊皆鵝鴨山人沿海爲患十二日都司劉恩至破之於蠶花港口

官兵進勦馬蹟潭王直敗之

十四日湯克寬等兵歸進搗賊巢大敗之因砲聲驚起蟄龍官兵襲溺者甚衆直遂走直隸地方俞大猷又追敗之所存僅百餘人

嵊臨山所參將俞大猷等追擊大敗之

廿四日大猷與都指揮劉恩至俘斬三百有奇

犯長沙灣參將湯克寬敗之

五月賊攻海寧衛

破乍浦所百戶陳綬指揮善道死之

賊自金山而來城破綬死之善道從湯克寬官兵來援與賊戰於長沙灣與冠帶總旗張儒皆死之

攻新河所
時兩浙之賊克斥郊野所過殘破村落寫壕而乍浦
以東達於直隸之柘林二百里之地皆爲賊巢矣湯
克寬兵勝於葉淋港副使李文進副總兵俞大
猷兵勝於蓮花洋俘斬雖多而賊猶不知戒云

七月賊攻台州寧海縣
初四日攻城
九七日而解

三十二年八月都指揮劉恩至等迎擊直隸遁賊於普
陀山洋敗之
先是賊首蕭顯屯直隸之崇明南沙修船爲遁歸計
都御史王公忻言其勢必流入浙境預令都指揮劉
恩至指揮張四維百戶鄧城等分爲二哨一自觀海
臨山趨乍浦遏賊來路一自長途沈家門設伏邀擊
賊果南遁官兵與遇於普陀洛伽山臨江海洋連與
戰皆勝之零賊敗登普陀依險爲巢掘壕自衛參將
俞大猷督官兵進攻之二十二日夜自石牛港進張
疑弊衆而不與交戰潛遣奇兵由西北巡檢盛直入
百戶鄧城武舉火斌衆後民陌陣先登賊遂敗走茶
山絕頂冀日鄧城由東北淺步沙進火斌由鵝耳山石

進殺後民由中路進劉恩至等統
大兵居其後四面齊進俘戮無遺

九月都指揮盧鏜敗賊於乍浦
十二月賊攻瀝海所上張應奎百戶王守正張永死之
三十三年三月都指揮劉恩至等敗賊於三岳山
賊至三岳山恩至與指揮張四維督舟師進攻勝之
尋與指揮潘亨會兵再戰入勝之賊乃由赭山遁去
歷曹娥三江滙海餘姚
直走定海之王家團

賊首蕭顯流突海塘官兵追擊大敗之於二十里亭追
至慈谿平之
顯叛結倭夷建艘入海直隸之上海艦據南沙
劫邑攻城號稱剿寇自松江敗衄遂率精悍數百遵
海而南王公命官兵設伏於要路賊至二十里亭復
大敗走顯復統殘衆駛南奔官兵躡之逐於三江
到于龍山圍于定海困于
慈谿分道夾攻賊遂就滅

賊據普陀山分踞流劫內地參將盧鏜邀擊於石墩洋

大破之
先是賊入寇歸棲普陀爲息肩之地官兵守之既次旬將撤其巢先一日遣諜覘之傍無一舟至是四合攻官兵鼓噪而前值他島賊自彼來精悍異常遂合攻官兵官兵腹背受敵頓敗衄亡者什六因罷歸賊以先所得貨潴新舟令其半先歸而留其梟悍者入掠由是海隘龍王塘乍浦長沙灣嘉興嘉善皆被其害而石墩洋之捷罹斬馘二百餘級云

四月叅將盧鏜擊賊於平湖敗之
賊自金山張堰而來至平湖廣陳新舍鏜迎擊之賊遂敗走

五月賊攻嘉興府
叅將盧鏜迎擊石墩之賊大敗之
賊久盤據海寧縣之石墩爲巢至是出洋鏜追敗之俘斬二百有奇

六月賊犯金鄉指揮王希禹陳區擊敗之

九月浙西之賊分掠浙東蕭山臨山瀝海上虞

攻嘉興府官兵追之與戰於孟家堰等處指揮李元律等死之

孟家堰之戰元律與千戶薛綱朱應蘭死焉既而賊走嘉善叅將張欽等敗之賊奔百家山百戶趙軒淶瑜戰死賊寇沈家河都指揮周應祯亦死之

十月百戶張曜禦賊於湖頭死之
賊自霓嶼登劫突温州之湖頭曜統兵禦之敗績乃力戰而死

賊尋至東陽南午嶺巡檢朱純死之
賊自湖頭之敗走樂清越盤石嶺趨台州黄巖縣仙居遂至南午嶺純統鄉兵邀擊之力戰而死

指揮戴祀等與賊戰於芙蓉海口死之
祀與江九山千戶崔海鎮撫劉彧百戶易次皆戰歿

賊攻觀海衛

賊自金山而來攻所城不克乃
分掠平湖嘉興等處復回梧林

十一月賊入嘉善縣遂至湖州

賊復自梧林而來入縣治又越
嘉興時自西流圩湖州諸縣

十二月賊復入嘉善縣百戶賴榮華死之

賊自前失利復入縣治榮華統福兵禦之乘勝逐北
[illegible]失利機手以待兵衆榮華死焉是日賊焚縣治
[illegible]後賊入縣治凡
自始至終
十有七次無城故也

三十四年賊首徐海攻乍浦所

攻平湖縣

寇德縣

時築城未完賊以小
舟潛從南水門入

賊至湖州横塘官兵與鄙敗績福建副使問陶一貫温

台守備周奎等死之

時同死者清州指揮孫勇判林百戶陸燒玄鍾百戶
周應辰山東把總梁鄂武生鄭周張景安朱平繼清
孫魯故青齊驍將也是役亦手
刃數賊以衆寡不敵故敗歿

二月攻嘉興府

賊掠湖州而
回復攻府城

四月賊攻乍浦所不克遂至嘉興府巡按御史胡公宗
憲敗之於王江涇

詳見大捷考

浙東賊犯紹興百戶葉紳韓綱死之

賊自錢倉白沙灣入秦化仇村經今賊突七里店寧
波衛百戶葉紳與戰而死賊由甬東走寧海柔遠鄉
復折而趨鄞江橋歷小溪樟村寧海衛百戶韓綱南
戰亦死之至會稽副使許東望率知事何常明與史
吳成器圖之困於絕地幾盡懼知府劉錫縱之走由
泊水堰沿海塘過蕭山入富陽趨直隸徽州等處○

餘見直隸倭變
紀及大捷考

五月賊犯餘姚省祭杜文明死之

文明團練鄉兵累立戰功至是統土兵禦之斬賊首一人從賊三十二人文明亦戰死焉其父杜摠亦死於風樹嶺之戰父子忠勇人所難及

復而賊犯嘯徒名易盜鐲敗之

賊犯平湖指揮李希賢敗之

賊自柱根白洋分掠平湖乍浦希賢邀擊于其大破之何賊益懼攻城月餘始解

攻上浦所

賊攻爵溪所及餘姚縣

賊新至即攻所城不克進攻餘姚

賊攻三山所把總指揮劉朝恩擊敗之

時朝恩已承院檄他委離所一舍聞報即馳還率軍民固守值霖雨城把者數十丈賊蘿呼謂唾手可陷

城中洶洶或勸朝恩突走朝恩叱之曰我祖宗世受國恩今日正我報効之秋豈可以事權去已而規避耶且我去則一身之利得矣其如生靈何遂以身蔽把所督戰其力復以木城障之時城上矢石如雨而未有中賊者朝恩悟曰此幻術也授以生夫百發矢盡中其酋帥貫喉而斃賊驚潰走朝恩復逐蹙之斬馘數級是役也內外居民全活者三四萬人

六月賊犯省城燒北關市總督尚書張公經統兵禦之

大戰拎塘敗績

初賊敗於壬江涇精銳者多死柘林諸賊亦驚愕破膽胡公計乘勝進搗賊巢欲令永保二兵由金山海塘而進茅氏兵合遊擊鄒繼芳由閔行黃浦而進狼兵攻其東苗兵攻其西海洋戰艦截其遁歸之路必使賊無噍類以絕後患張公不能用竟分永保兵以援蘇州等處二兵困于奔疲且衆寡不敵故有是敗

賊尋走吳江之平望浙直官兵會擊大敗之

詳見直隸倭變紀

賊從嘉善縣過去嚴州所推官劉景宿又敗之

賊既不能取道蘇州乃折而東南從嘉善乍浦以趨舊穴泉率鄉兵禦之于三店塘復大破之斬首四百六十餘級焚溺中毒死者復千餘人蓋不藉客兵之援而專督鄉兵之功也

浙東賊犯餘姚鄉兵擊敗之

賊自觀海遁歸官兵追敗之于霍山洋

賊自觀海出洋都指揮王霈與把總閔溶張四維等邀擊于霍山海洋悉沉其舟

參將盧鏜擊敗賊于馬鞍山新村復追敗于滕山龜鼈洋

八月副使孫宏軾等攻賊于大陳山舉擒賊首林碧川

賊首林碧川自柘林遁出海爲颶風泊回泊台州之塘門宏軾與兵備僉事參將盧鏜知府宋治都司王霈等督舟師追之賊敗登山官兵圍之月餘碧川與高贈烏魯美他郎等一百五十人俱俘斬無遺

參將盧鏜擊賊於金塘敗之

九月賊巢舟山之謝浦

十一月官兵追賊于龜山平之

賊登犯海鹽知縣龔茂指揮徐行捷即日討平之

賊自秦駐山登泊茂等率兵撲滅之是戰也賊雖止於八十有奇然以是日登陸而官兵以是日盡殄之則前此未之有也

十二月賊犯平陽三港等備劉隆等死之賊尋平

賊自南麂山流入金鄉至平陽之三港官兵邀擊大破之賊佯爲我兵裹束透出陣後而以精悍者衝其前腹皆夾擊我兵遂潰降與千户鄭綱百户張澄死焉賊尋至乘勝攻之以成箅仍令降史吳成器爲鄉導引官兵由新昌透出賊後期容美田九霄兵至夾擊之百户王世臣等又各分守要害以防賊遁至是官兵分作五哨四面埋伏止以一哨敵賊出戰伏兵四起賊遂大潰走清風嶺烈女廟官兵乘勝攻之斬馘無遺○餘詳見大捷考

樂清賊犯寧海主簿畢清死之

清善騎射屢立戰功至是禦賊於楓樹嶺力戰而死

尋至平陽擊指揮祁嵩等死之
嵩與百戶劉愍俱力戰而死

指揮閔溶亦戰死于舟山

三十五年正月官兵擊賊于後梅大破之
詳見大捷考

二月賊圍寧海衛
賊據近城蓋厥爲巢日夜攻擊

三月官兵進擊舟山謝浦之賊勝之
參將盧鏜知縣宋繼祖生員李中公民武生妻楠等會兵進攻大破之賊移屯邵畧

柘林賊攻乍浦所
賊首徐海陳東等自柘林沿海而來欲踞乍浦爲巢進攻杭州次及蘇常以至南京兵備副使劉燾疾馳應援與賊相持官兵大勝斬首五十有五賊勢少挫翌日賊自金山而下者復萬餘遂圍燾于城中日夜

攻擊燾督官兵禦之賊不得間九日乃解去由海塘而西燾尾追之斬首一百三十賊過海鹽轉塘灣指揮徐行健禦之因衆寡不敵而死賊因野無所掠分作二支一逕至長安一由破石章婆堰與長安賊會知杭州有備不敢攻而去

四月攻嘉興府指揮程祿死之
賊回至王店復分爲二半由海鹽塘半出長水塘期會攻府城時嘉興兵俱往杭州賊覘知之故乘空而至也適程祿所統陸兵五百至與金舟等水兵夾攻之斬獲頗多賊後至至衆其隆行者徑趨城下我兵爲其所殺賊遂過城下而西急赴皂林以趨烏鎮祿追之賊預伏民房以待祿遇害時官軍死者千餘人

浙東新賊攻觀海衛龍山所進陷慈谿縣
時賊自鳴鶴場臨山三江發者各千餘越數日始攻觀海衛龍山生員李良臣死之禦之賊乃往慈谿縣城慈谿無城知縣柳東伯率民兵禦之而賊分隊洗山兵後衝縣市都長沈宏率族屬土兵勦之斬首百餘賊即遁去賊首爲周乙豐洲酋也

參將盧鏜敗賊於慈谿之士亭

特賊將掠餘姚遇之於大亭大敗其衆賊乃不得至餘姚士民感之為勤石頌功云

佐擊將軍宗禮與賊徐海戰於崇德三里橋

海統賊萬餘流劫為鎮胡公遣千總錢榮等率鹽兵百餘人偽為亡命投入賊中以為內應而檄知縣張勇劉之賊內外驚擾不得寧居欲仍往杭州至崇德三里橋禮與鎮撫侯楫何衢忠勇官霍貫道率兵九百餘之三戰三逐北賊死者以百數賊分酋死鬪禮等以孤軍力戰多寡不敵遂皆死之

賊攻平湖縣

指揮翟文擊之賊退走指揮劉岱領伏淵洮復追賊至馬山皆勝之

五月浙東戒復入慈谿焚縣治攻龍山所

賊分二支一入縣治一攻所城為龍山兵所擊死者數十人乃解去

賊首周乙就擒

乙統賊四千餘劫慈谿不已而延及餘杭為浙東之大患至是就擒

福建流賊破僊居縣入援之

時方築城未完且值霖雨新城崩壞賊進攻者三知縣姚本崇悉力禦之賊夜分三支攻城西南面以一支潛由東北登陴遂入縣治先是賊自莆田岐頭流劫北至青田百戶方存仁死焉賊遂猖獗攻破縣城越復劉岱率兵來援亦死之

流賊陷桐鄉縣

宗禮兵既敗賊益熾肆掠督沈公鵬入堅桐鄉賊就圍之副使文燾遣指揮朱文王彥忠來援擒斬賊二百六十餘人衆寡不敵我兵遂却

總兵俞大猷盧鏜敗賊于漢山馬跡洋

松江之賊自古窪遁出漢山海洋鏜與指揮張四維等追及之沉其數舟擒斬二百大猷復追及于馬跡洋又俘

斬百餘

按東攻閶桐鄉勢甚危迫總督胡公新受命[illegible]三千餘駐敵樓防守抗[illegible]無[illegible]可遣援者乃[illegible]龍文謀曰方今衛[illegible]不[illegible]督公困[illegible]一有失損

國威多矣今欲用間以紓時艱而無可使者李何龍
文曰我也受
國恩願以死報請往說之公曰君京官也而無
朝命往且不測況與賊素無一面之識誰則信之適陳可
頎自松浦回以王自義子毛列通事童華夏正朱尚
禮鄧岳等款定海關携報效胡公喜曰吾事濟矣乃
留毛烈於舟山而亟召童華等來見因厚撫之華等
感悅胡公察其可使乃推誠與之計華遣朱尚禮持
書往說海賊故思公威名欲解去而惡無名得書大
喜欲與華面議龍文因請監督以行胡公從之遂若
諸海所宣布
朝廷威德因勸樹功以圖顯榮海固唯唯而陰與華曰吾
固願為報海而苦倭人金且數萬李何華曰此易事
耳胡公豁達大受爾能與之立功富貴可望也豈在
數萬金而已華乃海大悅遂以降券付龍文等罷歸酌
日解桐鄉圍而去既而下狹石過塘捷華亟鞫詞垂
兵之故海曰以倭人金無所償耳華曰若然是撫之
以要重賞也茲豈效順之義胡公一怒吾亦不能為
若謀矣爾第出海須軍門有厚賞持以償倭未為晚
也海懼從之即退屯李港華恐其反覆難保因索其
弟洪來
質云

副使劉燾遣指揮王彥忠等敗賊於斜塘

賊有復自松江來者屯斜塘風涇王帶等處勢甚
滋蔓燾令彥忠等逐之賊大敗復由橫浦東去

六月官兵進擊僊居之賊平之

賊據僊居胡公客阮公往救之又檄副使許東望知
府譚綸總兵盧鏜等從東路進賊聞大兵至乃走斷
橋彭溪官兵圍於林同知家指揮伍惟員死其前鋒
俘斬三百死水火者不計餘賊六十人遁往天台復
為鄉兵所殺而福建
流賊遂無孑遺矣

應襲管憨充中書羅龍文誘擒賊首華明陳東等

徐海既鮮桐鄉圍而去與陳東葉明分屯呂港新場
旋復合於乍浦城南黨與甚盛督臣趙公數趨進兵
總督胡公曰今衆寡不敵進兵豈為勝算且海所以
退去者貪吾餌也若進兵而勝固是美事不勝當奈
何今日之事法當先撫而後勦以全數萬勾致其心
遣諜離其黨與剪其羽翼而後徐為之圖萬全之計
也於是遣龍文與華等行間適麻葉偽為胡公虎符
潛出陝石擄祝氏婦胡公怒復遣華等往語海曰爾
一心欲投降乎陳東葉明及覆不常恐為爾累非我
所以曲全爾命之意海猶豫未決龍文曰彼一人者
已客啓越公約緩爾生於之矣海大怒吻誘麻葉至
管憨光舟所陳送單門復縛龍文於舟載貨賜與買

易童華以金二百與倭人之梁點者誘東偕來至舟所即執之以歸海自此勢孤以至於亡

八月官兵敗賊於夏蓋山三江海洋

既而又戰于金塘馬墓之間復大敗之俘斬二百三十餘人

兵部郎中郭仁副使劉燾擒賊於秦駐山

時諜報秦駐山支嶺之上有群倭據之其舟爲鱟魚所破不能長往仁與燾時駐乍浦即欲遣兵擊之將士皆云窮寇據險難以仰攻乃討令兵士挾降倭一人往說之許其送付徐海其黨五十餘人悉棄兵而來因次第縛之

官兵敗賊於乍浦

詳見大捷考

賊首徐海乞降

陳東黨既爲官兵所破海內不自安陰修戰備爲死鬬之計胡公知之復令羅龍文童華等往慰之且諷使入見海猶豫未決龍文宿其營安寢如家海以足躡之覺曰此虎狼之穴何酣睡若此耶龍文曰我爲爾百口且不顧況此身耶今爾乃心持兩端何也海曰聞趙必欲殺我恐公不能救龍文曰趙公初意如此今也則否海曰焉知非誘我而殺之耶華曰胡趙二公欲爲爾題請封爵使爾專提一旅之師捍海上冦若不入見彼何所據以正請也海曰蹈不測之險柰何龍文曰我京官也且胡公姻戚爾第入見我則質爾營中萬無一失矣海始首肯華既馳報軍門軍門許之爲之期日諜使復數四約既定海猶慮中變先期而至入見胡趙阮三公及巡按趙公孔昭于平湖城中受犒而出謂龍文等曰鑒諸軍門之貌吾禍終不免嘆息者久之

既而復叛據沈家庄總督侍郎胡公宗憲督察侍郎趙公文華提督都御史阮公鶚率官兵討平之

時官兵四集軍威甚盛海偵知之陰收陳東葉明餘黨謀拒自全胡公復遣華往解之海迎謂曰吾以爾言結怨諸倭今軍門既受吾降而復徵兵漸逼非爲我而誰耶叱左右縛華將殺之華大笑不止海曰爾何言華曰吾笑爾不識人以忠爲姦使吾枉死爾不知每曰何謂也華曰陳葉二黨尚多且心跡不一今陽爲附爾實爲豫讓之計軍門恐爾入其彀中故遣我相聞官兵壁近郊者防其變也爾何不悟即海

曰然則如之何華曰今沈庄有東西二所爾哥不分其黨各自為巢而密約官兵發之爾後患絶矣海萊然之率用其策由是二黨互相猜疑胡公知之遂部署大兵進搗其巢是時賊壁甚堅擾敵樓以拒四面皆掛白布覘我不得況賊也諸將以佛郎機攻之晨炊石不數近七日弗克胡公怒命都指揮戴冲霄攻之中霄率兵上逼賊壁立於矢石之下毀其西南正西敵樓各一座賊失援冲霄又把總揚永昌等督水師等兵大進搗巢於半日之間實冲霄毀敵樓之功也海既敗毀其黨散走一支據定海丘家洋阮公與總兵俞大猷盧鏜合兵圍之賊潰走逾桃花嶺渡寧奚歷鄞奉化寧海與官兵戰於台州兩頭門把總指揮范　死焉賊突走溫州至福寧得舟而遁一支自五虎出海為大猷兵所滅一支自浙江出海為鏜兵所破其得脫走者突登慈谿縣伏龍山阮公率官兵滅之由是賊無生還者矣

總督胡公宗憲徉縱賊酋辛五郎出入鎗擒之　許見大疑考

副使許東望擊賊於馬墓福山洋敗之

賊酋二耀表乃從
賊七十餘皆就擒

九月百戶卽官追賊於臨海兩頭門殁之

副使王詢總兵俞大猷擊舟山賊平之

俘斬一百
五十餘

十一月官兵進搗謝浦賊巢平之

先是賊據吳家山官兵自秋及冬屢攻弗克胡公命副使張四維以麻陽兵當歲除夜襲破之俘斬無遺是年閏浙之賊數倫二萬皆次第就擒
而謝浦之寇郎舟山之餘孽云

三十六年四月賊犯定海關應襲百戶俞憲童殁之賊亦敗走

賊舟漂至沈家門副使王詢總兵俞大猷令把總張四維誘降五十三人至定海關適別舟賊殺憲童恐其中變悉所之而移兵擊斬至者賊敗宵遁

十一月賊首王直款定海關要互市總督胡公誘擒之

王直據倭稱降志在互市總督胡公檄總兵盧鏜駐中中所殺以成等必欲生致之鏜卒心竭力撫循備

至直猶豫未決計無所出胡公復遣生員方大忠往說之與把總劉朝恩陳光祖指揮夏正通判吳成等偕行鑑以城外後丹森列慮變不肯啓綸朝恩曰若是是益疑賊也不若以禮諭之以誠招之保無他虞鑑從之朝恩等馳至賊所直見客兵一時伏迎道左大忠反覆開諭直曰公等皆良家子臨辱直小人也敢不唯命遂聽大忠計具舟於城中誘致定海而執之夏正以此不得還許見前考

三十七年二月賊酋毛烈據舟山之岑港

王直既就擒毛烈等欲爲之報仇不肯還島而據岑港分踞舟山梅岩兵屢攻之弗克

都指揮戴冲雲等擒王直謝和餘黨誤目陳秀山等

秀山王信鄭喬怒等直部下首項
松吳九等十五名和部下首也

賊攻樂清縣城

賊舟入石馬港者甚衆進縣城副使表祖庚參將張鉄逐之至和尚墩與太平流寇合兵五千餘人金盤頭陣斬首百餘級賊乃退屯白石而死者實多事王德良醫王沛督鄉兵禦賊亦死之

四月賊攻台州府

賊船二十餘艘自海門寨寇台州象山
[illegible]至之賊與合爲一攻府城參事李二二畏
[illegible]
[illegible]兵禦之
[illegible]濱大敗之

[illegible]延太平縣典史葉宗與戰死之

攻寧海縣

攻溫州官兵討平之

時台州賊復合樂清賊攻溫州府總督胡公遣參將戚繼光追之及於盤石館大敗之賊遁出港參將張雲鶴奉胡公方略艤舟師江濱以待斬首百餘焚其舟數十賊死者無算先是賊分二分劫象山寧海偃居知府譚綸悉擒斬之戚繼光又追及於海洋賊遂全殲

八月官兵進剿舟山賊巢平之

詳見大捷紀

三十八年三月賊巢象山何家礮登犯者二百餘[illegible]
[illegible]賊自何家礮登犯者二百餘[illegible]
固總督胡公檄副使譚綸[illegible]

曰賊者報賊甚多而今登犯者止於三百兵營我乎乃令大酋率舟師備之於海而自率陸兵往禦之至定海即欲進兵將士請曰兵士遠來乞休三日而戰綸曰賊數不及三百久掠不去者蓋謂我無兵耳今聞大兵四集不走且嚴為備宜出其不意急擊之乃進兵至瑪岡賊繼至者五百自金井頭而來至近綸即發兵先擊之前鋒既接綸分兵從中衝之賊遂大敗追至落頭斬級以百計賊潰入山中竟宵遁焉翼日綸率軍進搗何家礓賊巢賊殊死戰綸遣奇兵從間道出賊後擊破之賊潰入舟中因縱火焚之浮斬殆盡

賊攻桃渚所

攻楚門所

賊千餘自泥湖礁而來

賊犯樂清參將張鈇敗績千戶胡鳳等死之

賊自梅巖劫次日至窒礱鈇迎敗之乘勝進攻賊伏麥田中官兵入其伏遂潰千戶胡鳳朱璠百戶姚憲皆死焉

賊犯定海把總陳炘與戰敗績武生蔡啓元死之

賊自倉洋入犯為參將戚繼光所敗至奉化之蔣家鋪副使譚綸遣其可擊之其可遣綸節制乘勝逐北為賊所乘遂潰敗啓元死焉

賊攻松門衛

賊攻夏公嶼入犯即日攻城即掳浦賈子寫為奠皆去衛不遠數四

四月賊攻樂清縣

賊自石馬巷入者二十艘鈇射死其酋二人賊驚潰奔舟

桃渚圍解

時賊攻所城甚急幾至陷殺總督軍門檄譚綸往應之綸至入所城與戚繼光合攻之俘斬頗衆賊遁當道依山為固官兵又進攻之復大捷賊遂舍入棚浦賊巢

參將張鈇敗於白沙嶺

賊自松海登陸及太平遁至之寇合踰至白沙嶺鈇預設伏以待賊至入伏正兵方合伏兵繼起大敗之

賊遁出
海去

五月柵浦賊夜襲松門衛城副使譚綸等擊破之

綸既破桃渚之賊即回軍向松門擊柵浦賊既入衛城以守城卒久而疲且風雨晝暝恐賊乘官兵初至來攻城乃令諸偏裨悉軍遁衛以備巷戰而令戚繼光分配城守諸偏裨皆竊笑之夜潘下四鼓果有賊數百襲西門先登者且三十輩殺城卒火城窗守者紛紛噪求走潭延慶陳其可督兵大戰斬數賊賊乃退

繼光尾賊後計賊必出金清開墾二舟塞之賊果至起塞特綸駐新河所城墾旗示弱詐為新河老人遺書于賊約饋千緡令勿攻城賊信之乃不起寨明日繼光軍出壁牛橋誘賊賊果悉衆往綸書盡銳兵出南門復遣人搜賊伏悉走之賊依舟以拒官兵攻之沉其二舟賊大敗奔陸復大敗乃棄輜重越過南岸官兵追之及於南灣嶺賊復據濱海高山分五部以拒官兵綸次蘭等進搗其巢先令奇兵間道奪其嶺以附其背張左右翼以貫其中遊兵復四面環攻之賊遂大敗斬首三百生擒數十百人賊潰圍奔樂清黃華據舟出海而去

副使劉存德參將張鈇進搗海游賊巢平之

九定存德鈇預令把總任錦等設伏石所在港口而自督兵進剿之賊知大兵將至即遁出洋伏兵擊敗之追至猫頭洋又敗之追至青門洋又敗之流兵舟數十俘斬數百餘賊改屯海游官兵擊斬盡絕

九月福寧賊流至桐山指揮盧鎡等敗之

賊掠福建而去為颶風所擊復至桐山鎡與海鬼等謀其巢預遣人伏賊巢中約被虜人為內應而令指揮李光佐典史黎喬伏水北策應之夜二鼓賊巢火起各兵乘亂夾攻賊大敗奔前岐官兵復追及之斬首一百二十

十一月戚繼光追往福建盧鎡等復大敗之

鎡等知賊將遁設伏秦嶼港口俟之賊至大敗官兵追至同安縣馬巷復益以巧兵來會前後夾擊復大捷俘斬二百有奇

十二月王直伏誅

初直自列表之敗而之日本也居五島之松浦港號徽王頭戴八寇皆直之謀其黨承奉方畧歸以復人籍口海上之寇藥以後子日之而不知其為直遣也巡

首董二老被擒譯供與胡公所料不爽毫髮人始服其明鑒御史陶承學金洲等交章論曰方今總督大臣調集大兵剋期剿滅將兵非不銳也斬獲非不多也而四面之侵擾愈甚者何也蓋以逆賊之名未正則討賊之義未明討罪之義未明則人心之從違靡定但彼逆之爲計也狡爲謀也秘是以東南士民雖疑爲王直主使而莫可致詰今乞

皇上勑下該部會議明揭黃榜正逆賊之罪以明討賊大義率衆入寇助惡煽霍者乃王直之羽翼爪牙也必誅無赦又曰兵威雖振而禍本不拔亂終未已即如王直構亂二十餘年潛形遁跡莫能誰何煽禍連歲此非所謂大奸惡者乎苟欲制其死命在懸非常爵賞見今賞格因亦匪輕然爵未及僕伯賞未及萬金人誰樂爲我用以建非常之功哉臣愚以爲宜

勑督撫及各有司等官募有能善設謀計俘馘賊首王直者成功之日封拜侯伯其餘量功大小授以都指揮指揮千百戶等官俱與世襲

命既下胡公與督察侍郎趙公文華謀曰王直違在松浦居室屋從僭擬王者且不自來其孰能擒之不若以宣諭爲名遣人用間用餌以勾致之禍本塞矣於是交章論列大意欲宣諭日本國王令其禁戢島夷以

上從之由是遣寧波生員陳可願蔣洲充市舶提舉以行時胡公已爲總督東指授可願等方畧期必生致之

圖

可願等至松浦見王直如胡公指直方欲肆志中華以官兵防之嚴未有計得可願語大悅先遣義子毛海峯來探胡公意公知其謀因厚撫之海峯還報直直益感悅率諸酋來求互市胡公預遣總兵俞大猷參將等官兵水陸援伏無慮數萬計直至舟山泊列港固已入公彀中而不自知矣然坰公猶以困獸死鬬爲慮陽許開互市授直官爵俾專主海上盜而陰遣人誘之入見直初猶豫未決胡公令譖入賊中揚言其黨稍稍思變直不得已始入見公于定海遂執之歸杭州直既就擒其黨無主圖脫走轅爲兵船所迫不得去久之因颶風起意我兵不之隄也突走海中轅爲颶風所擊無有存者而王直之黨盡滅矣既而胡公列狀上

請得旨即杭州市曹斬之傳首京師來南二十餘年積寇至是乃絕自時賊後海船失發緝指示之人始及入寇之念間有至者輒爲官兵所破若摧枯拉朽矣

四十年四月官兵擊賊于馬鞍沙坡大敗之

賊新至官兵遇之于海洋中追逐至馬鞍沙坡大敗之賊奔陸適冠帶荒總章延廩守于舟山引兵設伏

又約水兵合擊
之賊遂大敗

賊犯新河所官兵擊敗之

賊自週洋港登劫鹵掌唐堯臣遣指揮劉意等擊敗之復用火攻賊死者百餘適太平漁艘復追敗之

賊犯台州參將戚繼光敗之

賊自桃渚登陸流至台州爲繼光所敗追至新橋賊又返走死者百餘而繼至者復二千餘人至黃沙爲繼光所敗乃登山以拒官兵復追敗之闇於向背半洋民居火攻之賊遂盡絕是役也賊多兵寡而我兵九戰皆捷俘斬千餘焚死者稱之

五月賊犯大嵩官兵擊敗之

賊爲我兵所逐出至橫嶺柘杯水兵不得去乃棄入鮎鮹副使王春澤檄總兵盧鏜由南路奉化以入象山而自引兵由大嵩望潮頭湊村進期與合擊適賊至乘村官兵擊之賊大敗潰斬首四百五十

金鄉鎮石二衛立把總一員其分
金鄉總守温處參將即此總所轄之地也

海港守備

黃華水寨東接大海大小門電恩南北港口乃温州之咽喉也舊制戰船四十一隻南會飛雲比會白岩塘交阻巡哨歲久撤備嘉靖三十七年倭從此港入温州抵處州之青田補造福蒼等船二十餘隻比舊反減似宜添設

江口水寨東臨大海至五嶼等畚比至平陽縣外接瓯邑長腰陌城陽嶼等大洋爲平陽門戶舊制戰船二十餘艘歲久撤備嘉靖三十一年倭犯平陽前蒼浮口麻圓等地從本港入今造兵船成守此若制置加南至舵艏炎亭比至瑞安縣三盤界往來會捍似爲得之

飛雲水寨温州南門之地也舊名中軍水寨南臨海港外接大海風山内通縣治實衛護府縣之門戶也舊制戰船四十餘艘歲久撤備今議江口黃華二處兵船於此往來分哨此在無警之時則可若風汛之候後船亦餘衛矣二港自衛不暇何暇顧此哉

鎮下門水寨東距大海倭若登犯徑抵瑞安所城則平陽赤嗣諸處無策捍禦極爲衝要舊制戰船二十艘南會福建烽火門流江比會江口港巡哨歲久撤備今議將江口兵船於此往來存留旗軍防守限於財匱不堪復設舟師也更宜添置方爲慎固

白岩塘水寨東濱於海實蒲岐所之外戶也舊設戰船二隻比會松門楚門南會黃華港巡哨歲久撤備今議併入黃華港兵船存留旗軍四十名防守亦因限於財匱不堪設舟師也添置慎固方可

海岸設備

舵艏寨東北皆濱於海倭賊屢次于此登犯至前倉腹裏見撥旗軍防守

炎亭寨在海濱賊若登犯突入腹裏從本衛城外可至平陽縣孫湖地方見撥旗軍防守

大小漁埜二寨聯絡海濱極爲衝要賊易登犯若安入腹裏從本衛城外可至平陽縣南鹽場等處地方見撥旗軍防守

防守已上四寨俱金鄉衛平陽縣
所轄昔係江口港兵船往來巡哨

程溪寨 南至海西抵鎮下門水寨頗爲蒲門要區
嘉靖三十四年賊嘗登犯見撥旗軍防守

葛蒲洋寨 在海濱先年賊曾登犯見撥旗軍防守已
上三寨俱蒲門所所轄亦係江口港兵船往來巡哨

眉石北寨 東至大海南會陌城寨西平陽所北會陡
門極爲衝要先年賊嘗經登犯若突腹裏從陌城可至前倉等地方又可通平陽坡南
見撥旗軍防守江口港兵船於此往來哨守

眉石南寨 東濱大洋鳳凰山寨一潮可至西抵僊口
極爲險要賊若突入腹裏從僊口可至平陽縣沙園所原設飛雲港戰船今併
入江口港往來巡哨見撥旗軍防守

僊口宋埠二寨 東臨大海近年本處居民建立堡城
捍禦撥軍防守已上俱屬沙園所其
外港口兵船
往來巡哨

黃華山寨 西離水寨二里先年賊嘗登犯極爲衝
要見撥旗軍瞭守外有本港兵船巡哨

沙角寨 東臨大海界於黃華章爵之間嘉靖三十八
年經賊船登犯若突入腹裏從芝麻可至三

條嶺抵樂清見撥旗軍防
守已上俱盤石衛所轄

章爵寨 在海濱賊船易登頗稱險要防禦慎固則東
衛塔頭而西衛沿盤南衛百華北衛長林後
船雖至不敢犯也
見撥旗軍防守

白沙寨 東南濱海嘉靖三十七年賊犯樂清縣治自
此地入乃水陸要害之道也見撥旗軍防守
已上俱樂
清所轄

嶼山寨 坐臨海口賊可登泊若於此突入西可犯天
仙南可犯雙峯北可犯後所勢難猝禦見撥
旗軍
防守

平山寨 西接後所南接嶼山北接白沙爲樂清唇齒
嘉靖三十七年賊嘗登犯若突入腹裏南從
石馬可至本縣白石等處見撥
旗軍防守已上俱後所所轄

後塘寨 東南大海地勢險要嘉靖三十一等年賊屢
登犯其南爲李畬西爲清江渡北爲雙陡砲
若突入則諸地悉受焚
劫矣見撥旗軍防守

高嵩寨 爲蒲岐門鎖鑰東臨大海極爲險要嘉靖壬
子等年賊嘗登犯若突入腹裏從楊婆橋可

至長山地方見
撥旗軍防守
下堡寨爲浦岐之南藩南臨大海頗爲險要
見撥旗軍防守已上俱浦岐所所轄
龍灣寨東援寧村西捍府治坐臨深水頗爲險要嘉
靖戊午等年賊自黃華港登犯突入腹裏從
新建浦州地方直抵
府城見撥旗軍防守
沙滿寨坐臨濱海賊可登
見撥旗軍防守
沙村寨北至寧村所東至
海見撥旗軍防守
長沙寨東臨海塗地勢頗險見撥旗
軍防守已上俱寧村所所轄
丁田前後岡三寨俱海安所所屬雖撥旗軍協守然
丁田地勢稍緩惟前後岡俱臨深
水極爲險要嘉靖癸丑等年賊曾登犯若突入腹
裏可至温州府城及瑞安縣見有黃華港兵船往
來巡
哨
東山上馬二寨東西分峙有犄角之勢坐臨海濱極
爲險要賊若自東山而入由九里可
至府治自上馬而入由丁田
可至海安見撥旗軍協守

陌城陸路二寨東南濱海極爲險要賊若自陌城突
入從營山可通樂陽坡自陡路突入
從江口港可至錢倉等處見撥旗
軍協守外港有兵船往來巡哨
汶路口寨東臨海洋陽嶼門南以策應江口水寨北
與應眉石南北二寨地勢險要先年賊曾
登犯平陽沙園
二所撥軍協守

分水關係浙福交界賊自福省突來必由此嶺至
分水關係浙福交界水過牛皮嶺一可至壽寧縣城外
而抵瑞安地方一可溯官岡至泰順青田地方且
可通桐嶺至温州府城等處遇有聲息必調兵遏
截方可吃其坑而固全浙之
南境也已上俱平陽所所轄

海外設備

大巖頭山賊船自南麗風覓舉浦岐楚門下環而
來俱經此山今撥黃華港兵船每遇風汛
於此
巡哨

海島王環山與蒲岐所相對此山懸居海中聯絡深
長山背即台州府所屬太平松門楚門
交界海洋賊自北來必經乎此
處今撥黃華港兵船於此巡哨

霓界賊船南北向往多泊於此可至盤石衛最為險要今撥黃華港兵船於此巡哨

南龍山賊船自北洋來必經此山　黃華港兵船於此巡哨

南麂鳳凰山　此縣陽大坐臨深海山外大洋別無山島賊自國初以來俱經此棲泊窩巢穴也風順一二潮可至飛雲港先年設兵船一枝哨守屢壞未復今撥江口黃華港兵船巡哨

松海總　松門海門二衛立把總一員其分守台金嚴參將即此總所轄之地也

海港設備

中州港　南往海中茅埕山與蒲岐港接境北往海中坦山與靈門港接境此處見有兵船巡哨更設八漿小船以搜王環諸山之穴則善矣

靈門港　東接海中鵝膊山與松門港接境南接楚門洋亢下接桐蕉山原無兵船之設嘉靖壬子等歲倭犯江縮犯後灣始議立戰艦已未賊犯靈門跳頭從腹內流突沿嶺江竊舟通海將前船制守東門又以單弱不足防禦併入松門港大鯨哨守草之誠便也竊謂松門寨港大鯨兵船去此密邇可以徑額其地彼港舟師每每潛通哨報不時為今之計當重責於松門港之水兵而專嚴以哨

船之號令

松門港　其東為烏米門外積谷山及下洋大陳畢等處外即大海直抵日本北往化螟龍王堂鯉港橫門大潭深門等處與新河水三汊港接境南往鵝膊吊崩硐礁鹿頭片嶼驢洋邵山等處與靈門接境隘頑居其南如隘頑有賊此港之船直擣其窠隘頑緩急此港之責守也海內碎山極多若賊自溫州而來此為匯嘴捷徑竟抵城下若自外國而來止過大陳邵山大鹿登岸皆為賊巢甚難防守今雖稍增戰艦僅堪小敵之禦而港內迂迴屈曲難以捍賊必出大陳山而迎戰於海中乃為得之

新河港　港口淺狹大船未易出入不必舟師防守止陸備舊設樁關動稱門戶之固司事者未皆親履遂相駕重以為險阻實惟小松木二三十株半港中耳既無險可恃無據可守左右南岸平於如掌豈能為坦港之重輕哉

海門港　一名椒江渡港水流入二十里之中一分台州城下一分黃巖城下此我朝開國以來之重鎮台黃府縣之咽喉也浣寧波定海關不同其定海既狹港外洲山長釜馬鼻

金溝遠近皆堪泊船分哨海中復有舟山二所日設重鎮於定海戰艦數百是以海外之功屢有成績而港口之守求無內患今海門港一潮之淺止有三山一座形小直削並無港次四望汪洋我之兵船欲泊於港內則不可禦敵欲出於外洋則更無山嶼可抱風浪洶湧自國初迄今倭之犯台悉由於此國初全浙設備倭都司一員而衢駐守海門其所係之重可知邇來諸港皆設備獨此一港與海門衛未嘗經理雖有兵船率爲故事舊有二百餘隻尚不能泊其黃巖之入今所造船隻分其半於松門港不知此港之兵必當倍於松門庶克有濟何也松門港之船可以盡出外洋截賊此港口必須多留船隻防守若不嚴禦港口使賊一入則其舟西去台州隨潮僅九十里我之陸路隔渡阻山無由追蹤必山黃巖遠抄勢不相及故全賴水兵阻截港外有台境之寄者其旗圖之議者謂桃渚離海門甚近可以策應戰艦不必設不知海門所出裏路至桃渚止四十里形似弓弦若由海中轉達聖塘而下必出大洋其程兩日不似桃渚至長沙巡司一帶亂山叢砌群峯散走或出或入萊紆紛峙海邊淺潮之中直探出大海極爲綿遠而桃渚所北往健跳一帶如鹽塘除下仙巖處處海灣突進其健跳之舟北禦昌國海鄰一帶力已足矣桃渚港之外接大海總港

亦當設船一鯨如健跳之數但額舟有限松海二關已爲不足若量抽數舟棄之萬山之外孤海之中勢分力弱亦竟何益哉

健跳港原設長洛一渡逼近東所城側渡闊四百餘丈出海直往茅頭大洋上接海中沓鑑山與練陀等處下接海中青蟾黃毛嶼與牛頭桃渚地方接境此處宜設兵船一鯨必得福蒼海滄二十餘艘方可守禦松海二關已稱疎薄無力分應若又量抽數隻分守此港則港大船寡無益於事此城孤懸以船爲命今雖有守似爲單弱不足恃也

按台州海門不出此數港分守合備似不可緩若春汛之期當以松海二港合爲一大鯨在大陳洋畧伏截以爲南鯨桃渚似當添船與健跳相等亦令會合外洋以爲北鯨其在南鯨也則海門港必當留大小兵船十餘艘守港而松門可盡發其在北踪也則健跳港必當留大小兵船數艘守港而桃渚可盡發

陸路設備

楚門所賊犯楚門必屯鵝膊山下其心恋船不過三三日即還而走如往臨頑則歷所城藤嶺攪

遊擊我兵阻之不得已方棄船登陸行也其往三山大利以由温州不如經由水中對過蒲岐港爲便南關一小港爲玉環山週圍百里舊有民居國初遣入内地台温二境乃賊去來泊船之淵藪也對岸則温州府蒲岐所近被勢豪攘以耕種夫耕田則起屋起屋則招賊繫誠難不宜開然當事者誰肯任怨故又由西北至太平城江下地方謂之東門港沿山濱海而行山林容茂水港出入又十五里乃南灣地方高山環海舊戰場也舊賊據萬仞山壁與官兵之路皆鳥道魚貫我兵分爲四枝松林如織相戰犯兵家之大忌仍成全捷以收首功信乎地利不如人和也

臨頑所北至太平縣蒲潭南可以阻楚門之後城外東北山下長沙面水民居一村舟船至此可以屯泊若棄舖登突火由藤嶺内外皆可至温州地方夫賊屯聚於藤嶺則太平之路既阻於藤嶺松門之路又阻於慢遊該賊屯據面水背山可以高枕久住可以從容困城楚門所在其南非駐兵之地決不能北援大松二路又絶將何以爲計也所損只有松門港兵船抵城下賊若有船在水定可逐之賊若在陸水兵無所用力但哨船遠瞭松門港兵船急出過臨頑之南大海中截之庶可保全禹一疎虞而致賊舟登犯城四面皆山高排天表既不能守而城身欹矮又不足固其若灵門關

有賊雖屬險難我兵統入城内從容南出攀援而進亦可應援過大嶺若夾山而行進退路徑皆艱兩扈鬬於穴中勇者勝耳可不深長思乎若賊流走我兵當星夜先馳江下預處戰地設伏以待若尾而追之則無及矣

松門得若止駐兵城内而賊由西來則我兵孤繫諸處難顧若城内本營駐兵而賊據松門寨爲巢以一枝勦兵守其門山麓下則我兵無路可援設城内城外皆當防守有警則將人由泥塗用馬報約城内之兵刻期以一枝由新河一枝由臨頑海邊進戰城内兵鼓噪應之庶爲一策其由臨頑而來多水窟難行必由北裏山會合新河一帶而往過雨則潦不可涉旱則可進大兵沿塗皆硬沙實土有潮不可行無潮可列堂堂之陣今有大舉兵船諒多無虞

新河所論形勢之急在海門港論適中之地在新河所該所去松門臨頑海門黄岩皆五十里去太平縣三十里三面俱有大路可以進兵應援但北至海門皆由路雨久潦溢水皆沒人其旁横山頭敵所必由我可設備以阻賊衝者也蓋此帶沿海陸地四散賊出溫嶺少有阻則即由路旁過出黄岩以往温州黄岩之賊決不復出海門新河蓋知撤江有舟師新河有陸兵故也

海門衛城當置於高嶺乃爲據險每賊攻垂破而卒不陷者乃保障之力非形勝之據也此爲浙東三台門戶水陸重鎮三面阻水賊舟可泊實爲險要惟恃兵船以爲命禦者舶於未登此守海門之上策也失此則爲中策矣如賊在棚浦則水兵截於大港陸兵進剿一由海門近攻一由泉井一由路橋一由三山遠截合力亦捍禦之一術也又失此則無策矣

前所與海門衛對壘中隔大港即椒江也其形勢利害與海門相同剿前所之賊多過江或由府治或下城門嶺往仙居出溫州賊若在長沙連盤一帶屯住漢盤港深而長背山面水健跳桃渚二港會于此處可爲巢穴分投山掠飽載而歸我兵由盤路至隘口轉南出其巢後自山上攻下仍以一枝截住山頭庶我不爲賊抄兵勇者勝耳

桃渚所其城可守但濠狹而城卑今議濬濠餘即以土增城庶爲海門衛及府治之藩翰也所城東北有昌岙港與本所港相類皆委蛇細曲賊之大船必不能入若泛小舟而我之兵船不能進追則其去海門甚近也外海諸山皆可以截賊須預設伏俟賊出而擊之乃可以成功也其他若安墅寺可伏截以阻賊菖埠之衝白蓮嶺可伏截以阻賊後嶺之衝肯埠嶺盡頭可伏截以阻賊肯埠之衝

吏部尚書一郭昌言 史部侍郎元鼎

若賊至東所棄城而不之顧則必往府治自仙居走溫州我兵即當馳赴府城以截之也

健跳所健跳城三面阻山皆峻嶺而東面山前距海寬跳艦之設不可一時而不戒嚴也其去桃渚一百里或舉峻嶺則鳥道魚貫或涉羊腸則潮濱梗陌或行山地則溪石坎坷馬不能馳人不能列非二日不能至設賊泊舟城下江中桃渚一路夾不可以進援東去昌國衛隔大洋彼處有賊所當時時防禦去寧海去台州俱一百四十里路徑皆如桃渚緩急之際松海大兵必不能徑達若逕過台州府從寧海而入必由黃巖台州相巖泰州寧海寧舟計一日餘方到東所援兵至此城必已遁海而別犯矣豈能望以成功耶若報至即調海門閘兵船扼所城東海山內設伏以邀擊之萬無一誤也

昌國總

沿海設備

昌國衛坐衛大海極爲險要石浦關切近壇頭崔山乃後夷出沒進貢等船咽喉必由之路懸海東北礵等山可設舟師往來巡哨以爲東路聲援其西象山縣石浦巡司則特之以爲右翼皆也緊

海中設備

韭山形勢巍峩島灣深遠對衙山本此山之外俱遼遠大洋故夷船東來必望此山爲準此昌國總

第一險要今撥北

哨兵船於此巡哨

三岳山係外海懸島乃昌國衛前後二所喉襟如賊船從韭山來每經此過嘉靖三十四年倭船于此盤據最爲險要今撥中軍哨船往來巡哨

旦門係懸海大洋外有東旦山與韭山相對如賊船由韭山來必望本門突入以往南路內近何家磯仁義南盤一帶老岸今撥北哨兵船往來巡哨

三門乃石浦巡司土灣番頭一帶沿海居民喉舌如賊從閩廣遁歸由台溫來必經於此最爲險要今撥南哨兵船往來巡哨

金齒門島礁甚多便於棲泊賊船往來必經此假息誠南路要衝之處與石浦關相隔二潮今撥遊兵及南哨兵船往來巡哨

大佛頭山內有斗底蝦蟇島頭青後城壺底等灣係賊船往來棲泊之處極爲險要與石浦關相隔一潮今撥南哨兵船巡哨

朱門山相對大佛頭係外海險要之處如賊由南來至此收泊與石浦關相隔二潮今撥南哨

兵船往
來巡哨

八排門 相連南田內多膏腴田地下便接泊若侯船
停接北難剿滅與石浦閔相隔二潮今撥南
哨兵船
巡哨

林門 乃金嵩朱門等山喉舌島嶼亦多先年夷船從
壇頭海洋突入結巢于此係起遣之地極爲險
要石浦閔至此相隔一
潮今撥南哨兵船巡哨

牛欄基 係石浦閔後門外洋必由之路有山環抱可
避東北風如分哨南北兵船往來必於此
爲適中哨守之處與石浦閔相隔半
潮今該中軍遊兵船南北往來會哨

壇頭山 有南北礵殼菜藍等嶼可以避風泊船賊由
日本而來每望此山收泊與石浦閔相隔一潮今
潮今該中軍哨
兵船於此巡哨

鷄籠嶼 在壇頭山外此外一望大洋別無島嶼如賊
從韮山來必由此過與石浦閔相隔一潮今
該中軍哨
兵船巡哨

茅灣 切近錢倉所與韮山相對先年番艘宵棲泊于
此原設兵船一枝因船少兵弱撤聚石浦閔今
原設兵船一枝因船少力弱撤聚石浦閔
今撥北哨兵船巡哨與石浦閔相隔二潮

竿門 貼附錢倉所夷船每棲泊原設兵船一枝因船
少不敷擊收石浦閔併撥今派北哨兵船巡哨
與石浦閔
相隔二潮

青門 貼附爵谿所有山迴抱可以避風泊船內接公
嶼居民地方外衝四礁與韮山相對極爲衝要
原設兵船一枝因船少力弱撤聚石浦閔
今撥北哨兵船巡哨與石浦閔相隔二潮

定海總
沿海設備

定海衛 南臨港口定海閔有靖海營團兵操守招寶
高聳海口極爲要害山巔築戚遠城屯劄軍
兵使有掎角之勢其隔江南岸自甬東巡司竺
山等堠接連後所陡頭烽火相望遇警馳報

小浹港 內通東江出穿山寧波極爲險要昔爲海賊
孫恩所據邇倭賊亦曾登此近打椿數層汛
期撥船防守似亦未
爲愼固宜更密之

後千戶所 東南爲霏霤所南爲大嵩所北爲磔頭烽
堠岙臨黃崎港先年賊船由崎頭海洋突

入本港最爲險要
海賊發軍瞭望
黃崎港東至舟山中中左二所水程計一潮北至
金塘山水程半潮最爲險要亦有兵船往來
巡哨舟師單弱似未
足以遏賊之衝也
大謝山離後所城二里南臨黃崎港北由大猫海洋
至金塘龍山最居險要乃先年起遣地方也
內設黃崎西山等七塠撥軍瞭
報又該中軍哨兵船往來巡邏
雙嶼所濱海斥鹵港先年賊嘗登犯極爲孤險春
汛時月添撥官兵協守又該大嵩港兵船往來
巡
哨
梅山港東至崎頭大洋南至雙嶼港俱約半潮雙嶼
港先年爲賊巢今填塞矣西至大嵩港計一
潮北五里至三塔烽堠最爲險要今
撥大嵩港兵船及本所軍船哨守
大嵩所東連霩靄南接錢倉
以大嵩港舟師爲命
大嵩港對峙韭山直衝外海先年賊宻此犯所城
突慝罌地方極爲險要今撥賊船巡哨

舟山螺峯巡司雖有官署之設而巡檢弓兵俱散處
里賊易登犯須迁
居民入城則可
鹿頭烽堠近海民少勢孤常被賊
登犯須迁入而後可
岑江巡司乃衝要海口也賊累登劫見今居民雖築
墻自備亦被賊壞近又自葺理終難備禦
須爲慎固之
計可遏賊衝
天同二舉居民百餘家氣勢頗壯但力不支內有紫皮
二舉居民千數若協力出守彼此可以無事內
又有鹿夫善射曾勝
倭寇宜令悉力防禦
碇齒隘與外港相對居民勢孤累被登劫其原守
軍餘又已取回必遷居民入內地則可
奇峯烽堠即大沙地方賊常於此登舶原有隘已廢
二舉居民大戶約有千數合力出守方可
恃
也
郎家礁與西礁相連又小沙居民殷庶有隘軍共守
但地勢散闊難以設備賊嘗登劫以候頭海
塘築堡協
守則可

蔡家磯即沙塞地方原有馬塞千戶所軍民并逃民約計二千若遷入城以合其勢庶可杜接濟也

山江烽堠與沙塞相連有益軍防守賊嘗登犯軍巳取回須遷居民入表家畈等處則可

盛山巡司與干磧堠寨相連居民自築垣防守賊嘗登犯該司居隆教寺內亦爲虛應須併力捍禦則可

吊輿因近海口屢被登劫須與小展居民協守則可

沈家門寨原係水操之地有軍防守近皆取回番船去來皆泊於此內有趙塞南塞蘆花塞大塞去寨三五里向者居民築墻大嶺阻截總路近賊徑由水路或間道而入累被劫掠更須愼禦庶克有濟

臨觀總臨山觀海二衙設一把總分守寧紹參將即此總所轄之地也

海岸設備

三江所濱於海地勢稍緩然海上有警則去省城八十里烽火之通於此收寄

瀝海所東衛臨山西捍黃家堠有烽浦等堠撥軍瞭望

臨山衛坐當衝要東接三山西抵瀝海設烽堠者十撥軍瞭望

三山所界於臨觀之間西以聲援臨山東以策應觀海者也撥軍瞭望

觀海衛西有三山爲右翼東有龍山爲左翼居中調度聯絡應援烽堠七處每堠撥軍瞭望

龍山所北對金山蘇州大洋東對烈港況伏龍山獨臨海際去所僅十里乃賊船往來必由之路

臨觀一總之西喉也封守

漠園省城安桃而卧矣

金家堠丘家洋道界東對烈港海洋北望洋山三姑大洋嘉靖丁巳倭船盤據本塞及丘家洋月餘爲我兵所捷若突腹裏由鴈門嶺鳳浦湖一帶至慈谿縣直抵寧波內地極爲險要今撥烈港兵船哨守

海港設備

三江港港口深闊外通大洋甚爲險要賊船若泊宋家漊突入腹裏從陸門一帶海塘可至紹興地方越港而北爲浙西藩山乃省城第一隊鎖也

蟹浦港　北對浙西石墩南至紹興府城通連大海險爲險要嘉靖三十二年賊船泊西匯嘴登犯若突腹裏由沿江塘路至百官梁湖直抵上虞縣兵船哨守不可一日少緩

臨山港　切近衛城直衝大海倭船屢犯見設舟師屯守西哨浙西海洋有警調臨觀海洋有警調臨觀烈港兵船合守其制

泗門港　爲餘姚縣東北之喉襟越港而北爲浙西漱浦最爲臨要嘉靖丙辰倭船由東北烈表突犯本境今撥本衛兵船巡哨

勝山港　港深而廣倭船可乘潮以入嘉靖丙辰由此登犯三山所官兵敵退之近議築塞港口又建墩臺於山上

古窰港　爲慈谿之咽喉北對乍浦東接伏龍西連平石極險之處嘉靖三十五年賊船盤據突犯慈谿地方今撥兵船巡哨

金嶼浦　爲定海慈谿相界之地北連大海西連伏龍山此處坐臨海塗賊船自東北而來必由此繫泊嘉靖已未賊曾登犯見撥軍船往來巡哨

八籌海圖編卷之五

烈港

所係甚大蓋城船之入臨觀也非由漱乍則由烈港漱臨觀之門戶甚爲險要先年議設三江蟹浦臨山勝山古窰五港以衛臨觀後因各港沙硬水淺難泊而止今議派臨觀把總兵船改調烈港出哨臨觀一帶地方

海寧總海寧衛左把總一員其分守嘉湖參將即此總所轄之地也

海岸設備

海寧演武場

枕海曾經倭泊是爲險要舊設陸路漱浦鎮巡司外與秦駐山大步門相連山灣潮浚賊船曾泊此可通內地宋停村紫雲等處接近蟹城此衛南之衝也今派龍王塘兵船巡守

海口巡司

此處海灘沙汗船隻難泊迤北乍浦相連內有白馬廟八團圩民業集通年後宜突犯將向南北必經此觀望虛實其地內通嘉興平湖嘉善等處乃衛其之衝要地今撥龍王塘兵船巡哨

南海口

操備船隻防守與海口陸路哨船相為犄角

金家灣此處潮深山險遇年賊船登泊若犯腹裏由
今撥西海口　　抵平湖沿海則侵乍浦直抵海鹽實爲險要
兵船巡哨

梁庄寨倭冠屢登爲
巢實爲險要

赭山寨東南通大海面對蕭山與錢塘江
口相連先年倭嘗突犯實爲險要

石墩山寨東南倚海山下有一小港外通大洋遇年
倭冠登據爲巢船泊港内極爲險要原設
寨軍防守後撤回所城止
於石墩烽堠撥軍瞭望

鳳凰山寨南臨大海坐對膺衝門
倭嘗犯此實爲險要

黄灣寨東與澉浦接界南對大洋北通腹裏破
石地方昔年倭冠屯據爲巢實爲險要

海港設備

東關外龍王塘外即大洋直對浙東臨觀等處逆南
半洋中有白塔山賊船可泊賊若登
岸向南則侵澉浦往西則侵腹裏天寧寺水陸通
衢直抵嘉興實本衛之咽喉沿海之首衝也近議
立爲關隘今委官兵出哨

西海口九王門澉浦等處

東洲應一氏寫
五百八十六字仁

黄道廟港南濱海與臨觀相峙
倭冠登犯極爲衝要

西海口南通大洋北近平湖係浙西之咽喉平湖之
門戶也本港海塗高硬潮水長洄不一船難
繫泊恐倭船乘潮突進則我之兵船高閣關係匪
輕當踏勘開濬建立水閘將各兵船浮泊活水遇
警出勦此第一預防之計也今撥兵船出哨灘
許金山青村一帶海洋與吳淞江兵船相會

一國初定海之外秀岱蘭劍金塘五山爭利内相仇殺
外連倭夷歲爲邊患信國公經畧海上起遣其民盡
入内地不容得業乃清野之策也趙工侍近奏令民
開種以給幕租若與此利金塘一山即可墾田數萬
畝歲入米幾萬石玉環諸山計之每歲可得米幾十
萬石大爲海防之助但其患二故當道屢議屢止其
一是倭人藉以爲粮結巢于此兵費反多其一是大
家爭佃秋粮難徵且無益于小民以愚計之須文書

爲也田召民耕種輸賦軍門耕者塔棚厰而居不準
妻孥不得賣買逐歲更始如大家放租之法則官民
兩利而爭奪之患免矣官差石工伐山造堡海洋有
警小民避入賊知堡中無子女財帛自無結巢之念
矣蠡測之見未知然乎否也

一台州沿海近漲灘塗長數十里闊十里若倣范蠡圍
田之法令民耕種外設海塘一條以捍鹹潮俾不得
傷稻每歲起科以給幕租可得若干萬石

一浙江卓田甚多勢豪吞占動以千萬畝計若每千畝
抽其二百畝以給幕租每歲可得米幾萬石

一事唐樞云杭州居腹裏之地而以錢塘港海門爲分
戶南岸爲寧紹北爲松嘉極西盡底爲杭未臨大海

若戰艦嚴守聞警即出把截賊難直搗

副使茅坤云浙江所募客兵當量緩急以爲聲援策應
則可爾恐不得爲常而沿海郡縣所自部署勒習以
爲歲戍之兵必於土著之兵擇其膂力猛悍之上若
杭嘉湖販鹽處州礦徒并一切亡命者爲之大約杭
州三千嘉興三千而湖溫台寧紹亦各一二千量多
寡以差其費當括十一郡縣民壯弓兵之屬而通計
之腹裏郡縣則減去其半或三分之二特量留什之
二三以給城庫刑獄之役而已其餘金籍其費以歸
於官令各兵備道親爲按歷州縣或擇諸州縣長吏
破常格而募之且各州縣民壯弓兵之所食故額人
七兩二錢然其民間所私相轉佃募一倍再倍者有

之追呼道塗之費尤不可算約者請量爲每名額徵一十五兩籍二人之所食而募一人其數可三十金把總指揮蔡汝蘭云東南自倭變以來議者不少然於台州獨無說焉何也夫台州遼處海濱誠四塞之國南有桃渡金竹北有桑洲桐嶼西有關山衛墅疊嶂層岡重關鳥道真一大可禦之險而且南去盤石楚門僅百五十里東南去松門僅百里東去海門僅入十里設或倭奴棄舟登陸皆可卒至城下自海門而上者則一潮直達實一時難禦之變也三面阻山一面瀕海孤懸於數百里之外救援接濟所難卒至者惟此耳曩者戚參將駐兵桃渚而倭奴屯聚桑洲造輸糧銀經月不至孤危之勢誠可畏也今宜於台州

專立督餉方面積聚糧餉訓練兵士以爲重鎮而且西控溫處金衢北衛寧紹權非遙制而威可近飭也如是則糧餉無臨時輸運之難而士卒有先時設備之佚以至出海兵船衛所官軍悉知警備而防禦益固矣夫督餉既立則糧餉聚糧餉聚則兵士克兵士克則訓練精如是則先聲足以破其膽而防禦足以杜其覬覦突足以挫其鋒行之三年而海不揚波矣此督餉所當議也近雖添設兵備參將然於糧餉無裨雖增兵亦何益哉

總兵俞大猷云自滬岸山以北以西之海水淺砂硬大船誤閣則破壞且無避風安泊兵船至彼如遇夜必須當洋下碇碇不能堅每被急流飄去或夜半發風

則尤危然多賴天幸非安計然則宜如何曰錢塘江烏嘴頭浦内船兵一枝不可無餘則練陸兵精卒一枝以待而緩急調遣焉庶救倉猝或曰賊舟何能至此曰賊用巨艦小舟徑抵山邊閣乾登劫故必用陸兵追扣方不走脫若以兵船必高大方能勝賊如與賊舟等則勝負未可必也今言禦賊於海也易要非通論海本寬闊舟行全藉天風與潮人力能幾風順而重則不用潮候逆順皆可行若風輕而潮逆甚難夏秋之間西北風起不日必有極大西北風也操舟者見此風候須急收安泊兵船在海海舟遇晚俱要酌量收船安泊以防夜半發風至追賊亦要預計今晚收船何泊若一意前追遇夜風起悔無及

矣

又云沿海之中上等安泊可避四面颶風者凡二十三處曰馬蹟曰兩頭洞曰長塗曰高丁港曰沈家門曰舟山前港曰海江曰烈港曰定海港曰黃岐港曰梅港曰湖頭渡曰石浦港曰猪頭泊曰海門港曰松門港曰蒼山泊曰玉環山梁泊等泊曰楚門港曰黃華水寨曰江口水寨曰大泊曰女兒泊中等安泊可避兩面颶風者凡一十八處曰馬木港曰長白港曰瀝門曰觀門曰竹齊港曰石牛港曰烏沙門曰桃花門曰海閘門曰九山曰爵溪泊曰牛欄磯曰旦門曰大陳山曰大床頭曰鳳凰山曰南麂山曰霓泊其餘下等安泊只可避一面颶風如三孤山衢山之類不可

勝數必不得已暫泊一霄若停久恐風友別迅不能支矣又潭岸山灘山許山之類皆圍土無幕一面之風亦所難避可不慎乎

都御史唐順之云往時浙直軍需多倚各省協濟自例罷協濟之後而緩急甚矣前紹督運有乞留運米備鹽銀之奏蓋以軍需無處甚不得已全仰此一着救急

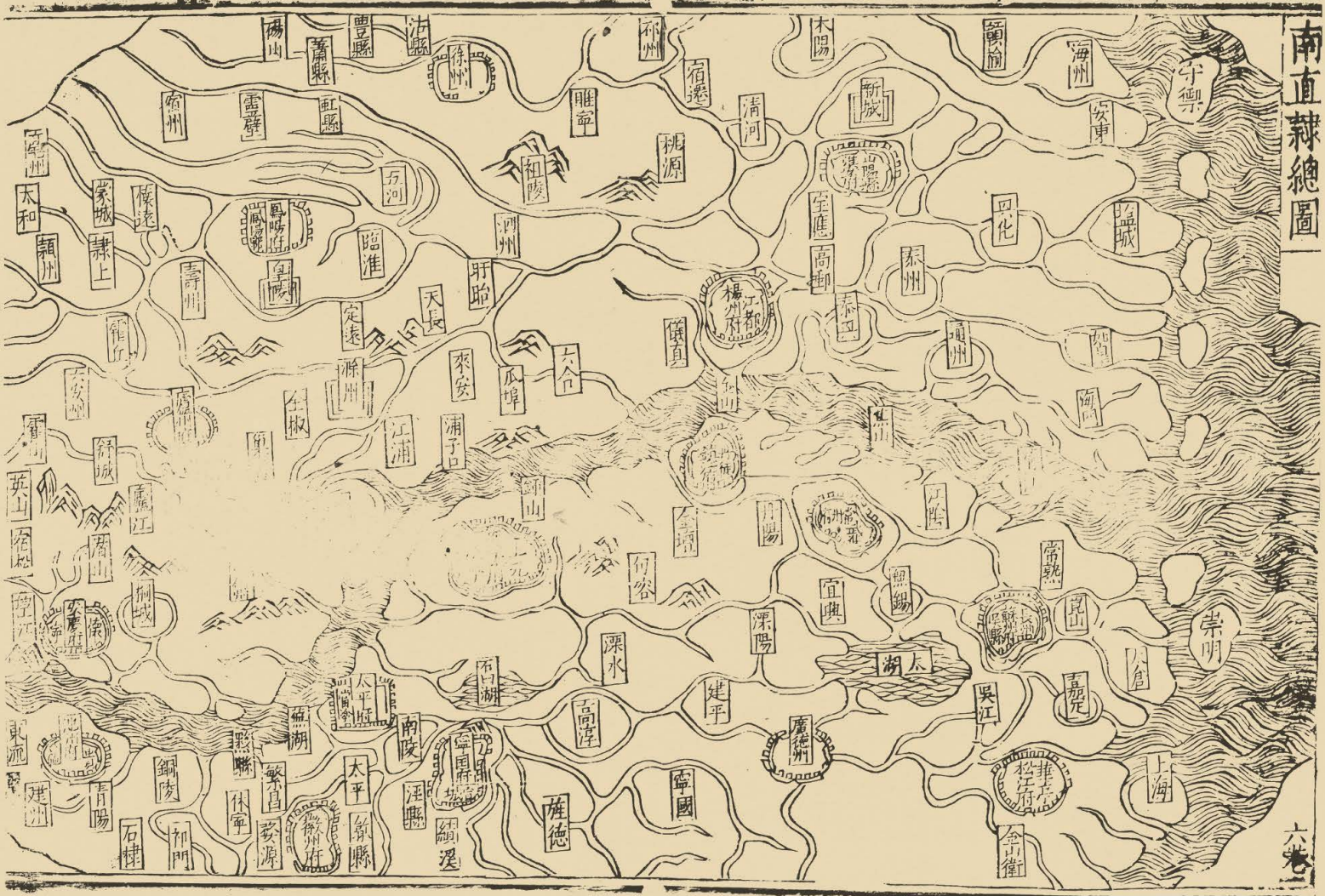
又云江南控扼在崇明浙東控扼在舟山天生此兩塊土大海中以障蔽浙直門戶諸哨船皆自此分而南北總會於洋山若會哨嚴緊遇船即打賊何從入信國廢昌國故縣而內徙之恐是千慮之一失未可謂昔人盡是而今人非也

都指揮戴冲霄云議者皆謂玉環等山可興屯田之利以給慕租愚謂此等山古時有民居耕作信國公皆遷之於內地不許其得業豈識棄地利而不知惜哉亦念荒山起稅爲利不多即以萬畝計之不過千石若遮攘此以爲巢穴則攻逐之費不知幾倍是貪盜糧爲小而失大也故舟山止留二所瞭守而亦不許民屯種其爲慮至深遠今日備倭之策不必遠求查復信國公之制而已矣

明少保新安胡宗憲輯議　孫鑛入胡燈重校　崑山鄭若曾編次

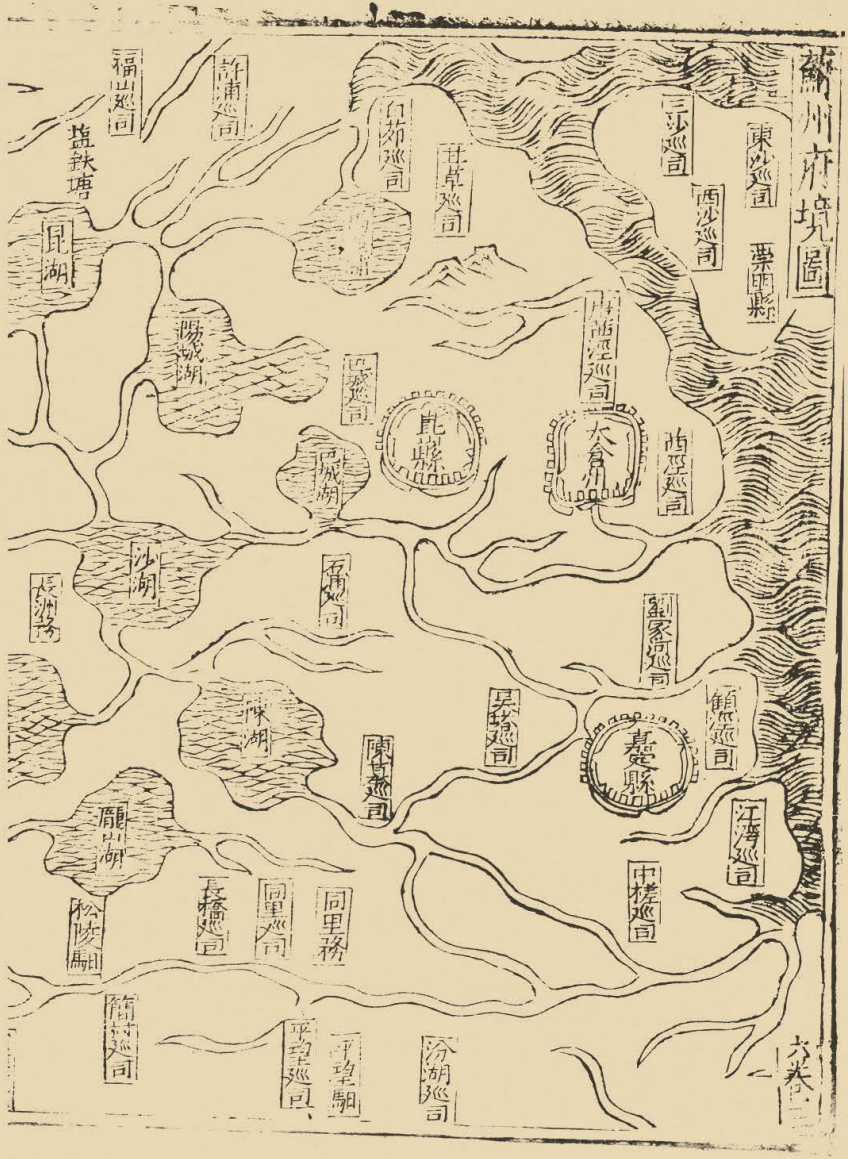
直隸沿海總圖
松江府圖
蘇州府圖
常州府圖
鎮江府圖
揚州府圖
淮安府圖
直隸兵防官考
直隸倭變紀
直隸事宜

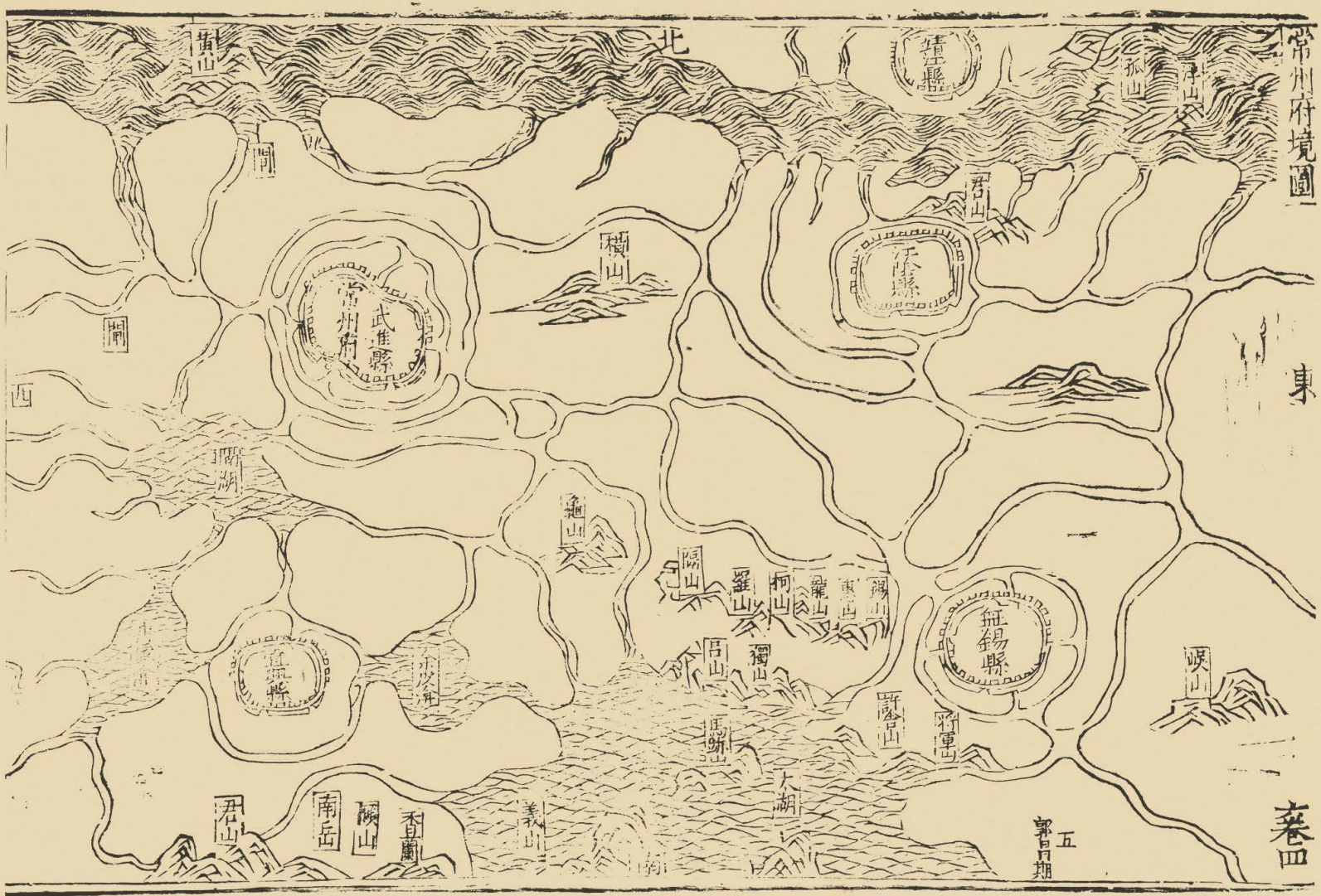
彭元瑞恩錄十三


南直隸總圖
六卷

松江府境圖
北
西
東
嘉定縣
吳淞江
上海縣
青浦縣
華亭縣
婁縣
金山衛
金山縣
奉賢縣
嘉興府界
蘇州府界
太湖
淀山湖
澱山湖
泖湖
當湖
風涇鎮
金澤鎮
小蒸鎮
大蒸塘
白牛塘
唐行鎮
松江
張涇
泗涇
陶宅鎮
北橋
吳會
公涇鎮
南翔
盛家涇
斜涇
米市渡
米涇鎮
石曰浦
曹涇鎮
張涇鎮
朱涇鎮
青村鎮
柘林鎮
內護塘
外護塘
南匯嘴
金山嘴
前所
後所
金山衛
金山營
陽山
獨山
秦山
長泖
大泖
圓泖
小泖
橫潦泖
三泖
三塔
鈐刊

江陰縣界
無錫縣界
陽山
福山
南峯
天平山
支硎山
何山
獅山
華山
永濱巡司
晉口
滸墅
石部分司
橫涇巡司
甪頭巡司
洞庭西山
太湖
半塘寺
楓橋
寒山寺
橫塘寺
橫塘橋
行春橋
吳縣界
石湖
橫塘
吳驛務
接官亭
蘇州府
吳縣
長洲縣
常熟塘
常熟縣
尚湖
虞山
承湖
黃天蕩
尹山湖
澹臺湖
鮎魚口
吳江縣
因湖巡司
彭文


鄱州府境圖
東巡司
栗明縣
三沙巡司
西沙巡司
福山巡司
許浦巡司
白茆巡司
甘草巡司
塩鉄塘
昆湖
陽城湖
西巡司
昆縣
太倉州
西巡司
西城巡司
西城湖
沙湖
長洲縣
西浦巡司
劉家港巡司
鎮巡司
吳淞巡司
嘉縣
陳湖
陳巡司
汪湾巡司
中接巡司
同里務
同里巡司
長橋巡司
松陵馬
簡村巡司
平望巡司
平望驛
汾湖巡司


常州府境圖
北
東
西
奔
武進縣
常州府
無錫縣
橫山
君山
孤山
浮山
閘
閘
閘
湖
湖
龜山
隔山
羅山
柯山
龍山
東西
獨山
呂山
馬鞍山
許舍山
將軍山
大湖
淚山
君山
南岳
觀山
和尚圍
義山
五
鄭日期

鎮江府境圖
大沙
高沙
太沙
小沙
毛沙
仁濟沙
新港
決港
鎮江府
鎮江衛
丹陽縣
練湖
金山
焦山
北固山
京口驛
三里鋪
五里鋪
七里鋪
十里鋪
彭裔
東鹿鋪
長嶺縣
呂城鋪
珥口鋪
凌口鋪
三里鋪
胡渡渡
湖洲所
貢金山
建昌村

丑
西湖
丑山
大銅山
高郵州
邵伯湖
露筋廟
聚金閘
泰州
海門縣
如皇縣
淮安府管鹽場
一溪女一等場
餘東呂四等場
泰興縣
通州千局
浪山
常山
南
兩淮運司
鈔關
巡鹽察院
常府
縣學
驛遞館驛城隍廟
揚州衛
揚州府
江都縣
儀真衛
青山
瓜州鎮
卷六 部昌期

淮安府河圖
北
南
東
西
邳州
睢寧縣
宿遷縣
桃源縣
清河縣
沭陽縣
安東縣
海州
東海所
贛榆縣
海州所
沭陽縣
安東縣
大河衛
運河
山陽縣
淮安府
鹽城縣

明火保新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

直隸兵防官考分江南北爲二

蘇松

總督直浙福軍務兼巡撫浙江都御史駐浙江

提督應天軍務巡撫都御史

操江都御史

督察侍郎詳見浙江

視軍情官詳見浙江

巡按蘇松監察御史嘉靖乙卯四月兵部題准勅無監軍紀功

巡江監察御史

整飭蘇松兵備副使

杭州府吏陳言寫　何祥刻

整飭常鎮兵備副使

添設海防僉事駐劄上海

鎮守浙直地方總兵官駐浙江

協守浙直地方副總兵駐金山

蘇松參將

常鎮參將

遊擊將軍新設駐劄金山

南洋遊兵都司

劉家河把總以都指揮體統行事

吳松江把總

南滙把總

青村把總

柘林把總
川沙把總
福山港把總
鎮江把總
吳淞口團山把總
沿海衛所
金山衛
左右前三所 俱在衛城
後所 今調守柘林鎮堡
中所 今調守松江府城
中前所 今調守青村城
中後所 今調守南滙城

太倉衛
左右中前後五所
吳松所
鎮海衛
左右中前後五所
崇明守禦千戶所
鎮江衛
沿海巡檢司
松江府
金山 戚木涇
三林庄 南塘
蘇州府

江灣　顧涇
劉家港　茜涇
唐茜涇　甘草
白茆港　唐浦
福山
沿海營堡臺堠
松江府
營五　獨樹　金山　江門
小盤　大盤
堡四　柘林　胡家港
川沙　蔡廟港
塘舖二十四
前所二瞭守軍四人　左所二瞭守軍四人
右所二瞭守軍四人　中所十七瞭守軍三十四人
烽堠四十三每瞭守軍五人

東陳言寫
二百四十何應芳

後所三　新廟　江門
葛逵　橫瀝　蔣管
戚家　金山
前所四　淞鈇　周公
陸鶴
左所三　西新　東新
胡家
右所三　戚淞　宋家　新衣浦
大門　焦樹　舊衣浦
中前所十二
頭墩　二墩　三墩
五墩　舊四墩　新四墩
中後所十八　南滙頭墩二墩　三墩
四墩　五墩　六墩
七墩　八墩　九墩　十墩
十一墩　十二墩　十三墩　十四墩
十五墩　十六墩
蘇州府
營堡三　福山　九折村
雙浜村
敵臺三　黃窪港　七丁港
白茆港

烽堠四十八

東潛　依有　西潛　生宇圩
顧涇　寶山　周家　馬沙　呂家圩
　　練祁　月浦　深掬港
張浦　黃窪　五岳　七了港
浪港　鹿鳴　新塘　雙鳴　唐茜涇
金涇　許浦　大錢涇
崔浦　黃浜　高浦　白茆港
　　盧浦　福山　千步涇
耳浦　奚浦　三丈浦
西洋　海洋　耿涇　黃泗浦
新庄　唐浦　大陳浦　徐涇涇
小東浦　烏沙港　野猪浦
泗馬涇

吳陳宣寫
百嘯齋刊

淮揚巡視漕督察視軍情官操江
巡江與蘇松同不重列外

總督漕運兼提督軍務巡撫都御史

提督淮揚軍務巡撫都御史

巡按淮揚監察御史 原靖乙卯四月兵部題准
勅無監軍紀功

整飭淮揚兵備副使

總督漕運總兵官

提督狼山等處地方副總兵

揚州參將

鹽城參將

統領兵勇遊擊將軍 駐儀真

北洋遊兵都司

儀真守備

掘港守備

大河口把總

周家橋把總

狼山水兵把總

東海把總

管領曹濮民兵把總

管領沂州民兵把總

沿海衛所

揚州衛 旗軍八千九百六十名
屯軍四千四百四十名

通州千戶所 旗軍二百三名
屯軍八百八十二名

鹽城千戶所 屯軍八百八十二名

泰州千戶所 旗軍二百三名
屯軍八百八十二名

旗軍六千七百二十名
千戶所衛也軍四千四百四十名
興化千戶所
儀眞衛軍四千四百八十名
大河衛軍一千五百二十一名
左右中前後中左中右中前八所
淮安衛軍八百五十名
左右前後中左中右六所
東海中千戶所軍五百五十名
海州中前千戶所軍四百七十五名

沿海巡檢司
揚州府
狼山六十名　吳陵五十名
張港五十名　石港四十名
掘港四十名　西場三十名
海安三十名　西溪三十名
安豐一百名　黃橋三百名
印庄三十名　口岸三十名
歸仁五十名　瓜州一百名

淮安府
喻口鎮　馬邏
廟灣　羊寨
壩上　長樂
惠深　東海
臨洪　荻水鎮

楊州府

營十五　徐稍　大河　料角嘴
壯捷　壯武　掘港東營
輕忠　濟武　掘港西營
鎮遠　忠節　興義
登庸
寨九　白駒　劉莊　掘港塲
拼茶　角斜　李家堡　料角嘴軍五十人
太河口軍二百人
徐稍寨軍五十人

烽堠九十三

通州八

海門縣二十八

泰州十一

拼茶寨四

角斜寨二

白駒寨一

掘港寨九

劉家寨一

李家堡五

蘇松常鎮

洪武二年二月倭寇崇明諸處指揮翁德朱文擊敗之
賊犯崇明德督舟師禦之於海門之上幫斬獲甚衆
既而復寇吳淞江沿海一帶文亦破之俘斬獻捷

永樂二年四月對馬岐倭寇蘇松
賊掠浙江穿山而來轉掠沿海
上命太監鄭和諭其國王源道義源道義
出師獲渠
甦以獻

十四年倭寇崇明
朝廷發鎮江鎮海二衛百戶十員率軍士千餘禦之寇平
遂隸崇明守禦所其舊戍官軍發屬水寨自是賊無
至境
者

嘉靖三十二年閏三月賊首王直犯嘉定
賊自烈港之敗以百餘人自白馬廟而來收集餘黨
流突蘇松掠嘉定之寶山鎮撫陳憲疑爲盜盜率輕

兵追之後知
爲直不敢襲

破南匯所
自望日而後十
日賊破城者再

同知任環守備僻明道敗賊於吳淞江口
賊至劉家河揚帆而西明道與六合知縣董邦政率
兵迎擊之追及於吳淞江口值綠綢港復有新賊至
者與之合踪勢益猖獗官兵莫敢進都御史蔡公
克廉遣同知任環往助之賊遂敗走俘斬百餘

四月賊圍大倉州
時賊勢甚急直逼太倉城下蔡公躬乘
城督戰賊乃去而城外居民焚掠幾盡

五月賊破吳淞所入據之越十日守備僻明道復之
賊既破城遂據爲巢明道襲敗之斬首百餘賊首三
大王六大王死焉遂復所城賊遁出海復爲姐判金
汝舟千戶楊循禮所
敗擒斬八十有奇

賊首蕭顯入上海[illegible]明擒死之

酉流突直境過金山至天妃宮浙江領坑矣指揮黎鵬舉與賢樂之鵬舉被創賢死焉賊遂衝縣市焚治所自是而後浦東沿海二百餘里間新舊之賊往來絡繹無虛日矣

十一月叅將湯克寬敗賊於高家嘴

斬
獲
百
餘

三十三年正月蕭顯攻嘉定縣

顯自上年入寇上海而去爲官兵追迫登據崇明之南汊官兵圍守且半載值歲暮守者懈顯得遁至黃窪入攻縣城又分掠南翔等鎮叅將湯克寬擊敗之

攻上海縣

顯自嘉定循海而南攻圍上海甚急時城初築未固勢且陷官民洶洶兵備僉事任環統民兵三百僧兵八十往援時賊船泊黃浦者以百計而自吳淞江南行者不計焉環追襲之於五里橋賊敗南奔環追敗之於習家墳賊始懼適浙江都御史王公忬遣都指揮盧鏜來擊賊乃解圍而南

二月都指揮盧鏜敗賊於史家浜僉事任環敗賊於歸家港

時顯據史家浜爲巢鏜進搗大敗之賊死者無算乃遁往浙江海寧縣鏜復追敗之其別隊之在歸家港者環亦敗之

三月賊攻南匯所

攻松江府劄千戶童元巡檢李叢祿禦戰死之

賊自曹涇而來元與叢祿禦之於蘆塘力戰而死賊遂渡浦攻府城環與充寬擊敗之賊乃退走大門墩

四月賊首王直等巢拓林

賊與徐碧溪吳德宣等營拓林爲巢築連絡二百里如老鸛嘴七八團之間皆其部落之所屯聚也間分一支自清浦白鶴港而北出太倉分一支自劉家河入趨崑山

州判金汝舟指揮姜統敗賊於劉家河

賊自正月復據南沙至是突入劉家河統與汝舟率舟師擊敗之斬首百餘又太倉川

松[illegible]劉涇遣賊[illegible]自劉家河入者六十餘合攻州城

攻崑山縣

賊自劉家河入越太倉至崑山知縣祝軋壽盛任甫一月聞報部督官民死守賊攻圍甚急蘇州路總軋壽夜募死士持蠟書浮水而行八晝夜始達郡城遣撫曆八大人速按孫公慎遣都指揮梁鳳應援鳳竟不進士民奚良相泣請兵於孫公始知鳳逗撓之罪遣良相間督以行鳳大怒欲殺良相良相不為動

取林典常熟八父為僞所害詞知難所在要其父善子訣親聽乃具酒食誘僞將卸取其佩刀斷首以降

陸德字邦美崑山人有姊父鍾愛也為僞所获持被害詈賊罵不絕口賊磔之令一攜其姊去逐提擔撲賊追之田間被害既死是不可離兄愚哭之哀聽目內動手頸領合得葉墓銘西

憩兵俞大猷敗賊於吳淞所

賊船入吳淞江者十六艘大猷敗之沉其舟十一斬首二百五十有四

賊攻蘇州府

五月賊解蘇松圍而去州[illegible]戶田應山追敗之

賊糾諸縣精悍者凡七千[illegible]崑山縣城期於必破知縣祝軋壽磕其渠魁二人[illegible]賊大懼圍歸而各解之圍皆解遁出劉家河者[illegible]百艘魁等追擊大敗之斬首四百[illegible]十有奇

攻常熟縣

賊酋劉鑑自梅李進攻越四日又合福山賊進攻縣城

攻松江府

六月賊犯蘇州府

賊自松江來者分作三支一由嘉定太倉大道而進一由關橋清浦間道而進一出唐行千墩而進合於崑山期犯府城兵備任[illegible]禦之於真義弗利百[illegible]愛臣死焉賊遂進至府城吳掠諸市鎮而去取道於行春橋由鮎魚口出太湖過吳江知縣楊莊率大章率卅師追擊於王江涇爛溪鶯湖等處皆勝之賊由菜花涇過嘉善而去

賊首阿八王自崑山分踪進掠府城參政翁大立提兵禦之賊乃退遁

攻常熟縣

賊酋劉鑑自梅李進攻越四日又合福山賊進攻縣城

攻松江府

五月賊解蘇松圍而去州[illegible]戶田應山追敗之

賊糾諸縣精悍者凡七千[illegible]崑山縣城期於必破知縣祝軋壽磕其渠魁二人[illegible]賊大懼圍歸而各解之圍皆解遁出劉家河者[illegible]百艘魁等追擊大敗之斬首四百[illegible]十有奇

六月賊犯蘇州府

賊自松江來者分作三支一由嘉定太倉大道而進一由關橋清浦間道而進一出唐行千墩而進合於崑山期犯府城兵備任[illegible]禦之於真義弗利百[illegible]愛臣死焉賊遂進至府城吳掠諸市鎮而去取道於行春橋由鮎魚口出太湖過吳江知縣楊莊率大章率卅師追擊於王江涇爛溪鶯湖等處皆勝之賊由菜花涇過嘉善而去

松[illegible]
劉家河入者六十餘舍攻州城

攻崑山縣

賊自劉家河入越太倉至崑山知縣祝乾壽盛任甫一月聞報即督官民死守賊攻圍甚急蘇州路絕乾壽夜募死士潛縋書浮水而行八晝夜始達郡城趣撫臺六大心遣按孫公慎遣都指揮梁鳳應援鳳竟不進士吳良相涕泣請兵於孫公始知鳳逗撓之罪遣良相馳督以行鳳大怒欲殺良相良相不爲動

大父方倭所圍知難所在要身以至亟善事之既親賜乃具酒食請倭

分斷首以歸

[illegible]

民少大有幹父鍾愛也為倭所获持被書入哭城而下詬清代婦死以全節[illegible]擔之令入擔入既去遂提擔撲賊入追之田向被害既死兒不[illegible]
[illegible]日內動手頸鉅合得善葬城西 江南志 [illegible]

總兵俞大猷敗賊於吳淞所

賊船入吳淞江者十六艘大猷敗之沉其舟十一斬首二百五十有四

賊攻蘇州府

賊首阿八王自崑山分踪進掠府城參政翁大立提兵禦之賊乃退遁

攻常熟縣

賊酋劉鑑自梅李進攻越四日又合福山賊進攻縣城

攻松江府

五月賊解蘇松圍而去州[illegible]千戶田應山追敗之

賊糾諸縣精悍者凡七千[illegible]崑山縣城期於必破知縣祝乾壽殫其渠魁二[illegible]賊大懼圍歸而各縣之圍皆解遁出劉家河者[illegible]百被魁等追擊大敗之斬首四百[illegible]十有奇

六月賊犯蘇州府

賊自松江來者分作三支一由嘉定太倉大道而進一由關橋清浦間道而進一出唐行千墩而進會於崑山期犯府城兵備任環禦之於真義弗利百[illegible]愛臣死焉賊遂進至府城吳掠諸市鎮而去取道行春橋由鮎魚口出太湖過吳江知縣楊莊率[illegible]大章率舟師追擊於王江涇爛溪鶯湖等處皆勝之賊由菜花涇過嘉善而去

七月賊攻南匯所

八月賊攻嘉定縣

賊首王直分遣其酋吳德宣徐碧
溪自寧紹港率衆千餘入攻縣城

將將許國　李逢時敗賊於師家浜

直知官兵將搗其巢乃進營於師家浜列七星陣以
待官兵擊之大敗而去既而又進攻之賊固守其舟
時二將特所統者皆北兵不知地利已所遇潮死者
甚衆無何賊由原港出海水兵追戰於老鸛嘴之四
馬洪大敗之

賊攻青村南匯所金山衛

蔡廟港賊併入柘林賊巢合攻青村所繼至之賊登
周公墩者千餘攻南匯所旋亦入巢與新至之倭合
攻金山皆爲
官軍敵退

十二月賊陷青村所

先是賊攻所城者數次官兵守備極嚴賊皆負傷而
走積忿詣柘林借兵二千來攻弗克賊亦計窮欲去

會守門百戶之伯有爲賊所虜者賊令叩南門呼姪
求入姪聞伯音以繩下挽昏黑之際賊乘隙以登百
戶首先被殺賊遂入
城焚殺比他尤慘

三十四年正月賊攻南匯所

川沙之賊

僉事董邦政揭川沙窪賊巢破之

時賊死傷者五百餘
監生喬鏜復追敗之

賊攻金山衛

總兵俞大猷副使任環孫宏勛等敗賊於勝墩

賊自嘉興流至吳江之平望分道而來一支由太湖
開溪南奔一支由張村黎里出牛場涇期會於蘇州
兵備任環知州熊桴知縣楊芷樂之於梅堰鴛湖皆
勝之賊乃遁去以嘉善道阻復合兵由大道進至勝
墩環與知府林懋舉等率狼兵自北擊之浙江副使
孫宏勛總兵俞大猷率宣慰彭翼南兵自南擊之狼
兵首嬉其渠魁一人賊氣沮捐資於狼兵求脫弗聽
東西皆阻水官兵前北次擊之賊遂大敗斬首三百

是鬥也提督都御史胡公宗憲巡按御史周公如斗
所在清野九賊所向民間糞其老穀之而令環等掳
之於前浙江巡按胡公宗憲復督宏軼等自
後迫之賊進不得食退不得息故有是敗

賊入崇明縣中系壬一人不死之賊旋就滅

二月賊攻青村所翁時遇等擊敗之

三月賊圍上海縣

賊乘千餘屯新場下沙十餘屯閘港數千屯川沙俱
進逼縣城時總督都御史張公經調集廣兵湖兵數
萬駐松江賊乃退入舊築完壘治兵爲拒守計而諸
營遊絡聲勢益盛張公歎伺其出海擊其惰歸故搗
巢之策卒
不果行

賊攻金山衛總兵俞大猷敗之

柘林新至賊乘銳來攻守者發矢石禦之賊中傷者
甚衆乃解去既而又來攻大猷敗之俘斬二百餘

四月賊攻常熟縣

福山
之賊

兵備副使任環擊敗常熟三丈浦之賊

先是賊屯三丈浦者勢甚猖獗且易官軍不爲備環
陰部署土客官兵以保障應襲彭守忠爲中哨太倉
耆民爲右哨知縣王鈇爲左哨躬環甲冑激勵三軍
我兵首衝賊
有奇而我
以來早戰

徐參常孰一人恪之商孫倭寇已
王鈇之難！亦死之贈官廕子

常熟知縣王鈇眞致仕樂政錢泮禦賊於上塘巷應皆
死之

徐參常孰一人恪之商孫倭寇已
王鈇之難！亦死之贈官廕子

統宗子抗御宗之子三丈浦新教進衆

拓林賊首徐海分踪出掠

賊知官兵將搗其巢乃分兵四出以牽制我師一
常熟
以達江北西路

是歸也提督都御史周公按御史周公如非所在清野九賊所向民間糞其惡毀之而令環等梱之於前浙江巡按胡公宗憲復督宏軼等自後迫之賊進不得食退不得息故有是敗

城入崇明係口系[illegible]一斧死之賊旋就滅

[illegible]字鍾柳陽桂人丁酉舉人知崇明倭始來是由崇明[illegible]明[illegible]屬為[illegible]字是時重新[illegible]平洋汰築城[illegible]泰史[illegible]倭入城[illegible]之不[illegible]

二月賊攻青村所翁時奭等擊敗之

三月賊圍上海縣

賊至于餘屯新場下沙十餘屯閘港數千屯川沙俱進通縣城時總督都御史張公經調集廣兵湖兵數萬駐松江賊乃退入舊築完整治兵為拒守計而諸營更絡聲勢益盛張公欲伺其出海擊其惰歸故搗[illegible]之策[illegible]不果行

賊攻金山衛總兵俞大猷敗之

柘林新至賊乘銳來攻守者發矢石禦之賊中傷者甚衆乃解去既而又來攻大猷敗之俘斬二百餘

四月賊攻常熟縣

福山之賊

兵備副使任環擊敗常熟三丈浦之賊

先是賊屯三丈浦者勢甚猖獗且易官軍不為備環陰部署土客官兵以保靖應襲彭守忠為中哨太倉者民兵為右哨劉顯王鉞為左哨躬環甲冑激勵三軍我兵首踴躍思奮港攻之賊遂大敗俘斬二百八十有奇而我兵子損一人自用兵以來未有捷如此者也

常熟知縣王鉞與致仕參政錢泮禦賊於上塘港皆

[illegible]三丈浦之賊為任環所敗勢已破沮值陸逕[illegible]敗遁之寇與之合踪復肆猖獗欲攻縣城鉞泮率兵禦之賊佯為村民避賊者依官兵為援者官兵方共惜之倏爾起鬪兵士驚潰鉞泮猶督戰不已遂皆遇害

柘林賊首徐海分踪出掠

賊知官兵將搗其巢乃分兵四出以牽制我兵[illegible]崇明常熟以達江北西路蕪湖以[illegible]動全浙[illegible]

之賊先屯老鸛嘴者火
洋字疑當作洋教當就人歷官江西奉改斷在有声以憂歸家時倭寇方熾邑令王鉄誠逢却之
倭劫閩稅巨万取道尚湖入海王鉄率兵擊之隨尾伏出力截擊死傷數鎗来三賊而死時嘉靖五月

人賊乃大懼稱環爲揖
知常熟王鉄字惠成順天人弘治五年進士海海多夏猶蓄亡命作奸一悉世貝其淵倭忠起一語諸指
曰何以報我成請効死于是立者百長部署子弟得数百又令防卒訓練以啟无城一面城之倭未薄数里
却之已自三丈浦分捺常熟江防奉改任环令一与指揮孔壽分統官土兵三千破其寨斬首百五十有奇
林次七般今倭密邇後掠惟当将由尚湖还海一惰曰城尚敢洩吾地耶必殲之乃令卿官鉄洋忽倭斃其父
抵力贊之乃用小艇数十駕倭三伴為村人逆賊若係官兵為援者官兵方共憎之倭亦起角兵士聲言擒彼者長
数人以皆力闘死一船浮聴目叫呼股中刃死 史乔著

賊復巢柘林
賊自王江涇之敗皆遁出海新賊萬人復来之
未幾風大作出海之賊覆溺幾盡餘黨復巢爲
賊掠浙江取道蘇州出海至平望浙直官兵會大敗
之

詳見大捷考

六月賊攻蘇州府
賊自柘林取路崑山而
来遂掠太湖洞庭兩山

常熟三丈浦賊出海太倉知州熊桴敗之於 州沙
俘斬一百三十有奇餘賊南遁至吳淞江口復爲把
總劉堂所敗其酋急速如郎就擒斬首二百六十

七月松江府知府方廉計殺柘林賊千人
時巢賊甚熾廉遣諜投毒井
中賊死者千餘人斬首數百

浙江提督都御史胡公宗憲置都 浦
敗賊於嘉興河金山等
先是賊自王江涇陸續平望數敗之後聚衆駐促
条將盧鏜都指揮一沛時往挠之賊死傷之疫疫者
過半乃潜伏巢穴不敢出掠日爲遁歸之計既而爲
官兵邀擊遂沉舟以塞示無去志然實詭官兵不備
之於海而得北風公謀知之預遣沛等追敗之於金山衛悉沉其

之賊先屯老鸛嘴者以聲援不繼俱併入柘林

賊攻無錫縣

五月任環復敗三丈浦之賊

賊既殺王知縣勢甚滋蔓而太湖之賊復與之合益驕肆無忌環率官兵進攻大敗之殺其白眉主帥一人賊乃大懼稱環爲撝命官人數遷徙避之

官兵擊賊於陸涇壩大破之

詳見大捷紀

遊擊將軍周藩與賊戰于朱涇敗績死之

賊復巢柘林

賊自王江涇之敗皆遁出海新賊萬人復來未幾風雨大作出海之賊覆溺幾盡餘黨復聚爲

賊掠浙江取道蘇州出海至平望浙直官兵會大敗之

詳見大捷考

六月賊攻蘇州府

賊自柘林取路崑山而來遂掠太湖洞庭兩山

常熟三丈浦賊出海太倉知州熊桴敗之於劉河沙

俘斬一百三十有奇餘賊南遁至吳淞江口復爲把總劉堂所敗其酋急速如郎就擒斬首二百八十

七月松江府知府方廉計殺柘林賊千人

時巢賊其黨潛遣諜投毒井中賊死者千餘人斬首數百

浙江提督都御史胡公宗憲[illegible]

敗賊於鄞象河金山洋

先是賊自[illegible]潮平望數敗之後畏躬促叅將盧鏜都指揮[illegible]沖時往捕之賊死傷[illegible]疫疫者過半乃潛伏巢穴不敢出掠甘爲通舶之計而爲官兵邀擊遂沉舟[illegible]餘人示無去志然實[illegible]之於海而得其[illegible]公諜知之預遣沖等[illegible]海口伺之賊果[illegible]沖等追殺之於金山洋[illegible]其

舟賊潮
死無遺

柘林賊攻屯陶宅

賊出海復爲總兵俞大猷參將盧鏜把總婁宇所敗乃復登陸結巢陶宅其一艘飄泊海門則賊酋林碧川爲之首與其下一百二十餘賊復登大陳山爲把總任錦俘斬無遺

八月劇賊五十三人流犯蘇州提督都御史曹公邦輔討平之

詳見大捷考

七丫港吳淞江賊遁出海洋把總楊尚英追敗之

沉其舟六十俘斬三百有奇

九月浙直官兵會擊陶宅之寇指揮邵昇姚泓生員辛岳皆死之

昇等乘勝進攻賊死守其巢乘高射下二人皆死焉

總督都御史楊公宜遣遊擊將軍曹克新副使任環揭川沙賊巢擊走之

先新統川兵攻賊大敗之燬其巢賊遁至吳淞所據督舟師襲之斬獲大半餘黨走清水涇

閏十一月僉事焦希程率川兵揭周浦賊巢大敗之

先是陽公潛令武生胡亘朱先等設伏賊巢約縱火爲號希程督川兵與曹克新乘雪夜襲之亘等縱火焚其巢賊驚亂四面伏起斬首二百二十有奇而賊巢燬焉

官兵敗賊于吳淞江口

周浦賊遁出吳淞江副使王崇古總兵俞大猷追擊大敗之俘斬一百七十

二十五年正月參將尚允紹擊賊於四橋死之

賊首陳東時屯新場爲巢

二月賊首徐海復巢柘林

新場賊首陳東自毀其巢來與之合

三月賊據寨壘參政任環參將喬基等大破之

時新至滬缺總督胡公令環會基共擊之賊逃入
[illegible]新縣堅壁環乃以把總陳習攻東門車梁攻西門張
惟孝攻西北隅鳴鵬攻西南賊死守官兵攻之戰方
酣王寅等兵潛從東北入賊遂大敗悉斬之

官兵擊新至賊於七竈洪等處悉敗之

時新至賊一支自滬缺登犯佐擊宗禮敗之一支自
七竈洪登犯僉事董邦政敗之一支自南匯所登犯
參政任環敗之參將婁宇又敗之俘斬甚衆而所存
者無幾焉先是賊據松江累年未有能挫之者及胡
公爲總督於是官兵僇力而
新至之賊皆迎刃以敗云

陶宅之寇爲官兵擊敗遁出海洋參將婁宇等復追敗
之

總督胡公會浙直兵進搗陶宅之寇大敗之賊死者
甚衆遁出滬缺外洋婁宇與把總王應麟復敗之於
九團洋俘
斬踰百

賊新至自界嘴登犯胡公檄環邦政會擊之大
戰一日斬賊十之七八[illegible]復戰遂無孑遺

賊犯西塘董邦政平之

賊新至自金山登陸流至西庵胡公檄邦政攻
之賊大敗走匿法昌寺邦政復火攻之盡殲焉

賊犯青村把總王應麟討平之

新至賊自青村蔡舟登陸應麟敗之賊匿民房官兵
復火攻之賊突走爲官兵所截不得去乃復匿民房
遂悉
斬之

董邦政追擊新賊于沈庄平之

賊百餘
皆就僇

賊入吳淞江總兵俞大猷大破之

賊艚十六自寶山入江大猷先奉胡公檄與把總楊
尚英劉堂等設伏海口待之賊至伏發沉其舟十三
斬首二
百五十

賊攻江陰縣知縣錢　禦戰死之

時賊攻圍甚急填濠直逼城下勢且陷錢鏐議欲出兵拒之兵備副使王崇古不從錢鏐獨率民兵出城捍賊力戰而死然自是賊亦稍稍引去矣

賊攻無錫縣

賊入楊子江鎮江衛千戶沈宗王王世臣戰死

[illegible]月戊戌倭每系寧波文公工舟宮生兵自擊於如胡攻[illegible]知江陰學鈔錄字鳴赴是役衛之義騎若干進士性別黑通子敵而初至宮倭已燒三十三年大犯卿之連[illegible]冤者万余望樓檣而位無倫道王崇古不納一日人死不掠字宮城實為返兩[illegible]舟之入而身自搏戰于斜橋三戰卻之明年二月倭舟泊南[illegible]舟無[illegible]犯塘頭一[illegible]接[illegible]望[illegible]至一惜甚推案厉[illegible]聲曰張雖[illegible]是何人吾殺[illegible]四自死圍子于是進[illegible]戰死自是賊而稍[illegible]引去 史泰江志

又[illegible]賊[illegible]通[illegible]擊於[illegible]山湖東又[illegible]湖敗之參政任環同知熊桴復追擊於毀山湖東又敗之前後俘斬三百餘賊

六月新安衛百戶帥印與賊戰於青村德勝港死之

時印統廣兵追賊

總兵俞大猷邀擊遁賊於茶山洋大破之

七月港賊與吳淞江賊為官兵所敗相繼遁出海洋大猷預受胡公檄設伏劉家河海洋待之且攻且逐追及於茶山東北沉其舟六十俘斬二百餘殘寇宵遁復為颶風所覆無生還者

總兵徐珏擊孟河之賊大破之賊遁出楊子江把總張成已復追敗之

時賊在孟河勢頗猖獗珏與戰大敗之賊死者三百餘人先是督察尚書趙公文華渡江而南預戒兵將無得貪功取級以陷賊計故是戰殺傷獨多既而賊遁出江成已率舟師復破之斬首百計

八月常州賊遁出海總兵盧鏜等追擊大敗之

賊掠江陰無錫為官兵所敗遁出海洋胡公命鏜等追敗之沉其舟數十俘斬三百五十有奇

三十八年四月賊據崇明三沙七月遁往楊州

賊舟為颶風所擊存二十沙總兵盧鏜與把總楊尚英迎擊之沉其二舟俘斬百餘既而欲突入內地為官兵所截遁過三沙鏜等復攻敗之總督胡公恐其滋蔓檄副使熊桴副總兵劉顯與鏜協攻之通政唐公順之適至乃帥官兵渡海而東與賊相持者月餘官兵憂進撓之賊屢敗舟盡燬賊窮促死拒儲提督

時賊攻圍甚急城瀕濠直逼城下勢且陷錢鏐議欲出兵拒之兵備副使王崇古不從錢鏐獨率民兵出城捍賊力戰而死然自是賊亦稍稍引去矣

賊攻無錫縣

賊入楊子江鎮江衛千戶沈宗王王世臣戰死

五月賊攻上海縣尋進攻松江府官兵追擊於泖湖敗之

六月新安衛百戶帥印與賊戰於青村德勝港死之

時印統廣兵追賊

總兵俞大猷邀擊遁賊於茶山洋大破之

七丫港賊與吳淞江賊爲官兵所敗相繼遁出海洋大猷預受胡公檄設伏劉家河海洋待之且攻且逐追及於茶山東北沉其舟六十俘斬三百餘殘寇宵遁復爲颶風所覆無生還者

總兵徐珏擊孟河之賊大破之賊遁出楊子江把總張成已復追敗之

時賊在孟河勢頗猖獗珏與戰大敗之賊死者三百餘人先是督察尚書趙公文華渡江而南預戒兵將無得貪功取級以陷賊計故是戰殺傷獨多既而賊遁出江成已率舟帥復破之斬首百計

八月常州賊遁出海總兵盧鏜等追擊大敗之

賊掠江陰無錫爲官兵所敗遁出海洋胡公命鏜等追敗之沉其舟數十俘斬三百五十有奇

三十八年四月賊據崇明三沙七月遁往揚州

賊舟爲颶風所擊卷二十沙總兵盧鏜與把總楊尚英迎擊之沉其二舟俘斬百餘既而欲突入內地爲官兵所截遁過三沙鏜等復攻敗之總督胡公恐其滋蔓檄副使熊桴副總兵劉顯與鏜協攻之通政唐公順之適至乃帥官兵渡海而東與賊相持者月餘官兵屢進挫之賊屢敗舟盡燬賊窮促死拒傭提督

時八劍告捷而去兵餉又繼遂輟匱而西與胡公從海道兵往擊巨檄沿海嚴爲之備賊造小舟數十乘風雨從北面遁往江北官兵追之弗及

嘉靖三十四年四月賊犯海門知縣趙卿敗之

時賊首徐海屯松江之柘林知官兵將搗其巢故分掠江北卿敗之斬首一百五十

五月參將喬基等擊賊于呂四塲敗之

基與都指揮張恒通州同知印宋統兵夾擊賊大潰敗俘斬一百六十

三十五年四月百戶戚繼爵與賊戰于狼山死之

都指揮張恒千戶羅大爵百戶魯沂禦賊於楊州死之

時賊一從瓜州入一從新港入一從通州入

賊攻瓜州

賊攻楊州府同知朱袁等死之

賊攻小東門甚急官兵用佛郎機殪賊數人賊乃退去袁與千戶曹男應龔男恩率兵出城禦賊死焉高郵州經歷晏銓為賊擄去

五月無爲州同知齊恩與賊戰于圖山之北江中死之

恩率兵與賊大戰乘勝逐北恨入伏中力戰而死父子兄弟叔姪同時遇害者七人○詳見遇難徇節考

副使馬慎追賊於狼山敗之

賊道出江慎追敗之既而福山把總邵城又追敗之沉其舟十一是年犯江北之賊凡五而廟灣之賊尤劇副總兵盧鏜參將劉顯土舍人彭志顯屢進攻之賊遂敗遁

三十六年四月

五月賊犯楊州府總兵副鏜等大敗之

賊入海子內為東兵所敗至淸河頭復敗之首百七十餘

賊入寶應縣

先是楊州東關及瓜州俱有堡賊至楊州不得掠乃從高郵至寶應寶應素無城禦掠殆盡

賊犯天長都指揮沙田把總岳君寵與戰死之

六月副使于德昌參將王元伯劉顯擊泗州賊破之

時賊掠泗川爲官兵所敗德昌等舍擊之顯身先士卒殺衣紅賊首一人群倭大亂元伯督兵乘之賊大潰敗追及於舟所水兵復自下應之賊死者無算既而賊遁出海總兵劉綎敗之於安東千戶汪時中又敗之於南彎匣子港賊竟遁去

三十八年四月賊犯如皐官兵擊之

時賊新至官兵未整其鋒斬首一百六十

賊犯盧家塲千戶汪時中擊却之

賊從大河口舍四塲登者以千計擄盧家塲時中與把總張大義合兵圍之大義意欲困之且待諸兵齊至然後進擊時中奮然曰我等既受委任坐視賊之肆虐民之荼毒而不肯前何也大義固沮之遂與有隙時中單騎提雙刀突入賊營斬賊數人賊大驚黑煙中簇擁莫敢誰何似有嘆羨其勇而欲收用之意時中繞賊營後賊追之部兵從救賊大敗走爲之喪氣

官兵進搗廟灣賊巢大破之

許見大捷考

參將胡宗義與賊戰於海安兵潰千戶趙世勳鎮撫韓淵死之賊尋爲副使劉景韶所滅

時海安故有毛葫蘆營毛兵素貪宗義新任無紀毛兵爲賊所餌而敗官兵皆潰世勳與淵死於陣提督李公遂檄副使劉景韶率邊兵逐之賊大敗奔張家庄官兵圍之因縱火攻焉賊奔新洲官兵復追敗之俘斬盡絕約三百五十有奇其別支之在曹家庄者亦爲景韶所敗奔潘家庄景韶復斬絕之

七月副使劉景韶參將丘陞擊賊於薛塲敗之

三沙遁至之賊也既而賊遁仲家庄官兵圍困是夜漏下三鼓賊乘雨潰圍而走官兵復追敗之斬首三百餘賊遁七竈河

八月副總兵劉顯曹克新等敗賊於白駒塲

賊既爲劉景韶所敗遁白駒塲官兵圍之四面逸出復爲官兵敵退阿守其巢顯身先陷陣賊死者百餘乘夜遁大海沙洲顯復陷陣攻敗之賊潰走走則陷沙釜中官兵又敗之俘斬千餘（缺見大捷考）

賊遁出瞭角嘴副使熊桴敗之

賊寫劉嶺等所寫將遁出海總督胡公預檄蘇松兵備副使熊桴率舟師設伏海上至是賊遶官兵敗之總兵盧鏜又追敗之

直隸事宜

直隸東南巨海北亘長淮中貫大江江南則爲蘇松常鎮諸郡江北則爲淮揚諸郡其勢不（疑以相援也故各有巡撫之設在蘇松四府有防海防江二者之責在淮揚二府有防海防江防淮三者之責以其均之爲直隸也合爲一卷

江南諸郡

松江自金山衛至南滙所官軍各分信地各有定額（按金山衛以西守禦獨屬江門二營舊制各設官軍四十名又貼守兵共一百名金山衛以東守禦金山營胡家港堡蔡廟港堡舊制各設官軍四十名又貼守軍共三百五十二名已上正守軍人係金山衛查撥貼守軍係太倉鎮海二衛嘉興千戶所調發每歲二月上班十月輪班青村以東各洪港舊制係南滙官軍把守今查革復海塘須照舊分派但太倉鎮海嘉興同有倭患貼守官軍似難調發

相應於金山青村適中如柘林地方南滙吳松江適中如七八團地方添設墩路把總二員各領精兵一千如募到狼兵邳兵之類若兵數不敷就於沿海招募義勇照依客兵支給口粮各官兵即於松林七八團暫借民居創營隨路有警相機策應不許潛住衛所城中各設守禦官軍悉聽鈐轄此松江海塘設備之大畧也若沿海港口金山以東有翁家港蔡廟港柘林澱缺等處南滙以北有四五六七八九團洪口川沙窪青水窪等處皆宜設船防守按舊制金山衛斯造船各有定額（各右前後所每百戶所造出海哨百所造出海哨船四隻共計八十隻青南二所每四隻共計八十隻俱就各衛所派撥巡軍在海巡邏正統間因海患寧謐或以船爲虛費題准以江船

馬而哨船之制遂廢矣今議設船隻一馬之資不足以備一船之用官軍窮苦又難陪貼合令每馬二疋造船一隻再於衛所查有地租公費銀兩與松江府庫軍前銀內相兼轉數每船量貼銀十兩金山衛總委一官督造其各船應用器械火器合於原議太倉置造軍器內給發聽用就點各衛所知水軍人操習水戰布列港口各分信地如倭賊突至而縱容其停泊者服以上刑則自無規避之患矣此松江海港設備之大畧也夫沿海設備固為上策萬一外守不固則黃浦一帶又為蘇松險要守浦乃所以守門戶猶有愈於守城也今吳淞江口即為黃浦口子既經設備而吳松江所亦設兵一枝以防深入矣而至於上

海之高倉渡沈庄塘周浦閘港閔行華亭之葉謝曹涇張堰等處賊一登岸搶船渡浦甚易除松江府先後打造雙桅船艦船各發上海華亭各召募水兵分布沿浦各港巡邏把截又華上二縣各募鄉兵護守城池有警調至浦邊協守但前項兵夫官無專職則事難責成而沿浦二百里之遠本府巡捕官一人勢難管攝合令清軍同知一員帶管華亭鄉兵水兵自豐涇以至閔行皆其信地再設巡捕同知一員住劄上海專管該縣鄉兵水兵自閔行以至嘉定界首皆其信地無事率兵操演有事統兵防守蓋同知名位稍尊威令可行又甲科之左遷外補與舉行之才望陞遷者皆得為之庶濟實用若止設通判則為官非

樂就而下亦玩視恐不能振作而有急也此松江内
地設備之大畧也然倭舶之來乘風渡海勢難聯絡
每至海外大山必停泊候齊然後深入照得羊山爲
本府所屬爲定海吳松江二總兵兵船會哨之處以
地里適均故也本府所造之船數本不多僅可以支
把港一用此但可以言守而不可以言戰須得福船
蒼山各數十隻沙着民船二三百隻每至風汛時月
分泊港口各住信地更番出至羊山往來游擊晝夜
不絕外則爲定海吳淞江會哨兵船之羽翼内則爲
海港把守兵船之捍衛遇有海賊齊力奮擊將見賊
船鯨散而少我兵船鯨合而衆盛衰之氣勢既分則
勝負之分數自判得海防之上策矣抑猶未也查得

沿海民竈原有採捕魚蝦小船並不過海通番且人
船慣習不畏風濤合行示諭沿海有船之家赴府報
名給與照身牌面無事聽其在海生理遇警隨同兵
船追剿此則官兵無造船募兵之費而民竈有得魚
捕盜之益此松江海洋設備之大畧也

已上都御史方公應前任松江府呈

蘇州沿海一帶險隘甚多舉其大者則常熟有福山港
白茆塘太倉有劉家河七丫港嘉定有吳淞江黃渡
港皆賊之通衢而東吳之門戶此則所謂一府之險
要長洲則泖湖浩蕩吳江則鶯湖相屬吳縣則太湖
交通皆賊之徑道而腹裏之關隘此則所謂一縣之
險要以言其次則福山以西有三丈浦斜橋以東

許浦金涇劉家河以北有新塘浪港茜涇吳松江以南有宝山以東有老鸛嘴均之所謂險要而少次焉者凡海濱数百里一望平坦非有山嵐險阻爲之扼塞皆可以泊船登岸要害無邊兵力有限而防禦之計當先其太者以海邊惟福山爲最以腹裏惟勝墩爲最故劉家河吳松江福山港舟師防守不可單弱白邡口七了港黃窪港俱當預設戰艦庶與各港相爲犄角又如賊自東南而來必由宝山吳松江宜發船一艘泊於吳家沙以堵截之賊自東北而來必由三沙劉家河宜發船一艘泊於营前沙以堵截之把總遊兵船隻往來策應而三丈浦新塘老鸛嘴等處亦得以聯絡而并制則蘇之外防或可無憂矣至於

風汛時月吳松水兵統發勝墩平望以防嘉興突犯之寇吳縣水兵統發太湖以防盡里突犯之寇長洲圖結水兵統發周莊以防泖湖突犯之寇本府相度緩急發遣水陸之兵以爲應援則蘇之內防或可無憂矣然福山港劉家河吳淞江各該把總之官統領兵船在洋堵截似爲有備但賊船之來聯艘接艦乘風駕潮萬一不能盡行邀擊或有一二泊淺閣岸則水兵束手旁觀任其焚刼無可柰何而把總官亦且以爲非所事事矣合於常熟縣分撥兵勇一千名屯駐福山港五百名屯駐白茆塘太倉州分撥勇兵一千名屯駐劉家河太鎮二衛原綠杆子軍兵五百名屯駐七了港嘉定縣分撥勇兵一千名屯駐吳淞

五百名屯駐黃窑俱聽各該把總選官分領相機
度賊在外洋則水兵擊之賊若登岸則陸兵堵之彼
此夾攻遠邇互應各該州縣量爲聲援如此則賊亦
疑畏而不敢犯矣至於腹裏如崑山縣分撥兵夫三
百名屯駐清洋江三百名屯駐千墩吳江縣分撥兵
夫五百名屯駐勝墩各張聲勢以助軍威各該領兵
官聽其調遣不許退避萬一賊勢重大未易爲功則
各枝之兵又宜聽府州縣掌印官調回守城庶事體
專一可以責成兵勢聯絡不致孤懸矣

已上副使溫景葵前任蘇州府議

一吉唐樞云松江有海防道兼事住劄上海蘇州有兵
備道副使住劄太倉則常熟江陰地方自福山白茅

吳淞諸港進泊頭山可直趨無錫武進此處頗爲空
虛應援不及故更設一兵備道至鎮江一帶住劄江
陰賊入海口即爲遊擊若深入大江即從腹裏抵京
口截禦

都御史唐順之云自來禦倭之策無人不言禦之於海
則易禦之於陸則難是以海上會哨會剿事例甚嚴
所以圖難於易也滸山去乍浦金山吳淞江三處各
是一潮道里適均係會哨所在

又云海賊入江由江兩岸登陸之路廖角嘴營前沙南
北相對海口約濶一百四五十里爲第二重門戶周
家橋與閘山相對周家橋北岸至順江洲與江南分
界江面約濶六七里順江洲至新洲夾江面約濶七

淞洲來至圖山南岸江面約濶十四五里許
重門戶三處鎮水兵官須整備船艦晝夜緊守三門
勤勤會哨以防奸細汛門戶既固營裏自安若三門稍
有疎虞至不得已而守金焦兩岸所謂下策與無策
矣

又云江北江南事例互相應援況南北共海賊若搶船
上岸不寇江南則寇江北是江北之援江南亦自援
也若不會兵殲之於海中何以獨力禦之於岸上
巡撫都御史翁大立題云今日海防之要惟有三策出
海會哨毋使入港者得上策循塘距守毋使登岸者
得中策出水列陣毋使近城者得下策不得已而至
守城則無策矣臣周行海塘分布信地視吳淞所乃
水陸之要衝蘇松之喉咽也提兵南向可以援金山
之急揚帆北哨可以扼長江之險以副總兵統兵鎮
之自吳淞而北為劉家河為七了港又東為崇明縣
七了而西為白茆營為福山又折而西北為楊舍為
江陰為靖江又西為孟河為圖山此皆舟師可居利
於水戰臣皆設有兵船非統以把總即統以指揮而
又以圖山遊兵把總駐劄營前沙會哨於江北吳淞
遊兵把總駐劄竹箔沙會哨於洋山當鎮參將統水
陸兵據江海之交鎮守於勝舍所以備水戰者亦既
密矣但吳淞而南雖有港汊多砂磧賊可登岸兵
難泊舟非選練步兵循塘距守以出中策不可也今
自吳淞所而南為川沙堡以把總練兵一枝守之

沙而南爲南滙所以把總練兵一枝守之南滙而西爲青村所以把總練兵一枝守之青村而西爲柘林堡以都司練兵一枝守之此皆不遠六十里聲援易及首尾相應宛然常山之蛇之勢也柘林而西爲金山衛西連乍浦東接柘林頻年皆賊所巢窟添設遊擊將軍一員統領馬步遊兵往來遊徼則北可以護松江而西可以援乍浦

都御史唐順之云廟灣剿賊之路原有兩條一條從寶應拖船過堰水路自清溝喻口進攻則兵勢既便而饋餉亦易一路從淮安至馬邏陸路進攻則兵勢既迂而饋餉亦難

又云通州屯下重兵若有寇則又有客兵屯聚計算通州所出粮穀得兵吃否恐臨期不免騰貴則通州該何路糴買或是先將軍餉銀上江糴米從江路運至通州積下若米價騰貴則銀米兼支與軍家爲便柴薪亦須預處

又云江北局面與江南浙福不同靠不得水戰止靠陸戰也

閩縣知縣侯俊卿云海寇之來每自南而北度南麂山則自廣入閩矣過流江寨則出閩入浙東矣越海門則又浙之西矣踰寶山至吳淞沙上等處則又自浙入江南直隸矣沙上以南不暇泛及茲以海道之要害切于江北者言之狼山當江海之吭而廖角掘港皆揚之東南界也朐山據淮海之首鄒州嬰港山皆淮之東北境也中包泰興之周家橋鹽城之射陽湖山陽之雲梯關廟灣等處此皆沿海衝要之區寇盜可以停舶出沒之處乃據守所當先者也近奉

欽依東西二海所雲梯關麻洋掘港俱設把總惟周家橋廟灣塲二處亦須添設把總其狼山朐山爲首尾之勢責令參將分布駐劄堵截海寇中間舊設新添

官軍兵快悉聽忝將提調凡遇聲息百里之內同日應援不許互相推避致誤軍機各照律例重擬庶心力可一盜寇可禦又照臨清向爲北虜添築外城維揚近爲倭寇亦議築外城淮郡西湖嘴正人煙稠密處所一遇寇至搬移流離況二城所容有限欲將西湖嘴另築一城又慮財力地勢俱有未便聊將夾城中間聯築爲道一自新城東南角樓起抵舊城桃花營一自新城西南角樓起抵舊城北水關共計四百餘丈比之揚外城之工不及十之一二如此則兩城相通粮草兼濟攻守有備矣

吳郡監生金魚云倭寇之患起於吳浙而沿及淮揚蓋揚州富甲天下人所素聞三十五年之夏賊以二百餘人或曰止一百三突至揚州城下城中謹閉自守任其遊逸無如之何大掠而去自是益生歆豔而揚州爲賊所必窺之地矣以江北之大勢言之東起瞭角嘴大河口以及呂四廬家等場沿干楊樹港海門裏河通州與如皐泰州稍折而北則爲揚州矣過揚州而西稍北則天長滁州抵中都踰海門而北則爲徐步營又北則爲嶗港又東北則爲新挿港轉而西北則金沙鹽城廟灣劉庄姚家蕩再西北則蛤蜊麻線等港而至大海口矣劉庄東北則安東安東之北則爲海州贛榆泰州西北則爲高郵寶應寶應之北爲淮安淮安轉西則泗州以達鳳陽此江北形勢之大畧也賊入海之道有二其一新港爲一道新港即

所謂三江口蓋由南江狼山越鎮真瓜州而入海口
則卞家墳周家墳稍折而東則揚州矣此可入以登
岸亦可從以出海者也此最爲便道其二則蛤蜊麻
線等港沿北大海口爲一道大海口有水陸路南通
廟灣與劉庄姚家蕩俱爲大鎮賊若據此我兵屯於
湯潮岸等處賊自尋新港路出不得則必北尋大海
口而出勢所必然也若安東海州之東北有大北海
不惟道里迂遠且砂磧甚多此不可運舟者也蛤港
新挿港之東亦有北海砂磧亦多不堪重載此但可
從以入而不可出者也是賊出海之路止有二途若
其登岸之處則不一東則睢角嘴呂四場西則楊樹
港徐沙營之西則很山楊樹港北則新挿港蛤港皆

其所從以登岸而入寇之路也夫賊所欲慕惟在揚
州一執居民便問其道若登狼山必窺通州而揚州
在西使干榆東榆西等處率民以掣其後則賊必敢
直前以寇揚州若干睢角嘴呂四場或新挿港蛤港
以進使干榆東榆西等處屯兵以遏之則揚州可無
危故今榆東榆西等處最爲要地而當事者欲屯宿
重兵以控扼賊鋒者有以也按江北之地細港委蕩
固亦有之而平原浩壤則視吳松爲多大西北騎兵
倭寇未易以嬰其鋒也既得平地則騎兵可施三十
八年之捷以西北騎兵三千爲之先衝可見也他有
湯潮岸者文范公所築以捍海溢者也故亦名范公
堤東南起呂四蕩西北抵姚家場綿亘幾三四百里

高岡平欲可用駐兵為之長策今東關瓜州俱已
堡賊若於瞭角嘴呂四場及新挿港崛港以進或
能襲取揚州必轉之東北而窺淮安安東以攻劉庄廟
灣我軍苟能彼此夾攻逼之使至湯潮岸以西北騎
兵衝其鋒而以火器繼之各路兵隨後擊之賊可以
戰成擒矣故我軍惟利賊之至此者有以也新挿港
東臨北海素有鹽徒數百艘聚泊崇明北徒之寇欲
劫鹽協徒而不果當事者欲置官于此以提舉鹽徒
使不為賊用而為我用亦一見也夫寇與以來燒劫
屠戮之慘吳浙淮揚所同若獲利之多則未有如淮
揚者而賊所必不能舍者在是矣況其地運道
陵寢在焉所係尤重乎夫江北之地除安豐等三十六

場俱在海內不為要害其要害之處乃通州也狼山
也楊樹港裏河鎮也崙東崙西等場也瞭角嘴呂四
場也崛港新挿港也廟灣劉庄金沙場姚家蕩也今
皆已建城堡設戍守非若往日之無備矣其要害之
尤者曰新河曰入最便逼近揚州也曰北海所從以通
新挿港且有鹽徒聚艘於此者也曰廟灣以其為官
鎮而可通大海口也故事者荊川先生欲以把總三人
一住新港一住北海近新挿港且有鹽艘聚泊也或曰廟灣以北之北海疑未是
一住廟灣一為陸路控擊住劄海安鎮若海安在
皋泰州之間道可以控扼狼山通州海門之入而
可以捍衛揚州也

籌海圖編卷之七

明少保新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

山東沿海總圖

登州府圖

萊州府圖

山東兵防官考

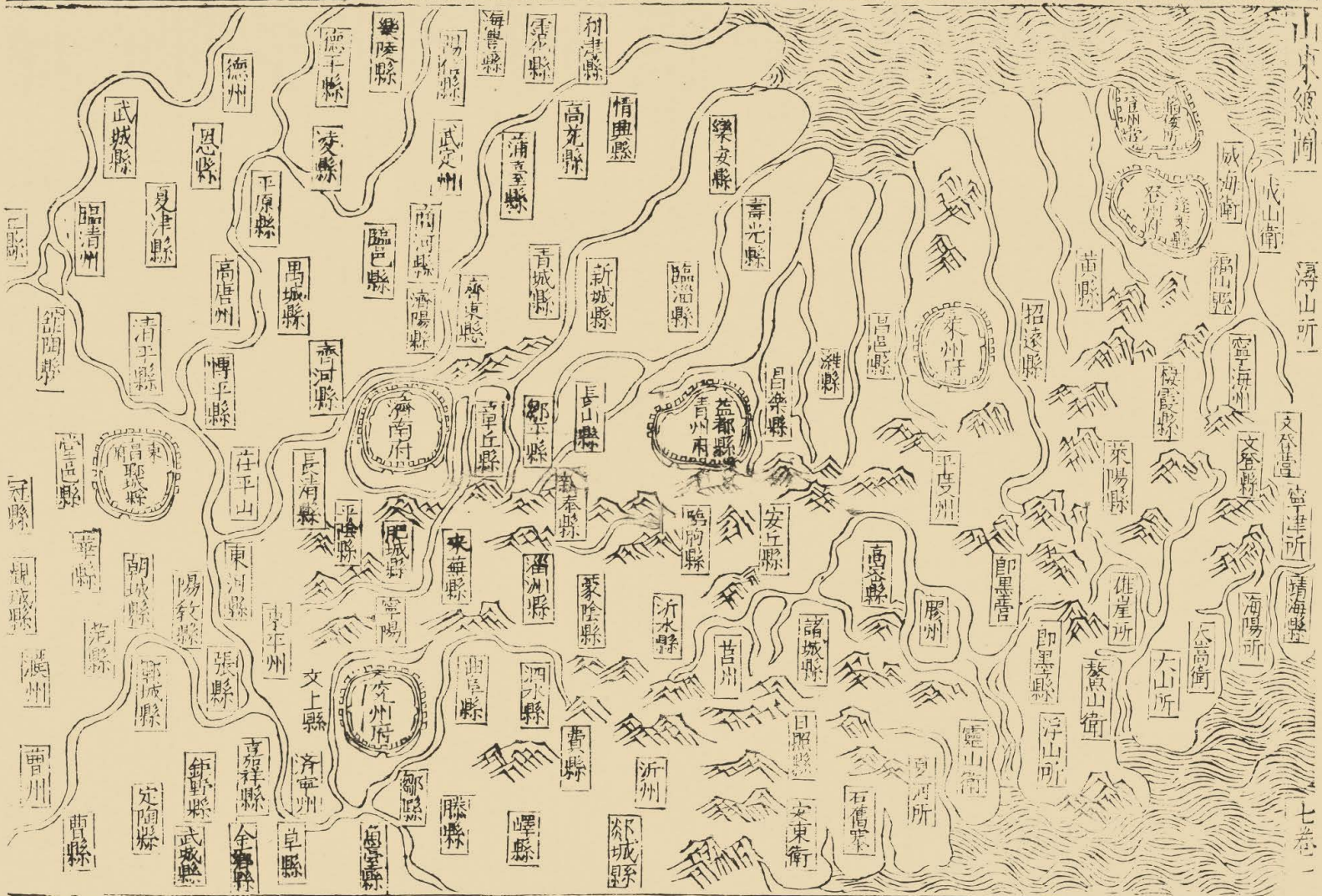
山東倭變紀

山東事宜

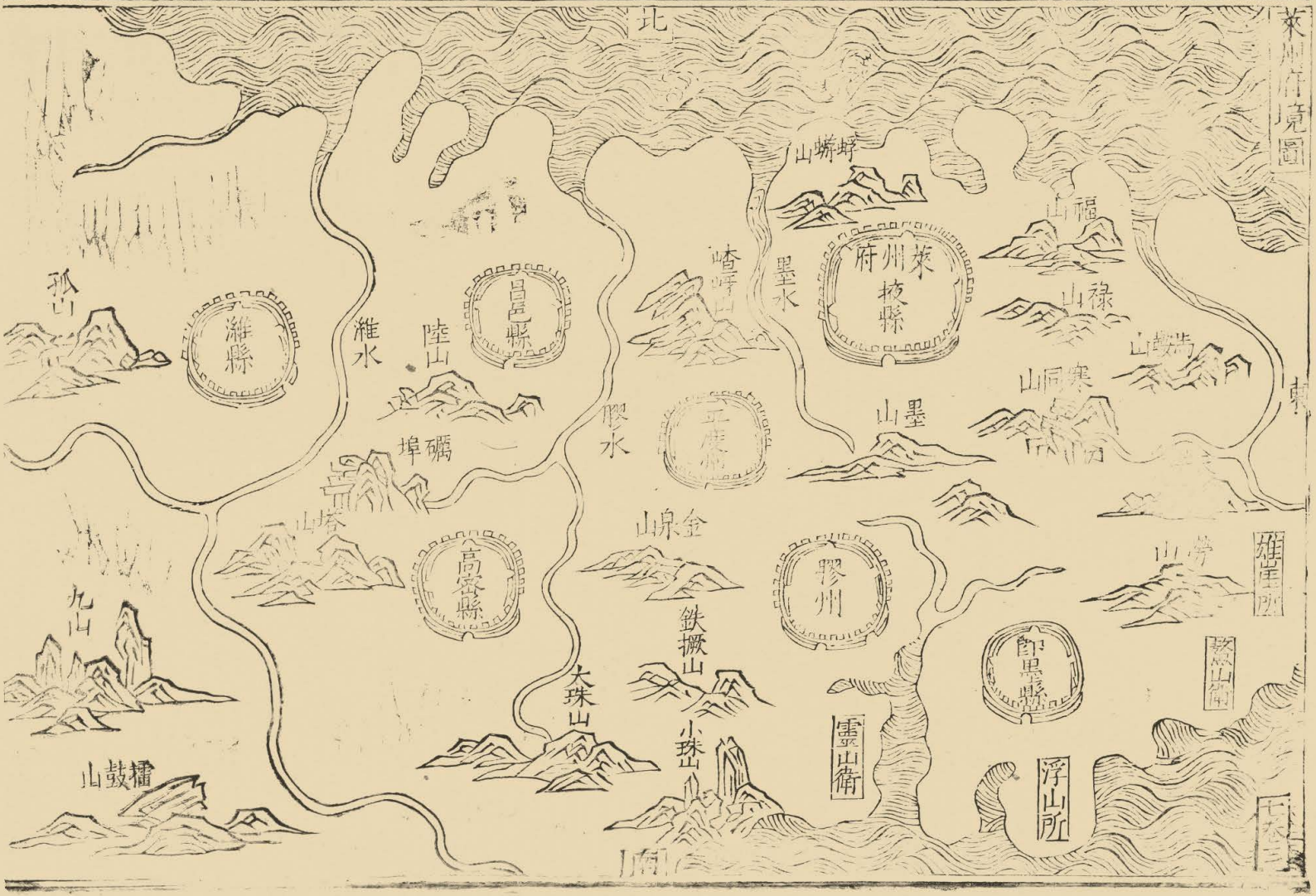
遼陽圖

遼陽兵防官考

遼陽事宜


山東總圖
濟南府
兗州府
青州府
東昌府
萊州府
登州府
武城縣
德州
恩縣
夏津縣
平原縣
臨清州
高唐州
禹城縣
清平縣
博平縣
茌平縣
堂邑縣
齊河縣
臨邑縣
濟陽縣
禹城縣
齊東縣
青城縣
新城縣
蒲臺縣
高苑縣
樂安縣
青光縣
臨淄縣
樂陵縣
德平縣
安縣
武定州
海豐縣
利津縣
霑化縣
蒲臺縣
高苑縣
博興縣
樂安縣
青光縣
臨淄縣
新城縣
青城縣
齊東縣
濟陽縣
武定州
利津縣
霑化縣
樂陵縣
德平縣
安縣
海豐縣
德州
武城縣
恩縣
夏津縣
臨清州
高唐州
禹城縣
清平縣
博平縣
茌平縣
堂邑縣
齊河縣
臨邑縣
濟陽縣
齊東縣
青城縣
新城縣
臨淄縣
樂安縣
青光縣
高苑縣
博興縣
利津縣
霑化縣
樂陵縣
德平縣
安縣
武定州
海豐縣
濟南府
章丘縣
鄒平縣
長山縣
青州府
益都縣
臨朐縣
昌樂縣
濰縣
萊州府
招遠縣
萊陽縣
掖縣
寧海州
文登縣
登萊青道
海陽所
大山所
成山衛
威海衛
福山縣
黃縣
即墨縣
即墨營
雒崖所
鰲山衛
浮山所
靈山衛
石臼所
安東衛
膠州
高密縣
諸城縣
日照縣
莒州
沂州
郯城縣
費縣
沂水縣
蒙陰縣
安丘縣
鳴鳳縣
濰州
樂安縣
平陰縣
長清縣
肥城縣
寧陽
東平州
汶上縣
濟寧州
嘉祥縣
鉅野縣
定陶縣
金鄉縣
單縣
曹縣
武城縣
觀城縣
冠縣
東昌府
聊城縣
堂邑縣
茌平縣
博平縣
清平縣
高唐州
禹城縣
齊河縣
臨邑縣
濟陽縣
齊東縣
青城縣
新城縣
臨淄縣
樂安縣
青光縣
高苑縣
博興縣
利津縣
霑化縣
樂陵縣
德平縣
安縣
武定州
海豐縣
德州
武城縣
恩縣
夏津縣
臨清州
高唐州
禹城縣
清平縣
博平縣
茌平縣
堂邑縣
齊河縣
臨邑縣
濟陽縣
齊東縣
青城縣
新城縣
臨淄縣
樂安縣
青光縣
高苑縣
博興縣
利津縣
霑化縣
樂陵縣
德平縣
安縣
武定州
海豐縣

西
北
東
南
黄縣
棲霞縣
寧海州
威海衛
成山衛
文登縣
招遠縣
萊陽縣
太高衛
靖海衛
寧津所
張鶴山
萊山
蘆山
五龍山
成山
七卷二


萊州府境圖
北
東
萊州府
掖縣
昌邑縣
濰縣
高密縣
膠州
即墨縣
雲山衛
浮山所
雄崖所
勞山衛
濰水
墨水
膠水
陸山
硝埠
金泉山
鉄撅山
大珠山
小珠山
九山
擂鼓山
孤山
山福
山祿
山墨
山塔
山蜡

明少保行太子太保兵部尚書兼都察院右副都御史胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

山東兵防官考

提督軍務巡撫都御史

巡察海道副使

管領民兵參將

總督登萊沿海兵馬備倭都指揮

登州營把總

文登營把總

即墨營把總

沿海衛所軍數附

安東衛 京操軍一千五百七十六人　城守軍餘三百五十八人
屯軍三百九十一人　捕倭軍二百六十九人

石舊所 守城軍餘四十八人

靈山衛 京操軍一千二百十三人　城守軍餘二百十六人
屯軍二百八十七人　捕倭軍一百九十一人

夏河所 守城軍餘六十七人

鰲山衛 京操軍一千六百三十一人　城守軍餘一百七人
屯軍二百九十人　捕倭軍三百八十五人

浮山所 守城軍餘五十六人

雄崖所 京操軍五百七十一人　城守軍餘九十七人
屯軍七十七人　捕倭軍二百十人

大嵩衛 京操軍一千四百九十一人　城守軍餘三百五十八人
屯軍四百二十八人　捕倭軍二百四十六人

大山所 守城軍餘二十六人

靖海衛 京操軍一千五百九十三人　城守軍餘一百五十八
屯軍二百一十一人　捕倭軍三百十三人

海陽所 京操軍四百九十六人　城守軍餘一百二十六人
屯軍六十六人　捕倭軍一百二人

寧津所 京操軍五百二十九人　城守軍餘一百六人
屯軍六十八人　捕倭軍六十八人

成山衛 京操軍一千二百五十六人　城守軍餘二百六十一人
屯軍二百四十人　捕倭軍二百三十四人

嶗山所 守城軍餘九十四人

寧海衛 京操軍一千六百六十五人　城守軍餘一千一百一十人
屯軍三百九十一人　捕倭軍三百五十四人
奇山所 京操軍四百九十八人　城守軍餘一百一十三人
屯軍六十人　捕倭軍七十五人
威海衛 京操軍二千三百六十八人　城守軍餘七十五人
屯軍二百二十四人　捕倭軍二百八十五人
百尺所 守城軍餘三十五人

金山所 守城軍餘一百十四人

登州衛 京操軍二千九人　城守軍餘二百五十人
屯軍一百一十四人　捕倭軍八百二十八人
福山所 守城軍餘二百十四人

萊州衛 京操軍一千七百二十八人　城守軍餅三百二人
屯軍四百四十七人　捕倭軍四百十三人
王徐寨所 守城軍餘四十八人

膠州所 京操軍四百六人　城守軍九十四人
屯軍七十七人　捕倭軍四十四人
青州左衛 京操軍三千六百二人　城守軍七百二十人
屯軍四百五十三人

籌海巡檢司 弓兵數附

青州府

夾倉鎮 在日照縣　弓兵一十八人　信陽鎮 同前　弓兵一十八人
南龍灣 同前　弓兵二十一人　高家港 在樂安縣　弓兵二十四人

登州府

赤山寨 在文登縣　弓兵二十七人　辛汪寨 同前　弓兵二十七人
温泉鎮 同前　弓兵二十四人　東良海口 在招遠縣　弓兵二十四人
乳山 在寧海州　弓兵二十三人　高山 在蓬萊縣　弓兵二十四人
楊家店 同前　弓兵二十一人　馬停鎮 在黃縣　弓兵二十五人
孫夼鎮 在福山縣　弓兵二十一人　行村寨 在萊陽縣　弓兵二十二人

萊州府

魚兒鋪 在昌邑縣　弓兵一十五人　古鎮 在膠州　弓兵二十二人

逢猛同前　弓兵二十一人　栲栳島在即墨縣　弓兵二十二人
海倉在掖縣　弓兵一十五人　紫荊同前　弓兵一十二人

沿海墩堡守墩堡軍數附

安東衛守墩堡軍餘三十九人

堡八　三橋鋪　虎山　烽火山　關山
　　昧溝　木寨　孤嘴　董家

石舊寨所守墩堡軍餘四十人

墩十　溫泉溝　南石舊　北石舊　清泥
　　董家口　釣魚　湘子泊　金線
　　石河　湖水

堡三　古城　滕家嶺
　　滔洛

夾倉鎮巡檢司守墩弓兵一十二人

墩四　蔡家　焦家
　　三叉口　相家

信陽鎮巡檢司守墩弓兵一十二人

墩四　西大嶺　南黃
　　東沙嶺　黃石檻

南龍灣海口巡檢司守墩弓兵九人

墩三　陳家臺　胡家
　　鄭家臺

高家港巡檢司守墩弓兵六人

墩二　石岬
　　司西

鹽山衛守墩堡軍餘八十人

墩二十　帽子山峯　將軍臺　沙溝
　　黃埠　李家島　磨島
　　安嶺　黃山　野山埠
　　風火山　捉馬山　張家庄
　　長城嶺　藏家嶺
　　孫家巷　胡盆嘴
　　劉家溝　酉子埠　沙嘴
　　敲尧山　青石山　崇石山　東石山
　　交差澗　焦家村　石敕差

堡十三

兜角河　大河口　花山　本寨由平地
丁家庄　白塔泰　沙嶺

夏河寨所守墩堡軍餘三十九人

墩七　徐家埠　蔡良庄　海王庄　車疊山
沙嶺　黃埠　大盤
堡六　趙家营　走馬嶺　封家嶺
北顧湖　小海　王家庄

古鎮巡檢司守墩弓兵九人

墩三　西庄　古積
北青

逢猛巡檢司守墩弓兵九人

墩三　互埠　彭家港
島児河

膠州所守墩堡軍餘八十一人

墩九　汪家庄　北家港　沙埠　洋河
石河　塔埠　孤埠　沙嶺
大埠

堡七　辛庄　鹿村　石河　入里庄
陳村　李村　柘溝河

登海圖編卷之七　七一

鰲山衛守墩堡軍餘六十九人

墩十七　龍口　汾水嶺　小勞山　石嶺
黃谷　橫搪　塔桅島　羊山
狼家前　俞家嶺　峯山　走馬嶺
猴馬嘴　高山　蕭旺庄
　　劳石山

堡十八　東園　營前　馬山
大村　監望　申村
孤城　雙山　錯破嶺
孫仝　塔児　東城　轉頭山
狗塔埠　龍窒頭
乃口墳　石張口

浮山寨所守墩堡軍餘四十五人

墩九　麥島　程陽　女姑　程家庄
樓山　姑山　紅石　張家庄
斷山

栲栳島巡檢司守墩堡軍餘九人

墩三　丈二山　金錢山
望海

雄崖所守墩堡軍餘三十人

墩八 王家山 公平 望山 米粟山
北墩 朱皐 脂牛山 白馬島

堡三 段村 王鶯
青山

大高嘴守墩堡軍餘四十一人

墩七 楊家嘴 劉家嶺 辛安寨 草島嘴
橋虎山 望石山 麥島 界河

堡五 青山 管村
小山 黃山

行村寨巡檢司守墩弓兵九人

墩三 高山 田村
墩三 望山

大山所守墩堡軍餘十人

墩二 大山 梁山
墩二 黃陽

乳山寨巡檢司守墩堡弓兵七人

吏陳言寫
鋟

墩三 表口 長角嶺
高家庄

靖海衛守墩堡軍餘七十二人

墩二十 大彎口 頭姚山 青島嘴
長會口 石崗山 浪浪
花菱寨 標杆頂 唐浪頂 鐸木山
郭家口 赤石 紅土崖 黑犬厥
石脚山 拓島
明光山 狗脚山 路家馬頭
墩八 店山 望將山 起雨頂 蒸餅山
慈山 孤西山 望將山 墳墓頂

赤山寨巡檢司守墩弓兵三人

墩一 田家嶺

寧津所守墩堡軍餘四十二人

墩八 孟家山 青羊山 柴家山 芝蔴巖
設埠 龍山 萬口 羊家島
墩九 帽子山 大頂山 高樓山 [illegible]
王家舖 上現口 龍虎山 崗山
[illegible]山

海陽所守墩堡軍餘四十一人

墩七 帽子山 乳山 驢山 城子港
白沙 峯子山 小龍山
堡十 雪山 孤山 猪港
湯山 扒山 桃村 黃河利
老埠港 孔家庄
撒雪山
成山衛守墩堡軍餘四十二人

墩十 狠家頂 棗島 馬山 高礎山
北峯頭 伸山 崮嘴 太平頂
俞鎮
大姑山
堡九 神前 堆前 榮天嶺 報信山
石礎 洛口 歇馬神 北留村
張家

尋山所守墩堡軍餘三十八人

墩八 長家嘴 古老石 黃連嘴 小勞山
楊家嶺 馬山 青魚島 葛樓山
堡七 曲家埠 青山 大水泊 勝佛口
老趙 網子埠 燕餅山

吏陳言寫
黃鉞刊

溫泉鎮巡檢司守墩弓兵六人

墩二 可山 半月山

威海衛守墩堡軍餘二十八人

墩八 陳家庄 焦子埠 遶遶 麻子
針山 磨兒山 古陌頂 廟後峯
堡四 曹家庄 豹虎 天都
峯山

百尺崖所守墩堡軍餘二十四人

墩六 曹家島 百尺崖 老姑頂
蒲臺頂 尚里 望天嶺
堡三 轉山 芝麻嶺
寶家崖

辛汪寨所守墩弓兵三人

墩一 辛汪

寧海衛守墩堡軍餘四十二人

墩六 後至山 獻山 小峯山 貉子巢
馬山 草埠

堡十二　宋家　曲水　管山
湯西　修福　石子現
辛安　杏林　蕪菱
板橋　修福　拷栳觀
金山所守墩堡軍餘一十七人
墩五廟山　鳳凰　金山
駱駝　小峯山
堡四鄒山　清泉
石溝　朱家
清泉所守城軍餘一十五人
守墩軍餘八人
墩二清泉
石溝
奇山所守墩堡軍餘一十八人
墩四兜頂　蕈東
獎斗　木柞
堡二黃務
西牟
孫希鎮巡檢司守墩弓兵九人
墩三崗崙　塔山
旗掌

登州衛守墩軍餘一十八人
墩六抹直口　教塲　林家庄　田橫寨
西庄　蓬萊閣
福山所守墩軍餘二十五人
墩三單山　三山
皂河
柴胡寨巡檢司守墩弓兵一十八人
墩六小皂兒　武庄庄　司　大原
諸黃　諸高
馬埠寨所守城軍餘四十人
守墩軍餘九人
墩三海廟　扒埠
馬埠
海倉巡檢司守墩弓兵一十五人
墩五海鄰　白堂　七山　後灶
東關
魚兒巡檢司守墩弓兵十五人
墩四黑山　西甲
韓城　頭人

塘頭寨所守城軍餘七十六人
守墜軍餘三十人

墜九寧家墳　荆埠　宅科
田水河　八面　公册堂　官墓
上司　黄種河

黄鍊刊

山東倭變又紀

永樂六年倭賊襲破寧海衛
殺掠甚慘指揮趙
銘以失機被刑

寇成山衛
白峯頭寨羅山寨及大嵩草島嘴鰲
山羊山寨陰島張家庄以次被掠

入于家庄寨百戶王綳死之

入桃花閘寨百戶周盤死之

嘉靖三十四年五月賊登犯日照縣

三十五年四月賊登靈山衛養馬島官兵討平之

犯海陽所官兵討平之

登州營

登萊二郡凸出于海如人吐舌東南北三面受敵故設三營聯絡每營當一面之寄登州營所以控北海之險也登萊二衛併青州左衛俱隸焉其策應地方語所則有奇山福山中前王徐前諸所語寨則有黃河口劉家汪鮮朱蘆徐馬停皂河馬埠諸寨語巡司則有楊家店高山孫疥鎮馬亭鎮東良海口柴胡海倉魚兒鋪高家港諸司三營各立把總二員以總轄之其在海外則島嶼環抱自東北崆峒半洋西抵長山逢萊田橫沙門竈磯三山芙蓉桑島錯落盤踞以為登州北門之護過此而北則遼陽矣此天造地設

之險也然諸島雖近登州而居島中以取魚鹽之利者乃遼陽之編伍非山東之戍卒也叫呶跳梁可長而不可恃詳見後總論中故北海之濱既有府治而設險者復建備倭城于新河海口以為屏翰且有本營之建焉沿海兵防特重其責非若他省但建木寨于島嶼良有以也夫島嶼既不設險則海口所係匪輕自營城以東若林莊石落灣子劉家汪平暢蘆洋諸處自營城以西若西王莊西山栾家孫家海洋山後八角城後芝罘苦島諸處皆可通番船登突嚴外戶以綏堂閫其本營典守之責乎

文登營

登萊乃泰山餘絡突入海中文登縣尤其東之盡處

也成山以東若皇門瀕九峯赤山白蓬頭諸島嶼
沙磧聯絡潮勢至此衝擊騰沸議者謂倭船未敢猝
逢然考之
國初倭寇成山擄白峯寨羅山寨延大嵩草島嘴等處海
側居民重罹其殃倭果畏海而有是哉故文登縣
東北有文登營之設所以控東海之險也寧海威海
成山靖海諸處皆隸焉其策應地方語所則有寧峯
海陽金
寨語所
應援
摘角
國初成山之變而徹戍無虞也哉

即墨營
山東巡直隸連壤即墨縣南望淮安東海所城左右
相錯如咽喉關鎖遇有登萊海警告寧然淮陽屢被
登劫自淮達萊片帆可至犯淮者犯萊之漸也故即
墨所係較二營以尤爲要自大嵩鰲山靈山安東一
帶南海之險皆本營控禦之責其策應地方語所則
有雄崖膠州大山浮山夏河石洞諸所語巡司則有
乳山行村藤花島逢猛南龍灣古鎮信陽夾倉諸司
其海口若唐家灣大任陳家灣鵝兒崎桃天井灣頭
武周疃松林全家灣青島徐家庄諸處俱爲衝要隘
防尤難
初倭寇鰲山毒痛甚修即本營所轄之地也殷鑒不遠

封守者其可以弗慎乎

一倭患之作鎖鬲以北達于淮陽靡不受害而山東獨不之及豈其無意於此哉亦以山東之民使于敎馬而不使于舟楫無遏糴之人爲之嚮導接濟焉耳然通年青齊之兵多爲所擄安知其中無識海道而勾引者乎曾觀山東諸郡民性強悍樂于戰鬬倭之短兵不足以當其長鎗勁弩倭之步戰不足以當其方軌列騎萬一至此是自喪其元也所虞者登萊突出海中腹背受敵難于隄備

國朝專設備倭都指揮一員巡海副使一員分駐二郡衛所森嚴墩堡周備承平日久不無廢弛申明振厲庶幾其無患乎

一曾聞宋以前日本入貢自新羅以趨山東今若入寇必由此路但登萊之海危礁暗沙不可勝測非諳練之至則舟且不保何以迎敵而追擊乎故安東以北若勞山赤山竹篙旱門劉公芝界八角沙門三山諸島乃賊之所必泊而我之所當伺焉者也若白蓬頭鬼子口橋鷄鳴嶼金嘴石倉廟淺灘亂磯乃賊之所必避而我之所當遠焉者也最出洋之令勤會哨之期交牌信驗習熟有素則他日

廟堂或修海運亦大有賴焉獨禦倭云乎哉

一山東今日之患有二其一曰班兵懷跋扈之志久矣其一曰登萊島民原係遼陽所徙不受法制地方難毒宜早治而亟平之不然潰決之虞不能免也

山東閩僧大要不在海運曾考元時海運故道南自福建福北所起北首大倉劉家河起洋沿迤迤迤迤五千餘里永樂以來人　　首皆由漕河所以避開洋之險也自王家閘以北山以東白蓬頭等處危礁亂磯滿洋伏沙不可勝紀非熟識水決則不敢行宗伯席書云海運一失人不復生河運有失尚幸不死以生易死輕重昭然是海運之罷端為山東之海險也以曾覩之漕河自王家閘以北至於徐州千有餘里乃　國家咽喉命脉其通其塞所係匪輕況黃河溯徙而南或衝而北易為漕患及今承平修復海運以備不虞豈非　國家之大計哉今上初年　廟堂嘗議及此或謂欲於膠州鑿山濬上以達海倉以避洋險山東撫巡病其煩難而止惜小害大可慨也夫會通河也膠萊新河也登萊海險也皆山東所轄之處也今之論山東海患者但知備倭而不知備運愚故及之

附錄

太倉生員毛希秉云洪武永樂間海運江南粟以給遼東北京從太倉劉家河過崇明三沙放洋至直沽交卸南北貨物往來近海居民甚得其利而無鹽盜之害自海道絕而沙民爭魚鹽之利往往視拒捕矣今黃河日徙于南漕運漸有難行之勢莫若講求海運召募沿海魚人竈丁鹽徒畜客尋認海洪以開運道如廣東船能至漳州漳州船能至寧波寧波船能至崇明崇明船能至通泰海州自此以北豈無識認之人故老相傳崇明至海州風順無需一日海州至登州六百里風順亦需一日登萊環抱千餘里從利津至直沽亦六百里而遥風信不常考之元史至元三十年千戶殷明畧開海道新道自浙西至直沽不過旬日又濟山東隔水新河直達天津以避迂東海道之險今未通者僅五里耳日漕船大者三四百石海船大者八九千石漕運一年每三石致一海運一年每二石而

共法詳見大學衍義補海道經等書

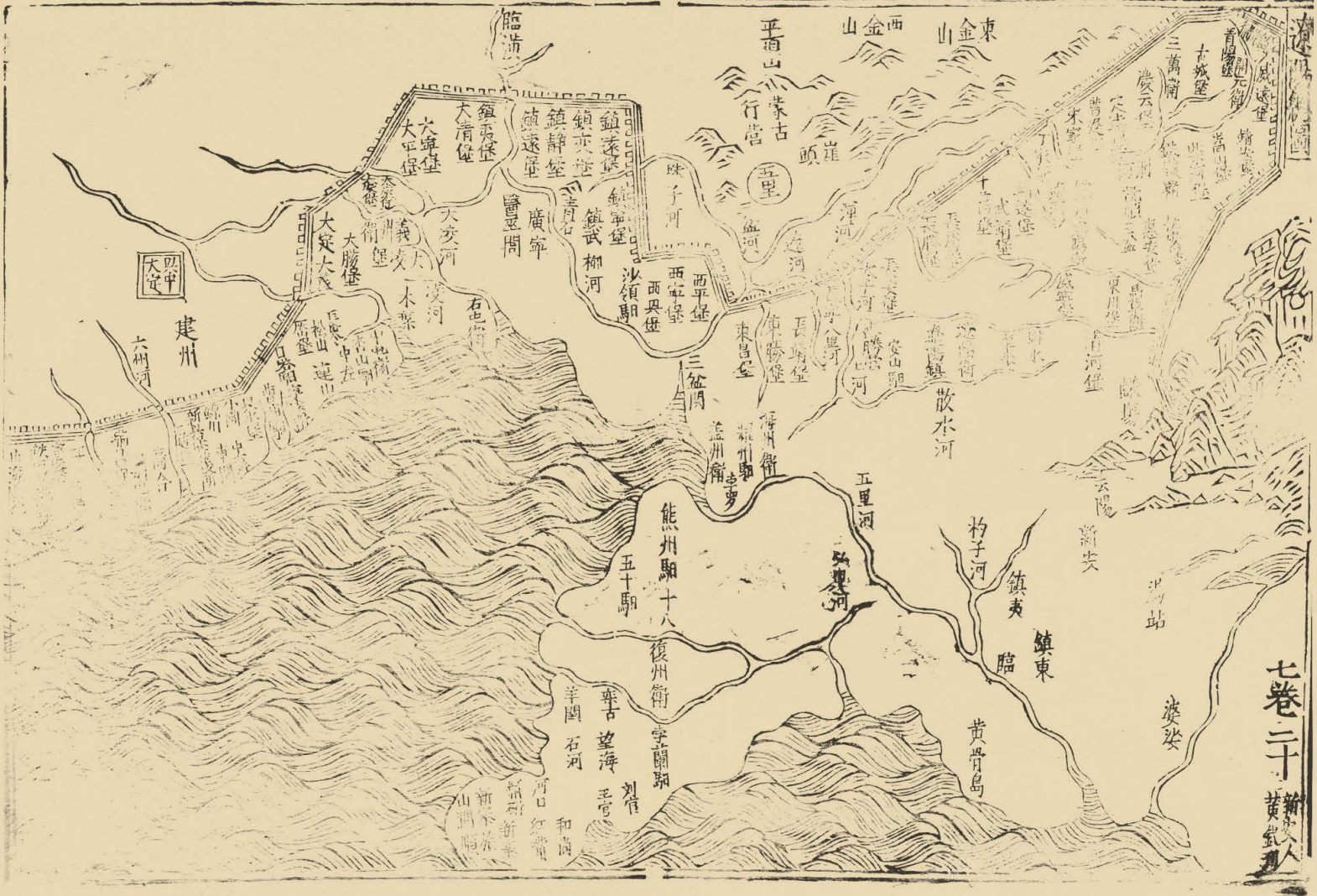
盜者沒入之且實以法惡況造船多不如式督運多不得人故鄉民數逢其害臧以為弗便漕運通而軍士民三之劍定宜予戈之歌舞而須恣也若打造有法處置得宜何憂乎費人耶區區之議非欲驅民干死也亦曰因民之利而利之耳

朝廷誠下詔江南有能尋復元人海運故道者賞銀萬兩授以其官海道既通復下詔曰有能自備人船海運者每運米萬石給與耗米五月糧四千仍許私貨回盜永不抽稅仍嚴私自下海之禁毋得侵其利人誰不願運乎但當自募善客竈丁鹽徒及濱海大戶慣習海壽者聽其所欲不可強定暖裡軍民不習水性之人以敗乃事斯可久行而無害矣客曰雖慣下海素習水性者江洋浩浩舟覆何以得生予曰海洋雖大有洲有島專募下海善沒之人而又多置腳船盡備浮筏遭風波亦可以免免又變通船制以為萬全之策予客曰立文莊欲照例工部造船軍夫運糧而予乃欲召募漳人沙民及沿海大戶自備人船者何居曰從來公事不如私事之勤勞官物不如民物之堅厚嘗聞漳船費銀萬莫若召工佔價而寬給海運大戶自造免私貨之稅以備脩理軍夫不習水性素惰海壽豈可強所不能而驅之以冒險邪行丘之議是陷亦予于湯火也從吾之說是蠻夷水戒皆將為我用也豈但不為中國良民害哉客曰丘議一如番船之制斯亦善矣而子欲蕪蜈蚣船者何哉曰

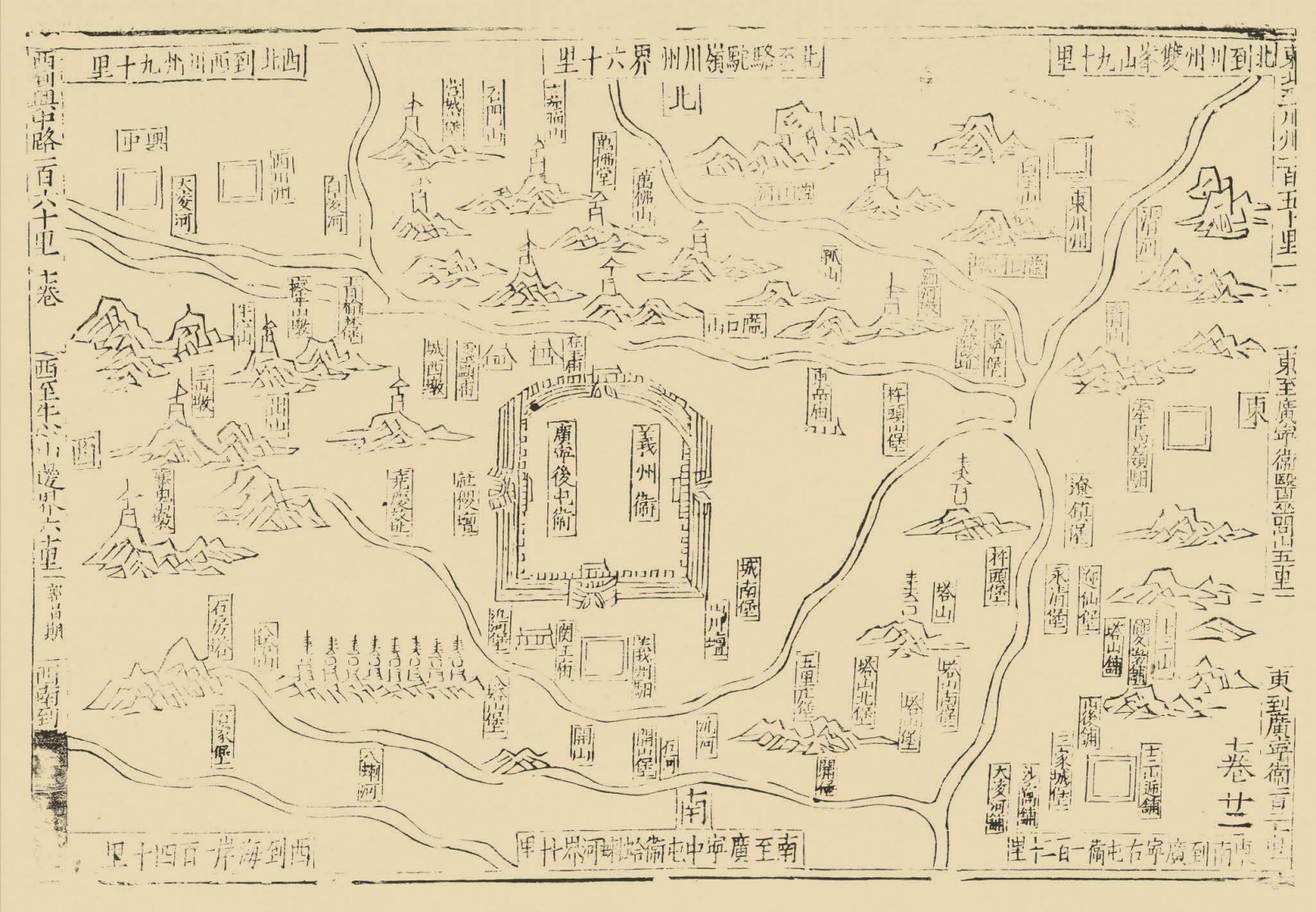
海行甚速而遲者守風故也如大食國在漳州東南南風連綿數千里方可收泊西北風盛而去夏初東南風盛而來所謂海舟無風不可動也惟佛郎機國蜈蚣船底尖面闊兩旁列楫數十其行如飛而無傾覆之忌故燕二船之長則唫颶風暴作狂風如怒號外有無順逆皆可行矣況海中晝夜兩潮順流鼓楫一日何啻多而登遼陽海近風順半日可達

太祖舊制歲運糧布以給遼軍遼陽之貨亦得載于山東彼此軍民交受其利既而捕巡官軍假公濟私報稱官船不許私載之律往往搜獲奪故海船不敢入港近泊大洋以小舟私渡或風濤損失官貲脩造臧其不願遂奏抽銀陸運東至登萊水運北京以東不過五千餘里北京以南非近山東非近遼東其道既絕遠生儒大比赴試舉人上京會試亦皆附載貨物遠涉海艱勞費不貲上民俱困此可以為監守者戒矣宜令通番海船戶分其每故一艘出番下例得二三千兩者貨連沈船戶分其

半人猶胥禁爲之利多故也今海運既給耗米月
而又容載私貨回監且不征其稅無乃貽道不可行
于中國乎子曰并哉言與計小利則大事不成故沛
公間楚趙王備遵宋祖仕將與夫劉晏造船廣集舟
地皆有得于夫子之訓而成功其爲國家之利甚大
故區區之見不但弗征其稅而已海船能載萬石者
止運六千許以四分載私貨回船悉聽帶監附載而
嚴私自下海之禁蓋恐侵其利也將使官民富饒樂
于海運自出方略以備不虞不至漂失萬一有之即
如漕船亦間有遇風而連數幫損壞者豈能保其萬
無一失之理哉所失之利甚少所得之利甚多後世
因占小便宜而失大便宜者衆矣可不戒哉客喜再
拜曰子畜海運之利其若是也沙民富而海之盜盜息
矣辦納省而農之田耕穫矣運卒休而衛之行伍實
矣南北貨通而物價不至于湧貴官民船使而漕河
不至于擠塞水戰習而足以制東南之夷民力寬而
足以備西北之變若更省漕卒十萬以實北方之地
利積餘粟數年公減南方之網運軍民富庶上下安
樂

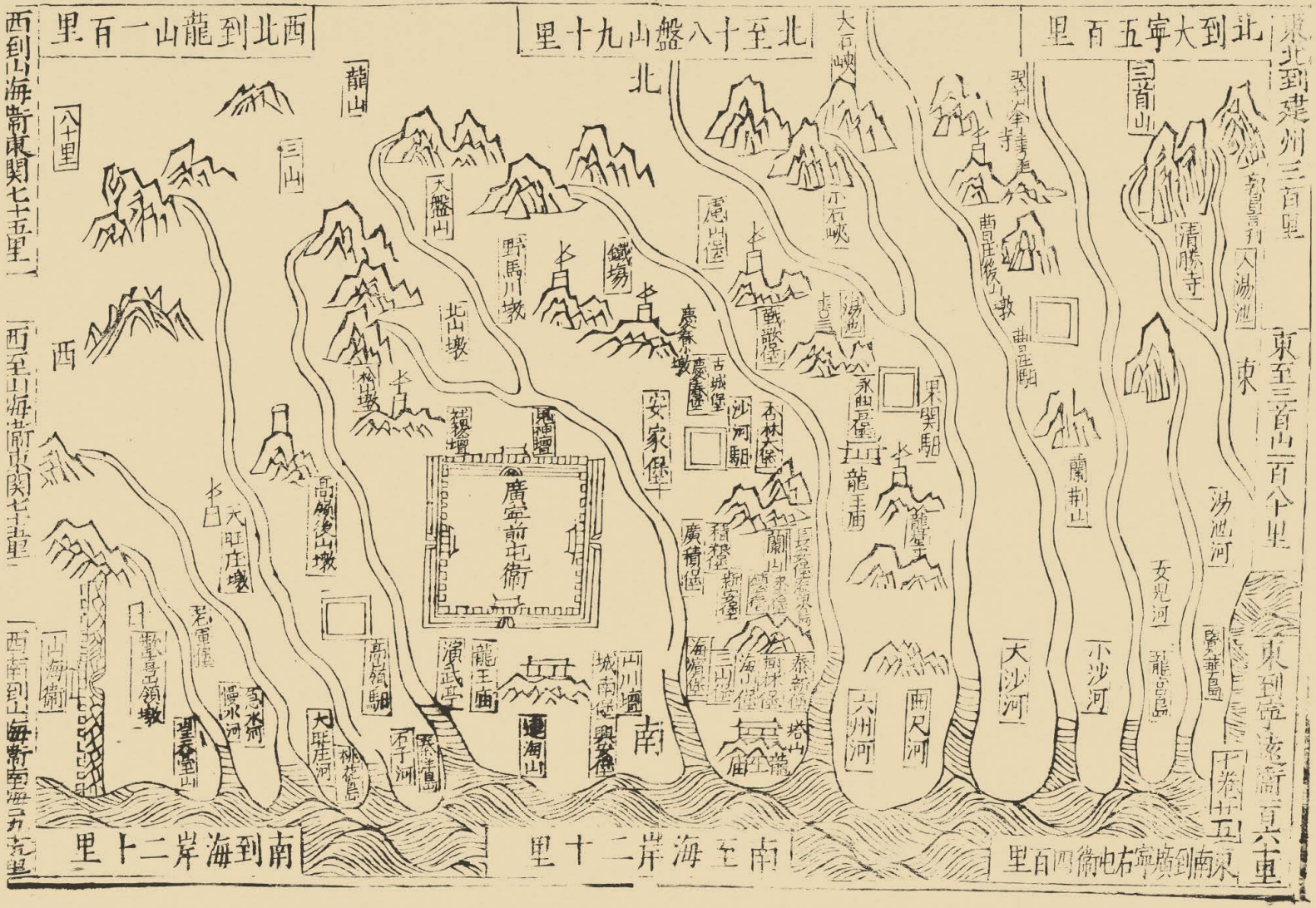

臨洮
平番山
蒙古行營
五里一墩
西金山
東金山
古城堡
三萬衙
青陽堡
鎮遠堡
鎮夷堡
鎮靜堡
鎮遠堡
鎮羌堡
大清堡
六馬堡
大平堡
大定堡
大定大衛
大勝堡
四中大定
建州
六州河
大交河
沒河
石屯河
珠子河
鎮羌堡
鎮武堡
鎮武柳河
沙頭驛
西平堡
西興堡
三岔門
東昌堡
渭河
長寧堡
安山驛
洮河
洮州衛
岷州衛
岷州驛
古羅
熊州驛十八
五十驛
復州衛
五里河
洮水河
杓子河
鎮夷
臨
黃骨島
婆娑
新安
沙站
七卷二十
新安人
黃鉞

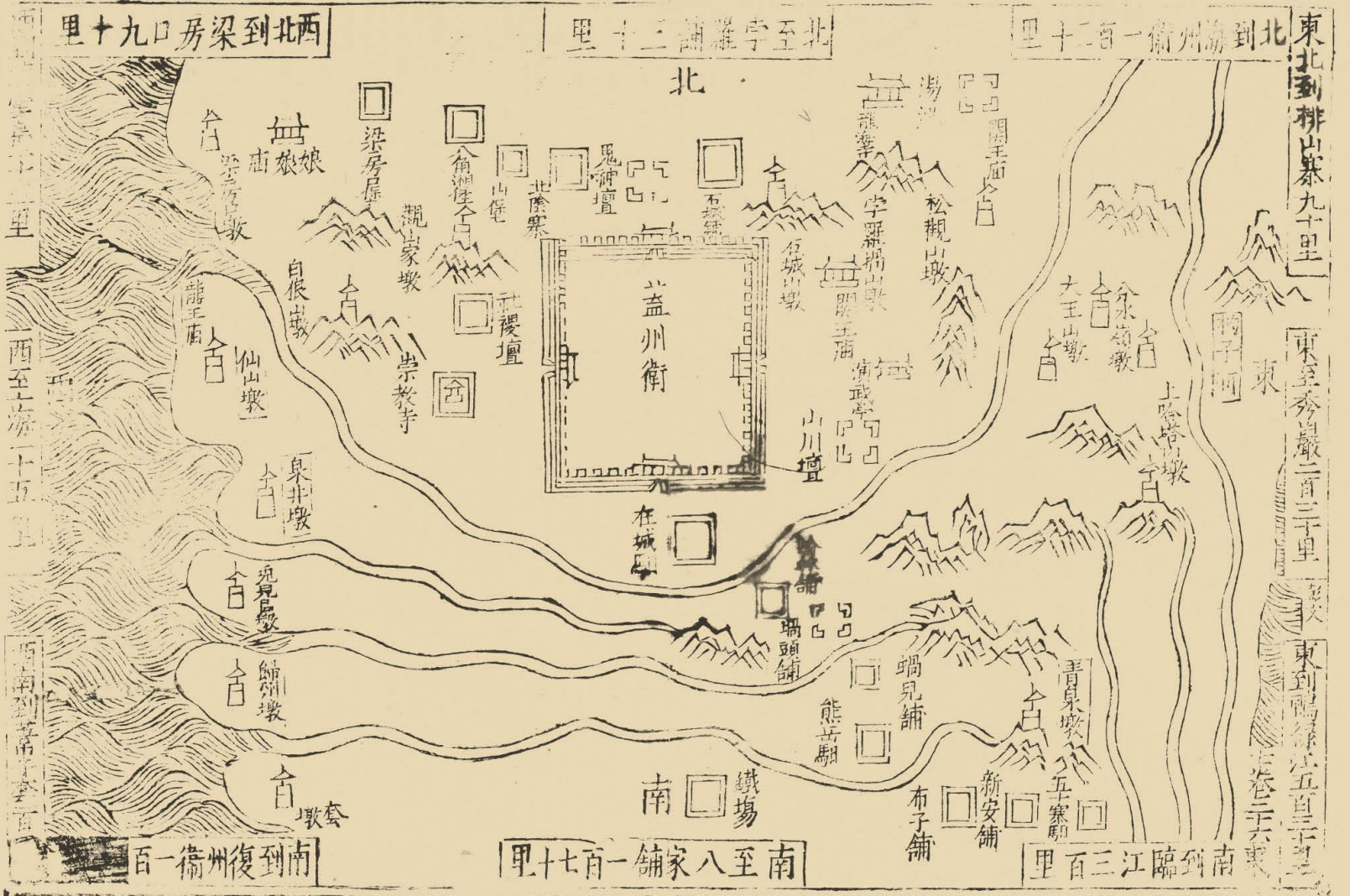
西北到義州衛一百二十里
北至十三山三十五里
東到廣寧衛一百二十里
西到廣寧中屯衛六十里
東至海岸三十里
西至大凌河二十五里
東到海岸三十里
南到海岸一十里
南至海岸三十里
南到海岸二十五里
北
十三山
柏凌河
鬼神壇
大凌河
黑林堡
社稷壇
廣寧右屯衛
大寧教院
大寧元
柏樹堡
東海堡
柏凌河堡
當鋪堡
山川壇
演武亭
西
南
東


西北到西河州九十里
北至驃騎嶺川州界六十里
北到川州婆峯山九十里
東至川州一百五十里
東至廣南衛醫巫閭山五里
西到洪中路一百六十里
卷十
西至牛心山邊界六十里
部目期
西南到
興平
大安河
興州
興州河
百佛堂
萬佛堂
萬佛山
萬佛河
百佛山
百佛河
驛山嶺
百佛橋
西山
西嶺
西山
城西嶺
西關
西關
城西堡
廣安堡
莊稼堡
廣安後衛
義州衛
城南堡
義州關
關王衛
關王廟
石房嶺
石房堡
八家堡
八柳河
開山
開山堡
開河
開河
南
南至廣寧中屯衛哈喇河界十里
西到海岸一百四十里
東
牽馬嶺關
東關
渭河
東關
杆頭山堡
杆頭堡
遼鎮堡
永清堡
塔山
塔山鋪
塔山
塔山南堡
塔山北堡
五里庄堡
開堡
西關鋪
三家城堡
大安河鋪
三山通鋪
東到廣寧衛三百十里
卷廿二
西到廣寧右屯衛一百二十里

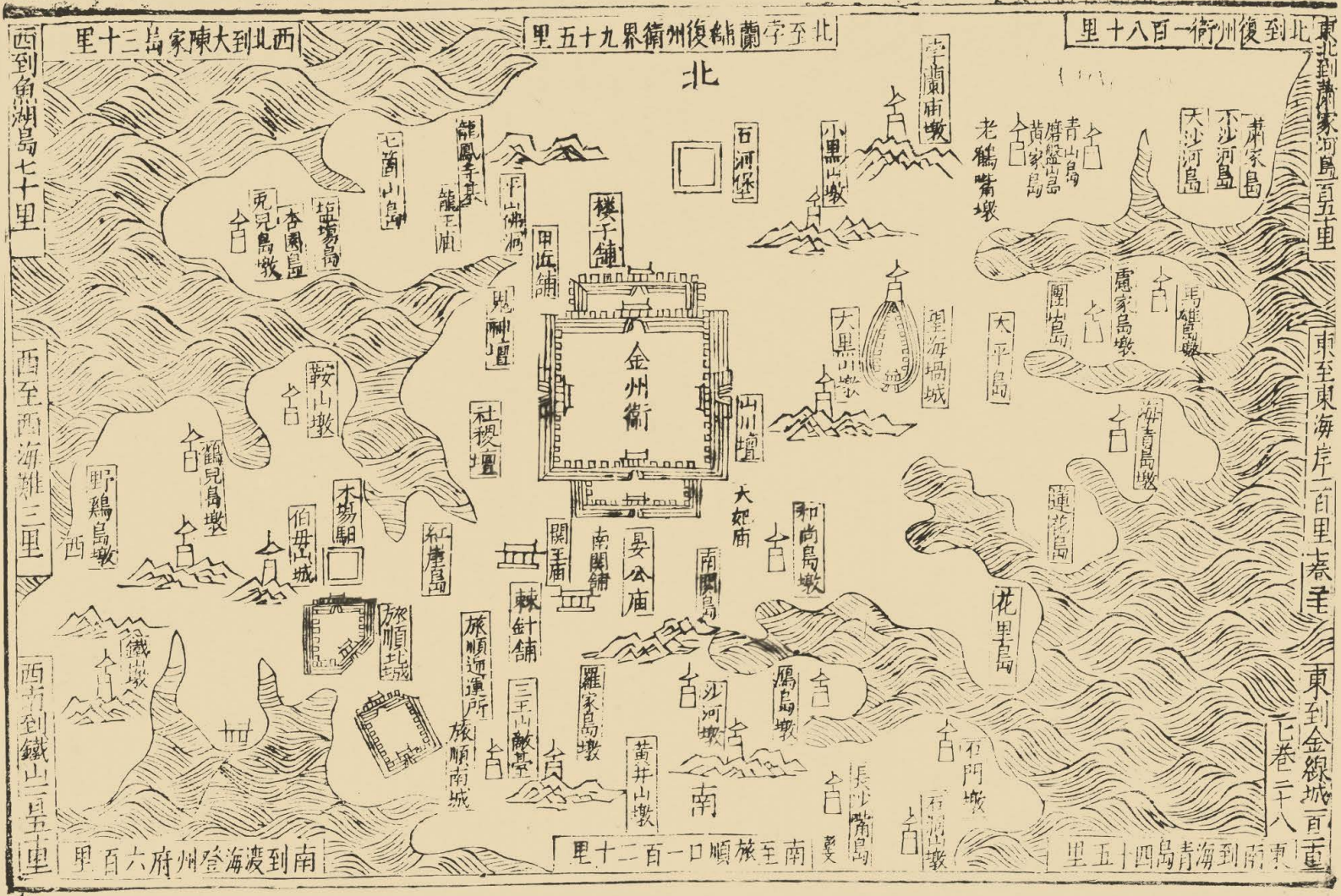
東北到義州衛九十里
北到興中二百二里
北至義州衛解山界五十里
西北到舊建州一百五里
西到寧遠衛百二十里
西至杏山驛四十里
西南到紅螺山九十里
南到海岸五十里
南至海岸五十里
南到廣寧右屯衛一百八十里
東至大凌河四十里
東到廣寧一百八十里
北
東
西
南
中屯衛
左屯衛
大凌河
小凌河
閭王廟
三郎廟
龍王廟
山川壇
左屯衛鹽場
卷三十三

北至松山堡四十里
北
北到柏州一百二十里
東北到錦州二百二十里
東至盛京廣寧右屯衛百里
東南到廣寧右屯衛百里
西至廣寧前屯衛四百八十里
西南到海關二百里
南到覺華島四十里
南至海岸一十五里
東南到海一十里
寧遠衛
東關廟
關王廟
火神廟
馬神廟
山川壇
龍宮寺
鬼神壇
窰河
小鞍山
梨山
中左所
連山驛
首山
後山
西陽堡
中右所
南沙河
東關墩
南荊山
女兒河
曹庄墩


西北到龍山一百里
北至十八盤山九十里
北到大寧五百里
東北到建州三百里
東至三百山一百八十里
東到海岸二十里
南到海岸二十里
南到海岸二十里
西至山海關東關七十五里
西到山海關東關七十五里
龍山
三山
大盤山
野馬川墩
北山墩
鐵場
慶春墩
古城堡
慶春堡
安家堡
廣寧前屯衛
鐵場
風火墩
高嶺鋪山墩
大旺庄墩
老軍堡
高嶺鋪
龍王廟
演武堂
城南堡
墨水河
大旺庄河
桃花島
石子河
長清島
望夫石山
山海衛
大石峽
小石峽
戰場堡
汤泉
永興堡
果園駅
龍王廟
龍堂
蘭山
蘭山堡
積穀堡
新堡
海口堡
三山堡
泰新堡
塔山
龍王廟
六州河
西凡河
大沙河
小沙河
三百山
清勝寺
汤泥河
女兒河
龍堂島
蘭荊山
曲庄駅
曲庄後小墩
梨木拳寺
賢華島
十卷十五
南到廣寧右屯衛四百里


西北到梁房口九十里
北至宇羅舖二十里
北到潞州衛一百二十里
東北到排出寨九十里
東至秀嶺二百三十里
東到鴈門關六百三十里
北
東
益州衛
梁房原
梁房口墩
娘娘廟
觀音堂
觀音堂墩
自狼山墩
崇教寺
仙山墩
泉北墩
鬼見愁墩
鮪州墩
套墩
北陵寨
鬼神壇
山堡
北城鋪
北城山墩
宇羅山墩
松觀山墩
關王廟
湯池
龍堂
關王浦
演武堂
山川壇
在城
在城鋪
碼頭鋪
熊岳驛
蝎兒鋪
鐵場
南
布子鋪
新安鋪
五寨驛
青泉墩
分水嶺墩
大王山墩
上陵塔墩
南到復州衛一百
南至八家鋪一百七十里
南到臨江三百里

東北到畢里河百千里
北到蓋州衛一百八十里
北至八家鋪蓋州衛界一十二里
西北到老鴉島四十里
西到西海岸四十五里
上卷 東至東海岸百四里
北
駱駝山
駱駝山墩
饅頭山
鬼神壇
花山
八家鋪
龍虎墩
得利瀧城
沙河
畢里河
明山
富堡
石碑
石家島
社稷壇
石家島墩
復州衛
遞運所
城南鋪
在城馹
晏公廟
龍王廟
古塔
龍王廟
北青海墩
鹽場
屏風山
官島
山川壇
卞古
鍋鐵山
卞古
沙河墩
卞古
濱武亭
秀山堡
平頂山
魏霸城
萬斯島
松山墩
卞古
橫山驛
臨溪堡
樂古山
樂古鋪
麻河鋪
樂古鋪
沙河鋪
石柱子山
長生島
塔山
娘娘廟
申島
香山
古城鋪
石河馹
南
南至古城鋪金州界一百二十里
西到金
西至西海岸四十五里


北
東北到蕭家河島百五十里
北到復州衛一百八十里
北至李蘭錦復州衛界九十五里
西北到大陳家島三十里
西到魚湖島七十里
西至西海雜三里
西南到鐵山三里
南到渡海登州府六百里
南至旅順口一百二十里
東到海青島四十五里
東至東海岸一百里
東到金線城一百里
卷三十八
金州衛
百河堡
樓子舖
甲店舖
龍王廟
社稷壇
山川壇
關王廟
南關舖
晏公廟
南關島
大妃廟
和尚島墩
蓮花島
花里島
太平島
望海堝城
馬鬱墩
海青島墩
靈島
大黑山墩
小黑山墩
老鸛嘴墩
青山島
磨盤山島
黃家島
蕭家島
大沙河島
小沙河島
龍鳳李家
七箇山島
平山佛洞
鬼神壇
李家島墩
兎兒島墩
鞍山墩
鶴兒島墩
野鷄島墩
伯母山城
木場驛
紅崖島
鐵山墩
旅順北城
旅順南城
旅順迎遠所
三王山敵臺
羅家島墩
葡萄山墩
沙河墩
鴉島墩
長山南島
石門墩
石溝墩

遼東兵防官銜

遼東兵防之設始于永樂己亥廣寧前屯衛至今百六十年矣蓋自望海堝之捷而後不敢犯者蓋百六十年矣蓼
堡關隘日就廢弛一旦有變寧不張皇矣乎安不忘危誠今日之急務也愚故詳錄之以俟當道者修復焉
爲亦愛禮存羊之意云爾

提督軍務巡撫都御史

鎮守總兵官

分巡遼海東寧道僉事

分守遼海東寧道參議

廣寧參將

遊擊將軍

鐃陽守備

備禦都指揮　金復一　廣寧前屯一　海蓋一
義州一　廣寧右屯一　廣寧城一

沿海衛所

廣寧前屯衛

中右所

中前所

中後所

廣寧中屯衛

中左所

廣寧左屯衛

廣寧右屯衛

中左所

金州衛

復州衛

廣寧前
關一
墩九 望海堂島 龍宮島 連海山 秦洋島
花島 望天島 歡喜嶺 大旺庄
廖春山

堡二十
古城 廣積 樹林 海山
杏林 永豐 海濱 興安
三山 秦新 老軍 錫安 新安
長安 城南 積粮
慶春 永安 安家

廣寧中左二屯衛
墩三 望海 孤山
新家

堡十六
時和 嘉和 樂安 當有
興穡 順陽 長豐 順寧
仁和 得安 永豐
廣盈 豐稔 西杏
福寧
南陽

廣寧右屯衛
關一三處
堡五 東海 枯菱河 常豐
枯樹 女直

金州衛 守墩堡官軍一千七百二十六員名

城四 望海堝 旅順南城
伯母山 旅順北城

墩三十六
雙廟 鷹島 石門 蕭家島 老鸛嘴
石洞山 馬雄島 大黑山 海青島 字蘭庫
鐵山 小沙河島
蓮花島 大沙河島
黃谷島 長沙嘴 青山島 鴉鵠島
盧家島 花里島 大羊島 七蘭山
野鷄島 沙河島 鵝兒島
團山島 和尚島 紅崖島

羅家島　黃家島　太平島　南關島
兎兒島　鹽場島

臺一　三王山

堡四　三淮　新寨　劉官寨　紅嘴
黃骨島

復州衛　守墩堡官軍六百四十七員名

城二　魏霸山城
得利灘城

墩九　龍王山　萬灘島　中島　長生島
松山　北青海　塔山　石家島
駱駝山

堡四　富川　臨溪　楊官寨　奕古驛

蓋州衛　守墩堡官軍二千四百六十四員名

墩九　韋子島　歸州　兎兒島　象井
白狼山　觀家山　神仙山　梁房山
遼針山

堡五　梁房口　中山　熊岳驛　五十寨驛
八角湖

義州衛

城一　鐵陽

墩四　塔兒山　三山　擦牙　城西

堡三　石家　八塔山　青榆林

遼地負山阻海屹然爲東北雄鎮北連沙漠而遼海三萬瀋陽鐵嶺之統於開原者足遏其衝西滄滇而金復寧蓋旅順諸軍聯屬海濱者足嚴守望即輸屏可謂固矣然觀今日備虜邊防頗爲有賴而備倭海防視爲虛文蓋自劉江金州之捷而海氛久熄自山東海運之廢而墩寨益廢於是旅順諸堡亦無復用識者謂遼東沿邊五路得分守參將援之規沿海衛所亦當如其制如旅順而西以金州蓋之二營河而南以蓋州轄之二營河而東以三岔轄之總兵撫按之統其責者秋汛以防邊爲重防海爲次春汛以防海爲重防邊爲次則雖島夷窺伺豈能遽犯哉

曾按遼東倭患較諸省稍緩所虞者地千餘里衛所軍旅將十萬員名山海關一線饋餉我

朝北都燕而遠漕江南實又自

京師達於遼陽飛輓不繼邊卒輒叫噪待哺萬一歲歉密邇

畿輔虜騎乘間何以禦之此其患不在兵之不強而在食之不足足食則兵強兵強則守固矣運者登萊運米達遼甚便惜其不多愚謂

國初軍屯商中之制至爲精當而大壞極弊司國計者深念而亟圖之可也

明少保新安胡宗憲輯議　前孫子庠生胡維極重校

孫舉人胡燈　舉人胡鳴岡　階慶　仝刪

嘉靖以來倭奴入寇總編年表

惠潮　漳泉　興福　温台　寧紹　杭嘉　蘇松　常鎮　淮揚

四月都御史朱紈遣都指揮盧鏡副使魏一恭等平双嶼賊巢李光頭就擒
五月築雙嶼港
六月許棟就擒

四月賊攻海州
五月賊寨攻揣安縣

十一月黎將沔克寬敗賊於下馬洋擒賊首鄧文俊以歸

閏三月都御史王忬遣黎將俞大猷等攻破烈港賊巢王直敗走

六月賊陷鄆鄲所

四月賊攻松門衛

賊犯定海官兵擊敗之

賊攻海鹽縣

賊犯海寧衛

賊圍太倉州

王直犯嘉定破南滙所

同知任環守備解明道敗賊於吳淞江口

港

湯克寬湯克寬攻破馬敗賊於蹟潭賊鑿子門巢王直敗走

賊犯杭州府把總劉

五月賊攻新河所

恩至追擊賊于舟峯洪破之

賊船昌國衛

攻海寧賊破吳嵩破尔淞所入浦所據之

解明道復昌淞所

七月賊攻寧海縣

賊首蕭顯入上海縣蕭顯據南汝

八月都指揮劉恩至擊直隸通賊於普陀山洋敗之

十一月湯克寬敗賊於高家嘴

十二月賊攻瀝

正月蕭顯自南沙道出攻嘉定縣尋攻上海

二月都指揮盧鏜敗賊於史家浜

僉事任璨敗賊於歸家港

三月劉恩至敗賊於三岳山

攻南匯所攻松江府

蕭顯自上海敗遁海鹽

都御史王忬遣參將戎[illegible]鏜追擊于卄里亭敗之

官兵平蕭顯於慈谿縣

賊據昔
陀山分
竄流却
內地

參將盧
鏜敗賊
于石墩
洋

四月參
將盧鏜
擊賊於
平湖敗
之

賊首王
直巢柘
林
賊入劉
家河

州判金
汝舟指
揮姜綰
大破之

攻太倉
州攻崑
山縣

總兵俞
大猷敗
賊於吳
淞所

賊攻蘇
州府
攻常熟
縣
攻松江
府

五月賊首何亞八等流突海濱提督侍郎鮑象賢總兵定西侯蔣傳討平之

六月賊犯金鄉指揮王希禹擊敗之

賊攻嘉興府

昆山知縣祝乾壽戮後衆將盧酋二大鐺追擊王各縣石整之圖解賊大破之

賊犯蘇州府

七月賊攻南匯所

八月賊攻嘉定縣

參將許國李逢時敗賊於師家浜

賊攻青村所南匯所金山衛

九月浙攻嘉興西之賊府分掠富山臨山滬海上

虞賊攻靖海衛

攻乍浦所

十月賊登盲湖頭渡

十一月賊入嘉善縣至湖州

十二月賊陷青賊復入村所嘉善縣

正月徐賊攻甬海自柘塘所

僉事董林來攻邪政攻乍浦所川沙窪平湖縣賊巢破崇德之

縣嘉善賊攻金湖衛

總兵俞大猷副使任環孫宏軾胥渤直

官兵敗賊於勝墩

賊入崇明縣

二月賊攻青浦嘉興村所府

指揮翁時擊敗之

三月賊圍上海縣攻金山衛

總兵俞大猷敗之

賊攻常熟縣

四月賊攻太倉所遂犯紹興海寧至嘉興府

巡按御史胡宗憲大破之於王江涇斬首三千

副使任環大敗之賊

賊攻無錫縣

賊攻海門縣

犯揚州府

賊攻餘姚縣五月賊攻鄞縣

柘林賊首徐海分踪出掠

任環破賊於陸

賊犯平湖縣

攻下浦涇壩既所
而復破
三灾浦
之賊

六月賊賊犯省城自杭
復犯餘杭州遁歸
城賊自平道出吳
鄉丘發子望復圍江之平
敗之嘉興取望
賊自親嘉善浙直官
海遁歸兵會擊
之王店

都指揮推官劉
王師追泉復大
敗之於敗之
霍山洋
叅將盧
鎧敗賊
於勝山

賊復巢
拓林
賊攻蘇
州府
常熟三
灾浦之
賊遁去

知州熊
俘敗賊
於登舟
汰
七月知
府方燕
用毒賊
巢賊死
者千餘
浙江提
督胡宗
憲遣都

十一月敗攻鎮

八月副使孫宏帥參將盧鏜擊賊于大陳山平之賊首林珦川就擒

九月賊巢舟山之謝浦

賊犯海鹽

司王愼敗賊於金山洋

柘林賊移巢陶宅

流賊五十三人犯蘇州

提督都御史曹邦輔討平之

七了港吳松江賊遁去海

把總楊尚英敗之

總督侍郎楊宜遣遊擊將軍曹克新副使任環攻川汝賊巢擊走之

東倭

參將盧知縣鄭鏜敗賊茂指揮於梁尉徐行健討平之

總督胡宗憲平賊于龕山

閏十一月賊也周浦

四川僉事熊希程率土兵攻敗之

敗退出縣

十二月副使譚綸等攻南鹿山賊於清風嶺平之

正月官兵擊賊於後梅大破之

二月賊圖海門縣

賊自徐海復集柘林

三月福清海口之賊遁至福宇州

叅將尹鳳敗之

官兵進柘林賊擊舟山攻下浦賊敗之所賊犯沈庄

董邦政平之

賊據蔡廟猖錫縣

叅政任環叅將喬荃討平之

賊攻無錫縣陰縣

賊攻江陰海口

叅將婁宇擊敗之

賊自七寶涇崇明踏缺南匯所等處登掠

遊擊將軍宗禮會事董邦政叅將婁宇敗之

賊入界蒲

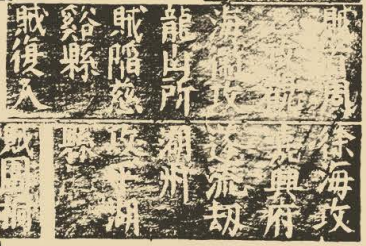
叅政任環敗之

賊犯西庵

董邦政平之

賊犯青村

四月福
清賊流
入樂清



五月賊
陷仙居
縣

把總王
應麟平
之

賊入吳
淞江

總兵俞
大猷破
之

賊攻上
海縣

把總劉
成已敗
賊於楊
子江

賊攻松
江府

總兵徐
海因
鐘進敗宗憲追
總兵俞之於史
大猷盧亭
鐘敗賊
於漁山
馬蹟洋
時洋鐘
復追敗
之

二月賊犯福州府

四月賊犯定海關

五月賊犯杨州山東兵

賊攻海門縣

海洋總兵鄔鏜追擊大敗之

於夏蓋陳東以山三江獻款明海洋復賊黨於敗之於沈庄徐金塘馬海就戮墓之間餘黨悉副使許平東望敗

賊於馬總督胡墓福山宗憲容洋

遣總兵鄔鏜擒賊首辛

九月副五郎於使王詢金塘山總兵俞大猷平舟山之賊

十二月把總張四維擒謝浦賊巢平之

十年

正月賊犯揭陽縣入蓬州所

二月賊賊入安賊攻台

十月賊攻連江縣

二月賊賊曹毛攻樂清烈烈擾開山寨捉

十一月總督侍郎朝宗憲誘賊首王直入定海閩擒之

都指揮戴冲霄擒王直餘黨陳秀山等

十五

賊入寇應縣

六月副使于德昌大敗泗州之賊參將盧鏜敗賊於揚子湾頭追至廟湾平之

十月賊自漳州如饒平入黃岡民鎮據之

五月賊攻泉州府入南安縣攻崇武所賊首洪擇珍據浦浯嗾分踪入掠

攻惠安縣

海城縣

金事盛唐敗之縣

賊踞清縣攻興化府

攻鎮東衛

金事盛唐敗之

八月官兵平山賊巢

二月賊闖揭陽縣

食事經彭宗大敗之

三月賊攻福平縣

賊安挑攻福平清新山何家塘

明福安縣

彭宗門禦所賊犯榮清

副使譚綸討平之

賊巢象山

賊犯定海

四月賊攻樂清縣

五月黎都指揮將王麟唐順之等敗賊於白峯頭

賊襲松門衛城

副使譚綸大破賊於洋嶼浦之

黎將尹賊老就擒鳳敗賊副使劉賊卅沉於閩安存德敗

賊犯崇明縣

總兵盧鏜先擊敗於海洋既而賊據三沙

賊犯如皐縣

都御史李遂大破廟灣之賊副使劉景韶討海安之賊平之

賊於石
所庄又
進敗之
於猫頭
洋青門
洋俘斬
數百餘
賊復屯
海游存
德悉俘
斬之
攻桃渚
之賊泰
將戍繼
光一破
之于章
安再破
之于亶
埠敗遁
之屯柵
浦之賊
簒海門
衛城登
陴副使
譚綸參
將戚繼
光戰敗
之追捷
于新河
再敗于
南湾遂
盡殲之
共斬首
千餘

九月賊
自福建
流入浙
境

七月副
使劉景
韶參將
丘杲敗
賊於舊
場

八月副
總兵劉
顯會克
新敗賊
於白駒
場

賊遁山
寥南嘴

蘇松兵
備熊桴
敗之

十月賊首詐老攻海門所

指揮孫敬與南舟士月莫春等擊敗之

賊犯潮陽縣

指揮李洪通判翁彥鯉敗之

二月賊

正月指揮武尚文敗賊於南洋灣

二十九年

十二月都御史王詢大破上涇之賊

十月賊復遁往福建

指揮盧鎬追敗之

誅王直於杭州

官兵大破之俘斬八百有奇

四月貢事舟遇大敗潮州之賊俘斬三百六十

三月賊攻平和縣攻大金所

五月賊敗遁

叅將王麟追賊之於剌嶼尾

武貢徐老計西溢等三千餘人恣掠至海中七月賊首就

突入走馬溪把總徐
旆敗之

八月賊入安溪縣

正月賊自安溪流犯長泰同安縣

百戶金
張典史
葉露擊
敗之

四月賊與犯和
犯馬巷港
汰坟

總兵盧
鏜擊敗
官兵大
敗之
僉事唐
尧臣敗
賊於新
河所
參將賊
繼光敗
賊於台
州府

賊犯台賊犯天
州府 台州府

縣攻詔安縣

閏五月復攻寧化縣

賊犯新河所

總兵盧鏜副使

賊犯折頭

王春澤敗賊于

賊犯姚

乘村

賊犯渚

賊道鄧

賊犯漳

礁洋至

賊犯嶺

山坑

總兵盧鏜追敗

賊犯長

之

汕

賊犯白

水洋

先後約七八年俱參將戚繼光一月之內前後十捷皆盡殲之斬首焚溺無遺全師而還

嘉靖十八年勾引　十九年　二十二年後

金子老—屯雙嶼港—合踪—子老歸福建
　西番人交易　四月　不復來

李光頭——　二十三年起—福建
　許棟合踪—分掠—
　二十二年　至二十七年—浙江

二十七年四月都御史朱紈遣
—就擒
都指揮盧鏜破雙嶼港擒之

雙嶼港之寇金子老倡之李光頭以島夷勇雄海上子老引爲羽翼迨子老去光頭獨留而許棟王直則相繼而興者也

二十二年興八
李光頭合踪

許棟—巢雙嶼港—坐遣其徒分掠—福建　二十七年四月
　　浙江　雙嶼破故也
　　不常　—敗走

六月與弟社武俱
—就擒
爲指揮吳川所執

此浙直倡禍之始王直之故主也初亦止勾引西番人交易二十三年始通日本而夷夏之釁門矣許棟滅王直始盛

三十三年入許棟　爲許棟領　二十七年許棟
脅馬船隨　爲都御史梁梳　三十二年
王直——入雙嶼港——往日本——攻屯列表——併陳思盼
踪爲司出納　貢使至日　所破直收許棟
本交易　餘黨自作船主

因夾開市不得　三十二年閏三月列
分踪入寇——走浙馬蹟潭
襲掠浙東沿海　表爲俞大猷所破

四月
分掠——陷昌國
犯定海
攻海鹽
破乍浦
犯杭州
入南滙
犯嘉定
據吳淞

馬蹟寬徙爲叅
敗走白馬廟——往日本——屯松浦　自此以後惟坐遣徒
將游克寬所破　黨入寇而不自來

就擒——伏誅
三十七年八月款　三十八年十二
定海關要互市　月奉
總督胡公遣人誘　詔斬于浙江省城
入見而執之　市曹

先是日本非入貢不來互市私市自二十三年始許棟時亦止載貨往日本未嘗引其人來也許棟敗沒直始用倭人爲羽翼破昌國而倭之貪心大熾入寇者遂絡繹矣東南之亂皆直致之也自胡公誘致直而海氛頓息縱有來者勦之亦易易矣

陳思昉—屯長塗——尋爲王直所滅

鄧文俊

林碧川—屯日本楊哥—入寇—攻遊仙寨—攻瑞安
二十二年 五月 四月

沈南山

五月 十一月 爲參將湯
入黃巖—攻鄧嶼—出洋—鄧文俊就擒于下馬洋
克寬所獲

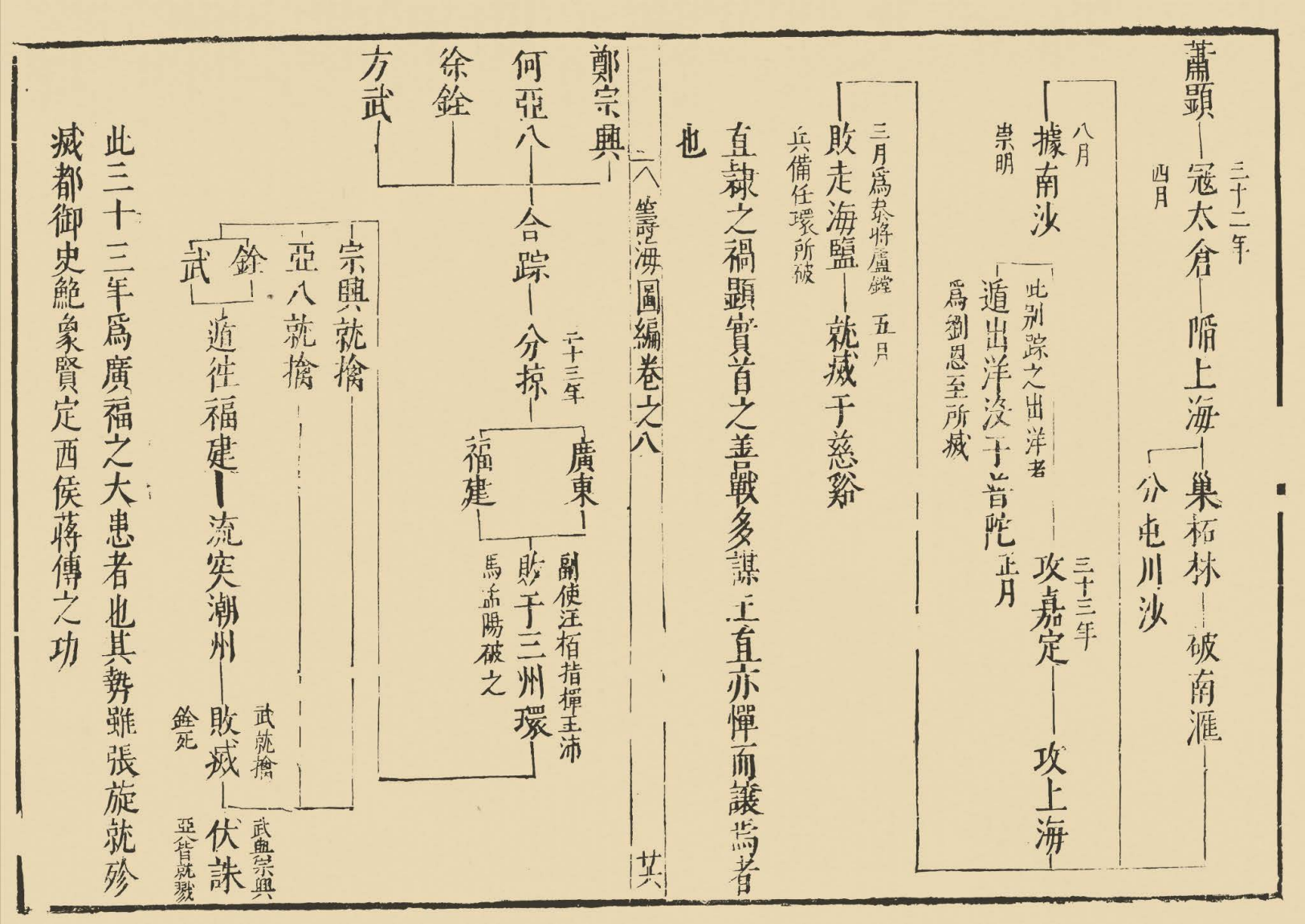
三十二年 十月 三十三年
巢柘林—歸日本—復巢柘林—分掠
四月 正月

—松汙
—上海
—金山
—青村
—嘉定
—太倉
—常熟
—崑山
—蘇州

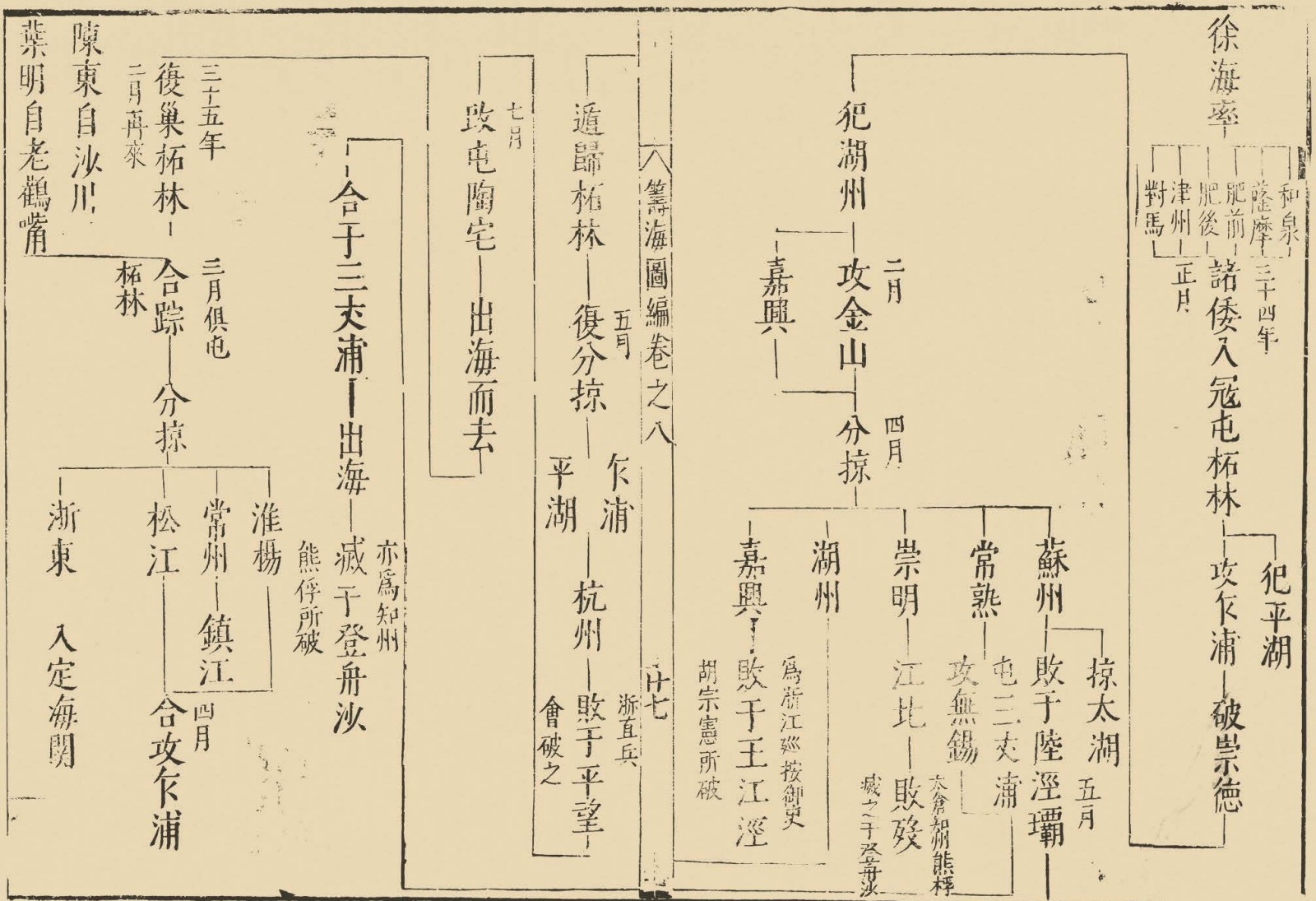
六月
復分掠—杭州—敗于平望—圍柘林
蘇州 浙直兵 會破之

九月
分掠—蕭山
臨山 爲把總任錦追
瀝海
上虞—出海—林碧川就擒
沈南山就戮
敗于大陳山

林碧川鄧文俊沈南山皆海上巨寇也三十一年浙直之禍林碧川實爲之首破黃巖得利遂啓辟盜貪心三十二年蕭顯繼出碧川與顯以次敗亡而徐海陳東又繼之爲浙直大患



此三十三年為廣福之大患者也其勢雖張旋就殄滅都御史鮑象賢定西侯蔣傳之功


徐海率
和泉
薩摩 三十四年
肥前
肥後
津州 正月
對馬
諸倭入寇屯柘林
犯平湖
攻乍浦
破崇德
掠太湖 五月
犯湖州
攻金山
二月
四月
分掠
嘉興
蘇州
敗于陸涇壩
屯三丈浦
常熟
攻無錫
太倉舸熊梓
崇明
江北
敗殘
滅之于登舟汰
湖州
嘉興
敗于王江涇
爲浙江巡按御史
胡宗憲所破
遁歸柘林
復分掠
五月
乍浦
平湖
杭州
敗于平望
浙直兵
會破之
攻屯陶宅
七月
出海而去
合于三丈浦
出海
滅于登舟汰
熊俘所破
亦爲知州
復巢柘林
三十五年
二月再來
合踪
分掠
三月俱屯
柘林
淮揚
常州
鎮江
四月
松江
合攻乍浦
浙東
入定海關
陳東自汰川
葉明自老鸛嘴

四月　五月

陷慈谿—攻餘姚—攻龍山所—周乙統擒
餘黨逃去

五月

圖桐鄉—分屯　陳東　葉明　李卷　徐海　新塲　合屯乍浦—滅于沈庄　八月總督胡宗憲平之

乙卯丙辰之亂海爲之首陳東葉明爲之輔衆至數萬總督胡公計殄滅之自此海氛漸息矣餘黨去皆沒于海蓋胡公佯與之舟雖縱之走舟遇巨浪輒裂故也

陳東率　肥前　築前　豐後　和泉　博多　紹伊　三十四年正月　諸倭入寇屯—攻南滙—攻金山—

二月　三月

入崇明—攻青林—圍上海—遁歸日本—

三十五年正月再來　與徐海合

復屯川沙—併入柘林—攻乍浦—圍桐鄉—

與徐海分　復與徐合

分屯新塲—合屯乍浦—滅于乍浦城南

與葉酬合　海爲授

此薩摩州君之弟掌書記首也其部下多薩摩人

葉明率—築前 肥前 薩摩 紀伊 攝多 豐後—諸倭入寇—屯老觀嘴—併入柘林— 三十五年 四月 正月

合攻乍浦—分屯新場—合屯乍浦— 徐海奉 總督胡公之命生擒來獻 就擒

駭勇善戰爲諸酋冠明既就擒海黨旗遂皆撈貳以至于亡

洪澤珍—巢舊浯嶼—攻福寧州—陷福安敗退出海 二十七年 四月爲參將黎鵬擊所破 五月 三月

餘黨屯海壇山犯漳州

此福建積年通番巨寇漳泉福興之禍連綿不已皆澤珍爲之也

二十七年

嚴山老　入安東城　陷福清　攻興化一攻惠安

攻泉州　攻崇武

松下新至賊　合攻鎮東衛　遁去　二十八年五月

海口新至賊

此亦月港積年通番巨寇也

二十七年

詳西池一屯月港嶺　犯揭陽　入蓬州所　爲副使林懋舉等所破　敗還月港

十月後　二十八年　三月又　十月

犯兢平　據黃岡鎮　遁去　圍揭陽　攻海門所　敗還月港

入廣東　三月　入廣東

爲倩揮孫　復入　爲典膳秦

敗還月港　犯潮陽一攻黃岡鎮　敗于南洋灣　金所破

敗所破　廣東

移屯赤寨村　分屯掃揭陽縣

分屯關望　蓬州所

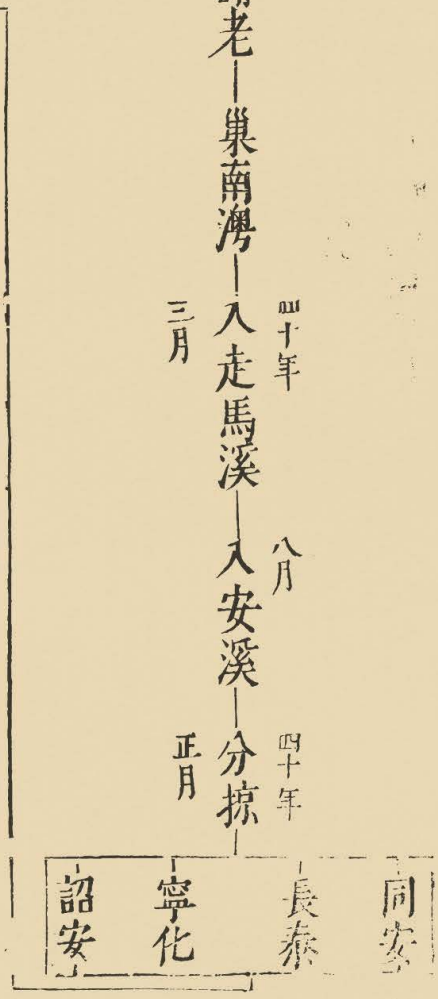
雲霧月新至賊　分屯掃湖

三十九年
移屯潮州貴山都
正月
分屯古埕
復回月港
出海溺死

此月港通番巨寇連年犯廣東而不解者也

三十九年
蕭雪峰
張璉
合屯大埔
三月
攻和平
攻大金所
出海

此賊三十九年始著名乃大埔洞賊入海爲亂者也



右賊凡十四踪皆昭灼人之耳目故詳列之其餘或入寇而姓名不傳或有名賊首而未嘗專主兵柄與夫事跡之未詳者不敢濫録也

明少保新安胡宗憲輯議　曾孫庠生胡維極重校

——孫舉人胡燈——舉人胡鳴陽階慶仝刪——

大捷考

望海堝之捷永樂己亥

王江涇之捷嘉靖三十四年四月

平望之捷嘉靖三十四年五月

陸涇壩之捷嘉靖三十四年五月

橫涇之捷嘉靖三十四年八月

龍山之捷嘉靖三十四年十一月

清風嶺之捷嘉靖三十四年十一月

仙居之捷嘉靖三十五年

乍浦之捷嘉靖三十五年七月

紀勳徐海嘉靖三十五年八月

後梅之捷嘉靖三十五年十一月

金塘之捷嘉靖三十五年

擒獲王直嘉靖二十六年十一月

舟山之捷嘉靖三十七年二月

淮陽之捷嘉靖三十八年

寧台温之捷

附平倭録

永樂己亥中軍都督府左都督劉公江總兵鎮遼東甫至即相地形勢請于金線島西北之望海堝築城堡立煙墩一日瞭者言東南海中王家島夜有火光計寇將至公亟遣馬步軍赴堝上小堡備之翼日倭賊二千餘人以數十海艘泊馬雄島魚貫而上直逼堝下一賊貌甚醜惡指揮諸賊如入無人之境公得報但令犒師秣馬畧不爲意徐以都指揮徐剛伏兵山下百戶姜隆率壯士潛燒賊船截其歸路約曰旗舉伏起砲鳴奮擊不用命者戮既而賊至公披髮舉旗鳴砲伏兵盡起爲兩翼而進賊遂大敗奔匿櫻桃園空堡中我師追逼環而攻之且請入堡勦殺公不許故開西壁縱之仍分兩翼夾擊生擒數百斬首千餘間

有潛脫而逃艘者復爲隆所縛無一人得免者諸將請曰公見敵意氣安閑惟飽士馬及臨陣披髮而戰追賊入堡不殺而縱走之何也公曰窮寇遠來必饑且勞以逸待勞以飽待饑法也賊始魚貫成蛇陣故作真武狀以鎮服之雖愚士卒之耳目亦可借以壯其氣賊既入堡有死而已我師臨之彼必死鬥我兵寧無傷乎故縱之生路而後掩擊之即圍師必缺之意耳事聞徵至京師面慰勞之封廣寧伯食祿一千二百戶子孫世襲

國家地廣治極文禔武嬉海壖姦商乘時盜販因緣忿怒轉爲寇賊民不覩兵爲日既久望風奔潰莫之誰何賊既連得利內附外連聲應氣合徒黨滋夥動以數千萬計又善用兵能以少爲衆所徵四方材勇懻忮武力之士率殲其手勢若烈火融融狡焉思啟蓋自壬子春更癸丑甲寅恣行轉掠戕殺燔燒叢萃藪窟新故環迭而兩浙三吳之禍變悽矣乙卯春柘林巢賊積增至萬餘人出掠嘉善諸處夏四月劇賊徐海麻葉等探知嘉杭兵調松江搗巢率衆數千人水陸並進聲言先攻嘉興次及杭時巡撫李公留守杭總督軍門在檇亭無兵可恃軍民洶洶甚懼御史

梅林胡公方巡浙東台溫諸郡得報連日夜馳詣嘉興會賊從嘉善來前驅迤邐薄城外衆益懼甚公曰兵法攻謀爲上角力爲下矧又無兵乃密屬吏取酒百餘罌鑽其顛投以毒劑塞如故載兩船選兵卒機警而猛者假寇服持赤牘坐船上稱解官解酒餉軍載向賊所從道見賊即褫去寇服走賊信不疑馳報諸酋長諸酋長得酒大歡相率高會痛飲率多死已又令材市酒家皆入毒甕中約償以直民所有米漬藥水浙而遺之賊往往爭取飲餒輒又死然賊黨尚衆我兵寡且恇怯適保靖宣慰彭蓋臣所領土兵數千人至可使胡公策其特勇犯忌使人傳語之曰賊善伏且知分合我兵常爲其誘宜分奇正左右翼擊防其衝圍蓋臣不聽乘銳直前果遇伏墮賊計挫於城南石塘灣始大悔遂有潰志遠近震駭大失望胡公深憂之曰如

是我技窮矣於是親詣軍營宣諭且勞苦之曰勝負兵家常事惡足介介凡爾所以債者以不知地利中其伏我聞賊酋多死衆絲梦無紀且久不得食息瑕可攻若等無畏顧兵多無衣與器械乃使人悉索諸質肆故衣頒給之加賜錢帛牛酒飲食召諸金木工畫夜繕造器具懸重賞苗兵感激思奮察可用乃指畫石塘地形曲折曰女宜以兵若干爲前鋒從塘路進若干爲奇兵伏道左水兵船若干環列道石防其逸皆後前鋒數里候賊將至某處前鋒迎敵佯敗走俟其過伏伏盡起三面夾擊庶不勝矣蓋臣如公策賊果潰敗北走平望平望故別有苗兵營賊不知會總督張公從松江兼程來視師而永順宣慰彭翼南復從

淞湖西出胡公又同督察趙公部署參將盧鏜等厲激之且躬擐甲冑徑馳馬趨出四面合圍軍聲遂大振賊大沮還走王江涇既連疲於奔又餒且病矧無統紀遂大潰不支士兵與我軍乘之斬首倭二千餘級墮溺水死者不可勝校蓋自是嘉興杭人始安枕軍民主客始知賊猶人非真若鬼神雷電虎豹然不可嚮邇浸有鬬志賊亦自是稍稍顧忌迹氣狂謀漸以虧朒始可誘而圖矣嗟乎奇變央而波才破洛澗襲而淮淝捷嘉山合而博陵奔蓋自昔禍亂之興必有忠義材武韜鈐之臣以指揮擘畫救寧戡定蓋天所以奠安維極綏輯神人鴻德好生常假手乎鉅公偉人實爲之詘云其果夔夔哉武進左子好論次當世事而謂故所收公私牘牒所載王江涇戰功淆無紀屬余詮次余爲詮次而歸之庶後經世者有考焉

都御史胡松撰

嘉靖乙卯夏五月官兵敗賊於吳江之平望先是永保之兵既皆失利賊遂肆意猖獗一西北入太湖犯常州一西南犯杭嘉湖其犯杭州者至塘棲二宣慰復失利賊掠北關去欲由蘇州入海道吳江之平望浙直鄉兵會擊之賊腹背受敵大敗走松江至三店我兵邀擊之斬首七百有奇中毒死者千餘人是戰也巡按御史胡公宗憲副使董士弘僉事王詢以浙兵至參政任環知府林懋舉以直隸兵至而三店則推官劉泉功居多皆不藉客兵之援由是而專任鄉兵之議興矣嗚呼客兵之用豈得已哉蓋彼之獷狡不馴非素有禮義之習我之恩威未洽難責以忠愛之心恤之過則驕操之急則變嚴敵不足以償其掠民之

害厚賞不足以彌其邀求之私前方城宗氏論之詳矣雖然寇攘起猝民不知兵慮客兵之禍而徒驅民以戰如投羊於虎是畏溺而避舟者耳故調客兵者一時之權恃客兵而忘練鄉兵者非經遠之策調客兵而練鄉兵可用矣而後酌勢之緩急敵之多寡以處客兵遣之則我無之用之嫌留之又有以制其互噬之毒我師梅翁之底定東南鄙外立戰勳內鮮兵變今日遣客兵數千而賊無玩心明日來客兵數千而民無懼色者用此道也彼謂客兵必不可用而又無練募之法者吾不知其所終矣

太學生 金鼇 同撰

嘉靖乙卯夏五月松江柘林之寇千餘人流突李塔滙歷張庄小崑山趨泖湖而北保靖宣慰彭蓋臣兵追之抵蘇州之陸涇壩顓離城十里而近兵備副使任環督兵擊之擒其梟帥俘斬五六百級水火死者不計其數盈阡陌委水爲赤殘寇僅二百人值暴雨追之不克遁歸柘林鳴呼往歲倭賊覘我無備揚帆深入視吾蘇不啻几上肉耳是提也論者皆謂我兵有死之心無生之氣而又益以蓋臣善戰之兵其勝宜也愚謂不然戰之日續親見之矣撫巡乘城督兵傳餐寇矢如雨自婁門以東達於陸涇壩我衆連呼戰者三日今日我任攻對敵所不損生以報者有如此日出是士氣百倍總兵俞大猷并二宣慰兵三路並進奮

勇夾擊遂收全功當是時使非任公身先督戰則吾不知民之僇力者何如使戰而弗勝則鼓寇之怒其慘吾不又知何如也抑陸涇蘇之東境也前此浙江巡按御史胡公宗憲有王江涇之提則蘇之南境後此提督都御史曹公邦輔有横涇之提則蘇之西境未幾任公復有三丈浦之提則蘇之北境一歲而賊四剿於蘇蓋自是而蘇無倭寇矣

嘉興山學人
本于續撰

嘉靖乙卯冬十一月倭賊自福建福寧州之連江洪流入浙境越平陽仙居至寧波奉化與錢倉賊合幾七百人深入紹興勢益滋蔓提督都御史胡公宗憲親督兵備副使許東望容美士目田九霄同知曲入繩等兵往戡之遇賊江橋僅隔一河公謂諸將曰賊見我不顧而南其氣未可乘若稍止觀望可圖也吾茲試之乃於馬上自持一幟作指揮狀賊果聚觀公笑曰此易與耳乃令兵渡河九霄遊其前入繩襲其後賊見兩兵迭至大怖而走至後梅居民家公復大笑曰賊若乘我兵半渡迎擊勝負猶未可量今已投死地復何能爲乃悉衆圍之三匝縱火焚之死者強半值天雨公與將士立田中夜二鼓大霧咫尺莫辨賊乘

黑衝鼎突其成器軍成器故善戰驅兵四面奮擊之擒斬復若干人然脫走者猶衆公計賊必由山西嶺而遁嶺之巔可伏也命設伏以待夜將半賊果至遂大敗之斬首及焚死者積五百二十有奇餘奔太平蒲岐港官兵復追之賊堅壁不出乃夜偏賊壘投以霹靂火器譟若劫營者賊驚起自相攻擊死者又若干人得脫者無幾竟出洋去丙辰春正月也時公新膺簡命未浹旬輒有奇捷如此

鳥程縣學
敎諭張
師撰

嘉靖乙卯冬十一月倭船三艘犯南麂之西麓提督都御史胡公預設海艦封守其門二船不能入揚帆而東其一西走我兵躡之沉其舟追入縣內相持八晝夜賊窘甚從山後竊划船遁去颶風驟回登劫大舉至三港守備劉隆千戶劉綱百戶張澄戰殁於陣賊勢復熾遂越金鄉趨台州以漸北向時公方奏樂清之捷會台州告急公笑曰寇來有三敗我皆得之不足平也初寇登平陽守將不循約束故得深入今台守譚綸干城之將且素受方畧賊玩踩其疆一兵法小敵之堅大敵之擒寇方得志三港其氣驕我兵方提於樂清其氣勁以勁乘驕如拉枯耳二客美兵精悍甲諸部萬里從征朝氣正銳但初未諳險阨今授

以布伏邀擊之法則爲全勝之技三遂命分道布截天台以南綸兵當之新昌以北客美兵當之綸兵逼壘而進以典史吳成器統部署爲前哨報効吏章延廩爲後哨百戶王世仁陳濠督徒卒伏於小江道左知事張東督鄉兵伏於顏坑諸處而又迎賊所向預置藥蜜藥餅餌之山是賊或中伏或中毒擒獲三十餘顆傷死者不計始悔入台州境十二月抵新昌知應台關有備去至嵊縣三界上舘嶺會客美兵陳而待田九霄以正兵當其前田九章援兵繼進左翼則留守王倫伏兵當之右翼則經歷畢儔伏兵當之指揮吳江率部兵遮賊後背夾擊且多張旗幟爲疑兵以撼賊勢賊四面受敵且戰且走我兵追之入清風嶺烈女祠俘斬一百七十餘是役也賊二百餘徒歷溫台紹三

部始克勦滅其敢於深入者猶恃紹興之倭欲與合夥迫越台州始知舊倭已破於是既畏譚兵不敢南復畏土兵不敢北卒至於敗如公所料云武進舉人吳嘉撰

仙居之捷 嘉靖三十五年

嘉靖丙辰春三月

朝廷以都御史胡公累建奇勳命以兵部侍郎總督浙直福建軍務會福建桐山之賊流逼浙境同知黃鈿指揮梅魁禦之賊潰圖北走公密令副使劉燧預伏兵塔石蕉浦諸山叠險阨則潛置火器以待仍列舟師於山側之江濱賊至伏起殺傷甚衆遁由天門埭至平陽青田越小峙沿江而南遂入括溪荆溪通倘居樂清之孔道也時臨海天台葉已受公計集鄉兵守黃潭箬孔中渡由是賊不得犯寧紹由烏抗西入仙居乘城築未完衝突焚劫倏倍他地乃咨提督都御史阮公鶚馳救之復行副使許東望知府譚綸總兵盧鏜兵從東路而進賊聞大兵且至遂走斷橋

彭溪巢於民舍我兵合圍攻之俘斬三百餘級焚溺死者無算所存六十餘人取道天台之北復爲赤城民兵所殺是時浙東西硤石梁湖之賊各萬餘人俱薄會城魁渠難制江南北新舊屯據者數亦逾萬公以一身寄諸藩之安危以一心當百萬之兵甲隨機督勦算無遺策直隸有寶山之捷兩浙有西庵清水窪之捷而桐山流寇亦旋就殄殲謂公今之子儀非耶

嘉善顧通
謝顧撰

嘉靖丙辰秋七月賊徐海陳東之解桐鄉圍而東也陽爲
懾撫心實狐疑自吕港新場移屯乍浦城南營廠絡繹改
脩舊船以爲出海且窺伺我兵強弱爲其進止總督侍郎
胡公　策知其計因外示羈縻而密檄副使劉燾協之會
尚書趙公　再
命督察至公乃與定議以乍浦西南海塘可通杭州咨浙
福提督都御史阮公　倩郎中郭仁副使徐洛總兵徐珏
等壁海鹽以遏犯杭之路東北金山可通松江浦東咨直
隸提督都御史張公景賢駐松江而參政任環僉事董邦
政留守王倫同知熊桴客吳主官田九齊等扼青村黃浦
及出海之路公親督大兵與參政汪柏參議王詢等駐平

湖與賊偪壘而陣總兵俞大猷盧鏜等則以舟師設伏洋
山馬蹟邀其歸路分布既定候間而發適上海之賊由吳
淞而西南出復萬餘人公恐海或中變與之連衡急嗚海
使東出擊賊可得舟還島海以爲然果逆斬賊數百賊遂
夜走以故海不及取其舟而返其他脅長脫出海者公已
別遣大猷伏飛艦海上邀擊之溺且盡公又計海書記麻
葉不死無以堅其內附之心而陳東者與麻葉聲相倚桐
鄉之役與海相匪眡者也於是又計令海縛麻葉縛陳東
以獻海遂併有其衆而諸酋長則疑且怨海矣海日度進
退無所而趙公箋薄貢海益急公因遣諜私海令其誘衆俘
斬之以謝可無罪海不得已從之遂與定約（與前縛麻葉陳東等俱詳見鹿門茅氏所爲剿徐海本末紀）公乃令副使劉燾引遊擊尹秉衡兵夜

伏乍浦城中而徐珏等兵分爲三哨進壁白馬廟左瀕等兵出平湖間道而出主薄曹延慧參將丁僅等壁乍浦城以爲內援至期珏等移營乍山海果挈妻走海上艘群倭尋逐之大亂城上舉火我兵四合兢進大敗之燒賊巢廠二十餘里時海執稱歸順投梁庄去諸遁出海洋者大猷兵邀擊之前後俘斬七百有奇沒海及焚死者無算乍浦之賊無孑遺矣夫徐海以首惡煽禍而陳東麻葉等爲之猗角勾引外夷侵擾中土受其螫毒者五年矣丙辰春擁衆數萬分道入寇北犯瓜揚阻絕運道東掠寧紹牽制我師聲言欲下杭州犯留都比之曩時猖獗尤甚公相度機宜不輕與爭鋒捐千金賞敢死之士用間誘退吕港賊艘以伐其深犯之謀復誘令殺賊立功以剪其羽翼之勢擒

麻葉擒陳東度其孤危可以取矣猶謂困獸死鬬乃故弃船海濱開一面之缺而卒以遊兵邀之無一得脱者後先下着不爽纖微島夷之所以畏服而東南之所以奠安者不以此哉不以此哉（餘姚舉人諸大圭撰）

紀剿徐海本末

嘉靖丙辰徐海之擁諸倭奴而寇也一枝由海門入掠維揚東控京口一枝由淞江入掠上海一枝由定海闕入掠慈谿等縣衆各數千人而海自擁部下萬餘人直逼乍浦而岸岸則破諸舟悉焚之令人人各爲死戰又導故寇柘林者陳東所部數千人與俱併兵攻乍浦城蓋四月十九日也當是時

朝廷方奪故總督而新總督胡公自提督代之甫八日間徵四川湖廣山東河南諸兵俱罷去所爲緩急者特容美土兵千人及黎將宗禮所藉河朔之兵八百人耳南北諸倭酋不下數萬諜者聲言他酋分掠於江

淮吳越諸州郡間以扼援兵而海等當窩乍浦下杭州席卷蘇湖以脅金陵氣恣甚總督胡公方召諸司畫計無何故提學阮公代胡公爲提督檄未至夜半聞乍浦圍急甲趣之胡公亦分遣兵澉浦海鹽之間爲聲援而自引兵壁塘栖相犄角居頃之海鬧新總督胡公即故御史所嘗提兵督戰於鶯湖王涇之間而覆之者氣稍阻尋罷乍浦圍聞兩公方擁兵壁近郊不復敢窺杭於是徑略峽石越皂林出烏鎮以北烏鎮者即海故所犯蘇湖舊路也當是時胡公既獲諜度蘇湖之間惟鶯湖爲四戰之地於是檄河朔兵自嘉興入駐勝墩陣而待因以吳江水兵遮其前湖州水兵尾其後而公自引兵壓下募卒及容美土兵衝

擊之提督阮公自崇德聞賊且出烏鎮也即道挾湖
朔之兵騎而馳及之於皂林令善射者且躡且射賊
稍稍引去賊縱數百人嘗之輒又敗去賊怒甚鼓噪
而前提督阮公勢皇急於是走輕舸入保桐鄉而衆
將宗禮與裨將霍貫道等乃自張左右翼厚集其陣
以待戰數合擊殺數十人會日暮賊且引去時賊氣
頗窘而宗禮霍貫道等亦已絕嚮道不得擇善地便
水草以自休止明日餓而戰賊遣候者樹而望蓋孤
壘以墊無他援者也大喜復縱兵以半擊其前以半
繞其背而霍貫道河朔故驍將也大呼衆力戰矢砲
如雨下無不人人一當十復擊殺數十百人而貫道
亦手刃十餘人賊益怖海且中砲欲馳去會火藥

盡霍貫道向宗禮仰天呼曰吾兩人再得藥數斗可
以了此賊矣未幾貫道與宗禮俱陷衆大敗賊遂乘
勝圍桐鄉時總督胡公已引兵躡崇德聞之潛然流
涕曰河朔之兵既敗東南之事無復可支矣賊已困
桐鄉假令復分兵困崇德以劫我我兩人譬之抱石
而自沉也
國家且柰何於是還省城檄諸路兵爲戰守計先是公始
爲提督時嘗與監督趙公謀曰
國家困海上之寇數年於茲矣諸倭奴乘潮出沒將士所
不得斥堠而戍者人言王直以威信雄海上無他罪
狀苟得誘而使之或可陰携其黨也按部題亦嘗有
用間爲策者於是遣辯士蔣洲陳可願及故嘗與王

直友善者數輩入海諭直直果感悅願如約遣其養子毛海峰款定海關謝過聞以諭海海已勾薩摩諸島人入劫故不相及而海峰者云云彼固未之聞也胡公策曰直與海雖順逆不同其勢固脣齒也直既悔悟海獨不可以大義說之乎不然彼貪人也誘之以利或可徂其心聞桐鄉城小而堅綏之數十日則永保戍兵至固可破之矣於是疾走人諭海峰因厚遺諜者陰過海所曰直已遣子款定海關

朝廷固且赦之矣若獨無意乎新總督威名非曩時比且仰體

朝廷德意推心置人腹若不乘此時解甲自謝他日必爲虜矣海頗然其計於是亦遣酋自謝約罷圍去因以

要公稍出中國貨物遣他倭酋而疏釋其罪公佯諾輒以銀牌綺幣厚遺來謝酋而陰令營中盛兵容私諜者故縱酋瞰之酋既德公遣叉內柿公之兵威也歸以報海明日復遣他酋來謝公視之如初凡數復海於是始歸心於公願爲公死之矣然陳東獨心切疑海私公遣猶執執未之從也海間遣酋次桐鄉城下私城上兵曰某已聽總督胡公約解去矣城東門故柘林賊陳東黨也鴛悍不吾從若當謹備之是夕海果道崇德而西且乞他兵於公以夾擊東胡公猶心訝未之許而東獨盛爲樓櫓撞竿以撞城而桐鄉令金燕者疆幹吏也城中一切兵仗火藥諸已繕備提督阮公復躬厲矢石徇城上人下令散千金募敢

死之士督戰益亟所殺傷賊亦數十人方撞竿自樓
櫓中躍而撞城城幾壞一男子爲縋索圍撞竿所擊
故窟處竿至即縋挽以上斬之又募冶者煮鐵汁灌
城下賊城下有不敢逼東既無何聞海等解去道遠
勢且孤亟益稍稍引去圍始解而提督阮公出矣
時五月一二日也方阮公因桐鄉時固日夜望總
督胡公援兵之至而胡公亦重念東南之安危身之
禍福與[illegible]相旦暮情固急業已遣兵俾劉公督同
留守王倫宣撫田九宵勒兵自嘉興入壁烏鎮參將丁
僅勒兵自海鹽入壁王店指揮樂墳督同千戶羅天
與勒兵自崇德入壁石門又令崇德令崔近思收河

朔之散卒入城爲聲援兵四面環賊遠者二三十里
近者十餘里而陣然各以狃皂林之敗逡巡煌怖不
敢逼而公業遣諜鬻說賊亦日夜望永保戍兵之至
以決一戰也計無可奈何而胡公與阮公兩人者爲
同年故深相結者及援兵不合阮公自圍中頗急於
是兩相猜而他謗者與爲飛語撼兩公者盈道路矣
當是時
朝廷開東南之寇即日出尚書趙公督山東河朔諸兵援
之於是日夜引兵而南至揚州則阮公業已出桐鄉
圍東渡錢塘狥會稽諸下邑擊他賊胡公亦聞尚書
趙公之至且戰且南淮揚毘陵之間無足慮海爲巨
孽閒雖狃而內附中固不可測而上海之賊萬餘人

由吳淞江西引方急廼遣諜者喑海以金帛而說之東出海上擊他賊海亦果收諸倭酋出乍浦道平湖時諜報吳淞江之賊已鼓行涉嘉善界欲西合海公念海萬一卒他變兩相合柰何因策海始已焚舟爲深入今不得舟必急於是遣諜詷海謂海既內附何不如故約勒兵擊吳淞江賊且慕奪其輜掠舟以歸海果然其計卽日引諸酋逆之朱涇道上斬首若干級餘賊遂夜走以故海不及慕奪其舟而還及他酋脫而出海也公又別遣總兵俞大猷伏飛艦海上遮擊之溺且盡於是海旣德公不敢背又聞吳淞江賊之出爲海兵所遮擊盒內怖日輸款於公遂輦故所戴飛魚冠及他堅甲名劍數十種並以輸公而間

遣其弟洪入質於公公固佯納之公又諜聞海麾下獨書記麻葉爲長酋其爲人頗黠而悍近與海爭一女子有微郤非用間急縛之則無以死彼之內附之心於是遣諜就海帳中諷海縛麻葉以出麻葉出而諸酋中故隸麻葉部曲者稍稍怨且懼矣怨且懼恐生他釁則又以他罪縛酋幾百餘人公又策陳東於諸部曲中與麻葉聲相倚頓以桐鄉之役兩睚眦者也數遣諜持簪珥璣翠遺海兩侍女令兩侍女日夜說海并縛東海間諸而陳東者薩摩王弟故帳下書記酋海固未之能也於是出麻葉囚中令其詐爲書於東及兵賊殺海且書故不以遺東陰泄之於海激怒之使并縛東海讀其書涕雙下盒德公之不忍爲

東所賊殺之也日夜謀縛東以報公於是出所故藏中國貨物千餘金賂王弟許請東代署書記海因得東即縛以故約復於胡公麻葉與陳東相繼縛而諸酋長洶洶內亂矣是時諸酋長既疑且怨海無關心故其氣日窘海亦自度縱令反故島當亦必爲諸酋長所賊殺故爲內附日固而督兵者簿責海益急海既急因念欲掠舟出海恐爲海上兵所劫欲刻壘拒官兵又業已內附不忍背且陳東黨固日夜襲殺之也公策曰彼既亂吾可乘之矣因遣諜私海曰我固欲寬若趙尚書爺以若罪孽大何不聽我贖數十艘海上若且誘之逐海上艘令停斬千餘級以謝趙公而若因得以自完乎海不得已且疑且諸因約兵

備副使劉公引兵伏乍浦城中而某日時某當引衆出海岸去乍浦城半里而陣佯令衆酋逐海上艘某于旗麾之城中官兵即舉燧爲號從城中出亟擊勿失諸官兵卒如故約乘之諸倭酋逐海上艘如蟻不及還兵鬬於是諸官兵得乘勝躡而前不傷一卒所俘斬數十百人沒海者無算於是海自以數有功於朝廷願與部下諸酋長入款且庭謁胡公與尚書趙公提督阮公及巡按趙公並許之諜往復則以八月初二日然海猶恐閻設甲士埋之先期一日卒擁酋數百人宵而陣平湖城外自帥酋長百餘人宵而入平湖城中以求四公者計不許恐他變遂許海與諸酋長比嚮面四公按次指首呼天星爺死罪死罪海欲再

爲款胡公而未之識因顧諜諜目示之海復面胡公稽首呼天星爺死罪死罪胡公亦下堂手摩海頂謂之曰若苦東南久矣今既內附

朝廷且赦若慎勿再爲孽海復稽首呼天星爺死罪死罪於是四公厚犒遣之而出是日城中人無不洒然色變者海既出諸公者固已忿恚海之刻款猶冐而入屬彊脅無禮又不及如諜故所期月日而先日卒至也其習行槩歟若此於是闔諜不勒兵誅之他日必爲患計部下尚千餘人猛鷙難卽破永保兵猶迤邐遠道未至也於是佯令海自擇便地居之海果自擇便地得沈家庄卽傚沈家庄與居之是爲八月八日當是時衆復喧然譁公何不撲滅海不然且縱之出

海上令自解去顧豢虎以自禍也不知公固有待於是私自部署兵又日夜遣使趣永保兵來會兵未集

惡海驚禍且肘腋間因日遣諜詷海且啗海如曩時公因謀以語諸公曰吾聞善兵者垂其所之海與陳東黨業已深仇今合而兩附者迫故耳聞沈家庄故東西兩處而中綰河爲壑何不說海以西沈家庄居陳東黨而自擇東沈家庄以居部下酋乎諜以諭海海果如其言頃之永保兵至會海輸二百金於公市酒米公復以藥毒其中而歸之又令陳東許爲書夜遣其黨曰海已約官兵夾剿汝輩矣陳東黨果疑而夜伏邏卒東沈家庄道上瞰之適海皇急因令酋竊兩侍女出道上而急則因間道走幕府以自扎邏卒

瞰知之歸以報於陳東黨陳東黨聞之大驚即勒兵
墓兩侍女過海所罵曰吾死若俱死耳遂私相殉而
鬪海中殉衆大亂明日官兵四面合墻立而進保靖
兵先當之稍却河朔兵乘之又却俄而胡公擐甲厲
聲叱永保兵左右列大呼而入瞰壘下擊會風烈公
麾衆束千餘炬人各持炬縱火焚之海窘甚遂沉河
死甫食頃人人鷙而攫千餘首蔑斬殆盡矣中所故
飲毒首房黑色者凡三百餘人於是永保兵俘兩侍
女而前問海何在兩侍女者王姓一名翠翹一名緑
珠故歌伎也兩侍女泣而指海所自沉河處永保兵
遂蹈河斬海級以歸副使茅坤撰

籠山之賊自温州登岸蔓延於會稽經歷文其與戰于苧
竹嶺副使孫宏臧併軍門所調奇兵與戰于柝開嶺于翁
家村參將盧鏜與戰于斥嶺于梁衙賊乃敗走襲家畈百
官渡過曹娥江順流而西狡黠善鬬嘯聚孔棘初總督都
御史胡公 方在浙西勦川沙之賊移檄諸將竟未有能
殄之者至是親提大兵至欲斬不用命者以殉於是僉事
李如桂王詢指揮楊汞昌知事何常明典史吳成器等兵
併力追擊於瓜山戰三界戰毋婆嶺朱家湊賊遁蕭山之
丁村杭湖至陳家湾雖多所殺傷而凶燄愈熾公至撣地
形壁籠山之巔分諸將信地皆露宿以待時參將盧鏜戰

還公促明日再戰鏜曰士疲矣休養數日乃可公佯許諾
而密召親兵謂曰若曹豢養久未立戰功今賊將滅而諸
將首鼠不進萬一賊得脫此徑渡錢塘江柰何今日正若
曹立功之會能乘其不意而襲之賊可盡也衆皆踴躍請
効死已乃激令成器統之以進不數里遇賊死戰無不一
當十賊遂大敗循海而走登匿山坡堡內我兵四面奮擊
不得已登屋擲瓦礫下瓦盡繼之以槍槍盡接刀刀盡乃
下死守我兵攻堡破之悉斬首以獻時日且晡公喜謂諸
將曰此賊流突千里轉戰無慮數十無能攖其鋒者今一
鼓蕩平真
朝廷天威也命取賊心啖之選猙獰首級壯餘顆置案上
每顆爲飲一觥左右皆失色而公談笑自若也達旦諸營
方知破賊相率入賀公謂鏜曰再一二日何如鏜大欽服

乃定師而歸時乙卯冬仲既望也山陰縣學生員徐渭撰

辛五郎者寇徐海之偏裨也與陳東葉宗滿麻葉輩同巢柘林攻乍浦圍桐鄉毒螯吳諸州郡其志欲吞全浙窺留都勢甚猛也總督胡公欲滅之忌海與其黨既而海受餌爲我用擒其所惡陳東麻葉輩而遣其所寵以歸倭島五郎在焉公密令總兵俞大猷等分布海洋要衝截殺諸寇而五郎則責之盧鏜鏜接密諭時方對諸客食忽命治艦之金塘山客相顧莫知所謂鏜自乘福船令子相督率哨艇爲前驅次日至金塘瞭見北洋有大舟揚帆而南令哨船四散潛泊少選大船艤金塘之麓賊皆登岸鏜知其爲五郎也令哨船叢射之繼以鏡炮賊以手且搥且招搖者示勿攻擊招者示有所言也相乃颺言曰欲打話須去

爾兵器賊拍掌示無而呼一董一笙者一家之義乃倭語也有華人從寇者曰吾乃胡總督爺招安放回者也相問曰有牌驗乎曰有鏜招衆賊至舟傍慰籍之謂五郎曰汝既爲軍門所遣豈可慢乎請至縣款洽而津遣之遂延五郎同舟餘派哨船分載每載不過三四人多則不能容也五郎辭鏜厚加體貌五郎不疑宴至深夜鏜坐福船上層將臺待者引雙燈上梳俄而哨船蝟聚鏜問之曰如何相對曰是了五郎大驚請下哨船與衆夷同宿鏜曰諸令左右遮之穴梯而下至蓬戶外望維海而已五郎悟欲赴水死左右不許曰卧塌在地平下五郎度不能免浩歎就卧相縛之翌日入定海關乃知賊徒俱已戮盡即前夜起雙燈時也是了者乃復命也群賊死時皆不知軍門之謀僉訝哨兵敢行

候殺五郎亦自以偶遇盧鐵被執不知其出軍門也嗚呼
神哉後獻俘告
廟
天子賜鐵書獎公天下無不稱快云 崑山進士 王宇撰

王直者歙人也少落魄有任俠氣及壯多智略善施與以故人宗信之一時黠少若葉宗滿徐惟學謝和方純等皆樂與之遊間嘗相與謀曰中國法度森嚴動輒觸禁孰與海外乎逍遥哉直因問其母汪媼曰生兒時有異兆否汪媼曰生汝之夕夢大星入懷傍有彗冠者詫曰此弧矢星也已而大雪草木皆冰直獨心喜曰天星入懷非凡胎草木冰者兵象也天將命我以武勝乎于是遂起邪謀嘉靖十九年時海禁尚弛直與葉宗滿等之廣東造巨艦將帶硝黃絲綿等違禁物抵日本選羅西洋等國往來互市者五六年致富不貲夷人大信服之稱爲五峯船主則又招聚亡命若徐海陳東葉明

等爲之將領傾貲勾引倭奴門多郎次郎四助四郎等爲之部落又有從子王汝賢義子王激爲之腹心會五島夷爲亂直有宿憾于夷欲藉手以報及以威攝諸夷乃請于海防將官而劉之無孑遺者而聲言宣力

本朝以要重賞將官饒米百石直以爲薄大詬投之海中從此怨中國頻入內地侵盜直又嘗以扁舟泊列表參將俞大猷驅舟師數千圍之直以火箭突圍去怨中國益深且耽官軍易與也乃更造巨艦聯舫方一百二十步容二千人木爲城爲樓櫓四門其上可馳馬往來據居薩摩洲之松浦津僭號曰京自稱曰徽王部署官屬咸有名號控制要害而三十六島之夷皆其指使時時遣夷漢兵十餘道流刼濱海郡縣延袤數千里咸遭荼

毒而福清黃巖昌國臨山崇德桐鄉諸城皆爲攻墮焚燔廬舍擄掠女子財帛以鉅萬計吏民死鋒鏑塡溝壑者亦且數十萬計比年如是官軍莫敢攖其鋒但爲計狡謫每殘破處必詭云某島夷所爲也故東南雖知王直之叛而不知受禍之慘皆由直者獨總督胡公前按浙時見賊進退縱橫皆按兵法知必有坐遣者且賊酋來者皆直部落也而不聞直來其爲坐遣無疑先是閒使徽州收其母妻及子于金華府獄中至是出之豐衣食潔第宅奉之以爲餌而疏請以移諭日本禁戢部夷爲名其實注意伺察直也

上從之乃遣生員蔣洲陳可願乞正副使以行公以密計授洲等曰王直越在海外難與角勝于舟楫之閒要須誘而出之使虎失負嵎之勢乃可成擒耳又曰王直南面稱孤身不履戰陣而時遣禍稗雜種侵軼我邊圍是直常操其逸而以勞疲中國也要須宣布

皇靈以携其黨使窮髮皆知向化則賊之勢自不能容然後道之滅賊立功以保親屬此上策也洲等領計敬諾而行居無何倭酋董二被擒訊道直事甚悉與公所料不爽毫髮中外始曉然知狀于是

上以公灼見禍本降

璽書褒勞而閫外之事一以委公公得

旨規畫益密御史金湖陶承學交章請立賞格有能生設奇謀生擒王直者封伯予萬金部議從之

詔曰可嘉靖三十四年十一月洲等至五島遇王漵道以

移諭事漦曰無爲見國王也此間有徽王者島夷所宗令渠傳諭足矣見國王無益也明日直出客館見洲等椎髻左衽旌旗服色擬王者左右簇擁洲等心動坐論鄉曲設酒食相對情欵方洽洲等曰總督公遣洲等敬勞足下風波無恙直避席曰直海介臣總督公不曳尺纔寧而鞫之而遠勞訊使死罪死罪洲等曰總督公言足下稱雄海曲志亦偉矣而公爲盜賊之行何也直曰總督公之聽誤矣直爲

國家驅盜非爲盜者也洲等曰是何言與足下招聚亡命糾合倭夷殺人剽貨坐分擄獲而爲之辭曰我非爲盜者是何異于昏夜操罟以臨人之池執之則曰我非盜魚者爲君護魚者也雖三尺童子知其必不然矣直語

塞洲等曰總督公統領官軍十萬益以鎮溪麻寮大刺土兵數萬艨艟雲屯戈矛雨注水陸戒嚴號令齊一而欲以區區小島與之抗衡是何異于螳螂臂以當車轍也又曰總督公推心置腹任人不疑拔足下壽母令妻于獄中館穀甚厚則公之心事可知矣何不乘機立功以自贖保全妻孥此轉禍爲福之上策也直默然而罷乃挾洲等巡數小島而還而從此風聞外夷隨其顧指者頗少變而叛賈倚直爲淵藪者多有離心直始不安于彼矣初直聞母妻爲戮心甚忿欲犯金華及聞洲等言無恙又竊喜于是始有渡海之謀日夜集所親信者計之謝和等曰今日之舉未可冒昧以往也當遣我至親爲彼所素信者先往宣力以堅其心待彼不疑然後

全師繼進始可以遣直笑曰妙算也遂托宣諭別國爲名留蔣洲在島令葉宗滿王汝賢王汝同陳可願回至寧波詰之皆云宣諭未至時徐海陳東已擁薩摩洲夷過洋入寇矣今王直歸順先遣葉宗滿等投赴效力成功之後他無所望惟願

進貢開市而已公得報已揣知其計姑從所請疏上許之公喜曰虜在掌中矣先是海中倭寇敗沒有零寇百餘據舟山爲亂公遣葉宗滿等協助官軍剿之盡殲焉公疏

上功次犒賞有差王汝笑曰此何足賞若吾父至當取金印如斗大嘉靖三十五年三月徐海等果擁衆十餘萬寇松江嘉興諸郡甚急聲言欲下杭城取金陵勢張甚

公乃謀之王汝等以觀其意汝等初欲小試慇懃故甘心于舟山之寇至于徐海等正其所倚以圖大事者且欲速直來共濟乃辭曰是非吾所能辦須吾父來乃可耳遂留夏正童華邵岳輔王汝賢在軍門自以招直爲名與葉宗滿開洋去是年徐海等以次就擒事見徐海傳公恐形跡彰露委心留用王汝賢等撫摩若親子然葉宗滿兄弟並加禮遇時時對將吏士民曰直非反賊顧嶼強不一見我當有處也直聞公意指謂公誠朴可欺欲乘機以全親屬且未知徐海等敗沒以爲縱不如所料亦可與之應援得志而去遂決策渡海先遣蔣洲次遣王汝葉宗滿等率銳卒千餘執無印表文詐稱豐洲王入

貢先泊岑港據形勝分布已定直乃與謝和等慷慨登舟釃酒誓衆曰俞大猷吾當破之列表泊岸時須謹備之公當直未至時已度其有際讓調俞大猷于金山而以總兵盧鏜代之盧鏜者舊與王滶等從事舟山同飲食撫循倭寇備至直坦然不疑惟日聚羣倭礪兵及伐竹木爲開市計且索母妻子弟求官封時公計已定仍姑列狀

上請以安其心

上已知直爲釜魚智力俱非胡公敵乃顯

詔王直既稱投順邦俠倭同來以市貿爲詞胡宗憲可相機設謀擒剿不許疎虞致啓賊計公奉

詔秘而不宣夜馳至寧波城圖方畧咨調參將戚繼光張

四維等督諸健將埋伏數匝水陸要害星羅棊列魚鳥莫度乃以夏正等爲死間諭直曰汝欲保全家屬開市求官可以不降而得之乎帶甲陳兵而稱降又誰信汝汝有大兵于此即往見軍門敢留汝邪況死生有命當死戰亦死降亦死等死耳死戰不若死降降且萬有一生焉直拂然不悅而公與其所親信王滶葉宗滿先遣來見者連床卧因佯露諸將請戰書十餘篇于几案王滶等竊視驚悚夜半公作醉夢中語云吾欲活汝故禁不進兵汝不來休怨我也會糊其辭吐滿床王滶等漏之于直直始疑之又使其子潛嚙指血寫直書云軍門數年恩養我輩惟願汝一見使軍門有辭于朝廷即許爵屬相聚汝來軍門決不留汝藉令不來能保

必勝乎空害一家人耳又使生員方大忠往來游說直猶豫未決公以直執戀琴港已踰五旬察其心神終屬觀望乃開關揚帆示欲進兵直探知四面兵盛甚盛終無脫計且知徐海等敗沒孤立無援因嘆曰昔漢高祖見項羽鴻門當王者不死縱胡公誘我其柰我何乃曰部兵無統欲得王激攝之公知海上諸賊惟直多智習兵久雄異域得人心爲難制其餘皆鼠子輩毋足慮諸將亦云以犬易虎不可失也遂遣激往直乃桀然詣軍門時嘉靖三十六年十一月也公馳之付按察司獄乃集三司諸大夫參議曰王直始以射利之心違明禁而下海繼忘中華之義入番國以爲奸勾引倭夷比年攻劫海宇震動東南縉紳雖稱悔禍以來歸仍欲挾倭而

來市上有干乎

國禁不下賜妻子生靈惡貫滔天神人共怒問擬斬罪猶有餘辜公具疏

上請得

旨斬直于市梟示海濱妻子給功臣之家爲奴王汝賢葉宗滿俱從末減邊遠充軍王激出洋爲颶風所覆其餘從賊魚散鳥驚奔聚山谷公親督官兵掃除黨與皆絕

嘉靖三十九年二月兵部始以封賞之議

上請

詔曰大憝既除海氛已靖部議報謝徐徐何也朝宗憲可

太子太保都察院左都御史兼兵部左侍郎蔭一子錦衣衛副千戶其餘有功者陞賞有差

嘉靖戊午春二月總督侍郎胡公既擒獲元兇王直其餘黨泊舟山之岑港倚險列柵勢甚猖獗公命把總任錦指揮甘述宗等進泊江口之南都指揮李涇指揮張天杰等泊港口之北總兵俞大猷等以福船并叭喇烏八槳串綱船往來策應指揮周官土官彭志顯領大刺土兵由中路小河嶺入指揮楊伯喬唐鎣土官張　領鎮溪麻寮兵由右路碇礵入參將戚繼光率部兵由左路小嶺入而指揮楊永昌盧錡鮑尚瑾方昇通判吳成器等分道策應參政王詢劉燾副使陳元珂則監督之約期水陸並進直抵賊巢時都指揮戴冲霄先用火攻殺傷頗多公許全捷俱准首功禁取級以妨前進我兵踩屍而戰賊大敗奔舟忽港

側砲聲大震復擁衆登陸抄後死戰我兵後哨稍却前鋒四擊橫衝賊乃斂營固守公以夷酋德陽稱貢而來賊脅爲聲援可計而離也乃潛縱之令成器遣諜持信票數百入巢散其脅從由是賊勢日孤爲守益堅公又檄諸將曰賊所以負固死鬬者蓋春汛已及計有新倭可爲應援若哨擊稍疏必流突與合矣此非小利害也其督舟師預爲哨探之計無何果有倭船泊普陀小道頭參將張四維推官杳光遠等督兵且戰且逐至烏沙門外洋賊遂潰敗俘斬四十餘級賊走登烏沙懸山即朱家尖山也公策此賊與岑港之寇相距不遠陸路必由碇礵水路必由嶵礁門乃檄諸將設伏以待已而賊果由二處奔沈家門與岑港合舟公不得已親莅定海分遣將領各與官兵地福船由岑

港南口廣般山北口宣撫田世爵都指揮何本源等兵由馬鞍至張磯一由　寺嶺至三官堂一由小嶺至聚水塘進而以元珂四維往來監督又遣奇兵由天童逕搗賊船仍近巢半里許列一老營以壽居中調度參政胡宗憲防守所城督發糗餉剋期大舉時賊依山刱柵自衛火器頗多我兵陷陣先登者間多被害公復撤諸將從中逼壘而陣且示以哨伏應援之規更番迭戰以耗其火藥折其銳氣又令夷僧輩招之私語賊遂互相猜疑至持刀自擊我兵乘隙進攻賊衆大亂夜分縱火焚其舟死者無算余各奔巢我兵蹴之斬柵而入斬馘百餘級復奔柯梅嶺我兵追之火其巢廠賊勢窘甚遁出浦口四維與指揮朱尚禮等舟師追至俞山外洋見賊連艘而行遂以兵船

潛伏山下而以小艇嘗之賊果逐利來追伏兵大起夾擊之犁沉四舟擒其渠魁汪印山陳禮等斬首九十餘級溺死者不計王直之黨至是盡矣是捷也五哨之布公有成筭而大猷等參錯不進沈家門合踪公料敵如神而諸將不先事追擊至壓定海之設井公淵度圓機小挫不折能因敗爲勝日柰何哉嗚呼於是見公之心獨苦矣俞獻可撰

江北之有倭患自嘉靖乙卯始淮揚故多大賈富戶賊至屬厥以去自是歲以爲常丁巳夏賊千餘深入天長洌洲

神宗陵寢幾至震驚　廷議特設提督都御史而以豐城李公遂至即立什伍之法定援應之規練鄉兵嚴保甲設將官築城垣造戰艦爲水陸戰守之計賊知有備舡泊掘港者不敢登岸而去江北賴以無事已未賊萬衆連艘分道並入中外震恐時四月一日也公閱兵通州計賊若從海門西亭趨如皐則通州在賊外乃兼程趨通泰州而以副使劉景韶遊擊丘陞駐兵如皐以扼要害機各路兵進黃橋海安等處援應已而賊至益多我

兵迎戰挫其前鋒賊果出西亭知如皐有備遂由通州東趨白蒲鎮公計賊深入利在速戰戒海防等兵據丁堰東北堅持不出特東南風急我兵不便迎擊公額天以桑風即同連三日乃撥甲誓師斬不用命者八皆踊躍以進又計賊過如皐必由黃橋泰興犯瓜儀則糧運阻梗留都搖動若驅之富安以北沿海東出無能爲矣乃身當泰州之衝而以黃橋西路責景韶等賊求戰不得進據丁堰丘陞從河北縱火焚之邊兵衝入賊營毛勒盧兵復從南出首尾夾擊賊退也二十里連日接戰斬其金塩賊首一人且且賄我兵少卻賊進至如皐公計其必奔揚儀趣與海防遊擊兵從間道越過賊前徑趨泰州若以爲西路之防其實於泰州待敵也孰賊黨

潛入城爲內應者賊未至三十里輒從富安沿海東出我兵追躡賊後公戒毋輕戰晝則逼令不得久駐夜則退屯以防衝突公親提大衆馳淮安馬邏之間約與諸將夾擊於廟灣賊覘知之分其衆一由西亭一由白蒲丁堰以牽制我師公令景韶陞專擊二賊而身赴淮安以當大敵丁堰流賊至曹家堡與我兵遇逐北至潘庄全夥覆沒公至淮安而總督侍郎胡公與視軍通政唐公順之亦提青沂兵至相與合勢公乃部分中軍馬兵爲前驅曹克新兵爲中哨青州邢鎮兵爲左哨沂州何本源兵爲右哨中軍倪祿梅三錫合曹沂徐邳等兵爲後繼列陣於姚家蕩以待初賊計我兵緩於丁堰之賊急走淮安欲掩其無備比至見兵勢甚盛相顧驚愕盡

鋭衝我左哨公揮兵四面圍擊俘斬八百有奇焚溺死者不計賊不得已奔守廟灣于時西亭之賊夜走海安諸將不能禦公以廟灣賊垂盡恐楊儀有失乃親往楊州而視師唐公援兵亦至時賊已奔張庄因益兵赴援海安而與唐公俱還廟灣督諸將搗巢令軍中多具畚鍤先填溝港毀民舍之傍賊巢者我兵分番進攻斬級一百五十有奇賊乘風雨夜遁而西亭亦以全捷來告無何閩中之賊止近百然沿海轉掠來去無定踪不可力取爲颶風飄至者公令守備楊縉擊滅之斬其酋長八大王孟得山崇明三沙之寇潰圍而來時海門狼山如皐泰州楊州俱潛有備賊由七星港焚舟登岸深入拼茶塲楊縉陳忠等兵尾擊之自是連戰皆捷斬級三

百有奇賊乃竟走海塗而公已宿戒沿海無得泊舟以是賊不得去復敗之劉庄會唐公遣副總兵劉顯適至公益以親兵使與賊戰賊連敗走竹堰仍沿海北遁我兵追及之於七鼈斬級九十有四又及之茅花墩斬級一百七十賊奔唐家港僻遠無兵復登岸掠食而公故所練鄉兵追兵競逐之斬級一百四十有奇賊遂盡絶矣是役也自夏及秋僅四閱月前後斬戮禽獲不可勝紀其成功之偉何如耶予嘗宦遼陽聞永樂間都督劉公江鎮遼時有倭患望海蜗之戰斬級千餘生擒四百封廣寧伯至今海上之烈人猶頌之公以文臣特起其所建立卓卓如此真足以宣揚

朝廷之威發舒華夏之氣睢直淮揚之利而已夫賊之始

至也非公決戰通泰則瓜儀維揚必受荼毒而運餉不免焚掠賊之東奔也非公出賊不意收功姚蕩則淮城多不可守而鳳泗不免震驚三沙之賊北渡也非公預有成筭厲兵急戰則以彼勝勢乘我困疲又適我地災饑幸亂樂禍之人內應必衆事變未可測也記曰以勞定國則祀之能禦大災則祀之能捍大患則祀之公於三者實兼有焉予不文聊述其所見之畧

兵部侍郎蔣應奎撰文節畧

自倭奴入寇東南惟浙爲最甚浙受禍惟寧台温爲最甚而我總督軍門少保兵部尚書胡公爲御史時自王江涇捷後我兵始有生氣至今官凡五轉而大捷者十有三徐海王直擒而禍本去矣戊午冬舟山既捷而我兵告罷戰者二年我總督公安不忘危旦暮東卿望思新扶桑而涇之海嘗曰余不特倭之不來特吾所以待倭者來耳益繕甲治艦時模選將練士惟謹水陸分地刻期防汛惟謹示戰守機宜約束惟謹築書萬全兵氣振厲人人無不樂爲死者辛酉夏四月忽並海郡報賊艘從外洋來者日數至而合象山奉化寧海瑞安樂清諸縣中中大嵩霸衢桃渚新河楚門健跳臨頓諸所所

報舡不下數百艘賊不下一二萬人而所登犯地散至數十處人情洶洶檄書人馬交錯于道公顧從容燕笑自若徐罵曰蠢點奴我死耳撲滅之在旦夕也乃籌筆授方畧密封付使者魏去各海道兵備分守巡總兵參將諸官而遣遊擊將軍王應岐何本源即日督發大兵二營六千人并調參將吕圻部兵先往同所在官軍擊之公乃卜日社禡載纛臨止厥地至則親履戎行不逾二旬而捷凡九至所向靡不摧破震赫風霆電掃影滅而白水洋戰爲最奇云先是四月十九日倭船一艘望小展至馬鼻沙坟公所督部兵及守備盧相等兵擊殺舟師賊遂奔岸時帶管海道副使王春澤調守舟山把總章延慶率陸兵至即伏爲應水兵從下意迫伏者起

夾擊之賊大敗溺死者無算斬首三十五我兵死者三人越二日洌港中大草撇船一艘來公所督部把總周栗統林仕貴及廬相等船與賊三十餘戰用發煩佛郎機諸火具斃之溺死者無算斬首五十而兩頭洞賊一艘把總童華斃之斬首若干而犯象山者乃王海道奉軍門方畧會同總兵盧鏜調度分守參議唐愛協計與前所督發二遊擊大兵呂坼部兵進勦之其犯大嵩者我兵逐出橫山各水哨又伏候外海故逸巡海口不出五月一日夜燒船奔鮚衢乃王海道會同盧總兵何遊擊兵分南路由奉化入象山而海道兵由大嵩入裘村亦趨象山前賊適入我兵中路二日賊出岳林庄盧總兵何遊擊鼓行前趨相去二十里各遣鋭兵趨合呂參

將王遊擊兵前後繼發三日賊至裘村分三陣迎敵海道把總胡良瑾李超等兵先至遂陷陣先登各鋭兵殊死戰數合賊大潰斬首百五十七陣亡者三人八日梅山港賊三艘計二百人突入天童小白東吳呂坼追至東湖嗆兵湯時茂等斬賊酋一人遂夜遁石橋湖頭橫溪奔入山徑走海道即遣中軍指揮艾升由小路徑出賊前呂坼追尾賊後至呂杜兵合賊屯余家各兵用火攻之燒死者不計潰出朱家店者各兵夾擊之章延麾兵生擒二人斬首五十六呂坼兵斬首二十一陣亡者各昔兵三人至暮收兵一號負傷窩山中千總汪廉斬之苦提領下舍遂平先是海道諸兵前副使譚綸寔訓練之極精銳而譚以憂去屋無何會王副使來寔能守

譚成法較若畫一而成功若此前四月十九日又烏嘴船十六艘由象山從奉化西鳳凰岸夜突至寧海一都團前是時松門海門俱無警乃台金嚴兵備僉事唐尭臣參將戚繼光將原發松海二閑把守陸兵三枝撤回繼光親督二枝趨寧海留一枝剏海門中地備警分發中軍游擊兵協守新河會行把總任錦兵船速出寧海外洋伏擊又行寧波海道總兵各發官兵水陸會勦二十二日賊知戚參將至寧海遂乘虛以大船五艘駕入桃渚大域港裡浦登岸計五百人有奇是日又三艘入新河週洋港登岸次日又五艘亦從週洋港登岸與前賊合共計五六百人二十五日又七艘入健跳折頭登岸計二千人有奇戚參將曰犯桃渚健跳者勢尚緩週

洋逼近新河所城賊又前後繼至宜急擊之而會軍門批唐僉事申列賊狀有云賊雖分侵不可墮其計中輒便分兵應策當併力合勢先討其重大者然後以次剿除乃僉事與戚繼光奉令惟謹即部署諸兵疾趨新河擊之又令黃太二縣號召程梁等姓鄉兵助戰賊懼夜駕五船遁去餘屯城外鮑主簿家二十六日擁衆薄城下攻城唐僉事與戚繼光原授軍令相與協謀調度曲慮廣畫以樓楯劉意張元勳胡守仁等分立陳列密授方畧使奇正相參各以縣尉武生等監督之而給餉抹運器械勵要害固封守審擊瑕援桴策應者各有屬既定乃申明用命不用命誅賞令甚肅驅死士衝鋒而先用鳥嘴與賊對擊千百摠哨除永長蔣瑞蔡寶等奮勇先

登力戰良久賊遂潰亂傷甚奔原巢死烏銃者六十餘人各哨共得首級三十顆是夜二更賊目雨由太平走旦日劉意樓楠兵追至温嶺大麥坑太平知縣徐鉞亦督鄉兵會勦共斬首二十二餘賊奔田舍中者燒死之突出火者遁温州前犯桃渚裡浦賊是月亦流至台州府城外花街戚參將即自桐岩嶺馳抵城下時各兵尚未飲以大義諭之各兵勇氣百倍無不爭先躍起乃鼓行而前以丁邦彥爲前鋒陳大成爲右哨陳濠胡大受爲中哨趙記孫廷賢爲左右翼各置監督奇正衝伏各有指揮角聲援各有屬乃齊陣而前至花街約二里賊以一字陣迎敵丁邦彥部下列銃分番銃殪數賊各兵乘勢擁殺賊乃分右哨敵我左哨丁邦彥反擊其左賊

又分左哨敵我右哨陳大成反擊其左於是旗皷盡變奇伏俱出賊乃敗北奔陳大成兵追至瓜陵江下賊奔水死者二百有奇而前陣中斬首三十九丁邦彥兵追至新橋五戰五勝共斬首六十一生擒倭酋一人二十九日胡震于邵山下犁沉大倭舡一艘死者計百餘人生擒倭酋一人斬首八顆三十日前登折頭大夥賊二千有奇自燒舡南突府城戚繼光部兵已分留守新河隘頑可戰者千五百入賊衆我寡繼光憂之又恐流犯內地勢當速滅乃與唐僉事厚犒之懸千金爲衝鋒者賞光又盡出笥中銀酒其散之又監軍知縣趙大河登壇誓衆申諭大義語辣辣動耳目氣烈烈振山嶽兵乃踴躍受令靡不一當百五月一日繼光即率部至大田

設伏待賊賊至亦設伏待我會天雨不戰越二日賊徑出大石往僊居戚繼光曰賊出中渡由裏路至白水洋七十里我兵由官路至白水洋五十里兵法云先處戰地而待敵者佚且以寡禦衆非謀不克而臨敵交鋒我少彼多必兵心激厲乃勝遂策馬鼓行四十里至上嶺屯止多令探者出賊前後視其向往知狀即率兵上嶺伏五日前鋒兵出頭早光乃下令令人各砍松枝一樹執而坐賊望之爲林不介意行列二十里衣甲旗幟甚盛我兵對山瞭之俟其行過半乃仆枪呐喊齊出賊驚以三四百人作一字陣衝來我兵分爲一頭兩翼一尾陣以太學生葵汝闌左蒸監督而陳惟成陳法陳參楊文通等俱趙大河監督以鴛鴦陣衝鋒擁殺風雨交

不許取首級疾若風雨有前無退賊遂敗遁上一小山猶格鬬不已丁邦彥兵出裏路徑擣山下四面仰攻之而戚參將乃樹白高招一竿于北山下令兵大呼脅從者從招下走走者數百人賊復上大山我兵又仰攻之賊又大敗奔上界嶺山巔山巔陡峻如柱上平廣賊立營其上若蓬麻然只一徑可攀陟丁邦彥等首先攀援魚貫上吳惟忠等繼之數賊疾前來從上斫下我兵用長鎗鎗賊墮岩下遂得登頂之我兵盡登賊六七百人齊來交鋒我兵戮力大戰賊敗走四散投落坑塹林谷間死者不計走者奔白水洋朱家我兵乘勢急下追圍火四面起賊屢突出不可得趙大河親第趙卿甫率兵舉鳥銃擊之死者不計又四面折墻石投之賊急登

屋亦用石與銃投我墻盡各兵逼圍屋下亂投石銃諸物如雨賊不支巢內高屋火炎炎起賊益急亦亂投刀鎗諸物出中我我兵鎗筅林立隨格之不一中賊燒死者不計而餘尊膽怖魂褫捧銀物擲首頓額哀號乞生我兵用狼筅挑其銀物并所擲首疾投不一顧諸物居有頃賊盡死積屍高丈六日賊參將自戰所班師入府城老稚士女歡呼以爲自耀倭毒來無如此捷大快也乃壺漿迎道左而唐舍事率府司輩實玄黃以迎焚死者不在算而共計斬首三百四十四顆生擒者若干而我兵亡于陣者止三人陳四陳七十即前入巢放火者王華升即前山下衝鋒者是時兵寔于五百人而一鼓殄二千賊于呼吸間全師奏凱可不謂奇耶時戚參將

方入城犒衆未罷楚門又報賊十餘艘繫泊于江者登梅嶼乃急發胡震兵伏截外洋而遣樓楠兵陸走至洋坑月雨大戰楠親斬賊酋一人而朱文林等共斬賊十二人生擒一人餘船盡開至長吊洋會前所發胡震兵迎敵犁沉五艘燒殘五艘至夜賊拖殘舡出海繼光部下兵舡又擊沉五艘追犁一艘昏黑不取級而日所斬級二十人生擒賊酋二人次日胡震又於沙鏖洋追賊十餘艘至仰月沙賊乃遁懸山我兵用三板舡載鳥銃努手伏舡口候擊之至三更賊果乘雨霧走我兵犁沉一艘斬首四人餘遂奔回懸山我兵圍之至五日五更賊約百餘人復渡水走至林頭繼光乃督樓楠兵由隘亟所迎其前劉總兵由高士橋徑進紹興府通判吳成

兵繼進而知縣徐銑督鄉兵伏截簰嶺至小簰嶺三路官兵夾擊之賊急徑奔兵戚器陣戚器督戰益力賊銳及戚器馬腹戚器一矢射中賊面死各官兵四面力戰盡殲之共斬首五十一而餘盡溺死五月十七日又前犯寧海團前遁城十八艘至長沙登劫約二千人有奇徧徼益甚欲採竹木欲巢長沙將南攻臨頓北攻太平盡髡鉗所掠男子耕作是日繼光在新河聞即與吳成器趙大河撫諭兵士示以對大敵之策盡出所蓄賞懸給賞格如前下令不許取首級輜貨如前乃兵氣益揚而繼光又日賊巢逼近臨頓所城城又孤危賊所泊長沙地又北扼太平之路于小簰嶺東扼松門之路于漫遊嶺焚門臨頓二所又勢孤路絕止水路浮海可援而又爲賊船所出沒處柰何乃先令把總李成立單騎馳往松門衛將所練親兵與羅繼祖分舡夜浮海入臨頓城守之臨頓固乃用樓楠丁邦彥陳大成等各立軍令誓狀云事異則分心同則堅遇有征調各營輪日衝鋒以一營當前以一營尾後以一營分翼左右同心并力不計斬獲多寡功同賞罪同罰等議隨用印鈐示衆使各遵守如令繼光亦誓天明神以癸十八日至鐵場大雨十九日夜半至大簰嶺分三路進至小嶺偃旗息鼓直趨船所賊始覺分兵迎敵我兵齊擁攻殺遂大披靡四走各兵追殺無一遺者共斬首級數百生擒倭酋五郎如郎健如郎前後數十名是爲長沙之捷每臨陣戚黍將率各將士諭以軍門好生之仁寧無功級不許

妄殺脅從一人以故前後被擄者俱得生還前四月二十日溫之瑞安縣周畧賊由梅頭奔突者五百餘人衆將牛天賜通判楊岳把總梅魁等殲之傷而死者不計生得一人斬首十三人餘潰走二十四日牛衆將同兵備副使凌雲翼把總盧騎武生黃允中指揮李光佐千戶張榜等兵分三路進勦殺死三百餘人衣紅衣渠魁二人軍中令不許爭首級故斬獲止五十有奇而是日楊岳梅魁陳應等兵由瑞安後路策應生擒斬首兵十餘人賊潰出海三十日又賊二百有奇自台州流突樂清縣界凌雲翼預調王欽兵牛天賜督之至雲畧嶺伏截賊遂走雙牐門天賜兵追擊之斬首四十五人餘奔江水死而窩林薄中去者三十餘人至五月一日追斬

于閩浙界上生擒一人溫州平而是月四日盧鏜水兵舡與海道把總黃應選等船分布青龍港遇奉化遁賊七艘向錢倉行外洋去者犁沉三艘值大雷颶昏黑溺死漂失者不計撈斬首二十顆是役也計前後擒斬共千二十四名級而焚溺死者莫之殫計蓋無一人生還者而旬日間三郡寧謐疆徼清平脫遺黎于鋒鏑而帖之席權聲動天地歌舞太平以共戴

天子休德誰之賜歟誰之總督公開誠布公能任人善將將賞罰明肅頒畫奇計不動聲色而出自淵衷賊狀夷情坐照千里又親臨督調先聲奪人所謂心戰爲上力戰爲下者非耶以故將領人人得以自効而白木之役以寡克衆而仰攻勍敵兵法所忌照率取奇勝

此其故何歟寇公用戚參將趙大河同心選練義烏赤城等兵使之有勇知方見利不動故一可當百足赴水火雖古名將不能出公右矣而忠誠一念食息不忘捐身許國誓不以賊遺君父此又其大者臣無似以書生佩刀筆待罪幕下竊所聞于諸將校者退而論撰如左掛一漏萬豈足云紀盛事哉聊用稗官所職以備野史氏采擇鄞諸生沈
明臣撰

世廟時南倭北虜並急其時竭天下之力禦虜南方急時所輸于北者不絲毫減中間悉力指揮終得蕩平者胡襄懋力也事平之後襄懋中讒死同志如茅先生鹿門幾至破家有功秀才蔣洲陳可願至謫戍生平受襄懋卵翼煦沫者皆樂而避匿且諱之不敢出聲一切戰功惟有鹿門徐海一篇而最難致者王直邦又不及問以詰其子孝若曰尊公與襄懋情誼如何乃不許録録者何孝若處額曰并此篇幾削去賴長兄言之得止嗟乎世有縛一草賊捕一叛民因人成事者尚連篇累牘以求必傳于世而公半壁之功十餘年出生入死辛苦抵泯至此安用一時文士爲

余老矣每每訪求不可得間有譚者乍遠未可信遥見唐凝菴先生胡少保傳極爲詳贍喜甚訂録數款

初爲盜都知縣有賊曰草上飛虎悍甚衆至數千據礦爲患久莫能制公召其父母宗族諭以利害示之恩信群盜解散擇其可用者千人編爲義勇會有詔令巡撫曾銳募青齊兵入衛遂以應焉一不以擾其民也

三十三年甲寅江南倭大至官兵屢敗南兵書張經帶部務總督軍務公爲巡按方至嘉禾賊至武唐將遍城公出酒百餘甕米五十包毒之封包如故載以二

小舟授數健兒賫冠服文牒若犒兵者賊見逐之健兒浮水遁賊入舟見冠服文牒信爲犒兵也呼噪歡飲且醉復作飯食之一時流血暴死者七八百餘賊知中計遂相戒勿食民間遺物會雨驟至又無所得食淋漓饑困斃者益衆遂解去

三十四年乙卯二月工部侍郎趙文華祭告海神兼視軍情四月至松江祭海是時倭據川沙窪柘林爲巢涉冬春新倭復日有至者地方甚恐及狼兵至者五千人衆稍安總兵俞大猷遣游擊白泓等稍有斬獲文華因謂狼兵果可用厚犒之激使進勦至曹涇遇倭數百人與戰不勝頭目鍾富黃維等十四人俱死

失亡甚衆于是賊知狼兵不足畏復肆掠如故五月張經歷倭于王江涇大破之經素貴倨以文華部民也藐之觸怒會倭寇蘇州大掠郎奉經畏懦失機玩寇殃民

上怒逮經及巡撫李天寵問斬以應天巡撫周珫代經尋以珫衰老黜之以南待郎揚宜代趙公僉都御史代天寵而先四月公上疏請宜諭日本覆允比得旨新受事撤寧波選委知海情者得弟子員蔣洲陳可願二人因令克正副使而先犯海禁繫獄朱尚禮胡節申并釋令各募二十人輔洲等賫文以往公審授計洲以十月壬午行十一月丙午至日本從山口豐後二道宣諭王直故爲舶主原籍徽州人因令養子毛烈率衆邀洲等至五島詢以故洲等奉計誘之直佯言

日我本非為亂因俞總兵圖我拘收家屬遂絕歸路今軍門如是寬仁我將歸然毋用人衆也今聞薩摩島徐海等大糾倭衆來春必犯浙直吾令毛列葉宗滿伴送陳副使宋尚禮先覆軍門吾與蔣先生宣諭畢日亦願歸順但倭國缺絲綿必須開市海患乃平可願借毛列以伸冬閩月泊列港至定海關已而直勦殺海洋流賊數十級効功以窺我意公詢得其情奏聞且厚犒之趙文華遂請還京

三十五年丙辰正月列率倭兵百八十人助盧黎將搗舟山賊斬首三十餘賊奔邵奚山屯于山巔公奉旨資列等金幣且令圖諭直早歸順列感激因送商伴夏正童華邵岳報徐海入犯消息遂留為通事陰厚遇

之意未嘗一日不在直也是月辛酉賊數百自閩連江洪突犯平陽仙居等縣趣四明奉化合錢倉新至賊深入上虞轉戰千里官軍望風奔潰海道孫弘軾馳檄告急甲子自率標兵渡錢江而東合諸道兵及客兵上兵皆會丁卯賊由上浦潛渡曹娥江見官兵由對山出海塘轉山陰壬申公至江橋遇賊夾河而行從馬上操小旗語諸將曰使此賊見我旗指不顧而西勝負未可知若觀望遲疑即可撲滅也賊見旗東西交指果聚立公笑曰賊氣奪矣麾兵渡河賊驚問諜者知軍門自至遂不敢戰南走後梅村急麾諸軍圍之一晝夜用火器力攻賊負傷深匿戰益急我兵登屋舉火煙焰大起賊多焚死已而雷雨大至公

與諸將月兩立水田中或勸之少避不聽明日五鼓賊乘霧突鄉兵我軍四合奮擊俘斬二百五十九餘賊逸走鍾村平明追及西嶺殺百賊賊又遁輕兵追之少卻復遣士兵及子蒲岐亭斬六十級餘賊夜遁入海先是居民聞賊至咸奔避入城公所至炊宿無所藉暮入山嶺小菴饑甚道人具酒餅以獻方數酌哨者至備詢其故已而問哨者食否答曰枵腹兩日矣公淚下盡撤酒餅與之道人進曰菴中僅有此願少留公曰此採薪吾三軍耳目也不得食必斃寧忍餓以食有功左右皆感泣時陳東屯于陶宅知公悉軍而東復襲敗官軍楊宜勦新倭又敗罷之以南侍郎王誥代而先文華還京言倭大勢已定餘零散者諸

將勦之可立盡既敗報踵至

上甚疑以問嚴嵩嵩支吾以對文華大懼而素與吏部尚書李默有違言因訐默出題詢訪欲敗國事初罷楊宜即當以宗憲代而專倭自用推舉周珫珫老悖致殘倭復熾

上大怒收默下獄止誥無行陞公兵部侍郎兼僉都總督軍務陞院鶚代巡撫浙江四月鶚敗于崇德陌駱將宗禮等走桐鄉被圍公諭解之文華兼副都復出督視七月收徐海陳東許鹿門集　公授計把總張四維雪夜渡舟山出賊不意大破殲之

三十六年丁巳倭入閩廣攻鶚撫福建公兼兩浙巡撫不更設王直忽駕艨艟擁駱倭突進舟山洽港住泊

以送蔣洲爲名公遂遣夏正等往覘而自提兵駐紹興且令畫工圖浮港形勢正還報直語甚肆謂必待奏奉

明旨許其覓省與以都督職使得稽歷海上開市以息兵方圖歸順必不效徐海墮牢籠作俘囚也而畫工所圖形勢甚險惡四山哨立海環其外入口僅容一舟別無他道公覽之諮曰此絕地也乃令直長子澄述祖毋意爲書道制府恩厚促直早歸順以全毋子之情遣直申表方大忠偕夏正等持往直啓書笑罵曰兒輩何至此汝父在故厚汝父歸闔門駢首僇矣大忠與正等曉譬百端直意稍動遣王澈葉宗滿隨方大忠蔣洲至軍門輸款公因送監軍御史王本固本

固疏其狀于

朝公念澈乃直之眷子用事不還直且疑而生變因言於本固送還將行公故引之卧內留其宿而預爲題稿力乞貸直并諸將請戰書十餘篇置之案間乃出飲大醉還因呼澈入宿而公甫入室大吐牀席俱沾汚待者皆就寢澈聞鼾聲滿室竊起翻案間見疏稿回顧公睡益熟因録其疏復就榻久之公乃作伸欠狀呼茶且易枕席而猶濈濈語我爲兒子輩苦心開生路乃猶遲疑取死耶晨起澈即于榻前告行復好言慰之陰檄文武諸將吏聽約束布以防奔逸又密遣諜鎮德陽諸酋長購直首見使之自疑直方猶豫不知所出澈等至山疏稿示之直猶未決澈等力勸之乃

留夏正爲質自挈妻孥稽顙制府公大喜摩頂曰兒來何晚時長至前三日也乃使朱尚禮章華館伴至杭參謁監軍次日即圖軍還杭具述始末聞于朝又爲書達當事言兵機忌泄如上意罪止于直則已必欲盡其餘黨乞容啓上萬勿宣之

明旨時倭賊諸好多在直舟公將以直爲媒漸致之不煩甲兵談笑以靖禍本監軍疏先至輒奉

旨慫勵餘黨矣然公已逆慮其然先遣朱尚禮往說諸小酋繹夏正及諭王澈葉宗滿來杭澈等以候

旨爲辭而密遣其驍銳吳九項松王四等四散探

旨童華以告公分遣將吏密擒之明年二月本兵檄至直

遂下獄德陽走浮港諸酋復叛朱尚禮先聞脫身走夏正遂爲所鋼公即移師寧波調集諸將水陸攻勦賊堅壁不出我師亦不得入公曰曩謂兵機不可洩正慮今日難坐困不憂不全勝也時及汛期新倭續至或抵普陀遍沙門或自峒嶼奔東北洋或自洋中趨舟山則水兵擒斬之或犯樂清金鄉梅頭臨梅松門或攻太平台州溫州永嘉磐石象山仙居平陽四散流突則陸兵擒斬之其追至鐵場山者諸軍肩險奪嶺三面奮擊賊從山後奔隘海塗中長跪受刃俘斬無遺大都賊之驍悍非徐海陳東比而我將士久戰膽力益壯習知賊技不足畏避雖不無一二失律而所至成功卒無有得與直黨合者其黨困甚聞有

賊在朱家尖遣六百餘人自泠港奔泥家門援之又從響礁門出碇磯奔泥家門皆爲我師所邀俱敗入巢公乃命朱尚禮以先所收撫倭人夷來迓夷來住等駕艇伏砲其中冒爲倭船招之賊不疑登舟來廷等佯稱還報易八刺虎先行砲從舵後發舟爲煨燼水兵乘之俘獲二十二名斬級二百五十沉溺者無算賊氣日挫因厲督諸軍分番攻巢殺傷甚衆諸賊積恨爲夏正所誘支解之公聞船至海邊望祭慟哭諸軍皆爲墮淚賊自知勢孤援絕焚其餘舟將并力出海官兵乘勢焚柵廠火光燭天各賊夜奔柯梅候潮官軍擊之賊乘東仔小舟遁出浦水兵擊沉其半斬首九十有七諸將復統蒼船追之俞山外洋沉其

四舟生擒賊首汪印山陳禮計得脫者不及什一矣是時賊至江南者千餘水兵禦之不得登陸遂扼之于崇明之三沙江北之賊幾七千北枝據淮安之廟灣南枝據揚州之如皐公皆分兵助戰前後斬馘俱盡三沙賊爲官兵所困不得騁乃卸屋材爲小舟以遁飄至江北亦殲焉三十八年十一月本兵胥駿王直等罪狀下撫按三司詳議梟斬于市妻子沒官葉宗滿免死戍邊加公太子太保左都御史廕一子錦衣副千戶文武將吏各加陞賞夏正死事贈都指揮使廕一子與朱尚禮童華卻岳俱正千戶

先是虜賊萬餘盜義烏礦會令欽丞尉率鄉民逐之賊易丞尉列陣而出戕鄉民民怒奮力欲鬬賊披靡

入山民追破其巢賊悉戰死公聞之喜曰處賊稱悍
烏民一戰殲之勇可知已吾方求其人而不得儻新
尹任事淵可不征調而強矣會江陰趙大河宰義烏
謁制府即語以故大河欣然任之遂令戚繼光與之
偕給餉甚厚繼光行後語曰江南所以不能戰者以
未諳鄭制耳吾每思倣六卷陣法訓練爾喻之乎繼
光因獻鴛鴦陣公曰得之矣自後義烏兵遂以勁名
天下今所稱南兵是也有是調用遂以爲常

嘉靖三十九年五月公請定鄭制禮儀視三邊事例

上嘉其任事加兵部尚書兼右都悉從所請閩寇告急撤其
兵往援行至桐山邵副史尹叅將舟師來會賊已滿
載且聞淵兵至急遁出海水兵邀擊洋中犂沉賊舟

四十有七溺死者無數獲賊首嚴山老等百餘名洪
澤珍亦焚巢遁入閩解嚴提督遂以餉之令舒兵備
撤兵還賊聞之復糾衆入寇犯福寧桐山閩兵再敗
公復發兵攻之戰于桐山壽寧追至楓亭血戰于仙遊
前後俘斬幾二千餘賊遁入海

四十年九月討倭屢捷加少保

四十一年十一月被逮停其官不補陞趙炳然兵部侍
郎兼僉都撫浙江

四十四年再逮疏辨尋卒

上憐其功免勘 朱平涵老先生撰

又外録梅林手疏二則

胡梅林爲總督先後上疏皆手書如一後被劾爲

七所憐羞不獨有禦倭之功甘共一段敬謹心亦自難及孰謂公僅麤豪人物哉凡士君人上疏必手書宋時猶然迨至胡元始停耳

梅林被遣發欽太守何東序窺時局欲羅織沒其家發兵圍守嘉禾郁陽川蘭爲績溪令知胡公家貧且捍海功不可泯力覆護之願上印綬去乃得免

明少保新安胡宗憲輯議　前[illegible]序生胡維極重校

孫舉人胡燈　舉人胡鳴岡　增慶　全刪

遇難徇節考

永樂二年武臣一人

六年武臣二人

七年文臣一人

九年武臣一人

二十年文臣二人

嘉靖二年武臣一人

二十九烈婦一人

（籌海圖編卷之十目錄　三十一年武臣四人　武生二人）

孝子一人

烈婦一人

三十二年文臣二人

武臣二十四人　軍人二人

孝子一人

三十三年文臣三人

武臣十五人　應襲二人　武生二人

三十四年文臣十一人

武臣二十五人　武生七人

孝子二人

烈婦一人

遇難殉節考

此卷所載各教所關故不嫌特書然事之詳畧悉有
憑據或限於耳目之未接或涉於傳聞之疑似者姑
闕之以俟同
志者增入焉

來樂二年倭犯穿山百戶馬與與戰死之

六年倭入山東于家庄寨百戶王輔死之

犯桃花閘寨百戶周盤死之

七年冬十二月倭陷廉州教授王翰死之

翰河東人任本府教授嚴立規程教誨不倦倭冦陷
城民皆逃避翰正衣冠端坐明倫堂賊至欲執之罵
詈不屈遂
爲所害

九年三月倭陷昌化所千戶王傚死之

二十年倭冦象山縣縣丞宋真教諭蔡海死之

真持挈鼓擊賊海罵
賊不屈皆死之

揮劉錦追之戰死

時有欲追之者問于新建伯王公守仁公曰歸揮莫
遏窮冦勿迫但當把截要害縱其退拒其進賊進無
所獲退無所資將自困絕於是取之兵不
血刃矣由是兵皆不追錦獨往果爲所殺

二十九年冦犯昌國烈婦嚴氏死之

嚴氏葉小九妻也爲賊所執驅
之而前氏知不免遂投河而死

三十一年四月冦入奉化義士汪較死之

較奉化人力挽強弩尤精矢藥受刀精習有司上於
軍門賜以義士闔防賊入應家擲破率民兵射斃十
餘虜創艾遁去
較亦被傷而死

賊攻遊仙寨百戶秦彪死之

彪爵綦所人賊登赤坎攻遊仙寨甚急彪曰遊仙與
爵綦唇齒無遊仙是無爵綦也先人遺我汗馬勳不
死戰而死法何以見於地下乎乃與
弟漢率勵趙闘力不能支遂俱死焉

五月瑞安所百戶李潮高良與賊戰於坡南匯聯高山
死之
賊入黃巖縣孝子王錙烈婦徐氏死之
錙生員王顯之子顯被執欲殺之錙泣求代父而遂
死○徐氏名玄奴有異色値毋衰病歸寧賊至玄奴
抱毋慟哭賊欲汚之玄奴詐賊轉
室持梃斃同往乘間赴井而死
六月賊陷霑霤所指揮樊懋力戰死之
三十二年閏三月官兵與賊戰於烈港軍人葉七死之
七定海衛軍賊王直負金城烈港穴爲寇大將俞大
猷提兵師直入其港計擊火砲大發勝負未決而我
舟忽挂賊纜擡梢不能施賊衆方逼七徑取斧投水
砍其纜未及斷賊以鎗中其項七呼曰死矣吾必報
其讎竟連揮數斧纜斷而死俞舟遂免后四日俞大
破賊空其穴俞之舟入也有二卒后期當刑因請間
燒賊碾以贖死俞許之二卒從外海緣山越險幾百
里晝伏夜行潛抵賊巢時夜近四鼓而賊方碾藥少
頃困劇而卧二卒即其處縱火火藥橫發群砦俱燬
而賊方酣睡晾而突走墮水死者踵繼俞乘燬進舟
師崩之遂成奪
巢之功
（籌海圖編卷之十）
四月賊犯海鹽孟家堰千戶宋應澗死之
應澗字汝觀寧波衛百戶登庚戌武榜授正千戶掌
印事洗法不撓因而每得下考軍門王公忻獨奇之
命取兵細於閱應期而至忻益委以兵客兵曠悍難
馭應澗每約已裕猶而廉以軍法無不聽命癸丑諫
參將盧鏜爲先鋒戰上海史家浜追賊至二十里亭
復從戰乎湖戰白沙涛戰金山皆有功其在史家浜
兵北賊迫幾及應澗急反弓二矢而中項洞額親兵
飛鎗復殺四人因復血兵破賊應澗用是臨陣必以
身先士卒竟以疲兵猝當海盜孟家堰賊不支而死
死時猶飛刀殺一賊乃絕事聞廕其子襲千戶仍建
祠城北
隅祀之
賊犯杭州指揮吳懋宣御之於赭山死之
懋宣率備兵禦
之力戰而死
賊破乍浦所百戶陳綬死之
把總馬呈圖指揮采煉百戶王相姜揖吕鳳姚岑與賊

戰於海寧教場死之

賊犯平湖百戶劉　黃　與戰死之

犯白馬廟指揮蔡　死之

犯南湖把總陳　指揮胡　死之

犯三江港百戶陳　黃　死之

官兵追賊於海鹽海口巡司千戶王繼隆百戶楊臣康緩死之

賊陷昌國衛昌陳表死之

後賊入城表曰吾力無如之何有死而已但所攝印多吾免置印何地遂送印於千戶金鰲出門追賊奮鬪而死

孝子劉晉死之

晉昌國人倭寇入城其祖老疾不能行家人各挈妻子走避晉負其祖而逃賊將及祖曰我老耳死汝宜速去晉不忍俱被殺

（一八）籌海圖編卷之十　三

五月賊破乍浦所百戶陳綬死之

叅將湯克寬與賊戰於乍浦長沙灣指揮陳善道冠帶總旗張儒死之

十月知事何常明與賊戰於杭塢山死之

常明乘勝追賊中伏而死

十二月賊登西暹嘴千戶張應奎百戶王守正張永死之

三十三年四月叅將俞大猷與賊戰於普陀山武舉應襲火斌黎俊民魏本康阜死之

斌觀海衛人幼通儒術以疾病嘗冀轉刑晨夕告天願以身代及壯應武舉鄉試中式者二犒海寇叅將生鹽請軍門乞隆軍賞勁紮立奇功至是與武舉生黎俊民應襲魏本康阜督水兵追賊於普陀山隘

先登同時遇害孟忠孝得於天啓者也後其兄指揮同知火雷請於當道爲之立祠與俊民並省像於其中俊民廣東人

賊入上海縣指揮武尚文死之

尚文鎮海衛人從參將湯克寬駐軍上海賊逼縣治尚文率家兵禦之出東門遇賊遊兵輒敗之乘勝進攻賊伏木傍俟尚文過以利刃斷馬足馬蹶尚文死焉

賊屯李家畧義士朱汀與戰死之

汀象山人多勇力素好劍槊賊登赤坎屯李家畧大肆虜掠汀與其黨王永希父子支章等數十人直搗其穴賊棄營走追至閘口岩日已晡賊計窮蹙遂返逆戰良久汀爲流矢所中猶手刃數賊力不支顧謂其子曰吾已無濟汝等宜速去子不忍舍與王永希奮力血前格戰俱死焉

賊攻松江府副千戶童元巡檢李叢祿死之

九月賊攻嘉興府官兵追之戰於孟家堰指揮李元律

賊犯百家山百戶趙軒梁踰死之

賊寇沈家河都指揮周應禎死之

十月百戶張耀與賊戰於湖頭死之

賊至東陽南午嶺巡檢朱純死之

賊犯芙蓉海口指揮戴祀江九山千戶崔海鎮撫劉或百戶易坎死之

十二月賊入嘉善縣百戶賴榮華死之

詳見浙江倭變紀

三十四年正月賊犯湖州官兵敗績副理問陶一貫守備周奎指揮孫勇百戶陸陵周應辰把總官梁鄂武生郭周張景安朱平姚清死之

詳見浙江倭變紀

賊陷崇明縣知縣唐一岑死之

詳見直隸
倭變紀

四月賊犯瑞安縣守備劉隆千戶尸　死之

隆宇大昌定海衛指揮使以強幹屢勦總諸衛備倭時海上寇起計二陳思指最盛隆謀攻之適思盼人康頭隆提舟師薄之而我舟忽膠隆股中一流矢見血益奮怒揮諸舟競進卒破賊舟四十餘人斬百餘級王子延把總嘉興統舟師備禾浦當松江七閘賊歸降扼之焚沉賊舟俘斬幾三百級會破史家浜賊又扼之沉賊舟邀浦外洋一日遇賊舟苍黃霧四塞隆以孤舟在賊圖中逆號從兵皆懼隆大喊作氣殺一地當衝沉十餘舟俘斬二百餘唱者都指揮僉事守備温處至是寇數百將薄瑞安城隆整兵遽出欲折其鋒偏將尹千戶者請旋師避之隆不聽徑往過之殺賊十餘人賊遁去回軍至田間有數賊伏莽中遽起擊隆不及應遂死尹千戶等俱死馬事聞贈都指揮僉事仍世襲焉

賊犯慈谿義士魏鏡死之

鏡生有絕力善格鬥寇至海濱輒自奮曰誰無死者死而能衛桑梓庶幾爲義鬼矣賊由餘姚至鳴鶴

從知縣曹本率衆禦之兵潰鏡負令而走賊追之踰壯湖嶺而南乃操刃衝敵殺數賊賊傷其顏猶力鬥不罷而死

百戶劉夔祥與賊戰於崇丘死之

夔祥定海衛人領兵船出海遇賊登犯崇丘夔祥即部兵登陸與賊大戰獲賊首數級力之寡援遂死賊乃當道祠之爲立祠祀焉

賊犯鳴鶴鎮孝子沈良十死之

良十靖年七十餘尚有九十餘母賊至良十負母至五里外力竭不能行息山谷中賊追至乃跪拜請死願貸其母賊見母子俱皓髮顏老舍之而去良十憐母饑渴方圖飲食賊又至或舉刀欲砍良十以身覆母號哭遂被殺而母竟得全

常熟縣知縣王鈇致仕參政錢洋死之

詳見直隸
倭變紀

賊攻無錫縣孝子監生蔡元銳烈婦蔡氏死之

元鋭無錫人軫之子冠至家人奔散元鋭以父年老獨留扶父登屋以免元鋭被執賊欲降之不屈遂遇害其女蔡氏適同邑陸子才歸寧遇變與其婢阿滿招女二英義男婦徐氏同登一舟將以避難賊悅其色欲污蔡氏盡出簪釧求免不聽乃詐賊曰過汝舟當從爾賊喜獨一人與携手而往蔡氏躍入賊手投湖水中其婢皆溺死焉無何其弟元鐸以兄陷賊中持銀往贖知兄已亡乃罵賊而死

五月千戶韓綱百戶葉紳與賊戰於七里店及樟村死之

綱紳皆寧波衛官紳少不羈出手搏善雙刀賊入橫石橋紳偕千戶劉英領兵策應至七里店紳奮雙刀奪橋獨進應者不能遂爲所殺後二日賊西流至樟村綱後領兵防邊猝與賊交兵潰挺身獨戰亦死之

遊擊將軍周藩與賊戰於朱涇死之

賊犯鳴鶴省祭官杜槐死之

槐慈谿人家貲鉅海倜儻遊俠輕財好施爲書掾從廷綏撫院巡歷邊徼險要有抵掌仰吾之志省祭歸值倭寇屬犯內地從征各得島上狡悍狀曰患將蕆蔓逐散家貲結號勇傾身下之得士死力值寇急其父文明爲部長令圖結保障槐傍父老以身任之癸丑寇薄觀海衛城槐曰衛破則無縣矣一呼而群勇

俱集直前砲賊賊走衛遂得全至是賊犯鳴鶴槐率衆迎擊賊走餘姚東山槐越境追之諜言賊犯空舍提刀趕之賊伏墻隅槐揮刀中石刀缺賊競出槐與五六健卒當之自午至酉麾戰不已裂其衣緋渠帥竟以力竭昇歸而死後賊見黑旗即驚曰杜兵至矣文文明嘉其子死而麾下壯士皆願從文明殺賊以復仇後賊燬鳴鶴文明昇死出縣令於重圖中是年冬寇自黃岩犯寧海海道檄文明偕主簿畢清邀擊之遇於奉化楓嶺之麓擒高臨下布陣方定而土兵遽走杜兵力不能支文明遂與畢清俱死焉事聞

詔贈槐光祿寺丞文明府經歷即死所立祠祀之仍廕子入監肄業云

八月指揮張大綱生員陳淮與賊戰於蘇州橫涇死之

大綱廣州人驍勇異常率坑兵擊賊手刀數人力戰而死淮崑山人知縣周之子善琴與友人潘蔚卿等相期滅賊時賊猖悍異常兵士遇之輒潰淮獨與家兵二人力戰而死

九月官兵進搗陶宅賊巢指揮邵昇姚泓生員于岳死之

昇等隔陣殺賊賊已大敗乘勝進攻賊死守港岸昇等身先士卒賊乘高射下故皆死之

十月主簿畢清與賊戰於楓嶺死之

清善射累立戰功至
是陣下人皆諳之

監生謝志望與賊戰於餘姚斤嶺死之

志望統兵設伏誘賊大敗之乘勝逐北賊
死聞志望手射死三賊矢盡力竭遂被害

十一月賊攻鎮東衛千戶戴洪等死之

洪與高懷德張銮皆本衛千戶出城禦敵而陣亡者
也楊一茂白仁丘球皆平海衛千戶追賊於東岳山
而陣亡
者也

百戶劉愍與賊戰於麻園死之

生員胡夔雷與賊戰於東關死之

夔雷餘姚人與堂兄應龍操六等
率鄉兵報効手刃數賊力竭而死

儒士金應暘與賊戰於毋婆嶺死之

應暘山
陰人

閏十一月守備劉隆千戶劉綱百戶張銮與賊戰於瑞

安三港死之

詳見浙江
倭變紀

賊犯平陽塾指揮祁嵩死之

指揮閔鎔義士吳德四吳德六與賊戰於舟山死之

德四德六兄弟本慈谿濱海農夫少有膂力先是寇
上平不經其廬驅其黍豕德四持鋤自田歸遇寇於
門揮鋤中賊腦仆地德六取賊刀追殺一渠魁遂以
此勇有聲隸柱樓部每遇敵即衝鋒奪旗以爲常至
是海道聞其名檄往攻舟山險寨德四直前砍賊渠
于轅門寨內驚擾操而出怯卒皆返旆走而賊砍德
四踪德六呼曰兄死矣獨前殺
其殺兄者後兵不繼亦死焉

三十五年正月叅將尚允紹與賊戰於松江四橋死之

三月福建總督倭侵劉炯千戶王月與賊戰於石壁嶺
死之

炯字大光世爲寧波衛指揮使年二十襲父蔚用御
史林應箕薦升戀州軍門把總未幾又用薦陞福建

總督備倭至是福清縣倭賊登岸據海口鎮官兵屢挫炎領兵夜襲其巢遂奔潰由古田寧德望海而遁炎即提兵由捷徑宵行趨寧海縣不壁嶺要賊歸路且至嶺監倉卒布列未備而賊已至部伍散亂止家兵數人及千戶王月在側炎顧謂持印者曰亟爲我歸印

朔逐吾世受國恩死矣炎即挺身執鐵鈀格殺三人力盡無援賊衆擁至縶於賊刃所揮鐵鈀尚堅執不墮其勇烈如此御史吉澄上於朝立廟祀之

賊犯海鹽轉塘灣指揮徐行健死之

四月賊犯青田縣百戶方存仁死之

温州府同知黃釧禦賊於分水嶺死之

時賊自福建入浙境釧以孤軍禦之於境外分水嶺賊過桐山釧率官兵勇敢當先連戰數合賊大敗走既而賊分支遠出我兵之後釧遂力戰死之蓋自有倭患以來文吏死事未有如此者也

賊犯寧波孝子聞宗時死之

宗時鄞人教授聞理子性至孝幼喪母奉繼母陳承順篤至賊至舉家竄避宗時扶父出而遇賊脇取金

銀不得欲殺其父宗時以身翼蔽流求自代遂被刃而死尸諸田間父遂得什時家奴李三抱宗時幼子不忍舍去亦被賊刃截左耳併斷其面屢死屢甦人共傷之

賊犯崇德遊擊將軍宗禮鎮撫侯槐何衢忠義官霍貫道死之

禮故燕驍將也侯槐何衢霍貫道皆其偏裨所統箭手九百皆精悍絶倫所向無敵劇賊徐海部領萬人自烏鎮而來勢將犯杭浙江官兵無足恃者禮獨與麾下據三里橋而陣張左右翼以待戰數合擊殺數十人會日暮賊且引去時賊氣頗窘而禮與貫道等亦已絶鄉導不得擇善地便水草時飲食以自休止明日破而戰賊遣健者繞而望蓋孤壘以墜無他援者也大衆復繼其前後夾擊禮與貫道大呼力戰矢石如雨無不人人一當十復擊殺數十百人貫道亦手刃十餘賊益怖海日中砲欲馳去會火藥盡貫道面禮二人皆仰天呼曰吾兩人再得藥數十可以了此賊矣既而賊分番死鬬禮與貫道衝力竭矢盡俱死焉

賊犯嘉興指揮程祿死之

詳見浙江
倭變紀

千戶沈宗王王世臣與賊戰於金山江中死之

宗王鎮江衛後所王千戶世臣左所
副千戶同領兵船追賊殺於江中

賊攻江陰知縣錢鐸　死之

詳見直隸
倭變紀

賊犯揚州都指揮張恒千戶羅大爵百戶魯沂死之

戰於八里舖灣頭等處大
爵沂陣亡俱傷重而死

賊犯揚州小鐵口同知朱袁高郵衛經歷晏鋭應襲百
思死之

賊陷慈谿生員戎良翰死之

良翰定海縣增廣生員性峻介義不苟合素以忠孝
自許賊陷慈谿良翰家衆縮慈壞其遁乃倡義集兵
僅得百餘人與賊格殺斬首二級賊披靡而去已又
遇賊於丘洋良翰奮勇力戰賊方蟻聚竟不能支遂
入海海圖編卷之十　九
爲流矢所中立死監司
爲之禮葬及表其門

孝子生員馮履祥向叙王應麒死之

馮履祥字君德慈谿人生七八歲即警悟好讀書嘉
靖壬子補邑庠弟子員至是賊犯縣履祥隨父出
奔賊逼父父左手且裂其背履祥以身蔽之泣訴曰
此吾父也願無加害寧殺我賊竟殺之其妻袁氏遁
於靈山時孕已彌月夜產一紅面神告曰爾夫爲父
死不可使無後吾當與爾一子産時無患次日婦果
生一子又值倭寇將入賊馬皆止策之亦不前賊不
越境而退一方賴輯人謂靈山神驅騎大將軍神威
之庇與得兒產履祥孝感所致云○向叙字秩
禮慈谿人獻令七世孫幼慧而有高志率勤撥事老
人年十六入縣庠文藻縣發而操履端謹人莫當之
至是賊入縣叙被脅而逃遇倭東溪賄叙仙自前
破其母叙急起抱母顛連呼曰寧殺我賊
乃殺叙舍其母而去巡按御史上其事
詔旌其門○王應麒慈谿人年十七就學習文天性至孝
倭寇卒至應麒扶母姜氏嬸余氏奔匿鄰國賊窺見
二婦輒援刃追之二婦負趾池水余氏溺死應麒見
母遇害以身翼蔽賊亂刃之子母傷甚賊退應麒隨
卒姜氏
亦死

烈婦桂氏張氏章氏周氏馮氏柴氏孟氏孫氏烈女茅氏死之

桂氏阿寶女姜阿龍妻慈谿人方少艾賊至桂與衆婦走匿馮氏辟室室後有池賊搜室衆婦號趨池賊以手挽之桂絕袂而死○張氏慈谿馮謇妻唐孝子無擇之後年二十歸於謇纔六年遘倭寇之變邑治焚燬張氏偕姑竄匿其夫相失爲寇所殺張哀號巫收夫屍殮葬未竣日寇復至張偕姑及姑媳買舟避至管山江爲寇所及張知不免曰不死且汚賊手然馮之嗣不可絕也即以幼子付其姑偕姑之妾徐氏即沉於江賊大驚異遂舍舟中諸婦以去三日屍浮於江家人收之合葬於警○章氏沈祚妻周氏沈希魯妻馮氏沈信魁妻柴氏沈惟瑞妻孟氏沈弘量妻孫氏沈琳妻沈氏慈谿里橋巨族家界於觀海鳴鶴之間家衆二千人多驍黠善鬬自嘉靖以來海上多事寇上塢山燬鳴鶴縱橫蹂躪沈氏不惟自衛且能攻擊其渠魁奪其所掠賊甚譽之至是賊大至沈氏豪誓於衆曰無出婦女無輦貨財誓以死守不能者先戮之章氏婦皆姝聽既而賊圍沈氏群婦聚於一樓賊散入戶章氏遠出投於河周氏馮氏繼之共死一所柴氏方爲夫礪刃賊已斫戶入矣柴即以刃斫賊旋自

刃孟氏孫氏亦婦爲賊所得相持不放詈賊不屈奪賊刀自刺皆磔爲思橋之難沈宗婦死難者三十餘人其六人尤烈者也○茅氏慈谿人年十四父毋亡獨與兄嫂居其兄痿卧賊入縣嫂出奔呼之行女曰吾室女也去孰爲扶兄賊至遽縱火女力扶其兄避於空室俱被燔灼而死二屍相鬱結焉

五月巡檢劉佖宏與賊戰於仙居縣東嶺死之

無爲州同知齊恩與賊戰於圖山江中死之

恩陝西隆德縣人初敗知四川蒲江縣殺賊有功與二子俱死於賊

詔爲立祠恩豪入國子監授序班遷河曲知縣禦寇脩邊有功撫按保留久任九年考績遷無爲州同知閔東南久罹倭患蚤忠圖報練兵衣械一毫不取於民長江賴以保障賊犯上流奉檄即率子孫叔侄兄弟凡十二人領兵赴敵一至圖山即身先士卒鼓衆而前殺賊數多賊遂畏懼奔潰乘勝逐北悞中賊伏誓戒子姪曰一死莫惜圖成功以靖國難由是舉家赴敵至於力竭勢窮又曰兒輩勉存宗祀吾與此賊誓不俱生由是次子齊嵩等四人得脫恩與長男尚文孫童叔仲實弟寶榮侄友良大鄉協戰不屈俱死於賊一門忠義自有倭患所未有也人以爲兆繩祖武云

賊犯定海烈女傳氏死之

傳氏定海昌國傳梓女也年十七美姿色未嫁寇猝至女家故瀕海遂爲賊所得女即以石自破其面流血塗地賊怒磔之

六月百戶帥印與賊戰於青村得勝港死之

即新安衛百戶率應兵追賊至得勝港兵潰印力戰而死

八月官兵進搗沈庄賊巢義勇劉進死之

時賊巢甚堅官兵難於進攻進首抱火器渡河焚賊巢廬舍火既熾賊亂官兵乘之遂大捷進傷重陷屋以死蓋忠勇異常者也惜無父母妻子故其功莫酬焉

九月百戶郎官與賊戰於臨海縣兩頭門死之

官兵與賊戰於鴈門嶺生員倪泰員死之

泰員徐姚人少倜儻有膽氣憤倭荼毒生靈募家兵四百從湖廣守衛楊繩擊賊於定海之龍山三戰三捷乘勝追賊泰員率兵獨抵賊巢殺賊頗衆值天暮賊出死鬬兵潰勢孤泰員與家兵四十二名俱死於賊

官兵搗乍浦賊巢土官汪相向鑾死之

十二月官兵與賊戰於舟山冠帶把總莫翁送死之

翁送係南土兵頭目也

嘉靖三十六年四月賊攻海門衛應襲俞憲章死之

憲章百戶之子

五月都指揮沃田冠帶把總岳君寵與賊戰於天長死之

先是田統鎗手三千名守瓜儀賊犯天長操江都御史高公委領兵一千與都指揮焦鯤應援賊衝入其營鯤等潰走田與君寵及家丁封漢等力戰而死

三十七年正月賊陷蓬州所百戶李目芳等死之

三月百戶泰杭與賊戰於梁灣港死之

杭浦岐所百戶先以軍門委領白岩塘兵船守青墨門至是與賊遇於梁灣港力戰死之

四月致仕僉事王德與賊戰於龍灣死之

德永嘉人原任廣東僉事領倭流劫募集義兵二千
卞兵二百剿之與賊遇於龍湾殺賊數十既而伏賊
四起德被圍
死戰遂遇害

賊犯太平縣典史葉宗死之

宗太平人原任
典史因事去職

良醫王沛與賊戰于梅頭嶺死之

沛寧紫大以例授良醫七品散官歲壬子倭寇海濱
紫大首倡大義招集義兵七百餘人團操保鄉建
奇功後因從子廣東僉事德政而歸加募勇壯至
一千五百有奇倒後與賊戰龍湾戰長沙皆有戰績
至是與賊戰於梅嶺賊衆
大至沛衆寡不敵遂死之

指揮劉茂朱廷鑰千戶周寔百戶李爵劉源等與賊戰
於白巖塘死之

茂盤石衛指揮使廷鑰温州衛指揮僉事寔蒲
岐所正千戶爵蒲岐所百戶源盤石右所百戶

詳見福建
倭變紀

五月賊犯惠安縣知縣林咸與戰於柯梅死之

六月觀海衛百戶 與賊戰於柯梅死之

賊犯昌國烈女李氏死之

李氏昌國人寇至執李欲
汚之李罵賊不屈竟死之

十月賊掠磚頭北塔守備楊篤與戰死之

時官兵每有斬獲賊輒奪其屍
盡篤因貪功力戰而前故死之

嘉靖三十八年三月賊犯樂清三窟嶼千戶胡鳳朱璠胡
珊百戶姚憲死之

鳳等從參將張鉞禦賊於窟嶼賊伏麥田中候
官兵將半忽起敵殺官兵大潰鳳等遂遇害

官兵與賊戰於奉化之江口橋武生蔡啓元死之

啓元廣德人從叔監生蔡汝蘭物故擊倭奴累戰功
授千夫長至是我兵當賊於江口橋行列已定鼓而
向賊同行者俱潰啓元獨憤怒裂眥詈不
休涇匹馬踴而前與賊遇賊或走或伏啓元手格

殺數人會天雨民兵行潦中不得出力踏矢空顧左右皆散去僅弟昆元與二三家僮不去啓元怒益甚瞋目揮劒罵賊曰吾不啖汝肉非丈夫也獨死戰良久賊乘間渡河統其背鎗之死踰時猶怒立馬土不倒人共
祠之

四月官兵與賊戰於湾頭千戶蕭　百戶蘇　死之

千戶趙世勳鎮撫韓徵與賊戰於如皐死之

官兵搗崩湾賊巢千總沈儒死之

儒故駭將至是從南路入水手燬賊船爲賊礮所中而死

賊犯象山烈婦丘氏死

丘氏象山人王憲維妻賊劫西山至憲維室時夜分賊奸其色欲汚之丘氏不從執木擬擊之中賊首賊以刃刺其腹而死

八月參將丘陞與賊戰於七灶洪死之

陞北方駭將也歲丁巳倭犯淮陽陞提兵應援屢立戰功寇平督府因留之海戰輒身先士卒凱旋則嚴

後行賊見輒爲引避至是單騎搦戰故遇害

十一月指揮夏正爲王直黨所殺

正故通事屢立奇功奉例納級報効軍門王直之來也擁兵觀望禍日叵測正客浙胡公方署入直所爲死間直既就擒毛烈收其衆議爲復仇正又說擒其黨烈怒欲殺之正不爲屈遂爲烈黨支解而死事聞贈都指揮使廕一子爲正千戶云

三十九年三月冠帶義士沈講與賊戰於走馬溪死之

四十年五月百戶徐昭與賊戰於海山外洋死之

百戶焦涇追賊出海死之

涇臨頌所百戶

拾遺

嘉靖三十三年三月鎮撫彭應時與賊戰于乍浦死之

應時山陰人以儒生中武科授本衛鎮撫都御史王公忻知其材撥使練士會賊首蕭顯爲參將盧鏜所

改目松江走入浙境王公令應時截之于海塘重[illegible]
浦賊掩至乃奮鬬身被數創猶督戰不已遂死於陣
應時性聰敏能詩文材力兵技冠絶一時而尤精于
騎射其練兵也善撫士卒人樂爲之用及其死也人
皆惜之

三十四年正月賊犯歸安縣雙林鄉烈女嚴氏死之

嚴氏諱四英桂林知府鳳之從女也適入鄉傷其父
擄四英以行至跳街橋四英投溺馬山陰徐渭爲之
立傳

二月賊犯湖州烏鎮殺畧數千人生員錢欽婦苹氏死之

此賊突入欽婦苹氏與姑引舟卒遇之賊業已擄姑
并欲及婦婦時懷胜已九月又携一幼男隨舟中呼
曰吾母子三人俱死矣即手抱男沉河而死賊責之
復抽刀剖其腹路人聞之無不流涕者時御史阮其
寧於
朝勅有司爲之立祠

明大保新安胡宗憲輯議　孫舉人胡燈重校　崑山鄭若曾編次

經畧一

敘冠原

除內逆

定廟謨

擇將材御將附

實軍伍

選士卒

恤軍屬

精教練

足兵餉

籌海圖編卷之十一

清屯種

汰冗食

慎募調客兵附

集衆謀

收圖籍

定武畧

鼓軍氣

崑山郭造曾輯　男應龍應鸞校

經畧一

收復原　除內地

定額設

裨將不　各哨聽調

實軍伍　逃軍屬

選士卒

精教練

足兵餉

募土著　次之

調客兵

倣效謀

寬武罰

故賞罰

公賞罰

禁妄殺

恤傷殘

王事唐樞云天下學未大明人心不正以致有是諸同志欲爲得爲能爲宜冊訂印功夫的當以簿書正祭器先從天下人心上倭寇滅盡然後天人合發以定萬化之機

此言人心乃治亂之原凡論禦寇者皆詳於治法而畧於治人惟此推究本源度越諸見似迂而實切故首列之

禦海策要云爲民禦亂莫若絕斯民從亂之心今之海寇動計數萬皆托言倭奴而其實出於日本者不下數千其餘則皆中國之赤子無賴者入而附之耳大畧福之漳郡居其太半而寧紹徃徃亦間有之夫豈盡爲倭也倭有時可使之無遺種而其雜以土人也

則吾之攻殺者有限而民之附益者無窮幾何而有寧日我故愚以爲今之當事者當一面督兵截殺以治其流一面重撫百姓以治其本錢粮非

上供至緊者悉與奏免而一切軍門用度皆奏

請無礙官物以充之無令盡責諸民而其不容或已者則嚴爲會計使吏胥粮里人等無有指一科十之弊則斯民不惟身得安生而其心且有父母孔邇之懷固將可殺而不可使之爲亂矣今日郊野之間皆囂然喪其樂生之志夫民不樂生其又將何所不至哉此今日不可不爲之計者也

兵部尚書胡世寧云自古盜賊起於民窮民窮由於賦役之繁重官吏之貪酷而官吏貪酷又其致盜之六

本元素使官吏循良則部檄雖有征斂而亦爲之罷
旋善處民之政實出於輕官吏貪酷則
朝廷雖有寬恩善政而亦被其停廢楚觀民之受禍不減
故盜賊之興多由貪吏而亦最恨貪吏觀方臘之亂
所殺官吏備極慘毒此其驗也故自古明君良臣平
日既以選用良吏爲弭盜之本臨難亦以委用良吏
收平盜之功唐太宗嘗言去奢省費輕徭薄賦選用
廉吏使民衣食有餘則自不爲盜正讐遂之治渤海
賈琮之平交趾皆是道也近時盜賊所在充斤實由
昔日權奸變政及守令乘機侵剋之所致今
朝廷累下恩詔悉更舊弊而盜賊猶未革心者惟以平日
貪庸之吏揚揚猶在民上而其一二離職者則又歸

作富翁而坐享吾民之膏血或反陞要職而更爲貪
吏之營窟故無以服盜賊之心而散其脅從之黨爲
今計者宜商合風方憲臣出詢民瘼而凡舊日貪官
污吏不拘見任去官悉皆重按其罪以快吾民之憤
窮追其贓以代吾民之賦而又選用循良之吏委以
便宜覽其文法倣龔遂賈琮故事使得推誠布德散
其徒黨而一二渠魁及奸民乘間生亂慘惡難宥者
誅則就去守令設法招撫量與選委將帥調兵剿除
則盜賊平而患永絕矣計不出此而欲因循苟襲
用舊人行舊政吾恐盜賊難保其不至於滋蔓也
王臣唐樞云備倭之法步海之禁兵戶吳干
國初然兌未常絕何也夷夏有生之大利也承平時久

市舶之官勢勝流職於是爲私通之計自天順末以來安之而海上亦無盜警凡商於海者武具而力齊雖有小寇無所容於其間嘉靖初市舶罷流臣嚴其私請商市漸阻浙江海道副使傳鎬申禁於六年張一厚申禁於十七年六年之有禁而胡都御史璉出十七年之禁流延而有浙江巡按楊九澤之疏乃有朱都御史紈之出視撫設而盜愈不已何也寇與商同是人也市通則寇轉而爲商市禁則商轉而爲寇始之禁禁商後之禁禁寇寇勢盛於嘉靖二十年後是時居有定處隱泊宮前澳南紀澳雙嶼澳而已又人有定夥名酋不上六七許棟李光頭就擒張月湖蔡未由死陳思聒爲王直所殺王萬山陳太公曹老

又皆不聞矣又況入有定時登岸虜人致其巢責令以貨贖後乃盤據內地隨在成居而惡少繼發徐明山者三十二年前之禪詮約步遨於浙之西東而莫之識也當夫壬子前盜形已具沿海有司爲禁益嚴內外商物不得潛爲出入內地人素與交識者因負其貲而不償夫然後壬子之變作矣

此言海寇之患其始由於流官嚴禁海商其後成于內地奸民負商貲本

都御史章煥題內一款云倭夷安從至哉有首亂有脅從有導引明乎此而後賊可理也故外賊易見內賊難知今以海外蠻夷而深入內境道路之紆曲民間之虛實官府之動靜纖息必知者誰爲之也又其始至千人四布無一知者及鳴號而須臾畢集賊固善

匪匪之誰也此東南之大變也夫吾民重困欲爲海
久矣然時有見執之患自賊聞入而爲之用進有望
外之獲退無盜賊之形海濱無關隘阻詰柔艫輕舟
往來甚捷此賊之由通也與賊連衡與良民雜居賊
未至皆良民也賊至則良民去奸民留賊去又皆良
民也此禍之所以難測也兵入其地以爲居民詢賊
情問道路悉爲所誤當此時以爲奸民戮之然有良
民也以爲良民舍之然有奸民也故兵多惑亂而妄
行故倭夷有由入也亂賊有由熾也兵行有由誤也
良民有由變也城郭有由驚也奸萌有由自也故奸
黨大猾則賊患不止故安攘之計莫要於安反側夫
反側之初良民也橫征暴斂迫之耳故奸民不可以

形治也治倭寇以兵治反側以誠故內賊爲急外賊
次之政事爲急甲兵次之誠德良吏而分治之行寬
大布恩信問疾苦時犒賞明示不殺反側者回心矣
此禦遂所以治渤海之盜也且今良民安居而樂業
彼將反本而呼天捐親戚背鄉井冒危險豈其情哉
是故賊黨而伐賊謀也倭夷安從入哉故良吏優於
良將善政優於善戰不然雖師百萬能驅倭夷不能
驅奸民奸民在賊可以復入師不可久留是行奸民
之計也且天下寧獨倭夷可爲亂哉故反側爲要夫
反側者反間之因也敵情所由得也善致之則爲我
用不善致之則爲賊用此尤兵家之要微乎微乎不
可以盡言者也

太守嚴中云海商原不爲盜然海盜從海商起何也許二王直葺通番渡海常防刼奪慕島夷之驍悍而善戰者蓄於舟中泊於雙嶼列表濱海之民以小舟裝載貨物接濟交易夷人欺其單弱殺而奪之接濟者不敢自往聚數舟以爲衛其歸也許二輩遣倭一二十人持刀送之倭人還舟遇船即刼遇人即殺至其本國道中國刼奪之易遂起各島覬慕之心而入寇之禍不可遏矣

此言海商初無糾倭入寇之念因防他盜漸致乎此其後遂即真大受倭患矣

都督萬表云向來海上漁船出近洋打魚樵柴無敢過海通番近因海禁漸弛勾引番船紛然往來海上各認所主承攬貨物裝載或五十艘或百餘艘或群各

黨分泊各港又各用三板草撇脚船不可勝計在於沿海乘行刼掠亂斯生矣自後日本暹羅諸國無處不到又誘帶日本島倭奴借其強悍以爲護翼徽州許二住雙嶼港此海上宿寇最稱強者後被朱都御史遣將官領福兵破其巢穴焚其舟艦擒殺殆半就雙嶼港築截許二逸去王直亦徽州人原在許二部下管櫃素有沉機勇畧人多服之乃領其餘黨竊住烈港漸次併殺同賊陳思聆柴德美等船艘遂致富強以所部船多乃令毛海峯徐碧溪徐元亮分領之因而海上番船出入關無盤阻而興販之徒紛錯於蘇杭近地人民自有餽時鮮餽酒米獻子女者自慴黃巖著霖禴而其志益驕其後四散刼掠不於餘姚

則於觀海不於樂清則於瑞安凡通番之家則不相犯人皆兢趨之杭城歇客之家貪其厚利任其堆貨且爲之打點護送如銅錢用以鑄銃鉛以爲彈硝以爲火藥鐵以製刀鎗皮以製甲及布帛絲綿油麻酒米等物

此言海寇起於中國邊海奸民違禁取利初通西番後及日本爲寇心腹毛海峯徐碧溪徐元亮者乃其魁首而許二王直又魁中之尤也戚南渠罷非策之至要而功之無上者歟

海道副使　云片板不許下海禁革雙桅大船乃屢朝明例以鎖禍未萌意至深遠奈何沿海竈丁假以採辦私造大船違禁下海始則取魚繼則接濟甚則通番十數年來富商大賈倖利交通番船滿海間有朱秋崖任事之臣力行禁捕而大家竈戶浮議橫生不已

小民無以聊生則曰國課必致虧損加之監臨憲臣逼邊竈戶過抑邊官摘拾小衅節次論劾海道備倭勒斥相繼遂至避禍潛蹤海禁愈嚴養成大禍莫有敢言者往年倭寇扮擄漁船逼爲黨羽既得其船以張聲勢又驅其人以爲嚮導蘇松之寇半皆脅從捕獲有賊尤多竈戶必須申明嚴禁仍乞特勑巡鹽御史鈐束竈戶止於額設海邊場蕩採辦煎鹽違照鈐束專例小船編號朝出暮入循塗載鹽不許造大船入洋採捕招惹倭夷仍立連坐之法以稽私出之弊如有縱容下海爲盜者運司場官併得坐罪

此言漁戶竈丁但當用小船不容其打造大船通番引寇

除內逆

兵部尚書楊博題云倭賊入寇多因我民爲之勾引蓋逋逃不歸則禍本未拔東南無息肩之期合行督撫諸臣多方招徠務使不軌之徒以次歸正

又題云蠡尔倭奴敢肆流劫者皆緣我之內逆爲之鄉導也倭奴非內逆無以逞狼貪之志內逆非倭奴無以遂鼠竊之謀必須禁捕內逆方可消除外寇合行督撫諸臣責令軍衛有司將沿海居民逐一清查造冊在官稽其生理時加約束敢有仍前不悛從倭爲逆許令同里之人赴官告首即於犯人名下追銀三十兩充賞本犯從重處治拔本塞源此爲要務也

定廣誌

都御史唐順之題云自海賊入寇以來十餘年東南雖苦其毒而賊之被殺者亦積至幾萬今年寇江北寇漸東者且萬餘而寇福建者傳聞不下二三萬則是殺者不可勝紀而寇者不爲少此夫酋倭與北虜異日外砂礫之地從古以來原有韃子腹裏膏腴之地二十年前原無倭子今日外尚有一兩年無寇而倭子却無一歲不來如此不已非止外患將爲內虞古云兵久則變生近者吳淞定海之間水卒呼糧挾官縛吏則兵變之漸矣蘇人素怯弱而游冶子弟懷毒蓄機日伺倭來裏外合應幸早發之猶燒官寺劫獄因鬨然一逞則民變之漸矣此其萌芽也誠不可不深圖而熟慮之若謂倭寇之來一歲支却一歲一番殺却一番便自了事則臣不敢知其所終也伏惟

聖明勑下禮兵二部備講

祖宗以來招懷撫諭之畧防海固圉之機及

勑督撫諸臣徧訪倭情集議長策二十年前何以絶無倭患十年之間何以倭患若此年年禦倭何時是了如何可以永斷倭寇之路以復東南之舊苟可以利國不必爲身家顧慮苟可以便今不必以成說拘牽外內臣工方畧畢上然後

聖明與廟堂大臣從中主斷而力行之期於三年四年斷却此賊臣猶以爲速也不然一歲一來一來一勝且猶以爲浪戰

兵部尚書胡世寧云自古將材難得而起自行伍慣歷戰陣者尤爲難得今彼處邊軍衝鋒破敵者既拘例不得報功而斬獲首級者又被勢豪奪去不得報陞官級至於指揮千百戶間有謀勇可用者又或家貧不得營幹管軍事以顯其材以是將官起自行伍真能殺賊者不可再得今宜嚴

勅彼處鎮巡官公心體訪指揮千百戶中間果有謀勇出衆家貧不得差遣者務要公心選任管隊把總掌印備禦等職至於勢豪奪功之弊尤宜痛革而行伍士卒果能衝鋒破敵或斬獲首級者務要實報功次使其得陞官職與選任指揮千百戶俱令積功漸

陞品級以備將官之選則在邊將領可得真才而緩急有備矣

又云武職中固皆可將者矣然而天生智勇當不專在此輩之中故自古國家用兵常乏將材民間盜起多是豪傑臣愚以爲莫若即此輩而收之則既獲將材又弭盜賊策之上也如蒙乞

勅兵部計議通行天下軍衛有司精加訪察九軍民中有膂力過人武藝精熟者悉選在官其良民不願者不必強逼選在官者軍則任以把總管隊民則授以總甲教師等項名目畧加優給使之隨軍操練遇賊擒擊積勞多者量授職事以旌賞犯罪重者即發邊方以立功至於兵部亦乞比照工部添設主事等官幾

廷臣進士中才畧明敏者爲之平時則令草雉以習運籌有事則令出差以諳邊務才弱弗稱者改選別部才能稱職者專陞兵備及邊郡知府等官惟此二塗之中牧養既多其間必有真才出用而能爲

國家弭大患立大功者矣

又云選將責在兵部者蓋惟守邊常職耳今軍政不立久矣若遇中原盜起而專命武將之出貪功好殺盜猝難定而民命已殘惟得文臣能帥者監而統之則相機度勢撫捕兼施然後眾從可散而首惡就擒賊可早滅地方不致大殘矣

兵部尚書張時徹云三軍之司命則在將帥今之世祿

紈袴固有宜力疆戮長於馭眾者矣寧無腹削以自肥用賄以干進者乎畀之兵柄求無敗事不可得已昔晉悼公使樂絓爲戎御以訓諸御知義使荀賓爲戎右以訓勇力之士可以時使山林草澤行伍之間未嘗無干城腹心之士也歐陽脩所謂求賢勞之士不必限以下位智畧之人不必試以方馬山林之士不可薄以貧賤以非常之禮待人人亦以非常之效報國文謂取禁軍廂軍年少有力者不拘等級因其技同每百人團爲一隊而教之校其技精而最勇者百人之中必有一人得之以爲裨將合十裨將而教之又於其中擇有見識知通變者十人之中必有一人得之以爲大將此一人之智勇乃萬人之選也

丙辰會試策云古之遣將者或誓于軍中或誓于軍門之外或將交刃而誓所以一志而定制也故將者君授之制而無所制于人者也昔孫武爲吳將兵未試而斬隊長穰苴爲齊將始出而斬監軍此二子者非好殺以明威也子公伐邳支延壽欲請之而不從條候禦七國梁王數趣之而不動此二子者又非執已以忤物也然且行之則以萬人心而制重也故古者將之於軍如心使臂如臂使指赴湯火投溝壑而無不從者誠足以制其命也而今也如潰土如潰癰敗則不可收拾將與俱靡而已此最今之大患也愚以爲將必先有天下之識其命世之才自知其足以任矣然後不辭而受之因察彼已審虛實慮時當否其列其狀請少寬日月一切得以自由如有不效願伏斧鑕既得請矣然後卧薪嘗膽不與此賊並立入忘北冢出忘其身淬礪奮發天地可感金石可破矣蓋三軍之志銳矣然後左援桴右援旗中衆而誓之取其不率者罪之於庭以令三軍又取其甚者縣旗於門以令衆其令一新矣然後陳金於麾縣格於外有士從中吐奇撫劒躍而出焉則賞之又不踰時有士從外提戈斬級躍而入焉則賞之又不踰時士皆進距作矣有將如此則其氣足以橫海上而自無畏矣軍安得不壯功安得不成故有將則其他

末計矣

外若云選將命將之權皆出自朝廷有命就可辭無命就敢請愚謂此只在當相汲汲求人其餘用兵之法賞罰激勸之事苟得其人不患其不能也

御史徐敦題稱先該巡按御史周如斗疏請於沙兵者民之中照例論功陞賞不願陞授者許其子弟讀書者入學不讀者充吏承其舉人監生人等敘功加級選用此亦因時處宜鼓舞人心之術而未經詳議舉行者何也議者不過以名器至重豈宜私濫然既與之冠帶矣前之援例入監補官矣則何惜乎此而不以勸效死之人心作東南之士氣哉且此輩類多粗悍而養之學校榮之祿秩又所以爲化誨懷來之方也今無推廣前例激勵後圖仍嚴行監軍御史敘論功次分別等第不致冒濫或許實授或許入學或許敘用而將領之久効勞於海防者仍念人才爲今日之急勝負爲兵家之常通論功過勿以一失而遽棄之

（註曰激勸沙兵者民之法愚謂欲用沙兵者民須督以文官如督官兵之法方可不然則將放肆如苗土兵矣）

參議唐愛云今之論任將者不曰使貪使詐隨才器使則曰精選賢才不宜輕用愚以爲二說皆是而皆未也何也使貪使詐云者非謂貪與詐爲當用但云駕取之有法耳若將而貪污則虛報兵額侵匿粮銀尅剝下人縱容剽掠無所不至矣曾有如此之將其部伍不完號令不行而能立功者乎若必求廉吏而用之拘拘於繩範之內一毫不取一毫不與何以激勸

功能結納人心也昔漢高以千金與陳平縱其出入李牧備邊凡莫府聽其饗士莫與稽考故皆能成功今之將官自俸祿外更無舒展何以感動軍士而致其死命乎如愚似宜體恤其情

奏爲定例總兵歲與者聽其作犒賞之用不問其費之由由是而查其部伍禁其剋剥責之以成功則在上者心無不安而在彼亦得以足兵足餉選練攻守沛乎有餘力也或者曰使其妄用與入已如之何曰通計總參能幾何人試以浙江一省計之不過費銀六千兩而止耳使其能衛生民不受屠戮之慘則歌歷風濤衝冒矢石勞苦萬狀即以此而優厚之亦豈爲過乎不然廉者難望其立功貪者難責其守已蠹國

殃民多靡邊費比之明與六千之數損益不大相遠哉

此言體恤將官乃任將第一要訣也向來將官多不成功者正以貪者無德以服衆廉者無力以設施若能恤其私則貪者可以無貪而廉者可以成功矣此義人皆知之亦私議之但避嫌而莫敢上達愚故述而載之

副使吳子孝云太倉崇明三沙之人慣於舟戰下海遇寇往往殺之而取其貨今宜訪其豪傑用之以統諸卒彼既不能爲盜即殺盜以取功耳

[illegible]洲生員陳炫云崇明各沙居民或鬻販私鹽或江洋[illegible]利技藝精能然各有土豪自能役使近[illegible]擒[illegible]其[illegible]慎其殘虐今宜授以劄捕文書許[illegible]
以[illegible]職任合[illegible]而[illegible]其[illegible]聚[illegible]言而[illegible]其部落一

以遏彼衆機劫掠因之肇亂一以防彼結連賊黨爲之鄉導

此言汝者民當收用與吳副使之見合或云甚失此二議之難行也向者土豪私爲窩主上畏官法下無以制賊之死命猶且徃徃陰蓄異謀若授以剿捕文書甚至奏請將見外狹官法以要盜賊之常例內挾盜賊以要官府之緩待流劫之禍日甚一日而不可救矣

舉人王文禄云今當選衆之中或將萬兵者名之曰萬總即借指揮之禄與之有功另行外有將千兵者名之曰千總即借千戶之禄與之有功另行外有將百兵者名之曰百總即借百戶之禄與之有功另行外其不能將兵之官止食軍之月粮是亦有禄矣其指揮千百戶有能領兵者聽若然則兵皆將也

此言選將定禄之法

御史張椿云爲將須有膽有畧有量有德殺人如刈草從善如轉環用財如揮沙保民如嬰子故軍泥敬常不收介卓吾曰將者不足與有爲也

閩撫知將徃後卿云地利既得必貴擇將法曰有良將無弱兵今將帥取諸世胄統御習深英雄氣少雖馳馬彎弓有未能者況望其諳韜畧乎武舉科亦未能盡得其人欲將外衛官員照京衛保舉會舉之例援擢聽用其不稱任使者照文職加俸住俸事例或遞減其俸留爲軍門礪鈍之具文職之中有能知兵善陳者參酌要用不必拘以常格則豪傑之伏未必無人或致仕官僚或舉監生員或山林草莽諸凡術數

小道有能占天文曉兵法閑武藝善游說一切可爲海防之裨者皆招致之察其聲實之如何隨其材品之高下使之各盡所長以神鼓舞則人莫不激發而賈勇效能矣此王陽明于居家握兵之日每能延攬以寓此意

予按諸公論選將之法詳矣然猶似欠明也何也將有不同有大將有偏將偏將亦不同有先鋒有哨援有守營有奇伏必先正將之名色而後論夫選之之法庶言有歸着而法不混施焉耳何謂大將運籌幃幄之中決勝千里之外屢懷而取善不遺用材而器使各當古人所謂善將將者是也何謂偏將恤下而不苛遇敵而不懼奉令而不違沈

幾而不露應變而不窮古人所謂善將兵者是也要之上通天文下達地利中諳人事兼此三者而後可以言將否則不得乎太乙六壬禽遁之傳不知乎鴛鴦鞭鍠之術孰爲勝地而宜據宜爭孰爲要路而宜守宜伏敵情有緩急難易如何而攻陣勢有奇正分合如何而用孟浪而戰是以卒與敵也夫大將以出令爲職者也若識不足以範圍才不足以駕馭諸將其肯奉行乎偏將以受成算而不自用爲職者也若提兵既遠不能隨時出奇而欲一一關白上帥其能以成功乎昔王晉溪在本兵寀濠之亂談笑自如人或訝之晉溪曰茲事吾已料理之矣王伯安有大將才吾置之於贛州

是道未幾而全提踰至入威和服愚謂選大將者
當以晉溪為法仇威寧之大父為百戶時虜騎數
萬突至都御史李忠宣知其能使率兵禦之仇毅
然曰兵不必多憑吾自選五十人足矣忠宣從之
仇度虜所必駐之處掘地坑令二十人埋伏覆以
蘆席飾以浮土三十人登山瞭望以銃為號虜至
此果扎營夜半銃發坑卒地雷亦起虜疑大軍襲
之自相踩殺過半而走質明五十人歸報中軍遣
人馳割首級遂成奇勳可見勝敵不在多人命將
亦不必循資格惟存乎知人善任耳矣愚謂選將

兵部尚書胡世寧云陸贄有言將貴專謀兵以奇勝軍機遥制則失變戎師稟命則不威而欵敦以付授之義固以親信之恩假以便宜之權待以殊常之賞其餘細故悉勿開言所賜詔書務從簡要蘇轍所言宋祖用將之善而欲脩其成法擇任將帥而厚之以財使多養間諜之士以為耳目此御將之術也

又云自古御將莫如宋祖昔人謂其降之以恩厚之以誠富之以財小其名而崇其勢畧其細而求其大又其官而責其成功萬世御將者所當法也

兵部尚書張時徹云衛所轄於都司都司轄於五府其
卒伍之設每百戶所旗軍一百一十有二千戶所一
千二百二十衛列五所及衛鎮撫凡五千五百有奇
此言設兵舊制

又云清勾之法既壞里書脫漏戶籍勾補者百無一至
即有至者本管過爲請求收伍未幾旋即竄匿至於
犯法充新軍所在種種不法網不嚴會未有隸尺籍
荷戈戍者兼之法弛之令過嚴異姓充役及無妻者
輒俱罷軍雖替增義子一切不錄軍安得復舊額乎
此言兵不足之故有三

又云其犯罪充軍者發爲發解明隸尺籍如近年兵部

題准事例不得有所隱脫又不足則召募土著之人
若力精壯者程能試補仍復其身而給之食立以程
限以二十歲爲始五年而罷復爲民有疾病願復民
者聽不若之以終身不陌之以永遠則人皆鼓舞爭
爲兵矣仍籍應募他郡者責令來歸其冊籍則歲注
之給以懸牌嚴其虛冒私替之弊當其精壯善鬬之
時得以盡力武事而不出二十年後復爲平民皆知
自愛而重犯法不至叫呼無賴爲凶人如此則軍無
缺額而必無不任戰之兵死于無罪者矣
此言足兵之法有三

又云 國初沿海建設衛所聯絡險要今軍伍空缺有
一衛不滿千餘一所不滿百餘者宜備查缺額之

而補足之其運粮班操等項原因海上無事撥借別用者可悉還之原衛所使自爲守衛所之兵常足則備禦無患矣

此言足兵須先查復撥借別用之卒

都御史唐順之云逃軍許其自首隨處收補一節論明決直截僕亦同此意蓋與逃而無用不若就近而補之猶得一軍之用也既而思之深有未便者苦寒磽确之地人甚不樂居嚴法羈管嚴法清勾然猶住者多逃而逃者不獲若逃軍即許改編則雖素不逃之軍亦孰不逃焉是今日逃軍之補見役所以釀成異日見役者之作逃軍也利少而害多矣是以不敢遽有題請

此言處逃軍之法不當聽其隨處收補

海道副使譚綸云衛所官軍既不能以殺賊又不足以自守往往歸罪於行伍空虛徒存尺籍似矣然漸中如寧紹溫台諸沿海衛所環城之內並無一民相雜廬舍鱗集豈非衛所之人乎顧家道殷實者往往納充吏承其次賂官出外爲商其次業藝其次投兵其次後占其次搬演雜劇其次識字通同該伍放回附近原籍歲收常例其次舍人皆不操守即此八項居十之半且皆精銳至於補伍食粮則反爲疲癃殘疾老弱不堪之輩軍伍不振戰守無資弊皆坐此至于逃亡故絕此特其一節耳爲今之計合無委賢能有司官員公同該把總官前去各該衛所督同掌印等

必計其伍分先將城內行走盡行查出計
干每街每巷共有門面若干戶分格腰經一張論令
自開房屋幾間男婦幾口其係精壯某係老弱至於
釜竈床鋪若干亦要從實開載貼於大門之上乃各
委官親自持簿帶領各任官旗沿街履戶逐一挨查
面詰該管官旗有無隱漏并執結明白然後比對戶
口文冊庶幾可得十之七八於是取其見在人數通
行挑選精壯者存留食糧老弱不堪者通行革退即
以戶丁精壯餘丁選補如果在營故絕無丁者除本
省地方照舊行勾外其[illegible]人民屢勾無解者不必
駕言單勾即查照近例應選別戶精壯餘丁補伍至
於充納吏承違例役占者自今伊始通行禁止其實

放逃出外行商業藝投兵搬戲及隱容在籍收取常
例等項俱責令該管官旗及家屬人等免其前罪通
行勒限招回一體選補務使食糧者皆精銳之士無
復以老弱充數不食糧者照依保甲之法編守城之
人如百姓守城之例不得以無糧藉口該管守旗招
徠補充至五分以上即量行獎賞其始終不改縱容
賣放如故者掌印及諸伍官旗聽各道從實查參輕
則問罪降級重則綁解軍門治以軍法如此庶軍政
可肅戰守有人不至臨時紛紛請乞矣

此言兵不足之故有十能
查處此十者則兵足矣

御史曹光等題稱各該衛所正軍之內餘丁有精壯者
[illegible]數挑選補伍然補伍又[illegible]終其身力行終

補與正軍永遠者不同其補過各軍月粮務從長
處以充其養贍之資如有附近人民驍勇願役克者
亦聽收伍月粮照例支給特
勅巡按御史嚴督守巡道等官親詣地方着實舉行每遇
復
命之期將各衛所正軍拜補過餘丁各若干有無充足堪
用處給過月粮若干有無缺乏從實具奏以憑查考
此言是兵之法有二與
張尚書譚副使暗合
御史周如斗云沿海衛所軍伍缺乏之甚尤當改爲之
充補乞照昔年改編附近事例如在嘉靖三十年十
二月以前凡南北衛所逃故清勾者及遺失清勾查
無名伍發回聽候者皆准改編附近沿海衛所至于

直隸江北江南等處其新充附近終身軍犯尚未發
遣者合無改發各該沿海衛所其有定發衛分永遠
充軍追贓未完及未發遣者蓋以其畏邊方之遠且
因例有監故免補之條率多延捱前贓以圖苟免軍
伍法固難逭情有可原者合無亦自嘉靖三十三年
十二月以前在監追贓者量行改發邊海衛分彼將
樂於地方之近而無靳于追贓之難不惟有以充實
軍伍抑亦可以追完宿逋由前則士兵之緩急獲
濟由後則軍伍之完永遠有賴矣
此言處逃軍與問軍不肯着衛者之法其心甚
仁其見與潮川世相反錄之以俟有識者採擇
或云今之論兵者有五曰足軍額曰選舊兵民北曰練
鄉民曰募義勇曰調客兵此五者救時之切務也愚

謂非採本之論也何也衛所軍與弓兵民壯乃官兵也官兵足何事他求乎惟軍則缺伍弓兵民壯則不堪用故思練鄉民鄉民不能遽練也故思召募召募不得人也故思徵調不知向來兵政之敝其原不在於此乃將官畏死不敢擅動官軍殺賊之故也我

朝大明律一款云云夫兵凶戰危勝敗者兵家之常也自古名將如太公孫武武侯其人上下數千年落落可計外此雖善戰者不能爲必勝矣設有所損其數豈可量哉蓋我

太祖撥亂反正躬親戰伐深知馭將之當嚴而行師之當慎故以是垂訓使爲將者常以失機爲憂全勝爲念則練兵不敢不預臨陣不敢不勇耳此其立法之至意所以重人之大命也若其用法則又有權衡於其間而未嘗執一如云云蓋人情易怠而難久常恐懼之徐慮其忽若立法不嚴則喪師失律何所不至也自定律後莫敢不遵凡遇用兵言官引之以糾劾法司據之以問擬將官惴惴焉寧致其身而不敢損軍士非閃奸以規避則顧家兵募義勇以衝鋒若有敗衂軍額不虧則失機之罪免矣古者寓兵於農有事則戰無事則耕後世軍自軍民自民軍常設以衛民民常耕以養兵此國用之所以常足而民力之所以難堪者端以養兵之費大也既不用軍以戰則軍爲徒設不過聽差點名虛文而已矣練之似爲徒勞不練亦無爲害左班似爲徒養選之亦爲不譽衛官初

以兵缺為利而侵月粮法司後查其粮而作羡餘兵
日漸寡粮日漸縮若遇寇亂撫操兵備見軍無適於
用欲究之則弊又欲用之則徒使將官受失機之誅
耳不得已權用民壯義勇更廣募調以支之寇平官
各以功擢去雜復理前任之事也故雖大亂如倭
朝廷新設總督提督重臣添設兵備副使海防僉事一時
亦不能正其弊不容不用夫義勇民壯乌兵見不堪
用不容不更召募召募無良不容不更徵調徵調不
可常則又議練鄉兵嬰之鄉兵僅可自守而不可為
鄉援不如復
祖宗舊設軍額欲復軍額須復舊設粮額此相須之事也
粮額如舊則足軍無難軍額如舊則沿海衛所隨在

有備不必募調而常如募調且實省募調之費矣然
有軍不練與無軍同練而不戰與不練同如愚見是
在科道官以蒸民之生命為重以一年半年務有實
協議會奏遠稽
太祖云云之言近述
聖上屢批戴罪殺賊之例嚴
令備海道官專督衛所官練軍限以一年半年務有實
功准贖若損軍至數人而獲級不多則姑容緩死戴
罪仍
勅總督提督今後賞罰務查將官功次若獲級多而損軍
少者准其贖罪損獲相半者從輕姑令戴罪俟後有
功准贖若損軍至數人而獲級不多則姑容緩死戴
罪管戎行路調伴之戴罪殺賊視後功次大小而
去其

量處之若隊伍敗衂全無斬獲者照
大明律失機處斬如是則將官莫敢不用軍以戰而凡戰
軍莫敢不用素練者矣豈非善體
太祖立法之意通其變與民宜之乎不然軍固命也民壯
義勇與募調之兵亦莫非命也重損三人則以犯律
而論失機民壯義勇募調之兵而損三十人三百人
亦以律所不載而不論可乎科道官以言爲貴且碍
律而不敢言總督提督奉律以賞罰人者也顧敢自
擅乎夫
國家設軍衛民戰死乃其分也今受民之養而不與民
悍患民反代之戰焉天下之寃孰甚於此愚謂此弊
若無人敢言則將官終不用軍以戰不用軍以戰則

軍伍之缺不必查補而沿海設備非廣募調何人以
布列之耶天下之寃吾不知其所窮而倭寇之患吾
不知其所終也雖然猶未也兵必土著馬牧於官古
之良法也欲補軍伍須改遠爲近則服水土便勾攝
如是而逃者乞題照職官謫戍但逃殺了之例著爲
定法此非變
祖宗之制也法久弊生不容不救而通之也

此言將官畏法之嚴不敢擅動官軍愚謂亦豈獨將官哉先王制刑所以禁天下之暴不若是嚴不足以禁暴也昔契丹與晉金人戰會有明驗矣始以法之嚴不敢動官軍自戰有敗及後不得已用官軍又稍輕其法人皆曰臨陣者死臨陣者生向前者死向後者生亦自戰有敗可見法不足畏亦可知苟得此人官軍亦可使奏功可法重亦可法輕亦可在上者明作法以馬以末人爲先務哉

或云清苍似矣但近来風俗或以賄賂或以嘱之一至

地方則計其所獲倍其所費以致富者雖強壯而逋籍貧者雖老弱而加名即有清正人員若不順人清一切用法多致激變又因循撫葺是清查之法非惟無益而有害矣余每云古今有治人無治法種種皆驗

予按向来不敢用軍出戦端為律法太嚴而兵難遥度恐少有挫衂則犯失機之罪故但用民兵易於掩襲此誠將官之積弊也然兵部題催已有新例矣大略云但當練其血戦之功而不計其失伍之罪軍伍缺者亦有例許民充補所在巡撫兵備衙門正宜舉行以實軍伍以之操練以之征勦可也論者未知新例故尚泥舊制非矣

參將戚繼光云兵之貴選尚矣而時有不同選難拘一若草昧之初招俠之勢如春秋戰國用武日久則自是一樣選法方今天下承平編民忘戰卒然之變自是一樣選法大端創立之選勢在廣覓分揀等率均有所用天下一家邊腹之變將有章程兵有額數餉有限給其法誰在精第一不可用城市游滑之人但看面目光白形動伶俐者是也好巧之人神色不定見官府貌然無忌者是也第一可用鄉野老實之人所謂鄉野老實者黑大粗壯手面皮肉堅厚有土作之色此為第一然司選人之柄者或專取於豐偉或專取於武藝或專取於力大或專取於伶俐此不可

以為準何則豐大而膽不充則緩急之際脂重不能疾趨反為肉累此豐偉不可恃也藝精而膽不充則臨事怕死手足倉卒至有倒執矢戈先衆而走此藝精不可恃也伶俐而膽不充則未陣之先預思自全之路臨事之際既欲先奔復以利害恐人為已避罪之地此伶俐不可恃也力大而膽不充則臨時是軟眼花爭之不聞推之不動是力大不可恃也與言及此選士之術荒矣然廢四者而別圖之不可也諺曰藝高人膽大是言高藝止可添於有膽之人非謂懦弱膽小之人苟熟一技而即能膽大也素負膽氣豐偉伶俐而復習以武藝此為錦上添花也然此輩不易得思其次則武藝尚可以教習必精神力貌兼收

又不若選各親識鄉里哨隊長舉首此數者皆選兵之一策而必膽為主膽在人腹中不可見何以選為殊不知人之精神露于外選人以精神為主而當兼用相法忌凶死之形重福氣之相此盡選人之妙矣使伶俐油滑宜用鄉野愚鈍鄉野愚鈍之人畏官府畏法度不測我顛倒之術誠信易於感乎愚氣易於振作先以異常之威壓之使就我教中而即繼之以重恩收其心結之以至誠作其氣則為我用命無疑此萬試萬効之方也若愛先于前而後繼之以威則怨叢而恩不感矣是故尊令奉法臨事用命所以成天下之功也但威嚴不能自行所以使威嚴之永行無阻壞者恩與信也彼天下之至親至情莫慈父之

于孝子若也設使父必于殺子雖孝子且不能無私言況烏合之衆行伍之兵耶是故必恩以佐威庶威恩為有濟此予數年之獨秘雖後月名將之出必不易予言也

兵部尚書楊博題云優恤軍士著在令甲即如近日山西等處之變固是諸軍自干天憲至於處置乖方當事者亦不得不任其責合無倫行督撫總兵等官令所屬大小將領將部下士卒察其饑寒問其甘苦務使人樂為用闡明信義整肅威嚴務使人不敢欺則感恩畏義無不願死以報上矣

兵部尚書張時徹云議者欲以鄉兵代官兵奏疏交攻積滿案牘而迄未有能行者何也以調遣之失業也糾聚之妨農也差官審編又不以賢能正官而率以佐貳首領所至之地富者行賄求脫强者挾詐求脫故冊籍未定而委官之囊橐已滿其充數者非貧難下戶則蠢愚無知而鄉長甲長則無賴猾氓也謂宜明示號令不調遣遠出不糾聚妨農委賢能正官親詣關廂村落備查編戶隨其住居相近團聚大率以若干家爲一甲就中選有力量者二名立爲甲正甲副置牌一面上書甲正某人甲副某人居民某人某人仍於五甲之內選其才能服衆者立爲鄉長使之統

領總置一牌上書鄉長某人管領甲正幾人某人某人甲副幾人某人某人各該居民若干某人某人列於各甲正甲副之後仍令每家書寫排門粉壁互相譏察各備鋒利器械幾件每鄉長管下置大旗一首及合用銃砲等項聽從鄉長統領前至空閑處所演習武藝一遇有警即便升旗舉砲各率牌內之人同走要害地方設法把守併力截殺仍於通行街巷路口樹立壯固木柵堆積石塊以便拒守其居民或多或少隨宜團練不拘定數仍照兵部題奉

欽依事理保甲領袖先行給與冠帶以爲激勸有功之日一體陞賞庶幾家自爲守人自爲戰不待調發之勞而收保障之績矣

兵部尚書胡世寧云從地方總甲里老人等將各家五十以下二十以上壯丁不分家主義男家人盡數報出而於各家排門粉壁上各書本家壯丁姓名年貌其六十以下十五以上名中下亦書以備運磚送飯等用仍責一壯丁各置堅利器械二件不分晝夜各請教師演習武藝所製鎗杷務要長短大小一齊弓弩各隨氣力強弱其間尤分長者學弓學鎗短者學杷學牌仍仰學鎗學銃者各兼學使棍學弓學弩學牌者各兼學使刀前項人丁內除官吏監生生員并見操民壯征進軍丁一應在官役占之人外其每三丁內抽出一丁不及三丁者將別戶朋湊亦要三丁內義讓一丁僉爲鄉夫街夫二項名色仍要每甲內選立武勇一人爲小甲置小招旗一面每鄉每里內各選立有行止才望能服一鄉者二人爲正副總甲置大旗一面各置號頭鑼鼓部領齊集每五日一次在城者就軍伍教場在鄉者就本鄉教場各操練武藝鄉市軍民之中若有恃勢力過人武藝精熟者須聽赴府報名另爲義勇名色本府重加優待臨用之時與軍同給粮賞其各鄉原立備賊寨堡亦要趣時脩築完備以防不測

此言團集鄉兵之法

又云精選各戶壯丁年二十以下十八以上氣力强壯身才矯捷之冊籍紀年貌選委教師演習武藝仍編每十名一甲外立小甲一名另添雜役備缺一名以

一總外立正副總甲各一名以應古正副隊頭之制分為八總每二總共選立百長一名統卒共該民壯五百名其餘二十六名作吹哨手每總內前一甲十名內五名學牌五名學鎗第二甲十名五名學把五名學叉第三甲十名俱學弓箭第四甲十名五名學銃五名學弩第五甲十名五名學棍五名學長刀其總小甲俱執旗鎗仍帶弓箭或腰刀副總甲執刀并帶弩箭在後押隊仍選身材長者學弓箭銃弩短者學鎗牌把棍

此言練兵之法

又云教閱之法在斟酌古今之制而施行之其當簡

汰其疲老病弱升擇壯健驍勇如胡明仲之言二當先教擊技多習弓矢及今摩甲重器演習慣便而後習走陣之法如宋仁宗時議者所謂諸軍止教坐作進退雖整肅可觀然臨敵難用之意

又云宋學士蘇軾有言天下不免於戰無事之時士大夫當尚武勇習兵教庶人之在官者以行陣之節役民之司盜者以擊刺海藏終試之較以勝負以行賞罰一旦有事免世道計者之所當

巡撫都御史唐順之

申明以練兵為

督楊博一疏內

間為督撫者亦或何人兵而在練[illegible]見總

積弱已非一日故而

兵之不練弊亦久矣所謂專倚邊兵不練土兵者誠如

明旨不敢盡飾竊以為目今權時之宜但可責鎮兵以為守量調客兵幾枝以為戰待鎮兵練得一枝精銳然後將客兵再減一枝至於舉軍盡練得精銳士爭抵掌人賈餘勇一旦遇虜必不退懾屹然足為北門倚重然後更議免調之期則望實不失而經權兩得也

此言目前且用客兵救急待練土兵成然後免調其說詳見定軍制條當與此參看甚善甚善但惜薊川疏中欠說練之之法如何似為未備

丙辰會試策云兵而有制則淮陰驅市人而勝泜上卽無制也則符堅以四十萬而敗於淝水兵多則難制難制則易敗此其明驗也故莫如練土著之兵然始

練不可以倉卒而調兵不可以持久莫若稍減其調而徐候其練調簡則易精練久則愈習精則士著之兵益奮習則調兵可以益減此互相輔而終相省也

此言調客兵練土兵當相兼而行與唐荊川茅鹿門之說相似

其法則分責守令而總責之將非愚所能悉數也

或者六令之議者不思練兵而數欲調兵昔山東兵嘗調矣而無救於敗狼廣兵再調矣而無救於敗蓄士兵又調矣無救於敗而害益滋其所至如乳虎而其薄陣如鳥散居則為民蠹出則長賊威故民苦調兵與被賊等以其遺之不精而馭之無統也夫兵法平原曠野此用衆之地也如群鹿抗衡以多者勝道狹險要則如兩鼠鬬穴以勇者勝雖衆無所用也

兵部尚書楊博題云遠調客兵不如團練鄉兵此誠不易之論況所調狼土等兵兇很狂悖十倍倭奴總督既不能節制其將領又不能約束即如近日川貴總督侍郎石茂所奏可鑒已但議者動謂鄉兵怯懦緩急難恃不知近日浙江楊州之變多係土人何其勇於私鬥而怯於公戰故在處置得宜耳合行督撫等官嚴督各該海防兵備守巡將各處鄉兵係隸行伍者責成軍衛募自民間者責成有司如法團練務求實用至於客兵仍遵　明旨不許輕調驛擾地方

主事唐樞云古之練兵少而習壯而安不見異物而遷其技能上下相便休戚安危貴賤一体故能如身使臂如臂使指今以烏合之衆馭之者知衛令事可效而行否

此言兵須平時教練

又云攘苴以他人新授之卒條驅以爲戰不得已而救助長之術設其一愛姬之威以求速化此亦兵家一

問道今其事可效而行否

此言以不教民戰古之所用

兵者亦當行之但非常道

主事唐樞云練兵爲長久之計海賊實不敢敵近日都是無能之將以統無制之兵臨敵之素教預習所以肆

膽橫行深入必須擇知兵者隨處教演又選差賢能官分投查驗必賞罰以爲經久可用

此言兵不可以不練練

兵須托人着實舉行

副使李遜云浙人不習射當如兩河以北懸射銀錢之

利以誘之使習令弓師而能教百人善弓則善弓者得以一人兼二人之食而弓師且賞之以百金而署之爲百人之將矣令弩師而教百人善弩則善弩者亦得以一人兼二人之食而弩師且賞之以百金而署之爲百人之將矣如此則不數月而全軍皆善射矣其他短兵鎗棒亦率類此

此言練兵
全在善誘

又云吳越江海之間幾二三千里必非
朝廷之兵所能遍爲戍守者漢患匈奴晁錯嘗請徙富民實塞下蓋使之家自爲守人自爲戰若今日吳越之間則不必他徙富民而中自有饒田宅千金萬金以上者廬相接也以愚計之當倣而廣之制其勢力可

以蓋一里而部署百人上下者則命之爲百長長有牌分爲若干隊各籍其所部署百人者之名氏年貌與互相聲援之畧於其上以待約束其在官府特罰其不如令者而已不得數令追呼而擾之方其平居無事則千長得以擊牛酒歃血爲盟約剚於一鄉之中以稍申其聲援之約及其賊既逼境則千長得以舉火砲爲號合各百長之兵以赴援於賊所間入之路以迎其至而擊其歸有不如約者自聽千長百長各得以按軍法綁縛而告之官府按軍法而治之如各鄉之鉦

姓大族有能自募義力伎擊之士以爲諸鄉兵之先者則各書其名於官責其摧鋒奮擊以爲里兵之倡而賞犒之

此言練鄉兵須倚重各鄉有勢力者爲之

又云吳越之間其鉅家勢族往往有爲子弟不惜千金而謀一官者倘疏之于

朝凡民間所籍鄉兵或鉅家勢族所各自募之兵有能奮勇勦賊凡斬首級者倍官兵之賞每級一百兩凡手斬三級以上者署爵一級如兩廣試巡檢之類而賞仍半之累功至五級以上得世百戶累功至七級以上得世千戶凡所部之兵斬三級以上量爲優之冠帶有子弟願補生員及都布按承差知印吏者聽五

級以上准署爵一級如前或准送子弟一人國子監讀書或原係監生准選光錄監事署丞及五城兵馬等官七級以上亦得世百戶或願改錦衣世總旗者聽十一二級以上得世指揮使或願改錦衣千戶者聽或係監生願補內閣文華武英等殿及兩房中書舍人之職亦得劑量如例如此則吳越之間非惟各思保其妻子室廬之有抑且兢得失爵賞寵祿之及爭相家自爲守人自爲戰而其氣百倍矣較之官府歲調各兵其所當利害緩急尤有間者

此言欲練鄉兵須以爵賞激勸勢力之家人方樂爲

舉人王文祿云衆聚而不申以號令嚴以約束亂無紀律所謂兵不戰將自焚狼兵則擾婦女貪貨財而輕

其抄掠邨兵則酬酒逞兇彈絲唱曲而徹夜遊戲民壯義勇皆戀家無拘而不習戰技徒費養兵之財不熟練之過也必責成統領分布要害日加團練編以隊伍五十為隊倣吳起一人學戰教成十人之法與以堅甲利兵之器齊以坐作進退之度重以信賞必罰之權一人有功一伍賞之一伍有功一隊賞之罰亦如是則互相救援而奮發也必以所練之兵按取衝鋒一萬取一千一千取一百時加部犒戰勝不論首級而賞亦倍之蓋衝鋒不賅斬首皆藉衝鋒之人殺而斬之也

此言練兵須明賞罰

南京戶科給事中高鶚等題稱各兵之調非經久之計

欲選擇客兵之精銳者分別武藝教練鄉兵以一訓十以十訓百以百訓千以千訓萬不半年而民兵即客兵矣

此言練土兵當用客兵之高藝者爲師

主事唐樞又云練兵如近日教場下操之類俱虛應故事務令精專齊一而後賚力之強弱技能之長短可以等而上之必求其至古人謂三官不謬五教不亂總是用志不分隨著應手此必平居歲月習成穫首以他人未教之兵爲已孝然之用不得已殺其愛姬助長以求速效然亦可濟臨時之用故練兵之法或暫或久可勉可安兩法俱在慎而行之存乎其人

此言練兵之法有二

何也兵憲不自分領分領者將官也若兵憲練之而官領之則將不識兵兵不識將何以制馭而取勝乎

又云此將官管領即此將官教閱就演於平日則知身之使臂臂之使指臨陣無不順意矣兵憲不過日省月試就為當賞就為當罰就為可進就為可斥就監督之權而已矣總督則但總夫提兵調將之權其操練拿獲體統愈大也此練陸兵之說也若在海船則以風潮為主有難於操演者其緊要惟在舵工轉運趨向皆出其手遴選賞罰非總副參遊之所當注意者乎

此言練陸兵之法須委重領戰將官練水兵却無法惟精擇舵工而已

又云使船必用造船之人則不愁工料而且知愛惜領兵必用練兵之將則用心訓練而亦能識認故平日憲職練兵而禦敵付之武將非計也必令將官自練而兵憲不侵其權不奪其功然後可責其成效耳

此節與前同義

海道副使譚綸云今之戰卒望敵而走往往葉主將不顧蓋由將不知兵與兵不練耳夫將猶心也士卒猶手足也手足無志則欲持而持欲行而行無不如意使手足而痿痺之則心雖欲為其能以相應乎故選將練兵缺一而不可

又云凡言練兵者非但練其藝與坐作進退之法耳其要莫先於練心其法莫善於節制節者如竹節之節

節節而制之即人心齊一進非待成退無速奔而營立於不敗之地矣今始言其槩如以三千人分六摠計之十人爲一隊設一隊長百人爲一哨設一哨長五百人爲一摠設一把摠合五把把摠爲一營設一參將七卒未練戰守無方在一營則責之參將在一摠則責之把總在一哨則責之哨長在一隊則責之隊長如是則爲之主將與長莫敢有退縮不奮勇者矣如使爲之將與長奮勇直前以至有失失一參將則斬五把總失一把總則斬十哨長失一哨長則斬十隊長失一隊長則斬九卒如是則轉弱爲強因練變化不如意古人紛紛紜紜鬪亂而不可亂正是此法但分數要明頭目要衆使我所殺者嘗不過十人

則心與法不相害而法可必行苟徒具是法而行之不果亦與無法等耳

此言練兵之法當使兵將相習

松江府同知羅拱辰云陸戰之法大率以十人爲一隊每隊以一人爲隊長就將原執竿子鎗上縛一號旗以便陣用內牌手三人執牌在前謹蔽敵鋒用手牌者執鏢一二枝以備飛擊鏢既發矣隨用腰刀其用筅牌者手持長鎗以護衆一以旋刺而腰刀又隨身可用則用也次鎗手四人傍牌而行避身牌後亦各兼帶鏢鎗一枝次又或弓或銃者共三人藏身於鎗手之後居中立者其面向前左右立者以背相向臨敵則先發弓弩銃賊近則牌手竿子手所執飛

鏢齊發鏢發則牌手與弓弩鎗銃等兵乘勢並進長短相間彼此相護斯能有勝

將戚繼光云今之軍士該使平日所學的號令營藝都是照臨陣的一般及至臨陣就以平日所習者用之則於操一日必有一日之效一件熟便得一件之利秦令所學所習通是一箇虛套其臨陣的真法真令真營真藝原無一字相合及其臨陣又出一番新法令却與平日耳目聞見無一相同如此就操一千年便有何用且如各色器技營陣殺人的勾當豈是好看的今之閱者看武藝但要周旋左右滿片花草看營陣但視戲局套數誰曾考問操法也是此花法勝而對手工夫漸迷武藝之病也虛文張而真

營却廢制陣之病也司閱者可不端明雙目以任責服之人為較量之衡耶

又云操兵之道不獨執旗走陣于場肆雖閒居坐睡嬉戲亦操也善操兵者必使其氣性活潑或逸而冗之或勞而怠之或相其意態察其動靜而撙節之故操手足號令易而操心性氣難使其氣性活潑又須收其心秉畏競業又有操之似者最為操之害何則謹譁散野似活潑懈弛不振似兢業為將者知此可以語韜鈐之秘矣夫好生惡死恒人之情也欲使人樂死而惡生是拂人之情矣蓋必有生道存乎其間故所謂恩賞者不獨金帛之謂雖一言一動亦可以為恩所謂威罰者不獨刑杖之謂雖一語一默亦可以

爲威操之於場肆者登蹄也而兵雖精庸何以之操乃眞操也此聖賢之精微儒者之能事

鎭撫蔡汝蘭云兵猶食也欲談兵請先論食夫歲大饑宜告糴少服宜蠶亟一年積則糴可弗告何也足於已無待於人也客兵猶告糴土著猶蠶亟其說甚易明曉也夫燕雲之兵以騎射號雄奮勇氣臨淄之兵古稱進如鋒火戰如雷霆充善長鎗而勇於公戰故募兵者必以爲首談下此則狼兵諸部以植勞防突冠而於衝堅長驅之雄或遜焉若夫浙兵將務避忘兵血刃之慵閒視未嘗若或浙警少稍兵將務避不遑有司莫之柰何而募兵之說行焉故不得不贍其猶賞以招來之不得不寬其約束以羈縻之不得不

不厚其賞賚以激勵之若或警息而遣之懼其春汛之復至也如之何則可夫所重于客兵者爲其各有長技也豈夫人之所能能哉是惟習之習耳苟習焉則東南之衆是亦雲霧俗苗矣愚敢曰募兵戰不若募兵教今宜于客兵之中精選其技藝之尤者各數人厚其糧倘用以訓練諸兵長鎗甲楯弓弩分部習學一教十十教百百教千千教萬日省月試務肖其真而已由是則藝精氣壯而東南之衆更皆雲淄狼苗矣

[illegible]五月之內萬金之費可壯東南之干城絕發冢之寇何滋萬姓之貽害而百世無疆之福由此其基矣何也以土產之金養土著之士以土著之兵御土著之地之患兵不加多而[illegible]土著之

愈於客兵而募戰之不若募教幸較量而取舍之
大倉生員毛希秉云鹽徒海盜水寇也而我軍操練於
陸不習海勢素怯沙民以其所短攻其所長蔑不敗
矣
朝廷知其然特
勑兵備道專重水戰議者謂宜造多櫓機發巨艦巡捕巡
鹽官督令于海洋沙塲險要去處上下巡視專習水
戰之法此練軍之法也
又云軍之克敵者在器兵不完利與空手同射不中的
與無矢同海賊之器械惟任短兵我軍足以制之者
火器弓弩也然善射者寡乞放神世衡教射之法懸
銀錢于百步之外不中者宜罰其矢以與勝者三罰

而受責三勝者得銀錢又當令其三六九日衍習如
鎮江會手然每下操之日爲數　偶使各官分瞄之
庶不費時日而官軍可善射其他應用器械鎗棍弩
鏡皆以是法校之數月而軍成矣此精技之法也
御史徐栻云聞兵形象水水因地而制流兵因敵而制
勝古兵法也今賊常態每以三五星散誘致我軍發
伏取勝此慣用奇兵也手揮雙刀中者立斃此慣用
短兵也勝奇兵者必以正兵勝短兵者必以長兵明
其分合約束遠斥堠行如戰戰如守是爲正兵強弓
勁弩射踈及遠是爲長兵以史思明善野戰游兵及
王石橋而李光弼治軍嚴整當橋而進賊不敢犯近

數里賊若掩襲激擊將可擒也茲豈所謂行如戰耶
趙充國渡湟使壯士卿牧先渡立營已定引軍潛濟
慎密如此是以羌零之輕狡不戚倭夷而終以萬全
去年官軍出劉家河者輕率赴敵被賊伏兵自盧葦
小港中突出衝斷首尾我兵大敗而將僅以身免茲
豈所謂戰如守耶自此一敗賊益輕我為害愈熾蓋
既不能用奇而又自棄其正是以百戰百敗所向喪
氣甚非長筭也今欲習用正兵先須定十五之法自
伍人為伍以上遍相連屬以至于將皆如身臂相使
首尾相應雖極倉皇不亂相捨而又營寨嚴整號令
明肅動止不亂賊雖變詐安能撓我縱未即勝敵
而我先為不可勝矣此正兵之法也多置毒藥弓弩

聚集善射勿與短兵相接而常瘴諸百步之外此長
兵之用也前時我軍不能自立無暇乘賊之間今我
軍堅無隙可乘而賊跳梁既久勢必衰沮若覘得其
實鼓衆突入乘機掩擊立可擒戚此又正能生奇之
妙用也故兵法曰奇正皆得則國之輔夫擊虜以殄
戚為期豈可犯危險而取必旦夕凡此皆所謂致人
而不致於人或亦坐得必勝之道歟至於因勢利導
隨時變化則存乎良將之善用而兵未可以遥度也
閩縣知縣佚俊卿云兀兵之費徒糜膏脂自古兵法貴
精不貴多所以兀兵當汰法曰兵無選鋒曰北在將
兵者當練習于平時擇用于臨事可也雖然羸稚為
兵亦可誘敵制勝猶上駟中駟下駟例也其敢不

可用者召募之客兵借調之土兵人謂寇盜之害如風雨不留土兵之害歲月侵擾不若各鄉照戶查起壯勇練爲鄉兵各有身家地方之念逃亡有里戶可以拘追橫肆循法制可以制禦昔于肅愍團練疏有云兵無不精則

國威自振而寇盜自平此尤今時之急務

黃鑑刊

總督尚書胡（譜閒）云近日虛談兵事者動以陽明先生保甲之法爲言殊不知此法止爲安新附之民禦鼠竊之盜耳自古及今未聞以此制禦夷狄也若謂可制禦夷狄則古聖帝明王賢臣良將當先爲之矣豈待今日二三言事者倡爲此說而後知哉我

太祖以神武定天下料酌百王典禮於軍制尤留心焉若保甲可以資防禦則不當設立若干衛所派處若干兵粮以累百姓失諺云省錢易飽吃了還饑自古未有不暫費而能久安者況夫豪傑之士決不隨人脚後跟假使保甲之法果爲陽明先生禦寇之策今日亦當更之不知此老當時機宸濠平桶岡擒八寨只

用保甲之人乎抑曾借用狼土等兵也世儒不考顚末妄言兵法眞所謂忿虛談而貽實禍也豈不悲哉

海道副使譚綸云鄉兵之議蓋起於先年調到各兵統馭非人所在擾擾百姓厭苦言官建議

詔下有司訓練土著之兵以省徵調之害此誠廟謨之至計東南地方之厚幸也但數年以來督責雖嚴明驗未覩其故何居豈皆有司奉行之未至與蓋緣前後議者止論練鄉兵之緊而未及養兵之詳而境內士民又稍病加賦往往互會失指以爲練鄉兵則不費官帑不用民財不煩素養之勞坐收制勝之策且援引某縣某鄉曾掩殺一二殘敗之寇以爲証據遂使良法美意室碍難行有司百執事奉行無術反

常之寇耳至於制禦夷狄古如秦漢唐宋今則九邊
兩廣皆藉素養之兵而獨於今日東南之事乃責之
散處難合之民得乎爲今之計不若以調客兵之粮
增廣主兵之額爲之慎其委寄核其名實寬其文法
而總論其成功將見不出全浙之間自多熊虎之士
誠亦計之得者而又責成有司撫字凋殘團集保伍
平居則齊其心志臨事則遥爲聲援庶幾兩利而俱
存之可以有備而無患矣

兵部尚書胡世寧云六部之中戶部尤重蓋自
祖宗開創以來百五十餘年天下疆土田賦止是而內外
用度比舊加數十倍雖歲常豐收猶且不足而況歲
荒無徵其何能贍故必得通變有才之人理國如家
者而後可濟也今得吏部善用人戶部善理財則民
生自安盜賊不興邊起邊境自足夷狄不患其侵兵
部得無大事矣不幸二部有欠而盜賊蜂起夷狄交
侵不得已而用兵猶賴吏部所用之人以領兵戶部
所蓄之財以贍軍

此言兵部全仲給于吏戶二部必戶部得人而後邊餉不憂其乏此採本之論也故首列之

又云今邊儲最苦不足而足之道有三一曰廣屯種夫

屯種孰不欲廣然每差官督勸不能增者急于起科
得利也夫歲收不常而租有定額則開墾者利未得
而害已隨故人不敢開種今若查比比直隸地方欽
奉
太宗皇帝聖旨事理聽令各屯原額拋荒及空閒地土不
拘土客官民軍舍儘力開墾永不起科則有利無害
而人樂于興種矣蓋所貴乎廣種多收民間米穀價
賤發銀可糴則邊儲易足矣至于南方謫戍克軍為
民人犯宜責拘辦當房真正家小到彼量撥各武職
員下作為伴當責之收管使為墾田而照名代出本
處軍伴操守則彼勢難逃而人可漸多積可漸廣矣
今聞戶部始議覆奏又查出永樂二年人不耕所屯

田官員軍餘家人自願耕種不拘頃畝任其開墾子粒自收不許比較及正統四年令大同宣府遼東陝西沿邊空閑之處許官軍戶下人丁儘力耕種免納子粒則臣前奏聽其開墾亦不起科明是舊例可行有益邊儲而該部又欲兩請或聽開墾永不起科或候三年成熟徵粮則臣前所謂歲收不常而租有定額人不敢開種矣伏乞

聖明俯念夫邊方田荒歲久儲蓄日無特如臣奏施行地方幸甚二曰興鹽利今天下生齒煩于

國初數十餘倍食鹽者衆矣故令私鹽盛行而官鹽未嘗不售其所謂私鹽不禁能阻官鹽者蓋襲舊時之說也故今宜于額外多開商中不限引數聽其買補若勢要占窩專利則每歲開中止將引目發邊付巡撫都御史并管粮郎中聽其就彼募商責限完粮而後填給遠限不完者則轉給他人其若都御史郎中召報客私致緩粮餉者聽巡按參究則自無此弊矣至于竈煎私鹽宜于出場總路設立關市守把止許賣與商人有引之人而本處軍民願買者亦須納官得引始聽如此則公私鹽利皆歸

國用矣然又須低昂其權使輸粟于邊者量地遠近米價貴賤倍減其數而又得先掣納銀本處者隨時旱澇鹽價貴賤倍增其數而又與逕掣則商人益勸于輸邊竈丁益利于煎鬻軍民得易于食鹽而巡邏之卒可減鹽徒意外之禍可弭其為[illegible]之利蓋不一

而足也三曰預收糴每當邊粮不肯趁賤預買及臨用兵發銀貴糴且逼人強賣公私勞費不貲今宜妙選各邊管粮部官責其月報米價貴賤歲報田收厚薄如年豐米賤之時那借官銀數十萬兩到彼多糴米穀貯倉或計今年所糴可穀後二三年之用宜即扣後二三年該給粮銀于他邊米賤處所糴之或查應解邊粮地方時價米貴則量令折銀解邊備糴如此通融計處務使遠近官民皆便而邊粮易于措積蓋亦濟變通融之法也但其糴粮全在官司立法簡便革弊嚴明不許減價措勒難收以致菲損屯農方可常糴臣聞今歲遼東米價甚賤但發一歲之銀可糴二歲之用而二年免發其次宜大米尚可糴亦宜

差官發銀到彼預糴米穀以備客兵添兵之用惟若延緩寧夏每銀一兩止可糴米五七斗甘肅每銀一兩止可糴米二三斗然聞其地缺乏尤甚軍士不可枵腹而戰亦宜戶部差官賫銀到彼多方設法於有米地方貴糴預運轉撥至彼以救其危急可矣

又云昔我

成祖皇帝之供邊悉以鹽利其制鹽一引輸邊粟二斗五升是故富商大賈悉於三邊自出財力自招遊民自墾邊地自墾荒栽桑養畜自立堡伍歲時屢豐菽粟屢盈至天順成化年間遂變其法凡商人引鹽悉輸銀於戶部商賈耕稼積粟無用遂多徙而歸墾臺遂日頹壞保伍遂日崩折游民遂

荒蕪戎虜入寇一遭兵劄生齒日遂凋落地方日遂困敝然賦安邊足用之長策莫善於太宗皇帝之鹽法矣

此言中鹽大利於邊儲乃爲北邊而發若在防則干遼陽爲切

在京各衙門會議云各處名山香錢缺官俸銀川廣鹽銀廣東稅銀大造黃冊過割地畝銀俱可取用至於稅契銀率多侵隱亦可查取徑編銀冊可借解天下各司府州縣贓罰紙價自嘉靖三十五年爲始一毫不許別用暫解軍門聽用其出入務赴巡按衙門掛號查考又各屯田暫納折銀數年且不爲例其該納銀六錢七八錢者即使徵收五錢南京應支月糧大約每石俱三錢豈不五分中尚得餘利之二以充軍

餉也及湖廣荊州府則雲南川貴百貨所由之路夔州府亦當入蜀門陝江西湖廣二省茶貨經此達於西番欲要於荊州照依九江北新關事例添設鈔關一所量稅舟船并權其住賣之貨夔州責令撫按會同委廉官從公摧解又各省府州縣預備倉穀酌量時價量糴其半解赴軍門又江西福建等處均徑已提編一年但皆十年一役尚可再提一次其餘他處五年一役或三四年量爲遞減又將巡監御史黃國用奏准工本鹽銀二十餘萬量留借發總督處料酌支用事寧照舊議解戶部以濟西北又御史徐敦題稱東南之民方困而派常賦之外海防未已而繼之以提編均徑提編未已而又加以民兵工食臣愚以

爲軍需必不可缺而民困尤所當蘇非仲藉宮帑爲給發隣近諸省通融協濟恐終無以自贍其東南近日之科派速爲議革止令雇募民兵則民不重困於誅求之苦官不牽制於出納之難蒙賞者益思報效而夤緣冒濫者少延殘喘臣等會議得用兵以錢粮爲本錢穀衣甲器械船隻不備賞犒不充威權不著士不用命雖韓白不能成功但東南自嘉靖三十二年興師以來勞費不備致厪宵旰之憂者凡以爲生民也今本處燒劫僅存之民常賦之外海防銀兩未已而復繼之以提編未已而復繼之以民兵工食百姓嗷嗷誠有如御史徐敦所陳而提編一節通行數省編及小民不得安生者半天之下至於各省預備倉穀亦當積貯以備不測即荒摧商稅銀恐亦無幾俱難輕議查得應天巡撫奏留嘉靖三十五年起運銀四十四萬餘兩奉

旨錢粮着戶部議處來說候覆間今徐敦復請於兩浙歲運之數量留二三十萬彼豈不念

國家京邊重務所需哉蓋濟東南日前之急正所以爲

國家悠久之計也合無從戶部酌量定數存留若干以給軍門再於兩淮運司議處上本塩銀二十萬內借用一半至於各山香銀各關鈔銀缺官俸銀川廣塩銀通聽總督移文各該撫按查取不許留難此外又有開納一節尤爲可行合無查照工部開納事例兵部應給空頭劄付一千張咨送總督收置軍門許令

軍民照例上納有願報效者一體收用其鹽掛號稽
察事宜悉如都給事中丘預達等所議施行及攄各
官所陳專官管理一節已經本部題奉
欽依洛行總督選委布政司官一員專司出納無容別議
合用錢粮各有頭項大率民兵工食除今年在於已
徵提編銀內取給以後年分各府州縣比照原額工
食量加一倍通計實數各照丁田多寡量爲輕重派
徵申呈撫按刊印書冊頒布曉諭不許數外多派重
困小民士夫之家隨例應優免之外一體均派收貯
官庫按季給發沙兵工食聽督撫官酌量於浙直二
省不經倭患府分坐派徵解聽按察司官以時給發
其一應兒在地方主客兵行粮及賞犒脩造船隻置

造器械等項俱許於軍門吊取并奏留銀兩數內支
用通要造冊開註出納明白以憑巡按御史稽查
都御史唐順之云東南水陸兵粮往往有缺至三四月
不給者軍士萬里捐生日望數升之米而已而又不
時給之生心讒語亦何足怪此有故矣浙江軍餉銀
四十七萬兩江南五十餘萬兩江北一十六萬兩其
初皆美兵而賦民原無羸餘若民間拖十數兩則缺
却一軍之食萬軍不能一軍空腹而萬兩不能誅兩
無欠加之民賦有災傷減免而軍餉無羸餘處補正
其不能准給而生怨讟也古者軍興之費不盡仰於
民務取之山澤鼓鑄筦榷商賈之利故前史稱不加
賦而用足今民間搜括已盡無可處補而軍門亦無

所謂山澤荒蕩之利稍可處者惟有塩法而已試舉一端如前時浙江巡塩鄔懋卿小票事例歲亦可得銀數萬此皆不取之國與商而坐收羸利者也合無勅下戶部轉行督撫等官會同淮浙巡塩御史委曲計議多方區處但使江北江南浙江每處得七八萬兩民賦若足則別儲之一有蠲免即以處補此亦國民兩便之策也

聖明軫念東南兵荒萬狀艱苦

勅下工部查得大工銀兩漸穀乞漸將嘉靖三十九年浙直兩處贓罰照數解與軍門聽其處補兵餉以後年分自行解京如故此外山澤荒蕩之利有可興者聽軍門從宜區處再照供給軍餉係有司職掌有司往

往視爲不干已事始則催徵不力繼則給發不時墮悞軍機多由于此此後若有仍前怠玩者自布政總司管粮道及知府以下聽督撫諸臣從重參劾治罪庶幾有司各知干已不敢誤事

此言處兵餉之法莫如塩利其次則山澤荒蕩與贓罰銀而加賦爲不可行

又云沿海衛所舊皆屯田今埋沒過半而圖冊故存宜按圖照冊儘數查出辦納屯粮及金塘玉環諸山膏腴幾萬頃皆古來民居之處今可墾爲屯田設所戍守一以攄險一以固粮此一事與臣所謂足軍食者相關舊制當復者三也

此言清理屯粮開墾海中附近山田可足兵食

御史曹光等題欲將巡塩御史黃國用奏

准工本塩銀二十餘萬量留借用一半發兩浙巡撫一半
發蘇松巡撫或俱發總督處斟酌支用以濟海防事
寧照舊解戶部以西北
此言借銀可借以克兵餉與南洲之見同
丙辰會試策云當思今日坐困之術莫有過於兵多者
方其兵之初調縣縣傳送道里之費不可勝言也所
過擄掠其擾害之患不可勝言也至則家給而戶養
之供餉甚煩而擄掠不息其費又不可勝言也今議
者不思兵多之費而憂財之乏此所謂舛也因其乏
而議加賦益財此又舛之舛者也昔先零之役當其
兵集耿中丞羅四十萬穀而不足及克國罷騎兵般
師不費斗穀而羌平人皆知克國屯田之興利而不

知般師之省費也故調兵一而為練兵之費百調兵
一而當士著之兵其費十調益簡而費益省以其所
費者而練兵何弗強也以其所省者而克費何弗贍
也此其不加益而足財之道也
此言加賦以調兵不如減兵以省費
海道副使譚綸云足食如行錢法　四廣開銀查民
壯弓兵糞銀復備兩額糧甚有力者且行之可又
又云錢法行則公私皆利或謂費銀鑄錢而利薄不多
何便于官曰即使費銀一兩鑄錢可止值一兩可也
今天下苦于困乏只因銀少錢法不行銅皆銀矣新銅
鑛所出併收民間銅而鑄之必本省而利溥奈謂之
無利吾不信也

此言錢法行則財用足誠可爲兵餉之一助自來無人及此而今日所當急行者也

又云調之法萬非得已募兵之法亦難久行惟是復祖宗之舊酌時措之宜使軍伍不虛糧有定額民壯去兵名名得其實用不以許多錢糧冒諸無用之地庶幾足食足兵之長策也

知府嚴中云國初每郡扣除養軍若干官吏師生俸祿若干然後定起運之額故軍伍缺下口糧謂之羨餘積於布政司或謂此項已屬於戶部作邊儲之用愚謂不然嘉靖某年戶部偶缺用奏取各省羨餘浙江遂以軍餘銀若干缺官俸餘銀若干并別項空閑銀兩共幾十幾萬解去不聞以此爲據以增納運而常年照數解京也設使一年做例歲以爲常而不存積

於布政司豈傳應嘉巡按浙江募民補衛所軍額其月糧何所支乎自戶部取用以後衛所軍額歲減一歲布政司果嘗歲奏解平與恐羨餘之銀有解部別用者有未嘗解部而仍存本省者須細查之以爲補軍額之用可也

舉人王文祿云東南之財甲天下之財財之藪也寇亂三年將告匱矣當以天下之財濟之可也葦侵漁之弊各名山之香錢可取也葦借閘之弊各驛傳之供給可取也

國初軍制之數即食糧之數

國初軍多而糧無不足今軍少而糧不見餘須責督儲之司查而取之可也各省缺官之俸折鈔之銀取之可

也兄食之官奉厨之費汰之可也倣周禮束矢鈞金之法凡豪右貪殘之訟罰而取之可也

此言足兵餉之法有六

蘇州生員沈拭云當今錢貨民皆私鑄致壞錢法物價不平利歸於下宜　奏聞

朝廷南直隸及浙福湖廣等處官自爲鑄錢文一以嘉靖通寶每錢七百准銀一兩非此不行則利歸於官錢法不亂而軍需有助矣

又云商人逐末其利數倍於農故先達有曰與其虧農人孰若虧商人今丁田銀增加者過於原額而商稅一如舊制其待農末亦失宜矣今宜會同奏請南直隸浙江湖廣等處開津稅商處各視常數遞行加稅

東陳言寫黃宣利

送至蘇松助海防之用事平還舊則數萬金每年可不勞而得其視丁田之加爲力易而成功多矣

此言重農而抑商實足兵食之一策愚謂寬得一分民受一分之賜今因增丁田銀之故而欲加重商稅非仁人之心也其事一行遂爲常例矣事平還舊之言不亦左乎鑄錢之說有益無損

兵部尚書胡世寧云秋成地方素無積蓄者宜出告示曉諭軍民不許將米穀浪費及因而糶出外境其若本處軍民得過之家收積米穀在家待價糶賣以圖利息者聽從其便在城人家有能收積稻穀一千石米五百石以上者即係聽教良民本府凡事量加優恤鄉民也軍人等今後務要搆塘積水趁時勤耕以務多收米穀秋成之後如果穀賤傷農凡民間應納

差銀粮價及贖罪等項俱許依時增價折納稻穀本
府另措雜穀銀兩申稟上司代其納官
又云今雖秋成貧民缺用必將米穀賤糶出境以後一冊
難收田公私積蓄者空倘遇荒盜鄉市軍民束手待
斃子欲將所屯屯所屯收義民僧行及積米紙價等銀盡
數糴在倉以備荒照糴遇兵給餉庶不有悞及照常
時散銀糴米多被奸豪詐領或庫吏稱散乘機尅落
似此領銀無實糴穀難完今照所屬州縣人民該徵
均徭等銀將穀賤糴煎銷上納未免耗折今欲就將
糴穀銀兩扣收在官抵作民間該納官銀或秋粮折
色米價銀兩陸續支解却令該納前銀人戶每兩照
依時價納穀若干在倉庶免彼此出納侵分耗折之

禦

此二條皆胡公世寧江右作郡時所行沿海守令互式之以為備倭之計

都御史京與云師行粮從有餉粮有糗糒刁斗自隨樵蘇自給強者主戰弱者主糞此軍中之制也今或臨陣而未食或食至而不均或師行境外而食具城中設欲炊爨食捲甲疾趨何以應之事機盡泄士忿不平此養兵之制未定者一也

此言行兵之食之禦

主事唐樞云凡軍行若隨路關支口粮候到唱名給散
書則擔閣行期夜及二三更纔得睡息若先給與盤
纏靜路行時不便買辦不無受飢之病北方行軍每
每有此必須先立從長良法庶克有濟

兵部尚書王守仁云沿途該用廩給口粮等項合計箕總支應庶免阻滯及省偏州下邑之擾爲此牌行布政司官將官舍頭目人等合用廩給口粮等項查取見在確數計箕經過州縣若干每驛該銀若干就於軍餉銀内支給其各州縣止是應付人夫再不許別項科派於民

此言總支廩給口粮之法也録此以爲式

兵部尚書王守仁云近因思田二府撫亂該前總鎮等官奏調三省漢土官軍兵快人等前來南寧府地住防守軍民大小男不得耕女不得織而湖兵安歇之家騷擾尤甚今雖地方平靖湖兵已回歇瘡痍未起

困苦未蘇況自三月以來天道亢旱種未入土民多缺食誠可憫念已經遍查停歇湖兵之家諭以本院心量行照給爲此牌仰同知史立誠即將十名以上七十一家各給米二石塩魚二十觔五名以上三百五十六家各給米一石三斗醎魚十三觔五名以下四百五十四家各給米一石醎魚十觔就於該府軍餉米肉内支給開報其餘大小軍民之家諭以本院心雖無窮而錢粮有限各宜安心生理勤儉立家毋縱驕奢毋習游惰比之豐享豫大之日雖不足而方之兵戈搜擾之時則有餘矣

此言散兵之家所宜優恤陽明王公巳行之政也録之以爲式

參史徐枋云閩兵行粮從食者民之命尤兵之至要也古將如趙充國諸葛亮之用師皆先爲足食計然後言用兵耳若驅挽腹之衆以當戈矢敵其不能終可必也近者海上南沙失事祇緣額餉缺望沙民兵未協故鋒未交而識者已知其必挫矣且閩總兵等官跟隨親兵每名止日給米一二升尚未得一飽而求其冒波濤嬰鋒鏑樂爲用命不亦難乎然東南民力之竭已非一日而庫藏積貯又多已解給邊儲公私匱乏俱難措處然則軍前之需其可不預爲之備哉詵更拘以常格動輒齟齬亦未見其能濟緩急也伏乞

勑下該部議行海防巡撫都御史各將府州縣在官錢粮不拘寄庫正庫無碍等項官銀通行查出酌量聽解以備行軍賞給或遇緊急之際動支未敷仍許巡撫權宜行事將起解錢粮暫借軍前應用一面題

事寧處補務嚴督監守官毋得放支冒濫以滋冗費有司官毋得分毫科派以病疲民管領官毋得出入尅剥而無實惠訪有此等悉從撫按官拏問察究如此庶軍儲有備無患而將士可坐而策矣伏惟

聖裁

又云積貯者天下之大命也蓋民命以食爲天積貯之法在平時且不可廢況夫兵荒之後其可不汲汲焉講圖之哉臣嘗見

計取給東南者甚矣故天下惟東南民力最竭而東南

之民又惟農最苦也未遭危亂之先每以賦役繁重視田產如贅疣恐後脫去而爲逃亡者大半矧今百兩在前寓伏不暇田地拋荒居十九矣所種者又苦久旱難望有秋將來穀必愈少而農民益困明年田地必盡荒蕪不惟邊餉可憂雖欲支持本地恐未克濟且冬既無處可糴夏又無處可糴民之弱者必餓死強者必聚衆爲盜如之何而不預爲之所也臣熟思之竊有一事其行甚易其效頗多即倣古常平倉之意爲之欲俟秋收之後苟有所入或於他處成熟地方即行府州縣動支官銀糴米比市價二十分內稍增一分招民自運入城貯之空倉不足則寄貯之空寺院待明年夏末乏時則比市價十分之內稍減一分糶之不拘城內外皆得糴食專委廉官一員司其出入只此一事其利有七米價不壅農人不傷其利一也城中充實膽壯百倍其利二也粟多入城默富清野之意寇從焚掠所失亦少其利三也米價常平儻民得食不驅爲盜其利四也耕種無資稍給與之秋收可望新陳相接食源不絕其利五也十分災傷則開倉賑散民命可全其利六也冬米必貴糶價稍賤減價糶貴羨入亦多其利七也此事皆有可行之

勅撫按轉行各該府州縣用心議行今惟蘇松杭嘉湖揚被害等處尚可求二年之艾其未被倭地方若早爲之均糴有益大院有戰士捍禦於外使田者得於耕

又積穀預備使民有所恃賴將來田關穀豐所以足國裕民者在是矣以之安內攘外復何求而不獲哉

卅陽邵芳云善耕者無窮民善治者無窮國只曰善戰者無窮如天地不竭如江河錢穀甲兵皆一意也故善耕者必數咸易種水旱易耨天時有窮而人事無窮善戰者奇正疊出強弱疊形客情有盡而主謀無盡善治者亦然彼錢鈔皮幣金刀之類無不可行者顧上之人何如耳若必于所窮之中而求所以濟其窮如絕袖補領割襟補裾惟見其愈窮矣

都御史唐順之云東南事體絕與西北諸邊不同西北諸邊雖是兵財殫弱而成法具在儲糧蓄兵歲有畫一只是廢墜不舉耳若東南事體一則以海寇倅起

事屬于草創一則以連年被寇力盡于支吾取辦一切未慮經久其大者臂指相使之體統未明唇齒應援之機宜莫辨至如浙直新募之兵則朝南而暮北有今日在浙江應募明日在淮揚應募者如暫時顧倩之人主人不得而有之又安得而用之軍需則移東以補西一年之財只敷半年支用無名之費百出於民而軍人告缺四月五月缺糧者往往而是大率昔人所謂不終歲之計

祖宗時備倭之制沿海屯田大寨諸法漫然無跡可考矣故西北常苦邊急于振舊廢東南海備莫急于定新規此其大較也

兵部尚書胡世寧云自古屯田爲足食足兵之上策
國初各衛皆有屯田軍以十分爲率七分守城三分屯種
是即唐初府兵營田之制蓋萬世之良法也何慮兵
食之不足也今腹裏各衛三分之田多有軍先拋荒
年遠迷失而民窶納粮者矣若欲一一清奪還軍非
惟失利而且失民不爲有益獨念今天下軍戶消亡
殆半閒有存者每年清勾戶丁隨解隨逃勞費百端
不得軍用無言可處議者謂宜上體
祖宗置衛立屯之意遵推古人寓兵於農之法通制各衛
軍士各令有田一分其數江北一頃江南半頃如江
北一衛額軍五千名必須制田五千頃江南半之先

儘原額屯田次清占觀閑田及抄沒罪人之田其有
不足則設法開墾荒田再不足則措銀收買民田如
宋時役田之制務令額數分與各軍聽其有力者自
種無力或欠便者召佃收租然必量其所入如古上
農夫可食九人之數平時操守止令自食必有征差
方給行粮其衛所缺軍之處則分撥餘軍餘或募民
或罰有罪以補之蓋彼既有田必皆樂從而逃者少
矣此於邊衛京衛或不能盡行而腹裏衛分必皆可
行所省養軍之粮歲數百萬矣由是論之邊方之地
必先有人而後田可屯是不患無田而患無人也腹
裏之地必先有田而後軍可募是不患無軍而患無
田也其經畫所宜各有在矣

巡撫都御史彭　操江都御史史　巡按御史孫　巡
江御史汪　會議處屯軍一名撥田二十畝輸粮六
石五斗餘聽本軍食用兵農合一
國家無養兵之費耕守相兼沿海有屯戍之實奈何軍
士逃亡甚多海防空虛殆甚屯田在邊而屯軍却居
城郭軍人領種而佃種又屬民人凡把港守寨之差
皆老羸貧弱之卒遂致倭寇侵擾屯田荒蕪兵備道
親詣各屯踏勘查理務使軍不離屯屯不離海則屯
種者皆係軍實把隘者盡屬屯丁於且耕且守之中
寓足食足兵之法
工部尚書馬坤等題欲通行南北直隸并各省清查屯
田許其暫納折銀數年且不爲例云　見足兵餘條
云

以充軍餉也
都御史唐順之云沿海衛所舊皆屯田今埋沒過半云
見足兵餘條　舊制之當復者三也
云
此言清理屯被開墾海中
附近山田可足兵餉也
海道副使譚綸云　國初屯田之制軍在海濱而田在
內地召民佃種本未盡善向來多爲大家所占亦有
軍貧而轉典者若清查復舊大爲兵餉之助
知府嚴中云　國朝屯田之制北方與南方不同南方
與中州亦不同北邊之屯田重在鹽法兼重馬政而
行之也中州之屯田專重馬政而行之也浙直之屯
田則以屯軍籽粒供造運船之用有餘者充補月粮
福建則又不然其省屯田至多不若浙直之少故專

設一屯田僉事斂之與浙江水利道帶管不同大抵屯種之軍不守城不上操清查其餘於軍餉大爲有助

太倉生員毛希秉云崇明田若干粮若干塲海若干實徵若干升合不起運而官吏師生守禦官軍俸粮猶未能給所數年大盜一興動費錢粮數萬沿海州縣居民被焚之害又不可以數計然則

國家何利哉太鎮二衛之設本爲崇明盜賊何故緩急未得其用乞于南沙平洋沙增設守禦所脩古土着屯田庶庶有實效若仍舊春秋二班交代惟虛應故事其勢安能久平蓋舊制崇明守禦所之外又有太倉中所八百戶鎮海前後所三百戶在于崇明潭子港

備倭後因塲海改撥劉家河把港既而太倉沙指揮具呈空閒人數取補上班今申明舊制改設南沙守禦所以曰不宜或曰邊方衛所該守禦腹裡衛所該運粮今太鎮二衛切近海洋每有鹽盜倭寇生發乃坐運船三百艘運軍三千名有一緩急兵不足用合無議將太鎮金山運船該派腹裡衛分即以無額運軍定擬南沙等處守禦又曰屯田之設本備軍儲今屯軍在太倉而屯田乃在常熟嘉定崑山等縣且屯田零坐各區各圩其勢安能耕種未免轉佃居民而屯軍坐食不差有名無實莫若通變宜民擇沙上常稔不塲田與守禦軍屯種以舊屯軍田易銀與沙民別置田產實爲兩便此策果行則凡草蒿水港河港官

此守望世之計也

北言屯田與衛所之弊即人
舍一處觀之其餘可以例推矣

開縣知縣仇俊卿云征調戰攻之日官軍行糧日粮斯
日給發不暇計費若夫軟退盜寇之後兵火少息之
時各處要衝添設把守員役使其聚之而食則公廩
積高莫非小民所當何可繼也合無倣漢上湟中故
事將沿海空閑地土督令開耕不起科徵且屯且守
一年之後人將自食其力不惟省養兵之費抑且行
寓兵之法時至則務農事去則習武負而北者往田
可耕未有不願爲兵而又可減召募之虛糜者數千
萬緡矣昔戶科給事中林士元等

奏將拋荒屯田不拘軍民僧道之家聽其各擇所便開耕

不許屯官外科擾夫僧道尚許承佃屯田今于長守
之戍顧不可聽其開耕空閑土田者耶

兵部尚書楊博題云

國家養育邊軍極其優厚故居則有月粮出則有行粮寒則有冬衣布花至於獲功則又有重大陞賞無非欲得其精捷以爲敵愾之地耳乃今老弱參雜所養非其所用逃亡捏冒有名而無其實近戶部題稽查撫諸臣之奏求應援則曰軍馬寡弱逃亡過半請粮餉則曰兵馬衆多供億不支觀此則坐食民力者豈皆投石超距荷戈執弦之夫未必無老弱疲癃之士與夫缺伍寄名之人也自今合行督撫諸臣各遵風力守巡兵備官員親歷各該城堡將見在兵馬逐一查驗精壯者照舊存留老弱不堪者盡行沙汰戶內果

有壯丁准與收補其軍士逃亡即行開除如敢仍前作弊以憲邊儲聽各該巡按御史查參究治

此言兵餉原有定額冒濫冗食者衆則虛耗正數矣向來論足餉者多方設法甚至加賦不思此弊不革所處豈足以償所耗乎從古聖賢論理財亦兵二法曰生財之源曰節財之流此即節財之義也

兵部尚書楊博題云今之用兵大率有三曰練曰募曰調調遣之舉本非得已蓋緣本地兵力寡少遇有重大聲息不能不調若使哨探明酌慎於徵調不惟勞糧一無虛費亦且戰守均為有益但邇來邊臣多事張皇偶有小警輒行請調恣日前侵冒之奸為日後掩飾之計相應通行申飭督撫等官各將兵馬嚴加操練務致精強遇有警報相機堵截不許輒張虛聲妄議調遣果有大舉之信徑自斟酌量行調援亦不得因而藉口反悞軍機如或不念

國計計處失宜聽各該紀功巡按御史參　奏重治之須

遵奉

明旨務以團練土兵為主如果日下不堪戰守早為計議某處某兵可調某處某兵可募應徑行者徑自酌行應具

奏者以次具

奏俟主兵練成即為停罷此條雖言募調當慎若能遵行可以次冗食亦足兵餉之一助

又題云今日之事不難於槩蒞而難於馭兵不難於足兵而難於足食故建議者每以罷客兵為說但各省投募之兵多有游民參雜其間官司未得其用地方反罹其殃亟當計處合容河南山東湖廣廣西等處巡撫都御史將本處游民嚴加禁約不許出外務令各安本等生理如無招募明文私自出境投兵者即將家屬及本甲隣坐罪仍刊刻告示通行曉諭庶投

兵之風火息地方之患永茲矣此練兵禦倭之大立所奏暗合

都御史唐順之云自倭患以來東南軍制最爲不定蓋以濟變未慮經久梟猾之徒方應募於江北忽應募於浙東方初得募價而留忽以滿募限而去譬如借債之人主人不得而驅之安得而練之至于遠方無賴託名土兵報効希圖擄掠群然麇至在此不出軍門之役調在彼不由督撫之遣發坐費糧餉騷擾地方是以人人爭言調募不便而以練土兵爲說夫土兵之練誠是也然土兵之數不足安得不募募兵不足以當賊鋒之銳安得不調如前時王江涇數千倭子乘勝西上非永保之兵力挫其鋒則何所不至矣爲今之計合以練兵爲實事以募兵爲權宜以調兵

爲奇道募兵則遠募不如近募調兵則多調不如少調募兵先儘本地方驍銳若浙江處兵江南沙兵之類其遠方驍銳應募者亦須土人保任優其募價什伍聯束而歲番上之不得自去自來如往時則募兵亦土兵也總督軍門歲調麻兵立爲定額直隸幾千浙江幾千專爲衝鋒之用聽川湖軍門精選發遣以憲司一員監督前來有不能衝鋒及騷擾地方者罪及監督則調兵可以制其毒而得其用也俟土兵訓練有成然後募調俱罷

此總論臨募兵調兵練土兵之法字字當深玩味蓋而行之若人先覩乎此而後讀諸公議論或以募調爲上策或以募調爲下策自覺其頗辟而無定識矣

募客兵

兵部尚書張時徹云閩廣諸兵其長技故智利在水者可習而知而吾蒼山下八山之人熟閩廣之技者亦非少也以一敎十以十敎百以百敎千事在反掌而有勇知方是在上之人使之者何如耳夫吳越之人以舟楫代輿馬以江海爲坦途伍員對闔閭以舟軍之教比陸軍之法大翼當陸軍之車小翼者當輕車突門者當衝車樓船者當行樓車走舸者當輕走驃騎況今之邊防恃舟師爲長技以火攻爲要術乎

此言閩廣水兵不必募

又云軍政鉤弱勢不得不募客兵矧今募兵他省動越數千里徵發僉千百人未及至而已損官帑民需不貲矣況至者未必皆精以之赴闘徃徃貪餌致敗恐

官府之詘之也即又棄戈扇鼠走所過道路率又逞其狼豕貪殘之性白日剽掠昏夜則汙瀆婦女一或捍拒則露刃而譁殺人無忌故諺曰寧遇倭賊毋遇客兵遇倭猶可避遇兵不得生由此而觀客兵有害無益明矣況使之久居內地間熟道路習知土風民俗之事必有不戢自焚之禍如元末苗帥楊完者流毒吳楚蓋可鑑也

此言募客兵有損無益

主事黃元蔡云客兵有二有調而至者有募而至者調而至者統領有官籍貫有的用則劄之至有不用則劄之歸即無事矣募而至者烏合無統領之素萍聚無籍貫之實況多游手好閑無籍惡少安知不恃其

武哥又備爲優贍聚山谷黨附海島皆不難矣

此言募兵不如調兵

都御史章煥云所募之兵須程其技力而籍其家室守法者厚恤其私犯令而逃者有拏戮之禁至于鏁曠游民給其田廬與之耕倘則可以繫其歸念臣見狼兵安有受廛之心而山東惡少其心從賊者利其擄掠之婦女也苟遂其願則兵可募可久矣

又云分道募兵不擇強弱不按名籍游手無賴草竊亡命悉入穀中及至而若無統紀聚散無稽多寡不問虛糜廩餼養無功故募而來來而去去而無兵則又復募府庫罄竭道路驛騷終無實用此募兵之制未定者也

此二條言募兵無定必立法善取乃妙

予惟募兵之法但當於本處報選何也其家在是則所獲工食便於歸寄防春之暇便於歸耕其人善惡便於保結召之則聚散之則歸然須不限名數如收錢之法日積青鈇幾文馴至一貫孰有勇力孰長技藝選其精能汰其懦怯夫然後募得其人也若遠方之募則是烏合之衆無賴之徒招之甚易散之甚難今日之兵夫他日之盜賊也蓋離家久遠財不得寄歸淫酗賭博恒心亡矣一旦革之非劫奪何以生乎荆川云遠募不如近募亦此意也

御史徐栻云客兵之爲地方害夫人而知之但方今之事正如病疽者急則治標以毒攻毒之時也特視制之者何如耳蓋狼兵其貪如狼土兵似之而性尤狡譎客兵中狼兵土兵尤甚一勝之後其氣必愈驕孤無忌兇左江田州之兵與右江南丹那地東蘭三州兵素不相睦散不相顧聚則仇殺雖有二遊擊白泫鄒繼芳分轄之然其所見憚者瓦氏家法與該管土官頭目若莫崐羅堂黃仁等而已土兵忌狼兵先進以攘其功狼兵忌土兵後至而挫其銳氣態相戾功次相競烏可於既勝之後而不知所以處之乎如欲一勝而撤去則海寇出沒不常兇其所素懾而見怯者特此兵耳茲久留而無制則其悍恣之性所過殘

擾村市爲空是去倭之害一間矣爲今之計臣愚以爲處之有道焉將各兵分派各沿海府州縣住劄有司官爲之崇其犒賞恤其勞苦以深結各該土官頭目之歡心俾有所統屬而不得肆又于本處應募民兵中擇其最驍勇者各照狼兵土兵法編爲隊伍結爲營陣象其衣甲演其技藝習其勁捷隨其動止飲食以一教十以十教百推而上之日漸月染若與俱化斯隱然示狼土兵之長技在我又足以分其勢制其悍氣而資吾實用積之月日兩兵相爲表裡無分主客然後漸次查照發回以遠客兵之害省養兵之費其或制客兵之要乎

調客兵

都御史章煥題云今治倭者無他調兵而已臣愚以爲非久計也小發之不足多發則用度不計久駐則老師廢財暫駐則兵散而賊復入且衆兵雜處爭隙易生壯健久曠奸盜自起故客兵協守惟都城塞下可以居之主客相當有所忌也江南民弱客兵所爲厄贏視之者也欲其不亂難矣淫婦女奴貨物殺良民如是則客兵之亂與倭夷等前世調兵江南皆有明戒

又云調至土兵賊頗畏忌然亦獷悍難馴夫以苗攻倭猶以毒攻毒不可輕用亦不可久用者也是在上醫國手劑量對酌對病而攻病去即已今既無鼓舞之方復無調停之法事急則懸賞求之勢緩則厭棄置之求之則生怨此調兵之制未定者也

此二條言客兵不當調

兵部主事黃元恭云唐德宗籍回紇以解圍而遂基旋入之禍石敬塘因契丹以取唐卒釀播遷之禍狼土蠻兵非我族類寧可引致心腹之地哉山東徐邳騎不習步四川廣西尚不諳渠用其所短行其所疑則何賴焉且不重費以致之應募則有安家在途則有行食即營則勞來安揷月給行賞計每主兵四五而賒一客兵然爲合無籍戀家寡情故逸使之勞易使之難悅使之從怒使之拂利使之來罪使之叛至其習見我之無內恃而專外藉則遂驕恣橫所過塞門以防其虜遣發議賞而後行重賞之格不自

朝廷出幸勝必獲賞而復進速勸之令不自主軍軍門出首級則僞良爲賊冒從爲主而不得毆之論功之典不自憲臣出敗衂則棄營而逃以避誅再募則逃者重冒以趨利在營者原籍官司不得羈縻而閱實待之如此其厚也養之如此其驕也然湯克寬一試之而徐邳之卒敗李逢時許國再試之而山東之卒敗至于今永順保靖麻陽酉陽兵氏賴陽諸兵潰且散散而盡矣其效已明然猶耳心捐厚畜驕而無變計亦獨何哉或曰知非策也然主兵訓未就緒姑暫爲之噫予聞其言五年于茲矣此當事者無久任責成之重而爲目前苟且之圖試問月攘一鷄足與改弦易轍也歟哉

此言客兵之害

丹陽邵芳云練本地之兵但可爲本處守而已不能追勦大敵也欲追勦大敵須調客兵何也土兵習知地利顧戀桑梓故選而練之可爲常計若別省有事欲望鄰省之民團作一處協力以拯之能乎不能乎且如往年徐海陳東皆領寇數萬壓境而來蘇松杭嘉各自保不暇其能相顧而協勦乎故練土兵與調客兵不可偏廢

此言客兵必不當調之說爲非

御史邵惟中題請　勅下該部轉行督撫大臣從長計議如徵調客兵必責令大頭目統領蓋有大頭目則所調客兵亦精而法令必行仍以監軍等官控制之

按名兵年貌籍貫文冊照其實數給以粮餉當赴
軍門照冊查點犒賞報效立功果有功次速行奏
請陞賞如有退縮即以軍法處治其逃歸者行彼處
巡按提問

此言各兵即用軍統將官領以聽調甚善但欲分配散後而不用原統官領戰不惟原統官無責任而不用心精選其領戰者亦於軍士不相識難制馭矣恐須始終歸其權於一人則可

南京工部尚書馬坤等題欲要總督大臣查見在各處客兵如無親管之官領率者即便轉行各省總督撫按坐名查取稍加優厚申送前來如無土官總領照用兵務本管官舍前來督領督領之官中途逃回如某人輩仍須備行總督及撫按衙門查照律中法例一體查究及稱調兵必須精擇其可用與經戰者以

倣古人分兵之法如一省調兵一千則令出兵地方大約可出幾千總其大數互相裒益如十中擇其一則一歲十丁之族始出一兵也百中擇其一則一歲數千百丁之族始出一兵也數千中擇其一則一歲數千丁之族始出一兵也

此言調兵之法當計里坐派是誠一見也以愚論之客兵之所以不堪用者止因調至之後不用原統來官領戰責任既輕必不用心精選故也若委知兵憲臣與其頭目統來就用之以督戰功罪所係彼豈肯帶狠狽之兵自誤乎

都御史章煥云踐更以示其信處置以服其心以諸邊節制之兵爲之準調到狠土之兵爲之輔夫邊兵矩度素閑可以消狼苗之逸志狠苗有變而邊兵之強足以制之夫藥有相佐亦有相制惟兵亦然則可調

嵊州知州王守云按邊兵習慣苦寒日夜備虜不寧寒食以爲兵戍皆然一旦調至南方見蘇杭富饒邊樂武備廢馳不惟欲逃而不甘抑且玩偈而無忌我祖宗立法止是原調用于北邊自正德間議者不深顧念調擒劉七及江西之寇邊兵遂驕邊患遂啓難於收拾今欲更調之以備倭後患有叵測者湖兵孱弱之當慮也亦然故調客兵不如不調或曰鄉兵僅可各守一方調往他處不能也捍禦大敵不能也不調客兵何以支倭寇之大舉乎曰春秋之齊國嘗受晉楚之師晉師中豈無邊兵乎楚師中豈無北兵乎不聞齊借何地之兵以禦之也若必欲以夷攻夷齊師中

夷何在乎大抵兵之強弱惟係得人與不得人齊桓公用一管仲行內政寓軍令之法遂霸天下今若有人能倣其義於保甲法中抽選且如每甲中一家出丁九家不出丁者出月錢津貼則不患于無兵與無錢矣就其中更選一將又銳專一聽調謂之遊兵如此豈不攻守皆有備乎

或使王春澤云今之議者皆謂補足軍伍可以禦倭臣謂今之軍伍多羸弱不堪上薦之人所募勇夫憑其選擇人人精壯可用若移足軍伍之費而費於募敢爲益不貲多乎但不可募遠方之人蓋地遠土不服道途盤費有身家者不肯應募而應募無籍棍徒其志不在於戰而在於揚不

約束而在於逃故軍士不如勇夫速募不如近募凡有識者不易吾言也

予按今之論禦倭者有三曰調客兵曰練鄉兵曰募土著之兵愚以爲募土著之兵可也調客兵與練鄉兵不可也何也客兵性氣驕悍不受吾之約束既不肯受約束豈肯出死力而爲我殺敵乎故客兵有害而無利所謂不可調者此也欲練鄉兵須處錢粮養之今之錢粮甚難區處將欲使民自備與則民困貧而投兵豈能自備乎將欲官給之與則九民之無依者恐盡起而應募何以支之將欲驗田均派與則田多者恐其始倩勇夫以充役後用家丁之無能者以抽代人且不當安能訓成

兵技乎況防春正值農忙廢田事而團結不可也鄉民各保其鄉調用之於他處不樂也故鄉兵保甲之法僅可以防夜警自古迄今未聞以之而禦寇攻者所謂不可練者此也夫惟募兵一事孰利孰害所謂不可釋之精訓練之勤賞罰之嚴悉由乎我而大有實益然募遠方之民非智也加賦以養兵非仁也須遵奏行新例令貧民補實衛所軍額本各州縣民壯弓兵之額而三分之留其一與有司自用取其二而團聚於府沿海弓兵亦取而團聚之通計三項每省若干名用其精強易其卑弱大約以三千爲率合軍伍民壯弓兵之三者豈不足以供其數乎軍粮每歲九十六斗以一衛計之

則五萬石矣民壯弓兵每歲七兩二錢以一
府計之則幾二十萬兩矣此
國朝定額見在所實募者以是為準而行吾實事分而訓
之各精一技合而訓之使知分合進退之法平居
則團練於府有警則分調各州縣豈不精壯常在
官使不必調兵而兵自足不必擾民而餉自充也
哉是之謂土著之兵所當募者此也雖然欲復
祖宗之額須先衛所缺伍而開作養餘者不奏查之不可
也欲團練民壯弓兵須令各州縣按季徵解民壯
弓兵之身銀若聽其自索諸民不可也蠡測之見
未知然否

主事居樞云諸客兵每日供費須集議的當銀米數目令可水為遵守其數目須相去不遠使無彼此相形其間若欲厚薄只於犒賞處低昂之

此言調停客兵之法

又云南北水土異宜近日久旱河水大渾濁須用桃杏仁澄之食麪須淮北麥今江南自有淮麥只要處置司買者的當蓋淮麥秋植次年夏收備四時之氣麥屬金又得佈種之正江以南冬種春收所以異也

此言供養客兵當備淮麥

天下精兵甚多不可勝紀茲所載者但據近年議調與士論所評者耳或云無益如隱見客兵各負所長其或敗者不閉吳越地利又多堂之陣罕用伺伏若原額頭目得人調皆精選嚴節制慎衝突用謀用哨不徒恃乎號猛疾可謂為海防之一助

狼兵

廣西狼兵於今海內為尤悍然不易得真狼也真狼兵必土官親行部署繩出其餘蓋不過柳州所為水東岩之游民與廣州新會打手之屬而已如果則亦無以加於嘉湖敗盜者流也

東蘭那地丹州之狼兵能以少擊衆十出而九勝何者三州土官之兵大畧如昔秦人以首虜為上功其所部署之法將千人者得以軍令臨百人之將將

百人者得以軍令臨十人之將凡一人赴敵則左右人呼而夾擊而一伍皆爭救之否則一人戰沒而左右不夾擊者臨陣即斬其一伍之衆必論罪以差甚者截耳矣不如令斬退縮者斬走者斬言恐衆者斬敵人衝而亂者斬敵既敗走佯以金帛遺地或爭取而不追躡者斬一切科條與世之軍政所載無以異而其既也所謂論功行賞之法戰沒受上賞當臨陣躍馬前鬬因而摧敵破陣雖不獲級而能奪敵之氣者受上賞斬級者論首虜以差斬級而能冠所屬伍者輒以其人領

之故其兵可死而不可敗

舉氏家法七人爲伍每伍自相爲命四人專主擊刺三人專主割首所獲首級七人共分之割首之人雖有照護主擊刺者之責然不必其武藝之精絕也我祖宗舊制狼兵調征經過之處不許入城狼兵恃貪淫離家遠出罕御酒肉又不獲繼貨色之慾含怨飲恨惟刼於其上之威而已若有司不善遇之擄掠之患所不免也

湖兵 鈐鐮鎗弩之技

湖廣土兵來順爲上 彭翼南 保靖次之 彭蓋臣 其兵天下莫強焉近嘗調三千人後調六千此在官之數也實私加一倍共一萬二千人其陣法每司立三十四旗

頭每旗一人居前其次三人橫列爲第二重又其次五人橫列爲第三重又其次七人橫列爲第四重又其次七人橫列爲第五重其餘皆置後歡呼助陣若在前者敗績則第二重居中者進補兩翼亦然勝負以五重爲限若五重而皆敗則餘無望矣每旗一十六人二十四旗共三百八十四人皆精選之兵也其調法初徵所屬照丁抽選官慰額天祭以白牛牛首置几上銀副之下令曰多七中有敢死衝鋒者收此銀啖此牛首勇者報名彙而收之更盟誓而食之即各旗頭標下十六人是也其節制甚嚴止許擊刺不許割首遇者與退縮者皆斬故所戰必捷人莫敢攖但沿途剽掠胥謂其不可用不知剽掠之故一是因

調來者非止一枝有過得相推委二是因小頭目愚弄宣慰謂人不可擅殺殺則言官論之朝廷罪之彼然而聽之也若以保米分為二班輪歲更調每調定以一萬二千人每人月給工食銀一兩每歲十四萬四千兩先以四萬兩與調官領給土兵途費不必騷動有司及稽途程其來也以一憲副督之宣慰專主禁令調官專主聚泊每晚不許舟師亂泊須視調官牙旗然後為首而泊次早即行勿容登岸既至軍門以二千人派之溫台二千人派之寧紹二千人派之杭嘉二千人派之蘇松二千人派之淮揚各以一頭目將官領之餘二千人宣慰自領以聽軍門調發隨處策應有功者照常每級賞銀三十兩給與

本兵無使土官侵陵宣慰土官大加陞賞其歸也憲副與調官仍照前法送之則兵將感激聞風知勵何剽掠之有所患者土兵無島嘴銃頑軍門以素演熟者三千人分撥助用其技為十全矣或謂夷性難馴萬一生變何以制之是殆不然嘗聞二宣慰之言曰吾祖宗相傳土地官爵遠自唐末嘗易姓以奕世謹守忠義故也若恃兵勇謀為不軌　朝廷下片紙令鄰夷分取吾土朝令而夕亡矣得如今日之富貴乎又嘗聞其門帖云心戀九重跬步敢忘蕞爾北手提三尺英風長鎮夔天南又一帖云節慾可以延生何必遼天壽洞府守分便是享福却來平地作神仙此其心之明達蓋可占矣夫豈不守分量而率意妄

爲者設若二司更調各逞賢能各圖報効各希爵賞較之並調爲益不既多乎

湖廣九溪等衛密邇宣慰等司桑植安撫長官等司麻寮等所上司茅等峒各有驍勇土兵慣熟戰陣宜選各衛謀勇素著指揮統領

總督胡云短兵相接倭賊甚精近能制之者惟湖廣兵鈎鐮鎗耑之技必須動永保二宣慰司精兵使與北兵彼此夾持部伍均配器械長短相濟

河南兵

嵩盧等縣調取毛葫蘆兵

懷慶引農二衛調字號官軍多驍健可用

睢陳二衛宣武彰德二衛軍兵俱可調用

礦夫

嵩縣李和尚李景白廷美盧氏縣王九張文廣永寧縣馬雄張呂登豐縣王試宜陽縣葉張飛靈寶縣王九宰等俱堪調取涉縣夏時生長其地習知礦場之事可以統領

角腦兵

號角腦者坐名取之查照近例量給冠帶賞以銀牌花紅假以把總名色令其自率平日所與之人以來官不必選彼必忻然聽命而來者必強壯可用之士其中或舊有罪犯者許令立功自贖計得角腦十八即可得兵一千

打手

打手須用行文四處選取每處餘名選一驍勇知名之士率領其給賞冠帶假以把總名目與礦夫同

北方兵

山東直隸徐邳山西善使雙頭棍標鎗打手

徐州箭手

保定箭手

涿州河間等兵

徐邳淮揚乃勁兵所產之處破賊有徵多可用與經戰者就委慣戰者叅遊督率而來

[illegible]曰　北兵所長優於驕射東南水鄉技難獨展

僧兵

今之武藝天下實推少林其次爲伏牛要之伏牛諸

僧亦因欲禦鏢鑓盜而學於少林者耳其次爲五臺五臺之傳本之楊氏世所謂楊家鎗是也之三者其刹數百其僧億萬內而盜賊外而夷伙

朝廷下征調之命茂不取勝誠精兵之淵藪也

邊兵

延綏遼東兩鎮官兵除已選入衛者不動外其存留本鎮者各練若干名鎮巡衙門選委謀勇素著慣戰將官管領令其多帶火藥弓箭星馳赴援

延綏新選兵二枝內可量撥

大同新選聽兵與調用遊兵可量撥

邊兵不耐暑熱此後涉夏濟湿方盛恐難干用若先行選定仍令在鎮蓄養精銳以俟緩急方可

福兵淳兵

嘗習水戰聞其內多從海寇行奸利者多習海寇所
聞於諸兵中爲最特不知今所謂者若干耳

坑兵

浙江以處州爲絕勇處州守坑之軍其性健鬬但未
嘗教習水戰也

總兵屬鍾云浙中陸兵之善鬬者無如坑兵而遠來應
募者卒皆不得其用者何耶蓋坑兵性梁高山爲最
良初開坑盜礦驍悍難制自有重利不樂爲官府用
也欲顧募之非優其募資厚其糧餉恩信兼至真坑
兵其可得乎

副使吳子孝云鄉官舉人監生生員人各有識下至耆老總里人等不拘貴賤但有所見許其面陳許其具手本來說虛心以受之下禮以招之則奇計出矣若更許其薦舉多能之士畢集軍門智策不可勝用矣然須有一二名士高才定其可否迂濶狂妄者不用則群小無以售其奸矣諸葛公開誠心布公道廣忠益集衆思善攻吾之關一字不可少也

舉人王文祿云如至一縣必諭知縣曰爾爲知縣必知一縣人才有謀者不拘縉紳士庶請之來吾當詢之詢之一縣則一縣之謀集矣詢之一府則一府之謀集矣府縣積而爲省省積而爲天下則天下之謀

矣然集衆謀必先虛已畧去勢分屏降咨詢邇言不遺寸長必録儻然如家人父子手足腹心之相與惟求靖寇爲急則庶乎其可也宋岳武穆謀勇之全者也將出兵也猶且盡召諸統制環坐而飲食之先謀敵之所以敗我者至於六七竭智共攻必無敗也乃行故每戰而無敗況其下者而可不集衆謀乎是故用兵者必以集衆謀爲先也

吳郡生員盛仲化云昔周文襄巡撫江南凡父老士庶無不延訪或時在路亦止輿受言始則集衆人之細長終則成一人之大智陽明先生自入仕以至秉鉞動隨生徒顧問惟輕後遇逆濠之變若龍光黃受諸人或爲間諜或潛伺察或遏機密皆以平日腹心爲

之遂能成功至于封拜通年東塘毛公征交南大開言路有賞無罰謀士集者八十二人遂能開削故道洞見敵情奮士鼓行蠻王納款此皆前事之足驗者

都御史唐順之云古之籌邊者虜之所從入與吾之所以制虜皆可以按圖而坐籌之是以守固而戰充人皆言虜人來去如風雨此亦未必盡然且虜人非萬騎不能大舉騎不可一日無水草沙磧少水而水草可飲食萬騎者尤爲難得虜人擁騎南下須是覘得水草便利處然後可入其無水草處虜人亦不能以饑渴馬致千里也是以邊城雖綿亘二千里虜人雖是風雨來去而其師從入大約可以先定其小小隘口零騎可入處雖不可勝計而其大舉之路大約不過數條而已禦虜者常患備多而力分若圖畫分明可以必虜之所入與所不入知虜所入與所不入則備可以不多而力可以不分列屯築堡駕梁按伏省却大半氣力矣

兵部尚書胡世寧云自古詰戎練武專備蠻夷盜賊蓋以二者皆能戕殺生靈傾覆廟社故爲此殺人以救人非得已也今境外四夷已有

祖訓不許輕伐

先朝惟責邊將謹備其來而或近屯百里之外勢將入寇則先伐其謀耳自來不曾遠征至于邊境叛軍即聽處決擒殺著律已明別無他議若民間盜起則宜查累朝設立巡撫兵備

勅詞立爲定制務使練兵足食一聞盜賊生發即便舉兵撲滅於微一面奏聞及其既久則宜撫捕兼行以散其脅從離其黨與而必殲其渠魁不許姑息若其

一時失計稍有挫衂則當體念勝負兵家之常責圖後效以全功其著終無成功或先隱瞞坐視及有事地方等官或先爭權相阻其事或後忌成陰毀其功者皆當重治誤事甚者即照先年重例處死

都御史唐順之題云戰陣之所以精明與中國之所以勝四夷者氣也而非甲兵之謂也

國家承平日久文吏狎談而養尊武臣恬嬉而寶身閒至雍容之習成而懦脆果銳之氣亦寖銷矣南倭北虜侵軼於若晉人所謂氣衰以取之者賴

皇上天縱

神武赫然一怒誅逐偷惰拔用英奇文臣督帥皆躬自臨戎有兔罝赳赳之氣自此倭虜不敢深入則氣之勝也以臣占於行陣之間猶有未盡然者臣視師東南備觀怯將懦帥一聞賊戰如湯冷水顏色可憐縱不便走殷已先慄雖亦未必盡然而然者固多矣至于

倭賊渡洋談笑飲食若履平地而我將校泊近岸日遇海風則頭捍目眩夜聞潮聲則心惕且夫倭賊有過窺我將之氣而我將無必吞倭賊之氣則是未戰而索然也如此而望長驅海島掃清大憝臣猶以爲難也此氣在宇宙間磨礱而將用之則鮮明置之不用則黯無精光謂宜文臣督帥時御戎服出入軍中發揚踔厲以作武將之氣武臣大將遇有賊戰戎服出入陣中以作偏裨小校之氣偏裨小校遇有賊戰戎服先登以作士卒之氣而督帥武將臨陣督戰間取潰校逃卒遵奉

旗牌事例百萬軍中忽然斬却一二人以變士卒之耳目使我之氣日益精明則賊之氣自然銷沮此其

言若迂濶而實勝敵之要機也李光弼潣軍而旌旗變色每戰必勝氣之謂也

按制以鼓軍氣之說不如東坡倡勇敢之論蓋士氣清明必須養之有素臨陣得善戰者作之若但使文武戎服先登以倡疲卒則疲卒望敵而僨使送文臣與賊殺之而已無益也軍之取勝全在乎氣作之誠是但如此作之恐難

陳竹 二校

兵部尚書王守仁云夫法之不行自上犯之也今總兵官之頭目動以若干彼其誠以武勇而收錄之也則亦何不可之有然而此輩非勢家之子弟即蒙右之寵緣皆以權力而强委之也彼且需求刻剥騷擾道路伏勢以奪功無勞而冒賞懈戰士之心典邊戎之怨爲總兵者且復資其權力以相後先其委之也敢以不受乎其受之也其肯以不庇乎苟庇於法又敢斬之以殉乎是將軍之威固已因此輩而索然矣其又何以臨師服衆哉必須提督等官發令之日即以先所喪師者斬于轅門以正軍法而所謂頭目之屬悉皆禁令發回毋使瀆擾侵冒以撓將權則士卒奮

勵軍威振肅克敵制勝皆原於此

此言行法須自將官始若姑息將官則士卒不服矣

又云賞罰之典雖備然罰典止行於衆提之後而不行於臨陣對敵之時賞格止行於大軍征剿之日而不行於尋常用兵之際

又云近年以來如賊攻城掠鄉每每督兵追剿而不勝者以無賞罰爲之激勸耳今後但遇賊情緊兵官不拘軍衛有司所領兵衆有退縮不用命者許領兵官軍前以軍法從事領兵官不用命者許總統兵官軍前以軍法從事所統兵衆有能對敵擒斬功次或赴敵陣亡從實開報覆勘是實轉達奏聞一體陞賞至若生擒賊徒鞫問明白即時押赴市曹斬首示衆庶

使人知警畏亦與見行事例決不待時無相悖矣
此則賞罰既明人心激勵盜賊生發得以即時撲滅
糧餉可省事功可見矣
又云古者賞不踰時罰不後事過時而賞與無賞同後
事而罰與不罰同況過時而不賞後事而不罰其亦
何以齊一人心而作興士氣是雖使韓白爲將亦不
能有所成
此三條俱言賞罰須行
于臨陣之時方爲有益
又云伏覩
大明律內該載失誤軍事條領兵官已承調遣不依期進
兵策應若承差告報軍期而違限因而失誤軍機者
並斬從軍違期條若軍臨敵境託故違期三日不至

者斬主將不固守條官軍臨陣先退及圍困敵城而
逃者斬此皆罰典也及查得原擬直隸山東江西等
處征剿流賊陞賞事例一人并二人爲首就陣擒斬
以次劇賊一名者五兩二名者十兩三名者陞實授
一級不願者賞十兩陣亡者陞一級俱世襲不願者
賞十兩擒斬從賊六名以上至九名者止陞實授二
級餘功加賞不及六名除陞一級之外扣算賞銀三
人四人五人以上共擒斬以次劇賊一名者賞銀十
兩均分從賊一名者賞五兩均分領軍把總等官自
斬賊級不准陞賞部下獲功七十名以上者陞署一
級五百名者陞實授一級不及數百量賞一人捕獲
從賊一名者賞銀四兩二名者賞銀八兩三名者陞

一級以次劇賊一名者陞署一級俱不准世襲不願
者賞五兩此皆賞格也今賞罰之典固在然操縱失
宜進而效死無爵賞之勸退而奔逃無誅戮之及則
進有必死而退有幸生也何苦而求必死乎凡兵之
情畏我則不畏敵畏敵則不畏我今兵皆畏敵而不
畏我欲求其用安可得乎 此言賞罰為兵家之要務當照律例所載而行

都御史方應云用兵之際衝鋒為難斬級次之今海上
賊船初來能即其鋒碎沉一船另賞銀一百兩飽去
之賊船沉一船另賞銀五十兩如不能對敵搖駕小
船撈取首級者不惟不賞即以退縮論陸地之賊初
來疲困其易擒勦延至二三日即復強悍但初勦之
不令貽害地方又不當以難易言也其問能衝鋒破

仁和縣吏葉維賢馮新安黃鉞刊

陣使賊披靡者另賞銀二百兩若夫鄉村零斬必要
後首相兼仍審地方鄰証見賊犯其處從何斬獲敢
有結狀方照格行賞係虛冒即以妄殺平人論

都御史唐順之云賊船既來近岸彼其處海面深入登岸者該總
首先坐之論其從犯多少以次罪及總兵又罪及兵
備海道而止至於海中擊賊初至將領以奇功論已
有事例惟軍士首級之賞尚未別白臣先具題擊來
船與擊歸船不同歸船真後首級一顆給銀十五
兩自合如故設法追銀五兩已足使水卒感恩懷利
兩比陸戰首級[illegible]罰當自上始行賞
盡死擊賊 未能為重

又云擊賊海中[illegible]有平後事例但分別得來

船去船欠明且水中首級一概以十五兩論賞不知
打來船之難十倍於打去船也去船殺人劫財已厭
其毒殺一賊是止于一賊而已若殺却來賊一人是
全了幾個好人性命其功不可同日語也若得該部
題覆打來船真倭首級雖不能同於陸地首級三十
兩亦可量增銀五七兩則人人爭奪打來船者益衆
而賊之登岸者少矣

此專言賞功當以海中擊來船爲重

又云自來海中獲功止擊歸賊不擊來賊歸則賊氣已
惰賊資又蒲人既樂擊擊之又易來則賊氣方銳賊
船又空人不樂擊擊之又難擊賊之來如虎未嗢人而人
殺虎虎斃而人已殘擊賊之來如虎未嗢人而人

殺虎人不傷而虎斃

此設發明擊來賊與去賊難易不同

總督胡語曾云夫出入波濤目不測之險人情所甚不
堪然臣嘗思之地里有險夷而土著者無險人情有
利害而利重者忘害若使各陞調官軍必於沿海衛
所自少生長身履目擊雖或稍遷異地事無弗同也
至其蚤危冒險轉戰窮追若只同常廩止以常格論
功其視內地輕重難易之間殊有不得其平者今須
多處行糧豐其犒賞若總兵官能使賊船不得登岸
而於海洋擒斬首級得叙異格各軍人等比內地所
獲功次倍論如止獲賊船亦以大小論級如此則人
爭奪而無不堪之情矣

太常寺卿魏校云臨陣不可生擒在野不可妄殺陷陣先登者爲上功繼而登者次之尚功首虜敗亡之道也

此條論賞功當重
擒降不當重首級

兵部尚書胡世寧云聞各處兵戰多因割取首級及爭縛生擒檢取婦女財物以致費力悞事乃將欽奉奏例并酌酙事情預定臨陣賞罰條格惟臨陣先登破敵者第一人賞銀十兩第二人第三人各賞銀五兩其先登被賊攢促而後兵進救得勝者亦賞銀十兩其擒殺諸賊首級俱依

欽定賞格外若對敵每殺從賊一人賞銀二兩賊後擒殺從賊每一人賞銀一兩皆以衆見爲定即時給賞不論首級若賊來盛獨立不退者每人賞銀五錢全隊不退者總甲賞銀一兩其勝賊回軍檢得賊馬一疋者止賞銀五錢軍器全件一付賞銀一錢若與同夥有功人爭取首級仍還本人報功者每級分與該賞銀三錢冒認爲已功者重打五十不賞對敵陣亡者先給埋葬銀二兩子孫陞世襲官一級不願官者另賞銀三十兩若退陣逃回被賊趕殺者不賞亦不收葬

此論與前同義
而詳明過之

又云夫以賞言首級論功非

國初舊制也兩相敵當先格鬬若手足無息不得差池

軍所爭奪死矣故首級非我大勝彼大敗奔逐不能割而割之者多或非真也貪軍奪死殺賊止望得賞衣食稍足耳豈望陞官也惟論首級陞官故殺賊者不能取首而得首者又爲勢要所奪又或因爭首級自相蹂踐而爲敵所敗此邊人之大患也以罰言則原奏邊例交鋒傷虜四五人即問充軍殺虜十名以上不報者止降一級輕重不倫隱瞞得利人情苦而實報哉又或兩軍對敵勝負相當殺傷相抵我軍被殺者可驗殺彼之人不能取首不得論功亦問前罪故今邊將惟以退縮保守爲事而墩堡任其攻劫鄰民任其殺擄上下相瞞惟事欺隱而已甚者被殺之人捨死逃回邊堡以其先時失報恐被查究而遂殺之尤可痛也如蒙

聖明更定賞罰之格惟嚴憑證之罪其兩軍交鋒而殺傷相抵不曾割取首級撫按明知回奏者不問其罪其有守備力所不及雖被殺擄二十人以下亦不問充軍至若力可敵而不敵雖失四五人亦問充軍至于兵力相當退縮敗陣及擁衆自衛縱賊深入而又不能擒其情歸以取勝者但被殺擄數十人以上俱問失機其他軍校小小失事不曾有誤地方者輕則聽領兵官量情責打重則送巡撫官即時問決不必一一奏勘以致累死邊軍臨戰勝論功止憑巡撫兵備查審衆證某人設策某人當先破陣某人殺死幾人

皆聽巡撫官量情節時給賞銀兩但紀其功不必
官其有三次設謀或當先破陣或一起連殺三五人
之上勇力出衆者方保陞官其若巡撫總兵失事混
同隱匿或冒功賞[illegible]而私者却從巡按訪實糾舉必
問重罪如此庶幾[illegible]詞當而人心思奮

此條言當罰之法與前論互相發明

又云首級論功之弊有許冒有攘奪甚至戮平民傷戰士其弊有不可勝言者夫自古戰敗之餘固有假遺財物於道以使敵人檢拾而緩其追躡者況當酣戰之際格鬬不暇來勝之餘追奔不及而何暇於斬首哉故首級之得或多非奮勇當先真能殺敵之人矣而況奏報隨從之人身未嘗便鞍馬目未嘗見軍陣

者哉是蓋古今通患而莫之善處蓋惟
朝廷命將得人而其所任偏裨校領臨陣之人自皆奉公
而執法其所身經面目覩者某陣得某人之効謀而
得勝某陣得某人之奮力而成功其方戰也某人敵
退某人其既勝也某人斬獲幾首又某人奮敵不過
而被殺某人得功幾多而陣亡回營之後復衆之於
衆見而報之於紀功之人由是權其難易以第其功
賞不專尚於首級也至於凱旋之日則某人書辦得
用某人隨從有勞許以上奏而量加[illegible]錄固亦可也
若冒報立功之人則面試其謀勇前敵之狀而取證
其臨敵同事之人其爲立見矣立公濛所言選任紀
功之官更立賞功之式而欲死者一功當生者二功

此篇不但發明首級論功之弊至爲詳備而驗功次之法誠乎其不可易用兵者不可不知

兵部尚書楊博題云沿海一帶休戚相關若使自分奏越或不行拒堵或不相策應希免已責貽人以禍均屬誤事交相坐罪合行福浙直督撫諸臣如前通攻

唐順之所議若賊已下舡果有衝鋒阻遏不得登岸突者雖無首級照依題 准事例陞賞

松江府同知羅拱辰云各兵懦怯者既不肯前而勇悍者衝鋒多因砍取首級以致敗事若一兵砍取首級則傍兵見必爭之況得首級者欲全賞功銀兩未免先奔一兵相爭則衆兵皆亂一兵既走則衆兵皆搖兵因此而驚潰賊乘此而進衝從來如此今須於將

臨陣時審其願衝鋒者各給與衝鋒小木牌使衆兵皆知其爲衝鋒彼雖欲不前誰則容之衝鋒者決不許砍取首級若有衝鋒兵先拿首級來獻者打一百棍仍不准給賞陣後助陣兵夫許令斬級如一陣斬獲首級若干顆該給賞功銀若干兩內以七分給衝鋒兵以二分給與助陣砍取首級之兵以一分驗其在陣被傷者給之庶賞有差等不致爭亂而人皆思奮矣

副使吳子孝云凡戰鬬之時不須首級爲功今因割首級往往誤事如一陣海寇盡殪滅之總算給賞不以首級爲貴則破敵必矣

舉人王文祿云衝鋒者先衆兵而殺寇功之最也今混

於一例而不分惟論首級行賞每賊亂奪首級以致敗徒費用兵之財不明賞之過也必以所練之兵拔取衝鋒萬取一千千取一百時加倍犒戰勝不論首級而賞亦倍之蓋衝鋒不暇斬首斬首皆籍衝鋒之人殺而斬之也

此三論與前同義

在京各衙門會議云凡水陸主客官軍民快臨陣擒斬有名真倭賊首一名顆者陞授三級不願陞授者賞銀一百五十兩獲真倭從一名顆并陣亡者陞授一級不願者賞銀二十兩

此言論功以首級多寡爲序與王陽明胡譯奄諸公之見相反恐未爲定論也

又云武將自守備把總以下文官自海防練兵同知以

下所領軍兵民夷五百名部下臨陣擒斬真倭每五名顆陞署一級十名顆陞實授一級各以則例遞陞至三級而止如獲功之前或以後失事革職者准收贖若總兵副總兵之與巡撫參將之與兵備水陸士卒俱屬統領戰守機宜俱聽調度除在下有違節制者免究外其餘功罪參將以所屬分論兵備隨之總副合所屬通論巡撫隨之但今經理之初暫將臨山總兵分理海防金山副總兵分理陸地則功罪亦當查照分別重輕俱聽總督巡按酌量時勢究竟情實明白具題

此言賞罰之格當對職任

又云凡有官員軍民人等督領家丁赴軍門隨賊截殺得獲功次仗義輸粟濟軍者俱聽寘門及撫按官臨時酌核奏請從厚陞賞以爲懷忠慕義者之勸至于耆民統領沙兵或屬把總或屬府縣官管轄其所獲功次仍照部下功論擬陞賞

此言賞報效賞格

兵部尚書張時徹云今奏擬五等賞功之例

曰論首級凡水陸主客官軍民快臨陣擒斬有名首賊一名顆者陞三級不願陞授者賞銀一百五十兩獲真倭從賊一名顆并陣亡者陞一級不願者賞銀五十兩獲漢人脅從賊二名顆者陞授署一級不願者賞銀二十兩

曰論奇功如在海洋遇賊有能要擊衝沉船隻或追逐登山使賊不得登岸如賊既登岸有能衝鋒破陣奪其聲勢或追出境或逼下船使賊方不敢受犒或所部兵少而擒斬多者均以奇功論聽總督撫時具題巡按御史勘報超格陞賞

曰分信地凡守備把總及海防民兵府州縣佐各有信地如賊至不能拒守致賊突入者問當律以守備不設之罪若能奮勇邀戰或有首級功績相當者亦許准贖若罪少功多者仍以功論如賊從別港路出境有能邀截擒斬打獲所得貨物盡行給付仍照例陞賞至於故縱出入本港專圖邀取賊贓者聽督撫官參究重治

曰計職任詳見會題中

曰處報効詳見會題中

必如是而行之則有功不致於濫賞有罪不容於倖免而將士戮力用命矣

此言賞罰之令當嚴

巡撫都御史唐順之云肅紀而趨捷矛而舞非以

也將責之以臨陣禦敵之實用也責之臨陣禦敵之實用而不以臨陣禦敵之賞罰施之則亦戲而已矣史傳所記子玉治兵斬七人貫三人耳孫武以婦女試陣法而戮其女隊長二人然後鼓之而無不如志然則古之治兵者大畧可見也請於常廩之外多儲金錢以實其用命者以作其技石超距之氣其不用命者縱不能盡如臨陣之刑而軍令所謂鞭笞貫耳等類許將官督責亦時一行之以示威或聯為伍法罰及同伍紀律既明人心自肅至其臨陣庶幾畏我而不畏敵矣

此言提練時須發行賞罰人方知畏

太倉生員毛希秉云欲人出死力不與同其利自古未有能濟者也乞依鬼錯邊事胡人入驅能止所驅者以其半與之凡捕巡所獲塩船賊船聽其照例估料納銀不得如舊惟有勢要在官人微價給領利歸他人如此而再犯贓壞法照依文官永不許管軍管事庶彼顧利不敢輕犯

明憲而可責其盡職矣此使人自為戰之法也

兵備副使凌雲翼云臨陣退縮軍法甚重今領兵官員畏罪掩飾每遇賊入犯即妄稱領兵追賊其實去賊甚遠不惟不見其形雖賊之衆寡虛實亦不得而知也及尾賊出境乃捏報追至某處與賊血戰沉死者不計燒死者不計斬獲首級一顆豈有與賊血戰而斬獲僅一顆者乎此名為追賊實與退縮何異不知

救正遂效尤接踵羽爲故智豈不敗迺事哉今後須
申明軍法務要從實追剿如果賊勢重大兵力寡弱
徑自明白聲說以爲別圖如或窮追連旬累月不聞
一戰直至賊出境虛餘浮詞欺罔觀聽者聽本道查
實參呈重究與退縮同科庶可以破其躲閃之故能
矣

閩縣知縣仇俊卿云羊斟之微足以覆宋一笠之小可
以強吳三畧曰軍無賞士不往使勸懲通乎人心可
以使之赴水火者否則衆心解體矣何以能刼之使
鬬哉是故行賞以示惠決罰以立威皆兵家之所尚
也後世賞罰不明武備廢弛有胎韋襠抱而報功者
有手獲功級而爲人掩奪者亦有喪師矯以爲捷而
冒賞者有屢建奇功擲立而不蒙辜者亦有乘其喜
怒愛憎之故而賞不以功罰不以罪者顛倒繆迷如
此何以獻服人心振揚武烈哉顧其鋒鏑縱橫之際
存亡呼吸之間人以萬死博一賞在上者寧不動心
矜察之乎若有見敵不前交鋒不勇者罰固無足議
也亦有勢孤援寡勞逸懸絕主賓地利之不同者此
皆有可原也軒將先登破陣殺賊者賞固在上功也
亦有運籌決勝者雖未曾身蒙矢石亦賞之所推首
也苟或俘降以邀功誘虜以逞令甚至截殺行人老
稚以充首級者又皆在所不赦也故將之五德信賞
必罰爲之主焉若近歲王陽明中明賞罰疏雖已事
之後猶不忘前功誠可以永昭勸懲者也

予按已上諸論皆賞罰之常格未盡其妙也何也今之衛所官乃統綉子弟而已矣武藝且多不諳況肯捐軀建功業乎衛所軍餘世平日久不經訓練一旦臨敵無技能可恃膽寒氣怯非敗即走以是常格賞罰待之豈能煆煉淬礪而得良將勁兵乎夫賞罰者榮辱之謂也大而官爵之命小而言語之褒皆謂之榮重而斬刑之刑輕而斥詈之及皆謂之辱施恩而可測者非榮也惟施不測之恩人方以為恩而知所勸耳施威而可測者非辱也惟施不測之辱人方以為威而知所懲耳故有今日為行伍而明日拔之為將領者有侵晨在人上而薄暮降之為後卒者褒貶予奪大公無我顛倒豪傑莫知端倪則人孰肯甘處其辱而不思所以自奮哉周禮爵以馭其貴祿以馭其富正此意也在上者能測乎此則激惰為勤轉弱為強不必用衛所之官而民間自有良將可選不必調湖粵之兵而鄉閭自有勇夫可練矣

兵備副使凌雲題兵云賞功罰罪勸懲繫焉今各領兵官員既不能奮勇運謀爲地方保障往往將被擄逃回或窮鄉避難之民殺以報功故行路者若非成群不敢獨行是不能禦賊而反爲民賊矣又從而賞之誠可痛恨今後報首級止一顆二顆者聽本道查訪果有對敵實迹方轉送紀驗其或詐冒無據者即鞫究明白坐以抵命至於指稱奸細殺以爲功者猶爲易見蓋謂之奸細必至一二人假裝吾民或採聽消息或潛爲內應既已覺露可縛而致之非臨陣血戰者比也何至斬首級哉以後奸細止許生擒不許殺害違者一體抵罪蓋天理人心昭然難泯而欲欺昧以

求滅賊未有能濟者也

御史徐栻云自古命將出征師還奏凱取魁首以爲大戮後世緣此遂尚首功故首級不明非惟功賞不實亦多戕害人命西北邊功正患坐此流弊也故我

祖宗深鑒茲弊惟北虜女直倭寇南蠻得論首級以其種類別而真僞易辨耳近者斬獲倭寇得比照流賊事例已該兵部題奉

欽依無容別議但臣恐貪冒成風功次失實則未免貽誤

皇上勅下該部議行海防巡撫都御史以後凡遇海上報捷即便詳加勘驗果係皮肉緊縮有血蔭刀痕者方爲真正首級頂心頭門無髮又非刀剃者方爲真正

倭頭得以首級論功奏
請陞賞其有中國勾引之人雖係有髮須在大夥賊內對
陣擒斬者方許比照從賊生擒例議賞如有誣殺平
民妄冒功次者悉從巡按御史參究坐罪則庶乎首
級申明而慎軍功重民命胥得之矣伏惟
聖裁

處首級

都御史唐順之云鳥銃手不許割首級亦不暇割首級論實與餘軍照數分給假如百人為率或鳥銃手十名餘軍九十名鳥銃手居餘軍十分之一或餘軍內得一首級該銀三十兩則鳥銃手得銀亦十分之一共分銀三兩或鳥銃手五十名餘軍五十名鳥銃手居餘軍二分之一餘軍得一首級則鳥銃手亦得銀二分之一共分銀一十五兩人數若得多寡分銀數多寡率照此例算

恤傷殘

巡撫都御史彭巡按御史孫等議云優恤軍屬律有正條隱蔽殺傷例有明禁今後各道并軍衛有司部下軍兵俱要從實開報陣亡官員給銀三十兩奏請陞級他鄉客死者仍給關文陣亡民兵一名給銀五兩官軍一名給銀三兩被傷軍兵傷重者一兩傷輕者五錢被殺民人未埋者五錢已埋者三錢被傷未痊者一錢房燒盡絕十口以上者三兩十口以下者一兩五錢老小無依者五錢壯丁砍去蘆蓆者應納鹽課官爲處補俱從兵備道呈請查給若有隱蔽不報者從重究治督糧道仍將近者議免太倉嘉定上海崇明四州縣荒蕪田糧及民運白糙粮米議改折

數目出榜諭衆通知務裨民有實惠

明火保新安 明宗憲輯議 孫舉人胡燈重校 崑山鄭若曾編次

經畧二

禦海洋
固海岸
勤會哨
謹瞭採
重鄰援
散賊黨
慎招撫
擇守令 拯民窮
嚴城守

築城堡
廣團結
詰奸細
行保甲
降宣諭 用間諜附
通貢道
開互市

宗憲竊臆論之　云防海之制謂之海防則必宜防之于海猶江防者必防之于江此定論也

國初沿海每衛各造大青及風尖八槳等船一百餘隻出海指揮統率官軍更番出洋哨守海門諸島皆有烽墩可爲停泊其後弛出洋之令列船港次浙東于定海浙西于乍浦蘇州于吳淞江口及劉家河夫乍浦之地海灘淺閣無山礙避風之處前月把總周易等所領戰船被賊燒燬僅遺十餘隻近又報爲颶風擊碎不若海中洋山殿前窩集及可泊船也吳淞江口及劉家河出海紆迴又非泊船防海處所議者欲分番乍浦之船以守海上洋山蘇松之船以守馬蹟定

海之船以守大衢則三山品峙哨守相聯可扼來寇而又其外陳錢諸島尤爲賊衝三路之要兵部原題副總兵俞大猷統領戰船住劄海上防賊截殺則如陳錢乃其所當屯泊而提督軍門及海道等官每於風汛時月相參巡察有警則我大船火器衝截賊入使不得越過各島則彼毒無所施礮擊不作而內地安堵矣

此言哨船當泊於外洋山島大義與督參趙侍郎疏同

又云直隸與浙江名雖異地而實則一家若不設官總理則彼此自分門戶賊一入內地隨風南北可以互犯故必共守陳錢分守馬蹟等三道而後賊無遁情兵可夾擊必得總兵官正副二員分駐金山臨山要

會之地先宜峽錢以春秋分任更番出入而營將令
晝三道馬蹟營三山各督信地則人易為守而守無
弗力矣

此言總兵當分任哨責

通政唐順之云舊制二哀言來無人不言舊之于海而
竟罕有能禦之于海者何也文臣無兵海若則將領
畏避潮險不肯出洋將領不肯出洋而責之小校水
卒則亦躲泊近港不肯遠哨是以賊惟不來來則登
岸殘破地方則陸將董罪而水將旁觀矣臣竊觀崇
明諸沙舟山諸山各相連絡是造物者特設此險以
迂海賊入寇之路以故吳淞江定海內地港口也
國初設縣置衛最有深意而沈家門分哨之制至今可考

今無春汛暑汛每汛則松兵備副將崇明寧紹兵備
或海道內推撥一人督駐舟山而總兵副總兵常居
海中嚴督各總分定海面期於會哨晝夜梭巡環轉
不絕其遠哨必至洋山焉蹟

此言海中遠哨近哨

又云

國初防海規畫至為精密百年以來海烽久息人情怠弛
因而廢

國初海島便近去處皆設水寨以壯險隘敵後來將士懼
於過海水寨之名駐在而皆是海面移置海岸聞老
將言雙嶼列港皆嶼諸島近時海賊據以為巢者皆

是

水寨故處向使我常據之賊安得而奠之今宜查出
國初海防所在一一修復及查沿海衛所原設出哨海船
額數係軍三民七成造者照數徵價貼助打造福船
之用

此言水寨哨船舊制當復

兵部尚書楊博云平倭長策不欲鏖戰于海上直欲邀
擊于海中比之制禦北狄守大邊而不守次邊者事
體相同誠得先發制人之意

國初更番出洋之制極爲盡善至于列船港次猶之棄門
戶而守堂室浸失初意宜復

祖宗出洋之制

此言舊制原
禦寇于海中

南京工部尚書馬坤等題乞聚船于馬蹟山以爲諸路
水軍老營仍于揚山設水營以扼賊入乍浦川沙窪
由吳淞江口入蘇松之路于大衢山設水營以遏賊
入寧波台温之路專設海上總兵特造出海大艦如
古拏飛艦飛虎艦戈船樓船將軍之制仍大申出洋
之令脩復大青風尖八槳等船以便行使

此見與趙文作禦寇
遠洋大同小異

在京各衙門會議云倭奴長技利于陸我兵長技利于
水歷查連年用師凡得捷俱在海戰利害較然明矣
海中陳錢大衢馬蹟揚山諸島爲賊南犯必由之路
先該督察侍郎趙文華條陳會議海防長策首列此
條今又訖

工部尚書馬坤左通政何雲俱題相同合咨新任總督令總兵官速集太倉崇明嘉定上海沙兵及福蒼東莞等船分爲二哨專守揚山馬蹟又將紹興温台捕魚及下八山採捕福蒼東莞等船分爲二哨專守普陀大衢其陳錢山爲浙直分路之始所宜更番共守

此言禦寇惡逺洋之策爲是

丙辰會試策云諸將海戰而勝者常十一其内地戰敗者常十八何勇于海而怯于内也其故有四士卒入海人無還心皆殊死戰無所逃難一也洪艭巨艦易以凌賊勢便二也毒藥火器且戰且焚三也賊載水而飲開口待鹵勢不能持久四也而其後不能禦賊者亦有四徂不測之險以命博賊而常賞不酬勞其怠心一也海中無人易以爲解二也既不能賞易於姑息將不能驅三也海波不常或利或否四也議者皆言益脩戰具反其四失守馬蹟殿前諸山以控吳守大衢諸山以衛越守陳錢諸島以制賊往來之衝夾擊互救三道與時賊不足防矣

此言海戰利弊

南京兵部尚書張時徹云今之水戰正能要擊去賊而於來者未能遏其烽夫來賊銳而去賊惰擊惰易而攻銳難人情所習知也然擊來賊者譬之撲火於方然之始火滅則棟宇可以無虞擊去賊者收燎於既燼之後此其利害則有間矣自海上用師擊來賊者

僅一二見而要去賊者亦不過文其縱賊不追之罪耳今若以擊來賊之當優於追去賊之賞以縱來賊之誅嚴於縱去賊之誅而當事者同心僇力急如救焚盡過海外方來之寇則邊鄙又何不寧耶

此言海戰以擊來賊爲奇功

總兵俞大猷云倭賊自彼島入寇遇正東風往由茶山入江以犯直隸則江內正兵之船可以禦之遇東北風必由下八山陳錢里西倒球干邪清水馬蹟浦畧丁興長途衢山揚山普陀馬墓等畧經過然後北犯南直隸西南犯浙江請于浙江共設樓船二百隻蒼船二百隻分伏于前項海畧往來巡探攻捕名之曰遊兵而遠遏之於大洋之外

此言當設哨船于浙直外洋

布政司吏孫子良鴻 督工 應芳

又云大洋以外欲就諸山隨處結營隨班分哨常得勝勢似足以賴然萬里風濤不可端倪白日陰霾幾如黑夜故有相遇而不可擊亦有未必相遇者

此言外洋禦賊之難

主事黃元恭云或者曰我兵長於水戰短於陸戰而倭奴則長于陸短于水故禦之莫要于海中陳錢馬蹟大衢殿前揚山當倭奴往來之衝誠設總兵官駐陳錢參將三員分駐馬蹟大衢殿前洋山常川督哨禦其來而邀其去賊殆盡殲而魚矣愚竊謂此策甚善而難行蓋海樓經月必有颶風巉崖劒峰難於掟泊癸丑春參將俞大猷圍王直于馬蹟蛟龍鑿砲而起

幾至覆沒師旋賊逸乙卯秋浙直會兵大衢毀前邀賊歸路疾風暴雨大作飄沒舟師以千萬計是亦乘危幸功者也夫大海無際何獨稱四山爲賊由之衝蓋航海者必晝行夜止依山宿泊自倭東南而來望中惟此四山相去各一二日程始至陳錢必泊次泊馬蹟次泊大衢次泊毀前洋山若驛傳駐蹕然固非若于年谷東西莫適必由隘中行者賊誠知山有兵東西南北何所不適雖失所依泊然與倭戎兵之必死寧冒風濤之不測且聞長老云起椗揚帆舍山泊而適大洋此避颶風之妙術而豈謂必死地哉知戎地而不避有生途而不趨賊必不然矣然則禦其來而邀其去不可爲數曰依此四山但嚴會哨應援之

令潛師伺之萬無不中若設官艦駐是示趨避之標耳故是策也宜潛不宜露宜邀其歸不宜伺其來蓋歸路可計日候風信故也

此言陳錢諸山但可設伏以擊去賊

副使茅坤云方其海寇之舳艫相望必由通海之門戶而入于蘇松之吳淞江劉家港之類是也古人云守險者必先設險于險之外守之其所謂海戰之重兵如各將所提闖廣募兵之類當設戰艦備火攻而謹斥堠以迎擊于淞海之上賊未泊岸則當夾水而陣以遮擊之賊既及岸則當隨其賊艘所泊之處而直搗之此則海上格鬬之兵也將之最猛兵之最精者可以當之

此言當禦之于海中將近港岸之處與陳錢馬蹟遠攻之說異

禦海策云備倭之術不過守禦二者而已未聞泛舟大海遠征島夷雖以元世祖之威伯顏宇木兒之勇艨衝千里旌旗蔽空一遇颶作萬人皆為魚鱉此其明驗也而況沙石起伏洲渚驅阻風候向背潮汐高下波濤洶湧至到淺深彼皆素所諳練以我之迷而蹈彼之危能為必勝哉

此與前說相反

海道副使譚綸云陳錢馬蹟洋山在內海之外止可出哨不能設守蓋恐糧餉易匱聲援莫及不如荊川備倭之說為善且自來水寨設在沈家門遇有緩急戰守兼得耳

此言設險遠洋不如守近洋為穩便

都指揮戴冲霄云浙洋諸山沈家門居定海之東相去二潮乃寧紹之外戶也陳錢馬蹟大衢洋山尤為窩遠乃沈家門之外藩也外藩設而門戶固門戶固而後堂室安故有識者咸欲設險于陳錢四山以扼來寇以愚觀之沈家門水寨乃信國公之所設其才識高遠人所素讓豈見不及此故舍遠而就近哉必其身親相視四山太遠孤懸海中難於聲援不若沈家門與定海哨報易及策應易施熟思審計夫是之處耳不然大海渺茫風潮難犯水兵官可藉以躲閃萬一四山失備致寇直搗追咎無及反致悞矣不若守

之近海易于綜覈
太祖之所以聽從信國或者在于此耶
太祖神明先見毫髮不爽信國公若有疎謬肯遽聽信之而已乎

此說與譚副使所論相似而推原舊制當守尤爲有見

知府嚴中云外洋禦寇豈不是上策但在將官有難於奉行者何也海中無風之時絶少一有風色天氣即昏而對不相見矣須十分晴明方能瞭遠歲在巳未颶風大作四百戰船一齊覆沒利害如此將官出哨豈敢遠浮大洋必尋島內收泊令一二小舟行探耳若迎風而上遇敵歸報賊使順風瞬息數百里報至賊亦至矣若順風而去遇敵歸報甚難甚難況遇賊

被殺將官不知此常事也故謂海戰爲可恃者必其未嘗親至海洋者也若見海洋自知此說之難行而以固海岸爲不易之定策矣

此說以固海岸爲上策與 唐荆川以固海岸爲第二義不同

又云海防不設險于海岸而設險于海中山沙循論北方邊務者不可但守近邊須遠守于邊墻之外其見同也昔者劉子俊嘗因脩外邊費財甚多其後邊墻反易壞而難守何也離內地太遠照顧之力自有所不逮也且如北邊之制每城梁相去六七一軍守之積而至于六百丈之遠不過守以千人而已虜來攻城動以數萬計六百丈之間只此千人如何相策應而禦乎此與水兵哨船出海太遠聲援不及備禦甚難

同一義也

國初信國公不肯設險于險之外眞其智不及此哉可以悟矣

此見與譚副使知州相似

海道副使譚綸又云今之談海事者往往謂禦之於陸不若禦之於海其實大海茫茫却從何處禦起自有海患以來未有水兵能盡殲之於海者亦未有能逆之使復回者不登於此必登於彼即十得其一二彼亦視爲不幸而遇風者且徒徘之心固自在也若陸戰一勝即可盡殲賊乃覆舟不復犯我此水戰陸戰功用相殊而將官則力主海戰爲是者以海戰易於邀擊陸戰則瞬息生死勢不兩立且萬目共覩不能

作弊當事者宜坐照之勿使將官術中自失長算可也

此言與荆川之見不合然將官閃避情弊洞燭無遺矣

寧波生員陳可願云吾昔使日本經歷海中諸山注意觀之陳錢乃孤山突出極東大洋水深不可下椗又無奥可泊惟小漁舟灣泊至此即以舟拖閣灘塗採捕後仍拖下水而回欲以此爲期會之地恐不便也馬蹟大衢洋山則不然蓋馬蹟有小潭可以泊舟但有龍窟不可放砲遇敵難戰此山雖在陳錢之西離大衢尚遠賊舟西來一過陳錢即是馬蹟以此爲會

哨之地可也大衢與長嶼相對其西有礁無泊不可以泊舟且亦有龍窟宜避之其東面有衢東曇者可容廣福船四十隻但水雲蕩不寧舟泊于此久則易壞不如以大舟藏于長塗之北而以哨舟泊于衢東曇遇警舉號招廣福船勦之豈非長久之計乎但大衢在北長塗在南不過半潮之遠潮從東西行兩山束縛其勢壯波哨船戰船遇潮來與落時皆難橫渡候潮平然後可行策應亦有不便者

禦海洋之策有言其可行者有言其不可行者將以何者爲定乎曾嘗覩至海上而知之何來定海奉象一帶貧民以海爲生盪小舟至陳錢下八山取殼肉紫菜者不啻萬計每歲倭船入寇五島開

洋東北風五六晝夜至陳錢下八分艘以犯闖漸直隸此輩恒先遇之有被擄爲鄉導者

因此諸山曠遠海條無居民守禦賊得以深入

總督胡公與趙工尚之議所由建也

國初以來從來無人發此自二公上疏之後閩不兼其精思卓識然事理雖長而未經試練嗣後將官遵而行之始覺其間有不便者何也離內地太遠聲援不及接濟不便風潮有順逆舡舶有便否蛟龍之驚觸礁之險設伏擊剌之難將官之命危于磊卵無惑其爭執爲難行也然自禦海洋之法立而倭至必預知爲備亦甚易非在乙卯以前倭舶岸人猶未覺正爲寇也苟因噎廢食之不欲而遂已之其

四哨而廩食也烏可哉如愚者哨賊于遠洋而不常厥居擊賊于近洋而勿使近岸是之謂善體二公立法之意而悠久可行矣

通政唐順之云賊至不能禦之於海則海岸之守為緊關第二義賊新至饑疲巢穴未成擊之猶易延入內地縱盡殲之所損多矣然自來沿海戍守莫不以擁城觀望幸賊空過謂可免罪而不顧內地之殘破內地戍守亦幸賊所不到而不肯策應沿海令郤不然宜分定沿海保護內地內地策應沿海地方沿海力戰損兵折將宜坐內地不能策應之罪內地殘破沿海幸完宜坐沿海縱賊之罪又如同是一樣沿海地方賊由寧紹登岸寧紹郤不殘破而殘破溫台賊由溫台登岸溫台郤不殘破而殘破寧紹自來則坐地方殘破者之罪今郤不然宜并坐賊所從入其沿海

文武將吏有能連次鏖戰抵遏賊鋒阻賊下船不得登岸深入者雖無首級以奇功論一准平倭事例如此則人知謹於海岸之守不敢幸賊空過以覬免門

戶常局堂慕自安矣

此言沿海之兵與內地之兵宜相策應

主事唐樞云國初湯信國經理海防北起乍浦南迄蒲門縈紆二千餘里設九衛及諸所諸巡司總有百城又營寨烽堠彼此聯絡援應接濟血脉貫通各都司集侍郎嗣為董潤已甚周密至今絕好能任事者只圖自守其城其附近地方有事及鄉村殺掠坐視不

太常寺卿魏校云晉溪在三邊欲分軍守邊遂菴聞而
訝之使人往問晉溪答曰三邊數千里欲一一守之
雖盡天下之兵不能也只是擇要害處爲達虜素所
入寇之路把截則可耳晉溪威令素行凡達入寇衆
軍爭相救援無不擒獲邊境稍安
此言北邊設險之法愚謂海防亦然則兵不費而寇可遏
鎮撫蔡汝蘭云環海兵船之設其法不爲不善其備不
爲不周矣邇年倭寇往來兵船未收全功者必有說
焉夫茫茫巨洋極目無際雖於要害之處聯艦設備
而疾風怒濤不時亦必擇善地而停泊焉豈得揚帆
起棹常出洋口而能盡阻賊船之不入盡遏賊船之
不歸哉但能於大數內打得分數中幾分耳必欲其

盡收全功以爲經久不易之圖在於水陸夾攻盡之
矣夫倭寇之發舸犯我也每徒止備一月行粮而飄
泊二月者有之每船可載百徒而滿載二百者有之
及其抵岸困憊莫甚使得焚舟登陸奪險鼓勢養銳
蓄精然後出我兵以臨之近者十日遠者一月方得
與賊相望反主爲客轉佚爲勞豈能得志於彼哉爲
今之計宜於春汛小汛先期一月將各道兵士督發
各海口要害之處如在嘉湖者出三關在紹興者出
龕山出臨山出觀海出三江在寧波者出定海出昌
國出象山在台州者出海門出新河出松門在溫州
者出楚門出盤石出金鄉等處安營操練與兵船相
表裏以爲防守萬全之計設或賊船潛入海口則水

兵星羅於其外陸兵雲布於其內其將至也擊其困憊既至也擊其先登既登也擊其無備以疲憊倉遑之賊而當我養盛豫備之兵一鼓成擒可不血刃而收其全功矣春汛之期不過三月將終四月將半小汛之期不過九月將終十月將半過此則非風汛所利而倭警不必防矣今宜於每年三月九月初將各道統兵官分與信地令其督領部兵出沿海兵船停泊之處安營操練防守賊至即擊春汛至五月終小汛至十月終方令徹兵歸道嚴立限期通行浙直廣福提督總兵衙門永為遵守則防禦周而賊無返棹先聲懾而賊無伺志矣

兵備副使凌雲翼云哨探者兵之耳目也哨探既真則先事有備今沿海守把官員過賊初至皆不聞知及已近岸倉遑失措其則我船亦有被擄以爲賊資者今後把總官務要督同各哨官員多置蜈蚣梭船精選熟知水性之人遠出外洋分投哨探如有聲息先來傳報其附近各港官兵一聞警急隨合艘約會截擊大洋庶可獲制勝之功如賊從某官某信地登岸把守官不先期傳報附近官兵聞報不即時策應以致深入腹裏貽害地方聽本道查實指名參究坐以失誤重罪其有與賊相拒衆寡不敵者原情另處庶

入心兢惕海防可固矣

予按哨探與間諜不同間諜者使人於敵中設法離其腹心覘其虛實之謂也哨探者將欲進兵預分遣人裝作田夫漁樵之類於兵所經行險阨路口宵行夜伏窺輯於我兵將到之前久某處有伏某處無伏逐路報知兵得以安心前進也此頗極其機警熟知道路之人方可任使乃將之腹心所托兵之安危所係也非平日恩信相孚者不可

廣福浙三省大海相連地畫有限各分界以守則孤圍受敵勢弱而危戕捕之謀能無有賴於相須乎魯考入番罪犯多係廣福浙三省之人通販流刼南風汛則勾引夷船由廣東而上達於漳泉蔓延於興福北風汛則勾引夷船由浙江而下達於福寧蔓延於興泉四方無賴又從而接濟之嚮導之若欲調兵剿捕攻東則竄西攻南則遁北急則潛移外境不能以窮追緩則旋復合幫有難於卒殄此夷船與草撇船之大勢也又有一種姦徒見本處禁嚴勾引外省在福建者則於廣東之高潮等處造船浙江之寧紹等處置貨糾黨入番在浙江廣東者則於福建之漳泉等

處造船置貨糾黨入番此三省之通弊也故福建捕之而廣浙不捕不可也廣浙捕之而福建不捕亦不可也必嚴令各官於連界處會哨如在福建者下則哨至大城千戶所與廣東之兵會上則哨至松門千戶所與浙江之兵會在浙江者下則哨至流江等處與烽火之兵會在廣東者上則哨至南澳等處與銅山之兵會遇有倭患互為聲援協謀會捕賊勢豈有不孤窮而海患豈有不戢寧者哉

福建五寨烽火門水寨設於福寧州地方以所轄官井沙埕羅浮為南北中三哨其後官井洋添設水寨則又以羅江古鎮分為二哨是在烽火官井當會哨者

小埕水寨設於福州府連江縣地方以所轄閩安鎮北茭焦山等七巡司爲南北中三哨是在小埕寨當會哨者有三

南日水寨設於興化府莆田縣地方以所轄冲心莆禧崇武等所司爲三哨而文澳港哨則近添設於平海之後是在南日當會哨者有四

浯嶼水寨設於泉州府同安縣地方上自圍頭以至南日下自井尾以抵銅山大約當會哨者有二

銅山水寨設於漳州府漳浦縣地方北自金山以接浯嶼南自梅嶺以達廣東大約當會哨者有二

由南而哨北則銅山會之浯嶼浯嶼會之南日南日會之小埕小埕會之烽火而北來者無不備矣

由北而哨南則烽火會之小埕小埕會之南日南日會之浯嶼浯嶼會之銅山而南來者無不備矣哨道聯絡勢如常山會捕合併陣如魚麗防禦之法無踰於此

浙江六總浙海諸山其界有三黃牛山馬墓長塗冊子金塘大榭蘭秀劍山雙嶼雙塔六橫韭山塘頭等山界之上也灘山許山羊山馬蹟兩頭洞漁山三姑霍山徐公黃澤大小衢大佛頭等山界之中也花腦求乏絡華彈丸東庫陳錢壁下等山界之下也此倭寇必由之道也海防莫急於舟師舊制邊海衛所各造戰船有七百料五百料四百料二百料哨船有七百料五百料四百料二百料哨船有七百料五百料四百料二百料哨

以不便海戰改造福清等船復調發廣東橫江烏尾
船顧稅蒼沙民船又有小哨草撇船軍駕八槳船裝
火器出奇埋伏划網船四叅六總分哨守各洋港叅將
原設二人分守浙東西後分為四日杭嘉湖日寧紹
日台州日溫處把總原係指揮四人今因地方多事
衛所窩逺分而為六日定海日昌國日臨觀日松海
日金盤日海寧裁去備倭總督而各把總以都指揮
體統行事 每值春汛戰船出海初哨以三月二哨以
四月三哨以五月小陽汛亦慎防之每年六七八月
十一二月不常舟皆不可行三月至五月東北風多
倭來便易十月小陽汛亦可渡海寇有停泊海島兼
閒而至者故東沃二汛皆當嚴為預防也 其南哨也至鎮下門南麂玉環
烏沙門等山交於閩海而止其北哨也至洋山馬蹟
灘浙衢山等處交於直海而止陳錢為浙直分界之
處則交相會哨遠探窮搜復於沈家門列兵船一枝

以一指揮領之馬墓港列兵船一枝以一指揮領之
舟山駐劄把總兼督水陸賊若流突中界也則沈家
門馬墓兵船北截過長塗三姑與浙西兵船相為
犄角南截過普陀青龍洋非山而與溫台兵船相為
犄角賊若流突上界也總兵官自烈港督發舟師北
截之於七里嶼觀海洋而叅將自浙梅山港兵船為之應
南截之於金塘崎頭洋而叅將自臨山洋督兵應接
援是故今日之設險自內達外有三會哨於陳錢分
哨於馬蹟羊山普陀大衢為第一重出沈家門馬墓
之師為第二重總兵督發兵船為第三重備至密也
所患者海氣溟濛咫尺難辨風濤欻忽安危叵測無
之潮汐有順逆哨報有難易奸將徃徃藉以掩

何從而綜覆之哉自海上用師以來擊來賊者僅一二見而要去賊者不過文其故縱之愆識者謂宜以擊來賊之賞優於追去賊之賞縱來賊之罰嚴於縱去賊之罰風汛時月正副總臣不拘警報有無而親出海洋嚴督各總傳力用命以遏海寇於方來則何邊鄙不寧之有

福浙直海洋浙東地形與福建連壤浙西地形與蘇松連壤利害安危各有輔車相依之勢故上命浙江巡撫總督浙直福分哨各官互爲聲援而不許自分彼已畫地有限責任相聯此廟謨之所以爲善而海防之所以爲固也愚考海中山沙南起舟山北至崇明或斷或續暗沙連伏易於閣淺

賊舟大者不能東西亂渡如遇東北風也必內下八陳錢馬蹟等山以犯浙江而流突乎蘇松如遇正東風也必由茶山西行以犯淮揚而流突乎常鎮如遇正北風也必由琉球以犯福建而流突乎温台三途寫遠聯望難及須總兵官撥遣兵把總領哨千百戶等船往來會哨（按文信錄爲驗）其在浙江也南則沈家門兵船哨至福建之烽火門而與小埕兵船相會北至馬墓兵船相會北則營前沙兵船哨至茶山而與江北之兵船相會諸哨絡繹連如長蛇群力合并齊如扛鼎南北夾擊彼此不容豈惟逐寇船於一時殆將蟠

寇患於無窮矣

閩縣知縣仇俊卿云

國初沿海相近地方轉相哨報勢合情聯絡事機漸疏即以東南沿海直隸與各省相近之勢言之浙之海寧等處則北與直之金山崇明等界相接南與閩之流江烽火等寨相接閩之鎮山玄鈐等灣則又南與廣之柘林甯蓬萊驛相接但來各省自分彼此不相哨報緩急難備今欲與各省相近衛寨轉相會哨徃來絡繹使萬里海洋無懸料叵測之患其會哨官軍舡隻須各給字號牌票以防險細混雜為奸仍註到銷日期以杜偷玩

又云兵法地有所必爭言其險要也嘗聞海寇徃來其

大舡常躲甯外洋山島之處小舡時出而為剽掠在浙常於南麗山住舡雙嶼港出貨若東洛赭山等處則皆其別道也在閩常于走馬溪舊浯嶼住舡月港出貨若安海崇武等處則皆其游莊之自浙迤北則極于料角而屬于直隸自閩漸南則灣于南澳而屬于廣潮中間所泊所經之處可以得其概也

兵部尚書楊博題云南北總督總兵職專閫寄欽奉
勅諭一應事宜聽其處置並無中制之意至於止以血戰
應援爲功不以捐軍擅離爲罪又節奉
命旨永爲定額合行各官從實舉行以後鄰封如果有警
本鎮無警即便發兵策應共保萬全如敢自分彼此
秦越相視者聽巡按御史指名參奏
丙辰會試策云列地定制大牙相入所以相衛也封疆
相錯所以相保也緩則相安急則相救非爲自全而
已也故春秋鄰國不能救則譏之桓公不能恤小則
譏之此天下之大誼也漢石渠之伐兩將軍異同而
朝鮮幾危唐祿山之變而賀蘭擁兵睢陽遂伯此天

下之大機也今地壤相接而坐視勝敗令賊長驅深
入而無顧忌之心此甚不可長也愚以爲宜特嚴其
法約曰賊攻西則東出銳師擊其左賊東則亦如之
賊攻南則北出銳師繞其後賊北則亦如之賊攻中
則左右前後各出銳師四面而起非其守地而兵先
至者有罪坐視其鄰之敗者與同罰則賊腹背受
敵我多捷兵也賊亦安能肆而不顧哉此最多方弭
賊之道今日之要務也

夫人王文祿云今當著爲令救之令若攻一省諸郡救
之若攻一郡諸邑救之若攻一邑鄰邑救之正
猶子弟之衛父兄手足之捍頭目保家保身而不可
緩也夫所謂救之者非盡撤居守之兵以救之也蓋

每郡每邑每所抽其精者而教之則合少而成多也惟抽其精者而勵之以敢死之志歃之以信賞之榮或負砲夜偷或繞擊不意則砭腹肩受敵驚潰莫支解散而不暇攻矣蓋城既被圍兵不能出以應敵必得鄰境外兵始能救之不然坐待其斃也況東南郡邑有數唇亡齒寒竹破菑解將安救哉必在位者調元氣倡大義震赫斯怒大為之處凡有坐視而不救者與失陷同罪則庶乎衆志一而援助之廣可以望其平也

都御史唐順之云逋逃不特如王鏦李華山洪迪珍等有名賊首力能攜倭爲亂者而已以臣所親見三沙千餘倭子起自瓜洲一被擄人馮三嗾其揚州取寶遂至閘然遠來馮三之在中國不啻一蟣虱及在島中却作此一番風浪雖旋就誅殛而流毒已多矣然則逋逃不歸東南誠未可以息肩也

此說恐難行蓋逋逃之人在彼得利招之不來況殺王直誰其信之昔秦嘉謨王良之叛也當道皆欲其降而殺之吾師莊渠先生已後日招降之今從此更不可行矣蓋招而處之則可招而後之則不可寧可不招招後必不可以失信胡部堂令軍門之牌曰已降者不殺再叛者不饒新起者必撲滅於微至哉言乎

大常寺卿魏校云海寇須開其自生之路自古豈有二三千人致死命不開其生路而欲盡殲之者諸人能不以克勝受賞爲心方可與上帝之心合其事方可成功

兵部尚書王守仁云出給告示凡脅從皆不問雖嘗受賊官爵能逃歸者皆免死斬賊徒歸降者給賞使內外居民及鄉道人等四路傳播以解散其黨

副使吳子孝云中國貴乎下海之人不得歸其鄉土故及爲海寇之用彼豈無父母妻子之思哉請開其求生之路出給小方紙榜萬張以付彼來閒諜之人往彼散給招撫日若曰吾民脅從海寇原非本心今日執此投降悉免本罪願充行伍願歸鄉土者聽能自相擒殺者賞如前說令松江上海招而殺之失信可

惡當以守信爲主庶有功也

副使茅坤云於閩之漳福泉州浙之寧波等處當行有司嚴爲保甲之法各籍其里之名氏而鈎考之而爲之鈎考者亦非欲據籍而罪之也特令見在土著者不得望風而煽誘入海既群聚入海者廣令招諭曲爲緩其罪而出且爲之下令大畧賊從以下有自縛來歸者並得免死有能手刃其黨來歸者仍按給賞銀二十兩三級以上仍命爵一級有能誘衆面縛來歸者亦如之有能手刃所稱佐亂劇賊則如某某者賞銀五百兩仍世襲千戶其嘗佐亂劇賊而能率所部來歸少或數十人多或百人以上者賞亦如之所部一人獲免死仍優恤以差其能手刃首亂某某來歸者

賞銀一千兩仍世襲指揮使其斃首亂能自歸者亦除罪免死而能率所部二三百人以上自縛來歸者賞亦如之其所部人亦得免死仍優恤以差凡賊中有能自縛告以賊情導官兵擊死得勝者每二級准一級爵亦如之有能焚溺其舟并輜重兵仗因來歸者而告官驗實亦賞如手刃佐亂之賊又下令於閩之漳福泉州及浙寧波等處各賊犯之父母妻子兄弟朋友隣佑有能自行首鳴者勿連坐其爲若父母妻子兄弟朋友隣佑不能首鳴而他人告發驗實則以其罪罪之仍量以所犯之貲充賞有能私縛所犯來歸者並亦得免死賞如之有能以姓名聞官因而詐入賊黨本圖誘所犯來歸所犯卒不聽因

而謀知賊情告官而令官兵擊殺得勝或左計陷賊或自賊中焚溺其舟而出者賞亦如之其故行黨而不以告者並得論罪如律又下令傳示海島諸夷有能手刃首亂之賊或擊滅其黨數十百人以上効首厚以聞者賞以萬金加之封爵願歲通貢入市者聽主事唐樞云內地人入賊夥者須許親識的當人甘結令其自新以散賊黨庶可因而行間

都御史唐順之告示倭夷人等汝等背逆天道侵犯

天朝

皇天震怒送汝死地今

朝廷命大將統兵十萬勦滅汝等陸續抽換先遣一萬上

沙殺汝等一番抽回再換一萬上沙換了十遍汝等不殺盡了何處逃死近日小小一戰汝等頭領一箇已被我殺了汝等殺了一箇便是一箇我兵朝添暮換無有盡時我兵火銃千萬管火藥千百擔不盡殺汝決不肯罷汝等已在必殺之地不消我兵上陣殺汝但四面遠遠守住汝等糧食勾得幾時雖不殺死亦當餓死盡了況汝等倭夷今年盡遭厄運江北浙東今年被我大將統兵俱殺盡了一箇不曾逃得汝等豈不聞知今大將憐憫汝等雖是惡氣亦是天地間並生並育之物特為汝等開一條生路汝等肯聽吾言各自求活第一盡數送出中國被擄人口第二將內中惡的倭子斬却首級二百顆來獻其首級須

要箇箇真倭不許將被擄人充數吾自認得汝等依
得吾言然後許汝進誓狀永不敢侵犯
天朝放汝回去以彰
聖朝遍覆至仁汝若不聽吾言必有後悔再三思之作速
來報
聞縣知縣仇俊卿云海寇之聚其初未必同情有寃抑
難訴因憤而流于寇者有遺籍門戶因勢而利于寇
者有貨殖失計因困而營于寇者有功名淪落因傲
而放于寇者有傭賃作息因貧而食于寇者有知識
風水因能而誘于寇者有親屬被拘因愛而牽于寇
者有搶掠人口因壯而役于寇者諸如此類中間不
無可矜雖在寇盜之日未必皆無求生之心樂于犯

法以其必死者豈人情之通好哉招徠撥亂轉移亦
易吾將為攻心之謀伐交之計必明揭榜于通衢或
書黃旗標插寇所內地之人有願歸籍許令不時投
首官給口粮押赴各該鄉井有親鄰識認者即時放
釋並不加罪中有豪傑能以智力取倭首來獻者另
行重賞若能說誘渠主出降者　題封見任官職如
此彼心危疑其黨必散又聞寇至地方必先擄其土
著之人以為鄉導吾即以鄉人之知巧者遣之擄去
及行間諜或假作接濟之人與之往來使不相疑或
暗貽之財使厚相結無餽飲食使日相狎如此來有
不可得彼之情以行吾計取者也

兵部尚書王守仁云招撫之議但可偶行於無辜脅從之民而不可常行於長惡怙終之寇可一施於回心向化之徒而不可屢施於隨招隨叛之黨何也寇亂之始被害之民特官府之威令猶或聚衆而與之角鳴之於官而有司者以爲既招撫之則皆置之不問盜賊習知官府之不彼與也益從而脅之民不任其苦知官府之不足恃亦遂靡然而從賊由是盜賊益無所畏而出劫日頻知官府之必將已招也百姓益無所恃而從賊日衆知官府之必不能爲已地也夫平民有冤苦無伸而盜賊乃無求不遂爲民者困征輸之劇而爲盜者獲犒賞之勤則亦何苦而不彼從乎是故近賊者爲之戰守遠賊者爲之嚮導處城廓者爲之交援在官府者爲之間諜其始由於避禍其卒也從而利之故曰盜賊之日滋由於招撫之太濫者此也

兵部尚書胡世寧云自古盜賊之興即當撲滅於微若其既久而多則不得不撫捕兼行者蓋以情則脅從當罔治以勢則延蔓難根誅也故如漢武帝以南征北伐之威不能盡殺盜賊及後輪臺下詔休兵恤民盜賊不見其迹又如漢龔遂當宣帝疆盛之時下令渤海諸持田器者爲農民吏無得問罔不聞其誘使釋兵而盡殺之也自古招撫之失有當戒者如唐宋金元之季官其渠帥授以土地假以兵權更或因其

懈弛而遂行誘殺見其跋扈而復事姑息以是盛信
兩失紀綱大壞坐致衰微
又云已招者不殺再叛者不招新起者必撲滅於微
又云齊民無故首亂必遏絶其萌決不可用招安之策
萬一不得已而用焉必播告之曰除首惡某人不赦
外其同黨有能自首及縛其人來者皆宥其罪量加
以賞

丙辰會試策云將之所轄者廣而守令之所守者專如使守令能用其民則諸郡邑皆兵也否則將以賊所至而用兵兵不得不寡如使守令能率其民以禦賊則賊所至皆其敵也否則將禦其東而賊轉西將禦其南而賊轉北賊無端而將所向之方有限將不得不勞兵寡而將勞立敝之道也故李廣守北平而匈奴避邊魏尚為雲中守而虜不敢犯龔遂為渤海而盜賊散魯恭至樂安而渠帥降此其已然之效也其法莫如部使者察東南諸郡守令之宜而易置之又使天下部使者皆察其可為東南守令者上之銓司按諸察舉擇

其宜而授之如賊小至則各以其地戰大至則固其地以待援能守者與勝賊者同賞賞必速玩寇者與將敗者同罰罰必重如此則守令與將同心而諸郡邑與幕同體合而為一以禦賊尚何賊之不滅哉

此言守令若皆得人則處處自能守禦不全倚靠將官

裕州知州王守云募調客兵措置錢穀以是禦倭非採木之論也治道須有根柢擇守令得已蓋守令得人則一方之民悉被其擇苟可以利民者無所不用其極食如何而充兵如何而練民心愛戴逃亡自歸無有乎勾引無有乎接濟無有乎鄰導倭豈能自至乎即有外患民將樂於效死以戰則克以守則固矣若守不賢則倭未至而民先困倭將至而民益擾離心

離德咸懷叛亂之思矣兵食雖充何益乎

此言守令若得人則小民之從賊者皆歸化而捍賊否則民且爲賊兵食有無何足恃哉觀於此言其人牧民之賢可知矣

副使吳子孝云治兵以得民心爲本今海隅之民富者遇劫掠而盡其資財貧者謀逃遁而死於溝壑田不得種不得收困不可言矣在城廓者官役其力而無所給取其有而無所償遠近憤怨愁泣不絶上之人何由知之書曰怨豈在明不見是圖必須軫惻怛愷悌之念十分撫綏之而後可以得其親上死長之心撫綏之道奈何曰緩催科輕徭役禁酷暴戒科罰視之如子孫則民視上之人如父母而緩急濟用矣

此言寇至之時若有司不得其人則但知科派大戶與逼迫小民苦無所訴可見守令當擇

副使茅坤云近海郡縣有司尤當別議者何則國無鷄犬之警則廉靜長厚之吏當爲治最矣時有羽檄之馳則長駕遠馭之士亦所急使矣故語曰寬則寵名與之人急則用介胄之士方漢匈奴大入雲中上黨雖有龔黃卓魯之賢無益於用矣故漢武帝方聞匈奴如雲中上黨諸郡並出材官騎士若李廣程不識之徒以爲守尉竊謂今日近海之州縣也亦然爲撫巡者當合郡縣長吏及其佐貳並量其材而器使之大畧近海者則擇其疆智精悍之材一切練軍實築城堡謹斥堠嚴部署皆籍之以備緩急而其餘腹裏郡縣則擇其寬和柔靜之士慎出納謹筦籥特務與民休息而已此郡縣有司之畧也

太常寺卿魏校云欲重郡守之職惟是揀天下太守治行高第者按擢為都御史則監司不敢捃辱之其職自重

兵部尚書胡世寧云知府知州知縣三等親民之官使非其人則上司雖有好官行得好事不能實到百姓所以自古國家慎重此職漢制郎官出宰百里郡守入為三公唐制不歷刺史不得任侍郎列卿不歷縣令不得任臺練給舍我

國初取中進士俱選縣官徵至賢才多選守令正統以來知府俱責大臣保舉知州知縣另委吏部揀選所以得人且又立為定制知府見上司不行跪禮以

重其職其久任卓異者不次超擢如何文淵由知府即陞侍郎胡儼由知縣竟陞檢討所以人多樂為此官弘治初年又責其備荒積穀多寡以為殿最所以民受實惠固得邦本如此久長正德以來此官不重輕選驟陞丁焉者惟圖取賄要錢以防速退上焉者惟事奉承取名以求早陞皆不肯盡心民事以致民窮財盡一遇凶荒多致餓死今宜遵復

先朝舊規知府令在京堂上官干京官七品以上在外在閒五品以上官內保舉在外撫按及布按二司掌印官于參議僉事同知知州內保舉其知州知縣俱聽吏部預行揀選仍責撫巡布按二司于府通判推官同知知縣內保舉堪任知州之人干判官縣丞主

簿儒學教職司府衛首領官內保舉堪任知縣之人俱必其有愛民之誠有守已之操有處事之才三者俱備而後可任此職後有不稱舉主連坐誤舉者先能自首則免到任之後察其奉公守廉而不盡心民事才力不稱者改任品級相應職事貪酷罷輭者即時罷黜其稱職者留以久任知府九年上者即陞四品京堂并布按二司長官欠者照常陞參政副使等職知州九年上者即陞參議知府郎中僉事欠者照常陞員外府同知運同等官知縣上者三年行取到京考其文學德行出衆者選翰林忠直綱正識治體者選爲科道才識明敏者分任部寺屬官其有深得民心願留久任者超擢府州正職欠者九年六年照

常遷轉如此選任方得民受實惠地方雖遇凶荒盜賊可保無虞矣其在外知府知州知縣并九方面有司等官陞選俱合註於原籍相近地方廣西雲貴有司尤宜查照弘治以前事例只以本省人員內陞選庶免其不服水土且得到任易不致地方曠官誤事

此二條言重守令之法

拯民窮

兵部尚書楊博題云東南自有倭患以來兵荒相繼十室九空征斂百出不止提編之苦剝削萬狀誠爲激變之由皮盡而毛無所附良可痛心合行總督撫按官督同司運府州縣官務將殘民多方撫字一切無名之征以次停罷被災地方應該作何賑貸作何蠲免其實奏請聽候戶部處分其大小職官黷貨害民者文書到日限一月以裏各取太甚三四人指名參奏請旨拏究大抵爲政在人政貪則民殘政清則民安提綱挈領此爲首務也

此言民窮當拯至哉言乎讀其詞令人傷感不能寢食自非萬物一體之念素切於中安能建議若此之懇惻哉詞尾歸重貪官尤爲萬世不易之論使長民者能體是心而行民必無失所之患逋逃勾引何自而作蠢茲島夷何自而至哉曾之集經略也凡若干類此條所係尤爲緊要

唐節度使杜佑守城法在相機以應敵扇棧必塗泥城門扇及門上木棧皆以泥塗之厚可三五寸備火**樓櫓必**距離上建候樓以板為之蔽出為懸板**距離**戰格干女牆去跳出栔牆去三尺內着橫栝栔端安轄以荊柳編長一丈濶五尺懸栔端用避矢石**橋有轉關**一梁為橋梁端着橫栝去其橋轉人馬不得渡皆傾水中**堞有積石**每城堞積石百塊大小隨事或**又竿**竿如鎗刃為兩岐積長木如摽狀皆以備拋**又合為飛梯**又合為飛梯或兩旁曲刀以鉤拾**連棒**如打禾連枷狀用打女牆外上城敵人**布幔**以弱竿懸挂於女牆七八尺四折拋水**弩**以黃連桑柘為弩弓長一丈二尺徑七寸石之勢則矢石不復及牆**火箭**長一丈自行爐融鐵汁鑪也舁行兩稍三寸絞居張之大矢**於**城上以麗敵入副一發聲如雷乳敗陣之卒**行爐**

遊火繩以鐵筐盛火加脂臘鐵鏁懸**灰眯**灰慈糠粃因風于城上擲之以眯敵人目**積**松明燒之夜以鐵鏁縋城下巡城照敵人防其乘城而上因以鐵汁灑之**松明**竹簽其坑似亞字相連狀似鈎鏁以草**燕尾炬**縛葦草為炬尾分為兩岐如燕尾狀仍以油臘灌之加火縱城隆下便騎木驢而燒之

鹿角鎗斬木及竹如角狀為鎗或交對突突槎牙女**縛**而聯之列于城下以拒敵今**木柵**無城壘去處乃九邊用之為壕營名鹿作柞**木柵**建立木為之方圓高下隨事深埋木根重復羅縫其闕內重短為閣道外柱木重長出四尺為女墻皆泥塗之內七尺又立閣道內村上布板木為棧立關**鐵菱**狀如鐵蒺藜**蓁**柵上懸門擁墻豪壑拒馬以守**鐵菱**要路中置之以刺人馬**陷馬坑**長五尺濶一尺深三寸坑中埋鹿角鎗及細塵覆其上軍城**拒馬鎗**以木徑二尺長短隨事營壘要路皆設之

一丈鋭其端可以塞城門蒼要路人馬不得奔馳近日九邊製兩頭裹鐵中施橫棍長七尺五寸每七寸七分鑿一孔用鐵鎗五杆以小棍五杆**烽臺**於高山交界之連以鐵索令游軍伏其前後四顧險絕處置之無山亦於孤迥平地置下築羊馬城高下丈便常以三五為准臺高五丈下濶二丈上濶一丈形圓上建圓屋覆之屋徑濶一丈六尺一面跳出三尺以板為上覆下棧室上置突竈三所臺下亦置三所並以石灰飾其表裏復置柴籠三所流火繩三條在臺則近上下用屈膝弟上收下垂屋四壁開觀賊孔及安視火筒置旗一口鼓一面弩二張拋力壘木停水甕乾糧麻蘊火積火箭高竿狼糞牛糞每晨及

夜平安舉一火回警戒舉二小八見烟舉三火見賊焼柴籠及每晨夜平安火一小來即烽子爲賊所掩一烽六人五人爲烽子遞如有突刻觀視動靜一人烽率知文書符牌轉牌馬鋪每鋪相去三十里于要路山谷間牧馬兩足與遊牧討會有事警急煙塵入境即奔馳報探游奕於軍中遶川泉井者充常與烽鋪止河討會交阵日夕邏候於停障之外捉生問事其軍中虛實舉用勿令游奕人知副使子將亞夕軍行人取善騎射者無令人抵空胡祿臥有人馬行三十里外東西南北皆覓於胡祿中名曰地城池接近蠻寇者不可不豫備也至於聽則先防備

攻蠻寇破營寨則有火攻水攻二法馬火攻者火兵以號騎夜御枚縛馬口人負束薪麻藴壞火直赴敵一時舉火營中警亂急而乘之靜而勿攻凡火攻皆因天時曏晏舍茅竹積蔥粮軍營又有火獸以艾爆於結草宿莽之中因風而禁也火置瓢中瓢間四孔繫瓢于野猪獐鹿項下繫其尾端向敵營而縱之奔入草中瓢放火發火禽以胡桃剖分空中實艾火開兩孔復合繫野雞項下針其尾而縱之奔入草中號放火發也火盜遣人暗伏敵人同者夜窃號逐便縱火偷火弩以臂張弩射入營焚其積聚火發必亂而出及三百步者

司吏孫于良寫
八百一部呈官刊

以瓢盛火符矢端以數百張火箭以小瓢盛油冠矢中夜濟射敵營芻草積聚火箭射城樓櫓板木上瓢敗油散因燒矢鏃內中射油散處火杏磨杏子火立燃後以油瓢翼之則樓櫓盡焚艾實之繫雀足上加火薄暮群放飛入城舉上樓宿其聚蘆舍須臾火發毒藥煙毬毬重五斤用硫黃一十五兩草烏頭五兩焰硝一斤十四兩巴豆五兩狼毒五兩桐油二斤半小油二兩半木炭末五兩澀清二兩半硫礵二兩黃蠟一兩竹茹一兩一分麻茹一兩一分揚合為毬貫之以麻繩一條長一丈二尺重斤半為絃于更以故紙一十二兩半麻皮十兩澀清二兩半黃蠟二兩半黃丹一兩二分炭末半斤揭合釜傳于外若有氣薰人則口鼻血出二物並以砲放之害攻城者煙火藥毬即火架上所用作四方架綴毬其中遇風勢便用火攻以小艇先潛使人架于敵舟上點着疾回而乾敵隨之則敵舟盡焚矣

水攻者以水因地而成勢為原高于城而流故平水可以灌安邑汾水可以浸平陽先設水平可以漂城蓋遠原營殺將而照版度筭亦不可無也水平一槽長二丈四寸兩頭及中間鑿為三池池橫濶五分中間有通水綠濶二分深一寸二分分開相去一尺木木濶秒微小施巨頭二寸建立函高八分濶一

十七分厚一分槽下置轉關脚高尺與眼等以木片之三池浮木齊起耑目視之遙齊平則為天下准式十步一里乃至數百里目力所及置板度竿照版形亦自縮計其尺寸則高下丈尺分寸可知照版如方扇長四尺下二尺黑上二尺度竿長二丈刻作二百十千分每十白濶三尺柄長一尺大可握
內小刻其分隨向遠近高下立竿以照版映之耑向視三浮木齊及照版又以度竿上尺寸為高下遙而往尺寸相承則山岡溝濶水源高下深淺可以分寸而度

此古人守城之具以其詳悉故採之以為式

總督尚書胡宗憲云凡賊圖城必須選募勇敢夜斫其營或夜舉鏡砲使賊驚疑其閫自解

此言辟圖之法

一凡賊可結巢去處如松江柘林陶宅等地方必諭令居民盡行搬移入城房屋拆卸務使賊難棲止

此言清野之法
誠與城守相兼

一大兵進攻賊巢城內不無空虛恐隘誘敵奸計或賊出我之背乘虛來襲吁亦危矣必須嚴加防守仍撥人把截往來要路

此言備賊乘虛來襲之道嚴城守者不可不知

海道副使譚綸云自來城守攻破者少襲破者多此嚴夜巡詰奸細為第一要緊事也

此總言城守要法其詰奸細之規詳具於後

守城之器佛郎機發煩為嘴鏡床子弩旋風砲最利弓弩次之到用刀斧是最下策矣然亦不可不備也

一凡城有敵臺者最好守若無敵臺架檔起望臺亦善或皆未備則用絮被挑懸出垛外五尺以蔽矢

石庶藉敵無失耳

一凡敵在城外不獨當爲守具亦當爲修城之具如木石灰磚之料與庀皆不可不備也

一守城用燭不如用松明一松明可代十灯也

已上四項俱言守城之具當預爲備者

一凡遇劫敵則須在城外爲三四壘屯兵拒守與城中爲犄角勢至爲上策敵築甬道架雲梯以攻我或穴地道以襲我則又當隨事有應免至臨事倉皇無措也

此言遇大敵攻城則城守之法又不可拘於常格

一凡敵夜襲我多在五更悉衆攻我多在黎明出我不意也

一凡敵環而攻我至曠日持久計內之薪芻則佯退數舍夜則還襲之或伏賊雜爲採薪者入城爲內應此皆不可不知也

一凡敵用雲樓攻我必先驅吾人負土填濠我即當爲之備矣

一敵每擄吾人繫其父母妻子使爲間諜內應此最難辨識當事者須嚴察之

已上四項俱料敵攻城必用之計守城者所必嚴爲之備者也

一凡詰奸須立木柵在濠之外百步陳兵守衛而詰之城門之下又嚴兵以待之遇警則開令人聞警輒將城門書閉或止開一門或止開二次而詰奸又在城門之內外避難之人一擁而入又挽從二

詰且辨之
此言詰奸細之法
一凡敵在城外攻我不得須懸重賞選敢死士時出奇擾之或焚其資重攻具待其走而邀擊之乃爲得策也
此言守城者當知攻賊之法
衆議唐愛云
一守城之法每垛口五個爲一伍置木牌牌上寫趙甲錢乙孫丙李丁周戊每夜一人守一更四人穩臥每更置一小旗上寫更分夜巡兵姓名在上如趙甲爲一更錢乙爲二更之類巡更者執持在手只瞭望五垛口城下有無奸細一有賊至叫醒同伍四人執持灰瓶石塊器械攻打如此庶使五垛不過數步之內易于瞭望一人巡更四人休息精力不疲緩急有備餘垛照此式若每垛口原編三人牌上備開十人每更止用二人瞭望尤爲加慎酌行之

一守城各垛兵夫勤惰不一不可不稽察使人人點名更更喧嚷則守垛者不能睡臥精神困疲非計也城小以城門爲限如自東門至南門南門至西門西門至北門每門用巡邏兵十名每更分二名巡視垛口不許叫喝搖打梆鈴止挑燈巡視若有輪更守垛兵夫熟睡不行瞭望者則暗擊更旗明早稟治仍喚醒防守不得驚擾擅自責打賞法并

究五梁之內燈火斷滅即記輪更之人并治城之
自東門某窩舖至某窩舖巡邏週而復始每更二
人稽查均照前式
一設巡邏之後又恐疎虞誤事每門另選職官二員
各與以馬給以更牌更箭如東門巡至南門時值
二更東門巡警官將一更箭交付南門城樓上官
驗收南門官隨付二更牌與東門官爲號彼此各
收次早送總巡官處查考若各官將牌箭私換不
親巡警者查出以軍法重治其巡警官先察巡邏
十人爲先次查各梁口偶有睡熟失瞭者許即責
治執其更旗次早連巡邏人并送總巡官處究治
巡警官止許巡視亦不得呼喝點名搖打梆鈴以

驚擾守梁之人此周圍夜巡之大畧也若城有衙
所者衛官有司分門巡警不必另選職官馬各自
備尤便
一城上白日止張旗號非寇臨城不許鄉夫上城以
疲其力臨晚登埤俱要兩具器械遶城不許喧嚷
屏去鈴拆若無人者使寇不知城上虛實且城上
不譁城外有警庶可傳報以便策應各門另設遊
兵五十人各持利器鳥銃俟有警脅力禦敵仍先
示約凡遇夜間賊集衆攻門方許放火箭三枝再
緊發銃三箇十分緊急鳴鑼三通原派本門遊兵
一面禦敵總管另帶枝兵應援一門有警各門堅
壁固守不得輕動以防奸細不擊西之患尤禁衆兵

警擾離次至于疾風暴雨半夜黎明人易懈弛困倦賊每乘間登城此當嚴加申諭可也

一守城之具甚多急用惟灰瓶石塊爲便倭奴圍父勢急四時出奇又當措備城上燈籠每五垛口止用燈一盞用新紙油者方明亮燈上用一油紙蓋以防雨蓋上仍壓以一小瓦片以防風每燈製一挑竿索縣城下離地七尺庶使賊抵城下我能照見我瞭垛口賊不見我換燭即輪更之人不許誤事若官府給燭五人輪管使兵夫自備恐曠日持久所費不給未免誤事油燭官處爲便不當新小費可也

一守城官兵至城邊向內射放箭銃城上不得喧嚷

倭賊近城令慣熟銃手善射者乘便打射務要巧發奇中得斃賊人一二其餘自退更不知我兵伎倆虛實毋得一槩亂發以窮矢藥若四面雲梯攻圍當并力齊禦又難拘泥

一閒雜人等不許無故上城垛口窺視擾亂軍伍且防城外矢石誤中旁人趨避不便驚惑衆心倘有奸細亦難防閑相應嚴禁如賊向城射箭放銃守城官軍各帶綿被或用牌盾取便掩掛垛口露隙瞭望以防矢石

一警報緊急城中居民近城者不宜堆積稻草蘆葦恐防賊外火箭飛入在內柴堆亦易發火故宜禁諭少則收藏多則遠置隙地爲便倘城中偶有失

火去處城上訛言賊入譁亂為害不細平日看司分定坊隅編立保長小甲名色各分信地多備水桶籐斗鐵鈎麻搭竹梯斧鋸每一坊隅火起即以本坊火甲扶之不得亂攘守城兵夫各顧垛口就使本家失火不許離次若係本坊火甲扶援不力致有延蔓及不係本坊居民乘機搶火者查出一體以軍法處治如此緩急有備防守無虞此在平日素講而預備可也

一城門多備水缸水桶一以濟渴次備火攻樓櫓城門當路間設火器品窖蒺藜以防衝突若賊囊土束薪填塹登城者此無別法惟鳥銃並發人不敢近此無庸慮然亦在臨時計策之

一城包山者峻處城垣宜增堖高厚或內立一敵臺瞰外以便瞭望運發矢石城峻處賊不敢近則城中虛實不得窺測而平城易於防守矣若統山築城勢若仰盂賊憑高窺見城內更當盡驅老弱為兵多用鮮明器械旗幟虛張聲勢使賊不敢易此不得已之策又在臨期應變何如耳難以懸論也

一城外民居近城者如賊勢重大將逼城下須用拆燬不然賊將藉為遮攔且登城尤便于雲梯是不當姑息若水門柴米出入所須尤急但要視勢緩急委官嚴加盤詰不致疎虞可矣一聚閉絕適以自困此守城者所深戒也若城中無水宜多穿井無米者亦宜預備或勸富戶積粟許其糶取利

官弗為禁或宵移金先期貫来以備緩急至於
鳥銃火藥燈籠油燭之類遶海衛所縣分賊每登
犯者尤當早為計處庶為有備
一城外沿濠擱馬墻此不可不堅築用高六七尺内
多留穴空以便窺伺更容放鳥銃每城一面另募
敢死士百人各執鳥銃利器潜布在内賊夜攻城
必渡濠踰墻而入使内有備不必喧嚷俟半銃擊
之近墻手刃之城上城下俱不得傳呼叫喊使賊
不知伏兵故輕犯而多敗馬墻有備城上更無虞
矣
此詳言守城事宜
松江府同知羅拱辰云頻年賊來野獲多得是以無攻

城之志今各鎮劫掠遷移已盡如其再來寧不垂涎
于城我切照各城雖有濠河之險必須附城濠邊挑
起淤土離城脚丈餘臨隄圍築五尺高墻使賊雖或
渡濠難抵城下此古人羊馬城之制也況不時出奇
兵數十人于城下得此遮蔽可以藏伏窺視如賊近
對濠我兵即于墻内潜發火器使彼不知我兵在城
下者多寡有無所謂有有無無虚虚實實者此也且
四鄉逃難男女得此可以暫容其身既有此墻只須
謹閉城門俟賊到城方去吊橋亦不為晚況賊畏城
上銃砲决不敢近每敵臺左右各置小吊車四五架
以便兵上下及逆難者吊入之法婦女隨即吊上若
係男子須審其聲音貫址方許吊入其城無敵臺則

不能跳遠顧下何以言守必貼城增築每座相去三
六百步或七八百步或二三百步各隨城勢曲直以
為遠近臺下須離濠水丈餘有近濠水者釘品字樁
木百餘根于水中高出水面尺許防其樓船臨衝我
也各城樓該遊兵二隊每隊約兵二十五名左右往
來巡警每梁派兵一名專守之其敵臺上梁口每梁
用兵三名選擇精勇者傾身外望以背向裏遠近彼
此互相顧視其守之之法最禁喧譁庶臨敵不亂又
必將各臺編以字號分以信地別以號旗金鼓响器
之類日則觀旗色夜則聞號聲各將字號大書梁墻
使各熟認各分信地俱以敵臺為準如天字號敵臺
左邊向地字號敵臺當梁若干地字號敵臺右邊向

天字號敵臺當梁若干兩臺中分信地如天字號該
當四十梁以一十為一號第一號十梁用紅旗用鼓
則大書日觀紅旗夜聽鼓聲八字于梁墻第二號十
梁用黃旗用鑼則大書日觀黃旗夜聽鑼聲八字于
梁墻第三號十梁用青旗用喇叭則大書日觀青旗
夜聽喇叭八字于梁墻第四號十梁用白旗用木梆
則大書日觀白旗夜聽梆聲八字于梁墻其餘敵臺
梁口皆然如賊日犯天字第一號信梁城下該當臺
上搖紅旗而該梁亦豎紅旗夜犯天字第一號信梁
城下該當臺上起鼓而該梁亦擂鼓信守兵夫一齊
戒嚴俟擊左右城樓各遊兵到彼應援而兩邊附近
敵臺相向護為催擊其餘臺梁官兵非信地者不許

亂動各門雖無警亦加戒嚴不許擅離應援恐賊擊東擊西乘虛而上庶防守嚴備而靜治不亂矣又慮賊攻日久我兵疲倦必更番休息又恐乘怠而入須於梁外蓋出浮棚每扇約闊三四尺或長七八尺環城架設其法或木或竹每根比棚闊三四尺以一半橫出梁外一半斂入梁內其外閣浮棚棚上壓以磚石天晴加石灰數包于上其內用繩縛墜石虛懸若賊加梯棚上則棚軟不能勝梯磚石將墜擊城下而墻內守梁者且自警覺若賊置梯棚下而上登其棚觸首移動而亂石又墜矣若欲再加嚴固沿城梁上竪架柒何木其制竪立架木二根機關橫挑木各一根上閣一木謂之柒何木木上錯綜釘以竹篾其木之輕重與挑木相稱賊來攀援則其木自然下擊人既不能攀駕又不能放脫也敵至城下我兵輕動其木墜下又可擊之此棚木易於成造費又不多今各縣城低難守相應遵製至于夜間守城燈燭費多且皆高懸梁上是使賊得視我我不得便視賊利在彼矣必造鐵火毬中燃柴木則柴木之價比油燭相去倍蓰況火光散遠比燈相去十倍每梁用二十箇或三十箇止該用火毬一枚挑出梁外墜于城半則火光在下我視在上其光不悖我得以見賊而賊不能見我其利在我矣又如製造紙糊圓砲今製者不過震响而已無益也因此舊物而變為新製待糊成紙殼之時中含小鐵刺菱二三十枚地火鼠一二十枚

入藥于內然後紮縛其口每砲一枚開藥線眼四處賊近城下將然之砲一响而砲中刺菱自然布散其中火鼠飛走賊被焚身必走而刺菱又傷其足城上且擊之矣若城中一時火發恐奸細為內應或居民夫慎守城兵夫未免驚疑往救家宅必棄所守請先出示禁諭庶免踈虞各鄉村鎮畜積米穀之類須於冬末春初盡遷入城則村野既清城郭又固賊不得食則饑攻城不下則勞饑且勞必思去矣我出兵以要擊之有不勝乎

此亦詳言守城事宜與唐參議互有異同

主事唐樞云守城之法近日東南全不知此女墻不可太高厚堵空之欲如圭首斜銳所以便外瞭便俯瞰

城上作箭不敵挪所以便聽聞守者必更番所以養精力陟降有號頭夜有火盡有旗所以一衆恒違犯有決罰所以定心志風雨露日有遮避所以安體力火器石塊灰油懸槌鐵蒺藜諸物畢備所以供急用須察酌定規遍諭各城守官

此言守城之法

兵部尚書胡世寧云城門可去土塞止于門扇中當留閒隙五孔以瞭望守之賊不能近矣

又云戰卒不睡恐賊夜乘其疲而竊入焉不若晝令輪班休息

又云箭將盡不宜亂放有號令號放發

又云無先開門以示賊法而使屬已被殘

又云僧徒多善少陵棍法宜收進城內毋為賊用

此言守城當戒者五

舉人王文祿云海寇之來我兵俱守城中城外之民棄之而不復顧不敢出一兵以撓之寇反多疑誠恐我兵出城與敵佯以數寇寫攻城之勢以綴退我兵使不能出乃得深入內地橫行而無阻是皆我兵不知攻守互應之法也自古用兵非執下一攻之中有守守之中有攻攻而無守則為無根守而無攻則為無斡且一城之中不下數萬家若定守之而不外攻圍困日久食盡兵罷寇雖不攻而我亦自潰矣安用其守乎凡寇攻城不過數次甚急扞禦已過寇亦必怠乘其怠而懸兵夜出負砲偷營寇亦撓亂自救之不

暇而何暇攻我若徧焉定守寇知我兵虛實併力夾攻曠日不解而援兵不至則我坐守以待斃無益也昔者巳巳比符也先南侵攻圍京城精兵皆出城外石亨于謙督兵于城北孫堂江淵督兵于城西每每攻也先營鈸傷相半也先退去若使文臣謙淵無謀武臣亨堂無勇皆守城中不亦危哉而大事去矣惟其知攻守之一道故攻不忘守而守不忘攻是以克濟時艱也

此言守城必須時出兵以攻敵

鎮撫盧云守城之法斷不可每梁口一人守之止許三梁口用一人梁口之下用灰瓶五七箇大石子三五百滾木擂石皆設備凡守城切不可用貧民預用

鄉士夫舉監生員吏承義官與各有產之家或弟男子姪或家人各帶器械編成隊伍急則上城緩則飲于教場操練則各自爲戰各自爲守不惟可省有司錢糧而亦不致貧民怨咨矣

此言派城夫之法

吳郡生員沈拭云凡寇賊未至城下則城守之夫晝夜不輟者似爲費該官于晝日止令保長甲長在城俟有寇警約鳴金鼓爲號衆集人夫料不誤事俾人夫得在家作業酉時方使之乘城其夜間守城亦有法夫人之常情未有能終夜不寢者若使終夜不寢疲憊困倦勞如關張亦不能操戈赴敵矣是徒自弊其民而無益於用也愚謂夜間城夫宜用五人爲伍之

法凡城垛口必取大石塊方五尺高稱之于五人中止令一人登而擊拆站立既高得以俯瞰城下其餘四人聽之休息俟一更徹捱次番換是名雖終夜之守實則一更之勞勞逸有節彼將勵精任役不敢偷安矣如有偷安者巡更官吏痛責記仍罰之達旦不得番代則彼雖昏愚必不肯任竟夕之勞而易一時之安也五垛之間其地甚近一有寇警休息四人呼之即應何誤事之有

此言城夫晝夜更番之法

吳郡生員蘇獻可云倭寇生發大戶有饋餉之煩小民有調遣之役皆爲民窮財盡奈何城上官夫之官索要常例有銀者則老弱不計點缺不究無銀則百般

不踏小民既勞其力而又費其財若楚何似宜
縣吏督皂甲賄賂尤甚或報大戶或拘鋪戶莫不嘗
放其九而拘認其一拘認者罔當其費而賣放者亦
損其財官府之所用者有限而吏隸之所取者無窮
人民瘡而官吏肥可哀也已

此言守城須禁
官吏剝削之苦

又云地方有事之秋所賴者富家而已今富家往往變
產遷徙他方若富者盡去貧者僅存其誰與守必將
各茵里甲人等取具執結不容逃散是亦保城之大
端也

此言守城須寬縻當家若逼走之則
城空虛矣為有司者所當深念也

御史邵惟中奏稱要轉行督撫二臣嚴令該府州縣衛

所出示曉諭沿海居民各將妻女財貨粮米及時搬
運入城僦居存貯仍留壯丁在家防守并將當年粮
長人等預令將應辦粮石收送城倉以聽運兌如有
積粟數多不搬入城者則官為扣糴給償時價即貯
附近屯兵衛堡以充軍餉支用此權宜之術民必樂
從事寧之日仍復舊業則城中積粟萬餘財貨充盈
賊外無所掠而我內有所資矣

此篇專言積粟不當
留在城外以資盜賊

海道副使譚綸云島夷志在得財因粮于我無他轉運
我能堅壁清野則失其入寇初意衆既可離勢亦難
久乘其敝而擊之在我將易如拉朽在彼且終身創
艾矣攘夷安夏計無出于此者顧其事言之甚易而

行之甚難何者邊氓習知利害故行之輒有成効今浙直之民被害處少倖免處多凡聞寇至則彼此觀望不為邊徒即有徒者又近在山林之間計小費而忘大計此行之甚難一也世家宦族蟬聯鱗湊一令之出競相非是煽惑齊民共同燕雀有司督行之嚴輒飛語流布此行之甚難二也浙直之地沃野千里宮室器用習為奢侈棄徘為難寇至倉卒各以牛酒錢幣開門延納以尚僥倖又預集舟楫以資其去彼此顧其廬舍焉忍度自為一家一時之利曾無遠大之謀此行之甚難三也夫安土重遷惡勞好逸古今所同然勞之擾之者暫時之事而所以逸而安之者甚久乎勞之擾之者暫時之事而所以逸而安之者實所以安之而況

且大也為今之計惟在責成有司親詣各鄉多方譬曉使之預於二月初旬盡將婦女積聚徙入附近城郭仍會同衛所掌印官為之安插得所其倉廩搬運不盡者即及時發賣有司嚴督粮長糴買上倉一切兵餉有可以徵本色者作速改議徵收凡城中穀粟止許于城中糴賣不許顆粒糴運出城其有不肯預期搬運臨時棄遺在鄉致資盜粮及以牛酒錢幣關門延寇即係通賊之家查照律例從重問遣其有已遺棄而偶未遇賊亦通查入官以充兵餉有司務要用心毋事姑息間有成績者即註以上考部院特加獎勵其有偏拘悞事者即與失事武職官員一體從重參究如此庶法令必行而長策畢舉成効可臻矣

此言倭深入皆由鄉民不遷積聚入城之故善反之則寇念息矣

都御史唐順之云春汛時月倭患雖熾然禦之於海禦之于江又禦之于海塘禦之于江岸豈至盡是無策國家平時養兵設官將何用之而稍聞警報只有塞城門塞水關風縫不通委城外于虎口途爲奇策甚至不論有害無害輕意將城外房屋拆毀除塞城塞門任從有司自行本部不敢干預外其近城房屋苟非倭患逼近及與城垣委實干碍不許輕易拆毀使民無所棲若因不折屋以政失事本部自任其罪不以累有司

丹陽邵芳云善守者必以城視地以人視城以粟視人三相視而愚翟之衛宋可得而言矣何謂以城視地

蓋無不備則無不寡烏得城城而守之必守一處足以保障數十處扼一里足以牽制數百里斯能視地矣何謂以人視城蓋除四門中軍應敵出奇外每人轄地幾尺而又有幾人更代休息幾人搬運器械幾人輪管炊爨如百雉則用若干人與伍法無異斯能視城矣何謂以粟視人彼探敵者不闖自困雖古名將不免有此者失于不審也蓋必計其積聚料其丁口每粟幾斗可供幾月萬不得已則疲弱婦女無益有損者當爲別策斯能視人矣故余嘗曰以城爲可恃則古有不破之城乎以城爲不可恃則古有必破之城乎亦在乎守城之人何如耳

予按城一也有關係一方之利害有關係數十里數

百里之利害者關係一方之利害者一守令慎之而
足矣此守令之事也關係數十里數百里之利害者
豈宜以一守令支之乎爲將帥者須提重兵以鎮之
合羣帥以援之其城無恙則敵人不敢越此而他攻
即有所攻亦無關係而非敵之所必欲取以爲巢者
矣是所守者雖一城而所庇者吾不知其若干城也
此將帥之事也若爲將者不論城之輕重緩急而漫
焉以居之其身之所居則力爲之救而其所不居者
雖有關係亦聽賊攻取萬一失守則衝要爲賊所據
而其餘所守皆無用也曾是爲善守城乎譬之海防
焉自廣至遼迢迢數千里賊舟無處不可登泊港堡
無處不當設備若一一而照拂之則將帥之精神有

限分用于無關係之地則其有關係者反有遺而不
到者矣惟諒倭所從來之道哨之于遠洋勦之于近
洋倭在洋先後而來星散而行風濤警其心踽踽若
其形吾以衆而待其寡以逸而待其勞以飽而待其
饑以備　而待其所未備至簡至易之道也若其
近岸也惟擇總要之處爲水寨陸寨以扼其衝以遏
其入其餘港堡堅營清野賊進不得攻退無所掠計
自窮矣予聞論守城者多矣率局于區區一方之見
惟邵子與予合惜其引端而未竟也故詳之以爲爲
將者之助

蘇州府守城條件　南禪朱永勳無衆人黃鎮甲會議生員金澄等會議上郡守若擇施行
各地險以備

一六門城樓各派定府佐一員專督該門守城夫役
府佐不足以所屬州縣佐內科目出身謫官之才
能者充之

一城中心本府與長吳二縣掌印官住劄玄妙觀一
以居重馭輕一以接應各門事宜一以近憲院謀
議一以便士友參謀就以陳把總統兵六百名屯
處其中作中軍名色
府主上城縣尹不宜同事但係一邑之主諸事
藉以奉行故須同處

一府有府庫縣有縣庫獄囚皆須防守府中用首領
官一員縣中用佐貳官一員看守

一各城門另設府首領或縣佐貳有才官一員典守
城上一應器用隨時給發

一分屯守城池之兵於六門附近寺觀無寺觀者近
門公廨屯劄

一請鄉官分守各城門各就其家近便與
情之合者分配

分職掌

一設法大戶米穀進城

右一項長吳二縣掌印官專督之

一設法守城物料進城

稻草　石灰　磚石　鍋鐵　火藥　油燭

右六項府佐一員專督之

一設法竹木遠去與進城

右一項府佐一員專督之

一查脩城屋城門閘板製造城垛燈架燈籠（腐架燈籠俱照崑山縣式）

右一項府佐一員專督之

一製器械

發鑽　佛郎機　鳥嘴銃　鉛錫銃　火毬

火箭　賁筒　煙罐

箭匠　竹匠　木匠（造火器架子用）　銅匠

鐵匠（合火藥人）

右火器府佐一員專督之

長鎗　刀　鐵盔　鐵甲　皮披牌　紙甲

弩　弓箭（太倉州取弓匠來造）

鐵匠　皮匠　竹匠　木匠　裁縫　弓箭手

右兵器府佐一員專督之

先揀選舊時所習可者用之不可者作急製之

某人某人長於揀選者也某人某人長于置造者也與府佐相協替庶不為各匠所欺

備儲糧

一區處米穀入城

着長吳二縣正官先行密訪城外及各鄉鎮大戶有田收米在家者與夫田少用銀糴米待價者查審的實密察院差官一員着落兩縣粮塘嚴催搬運入城任民堆積開糶其時價高下官府並不參與期定某日粮塘開報已經搬運入城者幾

本官親行協驗特頒不搬留資盜糧者治以養傷重罪粮塘回護親故之家混開已運入城者許貧民出首一體加罪仍給賞首人十分之三共七分沒官作養守城兵夫之用

一區處鉛鐵入城

鉛鐵資火器之用關係匪輕不可藥以資敵蘇城客販冶坊俱在城外須先查點行及冶坊等姓名賊有警報着本地方總甲押催依期搬運鉛鐵鐵鍋鐵器入城仕從故意專督官吏行逐一查訪不搬入城者本家治以與賊交通之罪總甲不行開報一體問罪鉛鐵等入官公用

一區處火藥入城

布政司吏沈世周寫
新安黃榮

蘇州備貴之類住城者限務先查定各南貨舖行賊有警報着本地方總甲押催依期搬運入城仕從堆置如有公用照時價將銀兒買專督官查訪不搬運入城者治以私放火器與賊交通之罪總甲不行開報一體問罪

一區處磚石入城

城夫不開武藝須用磚石擊賊賊警之時城門已於月城內堅地守城軍搬運上城每五十名作一垛以石灰封識總用如不得亂石雜入搬運人員不許放入本賊仍差剛細軍識認出石灰交與人

員後

一區處石灰入城

灰瓣等藥脩砌等項俱要石灰仰各宮戶領價依期送運石灰入城守城官軍修治城守院以濟急用

一區處稻草入城

城上燒賊必資稻草先期派俱各糧塘領買若千萬束不拘鷹柴稻柴茅柴雜草空廒倉厰以濟急用

一區處城外竹木

竹木行俱附城郭若不遷徙賊攻城之具也須仰各商將竹木行依期盡數入城民舍其在水各

布政司參政沈世周寫 黃榮刊

排移去五六十里外隱僻港中輳置以待賊退復業如不遷徙俱取入官公用

一區處油燭入城

賊臨城下缺乏油燭必無處置查各城門外一應油行及出販鋪家仰總甲於有警之日抑民依期搬運柴油香油桐油白蠟等項入城聽從開鋪交易如有公用照時價將銀買買如不依期搬入專督官挨查連總甲枷號仍將其油入官

一守城器用明燈燈架三千六百三十副每副價銀五分通計一百八十一兩五錢差長吳二縣設法處造勿累保長等人

蠟燭每夜二萬七百九十枝連六門城樓用通計三萬枝以一月計之計九萬枝通計銀一百一十

兩長吳二縣分備

鐵鍋四百隻每治坊備之事已給還

行竈四百隻每隻價銀二分該銀八兩每縣出銀四兩置辦

水缸八百隻每隻價銀三分該銀二十四兩以二徒罪贖銀辦之

酒瓶三萬每十箇價銀一分該銀三十兩

簑衣箬笠一萬一千副每副價銀三分該銀三十兩兩縣置辦多累城夫

草蔫二千七百五十條連預備三千條該銀十兩大樣麤蓆一萬一千領每領價銀一分該銀一百一十兩將賊罰銀給各區粮長辦之

竹木罰臨時不搬竹木行者用之

其餘物料先行預置寺觀公廨去處差官封識之

事隨以本官給發

慎防禦

一某官見練兵千餘名已有武舉三員統領若賊寇城某官帶兵六百名屯處玄妙觀中護衛以為中軍復以原統兵武舉一員統兵二百名屯處府前防守庫藏并司獄司獄囚再用武舉二員各統兵一百名屯處長吳二縣前防守二縣庫藏獄囚若賊未臨城之日上司有調遣之事先分若干應命賊入境裹即收其兵入城原如前法處置名曰聽調之兵

一擇用官生六員俟其俱到即令會議各人平日所知精兵召募一千二百名團集北寺中以團練府佐一員專督官生六員參謀其各門合聚訓練務期可戰可守以須實用待賊至城每門分遣原練兵官生一員各帶兵二百名屯處于府近城門寺觀中一處有變隨以本處兵應之別處不動若賊攻城危急應調用兵攻擊亦待中軍方畧已定有信牌發遣然後行動名曰實用之兵

一城中先計道里適均定作十二處派定地方其處某處止分遣省祭雜色等官十二員每一員率領火夫五十名屯處所分地方廳院中給與水桶水斗撓鈎等項以防一方火急假如某方火起止許

信地火夫救護撲滅城上人夫不許亂動城中居民亦不許喧嚷奔走擾亂地方仍給虎頭火牌一面上書專委救火與夫禁緝擾亂地方等字樣以專委任亦便夜間救火執照以開巷門其火夫着各該官舉報極貧人戶每名日給米二升自贍

共計火夫六百名每日該給米十二石通計一月不過用米三百六十石此法一行名雖救火實則處置飢民得所

一賊將臨城先集保長給與連坐信牌使之各保自行曉諭各甲自相糾察如有容留奸細者一甲連坐軍法重罪不得與平時止坐直日者輕罪例論其寺觀給與住持使各房互相糾察待賊一退即收信牌不准此例及令門時着官一員先剌小牌

計在城田數多寡一張印完以備臨時給發
一盤詰奸細之法差官帶領知事人役在城門外橋邊逐一仔細認辨各色人等驗物件用銀
一員有精力教官一員兼領其事守門官員每名差人二名伺候官廳爲盤詰之地
定夫役器械附
一每城垛九千七百九十新增敵臺大約不過一千每一城垛只一人守之通計城夫一萬一千人派夫照依先任溫公之法大戶五名中戶不過二名下戶用二人三人朋充一名實爲情法兼盡今長吳二縣除仕宦舉監生員外通將居民合二萬

二千人之數分作兩班城夫壁有兩班口粮止用一班上城之日第一班晝夜至次早第二班人夫更替及今閑時先就居民近住城垛處寫定班名於各城垛二賊在百里外先用保長甲長到城看守候賊近城五十里保長喚集散夫上城其法以百人爲率常以五十人分立一百垛口看守將身向外觀望五十人食息候賊則二垛常有一人看守至夜間分開五十人立一百垛口看守五十人睡至半夜代換後半夜巡城官生至則五十人起而交代此勞逸通均之法也
一城上各敵樓每處以定舉人一人或監生一人各

視本處梁口城夫晝夜防守若各該地方有賊警
援上城坐名申呈憲院提問亦不許科擾保甲長
人等

一指揮六員每員派定一門白晝各行巡視以整齊
保甲長散夫人等站立觀望及防不測之變其官
生六人每人派定一門給與巡視虎頭牌面上寫
遇夜各行巡視信地站立人等至交界處方回循
環不息官生每人給馬一疋

一各城樓及對城外衝要之處各置佛郎機一座隨
用裝火器二人帶火藥一桶備急用其城樓下預
置合用火器鋒利器械弓矢及堅固防牌使賊臨
城隨取隨足官廳庫中置放石灰油燭火藥等項

備用若庫中封識不盡更用沿近居民空房一二
間封鎖亦可須差官一員常時看取給發

一保長每人青衣裝束各帶腰刀一把號旗一面其
該夫各備長柄鎗刀一把又帶鐵錐一箇或斧頭
一把任從其便如缺一件即加重責每三梁備明
燈一碗燈架先置城梁外可照城足其燈每一保
長給與二十三碗每日着一縣佐次第分派本日
一夜之燈與保長每保長派好燭一百八十九枝
任其分散丁夫以備一夜之用若保長有弊許丁
夫口告罰燭一夜其合用煎油煎糞鍋竈等項每
保長一名預給鐵鍋二隻行竈二隻水缸四隻酒
瓶二十箇檑木二根備用如有[illegible]行分派物

料至於暑雨令備細審堅厚篤笠簑衣每保
名給與百竹分散丁夫穿用遇夜合備草蔫
每保長一名給與草蔫二十五條大小竹一百根
蘆蓆一百領以作蓋棚歇息城夫之用
一打牲船上努矢百發百中此船吳淞江陽城湖陳
湖大湖水鄉多有之着各區畨報舉入城不許容
隱其入官府照養兵口粮給與工食計名分派城
上緊要去處有功仍加重賞
一城外濠內週圍空地多有居民占造房屋賊若攻
城必先渡濠填住城足城足有屋賊可隱身城上
矢石難施見賊登屋可以發火器矢石攻城前任
巡按御史孫下令焚燬寧禍不得已也不二三年

愚民貪昧又行蓋屋若姑息之是將在城數萬之
命而爲佽倖之爲也今後賊將入境務要拆卸如
不從者臨時照前院法無悔

此雖蘇州一府守城條件但區處得宜
綜理周密錄之以爲他郡守城者式

予按從來城守攻破者十一襲破者十九襲破之
說有二其一是伏奸細於城中放火守城者奔救
則敵乘間而登其二是暗約奸細上城照會踈虞
處用雲梯登至垛口揮刀殺入守者驚散賊從此
上故守城之法須設兵一枝專司救火不許守垛
者下城守垛者各持一斧分班專視城足凡賊登
城多在下半夜乘人疲倦故也亦多在黎明守者
散班故也把守之嚴賊豈能襲我乎所苦者盤詰

奸細其難蓋奸細乃本地之民賊拘其家屬劫其
內應吾烏從而覺之今之詰者多在城門內使賊
假裝吾民從此擊殺門豈能遽闔乎又或閉城太
早止通一二門出入人愈衆則詰愈難不若大開
各門門外盤詰而兵衛設於門下方善

丙辰會試策云守必以戰而守城必以野自法有陷城之誅而未嚴殘野之罰賊至苟負孤城而棄其四境煙焰相望號聲相聞所至蕭條有不忍見聞者又安望其援乎故李牧備邊先收保而不失不能收保是資賊也後將軍孅煌先在乘隊列陣校聯不絕賊不敢犯使疏而可犯是自敝也愚以爲畧倣墩堡之制使民各聚爲市市列爲堡約其道里之中使勢可相及每賊至則據堡固守而郡縣急趨而助之而又特嚴其法使四境殘甚者與失城同罪則人各爲戰地各爲守賊入而無所得其勢自困矣

都御史章煥云北邊城堡相望凡以防衝突備虜掠也

南方之畜修千北邊風帆之力疾千馬足苟無城堡賊何畏而不來民何恃而不散且夫賊勢之熾凡以鄉民奔竄奸民惑亂助其聲也有城堡則居者守逃者歸耕者斂且遠近按堵什伍相保奸民無所容無奸民則無嚮導何以能深入居民不散田野不蕪賦稅不乏根本之要也及今秋冬宜令諸鄉大者爲城小者爲堡而聚民其中城堡羅列賊必不敢越境而內侵東南世世之利也或曰公私俱竭如冗費何夫軍興不止費且不貲民散不復賦將何出城堡所以省軍需足

國計者也何謂費也昔

皇祖嘗命湯和視海上擇要地築數十城以備倭使治倭

有他策也

聖慮當先之矣今安用紛紛爲也

又云賊遠來人持數日之粮未達岸多苦饑者賊之死命制于數步之內矣徒以海濱廩藏露積故賊至而掩據之因粮以爲食因財以爲用故奸人爲之黨而窮民爲之役所向無前乘人不備如使蓄積收斂而野無所掠此賊坐困之道也不數日乃成擒耳故議守者莫要於城堡城堡相望遠近相倚少則不能攻城多則所掠不足供所食賊不能持久破之必矣夫賊不能宿飽則不能深入不能深入則不能多獲不能多獲則來者無利而聞風者不來內地可不煩兵而守矣愚聞倭夷揮刀成風天性好鬬誠難與爭鋒

獨其久饑乃爲易制邇者我師三捷皆乘其饑剖腹視之類多青草禦寇之要可知也

副使茅坤云近聞嘉善平湖蕭山諸縣已皆繕城然而桐鄉崇德尚未聞議及者此特邑而已至于市鎮如湖歸安之雙林菱湖漣市烏程之烏鎮南潯所環人煙小者數千家大者萬家即其所聚當亦不下中州郡縣之饒者並當按其市居之田宅積貯而量其力之大小爲之均其費之多寡各列丈尺而築之有司特爲之約束期會鈎考布算以責其成功而已而其材不必籍入於官入於官則多出沒之弊其他敵樓城門并水寨之屬非民間可以例辦者官粮籍庫貯以助之至于鉅姓勢族而野處田間者或二三家或

五七家或一二十家所願隨便築堡者亦聽近聞甘肅諸邊總督楊公嘗遍行之雖虜數萬控弦而下亦不敢窺數家之堡而仰攻何者彼不過利之而已一攻堡則其內伏火器下礮石非擊殺數十百人必不能下彼所得不足以償其所失故僕竊以爲吳越之間凡近海一二百里者並當令著姓居民遍爲列堡而守可也

兵部尚書胡世寧云擇人而守之重其權而久其任使得爲萬全久遠之策可也或舉地利不如人和之說及徵秦之滅亡而築城勞民爲病者是不然夫自古王公設險以守其國使倘將和卒練一時善戰之功而不爲設險守國長久之計智者不爲也況戎狄長

郭昌其　四百四戶

于野戰短于攻城而我中國之人每與之反故吾乘城拒敵是用所長而乘其所短且以土石而蔽血肉也若無險可恃而專以戰爲守是勉所短而校其所長且以血肉而代土石也仁者將孰從乎況築城雖勞而爲之以漸則亦不至如秦之害人矣孟子之言爲專恃地利而不恤人者發也秦之政亂由其暴虐之極非專由築城也其築城之卒數十萬餘而南戍五嶺乃五十萬餘驪山阿房之役又各七十萬餘是其勞民致怨豈專在築城哉後世懲秦之失而忘古設險之制是因噎而廢食也

此篇本爲北邊而設其實海防亦然故錄之

云城外團結法愚嘗廣詢博訪宜以二十家為一團除租房單丁外每一團令養客兵一名每家各設器械一件出人丁一丁以為團兵凡二團四十餘家各出銀一錢造一巷門門上蓋一更鋪鋪內置鼓一面鑼一面鐵銃三口香盤一方就四十家每夜輪人夫二名守之居常無事止鳴金鼓巡更一有寇警則本處即連放三銃四十團兵各執器械追截諸團皆應之其所養山東兵官嚴立法不許擅離本團騷擾團戶每日有服即教習本處團兵軍門復時時委官查省之責成之衆既以勢分而不得為非團兵之布列者又以聯絡而相為友助況一團有

賊諸團應之四郊之外圍有隨地皆城隨民皆兵而大城屯守之卒將有不必用者矣

鎮撫盧　云防奸之道莫若城内城外盡將娼婦逐出外境此輩惟知要錢不論強賊奸細到即窩匿百財者不論年月居住凡軍機重務與有司之舉動云將之強弱謀猷之發與未發彼無不知也甚而至於散諸各娼婦之家議定某日某時一齊舉發以為内應欲防奸細安可不逐娼婦乎

此言防奸細之法

吳郡生員陳恕云海夷譎詐奸計百出或裝做客笠農夫或裝做中婦女或裝做雲遊僧道或裝做乞丐餓夫探聽消息則如鬼如蜮剽掠村落則蟻聚蜂屯萬一不謹潛入城郭被其内應噬臍無及為今之計

必須徧行所屬官司在城則逐戶挨查門禁則仔細盤詰出軍則尤宜探訪至於掌門之官亦要文武相兼啓閉以時夙夜有警男子則由左女子則由右不相混淆安容攙越我兵一出必遣伶俐健卒先行俾作探聽熟知賊之休息每每寅夜貪淫嗜酒熟睡休兵眇視我兵不虞我至斯時也果能伏兵四起此其除奸滅寇之機也為將官者所宜念之

兵部尚書王守仁云本院近行十家牌諭誠亦弭盜安民之良法而今之有司緊以虛文抵塞莫肯實心舉行雖已造冊繳報而尚不知其間所屬何意所處地方該道仍要用心督責整理誠使此法一行則不待調發而處處皆兵不待蓄養而人人皆兵矣

工部尚書馬坤等題欲將土著之人各就一鄉編入保甲盡歸團練五人為甲五十人為保上下聯絡委各府州縣佐貳官賢能者不時就其一鄉團兵閱其武藝又因而稽其人丁如有潛入賊中勾引或探聽者坐罪若有隱弊互相連坐

副使譚綸云連年倭患皆為私通貿易而起浙人多詐竊買絲綿水銀生銅藥材一切通番之貨抵廣變賣復易廣貨歸浙本謂交通而巧立名目走廣不此之禁則嚴甯之漸至堅冰欲行究詰則奸究之雄彌縫百端徒滋擾耳為今之計莫若稱已議練鄉兵之時立為保甲之法委所轄各府佐貳官公同屬縣掌印官[illegible]從親詣地方不問腹裏沿海與城郭鄉鎮夫虞宵實生徒舉監之家務逐戶挨查每十家編為一牌牌內分十直格皆以巷[illegible]准如是東巷門起則干牌格內左甲尾下填[illegible]門字樣從西頭挨一趙甲二錢乙三孫丙四李十五馬戊六吳巳七鄭庚八王辛九馮壬十陳癸各填註人丁生理明白

即於右甲頭下填註褚子姓名是爲第一甲其第二甲牌格內左甲尾下填註陳癸姓名亦從順一褚子二衛丑至十家止三牌四牌亦依次聯絡挨填如一巷之內人家已編十牌外有零者即將大家中人丁煙多者報足編之如村鎮無巷道者亦依村鎮編之就於本名下坐定日期每一家輪直三日第一家輪初一十一二十一日第二家即初二十二二十二日以次填註按日於本家門首懸掛仍每一牌年輪一名爲甲長管領九家每十牌年輪一名爲保長領下家其中若有遠出不歸或私收絲綿火藥等物假名走廣潛往通番或通逆海外又不還鄉者許牌內直日之人抱牌赴首官爲拿究敢有隱不舉舉一家有

犯十家連坐毋容姑息其有原犯通番但逆回自首免罪編完之日府縣仍將牌甲一樣再填一張類釘成冊存留在官巡捕官時加查考一體稽察若有假公濟私乘此害人從重懲治如此庶通番之黨自消而地方之不逞亦可以禁絕矣

太倉生員毛希秉云凡海賊一起陸地賊乘機竊發假海賊之名以縱暴地方不能抗禦惟保甲可以除之如太倉初編保甲陸地賊無所容身逆縱擒首散亡畧盡嘗有海賊廿人夜刼城南十八都時其家潛報保長總甲及有舡者預待賊出追之且擊且行逐至海口天明賊之器械盡矣把港百戶陳璋鼓率人舡直追半洋擒回送道又十五都沿江地方白晝有海

賊上岸打劫適潮落舟閣被保長盡數擒獲此皆從
來未見之事而保甲之功大矣今法久人玩乃復罷
宜脩飭以保地方但不可使之迎送受詞以生事耳

南京工部尚書馬坤等題朝鮮居東北日本居正東倭北故日本諸夷凡由海上入中國交通生事舟必經過朝鮮海面先年倭酋宗設等犯我海道大肆叛逆屠害中國軍民數多時朝鮮國王李懌聞賊歸由彼海憤其作孽盡遮殺之隨即具奏倭奴打劫上國致殺官兵不伏天誅過境仰仗

皇威勦殺幾盡并將擒獲賊倭中林望古多羅等及賊首級三千顆與長箭船隻等物連捨回人口王様等差刑曹參判成洗昌等先後齎獻

闕下此固未暇深究其故但朝鮮能殺日本之人與日本之人之畏朝鮮則驗矣請乞宣諭朝鮮國王查賊經

由海面既與日本客通王須益申初議盡行截殺仍行國王就近轉查日本曾國者近年倭寇是否由其縱放若果知情連令悔改若係左右奸究或係中國通逃假借妄爲就令其盡將首惡擒獻朝獻報是亦一策也

此宜當令朝鮮轉諭日本

在京各衙門會議不查得先該巡視浙江都御史王忬題臣聞東南之倭祇西北之匈奴詐勇猛強不可禦乘風迅速來不可測故我

朝備倭北自山東南抵閩廣規畫經制不減西北且嚴通番下海之禁明十年一貢之規使常修舉不失豈有邊患但數十年來事皆廢弛番商海寇俱至浙洋

紹蘇杭姦宄射利之徒接濟交通勾引貿易自嘉
二年宋素卿入擾之後邊事日隳遺禍愈重閩廣
浙無賴亡命潛匿倭國者不下千數居民里巷街名
大唐有資本者則糾倭貿易無財力則聯夷肆刼巨
室爲之隱諱官府惟務調停日就月將年深歲積識
者固知有今日之變矣臣詢訪在海賊首約有百人
其雄桀者名徽州王五峰徐碧溪徐明山寧波毛海
峯徐元亮漳州沈南山李華山泉州洪朝堅皆廣布
奸細包藏禍心計算則未能就擒捕急則逃遁無跡
雖特濬洋澨潤亦由倭國爲之淵數也節據被擄在
倭歸人供稱本國酋長請有入貢勘合得行則利歸
于上今各倭私自貿易利歸于下彼中酋長甚是不

樂嘗禁各倭西犯昨刼黃巖去者多被擒殺今春闖
隘亦加嚴禁會追回倭船二十餘隻并審擒獲賊首
李鄚蛙亦稱柴魁沈南山等安住倭國分遣其黨同
倭入寇此輩不除海無寧日若差人曉諭國王定將
各逆并島夷勦逐此雖得賊擄之日未可輕信而國
王感恩慕義之心亦豈盡無杳得永樂年間倭夷入
貢又有倭寇犯邊今來使追捕得倭賊若干許以彼
國法治之以次第死數十餘年海洋平靜海道副使
李文進屢以議呈欲臣具請特
旨北行朝鮮南行琉球轉諭彼國及令布政司咨行述其
許貢之由勉以藩屏之義令將中國逋逃盡拏起發
[illegible]島不[illegible]
[illegible]使賊勢[illegible]孤兵力可逞但恐

夷性叵測

國體攸關未敢遽陳即今警變異常正多方圖濟之日乞要查酌議擬務求事體穩便等因本部咨行禮部查議去後又該刑部河南司主事郭仁題云今之倡亂者已經兵部明言有賊首王直盤據海島招納叛亡然必竟勾引倭奴張大聲勢故敢猖獗一至此也臣承乏刑曹凡遇朝鮮國解至日本薩摩州失風流賊望古三甫羅等轉行到部有被鎗火銃木牌刻有軍門及松江府字號則倭奴之流刼江南也無疑常考洪武二年遣臣趙秩諭日本來貢五年復遣僧祖闡無逸往宣佛法諭其來貢

太祖爲賜詩送行實重厥事也乃十餘年得安堵焉永樂初命太監鄭和等招撫諸番日本獨先納貢并擒獻犯邊賊二十餘人就命來使治以其國之法于郵地令一人執炊一人上俎盡行烹殺至十五年復入寇邊將執其酋首送

京師

成祖待以不死遣刑部員外郎李濶等使日本降璽書責以敬天事大之義次年濶還其國王源義持亦遣刺史奉表稱謝

成祖特釋其罪宴賚有加嗣是終

成祖世不復入寇此仁義並用

祖宗駕馭倭奴之長策也即今海島群盜勞至使舟或未能達昔

太祖嘗以三佛齊梗化阻絕使臣商賈命禮部移文遐羅
國王轉達爪哇俾以大義告于三佛齊令無查照故
事遣使朝鮮
諭令差官齎送
璽書前往日本宣揚
聖朝威德戒令歛戢屬夷款本部覆議移咨總督會同操
巡撫按等官轉相計議題奉
聖旨已經通行督撫等官議處未報近又款督察侍郎趙
文華咨送通事一名降倭二名前到兵部譯審得入
寇海賊俱係日本所屬野島小夷被中國逋逃之徒
糾同打劫倭王未必盡知所據
南京工部尚書馬坤題

請前因倭亦有據及要宣諭朝鮮一節又與王忬郭仁所
奏大畧相同且日本原係朝貢之國載在典制遣官
傳諭于義無乖合無從禮部酌量查照
祖宗故事差官齎捧
璽書前至朝鮮
諭令傳諭日本國王以示君臣之義禍福之機令其禁戢
屬夷擒斬華逆以効臣節如果罪在夷屬國王無預
輸誠聽命海氛蕭清許其遣使奏報另議褒奬是亦
不戰屈人之一策也
此言行令琉球朝鮮轉諭日本之疏爲是
海道副使 云照得倭夷諸島種類雖繁部落相聯
亦有酋長衆所尊者號曰天文其法最嚴其威懾衆

一人爲盜一家盡滅一島有犯隣島移平即奉令勘合以時來貢者彼中故事每遇閏年則諸島當倭各出已貲輸於天文請得勘合方來入貢寔則貿遷有無以佚厚利利權在上天文所欲者後因海禁廢弛奸民通番殷實之倭徑自貿易不請勘合利權下移天文所不樂者加之徽賊王徐閩賊林陳華假稱名號竊錄勘合妄具禮儀私通酋長遂至招呼益衆往來無稽天文所不知者此皆彼中情狀博訪似實故本職在昔具是題

請許令省諭蓋嘗反覆思之審矣若頒降

璽書特遣使命恐偶不敬反生事端若令琉球高麗就近傳宣事在彼中難於取必不如止行浙江巡撫得以

從宜省諭當如永樂事例取高僧數人移文秉桴直至天文詳爲傳諭宣累

朝許貢之恩禁近來倭夷之擾發王徐之爲收逆叛之民許修常貢揮利權天文雖愚必知所擇蓋日本所需絲綿藥物器用之類悉皆仰給中國不能缺者若或海禁皆嚴通番盡止彼日用不足勢必請貢惟命是從而我所欲爲亦無不遂此又探本塞源之術也

此言朝使宣諭及隣國轉諭總不如撫臣自移諭之爲著

通政唐順之云宜諭日本浙江軍門當請命遣使矣竟不能盡得其要領使者坐罪而其事遂罷當考平倭畧所載洪武永樂間遣使日本者不一而足

高皇帝又嘗與劉基議以倭國重佛特遣僧往諭告之王

者于四夷之不貢不臣則有威讓之令文告之辭兵交使在其間以深得敵情而處之切中其機也然自葉宗澠之坐重罪而逋逃欲自歸者不免自疑自蔣洲之得罪而入以使絕域爲諱或宜滅宗澠之罪以示信于逋逃之徒寬蔣洲之獄以留使絕域詗敵情之一路

此言宣諭當行

兵部主事黃元恭云策者曰倭夷犯順乃群小之僭竊其君不知也誠遣使諭之彼王必能禁其下海境安矣百萬之師何如一介之任耶竊恚之昔晉率陰戎伐趙周景王以弁髦之帛告晉辭直獲免而說者以爲不如東周之伐秦夫君臣上下華夷之所以臨事

統屬分也臣有干于其君殺無赦下有犯于其上殺無赦夷狄有滑乎華夏殺無赦憲也周天子顛分壞憲屈體卑辭以祈一日之存孰與拚國舉義存綱常於萬世之愈哉今堂堂

天朝王帛萬國威迅九垓雖倭奴爲患譬則蟲蝨之螫耳未若唐之回紇宋之困金元何至其衰周之不屑耶或曰是舉也請命于

天子擇布衣之士假朝臣之服而以藩省之辭將之非害大者夫曰請命則實意開於

天子而識者默思之必有元首啓下之耻曰假服則名器玷

頒于

朝廷而匪人卑用之必有衣冠掃地之辱實意卑名器玷

而猶曰無害大可乎且夫中國
天子猶家之主也夷王猶家僕也夷之群小則家僕之臺
從也臺從肆然凌犯其主既不能奮草薙於其來又
不能正其根誅干其主而顧脩文告之辭豈不忸怩
當代含羞百世也我抑人有言苟可以息干戈而全
民命何憚干枉尺夫通法網以爲盜于外境華夷皆
有其人吾中國豈不明揭憲典密布機宜廼不能禁
吾民之竊出顧責倭王盡禁其竊入者乎勢不行矣
且倭奴狡猾素無慕義之誠其臣服數十年不爲梗
特通貢之利足羈縻之耳今入寇之利百倍通貢充
其貪心何所不至猶恃中國之威懾服有素而群小
之回誘說未通若廼遣使諭之假其重以寢其兵示
弱明甚矣安知不啓通國之貪乎

此言宣諭害義之大必不當行

海道副使譚綸云移諭日本之言似不可行何也通番
接濟乃吾中國沿海之人也中國之官不能自禁而
欲夷王禁其所屬不爲所笑乎欲望夷王之禁其屬
必先自禁始

此言降宣諭爲不當行

太常寺卿魏　云琉球國未嘗親來朝貢決不可使
朝臣往封以致之死地但以
勅命封付福建布政司彼國來領可也
國初朝臣親往者以其國主親來朝故也今不來朝久矣
中國豈可使朝臣親往乎

此言乃為使琉球國而發琉球世為不叛之待之且尚如此況日本乎可例推矣近年督撫議遣使諭日本不用王官而用布政司移諭甚為得之

都御史唐順之云用間使其自相疑而自爲鬬最是攻夷上策然非深得敵情則不能用間非熟于地形則不可以成犄角之勢而夜襲敵營且我兵形既露虜人亦日夜爲備而匿實示虛匿近示遠匿精壯而示羸弱百計以疑我者宜亦深是故得敵情爲難

通政唐順之奏云擬總兵官盧鏜手本內一款撫處夷情以尊

國體開稱

祖宗以來給與日本金印勘合十年一貢船不得過二隻人不得過百名既申遠夷慕義之情遠夷亦得交易中國之貨以爲利而中國亦以羈縻遠夷使常馴服不爲寇賊百餘年來自嘉靖二年宗設宋素卿等爭貢讐殺貽害地方因而絕貢至嘉靖十八年正使碩鼎等齎獻貢物幷進表文伏罪荷蒙

皇上擴天地之仁雖非貢期復准入貢嘉靖二十六年正使周良等坐船四隻復貢議者計方九年之期有違

事例徑自阻回從此貢路不通倭夷素性貪詐利我中國之貨既不與貢則無復望矣因此遂被姦徒勾引同利爲寇不止則以偶蹉一年貢期阻回之故也爲今之計乞題請

聖裁行令各衙門遵照今後夷人復來求貢果有真正表印勘合別無詐僞姑不計其限例就與奏請起送赴京譯審來寇之端

勅彼國王令其查治惡逆斂戢屬夷使不敢再犯則倭夷知有貢路之可通而說計自銷黨類自攜勾引之徒亦可暫縛矣鏜老將也三十餘年在海上熟諳夷情其言當不甚妄乞

勅該部查議可行與否臣又備開先時陝西總制王瓊論

西夷事以謂能絕其入貢之路不能絕其入寇之路
今亦可借以爲矜也
此言夷人來貢不必拘定貢期但有表章即當准其貢
兵部尚書張時徹云倭奴悔禍或揚帆稱貢而至將何以處之昔楊文懿公嘗著郎貢之議曰倭奴狙詐狼貪云云見楊守陳條陳且前此入寇之少蓋以通商下海勾引都鎮者多也乃今嚴禁姦之令而欲開非時入貢之門是止沸而益之薪也況倭王微弱號令已不行於國中即使通貢果能禁諸島之寇掠乎且貢夷止數百計而寇邊者動以千萬計豈寇邊之賊皆欲貢而不得貢者乎請宣頒明詔申命海道帥臣益嚴守備貢則郤而驅之出境寇則草薙而禽獮之則奸謀詭計破胆不行矣今之議者復曰昔三代盛王九夷八蠻五戎六狄莫不來王聖人之作春秋於荆楚猶夏則書人以黜之至遣椒來聘復書爵以進之招攜以禮懷遠以德蓋王政之所不廢也倭奴自

祖宗朝効其職貢已非一日邇者
朝廷准令遣使移檄往諭實屬招來之意以開其補過之門但來使者不能直達倭王以宣布
聖天子威德而徒以簡率行之如其款邊納貢而峻郤之恐永塞其自新之路而益堅其稔惡之心東南未知所息肩也夫爲是說者猶治疾之標而未察其本者也王者內夏外夷修之有道軍志亦曰毋恃其不來恃吾有以待之使在我者未修而跧於所恃也則通

之適所以招侮絶之亦足以啓釁此豈安攘之長策
哉邇者臺省部寺會疏奏行九事一曰選武將二曰
任文職三曰精選練四曰慎徵調五曰處軍餉六曰
守要害七曰明職掌八曰明賞罰九曰行撫諭酌以
時議之名協者即施行之於以内收順治之功而外
樹威嚴之績如其貢寇且貢反覆不情則用威誅暱之
令文告之辭以却絶之是恪遵
太祖高皇帝之明訓義之所以爲盡也如其引慝伏罪重
譯効款必欲率賓王化以自納於覆載之中則必質
其信使堅其誓約
勅令禁戢各島不復犯我邊疆期以數年爲斷其命不
渝而後如
先朝著例容令入貢此
成祖文皇帝綏徠之方仁之所以爲至也是故明徵定保
君子監成憲而行之爾已是故修治垣隍慎固城守
一策也編立保甲内寓卒伍一策也譏察非常嚴禁
出洋一策也綏撫瘡痍以固根本一策也此皆所以
治内也修復墩堡嚴明烽堠一策也繕治器械查復
戰船一策也出哨會哨悉遵舊規一策也據險守要
聯絡響應一策也此皆所以治外也至於練主兵而
免調募之擾足財用而資軍興之需聚芻糧而給餉
以時嚴賞罰而功罪不掩設畫樹防出奇應變爲吾
之不可勝以待敵之可勝則在中外任事之臣加之
意可也

或云許貢一說決不可行蓋
成祖之許入貢先有威以制之此今威天下而遠者之非
惟無益恐彼借入貢之名交通奸人為大邊患定數
反生事端矣
此二條言貢不宜輕許
尚書楊守陳云倭奴僻在海島其俗狙詐而狼貪自唐
以至近代已嘗為中國疥癬矣
國初洪武間嘗來而不洛
朝廷既正其罪復絕不與通著之為訓至永樂初始復來
貢而後許之於是往來數數知我中國之虛實山川
之險易因肆奸譎時拏舟載其方物戎器出沒海道
而窺伺我得間則張其戎器而肆侵夷不得間則陳

其方物而稱朝貢侵夷則捲民財朝貢則沾國賜間
有得不得而利無不得其計之狡如是至宣德末來
不得間乃復稱貢而
朝廷不知其狡
詔至京師燕賞豐渥相載而歸則已中其計矣正統中來
而得間乃入椗渚犯我大嵩崇倉庾燔室廬賊殺蒸
庶積骸流血如陵谷婦嬰見于柱沃之沸湯視其啼
號以為笑樂捕得孕婦則計其孕之男女剔視以賭
酒荒淫殘忍至有不可言者吾民之少壯與其粟皇
唐挽而歸累穴城野蕭條過者隕涕於是
朝廷下倭奏之詔命重臣中要地增城隍謹斥堠大修戰
艦合浙東諸衛之軍分番防備而其威振於海表肆

七八年間邊氓安堵而倭奴潛伏罔敢搖焉茲者復
來窺伺而我軍懷夙昔之憤幸其自來送死目矚
碻亦欲食其肉而寢處其皮彼不得間乃復稱貢而
我師遂從其請以達于
朝是將復中其計矣今
朝廷未納其貢而吾鄭先帷其害芟民稼穡爲之舍館浚
民脂膏爲之飲食勞民肌力爲之役使防衛晝驅而
夕呼十徵而九斂雖雞犬不得寧焉而彼且縱肆無
道強市物貨善誑婦女貂璫不之制藩憲不之問郡
縣莫敢誰何民既譁然不寧矣若復
詔至京師則所過之民其有不譁然如吾鄭者乎矧山東
郡縣當河決歲凶之餘其民已不堪命尤不可使之

譁然也且其所貢刀扇之屬非時所急價不滿千而
所爲糜國用弊民生而過厚之者一則欲得向化之
心一則欲弭其侵邊之患也今其狡計如前則非向
化者矣受其貢亦侵不受其貢亦侵無可疑者矣昔
西旅貢獒召公猶致戒於君越裳獻白雉周公猶避
讓不敢受漢通康居爵宛唐通高昌伊吾皆不免乎
君子之議況今倭奴乃我讐敵而於撫馭之餘復敢
懷其狙詐狼貪之心而施其奸計以罔我其罪不勝
誅矣況可與之通乎然彼以貢獻爲名既入我境而
遂誅之則類於殺降不武不義若從而納其所貢則
中其奸計而益招其玩侮不可謂智取一而損十得
虛而實實不可謂計弊所恃以事無厭何以異不與甲

而驟不水旱而箸不可謂仁有一於斯皆非王者之道竊以為宜降

明詔數其不恭之罪示以不殺之仁歸其貢獻而驅之出境申命海道帥臣益嚴守備俟其復來則草雞而禽彌之俾無噍類若是則奸謀狡計破沮不行若日之所照月之所臨物莫能遁故天下咸知

朝廷之明貢獻不納貨賄不貪雖有遠方玲悋之物無所用之故天下咸知

朝廷之廉自浙江以達京畿且數千里之民舉不識輸運之勞不知徵斂之苦父哺其子夫煦其妻而優游以衣食故天下咸知

朝廷之仁裔夷知吾國有禮義而不敢侮奸宄知吾國有

謀猷而不敢發桴鼓不鳴金革不試故天下咸知

朝廷之威舉一事而衆善備焉斯與勞民覓國而幸蠻夷之服者萬不侔矣

主事唐樞云我
太祖高皇帝定鼎之二年遣使趙秩招諭日本次年國王良懷奉表入貢五年復遣僧祖闡往諭之隨遣人奉方物時祖闡之使也宗泐以詩別而
高皇帝親和之有同仁無遐邇之句十三年貢使無表文俱發三邊安插十四年貢使表有前使姓名乃悉放還自十五年賊臣胡惟庸黨備倭指揮林賢入倭搆亂十六年寇金鄉十九年進巨燭暗藏火藥兵器佐惟庸爲不軌于是
高皇帝立訓絕其往來夫招之者帝王無外之仁也無驗而拘之及得其真而即歸之中國柔遠之禮也其奸

深禍結示以永拒聖人誅罪之義也然不即勤兵干討以訓令代鉄鉞明于勢之所不及不欲以全律之也況罪以罪乎其人雖經罪其國無可宥之日耶是則良懷世而
聖怒宜息矣故當
文皇帝繼世定貢加賚遣使給符封其鎮山初禁似與全釋蓋後先殊旨彼此異宜而其致一也嘗考大明律凡將物私出外境貨賣及下海者罪止杖一百將人口軍器出境及下海者絞因而走泄事情者斬及考問刑條例擅造二桅以上大船將帶違禁貨物下海往番國貿賣潛通海賊同謀結聚及爲嚮導劫掠良民者處以極刑若止將大船僱與下海之人分取番

貨及糾通下海之人接買番貨發邊衛收貯小民
擅使單桅小船下海邊近處捕魚採木巡捕官兵不
許擾害欽測

皇猷防民以惡交而不強遏其販貿杜民以奸搆而不宣
挑其生業故海上境外之貨實與夷為市罪惟奸而
不過謂不勝其重也其誅斬焉則人口軍器恐資寇
兵益盜黨耳違式巨艦雖成濟具而原其所欲為若
只從互市罪亦不列死款夫然後知
先皇制律之意嚴奸究以沮其漸復因利用以體其情苟
當事者不意論慎測一切矯枉而踰于直豈
先皇大道為公之謂哉

此言海禁當寬

通政唐順之云

國初浙福廣三省設三市舶司在浙江者專為日本入貢
帶有貨物許其交易在廣東者則西洋番舶之輳許
其交易而抽分之若福建既不通貢又不通舶而
國初設立市舶之意漫不可考矣舶之為利也豈不顯然
封閉嶺洞驅斥礦徒是為上策庶不能開則國收其
利權而自操之是為中策不開不收利孔濶滿以資
奸萌嘯聚其人斯無策矣今海賊據倭島嶼南與諸島
公然番舶之利而中土之民交通接濟竟之而不能
止則利權之在也宜備查

此言開市舶為是

國初設立市舶之意毋洩利孔使奸人得乘其便

主事黃允恭云或者云中國繁華之盛四夷慕之吾民之出而鈎引彼夷之入而橫暴皆此爲之媒故浙之定海有關號稱要害誠今此立市多設防兵以通諸番之貨則夷人有所通之便吾民杜竊出之端凡所欲物以好取不以威取夷酋何憚而不爲廣中歲通市舶百姓安堵其明徵矣難與諸番類觀廣浙事體大不侔也

時所在登萊故沿海諸郡盡設守備把總等官軍以禦之曰備倭蓋患之深矣廣東舊有諸番之舶而無倭故通市無恙若乃定海本倭入貢之道定海通市舶倭奴原在不拒之中矣昔在

太祖朝猶慮倭奴通貢之擾而不與

成祖嘉其擒獻叛寇之忠始許之自劉江擒斬盡絕之後憲臣有司能束以法恪守陪臣之分帖帖者數十年至嘉靖癸未夏宗宋與倭搆釁中國莫能禁自是遂萌驕縱貢不及期獻不盡物爭屠牛剝狗之故相予璟視者屢矣當是時守臣已難禁輯況通市於大亂未懲之後誰復能以綱紀馴擾之哉倭自寧波登舟者八十人南京橫行兩省而後纔之計市舶之倭當不減八十其或外順內奸乘吾不備甚易易也就令無他安保吾民不有好貪愚弄以起隙又安保彼中不有煽酣驕恣以生事有不虞將何以禦之此端一啓朝夕慄慄官吏[illegible]交納廛處者之[illegible]逐客人倡爲馬市之說以[illegible]失乎鑒不在遠矣

兵部尚書張時徹云或謂定海沿邊舊溫岙舶宜准閩廣事例開市抽稅則邊儲可足而外患可弭殊不知彼夷者倭非南海諸番全身保貨之比防嚴禁密猶懼不測而況可啓之乎況其挾貨求利者即非脯肝飲血之徒而捐性命犯鋒鏑者必其素無賴籍者也豈以我之市不市為彼之寇不寇哉殷監不遠元事足徵當商舶未至而絕之為易貿易既通而一或不得其所將鬻寇以逞則將何以禦之矣今之寇邊者動以千萬計果能一二而與之市乎內地之商聞風膽落果能驅之而使市乎既以市招之而卒不與市將何詞以罷遣之乎夷以百市兵以千備夷以千市

兵以萬備猶恐不足以折其奸謀我之財力果足以辦此乎且市非計日限月之可期也彼之求市無已則我之備禦亦無已果能屯兵而不散已乎此皆利害之較然者也乃謂可以足邊儲而弭外患不已大繆乎

此言浙江互市必不可行大意與黃元恭何而剖析利害尤為明備

或云互市之說即入貢之說也若我之威有以制之則彼以互市為恩不然則互市之中變故多矣

予按今之論禦寇者一則曰市舶當開一則曰市舶不當開愚以為皆未也何也貢舶與市舶一事也分而言之則非矣市舶與商舶二事也合而言之則非矣商舶與寇舶初本二事中變為一今復

分爲二事混而言之亦非矣何言乎一也凡外夷貢者我
朝皆設市舶司以領之在廣東者專爲占城暹羅諸番而設在福建者專爲琉球而設在浙江者專爲日本而設其來也許帶方物官設牙行與民貿易謂之互市是有貢船卽有互市非入貢卽不許其互市明矣西番琉球從來大嘗寇邊其通貢有不待言者日本狡詐叛服不常故獨限其期爲十年人爲二百舟爲二隻後雖寬假其數而十年之期未始改也今若單言市舶當罷而不論其是期非期是貢非貢則釐貢與互市爲二不必俟貢而常可以來互市矣紊

一宗之典章可乎哉何言乎二也貢舶者
二法之所許市舶之所司乃貿易之公也海商者
二法之所不許市舶之所不經乃貿易之私也日本原無商舶商舶乃西洋原貢諸夷載貨船廣東之私灣官稅而貿易之（詳見後附錄廣東海道四文）既而欲避抽稅省陸運福人導之改泊海倉月港浙人又導之改泊雙嶼每歲夏季而來望冬而去可與貢舶相混乎何言乎二而一一而二也海商常恐遇寇海寇惟恐其不遇商如陰陽晝夜判然相反爲商者曷嘗有爲寇之念哉自甲申歲凶雙嶼貨壅而日本貢使適至海商遂改貨以隨售倩倭以自防官司禁之弗得西洋船原回私灣東洋船遇有海洋而向之商舶

悉變而爲寇船矣然倭人有貧有富有智有愚富者與福人潛通攻聚南灣至今未已（日本英帝時代若西商之載貨交易也福人利其值希其能而銀置貨非抽稅買小大渡船至外海船造而往渡之　鉛錫之寇不欲也此固無待於市舶之開而其互市未嘗不行者也貧者剽掠肆志毒歲犯邊鼈令其互市彼固無貲也亦不欲也此非開市舶之所能止而亦不當反錫之名目者也故不知者謂倭寇之患起於市舶不開市舶不開由於入貢不許許其入貢通其市舶中外得利寇志泯矣其知者晒之以爲不然夫貢者夷王之所遣有定期有金葉勘合表文爲驗使其來也以時其驗也無僞我

國家未嘗不許也貢未嘗不許則市舶未嘗不通何開

之有使其來無定時驗無左証乃假入貢之名爲入寇之計雖欲許得乎貢既不可許市舶獨可開乎或謂日本國王號令不行山口豐後互相雄噬金葉勘合煅於兵久矣如責其期拘其驗則彼終無繇貢而市舶終無繇開矣須弘包荒之量昭無外之仁可也又不然夫貢而無驗招寇之囮也貢而無期弛備之階也緩其期稽其驗隄防猶難鉦可頻貢而勿驗哉大抵善施恩者施之於威伸之後則人知恩今寇犯順數年雖屢大捷而禍猶未殄倭未知畏也此須肅清之後俟其請罪來貢或如永樂初擒斬對馬臺岐故事夫然後許之則撫下之仁事上之義兩得之矣

兵部尚書鄭曉云洪武初設市舶于太倉黃渡市舶
司尋以近京師罷改設于福建浙江廣東七年九月
又罷未幾復設蓋東夷有馬市西夷有茶市江南海
夷有市舶所以通華夷之情遷有無之貨收征稅之
利犒戍守之費又以禁海賈而抑奸商也市舶不復
利歸豪强而
國家坐受其害若慮各夷并至市舶司難于防閑查照西
番闡化闡教輔教王貢使自四川入贊化王貢使自
陝西入事例而今日本等國至浙江市舶司琉球等
國至福建暹羅滿剌加等國至廣東亦可近見筸溪
先生言都憲陳金西斬集巾有開市舶十利疏大抵
事體宜然今不設重臣賊必不退退必復來設重臣

退賊後因民情震懼可築城矣不復市舶夷人必欲
售貨奸民必欲牟利爲盜必不已重臣無可召還之
期蓋非設重臣無以戢目前之棘禍非復市舶無以
塞目後之亂源開設市舶
會典中有之諸巡撫及信國公誌墓誌行狀傳中皆有之
矣

予按倭國服餚器用多資于中國有不容一日缺
者安能待十年一貢之期而限以三舡所載之數
哉若禁其貿易則入寇如奪一定之勢也蓋倭國
雖小亦有君臣朝貢燕享禮儀使無絲線等物則
無禮文而不成乎國矣彼既不容不資於我而利
重之處人自趨之豈能禁民之交通乎故官法愈

嚴小民寧殺其身而通奢之念愈熾也但
朝廷無命孰敢私訂互市以干
國典哉此只消一海道有機敏有力量者活動行之不失
於縱不失於激如此解與其老歷年商船之頭也
欲律以通番死罪果未必及而亂先激矣必申明
朝廷之法寬處而覊縻之且重其責成日商販貿易姑聽
其便但一方之責皆係於汝一方有倭變即汝一
人之咎也彼以利為命者利既不失而又不峻絕
以法則感恩畏威必不敢事矣一面脩吾海防不
容奠舶近岸販貨出海者關口盤詰勿容夾帶煙
硝之類載貨入港者官為抽稅以充軍需豈不華
夷兩利而海烽晏如也哉此之謂以不治治之也

見今廣東市舶司處西洋人用此法若許東洋島
夷亦至廣東互市恐無不可

明少保新安胡宗憲輯議　曾孫庠生胡維極重校
孫舉人胡燈　舉人胡鳴岡
階慶　仝刪

經畧三

兵船

廣東船圖說

大頭船圖說

尖尾船圖說

大福船圖說

草撇船圖說

海滄船圖說

開浪船圖說

高把梢船圖說

艟艚船圖說

蒼山船圖說

八槳船圖說

鷹船圖說

漁船圖說

網梭船圖說

兩頭船圖說

蜈蚣船圖說

沙船圖說

船樣圖說

兵船總說
兵船稍手論
兵器
粵兵盔甲圖說
燕尾牌圖說
挨牌圖說
藤牌圖說
銅發貢圖說
佛狼機圖說
鳥銃圖說
銃圖說
子母炮圖說

一窩蜂圖說
天墜炮圖說
地雷圖說
大蜂窠圖說
火妖圖說
火藥桶圖說
火磚圖說
噴筒圖說
火器圖說
礮圖說
兩廣藥箭圖說
邊箭圖說

弩箭圖說
伏弩圖說
馬箭圖說
火箭圖說
神機箭圖說
標鎗圖說
長鎗圖說
梨花鎗圖說
狼筅圖說
棍圖說
天蓬鏟圖說
偃月刀圖說

劒圖說
鉚牧圖說
兵器總

廣東船式
圖編卷之十三
一

東莞縣大頭船式

廣船視福船尤大其堅緻亦遠過之蓋廣船乃鐵栗木所造福船不過松杉之類而已二船在海若相衝擊福船即碎不能當鐵栗之堅也倭夷造船亦用松杉之類不敢與廣船相衝但廣船難調不如調福船爲便易何也廣船非我軍門所轄不似福船之易制禦一也廣船若壞須用鐵栗木修理難乎其繼二也造船大戶倩人駕使任其毀壞而不惜三也造費浩繁其毀甚易移文修造理勢難行四也將欲重價以僱之則此船在廣魚鹽之利自多區區價微不樂于僱五也欲許其帶貨則廣貨之來無資于海蓋福建收港溪水甚逆浙直道遠風濤可畏不如一踰梅嶺即浮長江四通八達故雖帶貨亦非其所願六也向來

通倭爰漳泉無生理之人廣人自以魚鹽取西南諸番之利不必如福船之當喙以取利中國七也此廣船之利獎也廣東大戰艦用火器于浪漕中起伏蕩漾未必能中賊即徒中矣亦無幾何但可假此以衒敵人之膽耳所恃者有二發鑛佛郎機是惟不中中則無船不粉一也以火毬之類于船頭相遇之時從高擲下火發而賊舟即焚二也大福船亦然

大福船式

福船高大如樓可容百人其底尖其上闊其首昂而口
張其尾高聳設柁樓三重于上其傍皆護板楊以茅
竹堅立如垣其帆桅二道中爲四層最下一層不可
居惟實土石以防輕飄之患第二層乃兵士寢息之
所地板隱之須從上躡梯而下第三層左右各護六
門中置水櫃乃楊帆炊爨之處也其前後各設木椗
繫以棕纜下椗起椗皆于此層用力最上一層如露
臺須從第三層穴梯而上兩傍板葺如欄人倚之以
攻敵矢石火炮皆俯瞰而發敵舟小者相遇即犁沉
之而敵又難于仰攻誠海戰之利器也但能行于順
風順潮回翔不便亦不能逼岸而泊須假哨船接渡
而後可

草撇船式

即福船之小者

海滄船式

黎將戚繼光云福船高大如城非人力可驅全仗風勢倭舟自來矮小如我之小蒼船故福船乘風下壓如車碾螳螂闘船力而不闘人力是以每每取勝設使賊船亦如我福船大則吾未見其必濟之策也但吃水一丈一二尺惟利大洋不然多膠於淺無風不可使是以賊舟一入裏海沿淺而行則福舟爲無用矣故又有海滄之設

參將戚繼光云海滄稍小福船耳突水七八尺風小亦可動但其功力皆非福船比設賊舟大而相並我舟非人力十分膽勇死鬬不可勝之二項船皆只可犁沉賊舟而不能撈取首級故又有蒼船之設

開浪船式

高把稍船式

參將戚繼光云開浪以其頭尖故名哭水三四尺四槳一櫓其形如飛內可容三五十人不拘風潮順逆者也

叅將戚繼光云近者改蒼山船制爲艟艦比蒼船稍大比海滄更小而無立壁最爲得其中制遇倭舟或小或大皆可施功但水兵人技皆次於陸兵設使將水兵教練遊選亦如陸兵而後登之舟中則比陸兵戰加一舟險其功倍於陸兵必矣司寄者何憚而不爲哉

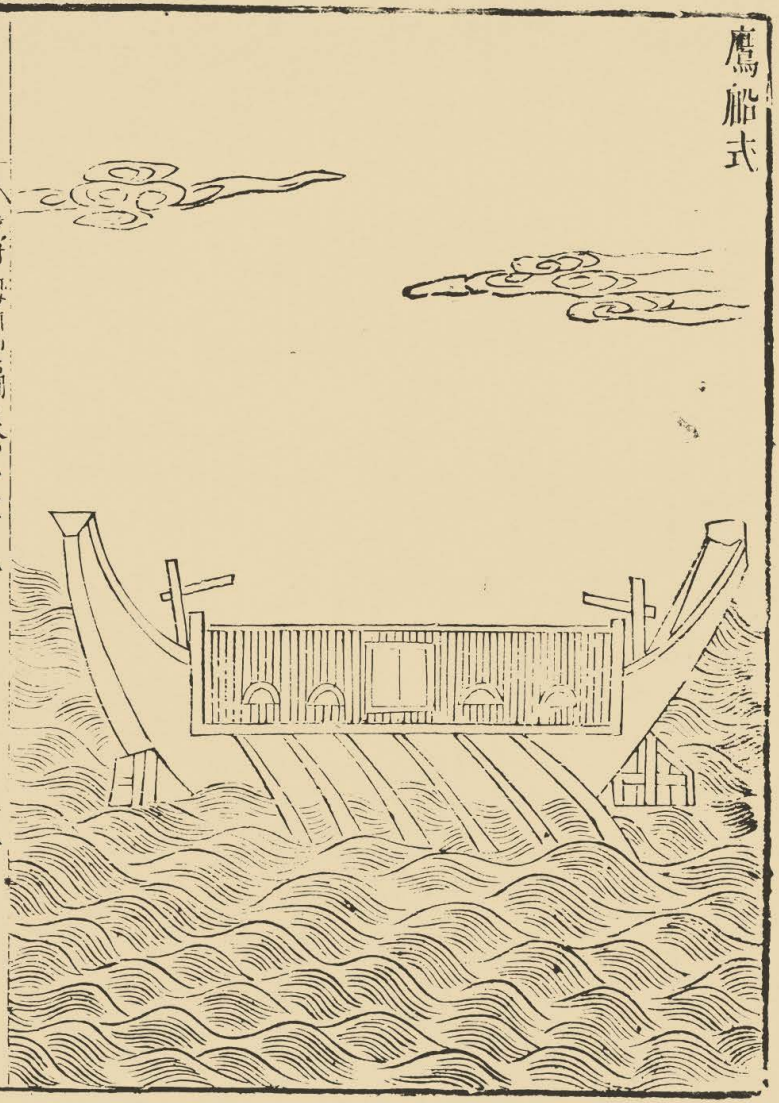
蒼山船首尾皆闊帆櫓兼用風順則揚帆風息則盪櫓其櫓設于船之兩傍腰半以後每傍五枝每枝二跳每跳二人方櫓之未用也以板閘于跳上常露跳頭于外其制以板隔爲二層下層鎮之以石上一層爲戰場中一層穴梯而下卧梢在焉其張帆下椗皆在戰場之處船之兩傍俱鋪以粉蓋卑隘於廣福船而闊于沙船者也用之衝敵頗便而捷温州人呼爲蒼山鐵

參將戚繼光云蒼船最小舊時太平縣地方捕魚者多用之海洋中遇賊戰勝遂以著名殊不知彼時各漁人爲命貫極之勢亦由賊之入我地是也今應官役便知愛命然此船水面上高不過五尺就加以木打

八槳船式 但可供哨探之用不能擊賊

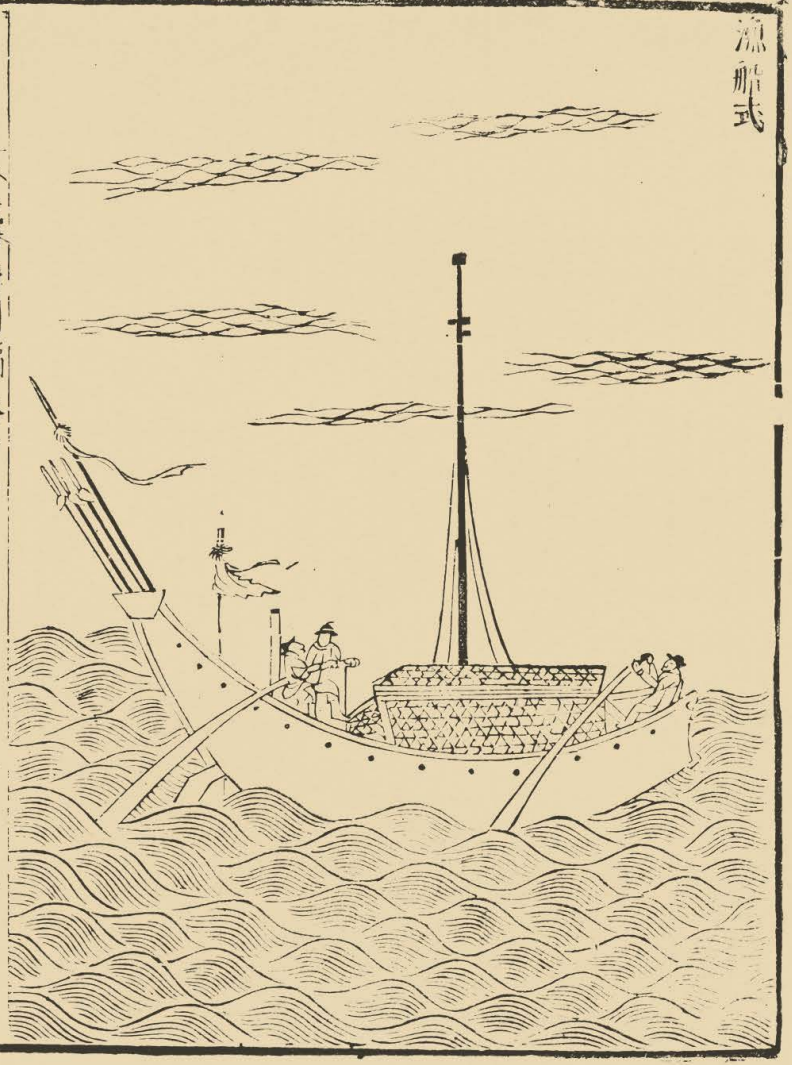
棚槳亦不過五尺賊舟與之相等既勢均不能冲犁若使徑逼賊舟兩艘相聯以短兵鬬力我兵決非長策多見悞事但若賊舟甚小一入裏海我大福海滄不能入必用蒼船跟逐之此船喫水六七尺與賊舟等耳其擄取首級水潮中可以搥颺而快便三色之中又此爲利

鷹船式



崇明沙船可以接戰但上無壅蔽火器矢石何以禦之不如鷹船兩頭俱尖不辨首尾進退如飛其傍皆猫竹板密釘如福船旁板之狀竹間設窓可出銃箭窓之內船之外隱人以盪槳先用此舟衝敵入賊隊中賊技不能却沙船隨後而進短兵相接戰無不勝矣鷹船沙船乃相須之器也

魚船於諸船中制至小材至簡工至約而其用爲至重何也以之出海每載三人一人執布帆一人執槳一人執鳥嘴銃布帆輕捷無墜沒之虞易進易退隨波上下敵冊瞭望所不及是以近年賴之取勝擒賊者多其力焉



漁船式

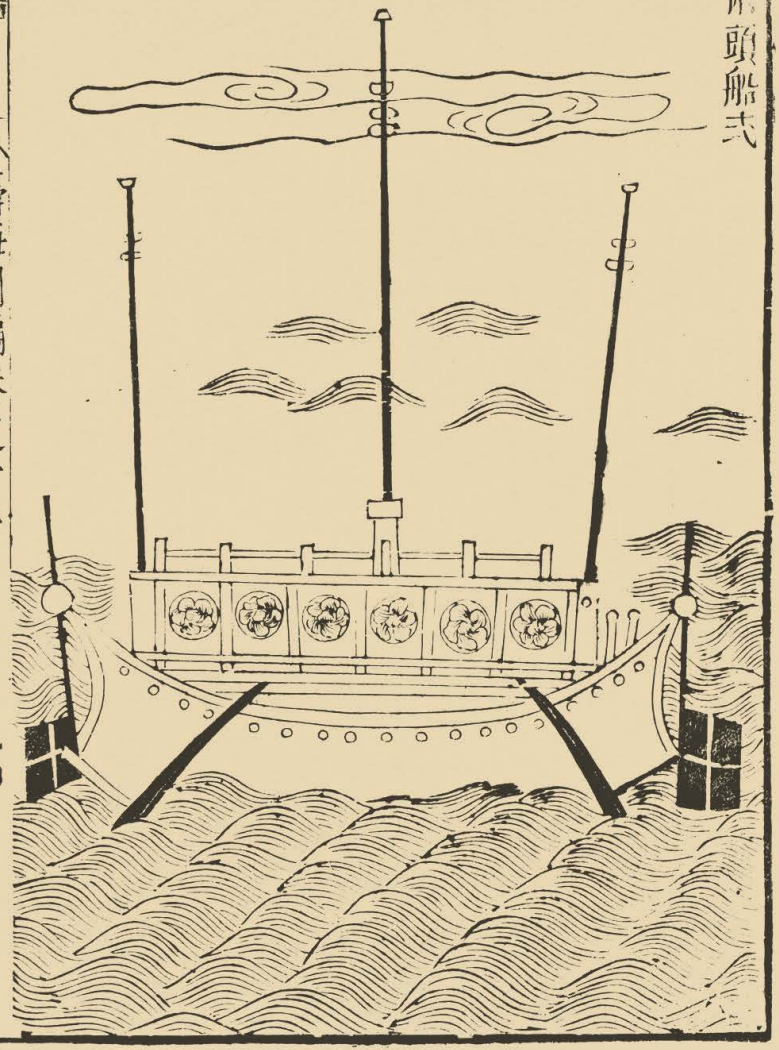
網梭船式

此船定海臨觀象山一帶沿海地方俱有之其形如梭用竹桅布帆僅可容二人衝風冒亂專入大洋抵下八山取菱菜紫菜打魚之利舟至山麓二三人以舟舁置灘塗避風潮若欲西歸仍舁舟下水不能禦敵但可爲哨探之用乃魚船之至小者也

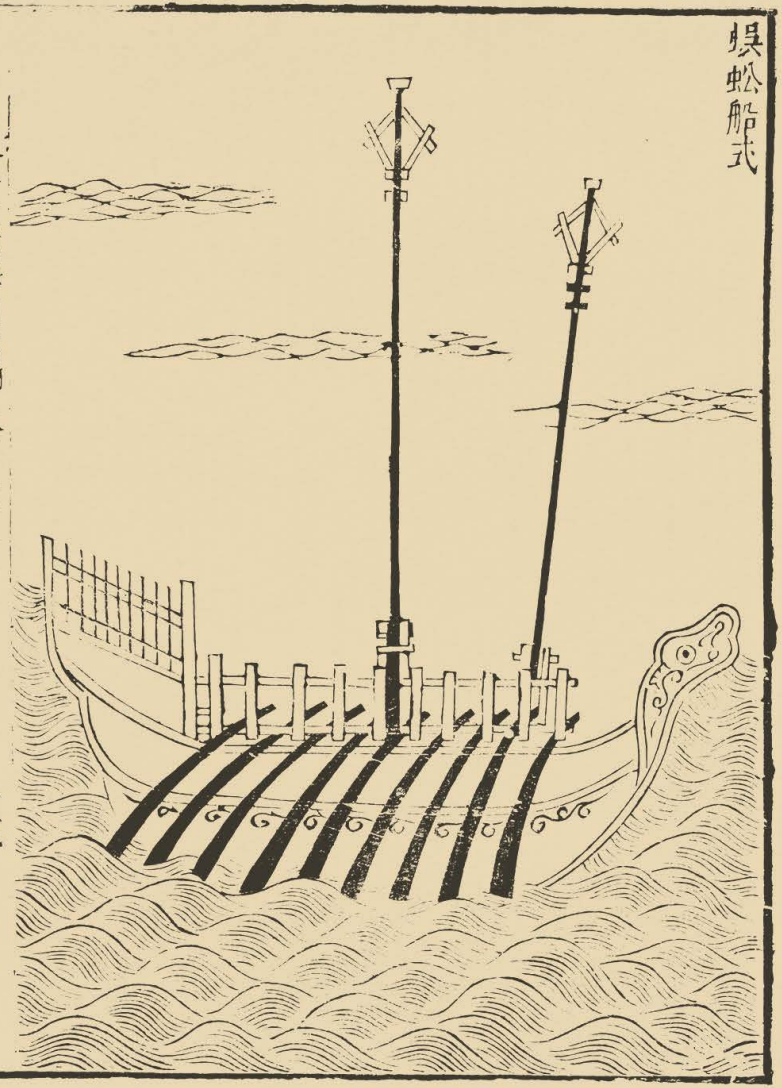
參將戚繼光云網船形似織梭內容二人前後用二人以罩罩之風浪大可拖之塗上且不能覆溺水七八寸耳此可走報或用之裏港窄河動以百數每隻內用鳥銃二三人蜂集蟻附沿海沿塗而打之甚效如賊追逼就可棄走一舟不過一金之費耳

兩頭船

按大學衍義補有兩頭船之說蓋爲海運爲船巨遇風懼難旋轉兩頭製舵遇東風則西馳遇南風則北馳海道諸船無逾其利蓋武備不嫌於多慮患不妨於遠莫爲之前猶將求之而況設之前者有未泯乎以此衝敵則賊舟雖整可亂也



兩頭船式



艗曰蜈蚣象形也其制始於東南夷專以駕佛郎機銃銃之重者千斤至小者亦百五十斤其法之烈也雖木石銅錫犯罔不碎觸罔不焦其達之迅也雖奔雷掣電勢莫之疾神莫之追蓋島夷之長技也其法流入中國中國因用之以馭夷狄諸凡火攻之具砲箭鎗毬無以加諸其成造也嘉靖之四年其裁草也嘉靖之十三年數年之間未及一試而莫知其功用之大也萬雄川曰蜈蚣之氣能逼蛇夷之制義毋迺爲是故與夫海宴河清萬世所願使長蛇之勢不能盡偃則蜈蚣之制其能不興也乎名器尚存述之以俟採用

海行止速而遲有闖風故也如大食國在漳州東南每

歲通番者必候冬初西北風盛而去夏初東南風盛而來所謂海舟無風不可動也惟佛郎機蜈蚣船底夫兩澗兩傍列楫數十其行如飛而無傾覆之患故倣其制造之則除颶風暴作狂風怒號外有無順逆皆可行矣況海中晝夜兩潮順流鼓枻一日何啻不數百里哉

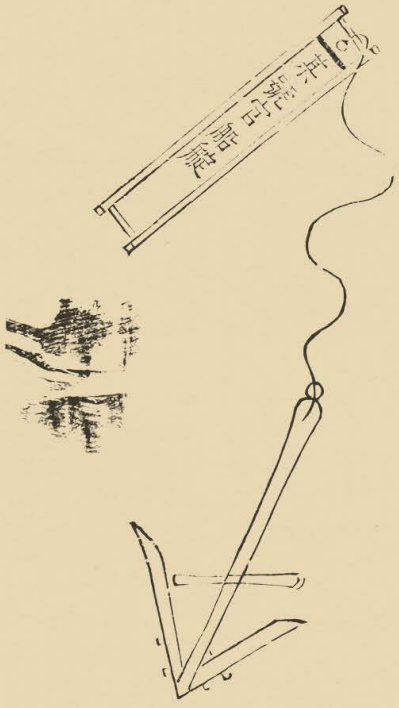
沙船式

水戰非鄉兵所慣乃沙民所宜蓋沙民生長海濱習知
水性出入風濤如履平地在直隸太倉崇明嘉定有
之但沙船僅可於各港協守小洋出哨若欲出赴馬
蹟陳錢等山必須用福蒼及廣東烏尾等船
沙船能調戧使鬬風然惟便於北洋而不便於南洋北
洋淺南洋深也沙船底平不能破深水之大浪也北
洋有滾塗浪福船蒼山船底尖最長此浪沙船却不
畏此北洋可拋鐵猫南洋水深惟可下木椗
此船當與鷹船說參看
太倉生員毛希秉云
太祖舊制深嚴雙桅船隻私自下海之禁承平既久法渡
浸弛雙桅習以爲常甚至有五桅者長江大帆一日

千里近蒙當道建言申明舊制曉諭改正而未嘗着
實舉行故沙船入港頭桅多寄海口或倩人遊說官
府航海非雙桅不可蓋便其私蓋單桅雙桅無不可
行但有大小遲速耳定制沙民止許戶船一隻巡船
宜快便多桅櫓如猿船有一定之式以便江海識別
沙船宜朴實單桅仍禁雙桅眼責令本州縣及守禦
官限一月之內改正違者即係賊船許諸人擒獲首
告即以充賞惟有副帆副桅以備損壞而桅眼止一
者聽庶幾我常強而彼常弱我常速而彼常遲此造
船之良法也

船艇圖

船艇用桐木燒黑外一寸甚妙



船艇

走風捉颶事急追賊車關人力起艇遲悞備此臨急解繫纖毫泛之以便回取

都御史唐順之云再三沉思制賊小船衝突之說灘淺處多釘暗樁薄皮船遇之必碎此一說也先發制人一着惟有望斗上做工夫然必須以利使人惜不得銀子每夜楊都司邵把總盧守備等各水軍編定福船十隻每一隻望斗人一夜給與銀一兩使一夜常有人坐在斗上者看賊動靜雖月黑之夜若撞船撐船未必無一把兩把火光我船便可做手脚不患于大船赶賊不上也月明之夜則斗上殲悉必凡正與彼四層望樓是對手至如小船叭喇唬八槳船宜多置銃手既不戰亦宜量與給賞多布之八槳叭喇唬中火器既多賊來便死打又有望斗內人先報賊動靜不患于小船制賊不下也一隻船望斗人每夜與

銀一兩毫釐不可少就是一月浪費銀三百兩亦說不得支得一月賊必擒矣恐惜費誤了大事望斗人若報賊的當水軍因以成功則望斗人即當給與衝鋒重賞若有誤事定以軍法斬首蓋賞重則罰亦重也每夜與銀一兩分毫不可與頭目人尅落必使望斗人一一得實惠

訓導薛俊云水戰東南長技也故

國制瀕海衛所俱置官哨船以備倭但虛飾美觀火遇風色不便行使迯竿走報聲息多賴民船莫使少更無益虛花之制務求堅便實用每官哨船增置小划船或三或四有事則令與大船夾戰無事則令與大船樵山漁海以贍器械修補之費

又云聽客沿海居民單桅船隻附近砍柴捕魚則邊堠便於生理聲息便於夾戰實備邊萬一之助也

閩縣知縣仇俊卿云地有南北時有冬夏自春徂夏則時多南風而利于北行自秋徂冬則時多北風而利于南行此番泊往來出沒之候也彼賊其時輒乘風連雲以出洋我當其衝欲逆濤破浪以邀擊未必其勢之便也盍亦隨時以應之時乎北風必先于北道之防以遏其衝而以南舟曳于後而追之其居中間各寨澳之舟又從旁邇出而擊之時乎北風也亦如前法或遏于前或躡于後或擊于旁此亦迭肆之法長蛇之勢寇未有不困疲而就縛者海上可立京觀矣

又云

國初置沿海衛所每所船五隻每船軍百名其法備載會典自一所推之則合衛之海船海軍可知其數也自一衛推之則合省之海船海軍可總其實也使法之常存何慮海寇之擾向來脩復一二止可用于哨報難以衝敵禦寇及其事急調用不給借發福清鹽船併報各澳民船柰彼不思

國家之急皆存緊各之私原非官物率不如令雖給價值終不直前況福清鹽船雖大不可以當海寇之夾板船吼喇船漳州之草撇樂清之大鐵等船又不可以當海寇之烏尾尖艚至於東仔銅炭等船又不及也

昔人海戰之船大小制度不同今當兼用可也如樓

艚艨衝此船之大者也如直進露撓此船之中者也又如舴艋海鰍此船之小者也以船之大者爲中軍座船而當其衝以船之中者爲左右翼而分其陣以船之小者統出于前後兩旁之間伏見于遠近散聚之際使撓其計隨船器械各須犀利完足固不待贅但海寇所恃全在于銃吾亦以銃爲應中軍大船之前仍用次等船載佛郎機大銃數架以鎮之兩翼中船之前亦用再次船以載鋼將軍大銃數十架以列之其小船亦各載鳥銃鉛筒數百以備于四面各船編定字號每數船列爲一行每一陣列爲數行晝則麾旗爲號夜則振鼓爲節迭出更進則彼此衆寡勞佚之勢不同未有不殲此渠醜者也今蒙委官鳩工

大造船隻戰船之造必有定議但船之外旁又須護以牛革漁網氈絮之類其大者更用列木爲柵可避砲石又有車船之制令戰士前後踏輪舟自進退所謂中流上下回轉如飛虜衆相顧駭愕者用此法也又須預募能射與善浮之人一遇番船或以火箭焚之或以水鑽溺之是或皆可用也至于奇正之變大船中船爲正則以小船爲奇前隊爲正則以後隊爲奇合之爲正則以鬬之爲奇形難預料變不可窮是在臨機神應之妙不可測者也

總兵俞大猷云或問兵船官造與私募孰便曰造易而脩難也雖督造之官用之海上衝敵激浪不旋踵必議脩矣脩船之弊奚啻萬端議脩之後閣岸日多浮

水月少以之守港則可以之出洋追捕則全不足恃矣在官府不能立無獎之法在民間不能克不可制之情天下古今豈有視官物爲已物者哉此惟熟於海務者自知之烏得而盡言或曰民間安有許多私船可募乎曰厚之以稅銀使逐利之民爭造新船以應募何患其不多責府縣以及時給稅責船戶以及時脩整則經年累月皆有堅船可用然則用官造之船以守港用私募之船以追捕則如何曰必若是然後攻守各適其用也

總兵盧鏜云沿海戰船自

國初以來不知幾易其製矣而備料修造或出之軍或出之民或造或雇又不知幾易其法矣然而卒無實用

可以行之永久者非製法之未善存乎其人耳方今兵久費繁公私匱乏管船官捕支持不足駕船兵稍口給不敷是以船日敝而兵日餒也予久在兵間深知其故嘗立麻記疤痕之冊以稽代替立薪水通融之法以革虛冒二三年來稍稍就緒爲今之計必擇人以管船節財以養兵此經久之良法也若曰置簡便之法以濟緩急之用是治絲而棼之愈棼而愈亂也又何益哉

兵船稍手

閩縣知縣仇俊卿云沿海居人多便于舟楫雖未習水戰亦易于爲教今于出海之數或欲以沿海者居其十七其內地衛所者居十三餘撥防邊以助守望使漸教習人人皆可爲勝兵所謂水虎捷凌波軍者不患無其人也如此亦可以節省雇募水稍之費

又云水稍之募因軍士之不習于水而始議之也竊念國家養兵之費歲有常輸冀籍其力以爲用海軍不能効力而又官募兵夫積弊之來不暇追論也訪得其初募水稍之時即將本寨軍之老羸不堪者發回該衛所扣除月粮并行粮銀兩轉給水稍是兵得實用而官無重費今皆不然既有廩軍之粮又加募夫之費

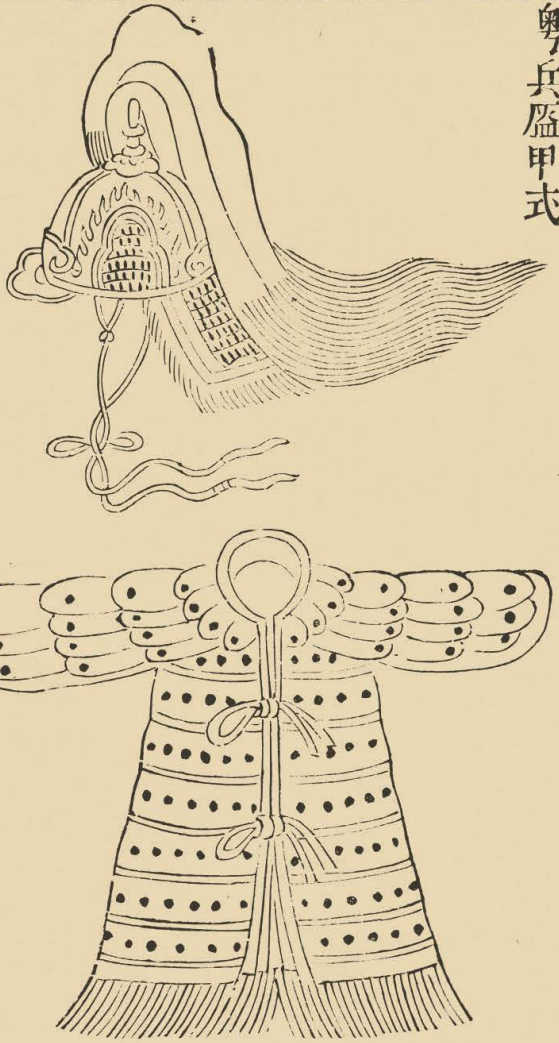
況水稍之夫又有老稚羸弱者雜于其中費于無用之地重爲可恤中間情弊猶有可言蓋以通番下海接濟窩藏皆沿海之人其人皆水稍之親故也自小埕以南浯嶼銅山等處此輩皆是也我謀未成彼已先洩間遇將令嚴明不得已從而出兵至于兩船相及之際或以口哨爲號或以物色爲號揚帆轉柁故意放開不與交兵或放彼先行而我船曲折其行遥躡于後或邀截于港內冤計已窮忽突開一門縱之軼去或追赴將及寃乃丟棄一船以爲之餌即不直前撲滅各去搶貨如此之類情弊百端難以殫述彼以受雇于官役之暫時耳非籍于官終身之役者比也一去則若不統屬是以無所顧籍捕盜之弊亦猶

是耳甚至有捕盜而爲盜者益可慨也或謂周世宗用降人爲水師卒頼其力今獨不可乎不知周用降人但假之教習于平時不用之操駕于臨陣況今之水稍亦皆鄉民而非取之于異域者也即令水稍教習沿海軍夫如兵志以一人教十人十人教百人之法則暮月之間莫非水稍也兵將一心何慮他患

海道副使譚綸云凡水戰專係在舵工與管船捕盜舵工使船必近賊捕盜又從而倡之則士卒不得不戰戰則蔑不勝矣故捕盜舵工不可無破格之賞與必罰之法至於分合節制與陸戰同臨陣每占上風使火器得用是亦在舵工耳

副使茅坤云粤中獨田州甲爲善自盔以下並以堅生牛皮而油灌之甲特周前後胸背而已兩肩兩臂手及兩股並別爲小牛角片置雲肩敵手等各色蓋取其伸縮如意而便於戰鬬者試令召田州之工氏或廣中能倣製者而官自爲採料製之大畧一盔甲則二三金可辦也

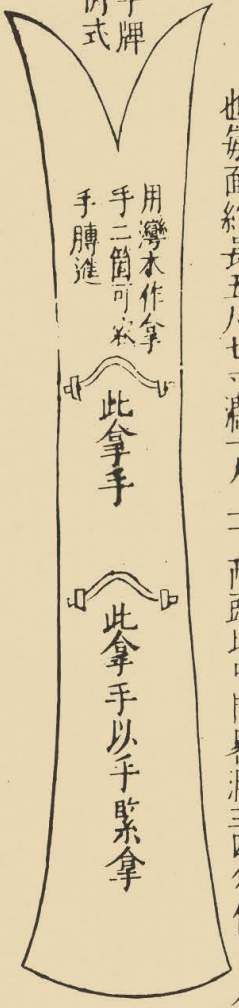
粤兵盔甲式



燕尾牌式

此二邊下面用鐵皮沿包各一帶

此手牌亦名燕尾牌直用白楊木或輕鬆木爲之取其輕而堅也每面約長五尺七寸濶一尺上下兩頭比中間畧濶三四分俱小尺



松江府同知羅拱辰云牌有二式有手牌即燕尾牌也有挨牌用繩索用木橛橛者用手牌便於用力先以鏢鎗飛擊先挫賊鋒然後用刀則前後左右隔賊枝器施我刀法此手牌之利也用挨牌則以牌上長繩七八丈橛橛加入繩圈中掛於項上以左手中指縫中夾牌下短繩上木橛橛仍以五指挽鎗前半節右手執鎗後半節或伸或縮或出長出短或左或右旋刺非惟護自身且護從牌之兵

又云各兵衝進必列牌於隊前以蔽矢石牌乃陣中第一器所不可少者所謂公侯干城所謂干戈戚揚當時子路初見孔子亦執干以爲問夫干者盾也即今之牌也所以捍外而衛內者也有手牌有挨牌用各

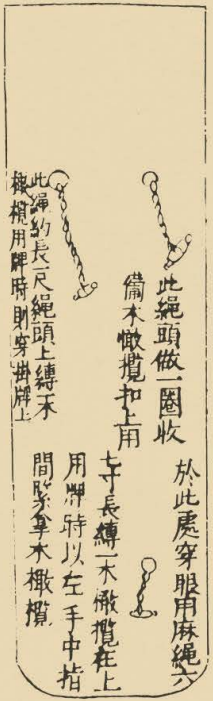
不同其利一也

副使茅坤云海寇之兵恃強在舞刀每輕我兵不能射又其所輕莫急於背弓弩而破其所疆莫急於倭狼兵燕尾牌之制近日東南之牌皆沉重而不利進退獨粤中燕尾牌以銅木柁木爲之其長如人之身其廣不滿尺其背如鯽魚然故側身前逼雖當利刃而不能斷其體輕故運如鳥翼而一切矢石皆可蔽廣中狼柳之兵善舞牌者其臨陣如鷙鳥而進不必區甲而賊皆墻立不能敗此廣中所最尚者欲訪置在浙中惟溫州桐木柁木爲多可易辦也

挨牌外式

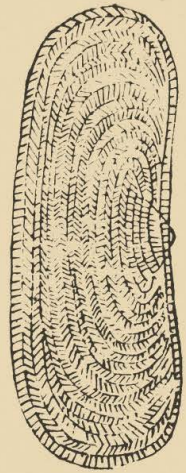
此挨牌亦用白楊木爲之每面約長五尺濶一尺五寸下頭比上畧小四五分俱小尺

挨牌内式



挨牌上銳而長步兵所用失滚金字長可蔽身内施鎗木倚立於地

藤牌



總兵俞大猷云錯以步戰乃中國之長技今鈎刀虎叉二手隨時教閱克用惟藤牌手出在福建漳州府龍溪縣土名海倉許林嵩嶼長嶼赤石玷尾月港潯頭汕坂等地方此各地方山川風氣生人剛勇善鬬重義輕生若責其本府縣官用心選募約得三千人每名月給工食銀一兩五錢行糧四斗五升俱自家起行之月爲始人每名另給衣裝器械養妻子共銀二十兩若至軍病死給棺木銀六兩陣亡給埋葬銀一十二兩令欲募之先將銀兩解發該府坐委本府佐二官一員知縣一員先募的當頭目六十人每月各加工食銀伍錢責其每人各募前項地方壯兵五十人每十人編爲一甲每一甲各領一十人千百戶一

十五員各分領二百人仍差前項府佐知縣兼理錢
粮各至軍前聽用其各兵在途行粮水路船隻陸路
挑行李夫各官合用衣裝行粮俱要議處此兵可以
禦北虜而吾廣産藤宜依其製以代挨牌若征海寇
俟其登陸用之

叅將戚繼光云千古有圓長二色其來尚矣主衛而不
主刺國初未加以革重而不利步以藤爲牌近出福
建銃子雖不能隔而矢石鎗刀皆可蔽所以代甲冑
之用往南方田塍泥雨中頗稱極便其體須輕堅密
務使遮蔽一身上下四旁無所不備用牌之間復有
所謂標者所以奪人之目而爲我之疑兵所賴以勝
人者也牌無標能禦而不能殺將欲進步然後起標

勿輕發以敗其事腰刀用於發標之後以殺敵非長
利輕泛則不能接遠其習牌之人須膽勇氣力輕足
便捷少年然後可授之以此置於行伍之先爲衆人
之藩蔽衛以長短之器爲彼之應接以之臨敵其衆
可合而不可離可用而不可疲進退左右無所不離
此藤牌之功也

又云試牌跳牌僧法聽鑼聲爲度覓牌如壁閃牌如電
起伏得宜翻身不露身滾牌不露足惟牌能殺敵能
蔽身用之乃拒勁敵以衛兵也

刑部尚書顧應祥云佛郎機國名也非銃名也正德丁丑予任廣東僉事署海道事驀有大海船二隻直至廣城懷遠驛稱係佛郎機國進貢其船主名加必丹其人皆高鼻深目以白布纏頭如回回打扮即報總督陳西軒公金臨廣城以其人不知禮令於光孝寺習儀三日而後引見查

大明會典並無此國入貢其本參奏

朝廷許之起送赴部時

武廟南巡留會同館者將一年

今上登極以其不恭將通事明正典刑其人押回廣東驅之出境去訖其人在廣久好讀佛書其銃以鐵爲之長五六尺巨腹長頸腹有長孔以小銃五箇輪流貯

藥安入腹中放之銃外又以木包鐵箍以防決裂海船舷下每邊置四五箇於船艙內暗放之他船相近經其一彈則船板打碎水進船漏以此橫行海上他國無敵時因征海寇通事獻銃一箇幷火藥方此器曾於教場中試之止可百步海船中之利器也守城亦可持以征戰則無用矣後汪誠齋鋐爲兵部尚書請于

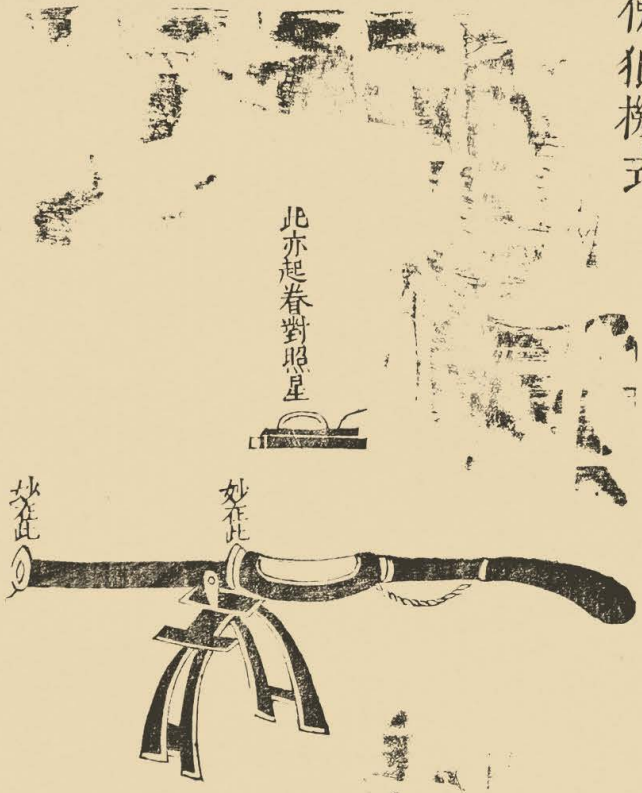
上鑄造千餘發與三邊其一種有木架而可低可昂可左可右者中國原有此制不出於佛郎機

每座約重二百斤用提銃三箇每箇約重三十斤用鉛子一箇每箇約重十兩

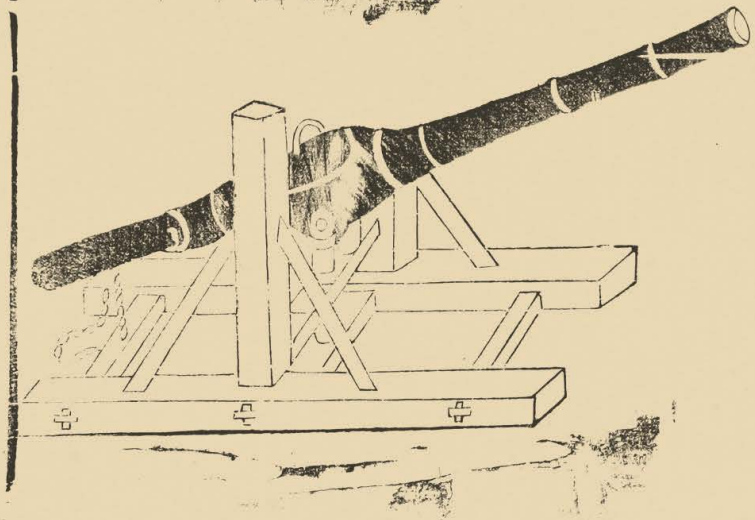
其機活動可以低可以昂可以左可以右乃城上所用

其小者但放時火力向前船震動而倒縮無不裂而沉者須另以木筏載而用之可也曰城上可用乎曰不可發鑛便於攻高不便於攻下故也

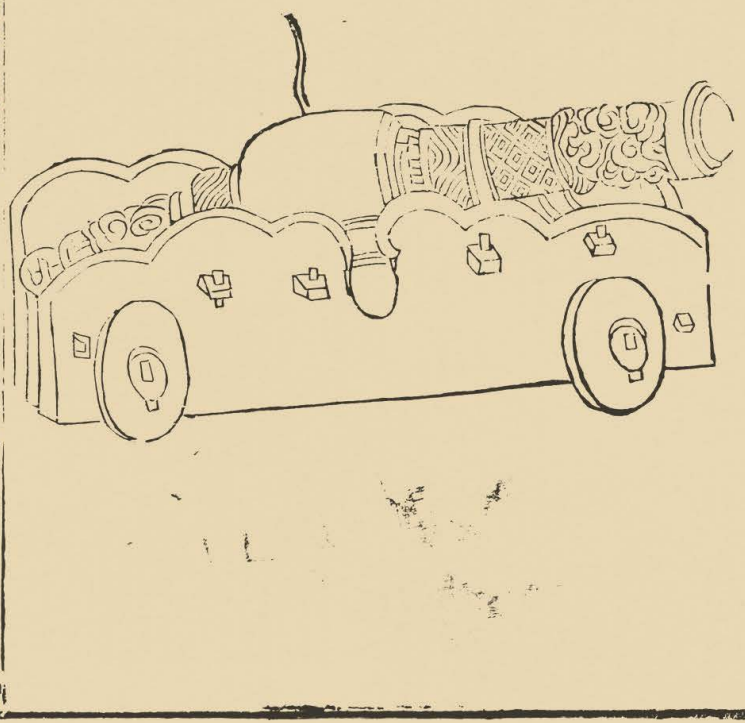
佛狼機式



佛狼機式



銅發貢



每座約重五百斤用鈀子一百箇每箇約重四斤此攻城之利器也大敵數萬相聚亦用此以攻之其石彈如小斗大石之所擊觸者無能留存墻遇之即透屋遇之即摧樹遇之即折人畜遇之即成血漕山遇之即深入幾尺不但石不可犯而已凡石所擊之物轉相搏擊物亦無不毀者甚至人之支體血肉被石濺去亦傷壞又不但石子利害而已火藥一爆之後其氣能毒殺乎人其風能煽殺乎人其聲能震殺乎人故欲放發鑽須掘土坑令司火者藏身後燃藥線火氣與聲但向上衝可以免死仍須擇强悍多人爲之護守以防敵人搶發鑽之患若非攻堅奪險不必用此也或問用之水戰可乎曰賊若方舟爲陣亦可用

者守營門之器也其制出於西洋番國嘉靖　年始得而傳之中國之人更運巧思而變化之擴而大之以爲發鑽發鑽者乃大佛機也約而精之以爲鉛錫銃鉛錫銃者乃小佛郎機也其制雖若不同實由此以生生之耳其石彈之大如升力氣小於發鑽而大於鉛錫銃若遇關隘人守堅不可過者以此攻之借勢而渡

叅將戚繼元云此乃天下通有利器製者多未盡精微其妙處在母銃管得法子銃在腹中亦要兩口得法使火氣不泄又每放得擊出子銃數丈傷人必用鐵門者佳其妙處在前後二照星後柄稍從低庶不碍托面以目照對其准在放銃之人用一目耿看後照

星孔中對前照星前照星孔中對所打之物若子馬俱大則難出出則力大要坐後而人力不能架之若子小則出口鬆面無力歪斜難准法既省下木馬煩難之功又出口最易先鑄銃之法子銃口大則子難出要破母銃母銃口大而子銃口小則出子無力且歪務要子母二銃之口圓徑分毫不差乃爲精器

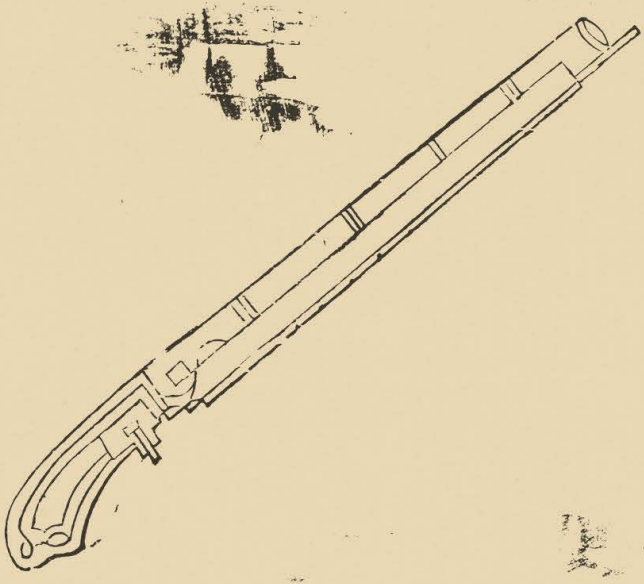
側立裏面鬼撐形

木架內撥鬼勾過用右手無名指頭撥此則此鬼之頭退入皮內龍頭落而火發

側立外形

此表出之鬼壓住龍頭用右手無名指頭向後撥動鬼頭則此鬼自入龍頭落火發

烏嘴銃



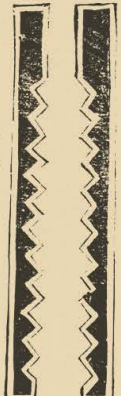
架內撇思形

其鬼所勾畫不出

鳥銃龍頭式

絲轉形 左轉則入 右轉則出

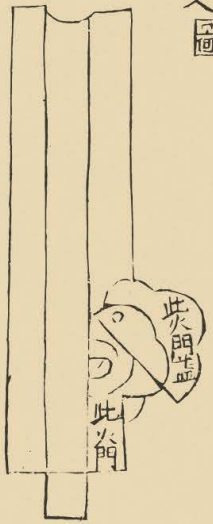
鳥銃分形之圖



鳥銃後門形

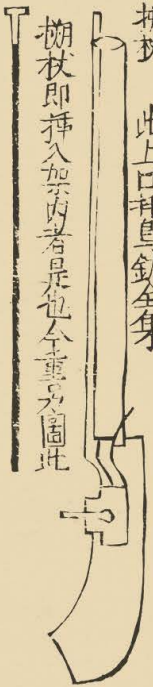
前口形

火門形



銃架形

此插架內拥杖 此上日耗鳥銃全身



拥杖即插入架內者是也今畫之圖此

造鉛彈銃者須知煉錢蓋錢中原有查滓夾雜須假煉
不已融盡查滓底於精純方免脆折爆碎之患故十
斤而煉用一斤者爲上十斤而煉五斤者次之其管
欲員而淨其臬欲端而直司銃者須擇手足便捷之
人臨敵裝藥入彈覘臬發火庶不遲悞若但見臬而
不見管則失之仰但見管而不見臬則失之俯皆不
能中也此器今人類並立而用之遠攻非也須近敵
乃用長短兵相夾乘勢速往使賊避銃目睫閃眩之
間而我兵已入其隊中矣鉛錫銃之妙全在此也若
特以攻敵不亦繆乎

都御史唐順之云虜所最畏於　中國者火器也天助
聖明除兇滅虜而佛朗機子母砲快鎗鳥嘴諸銃皆出嘉靖

間鳥嘴銃最後出而最猛利以銅鐵爲管木槀承之
中貯鉛彈所擊人馬洞穿其點放之法一如弩牙發
機兩手握管手不動而藥線已燃其管背施雌雄二
臬以目對臬以臬對所欲擊之人三相直而後發擬
人眉臬無不著者捷於神鎗而准於快鎗火技至此
而極是倭夷用以肆機巧於中國習之者也

叅將戚繼光云鳥銃之准在於腹長而直火藥之不奪
手在於前手拿在銃腹照放之直在於兩手俱托執
銃身而無黜火之誤鉛子之利在於合藥之方其神
機銃用木馬繁而多誤勢難再發邊銃手執後尾其
重在前一手黜火眼不能照皆不及此銃之妙而速
也

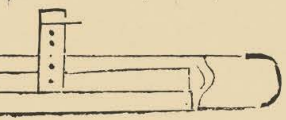
予按鳥銃之製自西番流入中國其來遠矣然造者多未盡其妙嘉靖廿七年都御史朱紈遣都指揮盧鏜破雙嶼獲番酋菩銃者命義士馬冀製器李楩製藥因得其傳而造作比西番尤爲精絶云

銃式

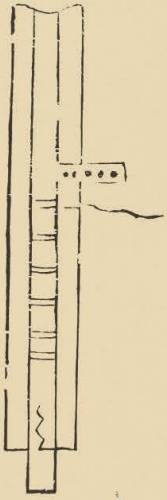
銃形

此用鐵作送子下口圓送鉛子不偏

送子形



銃内裝藥式

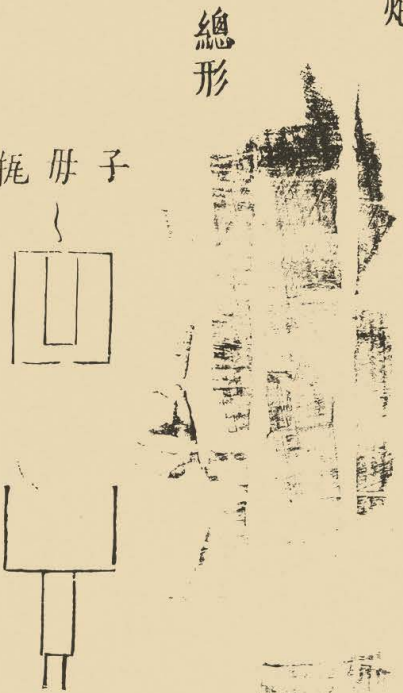


銃妬鳥銃但藥盡處用一孔上安一鐵筒入鉛子數枚門定口一箇子又落入

千毋炮

子砲信妙在此

總形

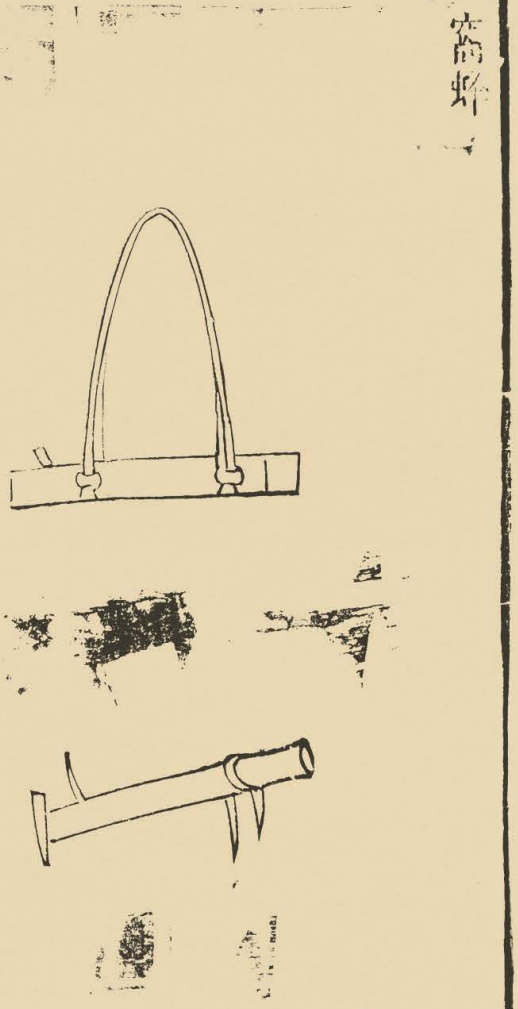


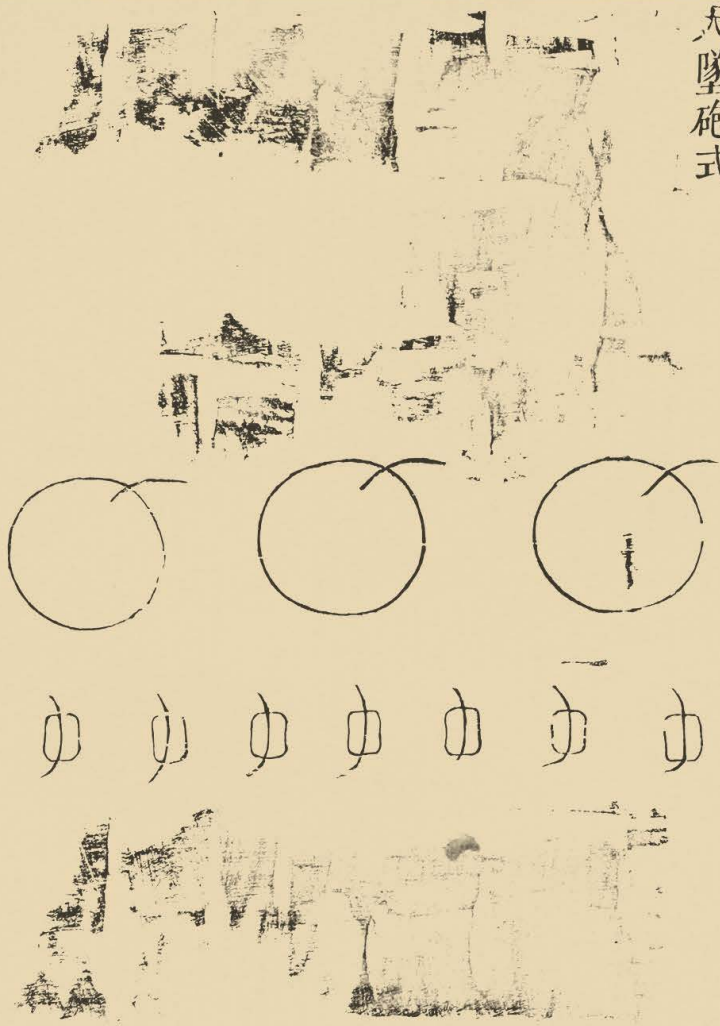
此用驚營或夜間遠遠放入賊壘少停於賊壘中銃發無制之兵烏合之衆奪氣之寇勢必驚惶我得乘之此氣最妙

其狀如鳥銃之鐵幹而短其管口比鳥銃口稍寬容彈百枚燃藥則彈齊出遠去四五里

把總顧瀛云鳥銃所發止於一彈所中止於一人中則傷人不中則無所傷矣一窩蜂一發百彈漫空散去豈無中傷者乎其力量亦可以爲佛郎機之亞但佛郎機器重難帶一窩蜂輕於鳥銃以皮條綴之一人可佩而行戰時以小鉄足駕地量其首三四寸蜂尾另用一小木椎釘地止之誠行營之利器也若欲爲坐營之用則以木床載於營門床身左右各置二輪以便進退可以爲守營之寶

一窩蜂

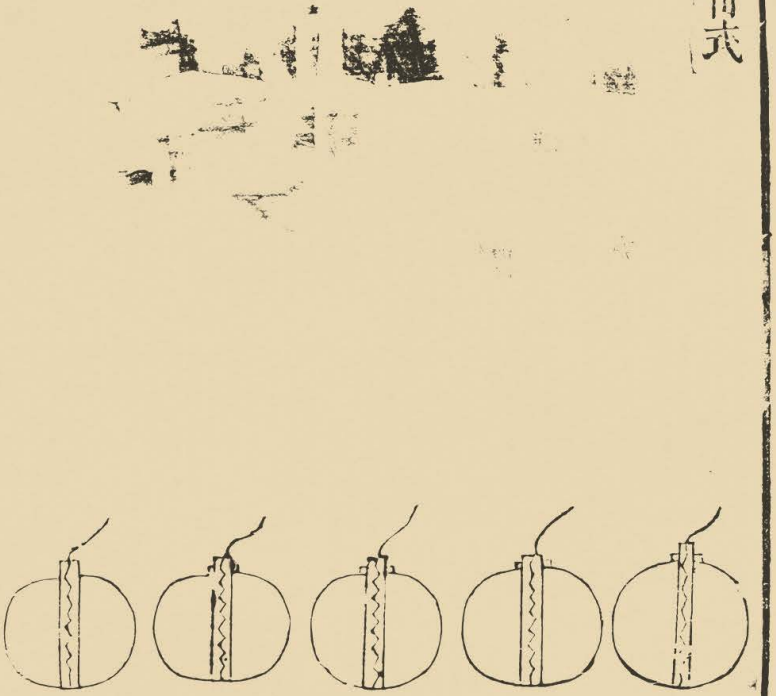




天墜砲式

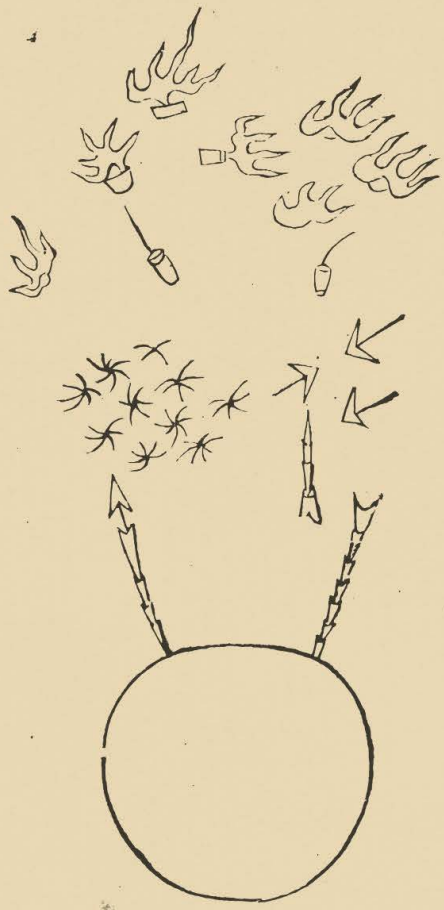
冊陽邵守德云其大斗用法升至半天墮於戰賊巢震響如雷黑夜令賊自亂相殺內有火堰數十能燒賊之營寨必不能救

地雷式



卅陽邵守德云以生鐵鑄成實藥斗許檀木砧砧至底砧內空心裝藥線一條擇冤必由之地掘地作坑連連數十埋地雷于坑中內用小竹筒通藥線上掩如舊機關藏火賊不知而踏動則地雷從下震起火焰中天鐵塊如飛蝗着人即死乃孔明之秘器也

火蜂窠圖式



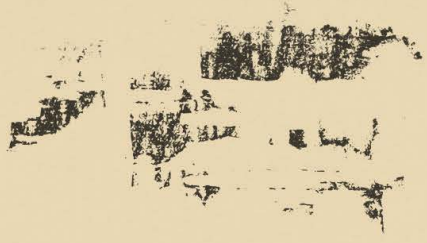
此器戰守攻取水陸不可無者奪心眩目驚膽傷人製宜精妙此兵船第一火器也

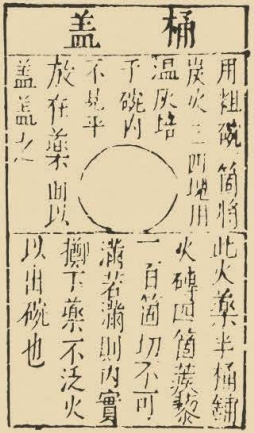
紙薄拳大內蕩松脂入毒火外煮松脂攙油黃蠟煞火拋打煙煤黎戳腳利水戰守城俯擊短戰

參將戚繼光云火器之法製度甚多其實大同小異皆不甚利于用只此數種盡其妙矣故不繁載至如弓射箭頭用火之類又不如火箭除水陸通用者先附陸兵技藝之後凡陸所不用只可用于水者故備于此以上藥線各處製者俱用一二尺長浮于外每點擲之際一擲關風其藥線便滅或擲至別船如賊見線尚長而拔之或反擲我舟今用子母銃藥線法凡火器一件其藥線之處用細竹管一箇直插于腹內至底藥線安于竹腹之內待外點火燃線已入竹管之內不見方才擲下則線在竹內燃至竹底方透火

火妖圖式

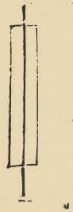
器擲下之時藥線在竹內燃並無閃滅之事且擲于賊舟只見凝然一物並不知點燃何處就擲在水內則線燃于腹火器衝于口水爲氣所迎亦不能入雖在水底尤能燃放而後已此極妙極驗萬無一失者





參將戚繼光云舊用火藥傾下賊舟此固長策然又別用火藥或炭火再傾擲使之發藥每每或連桶擲入水中或被賊乘藥桶及伊舟以水沃濕亦皆未中肯綮可以必發不如遠則只用飛天噴筒近則只用埋火藥桶至易至便萬用無差除此之外所謂火箭神機火磚噴筒之類皆遠不及此苟用此二種則他種又皆不必用也

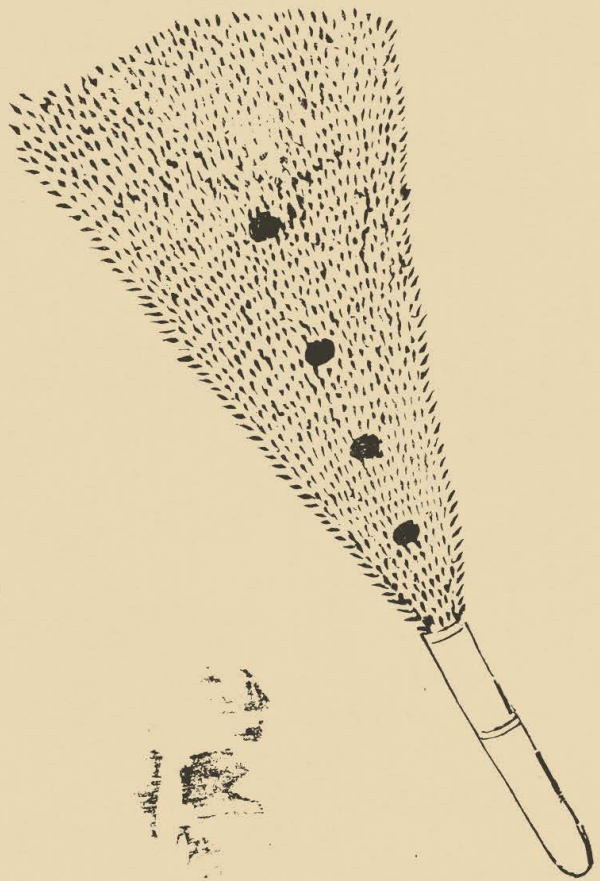
火磚式



竹筒穿藥線式

包式

用地鼠紙筒砲各安藥線每筒排爲一層上下二節各二層以薄蓆橫束合洒火藥松脂硫黃毒灰用粗紙包裹成磚形外用線紙包糊以油塗裹另於頭上開口下竹筒以藥線自竹筒穿入



叅將戚繼光云截徑二寸竹裝藥製打成餅修令筒口餅兩邊取渠一道用藥線拴之下火藥一層下餅一箇用送入推緊可高十數丈遠三四十步徑粘帆上如膠立見帆燃莫救此極妙極妙萬分効兼

閩豎知豎仇俊卿云火器所及能加于數百步之外今海寇所恃全在火器緣硫黃出於琉球諸夷製造又多巧思惟硝硝中原所産嚴其禁約不許人下海潛通以資其用則彼失所恃擒之亦易矣

予按海中戰法攻船爲上若以吾大船擊敵小船觸之無不壞者其次則恃火器火器之中火箭銃礮之類亦多無用惟火裘火藥桶二者投入賊舟即時焚燬爲至妙也或問我以火攻敵使敵亦以火攻我如之

何曰以火攻敵全靠柁工得人持柁得法我常奪據上風則敵之火攻將爲風所驅而反攻之矣大抵火攻之法須先自爲水備假如一舟五十人只用十人持火器其四十人俱執水斗水桶遇敵火攻群手傾水滅之烏能焚我耶或又曰設使我用火攻而敵知水備何道以焚之曰敵若知備則雖不能焚敵亦必救火而亂矣我乘其亂而擊之豈有不勝者乎

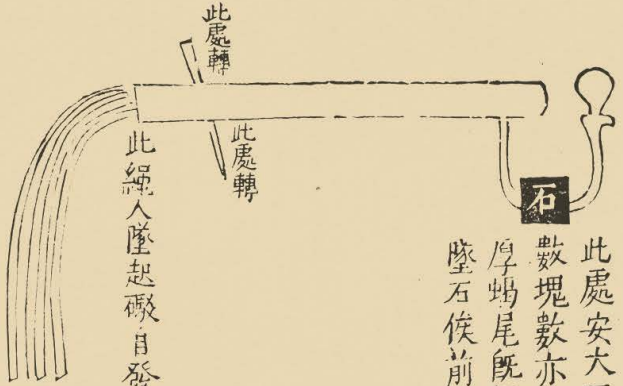
又按短兵相接乃倭奴所長非中國之民所易敵也其所歉者火器耳今鳥嘴銃反爲彼之長技而我兵鳥銃手雖多不能取勝何耶倭人忘命我兵望之輒惧而走或鉛子墮地或藥線無法手掉目眩仰天空響

議者謂宜禁通番接濟火藥之人甚善甚善愚謂硫

黃出產在彼何禁之有所當禁者焰硝耳此吾中國之物若官司設法不容入番則倭奴之火器爲無用而我以火器攻之彼之短兵豈能加於我哉

又按兵家器械甚多有宜於山戰者有宜於陸戰者有宜於水戰者如武經總要所載是也要之利于今日海戰者無幾至於火器其名雖有二三百種而海船得用亦惟噴筒火藥二件蓋噴筒發去有一百五十步之遠橫占丈餘火藥桶拋入賊舟賊一時不知取而視之內火發矣未發之先水不及沃臨發之際人不能救觸之者碎犯之者死故敵舟離遠則用噴筒燒之敵舟相逼則用火藥桶燒之此二者皆海船利器今日禦倭之切要也

無繩長如稍之體不必拘定若干條但能舉其稍可矣每繩用二人扯之



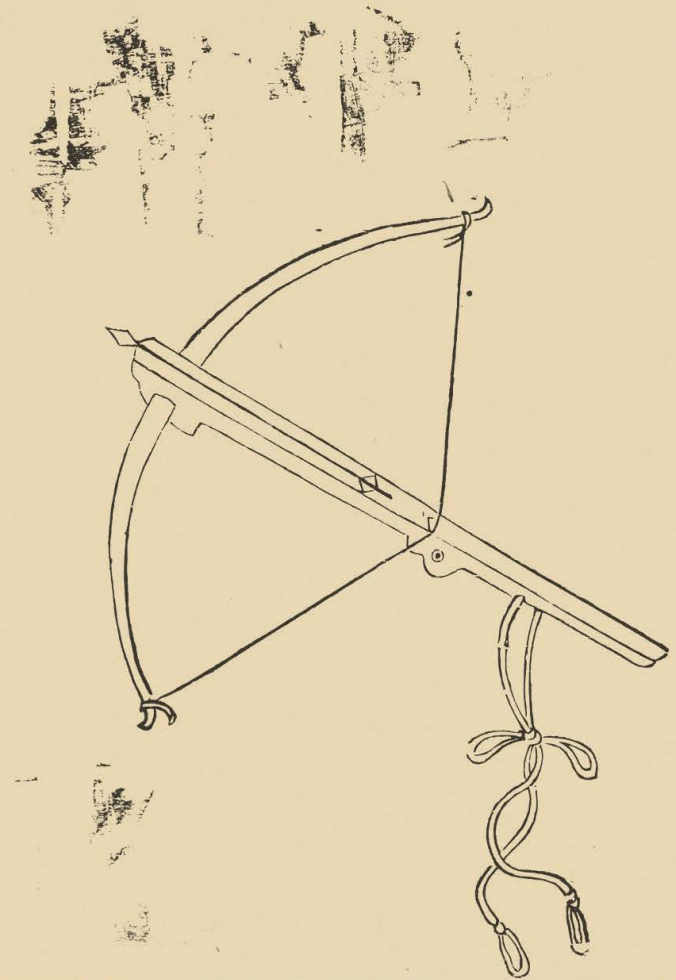
此處安大石子不拘個數堆數亦不拘方圓平厚蚂尾既掛一人雙手墜石俟前扯起放去

礮爲守城第一器既省火藥之費又有不乏之資

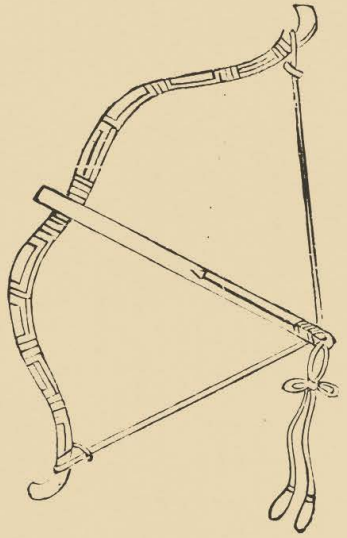
弓弩必採兩廣毒藥以灌其鏃鏃著血縷則立死但浙人不習射當如兩河以北懸射銀錢之利以誘之使習令弓師而能教百人善弓則善弓者得以一人兼二人之食而弓師且賞之以百金而署之爲百人之將矣令弩師而教百人善弩則善弩者亦得以一人兼二人之食而弩師且賞之以百金而署之爲百人之將矣如此則不數月而全軍皆善射矣其他短兵鎗棒亦率類此

或云毒箭射人遇衣絮沾染藥即脫落箭鏃着肉際毒已緩矣不能殺人也須於鏃上鑽孔以藥嵌入則雖透衣面藥不脫傷者應弦而絕

兩廣藥箭

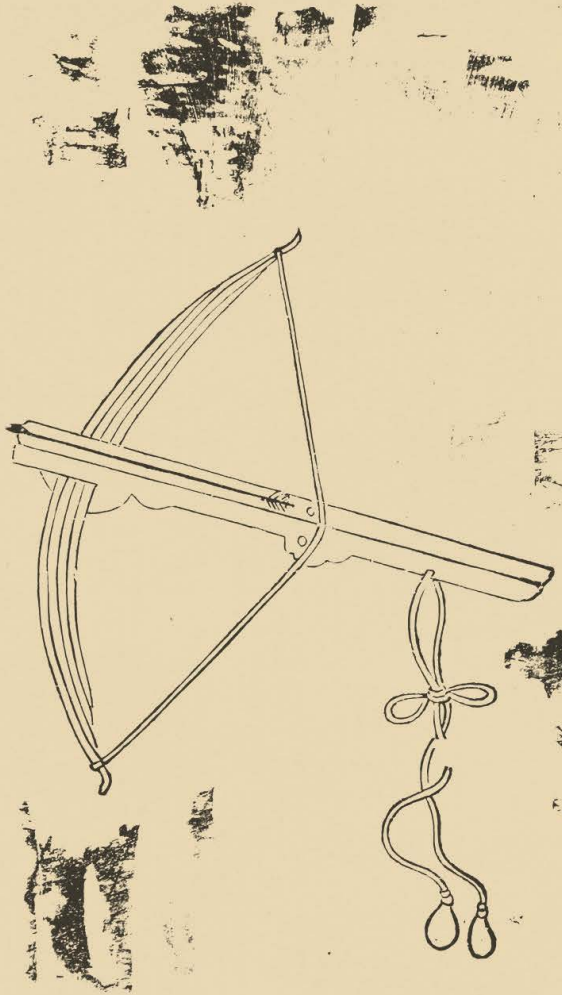


邊箭式



松江府同知羅拱辰云知射長箭而不知射邊箭拏手亦不知用弩之法況各止用竿子雖可取勝殊非長技爲照長箭去遲而敵人易見做彼得以閃避且得拾取復射其利在彼邊箭去疾而敵人難窺非惟彼不能避抑且不能回射況邊箭所到倍長箭百步有餘其利在我長邊二箭務令弓手兼習若賊尚遠緩則射邊箭如來追迫則射長箭各從其便也

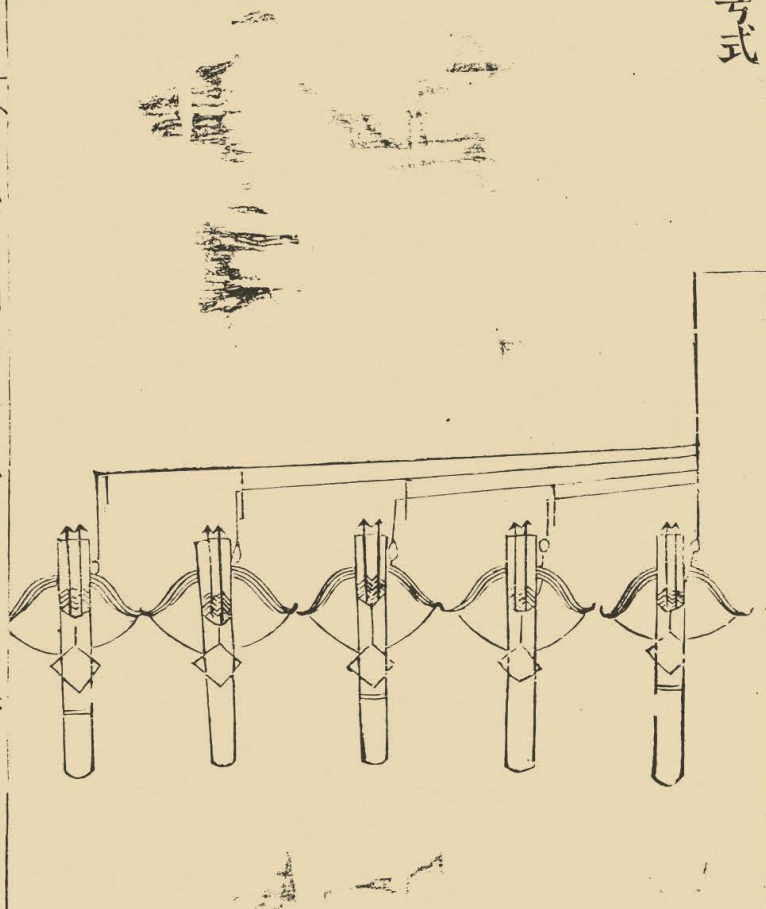
弩箭附式



松江府同知羅拱辰云用弩必須力重而機巧其矢之長短輕重大小要與弩弦相比乃能命中而及遠若敵在百步之外我兵必先用弓弩及邊鏡以制其鋒及至來近短兵相接尚在三十步內外則用鏢鎗以飛擊之

參將戚繼光云弩弓不可遠遠則無益費矢竭力

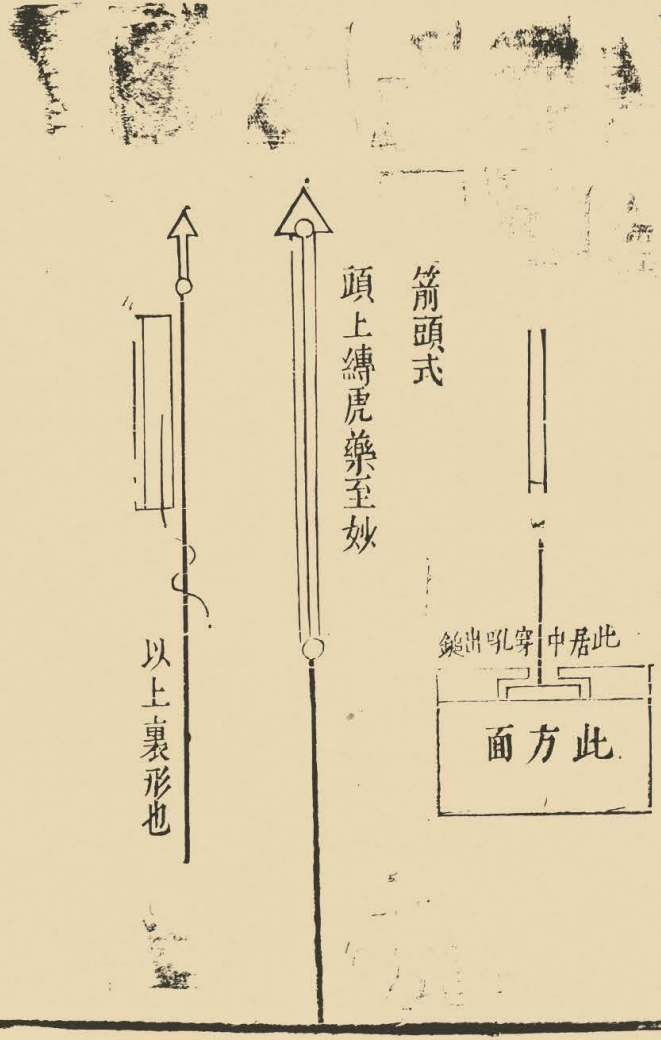
伏弩式



冊陽邵守德云其工價甚簡其功用甚大其用有三若伏於營寨要道可以禦賊之偷營劫寨若伏於山野僻路可使寇不能逃若伏於富家門戶可使賊不能入造法以檀木柏木爲身茅竹爲担弩後置一木人上弦或連發二矢或三矢量賊往來必由之路設之以木架架弩任意高下或竹徑或稻麥叢茂翳密處設百餘把止用一絲線作機關不須人守賊至不疑而動其機百弩齊發一人不能逸生也倭奴善遁荒村窮谷無處不至用此器甚妙甚妙

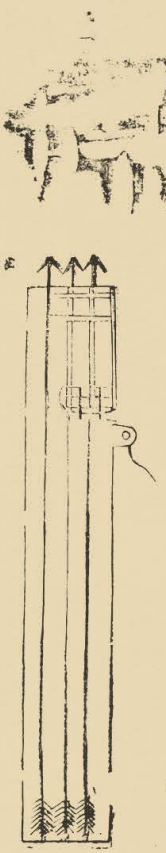
予按馬箭之法有三曰分蹤向前射也曰對蹬向傍射也曰末秋向後射也此武士之常技也愚謂分騣者以馬之頸騣爲界一邊挽弓一邊發矢乃弄花巧之法邊軍不然以身俯出馬外於此挽弓就於此發矢臨敵倉皇之際庶無繆悞對蹬者主左一邊而言今北方響馬常勒馬由道右而行讓客於左以便發箭亦此義也然是法但可施於途遇一二人耳設使衆敵叢射或敵左右將旋馬以應酬之耶學騎射者須胷左右手皆便方可

火箭



叅將戚繼光云火箭亦水陸利器其功不在鳥銃下但造者無法放者無法人鮮知此器之利也大端造法有二或造成用鑽鑽線眼或用鐵捍打成自然線眼但鑽者不如打成者妙鑽易而打成費手匠人多不肯用打成之法其肯緊全係於線眼之歪正深淺捍要直翎要勁羽長而高筒用磔紙間以油紙夏不走硝可留二年此物最不耐久收

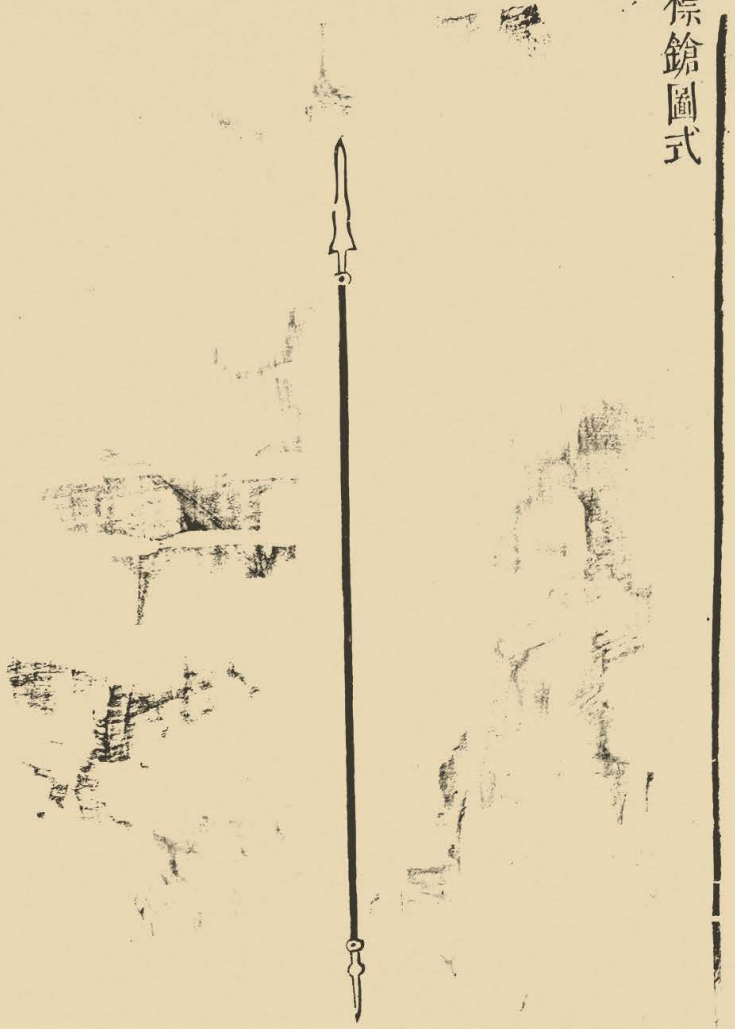
又云火箭只着棚帆當中一點打去常高中則不可救低則易救



神機箭式

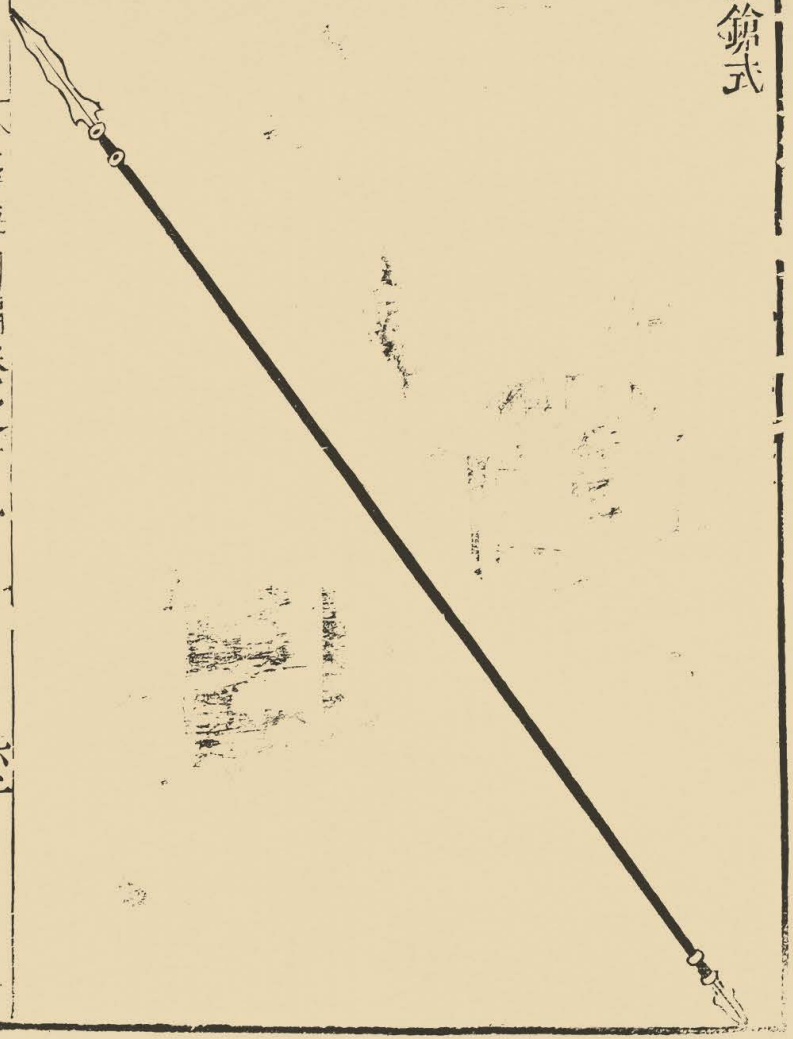
舟陽邵守德云造法箋紙爲筒內入火藥筑令滿實另置火堆油紙封之以防天雨後鑽一孔裝藥線用箭竹爲幹鐵矢簇如燕尾形末裝鋼毛大竹筒入箭二矢或三矢望敵燃火能射百步利順風不利逆風水陸戰皆可用用之水戰能燔舟逢用之陸戰能燬巢穴中毒必死

標鎗圖式



鎗或用稠木細竹皆可但前重而後輕前稍粗而後稍細爲得法

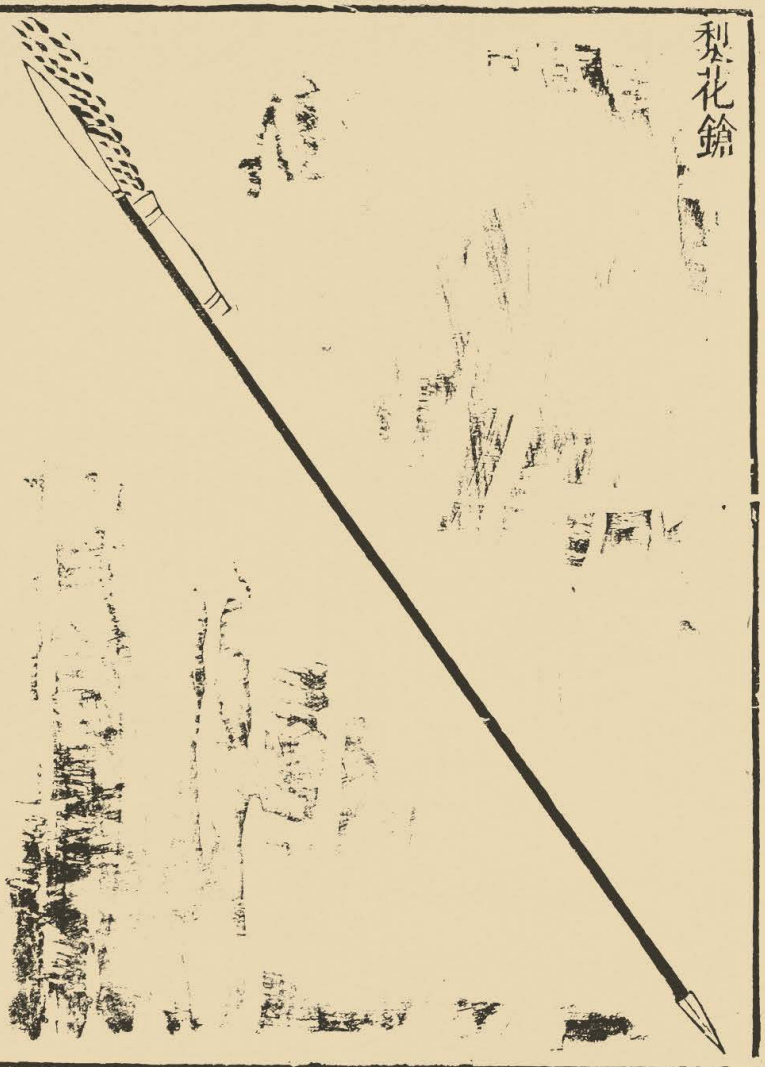
參將戚繼光云標鎗非兩船相逼不可用往下打更難准



長鎗式

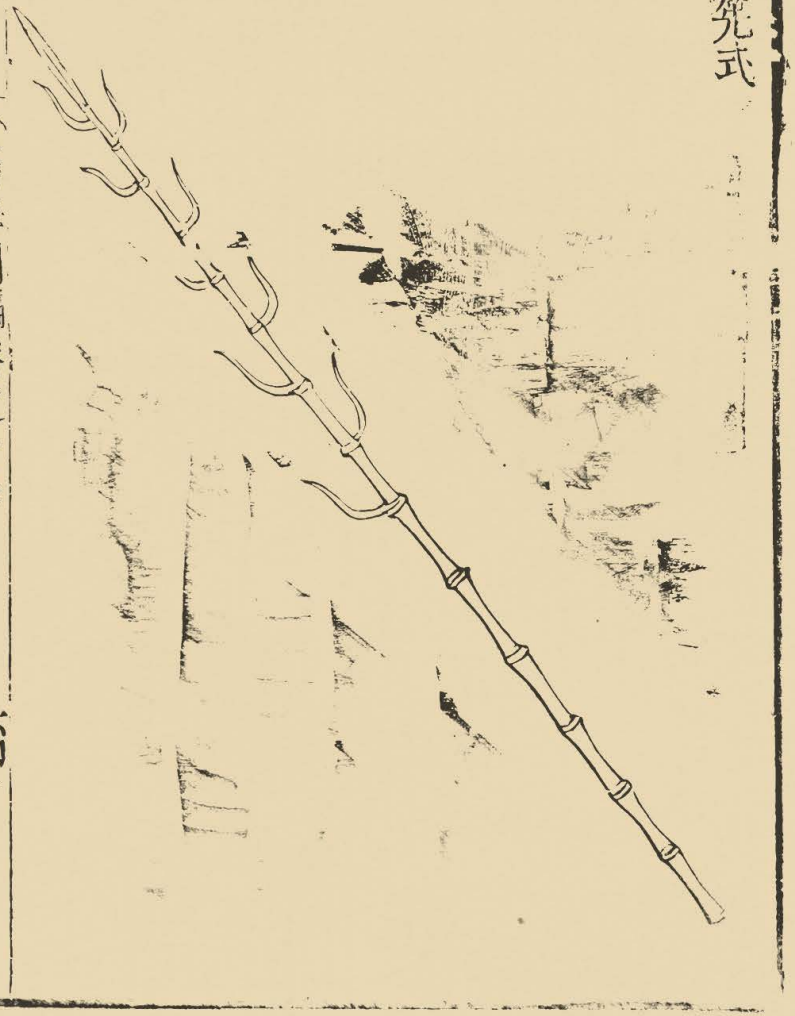
叅將戚繼光云長鎗後手要粗可盈把庶有力若細則掌把不壯鎗腰要從根漸漸細至頭而止如腰粗則硬強不可拏如腰細則軟而無力雖手法之妙不能拏打他鎗開去也鎗稍不可輭細要自後漸細方有力最忌太重重則頭沉不可舉動是自棄鎗也鎗頭重不可過兩其桿梢木第一令木輕而稍軟次之要劈開者佳鉛開者紋斜易折揩竹腰軟不可用

梨花鎗



梨花鎗者用梨花一筒繫於長鎗之首臨敵時用之一發可遠去數丈人着其藥即死火盡鎗仍可以刺賊乃軍前第一火具也宋李全嘗用之以雄山東所謂二十梨花鎗天下無敵手是也此法不傳久矣布政司報効更許國得其法而造之嘗試之沈庄果得其用

狼筅式

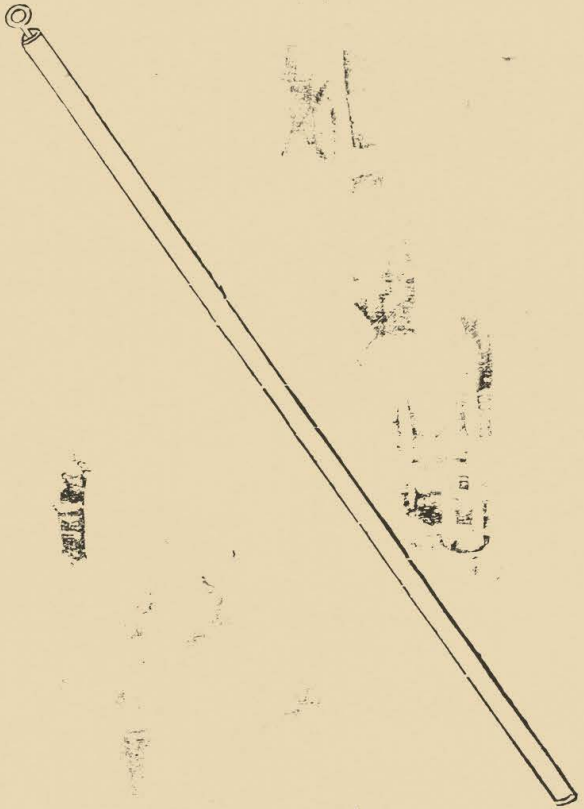


狼筅必獵戶能使製筅之法用毛竹長而多節者末銳包鐵如小鎗兩傍多留長刺其刺每雙用火熨之一直一鉤其直者如戟鉤者如矛然後以熟桐油灌之敷以毒藥利難犯

參將戚繼光云狼筅之爲器也形體重滯轉移艱難若他技之出入便捷似非利器也殊不知乃行伍之藩籬一軍之門戶如人之居室未有門戶扃鍵而盜賊能入者故凡用狼筅須要節密枝堅枚加利刃要擇力大之人能以勝此者勿爲物之所使夫然後以牌盾蔽其前以長鎗夾其左右舉動疾齊必須叙伍大刀接翼然筅能禦而不能殺非有諸色利器相資鮮克有濟兵中所以必於用此者緣士心臨敵動快

他器单薄人瞻摇夺雖平日十分精習便多張皇失錯忘其故態惟笼則枝稍繁盛遮蔽一身眼前可恃足以壯膽助氣庶人敢站定若精兵風雨之勢則此器爲重賛之物矣

棍式



少林棍

俱是夜叉棍有前中後三堂之外前堂棍單手夜叉也中堂棍陰手夜叉也類刀法後堂棍夾鎗帶棒監紫薇山爲第一 牛山僧善夫之 通處孫張家爲第二

河南棍

趙太祖騰蛇棒爲第一 賀屠鉤杆與西山牛家硬單頭皆次之

安猴孫棒 下城淮慶人多用之

按自古名將未見有用棍者用棍惟宋江諸人

大蓬鏟式

形如月牙內外皆鋒刃橫長二尺柄長八九尺或一丈

兵馬步戰第一利器也

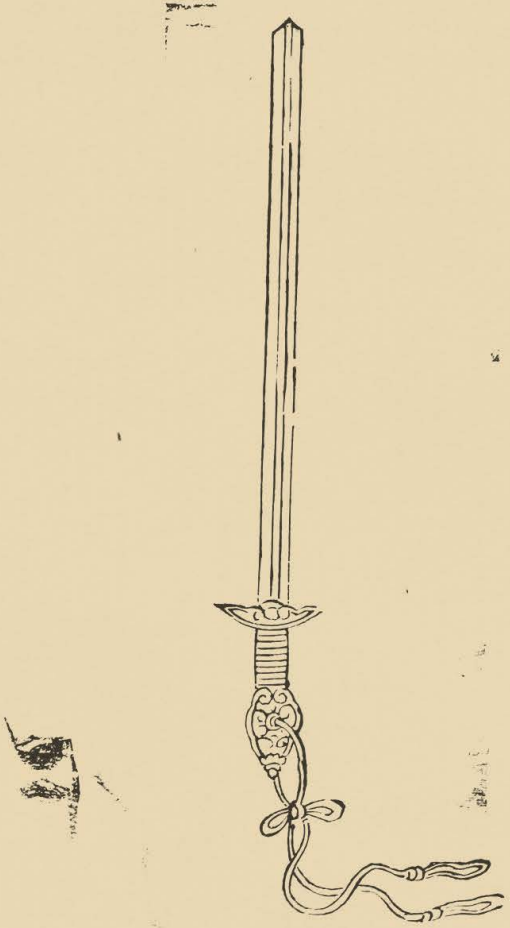
此器直推之可以削手往上推則鏟首向下推則鏟足

或鈎敗卒之足或於上風揚塵妙不勝述

予按使刀無如倭子之妙然其刀法有數藝高而能識破者禦之無難惟關王偃月刀刀勢既大其三十六刀法兵俠遇之無不屈者刀類中以此爲第一馬上刀要長須前過馬首後過馬尾方善

偃月刀式

劍式



有五家

一曰馬明王

一曰先主

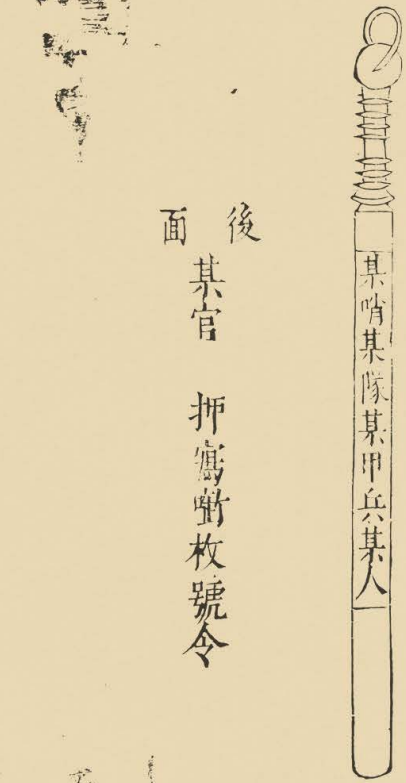
一曰卞莊

一曰王聚

一曰馬超

哨枚圖式

竹籤四寸長五分潤上書隊甲兵勇親
臨官押油節掛頸砲響各哨枚肅靜伐
圓枚而用更可查考



千按古人之戰有三有大戰者有地戰者有人戰者蓋兵器不外乎金木水火土五器之用五器之中各藏三戰之妙其製器之法製藥之方雖見於武經總要多不切於禦倭紀効新書所載似切矣而亦惜其不多愚見學士大夫談經濟者多有不傳之秘如無形渡之類隨時變化出奇制勝尤爲將者之所當知也但不可顯言以示敵故書之所已刋者愚擇而錄之書之所未刋者愚不敢錄惟提其端以俟將官之自訪而自悟云

籌海圖編者籌東南之海以靖倭寇也夫東南邊幅莫大于海而海之諸夷莫狡于倭倭之爲中國患久矣洪惟我

太祖高皇帝混一區宇經畫四夷西北固云詳密而東南亦未始略也觀其設官制馭咸曰備倭可見矣迨今垂二百年海不揚波者如一日其所以籌之者善矣頃緣沿海居民齒繁業廣無以自給迺觸禁下海以漁商舶之利始而閩廣終而倭奮莘洋大海之中無非貿易之處貿易不足繼之以攘

黃鑒

奪攘奪不足繼之以登圍登圍不足繼之以深入盤據而一時事事閣臣相顧而莫能爲籌

聖人有憂之迺

簡命少保胡公秉節專征以靖滔天之禍公受

命益篤敎然以澄清海甸爲已任安內攘外宣威布德指授之下在在成功五七年來妖氛盡滅而邊圉以寧嗚呼此東南治亂機徵

國家安危之所係生民休戚之所關也況事緒繁雜道里遼邈殆非一時見聞之所能悉不有考述其何以傳此閩陽鄭君籌海圖編之所由作也圖以

備形勢編以紀事實形勢具而險夷見事實詳而得失明凡其致寇之由入寇之路禦寇之方畧平寇之功績死寇之忠節無不具載萬世之下按圖考編則東南今日之事如指諸掌嗚呼開陽之用心可謂遠矣宜乎

軍門之重而徵之梓而傳之學士大夫聞而慕之見而愛之也鐘結髮從戎尋致今日沿海事情頗諳一二適見圖編半皆平生之所閱歷者展玩再三不勝感嘆因不揣而贅言於末

嘉靖歲壬戌春正月之吉